秋田県文化財調査報告書第84集

国道103号線バイパス工事関係遺跡

発掘調査報告

1981・3

秋田県埋蔵文化財センター

秋田県教育委員会

序

国道103号線は大館市から鹿角市を経て岩手県に通ずる道路であり，近年，鹿角市に東北縦貫自動車道が通過することから103号線の大幅な改良が必要になりました。その建設地の大館市部は米代川の北岸を通過することになり，遺跡分布調査を実施したところ７ヵ所の遺跡が発見されたのであります。そこで建設省能代工事事務所と協議の上，発掘調査を実施して記録保存することに決定し，それにもとづいて昭和54年度，55年度の２ヵ年にわたって６ヵ所の遺跡の発掘調査を実施しました。本報告は２ヵ年の調査をまとめたものであります。

調査の結果，縄文時代早期から前期，後期，晩期までの各期の遺構と遺物が発見され、大きな成果を得て終了いたしました。とくに早期の貝殻文は秋田県内では，はじめてといってよいほど多量に発見されました。その他後期，晩期の竪穴式住居跡・土壙などもあり，今まで不明であった早期の土器と晩期の住居跡など当地域史研究に新しい資料を書き加えることができたことは喜ばしいことです。

本報告がいろいろな人達によって活用され，文化財保護に生かされれば幸せと存じます。最後に発掘調査から整理，報告書作成まで，御協力いただいた関係各位に対して心から感謝の意を表するものであります。

昭和56年３月

秋田県教育委員会

教育長　畠　山　芳　郎

例　　言

1．本報告は秋田県教育委員会が昭和54，55年度に発掘調査を実施した国道103号線バイパス工事関係遺跡の発掘調査報告である。

2．本報告の作成にあたり，第2章第2節は藤本幸雄氏（県立大館工業高校教諭）が，第2章第3節は柴田陽一郎が執筆した。その他については庄内昭男が執筆した。

3．本報告の編集は庄内昭男が行った。

4．遺跡および遺物の写真撮影は庄内昭男が行った。

5．遺構および出土遺物の捜図作成は鈴木秋良，花田孝夫，が当った。

6．土色の表記は小山正忠，竹原秀雄『新版標準土色帳』を活用した。

凡　　例

1．遺構は10分の1，20分の1で実測図を作成した。本報告中の遺構の縮尺は任意であり，矢印の方向は全て磁北である。

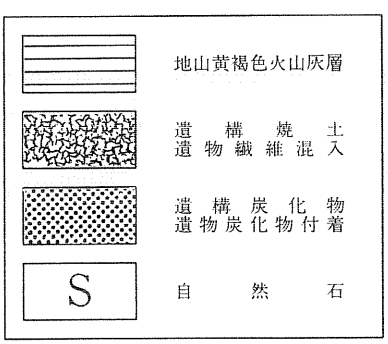
2．遺構の住居跡にＳＩを，土壙にＳＫを付して発見順に番号をうち，便宜的に呼称して行ったが，本報告では遺構の配列を考慮し，第何号と編集替えした。

3．報告の中で出土遺物の実測図は土器を3分の1あるいは4分の1に，石器を2分の1に縮尺した。なお土器は残存の割合に応じて，実測図左側の一部を||で区切った。中軸線から離れるにしたがって残存の割合が小さくなる。

4．石器の重量計測は岡俊彦氏（計量検定所）の協力を得た。

5．報告の中でスクリーントーンを以下のように用いた。

凡　　例



目　　次

序
例　　言
第１章　はじめに…… 2
　第１節　発掘調査に至るまで…… 2
　第２節　調査の組織と構成…… 2
第２章　遺跡の立地と環境…… 4
　第１節　遺跡の位置について…… 4
　第２節　地質学的環境について…… 4
　第３節　周辺遺跡について……10
第３章　調査の方法と経過……11
　第１節　調査の方法……11
　第２節　調査の経過……11
　第３節　調査の概要……12
第４章　調査の成果……13
　＝検出遺構と出土遺物について＝
　　―山　田　堤―……13
　　―沢口遺跡―……17
　　―鳶ケ長根Ⅱ遺跡―……23
　　―鳶ケ長根Ⅲ遺跡―……33
　　―鳶ケ長根Ⅳ遺跡―……79
　　―萩峠遺跡―…… 207

捜図・図版目次

〈a〉第１図　遺跡位置図……1
〈a〉第２図　遺跡地質図……9
〈a〉第３図　周辺遺跡……10

―山田堤―

〈1〉第１図　地形図……15
〈1〉第２図　発掘調査区……16

―沢口遺跡―

〈2〉第１図　遺跡地形図……19
〈2〉第２図　発掘調査区……20
〈2〉第①図　出土遺物……21

―鳶ケ長根II遺跡―

〈4〉第１図　遺跡地形図……25
〈4〉第２図　発掘調査区……27
〈4〉第３図　遺構配置図……27
〈4〉第４図　第１，２，３，４号土壙……29
〈4〉第５図　第５，６，７号土壙……31
〈4〉第①図　出土遺物……32
図版〈4〉1　遺跡遠望，検出土壙群
図版〈4〉2　第１号，第２号，第３号土壙
図版〈4〉3　第４号，第５号，第６号土壙
図版〈4〉4　C24グリッド近景，第６号土壙土層　第６，７号土壙

―鳶ケ長根III遺跡―

〈5〉第１図　遺跡地形図……35
〈5〉第２図　遺構配置図……折
〈5〉第３図　発掘調査区……37
〈5〉第４図　第１号住居跡……39
〈5〉第５図　第２，３号住居跡……40
〈5〉第６図　第２，３，４，５，６号住居跡……41
〈5〉第７図　第１，２，３，４号土壙……43
〈5〉第８図　第５，６，７，８号土壙……45
〈5〉第９図　第９，10，11，12号土壙……47
〈5〉第10図　第13，14，15，16号土壙……49
〈5〉第11図　第17，18，19，20号土壙……51
〈5〉第12図　第21，22，23，24号土壙……53
〈5〉第13図　第25，26，27，28号土壙……55
〈5〉第14図　第29，30，31号土壙……57
〈5〉第15図　第32号土壙……58
〈5〉第①図　第１号住居跡出土遺物……60
　　第２，12号土壙出土遺物……60
〈5〉第②図　第2,3,4,5号住居跡出土遺物…61
〈5〉第③図　第32号土壙出土遺物(1)……62
〈5〉第④図　第32号土壙出土遺物(2)……63
〈5〉第⑤図　土壙内出土遺物(1)……64
〈5〉第⑥図　土壙内出土遺物(2)……65
〈5〉第⑦図　Ｆ２・３グリッド出土遺物……66
〈5〉第⑧図　土壙内出土遺物……67
〈5〉第⑨図　グリッド出土遺物(1)……68
〈5〉第⑩図　グリッド出土遺物(2)……69
〈5〉第⑪図　グリッド出土遺物(3)……70
〈5〉第⑫図　グリッド出土遺物(4)……71
〈5〉第⑬図　底部実測図・縄文早期の土器…72
〈5〉第⑭図　グリッド出土石器(1)……73
〈5〉第⑮図　グリッド出土石器(2)……74
図版〈5〉1　発掘調査前，発掘調査後
図版〈5〉2　土層
図版〈5〉3　住居跡と遺物出土状況
図版〈5〉4　遺物出土状況，住居跡群と土壙群
図版〈5〉5　第２号，３号住居跡，集石と土壙
図版〈5〉6　第１号住居跡確認状況，検出状況
図版〈5〉7　土壙群確認状況，検出状況
図版〈5〉8　第６号，第28号，第22号土壙
図版〈5〉9　第22号土壙出土遺物，第16号土壙出土遺物，第12号土壙出土遺物
図版〈5〉10　土壙群近景，第32号土壙
図版〈5〉11　第２号，第３号，第11・12号土壙
図版〈5〉12　第４号，第19号，第15号土壙
図版〈5〉13　第29号，第８号，第16号土壙
図版〈5〉14　第17号，第９号，第６号土壙
図版〈5〉15　第27号，第28号，第31号土壙
図版〈5〉16　第１号住居跡出土土器，縄文時代早期の土器
図版〈5〉17　第32号土壙出土土器
図版〈5〉18　出土土器
図版〈5〉19　出土土器
図版〈5〉20　出土石器

―鳶ケ長根IV遺跡―

〈7〉第１図　遺跡地形図……80
〈7〉第２図　発掘調査区……81
〈7〉第３図　層位と出土遺物……82
〈7〉第４図　埋甕炉と石囲い炉……83

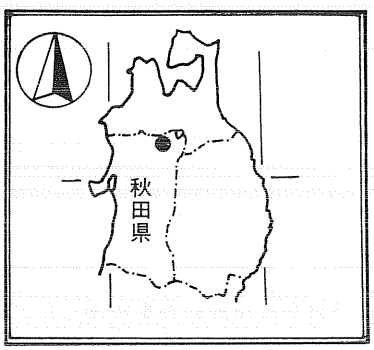
〈7〉第5図　第1，2，3，4号土壙……85
〈7〉第6図　第5，6，7，8号土壙……87
〈7〉第7図　溝状土壙……88
〈7〉第8図　第9，10号土壙……89
〈7〉第①図　第Ⅰ群土器(1)……95
〈7〉第②図　第Ⅰ群土器(2)……96
〈7〉第③図　第Ⅰ群土器(3)……97
〈7〉第④図　第Ⅰ群土器(4)……98
〈7〉第⑤図　第Ⅰ群土器(5)……99
〈7〉第⑥図　第Ⅰ群土器(6)…… 100
〈7〉第⑦図　第Ⅰ群土器(7)…… 101
〈7〉第⑧図　第Ⅰ群土器(8)…… 102
〈7〉第⑨図　第Ⅰ群土器(9)…… 103
〈7〉第⑩図　第Ⅰ群土器(10)…… 104
〈7〉第⑪図　第Ⅰ群土器(11)…… 105
〈7〉第⑫図　第Ⅰ群土器(12)…… 106
〈7〉第⑬図　第Ⅰ群土器(13)…… 107
〈7〉第⑭図　第Ⅰ群土器(14)…… 108
〈7〉第⑮図　第Ⅰ群土器(15)…… 109
〈7〉第⑯図　第Ⅰ群土器(16)…… 110
〈7〉第⑰図　第Ⅰ群土器(17)…… 111
〈7〉第⑱図　第Ⅰ群土器(18)…… 112
〈7〉第⑲図　第Ⅰ群土器(19)…… 113
〈7〉第⑳図　第Ⅰ群土器(20)…… 114
〈7〉第㉑図　第Ⅰ群土器(21)…… 115
〈7〉第㉒図　第Ⅰ群土器(22)…… 116
〈7〉第㉓図　第Ⅰ群土器(23)…… 117
〈7〉第㉔図　第Ⅰ群土器(24)…… 118
〈7〉第㉕図　第Ⅰ群土器(25)…… 119
〈7〉第㉖図　第Ⅰ群土器(26)…… 120
〈7〉第㉗図　第Ⅰ群土器(27)…… 121
〈7〉第㉘図　第Ⅰ群土器(28)…… 122
〈7〉第㉙図　第Ⅰ群土器(29)…… 123
〈7〉第㉚図　第Ⅰ群土器(30)…… 124
〈7〉第㉛図　第Ⅰ群土器(31)…… 125
〈7〉第㉜図　第Ⅰ群土器(32)尖底部…… 126
〈7〉第㉝図　第Ⅰ群土器(33)…… 127
〈7〉第㉞図　第Ⅰ群無文土器口縁部模式図 128
〈7〉第㉟図　第Ⅱ群土器(1)…… 130
〈7〉第㊱図　第Ⅱ群土器(2)…… 131
〈7〉第㊲図　第Ⅲ群土器(1)…… 133
〈7〉第㊳図　第Ⅲ群土器(2)…… 134
〈7〉第㊴図　第Ⅲ群土器(3)…… 135
〈7〉第㊵図　第Ⅲ群土器(4)…… 136
〈7〉第㊶図　第Ⅲ群土器(5)…… 137
〈7〉第㊷図　第Ⅲ群土器(6)…… 138
〈7〉第㊸図　第Ⅲ群土器(7)…… 139
〈7〉第㊹図　第Ⅲ群土器(8)…… 140
〈7〉第㊺図　第Ⅳ群土器…… 143
〈7〉第㊻図　第Ⅴ群土器(1)…… 144
〈7〉第㊼図　第Ⅴ群土器(2)…… 145
〈7〉第㊽図　出土石器 a (1)…… 148
〈7〉第㊾図　出土石器 a (2)…… 149
〈7〉第㊿図　出土石器 a (3)…… 150
〈7〉第(51)図　出土石器 a (4)…… 151
〈7〉第(52)図　出土石器 a (5)…… 152
〈7〉第(53)図　出土石器 a (6)…… 153
〈7〉第(54)図　出土石器 a (7)…… 154
〈7〉第(55)図　出土石器 a (8)…… 155
〈7〉第(56)図　出土石器 b (1)…… 160
〈7〉第(57)図　出土石器 b (2)…… 161
〈7〉第(58)図　出土石器 b (3)…… 162
〈7〉第(59)図　出土石器 b (4)…… 163
〈7〉第(60)図　出土石器 b (5)…… 164
〈7〉第(61)図　出土石器 b (6)…… 165
〈7〉第(62)図　出土石器 b (7)…… 166
〈7〉第(63)図　出土石器 b (8)…… 167
〈7〉第(64)図　出土石器 b (9)…… 168
〈7〉第(65)図　出土石器 b (10)…… 169
〈7〉第(66)図　出土石器 b (11)…… 170
〈7〉第(67)図　出土石器 b (12)…… 171
〈7〉第(68)図　出土石器 b (13)…… 172
〈7〉第(69)図　出土石器 b (14)…… 173
〈7〉第(70)図　出土石器 b (15)…… 174
〈7〉第(71)図　出土石器 b (16)…… 175
〈7〉第(72)図　出土石器 b (17)…… 176
〈7〉第(73)図　出土石器 b (18)…… 177
〈7〉第(74)図　出土石器 b (19)…… 178
〈7〉第(75)図　出土石器 b (20)…… 179
〈7〉第(76)図　出土石器 b (21)…… 180
〈7〉第(77)図　出土石器 b (22)…… 181
〈7〉第(78)図　出土石器 b (23)…… 182
〈7〉第(79)図　出土石器 b (24)…… 183
〈7〉第(80)図　出土石器 c (1)…… 185

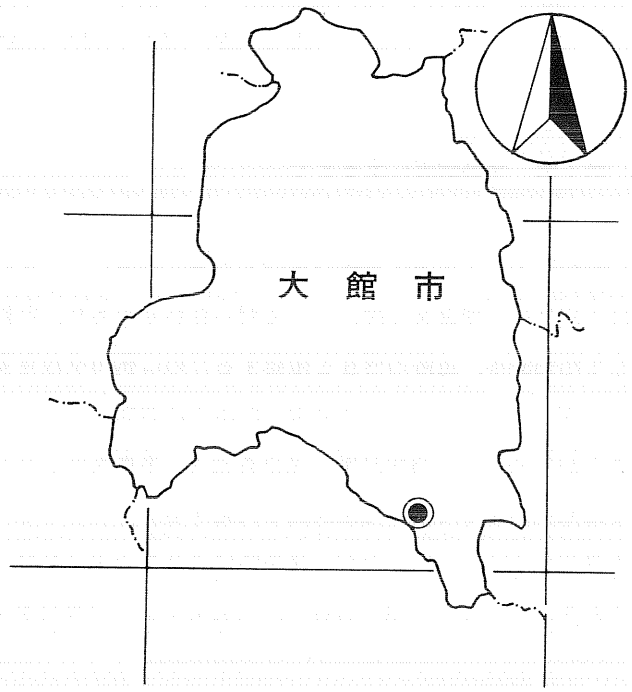
〈7〉第81図　出土石器c(2)…… 186
〈7〉第82図　出土石器d(1)…… 188
〈7〉第83図　出土石器d(2)…… 189
〈7〉第84図　出土石器d(3)…… 190
〈7〉第85図　出土石器e(1)…… 192
〈7〉第86図　出土石器e(2)…… 193
〈7〉第87図　出土石器f(1)…… 194
〈7〉第88図　出土石器f(2)…… 195
〈7〉第89図　出土石器g(1)…… 197
〈7〉第90図　出土石器g(2)…… 198
〈7〉第91図　出土石器g(3)…… 199
〈7〉第92図　出土石器h …… 201
〈7〉第93図　出土石器i …… 202
〈7〉第94図　出土石器j …… 203
〈7〉第95図　出土石器k …… 204
図版〈7〉1　遺跡遠景
図版〈7〉2　遺跡遠景，東側調査区遠景
図版〈7〉3　発掘調査状況
図版〈7〉4　東側北東部遺物出土状況
図版〈7〉5　東側北東部遺物出土状況
図版〈7〉6　縄文早期土器出土状況
図版〈7〉7　縄文後期土器他出土状況他
図版〈7〉8　東側南東部礫群上面出土状況
図版〈7〉9　東側南東部遠景，北東部遠景
図版〈7〉10　東側北西部，北部中央遠景
図版〈7〉11　東側南西部，南部遠景
図版〈7〉12　Ｃ０グリッド検出住居跡，Ｂ１グリッド検出埋甕
図版〈7〉13　Ｃ４，Ｃ２グリッド検出埋甕炉
図版〈7〉14　第Ⅰ群土器
図版〈7〉15　第Ⅰ群土器
図版〈7〉16　第Ⅰ群土器
図版〈7〉17　第Ⅰ群土器
図版〈7〉18　第Ⅰ群土器
図版〈7〉19　第Ⅰ群土器
図版〈7〉20　第Ⅰ群土器
図版〈7〉21　第Ⅰ群土器
図版〈7〉22　第Ⅰ群土器
図版〈7〉23　第Ⅰ群土器
図版〈7〉24　第Ⅰ群土器
図版〈7〉25　第Ⅰ群土器
図版〈7〉26　第Ⅰ群土器
図版〈7〉27　第Ⅰ群土器
図版〈7〉28　第Ⅰ群土器尖底部
図版〈7〉29　第Ⅰ，Ⅱ，Ⅳ群土器
図版〈7〉30　第Ⅲ群土器
図版〈7〉31　第Ⅲ群土器
図版〈7〉32　第Ⅲ群土器，土製品
図版〈7〉33　出土石器a
図版〈7〉34　出土石器a
図版〈7〉35　出土石器b
図版〈7〉36　出土石器b
図版〈7〉37　出土石器b
図版〈7〉38　出土石器b
図版〈7〉39　出土石器b
図版〈7〉40　出土石器b
〈7〉付　図　縄文早期土器出土分布図

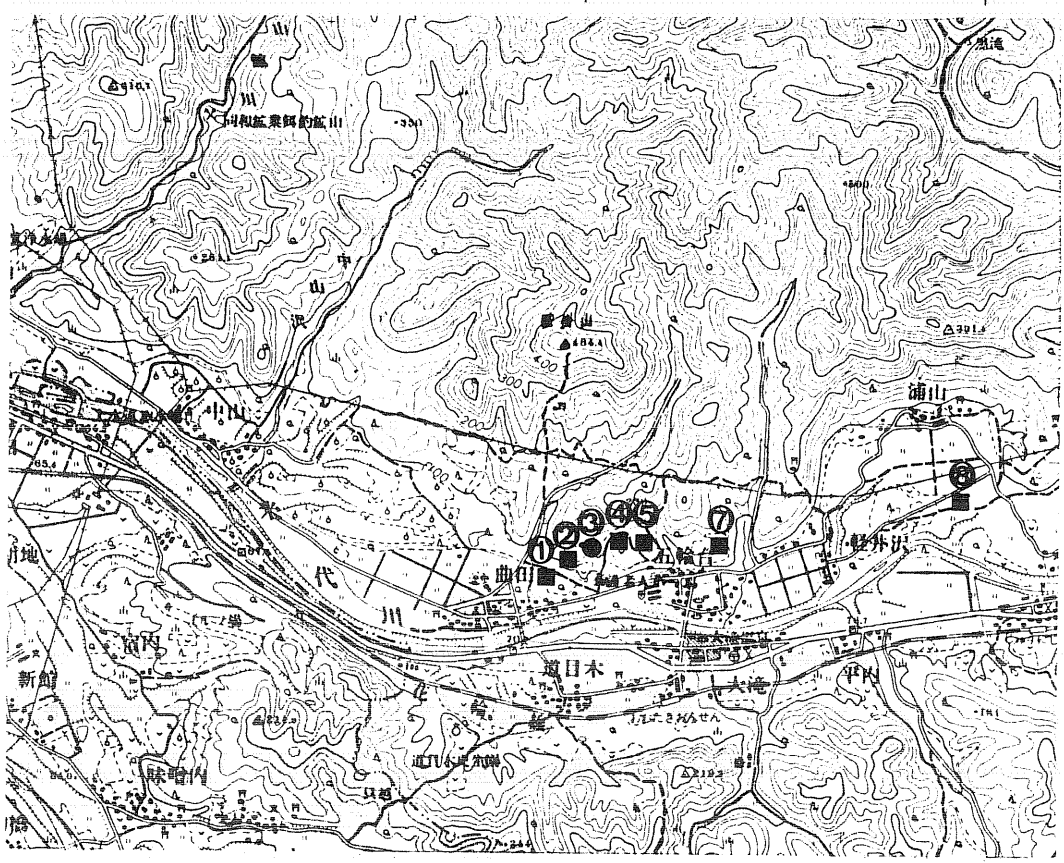
―萩峠遺跡―

〈8〉第1図　遺跡地形図…… 209
〈8〉第2図　Ⅰ区遺構配置図…… 折
〈8〉第3図　第1号住居跡，第1号土壙… 216
〈8〉第4図　第2号住居跡…… 217
〈8〉第5図　第3号住居跡…… 218
〈8〉第6図　第4号住居跡…… 219
〈8〉第7図　第5号住居跡…… 220
〈8〉第8図　第6，7号住居跡…… 221
〈8〉第9図　第8号住居跡…… 222
〈8〉第10図　第9号住居跡…… 223
〈8〉第11図　第2，3，4，5号土壙…… 225
〈8〉第12図　第6，7，8，9号土壙…… 227
〈8〉第13図　第10，11，12，13号土壙…… 229
〈8〉第①図　第1，2，3号住居跡出土遺物 232
〈8〉第②図　第3号住居跡出土遺物…… 233
〈8〉第③図　第4号住居跡出土遺物(1)…… 234
〈8〉第④図　第4号住居跡出土遺物(2)…… 235
〈8〉第⑤図　第6号住居跡出土遺物…… 236
〈8〉第⑥図　第7号住居跡出土遺物(1)…… 237
〈8〉第⑦図　第7号住居跡出土遺物(2)…… 238
〈8〉第⑧図　第7号住居跡出土遺物(3)…… 239
〈8〉第⑨図　第7号住居跡出土遺物(4)…… 240
〈8〉第⑩図　第7号住居跡出土遺物(5)…… 241
〈8〉第⑪図　第8号住居跡出土遺物…… 242
〈8〉第⑫図　第9号住居跡出土遺物…… 243
〈8〉第⑬図　第3，6，8号土壙出土遺物… 244

〈8〉第⑭図　第9号土壙出土遺物…… 245
〈8〉第⑮図　Ⅰ区出土土器…… 246
〈8〉第⑯図　第1,4,5号住居跡周辺出土遺物247
〈8〉第⑰図　第3号住居跡周辺出土遺物… 248
〈8〉第⑱図　第6，7号住居跡出土土器(1) 249
〈8〉第⑲図　第6，7号住居跡出土土器(2) 250
〈8〉第⑳図　第6，7号住居跡出土土器(3) 251
〈8〉第㉑図　第8，9号住居跡出土遺物… 252
〈8〉第㉒図　Ⅰ区出土土器(1)…… 253
〈8〉第㉓図　Ⅰ区出土土器(2)…… 254
〈8〉第㉔図　Ⅰ区出土土器(3)…… 255
〈8〉第㉕図　円盤状土製品…… 256
〈8〉第㉖図　土偶(1)…… 257
〈8〉第㉗図　土偶(2)…… 258
〈8〉第㉘図　土偶(3)・土製品…… 259
〈8〉第㉙図　石製品(1)…… 260
〈8〉第㉚図　石製品(2)…… 261
〈8〉第㉛図　Ⅰ区出土石器(1)…… 262
〈8〉第㉜図　Ⅰ区出土石器(2)…… 263
〈8〉第㉝図　Ⅰ区出土石器(3)…… 264
〈8〉第㉞図　Ⅰ区出土石器(4)…… 265
〈8〉第㉟図　Ⅰ区出土石器(5)…… 266
〈8〉第14図　Ⅰ区2トレンチ平面図…… 267
〈8〉第㊱図　Ⅰ区2トレンチ出土土器(1)… 268
〈8〉第㊲図　Ⅰ区2トレンチ出土土器(2)… 269
〈8〉第㊳図　Ⅰ区2トレンチ出土遺物(1)… 270
〈8〉第㊴図　Ⅰ区2トレンチ出土遺物(2)… 271
〈8〉第㊵図　Ⅰ区2トレンチ出土遺物(3)… 272
〈8〉第㊶図　Ⅰ区2トレンチ出土遺物(4)… 273
〈8〉第㊷図　Ⅰ区3トレンチ出土遺物…… 274
〈8〉第15図　Ⅰ区4トレンチ土壙…… 275
〈8〉第㊸図　Ⅰ区4トレンチ出土遺物(1)… 276
〈8〉第㊹図　Ⅰ区4トレンチ出土遺物(2)… 277
〈8〉第16図　空堀跡…… 278
〈8〉第17図　Ⅱ区遺構配置図…… 279
〈8〉第18図　Ⅱ区第1号住居炉跡…… 280
〈8〉第19図　Ⅱ区第1号住居跡…… 281
〈8〉第20図　Ⅱ区土壙，建物跡…… 283
〈8〉第㊺図　Ⅱ区出土遺物(1)…… 284
〈8〉第㊻図　Ⅱ区出土遺物(2)…… 285
〈8〉第㊼図　Ⅱ区出土遺物(3)…… 286
〈8〉第21図　Ⅲ，Ⅳ，Ⅴ区遺跡地形図…… 287
〈8〉第㊽図　Ⅲ区出土遺物…… 288
〈8〉第22図　Ⅴ区溝状土壙1，2…… 289
〈8〉第㊾図　Ⅴ区出土遺物…… 290
〈8〉第23図　Ⅰ区住居跡・土壙群配置図… 291
図版〈8〉1　遺跡遠景
図版〈8〉2　Ⅰ区調査区遠景
図版〈8〉3　Ⅰ区調査区土層
図版〈8〉4　第1号住居跡，第1号土壙，第2号住居跡
図版〈8〉5　第4号住居跡，第3号住居跡
図版〈8〉6　第5号住居跡柱穴群第5号住居跡
図版〈8〉7　第6号住居跡，第7号住居跡
図版〈8〉8　第9号住居跡，第10号住居跡
図版〈8〉9　第1号住居跡炉跡，第1号土壙，第3号住居跡炉跡
図版〈8〉10　第7号住居跡炉跡，第9号住居跡炉跡，第8号住居跡炉跡
図版〈8〉11　Ⅰ区2トレンチ遺物出土状況
図版〈8〉12　Ⅰ区4トレンチ土壙
図版〈8〉13　Ⅰ区空堀跡
図版〈8〉14　Ⅱ区調査区遠景，第1号建物跡
図版〈8〉15　Ⅱ区第1号住居跡，炉跡
図版〈8〉16　炉跡内土製品，第1号住居跡柱穴出土遺物，出土土器
図版〈8〉17　Ⅰ区出土土器
図版〈8〉18　Ⅰ区出土土器
図版〈8〉19　Ⅰ区出土土器
図版〈8〉20　Ⅰ区出土土器
図版〈8〉21　Ⅰ区4トレンチ出土土器
図版〈8〉22　Ⅱ区出土土器，Ⅲ区出土土器







〈a〉第1図　遺跡位置図　　1：50,000

第1章　はじめに

第1節　発掘調査に至るまで

昭和51年，国道103号線バイパス工事に関連して，建設省能代工事事務所より県教育委員会に予定地内の埋蔵文化財について問い合わせがあり，県教育委員会は現地踏査を実施した。そして昭和53年，遺跡の所在を確認するために秋田県教育委員会は大館市教育委員会に依頼し，試掘調査を実施した。その結果，路線内に周知の遺跡1カ所の他あらたに6カ所の遺跡のあることが判明した。昭和54年，建設省能代工事事務所より発掘調査の依頼があり，県教育委員会では昭和54年4月より発掘調査を実施することにしたものである。当初1年間で7カ所の遺跡を調査する予定であったが，諸事情により2カ年にわたって行われた。なおNo.6に遺跡は確認されず，No.3鳶ケ長根Ⅰ遺跡は計画変更により調査対象よりはずされた。

第2節　調査の組織と構成

調査目的　国道103号線バイパスの建設に伴い，消滅する恐れのある大館市曲田から大館市軽井沢地内の6カ所の遺跡の発掘調査を実施し，その記録保存をはかり，地域社会の埋蔵文化財の活用に資するものである。

調査主体　秋田県教育委員会

調査担当者　庄内昭男（秋田県立博物館）　柴田陽一郎（教育庁文化課）
板橋範芳（大館市市史編纂室）

調査協力員　永瀬福男，熊谷太郎，高橋忠彦，小林　克（教育庁文化課）

調査補助員　鈴木秋良，花田幹雄，花田孝夫，栗沢光男，藤井安正，大高博康，佐々木金正

事務補助員　佐々木恵子

調査協力機関　建設省能代工事事務所
大館市教育委員会

遺跡所在地
調査対象面積

No.	所在地	調査対象	No.	所在地	調査対象
1	大館市曲田字山田堤33他	1,000㎡	5	大館市軽井沢字鳶ケ長根	1,750㎡
2	大館市曲田字沢口76他	300㎡	7	大館市軽井沢字鳶ケ長根	5,600㎡
4	大館市軽井沢字鳶ケ長根	2,520㎡	8	大館市軽井沢字萩峠83他	4,000㎡

発掘調査総面積　11,250㎡

調　査　期　間　第１次昭和54年５月25日～同年12月８日（No.１，No.２，No.７，No.８を調査）
第２次昭和55年４月24日～同年７月30日（No.４，No.５を調査）

発掘作業協力者　柴田勇蔵，奈良福治，佐藤敬，明石茂樹，古川孝政，小林悟，竹村義久，
八代和彦，佐々木亨，谷地薫，高橋賢二，奈良景光，奈良光一，奈良与太郎
奈良亮一，佐藤忠孝，畠山陸蔵，藤田長助，畠山良作，畠山佐一，畠山政雄
後藤竹雄，畠山喜代造，畠山与三郎，畠山喜六，佐藤忠雄，畠山三男，
黒田六郎，桜田幸祐，奈良博人，高松良之助，成田二三雄，成田五郎，
佐々木久蔵，高松勝之助，成田甚一，阿部隆蔵，阿部忠市郎，成田藤江，
成田久吉，阿部七蔵，佐々木留蔵，佐々木武，鈴木善五郎，佐々木一栄，
柴田清，畠山興五郎，佐々木直蔵，高橋政蔵，鈴木伝兵衛，柴田岩之助，
佐々木健吉，柴田忠彦，柴田淳一，柴田久子，佐々木玉枝，佐々木ミチ，
柴田ハル，佐々木ハマ，佐々木サツ，佐々木フサ，佐々木チサ，佐々木ミワ
佐々木キミエ，畠山キヨ，畠山ミツエ，畠山タミ子，畠山キサ，畠山ヤオエ
畠山ナミエ，畠山京子，近藤ミチエ，黒田キエ，奈良久子，奈良サダエ，
奈良ハル，畠山トミエ，畠山ツヤ，滝沢キエ，奈良アグ，鈴木スワ，
奈良礼子，原田トシ子，県立大館鳳鳴高等学校生徒。

整理作業協力者　佐藤和弘，高橋浩樹，鈴木功，桑原隆，渡辺健太郎，畠山悦美，斎藤寿孝，
細木茂，谷口重光，三嶋隆儀。
石上尚子，松本淳子，畠山桃子，杉原敬子，山崎節子，神居トシ，石黒紀子
越智孝子，岡部久美子，大高しのぶ，菊地文子，吉田睿子，佐々木順子，
堀井照子，雲雀ミチエ，柳田ミナ子，成田八百子，久米栄子，阿部紀子，
小淵悌子，田松静子，庄内公子，佐藤昌子，国立秋田工業高等専門学校生徒。

第２章　遺跡の立地と環境

第１節　遺跡の位置について

国道103号線バイパスは大館市街から米代川の北岸を通って南東に向って路線がのびており，市街から約10km離れた大館市曲田から東が未完成であった。この大館市曲田から軽井沢字萩峠までの間約３km以内で工事に関連して７カ所の遺跡が調査対象となった。花輪線大滝温泉駅が最寄りの駅であり，北に２ないし2.5kmの範囲内に遺跡がある。地理的にはNo.１の山田堤とNo.２の沢口遺跡が隣接し，No.４の鳶ケ長根II遺跡とNo.５の鳶ケ長根III遺跡が隣接し，No.７の鳶ケ長根IV遺跡，No.８の萩峠遺跡はそれぞれ間隔をおいて位置している。

第２節　地質学的環境について

１　地形と地質の概要

大滝，軽井沢，曲田付近の地形は山地，洪積段丘，沖積地の三つに区分される。このうち山地は秋田県(1973)によれば新第三紀中新世の大滝層に属する浮石凝灰岩，石英安山岩よりなり，そのうち石英安山岩は鞍掛山(484.4m)軽井沢北西の325mなどのやや急傾斜の部分を構成している。調査地付近の大滝層は主として無層理状の凝灰角礫岩，火山角礫岩よりなり，ほかにラミナ，グレーディングの発達した浮石凝灰岩や硬質の泥岩などをともなっている。火山角礫は流理構造が良く発達した石英安山岩が多い。走向傾斜はＮＳ42°Ｅである。

洪積段丘は，150～140ｍ面と110ｍ面の二つに区分される。このうち150～140ｍ面は軽井沢北西と五輪台北西にわずかに見られ，なだらかな起伏はあるものの明らかに平坦面を残している。110ｍ面は五輪台の北に断片的に分布し明瞭な平坦面を示す。この段丘構成層は径５～８cmの安山岩質亜円礫を主とした河成礫層とその上に重なる二枚の軽石質火山灰層であり，沢口遺跡（No.２）鳶ケ長根遺跡III（No.５）鳶ケ長根遺跡IV（No.７）遺跡はこの面上に鳶ケ長根II遺跡（No.４）は150ｍ～140ｍ面のあいだの傾斜地に分布している。

沖積地は70～80ｍの最低位の段丘と米代川沿いの低地よりなり前者は内藤（1966）の毛馬内面であり軽石質火山灰より構成されている。山田堤はこの位置にある。

萩峠付近は大きく見て地形的に４つに区分でき，それぞれが地質によく対応している。即ち石英安山岩からなる侵食残丘状の部分と軽石質火山灰を主とする106～116ｍの面，98～100ｍの面，更に浦山，軽井沢の部落をのせる86ｍの毛馬内面（内藤，1966）のそれぞれである。

このうち遺跡のある面は98～ 100 m面， 106 ～ 110 m面で定高性のいちじるしい平坦面を残している。地質は下位から石英安山岩，軽石質火山灰(火砕流～火山灰流)，降下粗粒火山灰（一部火山礫),黒色腐植土層などで構成されている。

2．遺跡の地質

第2図に鳶ケ長根II遺跡(No.4)，鳶ケ長根III遺跡(No.5)，鳶ケ長根IV遺跡(No.7)，萩峠遺跡の各調査地点の柱状図を示す。この図をもとに各地点の地表近くの地質特に火山灰層について記載する。

No.4 鳶ケ長根II遺跡について

T4：150 ～ 140 m面の段丘崖上にあり，下部より灰茶褐色軽石質火山灰層(a)，黄褐色軽石質粗粒火山灰ないし火山礫層(b)，黒褐色有機質土層および黒色有機質土層の順にみられる。このうち下部の軽石質火山灰層は 0.5 ～ 4 cm（時に10cm以上）の軽石や 0.5 ～ 3 cmの安山岩質角礫を含み，分級が悪く無層理塊状であり，火砕流（泥流）堆積物とみられる。第3図のa′はこのグリッドより約4 m高い地点の軽石質火山灰であるが，ここではやや円みをおびた5 ～ 8 cm大の軽石が多く，所々に下位の硬質泥岩が岩塊状に突出している。後述するように，aとa′はほぼ同じ重鉱物組成を示す。一方，黄褐色軽石質火山灰は1 ～ 7 cmの厚さで膨縮し，堆積面の凹所（以下単に凹所）では10cmほどになることもある。粒径が0.5 ～ 2 mmの軽石質粗粒火山灰であるが，凹所では下部から2 ～ 3 cmのところで5 ～15mmの軽石が多数混入することがある。また，このような部分では上部は黒褐色の土壌部と混じりあい汚れた印象を与える。数mmの軽石が密集している部分は空隙が多く，さらに全体として異質岩片は含まれていない。以上の性格からみて，この火山灰は降下火砕物であり，凹所部分はごく近い範囲からの二次的な集積作用（風，流水）により厚くなったものであろう。

No.5 鳶ケ長根III遺跡について

T5：110 m段丘面上にあり，下部より 0.2 ～ 1 cmの黄褐色軽石を含む灰褐色火山灰層（泥流堆積物),黄褐色軽石質粗粒火山灰(降下堆積物)，黒色有機質土の順にみられる。火山灰層の産状はいずれもT4と同様である。

K：110 m段丘構成層のうち，軽石質火山灰層より下位の地層が観察される露頭で下部から5 ～ 8 cmの安山岩質亜円礫を主とする砂礫層（厚さ60cm以上）と軽石質火山灰層（厚さ1 m）よりなる。このうち砂礫層は上部がシルト質で中～下部は礫の表面に酸化皮膜がついており，全体に軽石をまったく含んでいないことから河床堆積物とみられる。また軽石質火山灰層は黄褐色無層理塊状で下部はやや異質岩片が多い。これはT4，T5と同様に火砕流（泥流）堆積物である。

No.7 鳶ケ長根IV遺跡について

304：模式的な地形，地質断面図は第３図に示すが，軽石質火山灰層と河床性段丘礫層のあいだについては不明である。しかし段丘礫層が面に近い上部にあることから軽石質火山灰層にうすくおおわれているものと見られる。304で最下部は乳褐色の軽石の少ない火山灰で，その上に径１～0.5㎝の赤褐色ないし黄褐色の軽石に富む層が10㎝ほどで重なり，それ以上は茶灰色の砂質土から茶黒色の腐植土層へと変化している。降下火山礫層は黒色腐植土層中に一様に分布し，部分的に５㎝～１㎝と厚さが変化する。なおD'は同じ火山礫層のうち，より東側のグリッドから得たものである。

No.８萩峠遺跡について

柱状図を301，302，303の３カ所にとった。それぞれの位置関係と模式的な地形，地質断面図と柱状図を第２図に示す。なお図は今回の調査分析結果にもとづいて描いてある。

301：下部は灰紫色ガラス質の石基に自形の白色斜長石が散在する石英安山岩で有色鉱物は酸化されてほとんど残存せず，一般にかなり風化している。この上に軽石質火山灰層が重なるが，境界面は凹凸があり，粘土質になった火山灰中に石英安山岩の風化角礫（ϕ＝５～20㎝）が30～40㎝の厚さで含まれている。この部分の火山灰は乳白色に近いが，上部にゆくほど黄褐色になる。最上部は黒色腐植土層でこの中に降下粗粒火山灰がうすく見られる。

302：下部は全般的に乳白色に近い火山灰質であるが，最下部は砂質でその上に10㎝ほどの乳褐色シルト層があり更に細礫大の石質角礫と軽石を含んだ火山灰層にかわる。この層の上部には１～２㎝位の赤褐色の酸化鉄からなる薄層がありこれより上位は褐灰色の無層理火山灰質層となって軽石が大きく，かつ密集して色調も黄褐色になる。上部の軽石は５～10㎝大のものが密集しており，形状は比較的円みがかったものが多い。最上部の黒色腐植土層に含まれる降下火山灰層は一部火山礫大になり，２～３㎝とやや厚くなることもある。なお302Ｆは柱状図の底部より若干高く，Ｃに相当する部分である。

303：下部は黄褐色の軽石質火山灰で，上部にゆくにつれて茶褐色から茶黒色へ変化し黒色腐植土層になる。地表から約40㎝下位に粗粒火山灰ないし火山礫からなる降下火山灰層があり層厚は最大５㎝ほどに達し，火山礫は1.3㎝大になるものもある。最上部は茶褐色の軽石片が散在する黒色腐植土で，再動土であろう。

３．火山灰層について

米代川流域に広く分布する十和田火山起源の火山灰層については内藤（1966・1970）中川ほか（1972）等によりくわしく知られており，古い方から高市軽石火山灰層（25850± 1360ｙＢ・Ｐ）鳥越軽石質火山灰層（12000± 250ｙＢ・Ｐ）申ケ野軽石質火山灰層（8600±250ｙＢ・Ｐ）大湯軽石質火山礫層（3680± 130ｙＢ・Ｐ）にそれぞれ区分されている。また大湯軽石質火山礫層と毛馬内軽石質火山灰層については同一の火山活動にともなう降下堆積物と火砕流堆積物であ

ることも指摘されている。（大池1974，藤本1980）

(1)No.4 鳶ケ長根II遺跡，No.5 鳶ケ長根III遺跡の火山灰層について—重鉱物組成と対比

T4aとT4a′，T5a，Kaからサンプルをとり，ブロムホルムを用いて重鉱物分析を実施した。これは0.1～0.2㎜の重鉱物を鏡下で3～5視野について合計490～600個になるまで数え個数%を求めるものである。結果は第1表に示す。第1表よりT4aとT4a′は極めて近い値を示すことがわかる。またいずれも単斜輝石に比して角閃石がやや多い鳥越軽石質火山灰層に一致した組成を示しており（※申ケ野軽石質火山灰層は角閃石が少なく，単斜輝石／角閃石は2.64（8ケ平均）に対し，鳥越は1.35(20ケ平均)），段丘面の高度，面の形態等から見てもこれに対比できるものと思われる。なおT4bとT5bについては層相や産状から見て大湯軽石質火山礫層に対比できることが確実なので特に分析は行わなかった。

(2)No.7 鳶ケ長根IV遺跡，No.8 萩峠遺跡の火山灰層について—重鉱物組成と対比

301～304からサンプルをとり，常法により重鉱物分析を行った。採取位置を第3図に示す。結果は第2表のとおりである。第1表から降下火山灰である304 D，D′および303 Bは極めてよい組成上の一致を示し特に304 DとD′はほとんど同一の組成と言ってもよい。一方304 Aと301 B，B′は角閃石を含まない点で降下火山灰と同様であるが，斜方輝石，単斜輝石の量で異なっている。また302 A，C，D，F，303 A，304 B，Cなどは角閃石を含み，組成値も変化している。次にこのような結果を今まで筆者のところで蓄積してきた各火山灰層のデーターと比較するために第4図にプロットしてみた。この際，角閃石の有無および累積関係から降下火山灰層は内藤（1966）の大湯軽石質火山礫層に304 Aと301 B，B′は高市軽石質火山灰層に302 A，C，D，F，303 A，304 B，Cは鳥越軽石質火山灰層にそれぞれ相当すると見られることから，第2図では各火山灰層の図にプロットした。この図からそれぞれの点は今まで得られた各火山灰層の組成範囲内およびその変化の延長付近にプロットされることが明らかであり上述の予想どおりであることがわかる。なお内藤（1966）では申ケ野軽石質火山灰層が大館盆地内にもあるとされており今回の分析値でも特に302 D，F，303 A，304 B，Cを疑ってみたが，第4図からみてその可能性は少ない。即ち，見かけ上302 D，F，303 Aは黄褐色の軽石が多く似ていることから降下堆積物（申ケ野軽石質火山灰層？）とも思われたが，これは地形面に対応した風化作用のあらわれと見られる。また上部に軽石が密集することは米代川流域の軽石質火山灰層からなる段丘ではよく見られることであり地形的に流れがよどみがちな地域に多いようである。ところで301 B，B′が高市軽石質火山灰層に対比できる結果になったことはやや意外である。なぜならば301は98mレベルの段丘面を構成しており当然上位の106 mレベルの段丘構成層より新しいと予想されたからである。しかしこれは明らかに高市軽石質火山灰層であり，このことはこの面が鳥越軽石質火山灰層の堆積後に二次的に侵食平坦化された

面であることを示している。

文　献

秋田県（1973）５万分の１総合地質図幅「大館」Ｐ１～94

秋田県教育委員会（1979）塚の下遺跡，秋田県文化財調査報告書第61集，Ｐ６～９

藤本幸雄（1980）十和田火山起源の火山灰層の重鉱物組成，その一大館盆地，花輪盆地の火山灰層，大館工業高校研究紀要No.４（投稿中）

内藤博夫（1966）秋田県米代川流域の第四紀火山砕屑物と段丘地形，地理学評論，VoL39，No.７，No.463－484

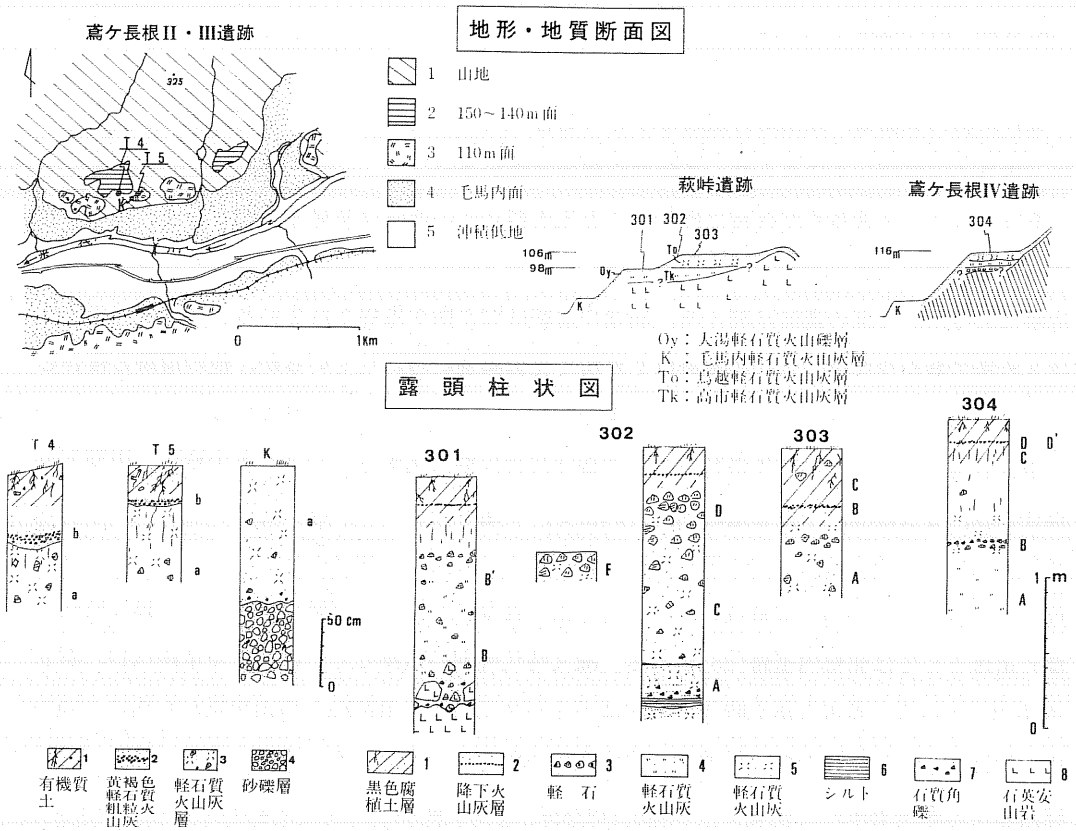
中川久夫ほか７名（1972）十和田火山発達史概要・岩井淳一教授記念論文集，東北大地古研邦文報告，No.73，７－18

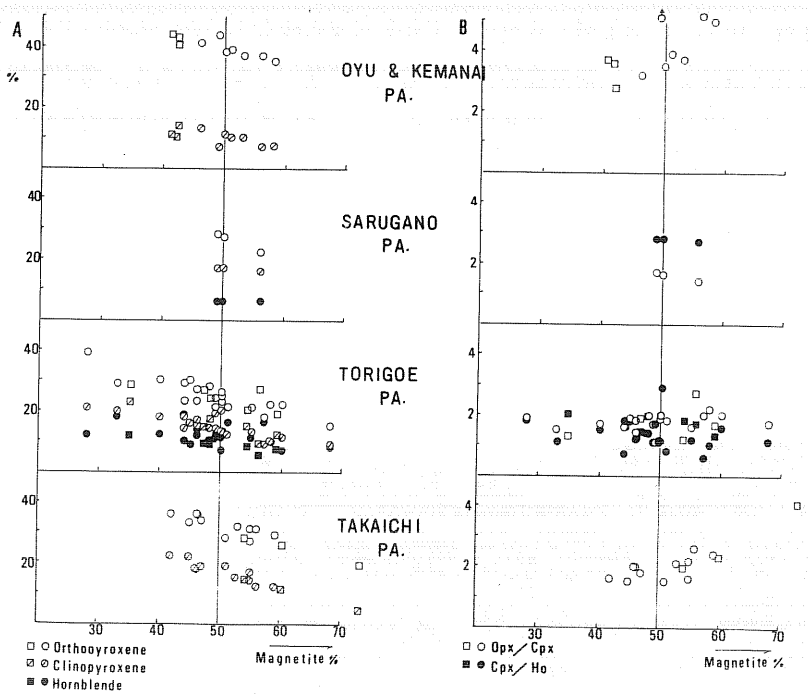
大池昭二（1974）十和田火山は生きている～まぼろしの有史時代噴火を追って，国土と教育，No.26，２－７

火山灰の重鉱物組成

火山灰サンプル ＼ 鉱物	鉄鉱物	角閃石	斜方輝石	単斜輝石	Opx／Cpx	Cpx／HO	個数
Ｔ４　a′	56.8	11.4	17.1	14.7	1.2	1.3	498
Ｔ４　a	55.9	9.4	19.6	15.1	1.3	1.6	597
Ｔ５　a	67.2	7.1	17.3	8.4	2.1	1.2	607
Ｋ　a	56.7	10.2	22.8	10.2	2.2	1.0	557
304　D′	41	2	45	12	3.8		226
304　D	42	2	44	12	3.7		234
304　C	51	7	25	17	1.5	2.4	480
304　B	48	9	25	18	1.4	2.0	245
304　A	73	2	20	5	4.0		301
303　C	47	2	35	16	2.2		249
303　B	42	1	42	15	2.8		253
303　A	59	9	20	12	1.7	1.3	254
302　F	56	6	28	10	2.8	1.7	320
302　D	54	9	21	16	1.3	1.8	321
302　C	47	10	28	15	1.9	1.5	296
301　A	35	12	29	14	1.2	2.0	323
301　B′	60	1	27	12	2.3		382
301　B	54	2	29	15	1.9		197

Opx：斜方輝石，Cpx：単斜輝石





〈a〉第2図　遺跡地質図

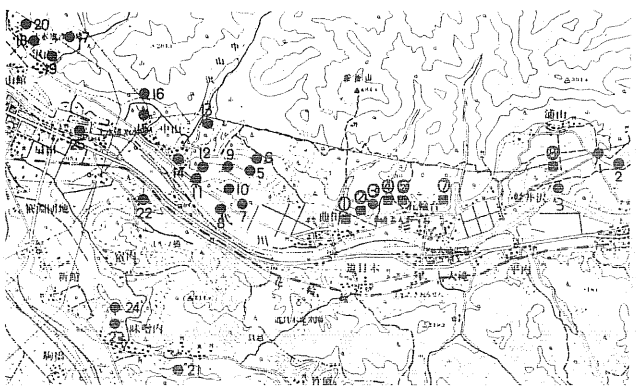
火山灰重鉱物組成表

第３節　周辺遺跡について

米代川沿の大館市，比内町の遺跡は多くの場合米代川及び中小河川の下位低面から比高５～10ｍ内外の河岸段丘上にみられ，各時期の複合遺跡が多い。

そうしたなかで遺跡を時代毎に概観すると先土器時代の遺跡は発見されておらず，縄文時代に入ると早期の遺物が大館市曲田の野沢岱Ｃで表採されている。前期の遺跡は27カ所，中期の遺跡は30カ所，後期の遺跡は35カ所，晩期の遺跡は32カ所が周知されている。弥生時代の遺跡は３カ所で数が少ない。古代の遺跡は７カ所で発掘調査が行われているが，他の遺跡と複合してさらに数は多くなると考えられる。中世の館跡として43カ所が知られている。

103号線バイパス工事関係遺跡の周辺で縄文時代前期に属するものは冷水山根Ⅰ（中期との複合）(5)，Ⅱ遺跡(6)，下聖Ⅱ遺跡(8)，野沢岱Ｃ，Ｄ遺跡(11，12)，横沢遺跡(22)，宿内中岱遺跡(24)がある。縄文時代中期の遺跡としては下聖Ⅰ（後期との複合）遺跡(７)，野沢岱Ａ（後期との複合）遺跡(９)，桜殿遺跡(13)，竜毛岱（後期との複合）遺跡(15)がある。縄文時代後期の遺跡としては味噌内遺跡(23)がある。縄文時代晩期の遺跡としては珠数掛遺跡(21)，羽立遺跡(20)がある。周辺の縄文時代の遺跡はバイパス工事関係遺跡No.１の山田堤から西に１kmの中山地区，さらに１km西の山館地区の段丘上に集中している。山館，上ノ山遺跡（17，18，19）は大館市史編纂事業の一環として調査が行われ，円筒下層ｃ，ｄ式土器を伴出する前期の竪穴住居跡と土壙群，中期の円筒上層ｅ式を伴出する竪穴住居跡と土壙群，晩期の土壙群が検出されている。古代の遺跡としては新館遺跡(２)，館の上遺跡(１)などがある。縄文時代後期の集落が発見されたNo.８萩峠遺跡(３)は軽井沢館ともいわれている。萩峠遺跡の沢を隔ててすぐ東側に新館遺跡(２)，館ノ上遺跡(１)が位置しており，未周知ながら米代川北岸の大滝沢に館跡がある点からも関連づけて考えられる。



〈ａ〉第３図　周辺遺跡

第３章　調査の方法と経過

第１節　調査の方法

道路の建設に際し，建設省の用地杭および工事用中心杭がうたれており，道路幅は広いところで35ｍであるが段丘の縁辺にあたるところはそれよりせまく調査区をとることになった。各調査区毎に４ｍ方眼でグリッドを設定した。グリッド設定のため南北の基準とする杭は工事用中心杭あるいはその付近として磁北にあわせて南北ラインを決めた。調査区の南側より北にアルファベットでＡ，Ｂ……を東から西に０・１・２……と算用数字を付した。グリッドの名称は南東側の杭で呼称した。なおNo.８萩峠遺跡では傾斜面に対し，任意にトレンチを設定し東側からＴｒの略号を付した。

第２節　調査の経過

昭和54年度は５月25日より発掘調査を開始した。

〈５月25日〉No.８萩峠遺跡に庄内，板橋が入り，北側Ｉ区より調査を開始した。ほぼ２週間雑木の刈り払い抜根を行った。〈５月31日〉中心杭よりグリッドを設定し，Ｉ区北側から表土を除去しはじめた。地山までは１ｍ前後あり，かなり深い。南側に移るにしたがって浅く，土壙，炉跡などが検出され，縄文後期初頭の土器が伴出した。〈６月２日〉東北縦貫自動車道発掘調査事務所より高橋，栗沢が来た。No.２沢口遺跡にグリッドを設定した。〈６月15日〉No.２沢口遺跡の調査を終えた。遺構は検出できなかった。〈６月16日〉No.７鳶ケ長根IV遺跡の牧草を刈り払いグリッド設定の杭を打った。〈６月21日〉No.７鳶ケ長根IV遺跡の調査を開始，東側先端近くより表土を除去した。鳶ケ長根IV遺跡では縄文早期の貝殻文系土器が出土しており，分布状況把握のため遺物を残していった。〈８月28日〉No.８萩峠遺跡Ｉ区の西辺を拡張し住居跡９軒，土壙13基を確認した。〈９月１日〉東北縦貫自動車道発掘調査事務所より小林，藤井が来た。No.７鳶ケ長根IV遺跡に入った。〈９月25日〉No.８萩峠遺跡のＩ区とトレンチを含めて精査と写真撮影を終了，平面図作成を終了した。〈10月20日〉No.８萩峠遺跡のＶ区まで調査を終了した。〈11月８日〉No.８萩峠遺跡Ⅱ区～Ｖ区までの写真撮影および実測図作成を終了した。〈11月１日〉山田堤の調査を開始し〈11月21日〉で山田堤の調査を終了した。遺構，遺物は検出できなかった。〈11月22日〉No.７鳶ケ長根IV遺跡の遺物取り上げをほぼ終了させ，平面図の作成をはじめた。〈11月30日〉平面図作成および全景写真撮影を終了した。〈12月８日〉残務を整理し，

54年度の調査を終了した。

昭和55年度の調査は4月24日から開始した。グリッドの設定は測量会社に委託した。〈4月24日〉No.4鳶ケ長根II遺跡東側斜面より表土除去していった。地山まで20～30cmと浅かった。〈5月13日〉19ラインの西側に土壙7基が検出され周辺の精査を行う。出土遺物はきわめて少なかった。No.5鳶ケ長根III遺跡の刈り払いをはじめた。〈5月20日〉No.5鳶ケ長根III遺跡の東側より表土除去しはじめた。表土から20cm程で縄文晩期の土器が少量出土しはじめた。〈6月12日〉それまで28基の土壙群が検出された。〈6月16日〉E4グリッドで第1号住居跡が確認された。〈6月19日〉確認した土壙の西側を半分掘りセクション図を作成していった。〈6月26日〉第2層上面で残して行った遺物の取り上げを行うため遺り方設定を開始した。〈7月10日〉土壙および住居跡の写真撮影を行った。〈7月12日〉No.4鳶ケ長根II遺跡，No.5鳶ケ長根III遺跡の全景写真を撮る。両遺跡の平面図作成をはじめた。〈7月29日〉平面図作成を終了した。〈7月30日〉残務を整理し，昭和55年度の調査を終了した。

第3節　調査の概要

遺跡No.	遺跡名	立地	対象面積	調査面積	検出遺構	時代
No.1	山田堤	低位段丘	1,000m²	500m²	な し	
No.2	沢口遺跡	段丘上 標高 100m	300m²	200m²	な し	縄文後期
No.4	鳶ケ長根II遺跡	段丘斜面 標高 130m	2,520m²	2,000m²	土壙7	縄文晩期
No.5	鳶ケ長根III遺跡	段丘上 標高 106m	1,750m²	1,500m²	土壙33 住居跡6	縄文晩期
No.7	鳶ケ長根IV遺跡	段丘上 標高 115m	5,600m²	3,850m²	土壙10 埋甕4 住居跡1	縄文早期 縄文後期 弥生時代
No.8	萩峠遺跡	段丘上 標高 100m	4,000m²	3,200m²	土壙20 住居跡10 建物跡2	縄文後期 中世

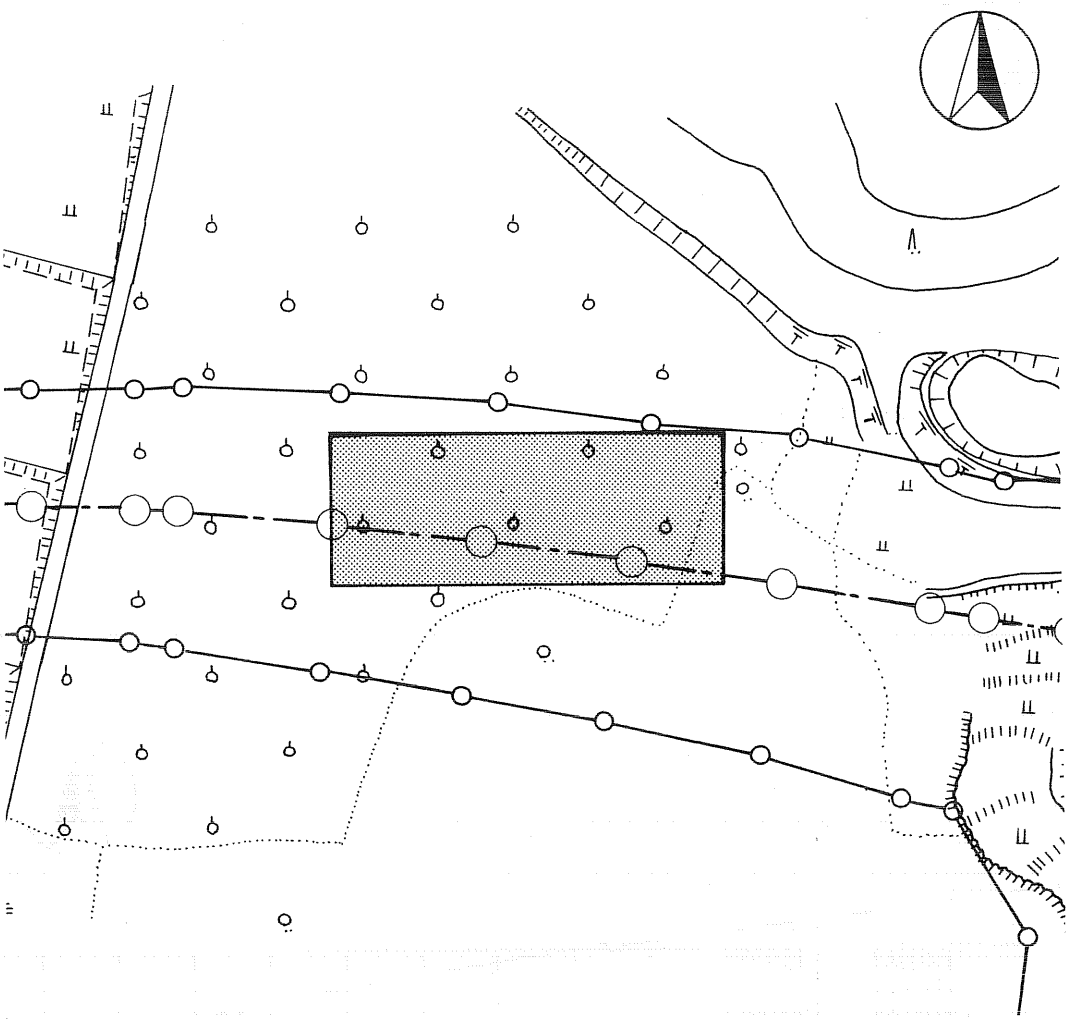
山　田　堤

遺跡記号　ＭＩＹ

所在地　秋田県大館市曲田字山田堤33他

調査対象面積　1,000㎡

調査期間　昭和54年11月１日～昭和54年11月21日

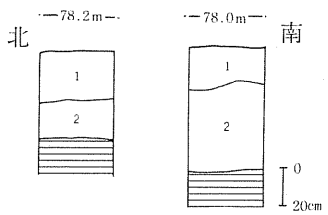


〈1〉第1図　地　形　図

◇概　要

路線の両側が果樹園となっている調査対象区の東側に４×４ｍのグリッドを設定した。表土黒色土層を20cm前後とり除くと，ザラザラして起伏の激しいシラス層に達した。シラス層のところどころに80cm径でかなり深く落ち込むピットがあったが，このピットはシラス層の性質に関連したものと考えられる。

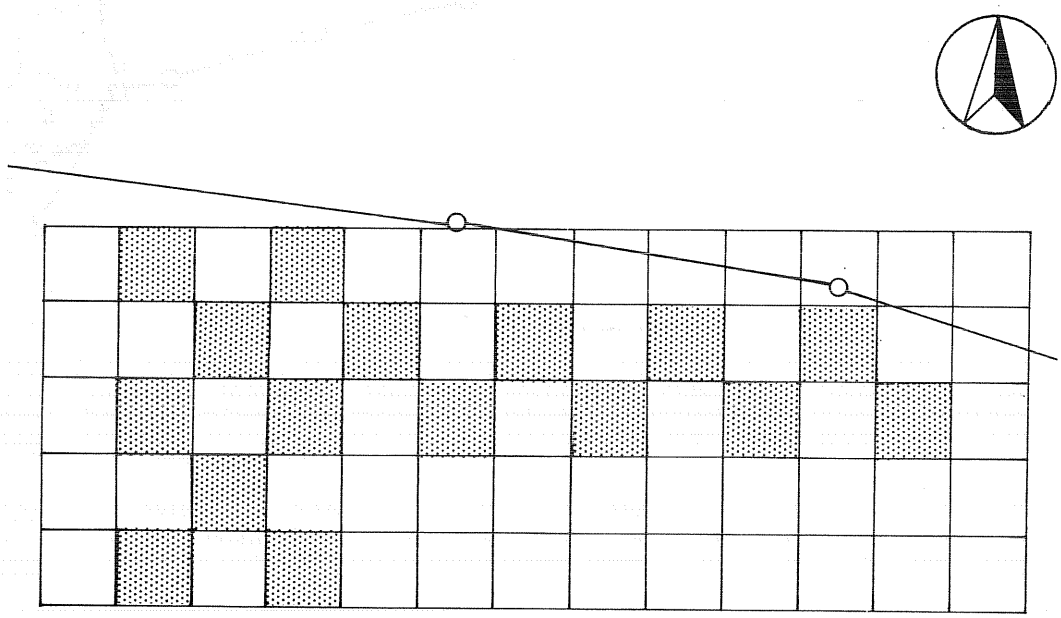
1	黒色土（10Ｙ Ｒ2／2）軽石粒混
2	黒色土（10Ｙ Ｒ1.7/1）軽石混



土 層 模 式 図

◇出土遺物と検出遺構

遺構，遺物は検出できなかった。



〈1〉第2図　発 掘 調 査 区

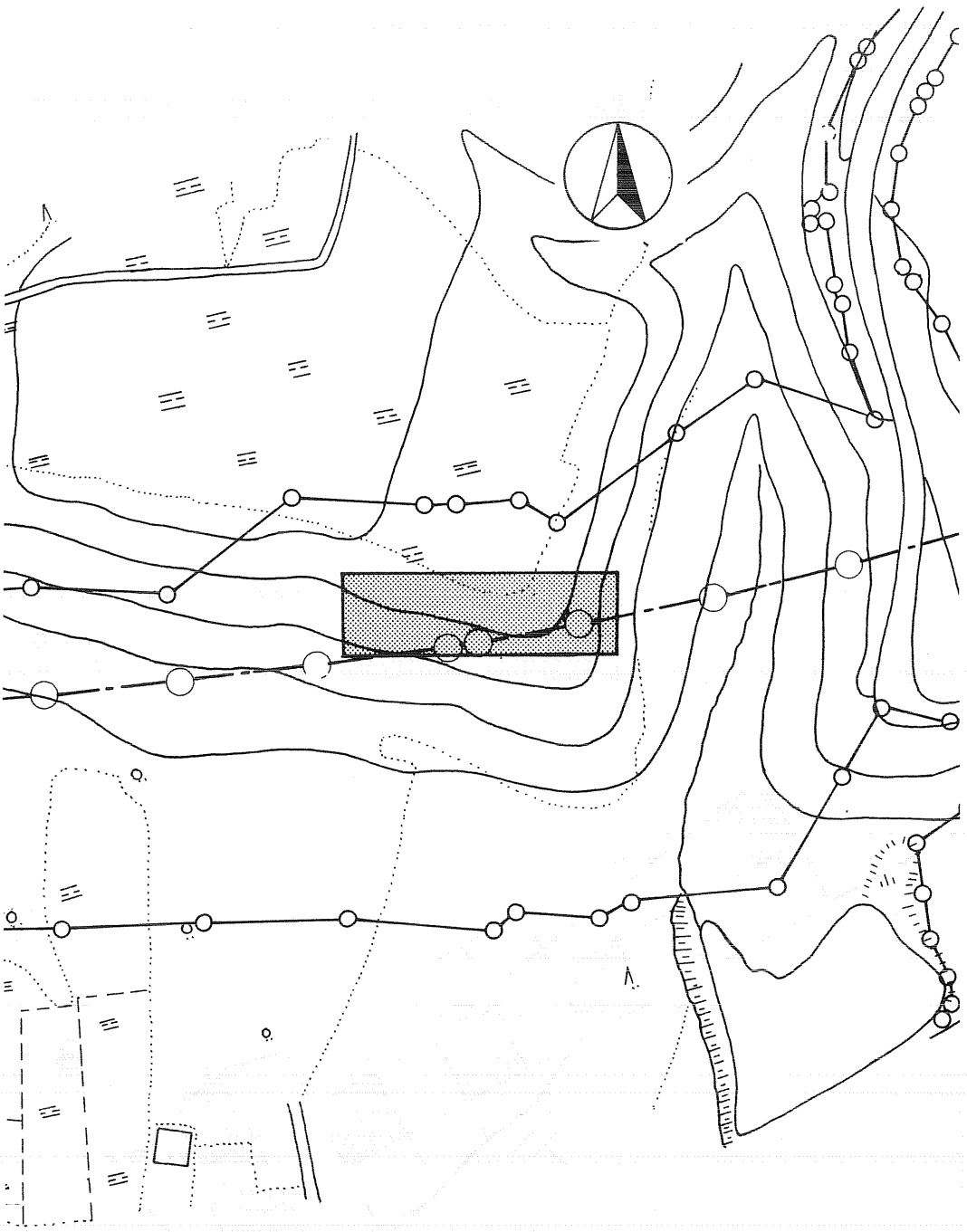
沢口遺跡

遺跡記号　M2S

所在地　秋田県大館市曲田字沢口76他

調査対象面積　300㎡

調査期間　昭和54年6月2日～昭和54年6月15日



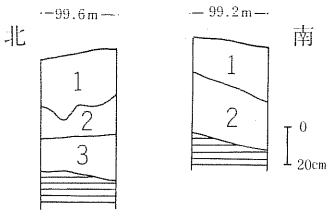
〈2〉第1図　遺跡地形図

◇概　要

路線の北側にあたる馬の背状の舌状台地の先端部を調査した。以前は畑として使われていたが，現状は荒地であった。

土層は深さ60cm前後で地山の明黄褐色火山灰層に達し，上面より第１層めが暗褐色土層，第２，３層めが褐色土層である。

1	暗褐色土（7.5Y R3／3）
2	褐 色 土（10Y R4／6）粘性強
3	褐 色 土（10Y R4／6）砂壌土



土 層 模 式 図

◇検出遺構と出土遺物

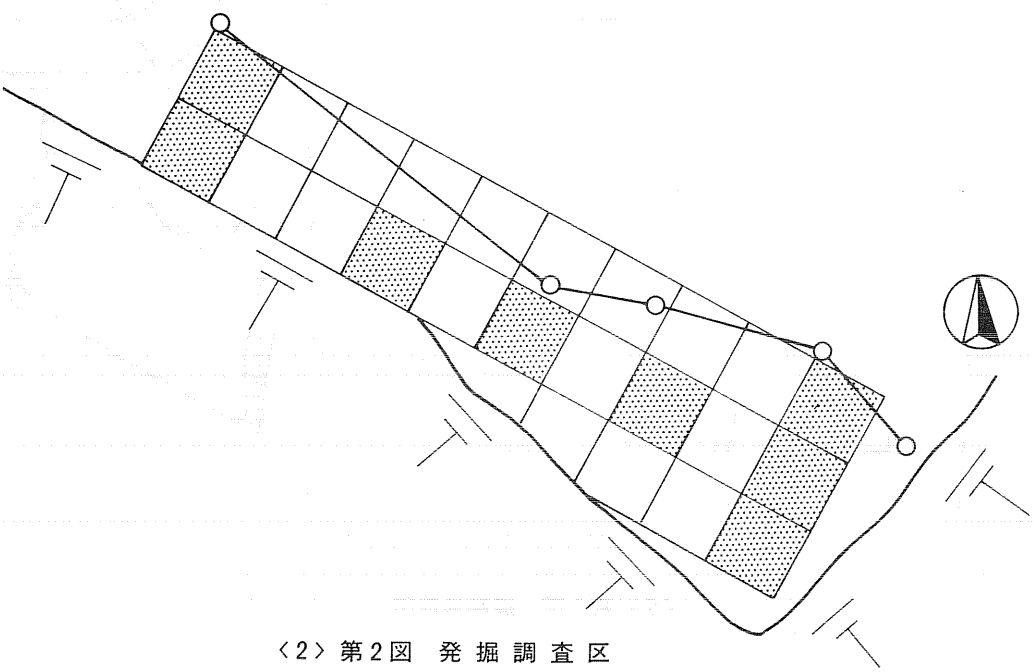
遺物はいずれも第３層め褐色土層内より出土している。

１～７は外面に斜縄文を施した深鉢形土器の破片であり，縦位に結節があるものもある。縄文時代後期のものと考えられる。

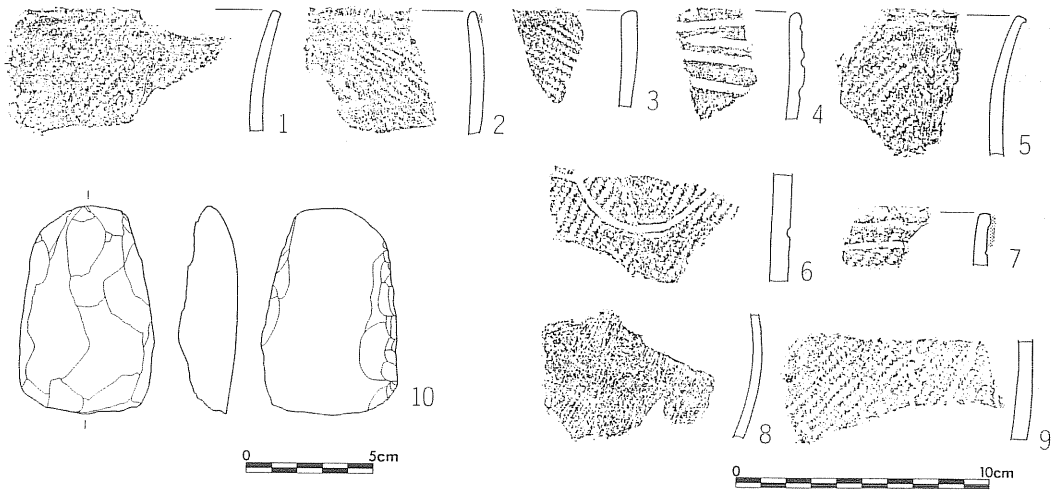
８・９は薄での破片であり，８は小形壺形土器の破片であり，口縁部に平行沈線文と刺突文が施されている。９は縦位に縄文が施されている。いずれも弥生時代後期のものと考えられる。

石器は片面が剝離された凝灰岩質の磨製石斧が１点だけである。

遺構は検出できなかった。



〈2〉第2図　発 掘 調 査 区



〈2〉第①図　出土遺物

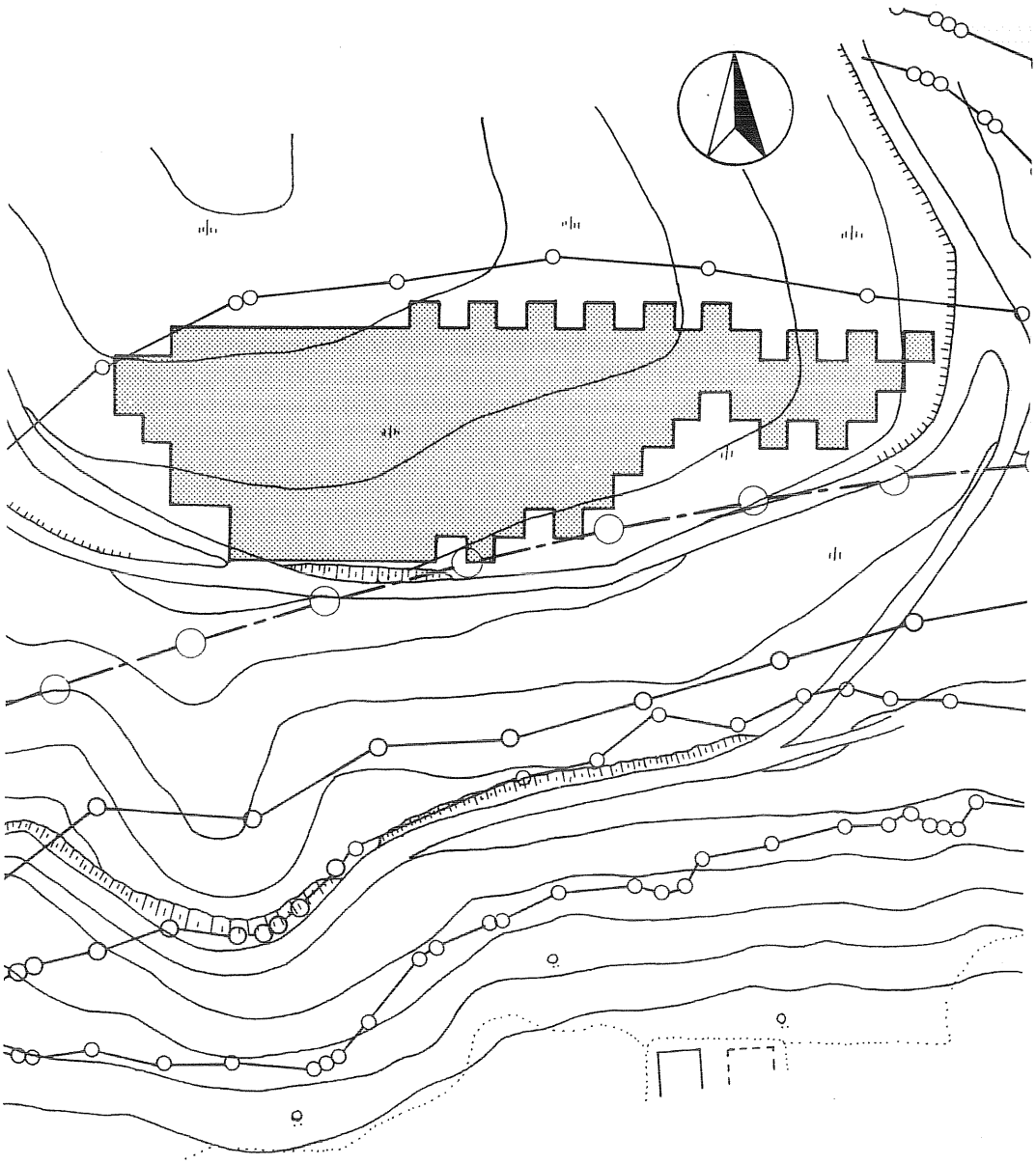
鳶ケ長根II遺跡

遺跡記号　K４T

所在地　秋田県大館市軽井沢字鳶ケ長根

調査対象面積　2,520㎡

調査期間　昭和55年４月24日～昭和55年７月30日

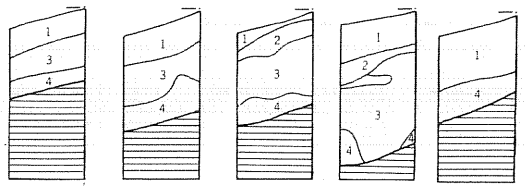


〈4〉第1図　遺跡地形図

◇概　要

標高 140 mから 127 mの斜面にかけて調査区があり，現状は牧草地であった。

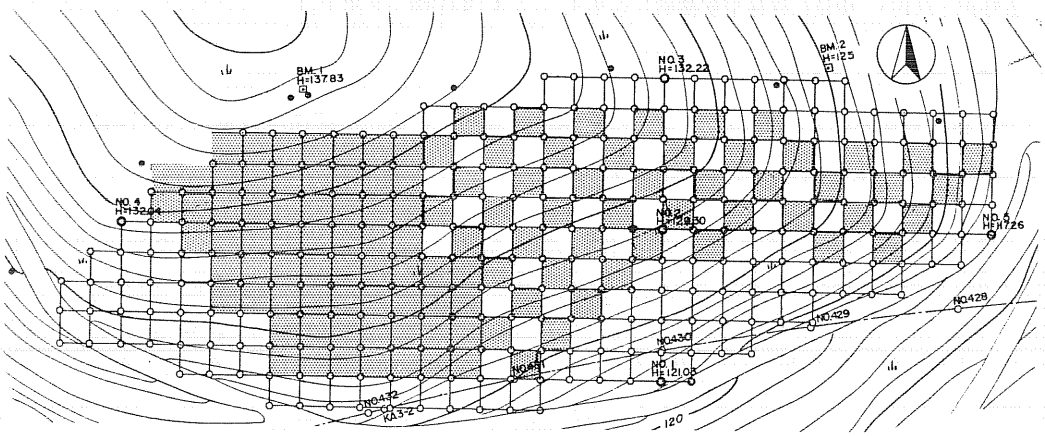
※土色は（　）で示す。



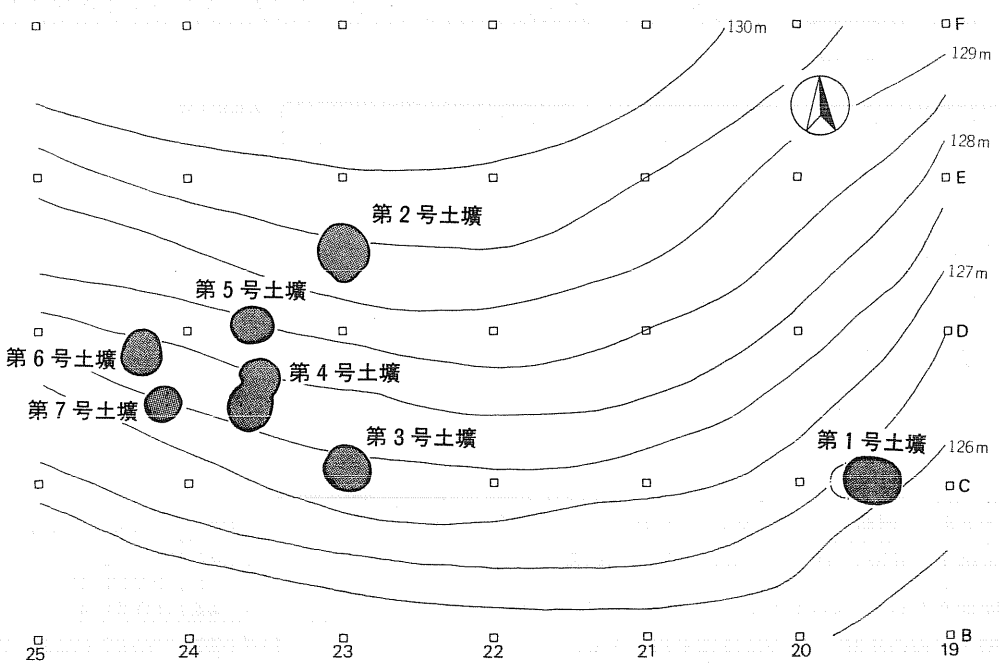
土 層 模 式 図

◇検出遺構

比較的平坦にみえたF19～25グリッドの南側に土壙が7基検出された。



〈4〉第2図　発掘調査区



〈4〉第3図　遺構配置図

第1号土壙（ＳＫ01）

〈位置・確認状況〉　Ｃ19グリッドの南側に位置している。確認面は黄褐色火山灰層である。他の土壙群からは離れて位置する。

〈平面形〉　長円形　　‖規模‖　口径 1.9m，底径 2.3m
〈堆積土の状況〉　東側より斜め下方向に流れ込む。
〈断面の形状〉　西側に一段下り，袋状。‖確認面からの深さ‖ 140cm
〈壁・底面の状況〉　底面は東側上段が平坦，西側下段が鍋底状を呈する。
〈遺物出土状況〉　中位に深鉢形胴部破片が出土。　〈4〉第①図－2出土。

※堆積土層

1	黒褐色土(10Ｙ R3／2)軟質
2	暗褐色土(10Ｙ R3／3)粘性強
3	黒褐色土(10Ｙ R2／3)
4	暗褐色土(10Ｙ R3／3)粘性強

第2号土壙（ＳＫ02）

〈位置・確認状況〉　Ｄ23グリッドの東側に位置している。確認面は黄褐色火山灰層である。土壙群のうちの最も高いところに位置する。

〈平面形〉　円形　　‖規模‖　口径 1.3m，底径 1.4m
〈堆積土の状況〉　凹レンズ状に堆積している。下層で炭化物多量に混在
〈断面の形状〉　袋状を呈している。　　‖確認面からの深さ‖ 110cm
〈壁・底面の状況〉　底面はほぼ平坦である。
〈遺物出土状況〉　〈4〉第①図－3が1点出土。

※堆積土層

(1)	黒色土(10Ｙ R2／1)
2	暗褐色土(10Ｙ R3／3)粘性強
3	暗褐色土(10Ｙ R3／4)
4	褐色土(10Ｙ R4／4)
5	暗褐色土(10Ｙ R3／4)
6	褐色土(10Ｙ R4／4)
7	暗褐色土(10Ｙ R3／4)
8	暗褐色土(10Ｙ R3／4)
9	褐色土(10Ｙ R4／4)

第3号土壙（ＳＫ06）

〈位置・確認状況〉　Ｃ22グリッドの南西側に位置している。確認面は黄褐色火山灰層である。第2号土壙の南側に位置する。

〈平面形〉　円形　　‖規模‖　口径 1.4m，底径 1.4m
〈堆積土の状況〉　上，下二層に分れる。
〈断面の形状〉　袋状を呈している。　　‖確認面からの深さ‖80cm
〈壁・底面の状況〉　壁は東側が崩壊し，底面はほぼ平坦である。
〈遺物出土状況〉　〈4〉第①図－4が出土。

※堆積土層

(1)	黒色土(10Ｙ R2／1)
(4)	暗褐色土(10Ｙ R3／3)
1	暗褐色土(10Ｙ R3／4)
2	暗褐色土(10Ｙ R3／3)
3	暗褐色土(10Ｙ R3／3)
4	暗褐色土(10Ｙ R3／3)崩壊土

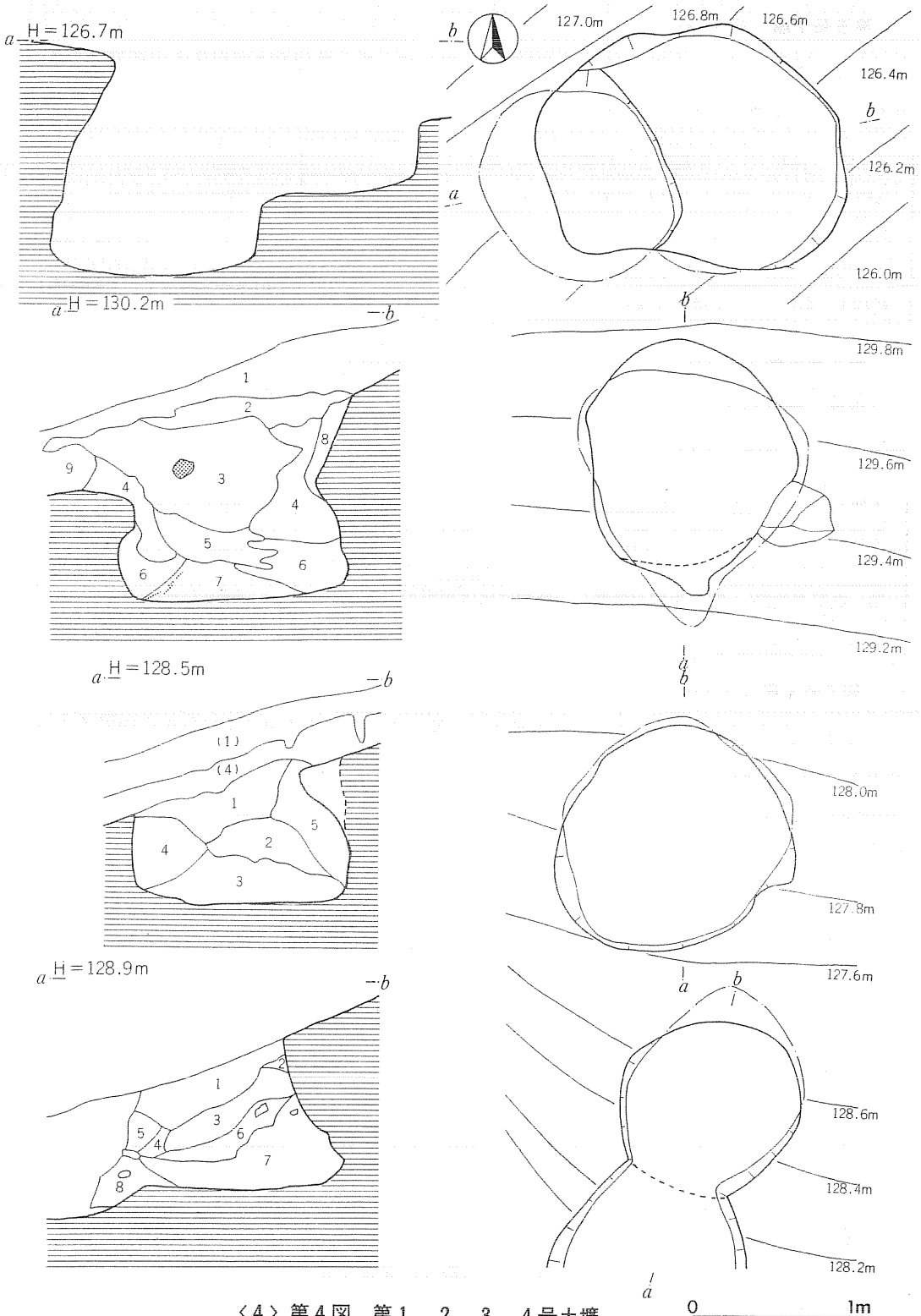
第4号土壙（ＳＫ04）

〈位置・確認状況〉　Ｃ23グリッドの中央に位置している。確認面は褐色火山灰層である。第3号土壙の南側に位置する。土壙の南側は倒木痕で攪乱されている。

〈平面形〉　円形　　‖規模‖　口径 1.1m，底径 1.3m
〈堆積土の状況〉　凹レンズ状に堆積している。
〈断面の形状〉　袋状を呈している。　　‖確認面からの深さ‖80cm
〈壁・底面の状況〉　底面はほぼ平坦である。
〈遺物出土状況〉　出土遺物はない。

※堆積土層

1	暗褐色土(10Ｙ R3／4)炭化物混
2	褐色土(10Ｙ R4／4)
3	褐色土(10Ｙ R4／4)
4	褐色土(10Ｙ R4／4)
5	褐色土(10Ｙ R4／4)
6	褐色土(10Ｙ R4／4)炭化物混
7	褐色土(10Ｙ R4／4)地山混



〈4〉第4図　第1，2，3，4号土壙

第5号土壙（ＳＫ03）

〈位置・確認状況〉　Ｄ23グリッドの南側に位置している。確認面は黄褐色火山灰層である。第4号土壙の北側に位置している。

〈平面形〉 円形	‖規模‖ 口径 1.4m，底径 1.3m
〈堆積土の状況〉 凹レンズ状に堆積している。	
〈断面の形状〉 円筒状を呈している。	‖確認面からの深さ‖ 70cm
〈壁・底面の状況〉 底面はほぼ平坦である。	
〈遺物出土状況〉 出土遺物はない。	

※堆積土層

(1)	黒褐色土(10Ｙ R2／1)
(2)	暗褐色土(10Ｙ R3／3)
(3)	暗褐色土(10Ｙ R3／3)炭化物混
1	黒褐色土(10Ｙ R2／3)炭化物混
2	暗褐色土(10Ｙ R3／3)粘性強
3	暗褐色土(10Ｙ R3／3)炭化物混

第6号土壙（ＳＫ08）

〈位置・確認状況〉　Ｃ24グリッドの北側に位置している。確認面は黄褐色火山灰層である。第7号土壙の北側に位置している。

〈平面形〉 不整円形	‖規模‖ 口径 0.9m，底径 1.1m
〈堆積土の状況〉 土壙内は二層に分れる。中央が攪乱されている。	
〈断面の形状〉 袋状を呈している。	‖確認面からの深さ‖ 80cm
〈壁・底面の状況〉 壁は東側が崩壊し，底面はほぼ平坦である。	
〈遺物出土状況〉 出土遺物はない。	

※堆積土層

(1)	黒色土(10Ｙ R1.7／1)
(2)	褐色土(10Ｙ R4／4)浮石層
(3)	暗褐色土(10Ｙ R3／3)
1	黒褐色土(10Ｙ R3／2)炭化物混
2	黒褐色土(10Ｙ R3／2)
3	黒褐色土(10Ｙ R3／2)

第7号土壙（ＳＫ09）

〈位置・確認状況〉　Ｃ24グリッドの西側に位置している。確認面は黄褐色火山灰層である。第6号土壙の南側に位置している。

〈平面形〉 円形	‖規模‖ 口径 0.9m，底径 1.1m
〈堆積土の状況〉 上，下二層に分れる。	
〈断面の形状〉 袋状を呈している。	‖確認面からの深さ‖ 100cm
〈壁・底面の状況〉 壁は南西側が崩壊し，底面はほぼ平坦である。	
〈遺物出土状況〉 出土遺物はない。	

※堆積土層

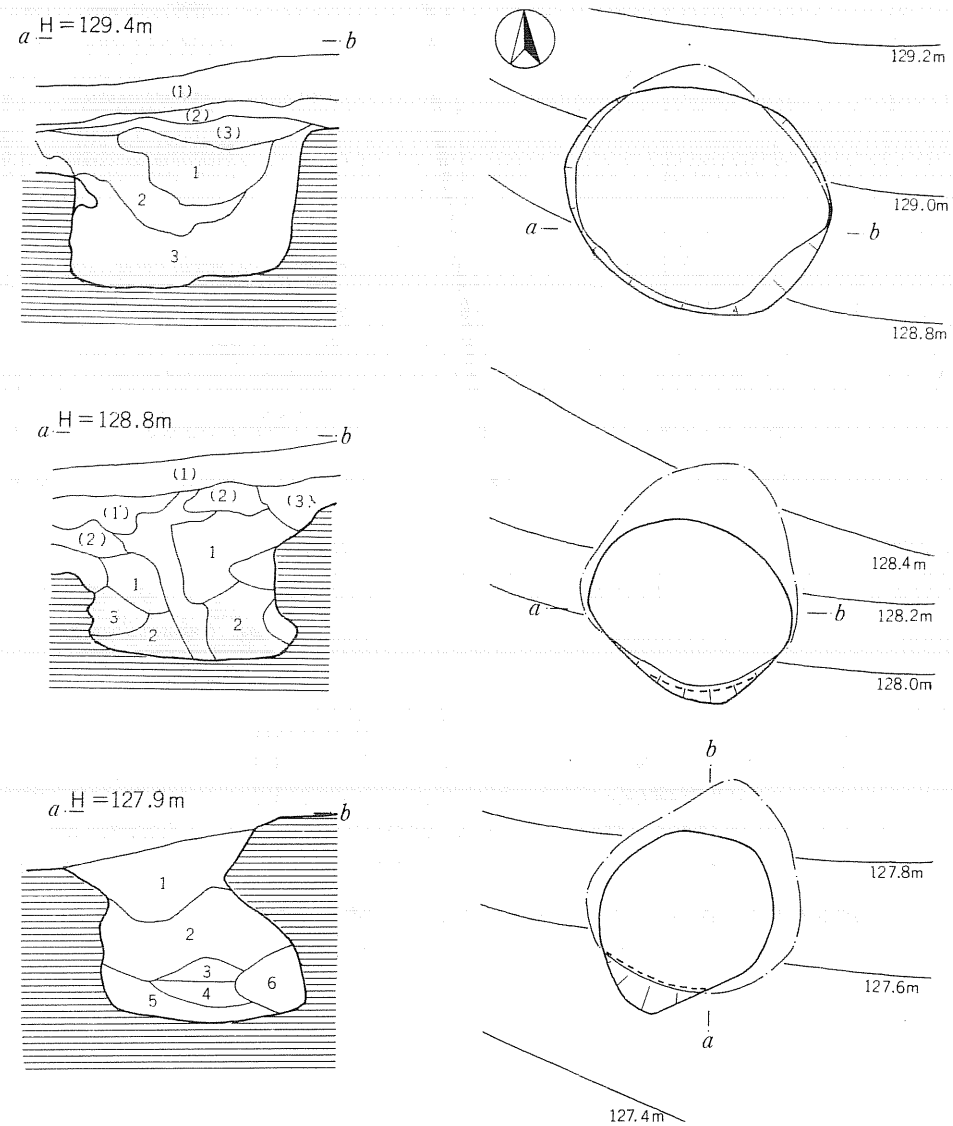
1	暗褐色土(10Ｙ R3／4)炭化物混
2	暗褐色土(10Ｙ R3／3)
3	黒褐色土(10Ｙ R3／2)炭化物混
4	黒褐色土(10Ｙ R3／2)炭化物混
5	黒褐色土(10Ｙ R3／2)
6	暗褐色土(10Ｙ R3／3)炭化物混

◇出土遺物について

遺物の出土はきわめて少かったが，Ｄ18・Ｃ24グリッドで比較的まとまった資料が得られた。

1は外面に斜縄文を施した深鉢形土器である。内面は横位および縦位のナデで調整されている。2・4・6も深鉢形土器の口縁部および胴部の破片であり，外面に斜縄文を施している。5は無文の土器で口辺にコブがつく。3・7は鉢形土器の破片と考えられる。口縁部に沈線をめぐらし，頸部より下に斜縄文を施している。縄文時代晩期のものと考えられる。

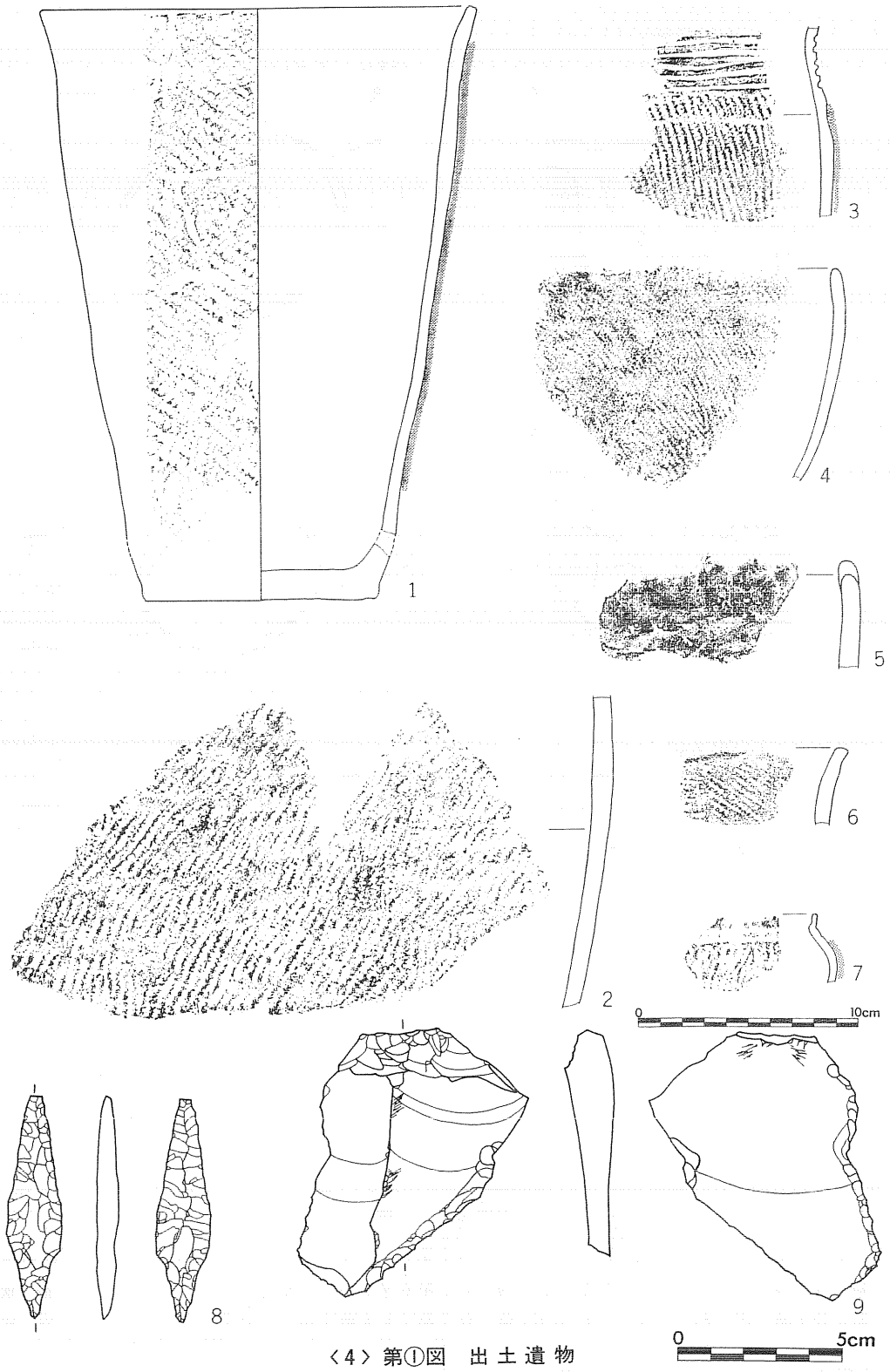
石器の出土は2点だけであり，いずれも頁岩製で，原石は近くで採取できる。8は石鏃，9は剥片である。



〈4〉第5図　第5，6，7号土壙

◇検出土壙のまとめ

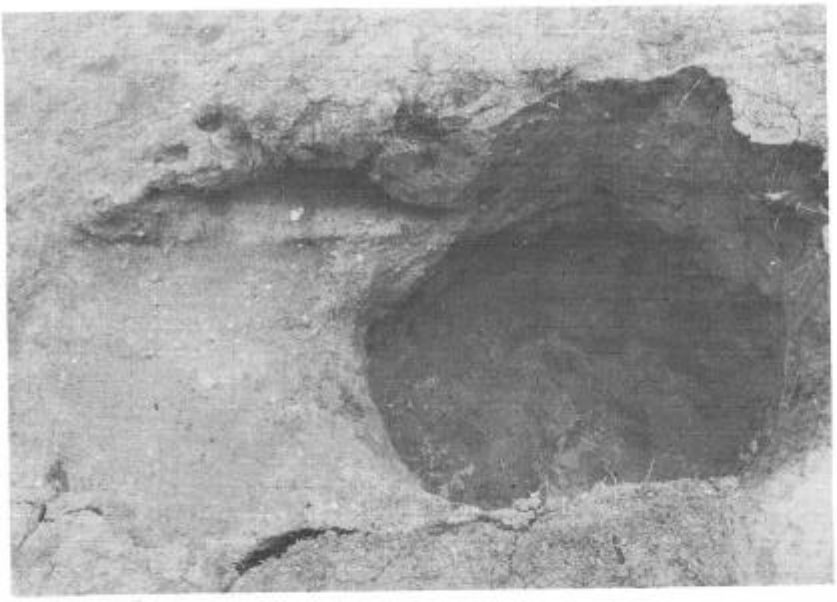
土壙名	平面形	規模（m）口径・底径・深さ	断面の形状	土壙名	平面形	規模（m）口径・底径・深さ	断面の形状
第1号土壙	長円形	1.9　2.3　1.4	袋状	第5号土壙	円形	1.4　1.3　0.7	円筒状
第2号土壙	円形	1.3　1.4　1.1	袋状	第6号土壙	不整円形	0.9　1.1　0.8	袋状
第3号土壙	円形	1.4　1.4　0.8	袋状	第7号土壙	円形	0.9　1.1　1.0	袋状
第4号土壙	円形	1.1　1.3　1.8	袋状				



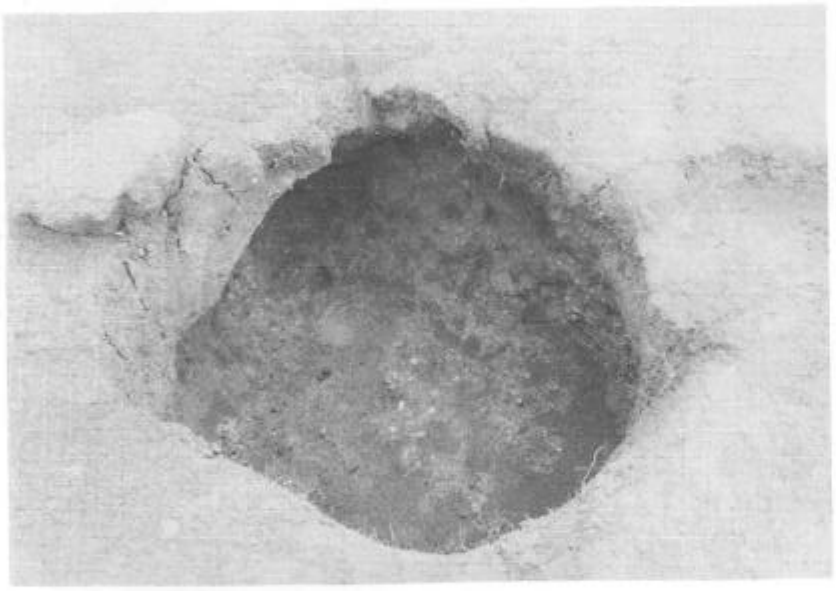
〈4〉第①図　出土遺物

遺跡遠望

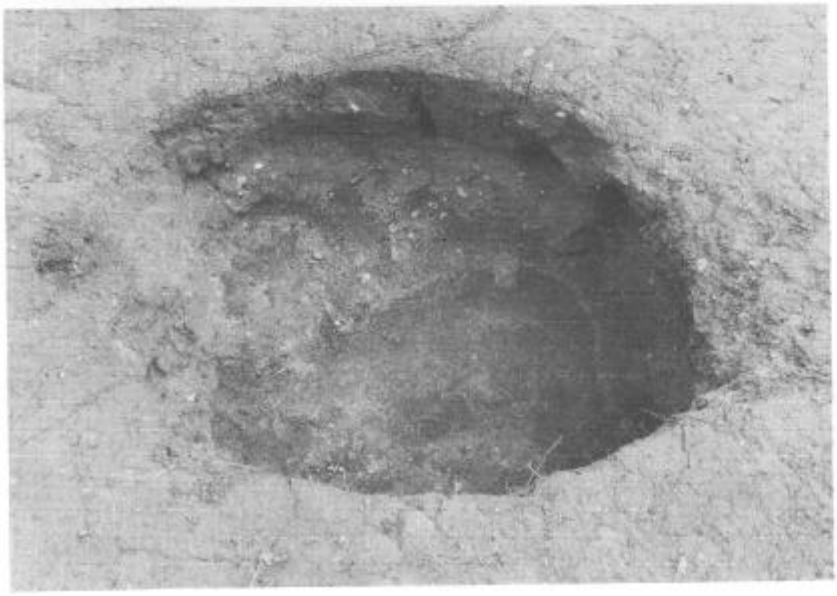
検出土壙群



第1号土壙
（北▶南）



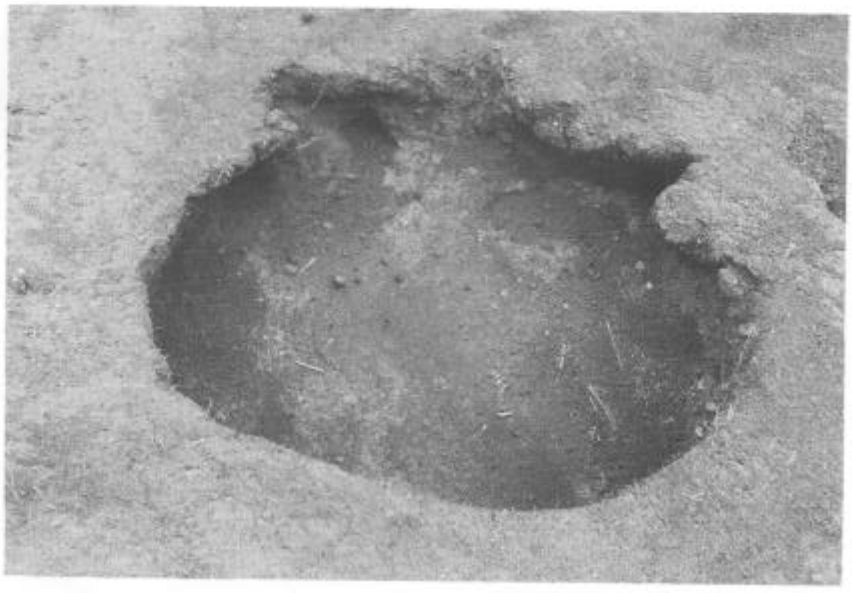
第2号土壙
（北▶南）



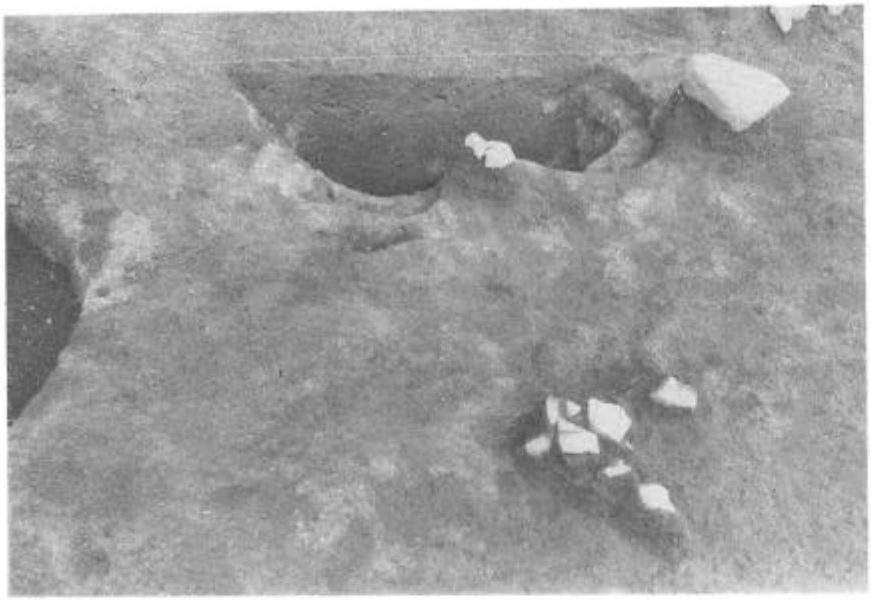
第3号土壙
（西▶東）

第4号土壙
（北▶南）

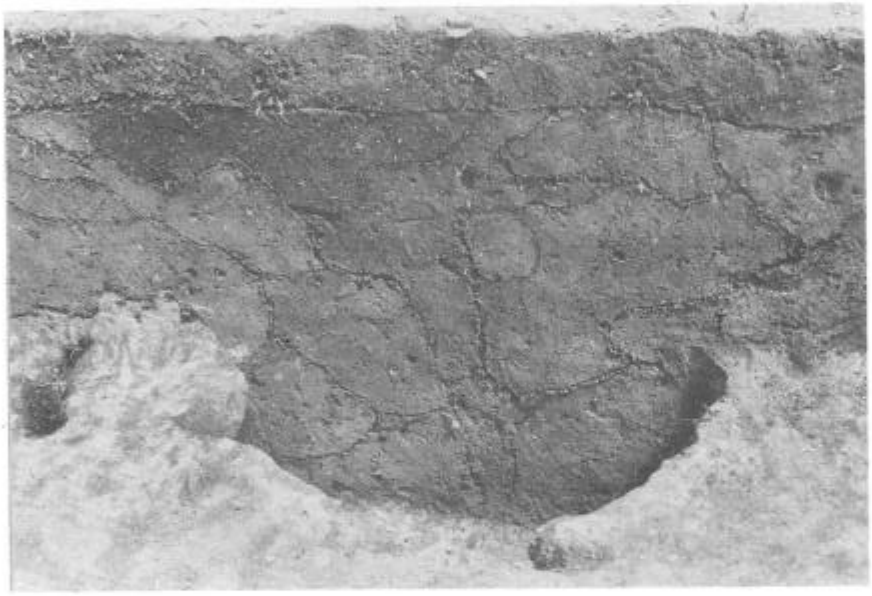
第5号土壙
（東▶西）



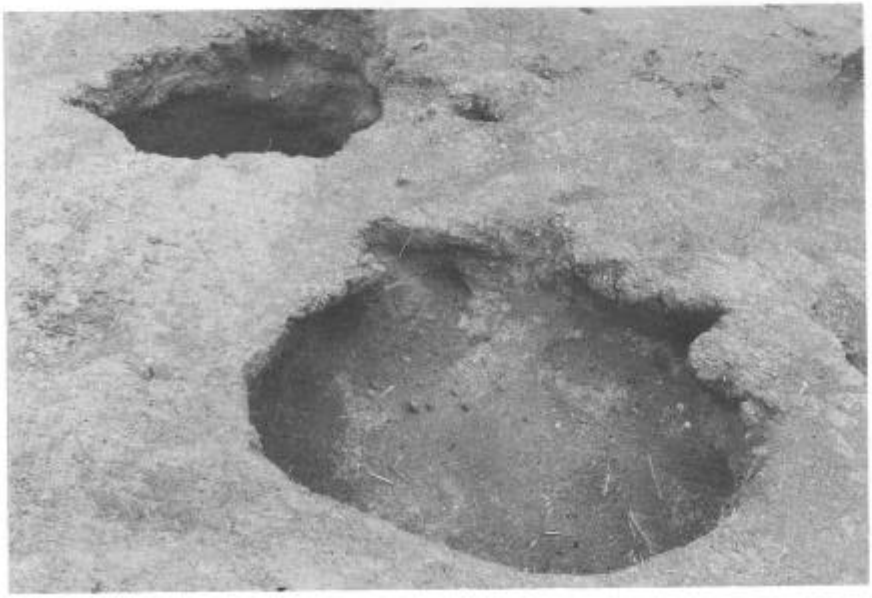
第6号土壙
（東▶西）



C24グリッド
近　景
（南▶北）



第6号土壙
土　層
（南▶北）



第6・7号土壙
（北▶南）

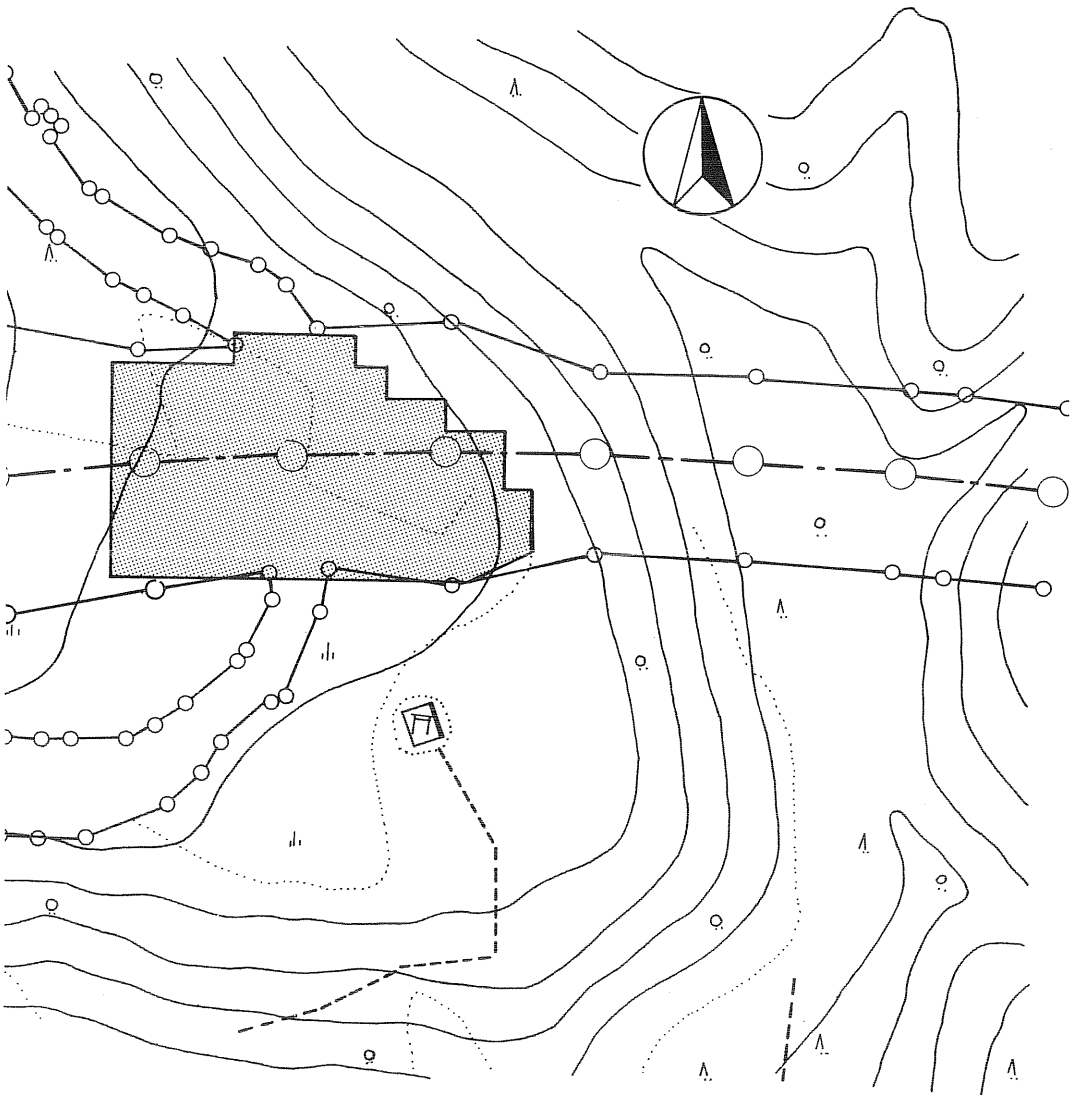
鳶ケ長根III遺跡

遺跡記号　K５T

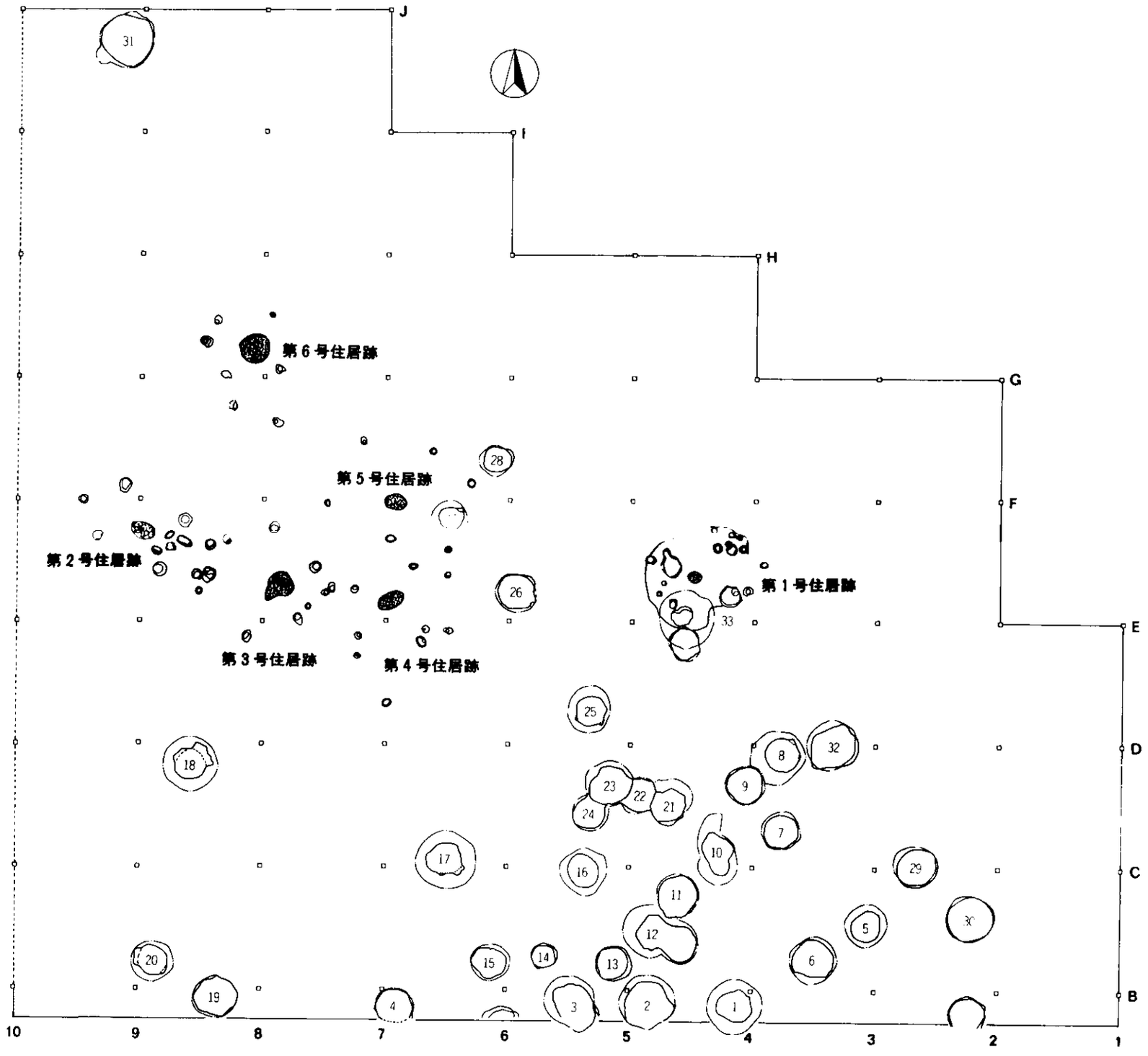
所在地　秋田県大館軽井沢字鳶ケ長根

調査対象面積　1,750㎡

調査期間　昭和55年４月24日～昭和55年７月30日



〈5〉第1図　遺跡地形図



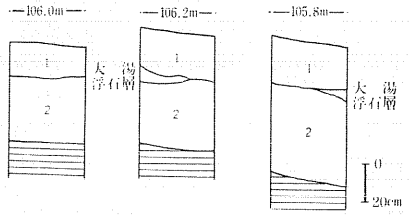
〈5〉第2図　遺構配置図

※数字は土壙番号

◇概　要

No.4 蔦ケ長根Ⅱ遺跡の東側に遺跡がある。標高 105 m前後の平坦地であり，東側に大きく沢が入る。路線はその平坦地の中央に幅35m程でかかっており，調査区となっており，現状は草地であった。

土層は深さ60cm前後で地山の明黄褐色火山灰層に達し，第1層めは表土の黒色土層であり，第2層めはやや厚い褐色土層である。中位に大湯浮石層が入る。昭和30年代に雑木林を牧草地に改良したため，第2層上面に機械によるくさび形の筋が入り，削平の痕跡がうかがえる。

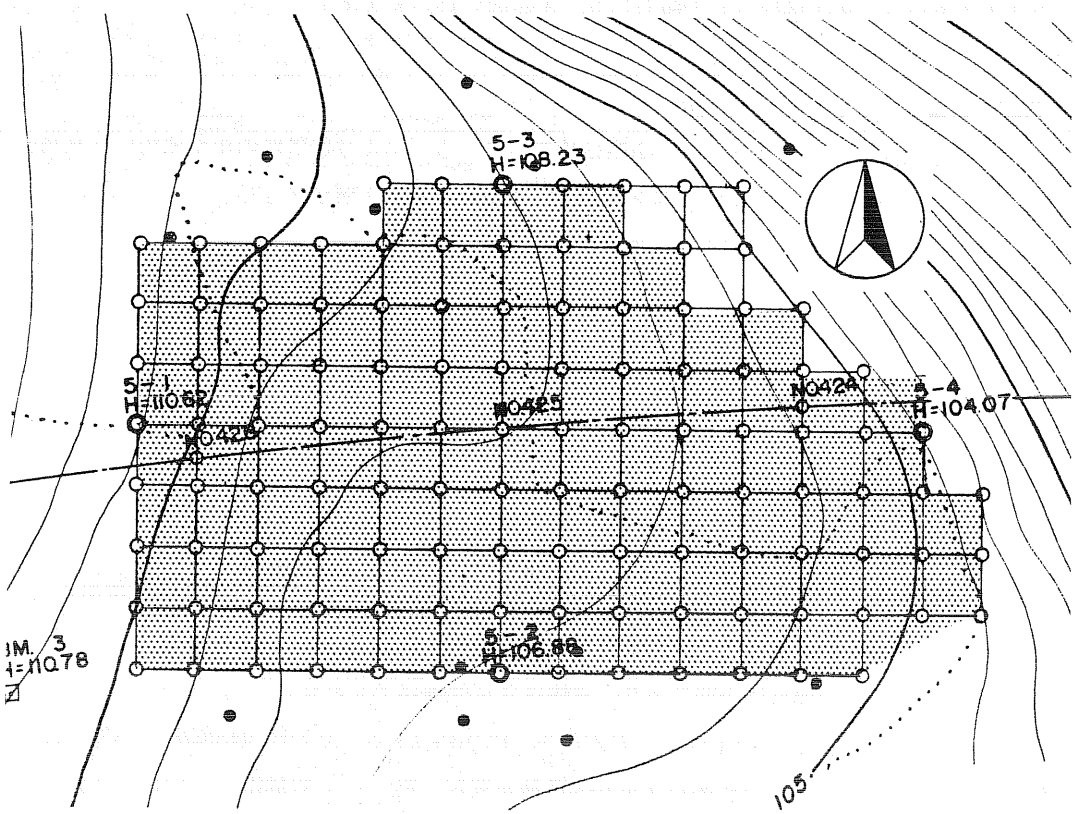


土層模式図

1	黒色土(10YR2 1)
2	褐色土(10YR4 4)

◇検出遺構

住居跡6軒と土壙33基を検出した。住居跡から順次説明を加える。



〈5〉第3図　発掘調査区

第1号住居跡（ＳＩ01）―〈5〉第4図―

〈位置・確認状況〉　Ｅ4グリッド内に検出された。確認面は明黄褐色火山灰層である。第2・3・4・5号住居跡の東側に位置しており，東側の沢の落ち際に占地している。北東側のＦ2・3グリッドからは土器・石器が多量に発見された。

〈平面形・規模〉　東側は判然としないが，ほぼ円に近い隅丸方形を呈すると考えられる。東西で3ｍ70cm，南北で3ｍ20cmを測る。なお南壁際に第33号土壙を伴う。

〈堆積土の状況〉　確認面からの覆土は浅く，中央で15cmを測る。軟質の暗褐色土（10ＹＲ3/4）が堆積する。

〈壁・床面の状況〉　北側で5cm程の高さの壁を確認したが，東・西・南側はほとんど確認できなかった。床面は炉跡に向けてなだらかに落ち込む。炉跡周辺の床面は堅緻である。

〈柱穴〉　ピットは15個以上確認された。P_1，P_{10}，P_{11}と土壙の西側の落ち込みが主柱穴と考えられ，深さが50cm前後である。他のピットの深さは20cm前後である。

〈炉跡〉　住居跡内のほぼ中央に地床炉がある。

〈遺物出土状況〉　炉跡の北側に横たわって大形の深鉢形土器（〈5〉第①図―1），炉跡の西側に香炉形土器（〈5〉第①図―2）と敲石（〈5〉第⑮図―13）を発見した。

第33号土壙（ＳＫ27）―〈5〉第4図―

〈位置・確認状況〉　Ｅ4グリッドの南側に位置している。第1号住居跡の南壁内側に掘り込まれている。したがって確認面は住居跡の床面，明黄褐色火山灰層である。

〈平面形〉　円形	‖規模‖　口径 0.5m，底径 2.0m
〈堆積土の状況〉　覆土の土質はほぼ一様である。底面付近は堅い。	
〈断面の形状〉　円錐状を呈する。	‖確認面からの深さ‖　90cm
〈壁・底面の状況〉　壁はほぼ平坦に掘り込まれ，床面は岩盤に達する。	
〈遺物出土状況〉　出土遺物はほとんどなく，〈5〉第⑮図―12の石が出土。	

※堆積土層

1	暗褐色土（10ＹＲ3/4）軟質
2	褐色土（10ＹＲ4/4）粘性強

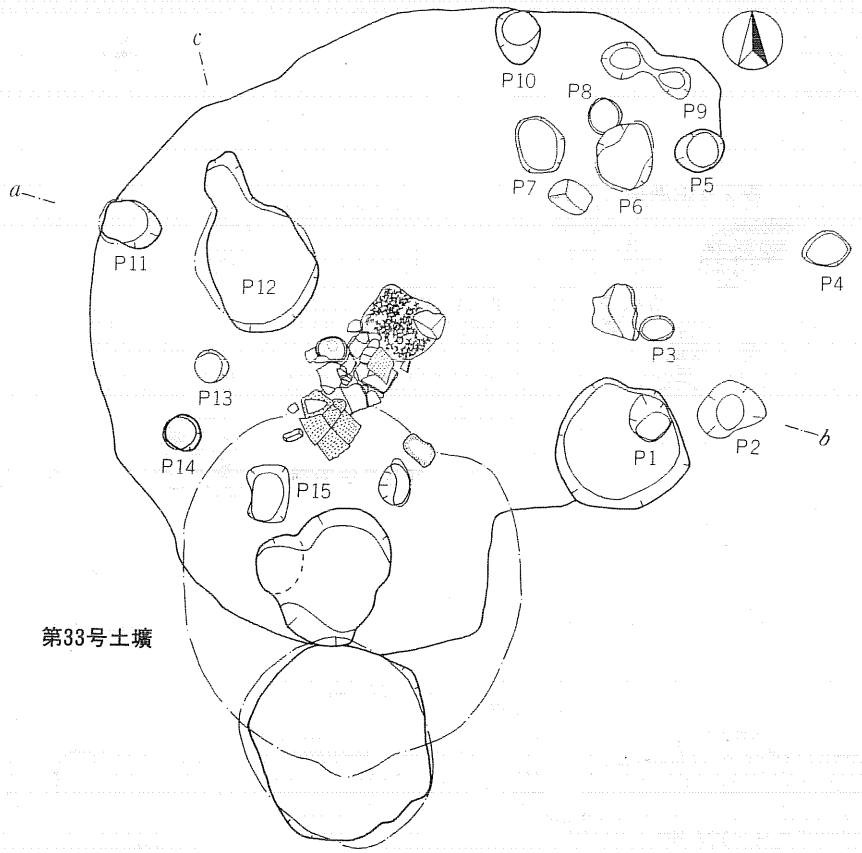
第2号住居跡（ＳＩ02）―〈5〉第5図―

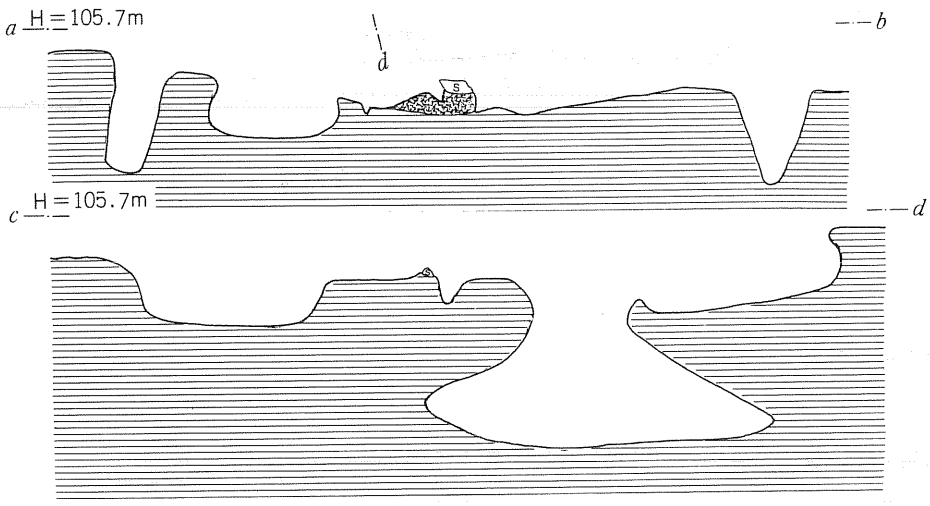
〈位置・確認状況〉　Ｅ8，Ｅ9グリッドにまたがって検出された。炉跡は表土下の褐色土（10ＹＲ4/4）で，柱穴は地山の明黄褐色火山灰層で確認した。

〈平面形・規模〉　平面形は不明であり，規模は3ｍ90cm以上である。

〈柱穴〉　P_4，P_6，P_{25}，P_3が主柱穴と考えられ，P_4～P_6とP_3～P_{25}の柱間距離が1ｍ90cm前後，P_6～P_{25}とP_3～P_4の柱間距離が2ｍ20cm前後を測る。P_2，P_7が短軸に対して張り出す。

〈炉跡〉　炉跡の周辺に焼石が散在する。柱穴間の中位に位置する。



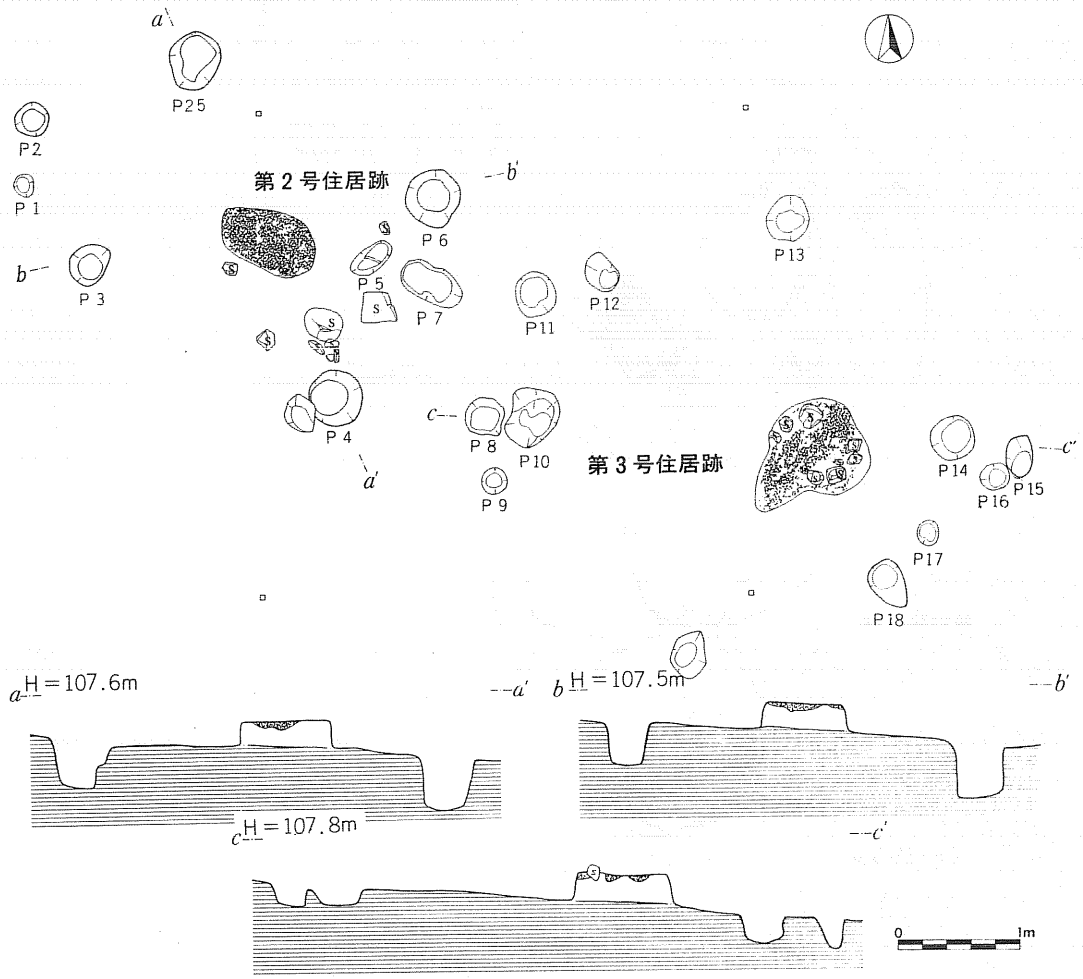


※住居跡ピット一覧表

Pit No.	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9	P10	P11	P12	P13	P14	P15
確認面から深さ (cm)	50	48	21.5	16	26	23.5	20	30.5	16	49.5	53	30	16	25.5	21

〈5〉第4図　第1号住居跡

0 1m



〈5〉第5図　第2，3号住居跡

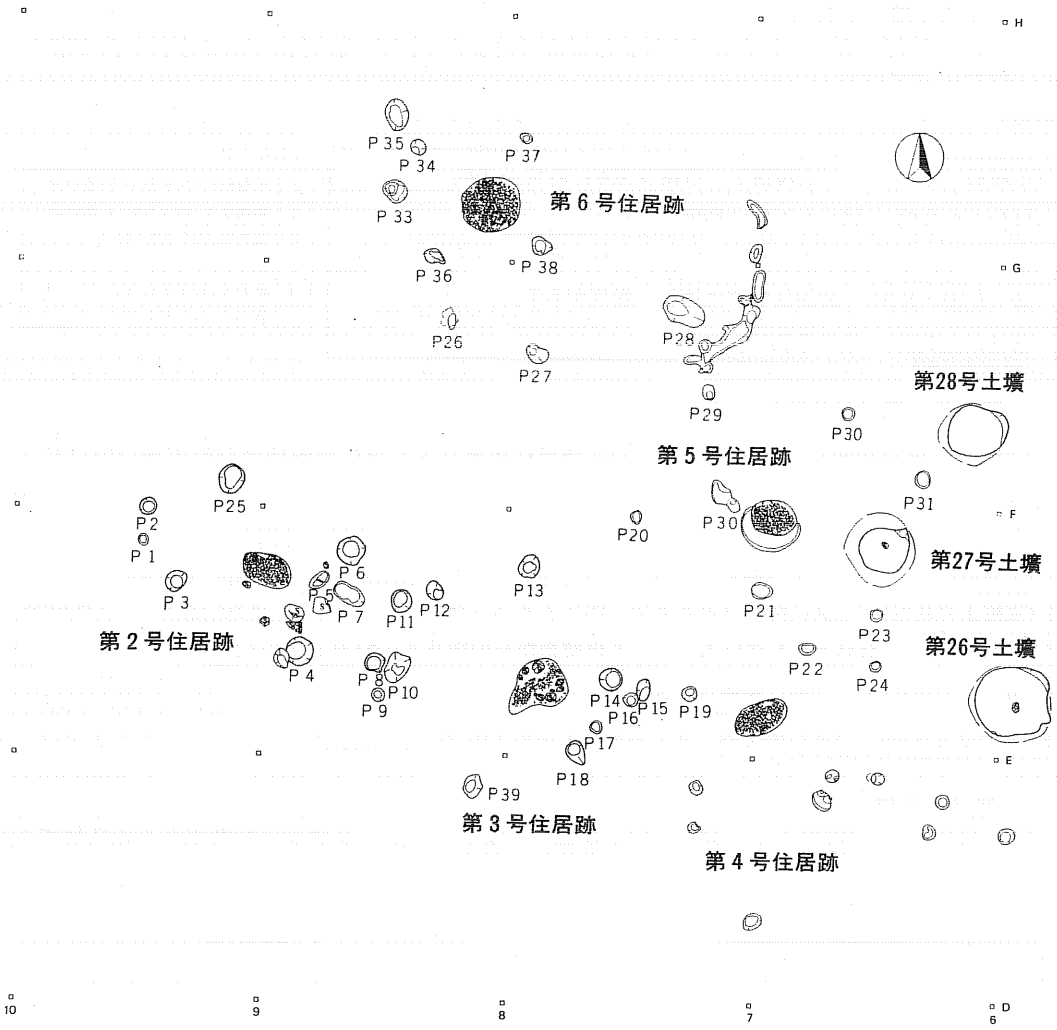
第3号住居跡（ＳＩ03）—〈5〉第5図—

〈位置・確認状況〉　Ｅ7，Ｅ8グリッドにまたがって検出された。炉跡は表土下の褐色土(10ＹＲ4/4)で，柱穴は地山の明黄褐色火山灰層で確認した。

〈平面形・規模〉　平面形は不明であり，規模は3ｍ90cm以上である。

〈柱穴〉　炉跡周辺のピットは12個であり，P_{39}, P_{14}, P_{13}, P_{10} が主柱穴と考えられ，P_{13}～P_{14}とP_{39}～P_{10}の柱間距離が2ｍ25cm，P_{39}～P_{14}とP_{10}～P_{13}の柱間距離が2ｍ80cmを測る。P_{12}, P_{18}が南北に張り出す。

〈炉跡〉　炉跡は石組みであり，住居跡のやや南東寄りに位置している。



※ピット一覧表

Pit No.	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9	P10
標　高 107m より	−41.5	−54.0	−73.0	−102.0	−65.0	−105.0	−73.0	−86.0	−82.0	−85.5
確認面から深さ(cm)	8.5	20.5	36.0	48.0	9.0	45.0	11.0	20.0	13.0	13.5
Pit No.	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17	P18	P19	P20
標　高 107m より	−89.0	−92.0	−94.0	−120.5	−125.0	−115.0	−107.0	−114.0	−121.0	−101.0
確認面から深さ(cm)	27.0	21.0	9.0	20.0	26.0	15.0	10.0	16.0	14.0	9.0
Pit No.	P21	P22	P23	P24	P25	P26	P27	P28	P29	P30
標　高 107m より	−132.0	−135.0	−155.0	−146.0	−80.0	−102.0	−83.0	−117.0	−111.0	−123.0
確認面から深さ(cm)	15.0	7.0	19.0	8.0	46.0	39.0	12.0	17.0	11.0	20.0
Pit No.	P31	P32	P33	P34	P35	P36	P37	P38	P39	
標　高 107m より	−147.0	−165.0	− 69.0	−84.0	−69.0	−71.0	−82.0	−88.0	−112.0	
確認面から深さ(cm)	14.0	12.0	17.0	27.0	18.0	20.0	5.0	9.0	12.0	

〈5〉第6図　第2，3，4，5，6号住居跡

第1号土壙（ＳＫ01）

〈位置・確認状況〉　Ａ４グリッドの北東側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。

〈平面形〉 円形	‖規模‖ 口径 1.0m，底径 1.8m
〈堆積土の状況〉 凹レンズ状に堆積している。	
〈断面の形状〉 円錐状を呈している。	‖確認面からの深さ‖ 110cm
〈壁・底面の状況〉 底面は岩盤に達し，起伏がある。	
〈遺物出土状況〉 出土遺物はない。	

※堆積土層

1	暗褐色土(10Ｙ R3／3)地山混
2	黄褐色土(10Ｙ R5／4)地山混
3	褐色土(10Ｙ R4／4)
4	褐色土(10Ｙ R4／6)軟質
5	褐色土(10Ｙ R4／6)
6	褐色土(10Ｙ R4／6)

第2号土壙（ＳＫ02）

〈位置・確認状況〉　Ａ４グリッドの北西側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。

〈平面形〉 円形	‖規模‖ 口径 1.3m，底径 1.8m
〈堆積土の状況〉 上面に倒木痕跡あるが，凹レンズ状に堆積している。	
〈断面の形状〉 袋状を呈している。	‖確認面からの深さ‖ 85cm
〈壁・底面の状況〉 底面は鍋底状を呈している。	
〈遺物出土状況〉 〈５〉第①図－３が土壙内中位より出土。	

※堆積土層

1	黒褐色土(10Ｙ R3／2)
2	黄褐色土(10Ｙ R5／6)炭化物混
3	褐色土(10Ｙ R4／4)
4	黄褐色土(10Ｙ R5／6)
5	黒褐色土(10Ｙ R3／2)
b	明黄褐色土(10Ｙ R6／8)地山同

第3号土壙（ＳＫ03）

〈位置・確認状況〉　Ａ５グリッドの北側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。

〈平面形〉 楕円形	‖規模‖ 口径 1.7m，底径 1.7m
〈堆積土の状況〉 覆土はほぼ一様であるが，上面に倒木痕跡がある。	
〈断面の形状〉 袋状を呈している。	‖確認面からの深さ‖ 65cm
〈壁・底面の状況〉 底面は砂礫層に達するが，平坦である。	
〈遺物出土状況〉 出土遺物はない。	

※堆積土層

1	褐色土(10Ｙ R4／6)
2	暗褐色土(10Ｙ R3／3)
3	褐色土(10Ｙ R4／4)
4	褐色土(10Ｙ R4／4)
5	暗褐色土(10Ｙ R3／4)
6	褐色土(10Ｙ R4／4)
b	明黄褐色土(10Ｙ R6／8)地山同

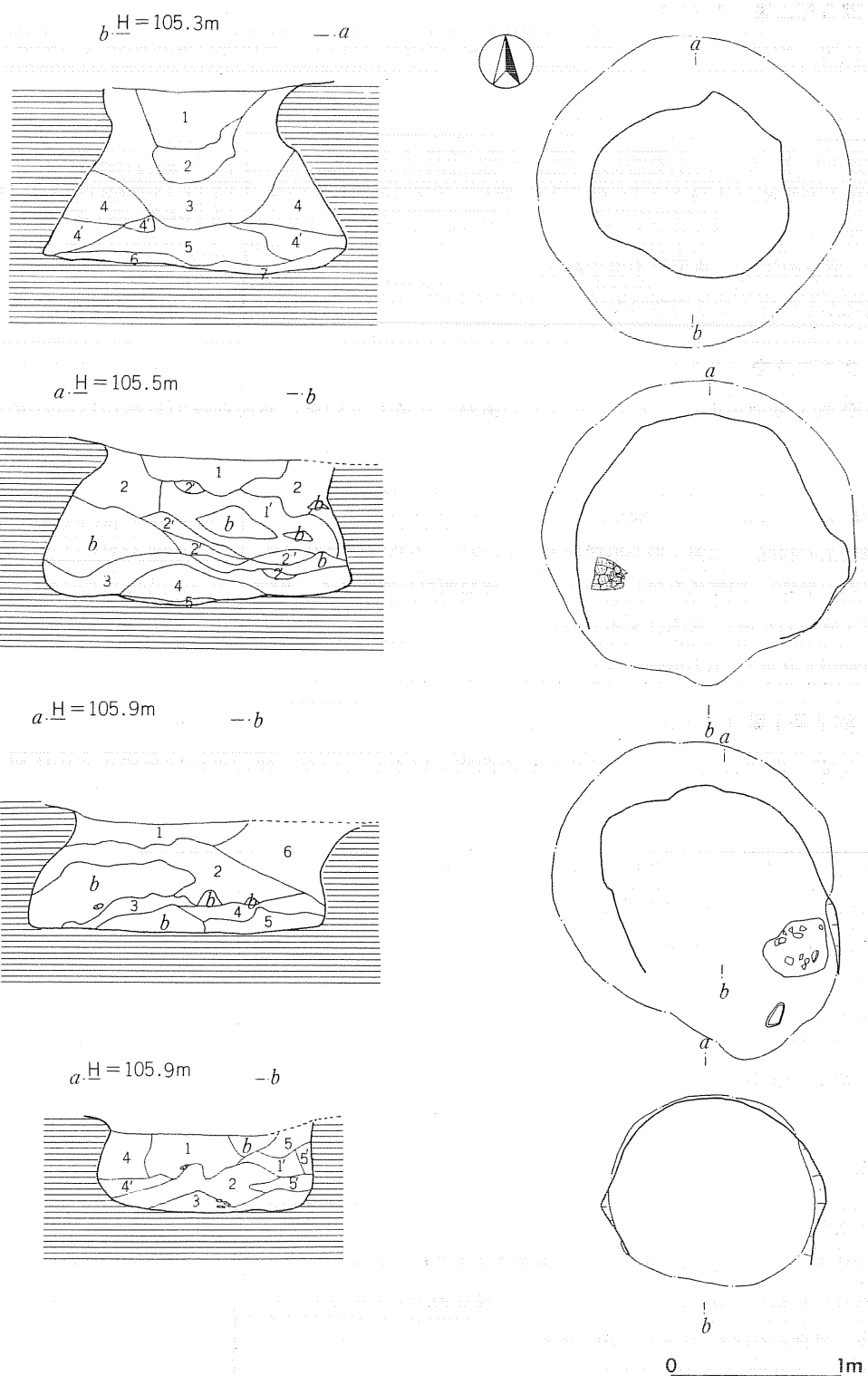
第4号土壙（ＳＫ06）

〈位置・確認状況〉　Ａ６グリッドの北西側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。

〈平面形〉 円形	‖規模‖ 口径 1.2m，底径 1.2m
〈堆積土の状況〉 凹レンズ状に堆積している。	
〈断面の形状〉 袋状を呈している。	‖確認面からの深さ‖ 50cm
〈壁・底面の状況〉 底面は平坦である。	
〈遺物出土状況〉 〈５〉第⑧図－２が土壙内より出土。	

※堆積土層

1	暗褐色土(10Ｙ R3／3)炭化物混
2	黄褐色土(10Ｙ R5／6)
3	暗褐色土(10Ｙ R3／4)
4	褐色土(10Ｙ R4／4)
5	褐色土(10Ｙ R4／4)



〈5〉第7図　第1，2，3，4号土壙

第5号土壙（ＳＫ08）

〈位置・確認状況〉　Ｂ３グリッドの東側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。

〈平面形〉 円形	‖規模‖	口径 1.0m，底径 1.4m
〈堆積土の状況〉 土質はほぼ一様である。凹レンズ状に堆積している。		
〈断面の形状〉 円錐状を呈している。	‖確認面からの深さ‖	60cm
〈壁・底面の状況〉 底面は平坦である。		
〈遺物出土状況〉 出土遺物はない。		

※堆積土層

1	黄褐色土(10Ｙ R5／8)
2	にぶい黄褐色土(10Ｙ R5／4)
3	黄褐色土(10Ｙ R5／6)
4	黄褐色土(10Ｙ R5／6)

第6号土壙（ＳＫ30）

〈位置・確認状況〉　Ｂ３グリッドの南側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。

〈平面形〉 円形	‖規模‖	口径 1.2m，底径 1.5m
〈堆積土の状況〉 上面に倒木痕跡があるが，凹レンズ状の堆積をする。		
〈断面の形状〉 円錐状を呈している。	‖確認面からの深さ‖	80cm
〈壁・底面の状況〉 底面は平坦である。		
〈遺物出土状況〉 出土遺物はない。		

※堆積土層

1	黒褐色土(10Ｙ R3／2)
2	暗褐色土(10Ｙ R3／4)
3	暗褐色土(10Ｙ R3／4)
4	褐色土(10Ｙ R4／6)軟質
5	褐色土(10Ｙ R4／4)
6	褐色土(10Ｙ R4／6)

第7号土壙（ＳＫ16）

〈位置・確認状況〉　Ｃ３グリッドの西側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。

〈平面形〉 円形	‖規模‖	口径 1.0m，底径 1.2m
〈堆積土の状況〉 覆土の土質はほぼ一様である。		
〈断面の形状〉 袋状を呈している。	‖確認面からの深さ‖	50cm
〈壁・底面の状況〉 砂礫層に達し，鍋底状を呈している。		
〈遺物出土状況〉 出土遺物はない。		

※堆積土層

1	黄褐色土(10Ｙ R5／4)
2	黄褐色土(10Ｙ R5／4)
b	明黄褐色土(10Ｙ R6／8)地山同

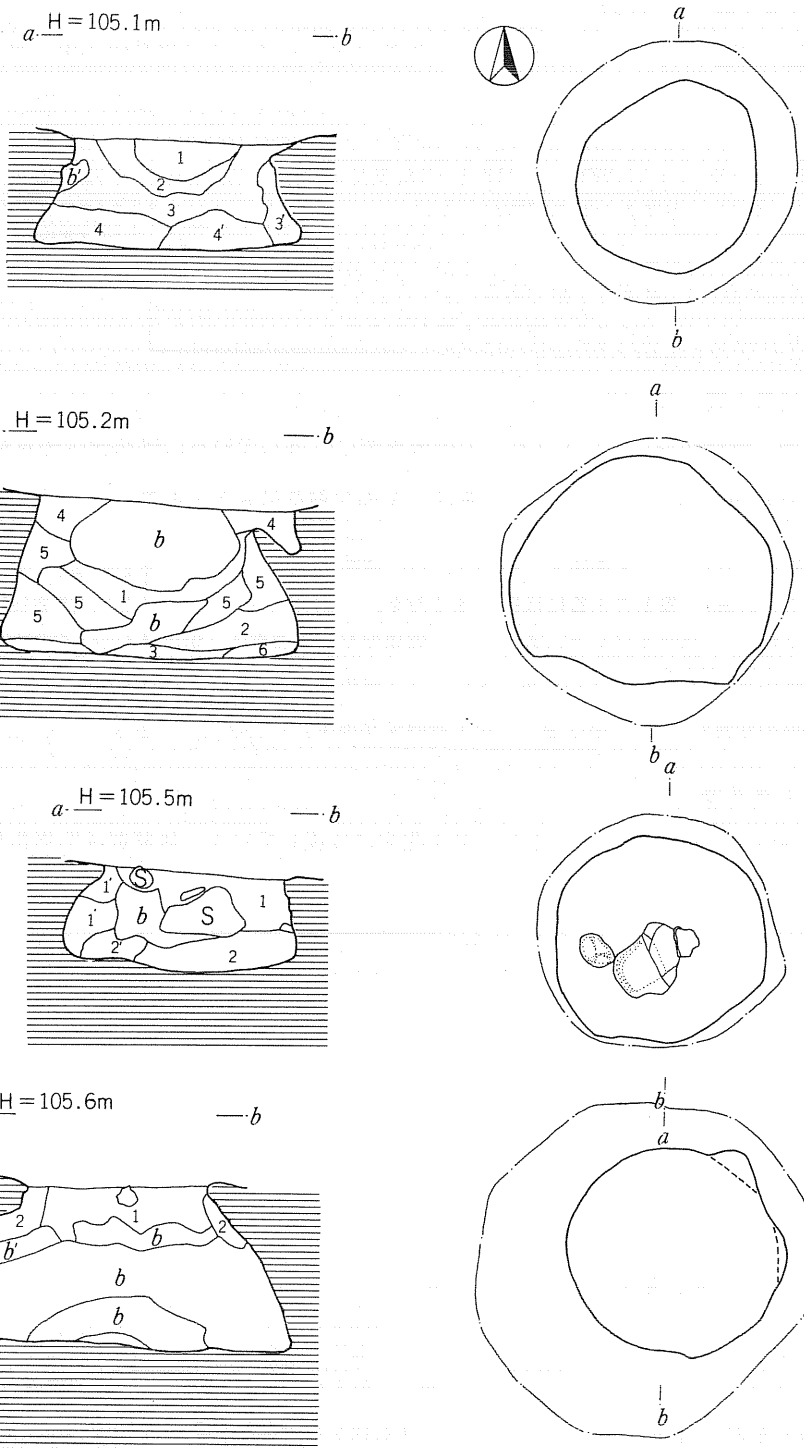
第8号土壙（ＳＫ15）

〈位置・確認状況〉　Ｃ３グリッドの北西側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。

〈平面形〉 円形	‖規模‖	口径 1.0m，底径 1.7m
〈堆積土の状況〉 倒木痕跡あり，下層まで撹乱されている。		
〈断面の形状〉 円錐状を呈している。	‖確認面からの深さ‖	90cm
〈壁・底面の状況〉 底面は平坦である。		
〈遺物出土状況〉 出土遺物はない。		

※堆積土層

1	褐色土(10Ｙ R4／4)
2	褐色土(10Ｙ R4／6)
b	明黄褐色土(10Ｙ R6／8)地山同



〈5〉第8図　第5，6，7，8号土壙

第9号土壙（ＳＫ29）

〈位置・確認状況〉　Ｃ４グリッドの北東側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。

〈平面形〉	円形	‖規模‖　口径 1.2m，底径 1.3m
〈堆積土の状況〉	下層まで倒木痕跡が入る。	
〈断面の形状〉	袋状を呈している。	‖確認面からの深さ‖　40cm
〈壁・底面の状況〉	底面は平坦である。	
〈遺物出土状況〉	底面付近より深鉢形土器が１点出土。	

※堆積土層

1	黒褐色土(10Y R3／2)
2	黄褐色土(10Y R5／6)
b	明黄褐色土(10Y R6／8)地山同

第10号土壙（ＳＫ17）

〈位置・確認状況〉　Ｃ４グリッドの南東側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。砂礫層を掘り込んでおり，北側はやや掘り過ぎたようである。

〈平面形〉	円形	‖規模‖　口径 1.3m，底径 2.3m
〈堆積土の状況〉	覆土の土質はほぼ一様である。	
〈断面の形状〉	袋状を呈している。	‖確認面からの深さ‖　95cm
〈壁・底面の状況〉	底面は砂礫層に達し，ほぼ平坦である。	
〈遺物出土状況〉	〈５〉第⑤図―１が土壙内より出土。	

※堆積土層

1	褐色土(10Y R4／4)
2	暗褐色土(10Y R3／4)
b	明黄褐色土(10Y R6／8)砂礫混

第11号土壙（ＳＸ01）

〈位置・確認状況〉　Ｂ４グリッドの北側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。南側で第12号土壙と底面が接する。

〈平面形〉	円形	‖規模‖　口径 1.3m，底径 1.4m
〈堆積土の状況〉	上面に倒木痕跡がマウンド状にかぶさっていた。	
〈断面の形状〉	袋状を呈している。	‖確認面からの深さ‖　105cm
〈壁・底面の状況〉	底面は平坦である。	
〈遺物出土状況〉	出土遺物はない。	

※堆積土層

1	黒褐色土(10Y R3／2)
2	褐色土(10Y R4／6)
3	黄褐色土(10Y R5／6)
b	明黄褐色土(10Y R6／8)地山同

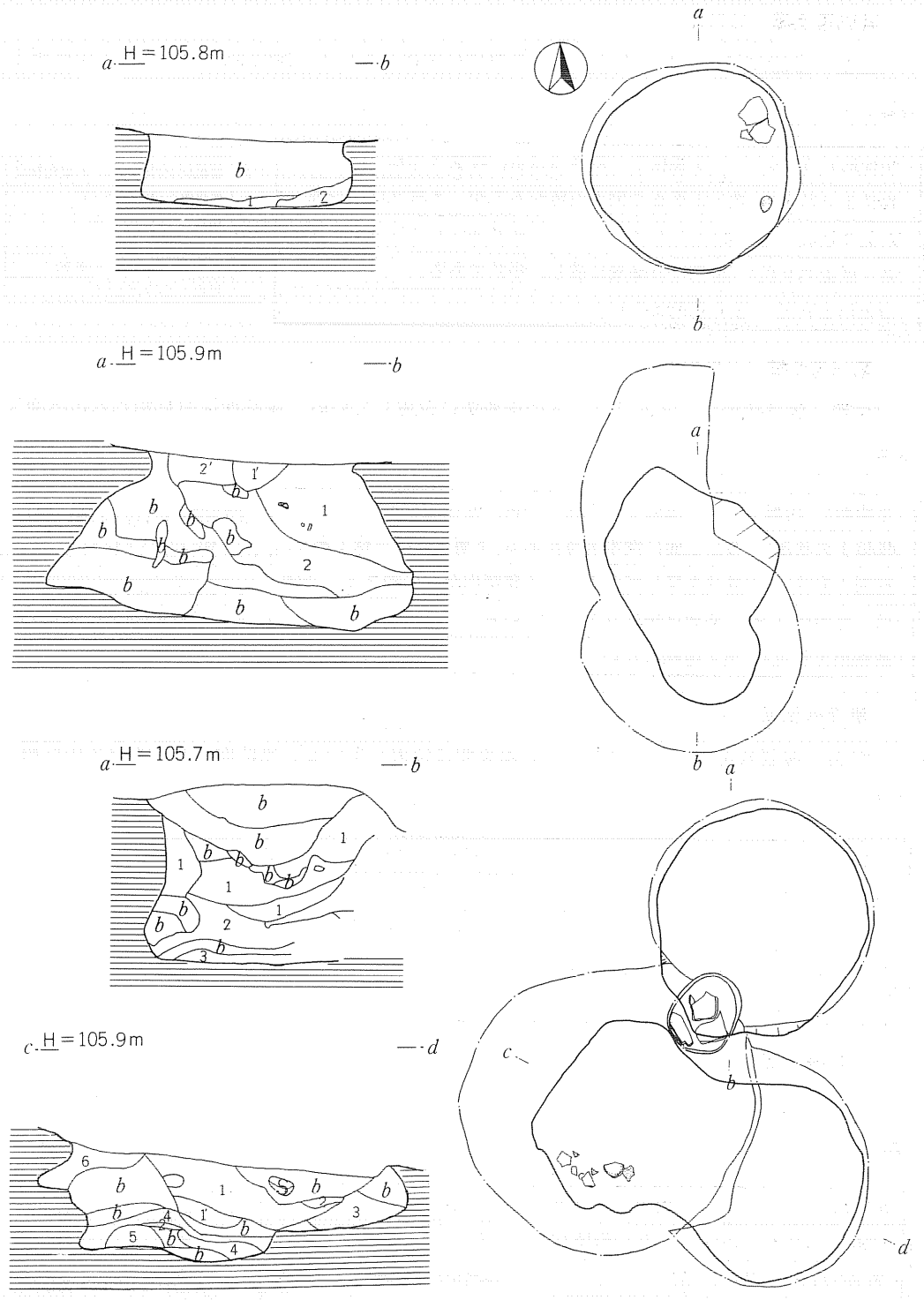
第12号土壙（東）・**第12′土壙**（西）（ＳＫ05）

〈位置・確認状況〉　Ｂ４グリッドの西側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。二つの土壙が重り合っており，東側が新しい。

〈平面形〉	円形	‖規模‖　口径 1.9m，底径 2.5m
〈堆積土の状況〉	東側の上面，西側は下層まで倒木痕跡がある。	
〈断面の形状〉	袋状を呈している。	‖確認面からの深さ‖　西で60cm 東で40cm
〈壁・底面の状況〉	西側は砂礫層に達し，鍋底状を呈している。	
〈遺物出土状況〉	〈５〉第①図―４が底面より出土。	

※堆積土層

1	黄褐色土(10Y R5／6)
2	黒褐色土(10Y R3／2)倒木痕
3	褐色土(10Y R4／4)炭化物混
4	褐色土(10Y R4／6)炭化物混
5	黄褐色土(10Y R5／4)炭化物混
6	黄褐色土(10Y R5／6)
b	明黄褐色土(10Y R6／8)地山同



〈5〉第9図　第9，10，11，12号土壙

第13号土壙（ＳＫ09）

〈位置・確認状況〉　Ｂ５グリッドの南東側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。

〈平面形〉 円形	‖規模‖ 口径 1.1m，底径 1.0m
〈堆積土の状況〉 覆土下層まで倒木痕跡があるが，土質はほぼ一様。	
〈断面の形状〉 円筒状を呈している。	‖確認面からの深さ‖ 70cm
〈壁・底面の状況〉 底面は砂礫層に達し，平坦である。	
〈遺物出土状況〉 出土遺物はない。	

※堆積土層

1	黄褐色土(10Y R5／6)炭化物混
2	黒褐色土(10Y R3／2)
3	褐色土(10Y R4／6)
4	褐色土(10Y R4／6)
5	褐色土(10Y R4／6)軟質
6	褐色土(10Y R4／4)

第14号土壙（ＳＫ31）

〈位置・確認状況〉　Ｂ５グリッドの南西側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。

〈平面形〉 円形	‖規模‖ 口径 0.9m，底径 0.7m
〈堆積土の状況〉 覆土上面に倒木痕跡がある。下層はほぼ一様である。	
〈断面の形状〉 円筒状を呈している。	‖確認面からの深さ‖ 75cm
〈壁・底面の状況〉 底面は鍋底状を呈している。	
〈遺物出土状況〉 出土遺物はない。	

※堆積土層

1	黄褐色土(10Y R4／3)
2	褐色土(10Y R4／4)
3	暗褐色土(10Y R3／3)
4	暗褐色土(10Y R3／4)
5	暗褐色土(10Y R3／4)
b	明黄褐色土(10Y R6／8)地山同

第15号土壙（ＳＫ11）

〈位置・確認状況〉　Ｂ６グリッドの南東側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。

〈平面形〉 円形	‖規模‖ 口径 1.0m，底径 1.2m
〈堆積土の状況〉 覆土の土質はほぼ一様である。	
〈断面の形状〉 袋状を呈している。	‖確認面からの深さ‖ 60cm
〈壁・底面の状況〉 底面は鍋底状を呈している。	
〈遺物出土状況〉 出土遺物はない。	

※堆積土層

1	褐色土(10Y R4／4)
2	褐色土(10Y R4／6)
3	褐色土(10Y R4／6)軟質
4	黄褐色土(10Y R5／6)
5	黄褐色土(10Y R5／8)

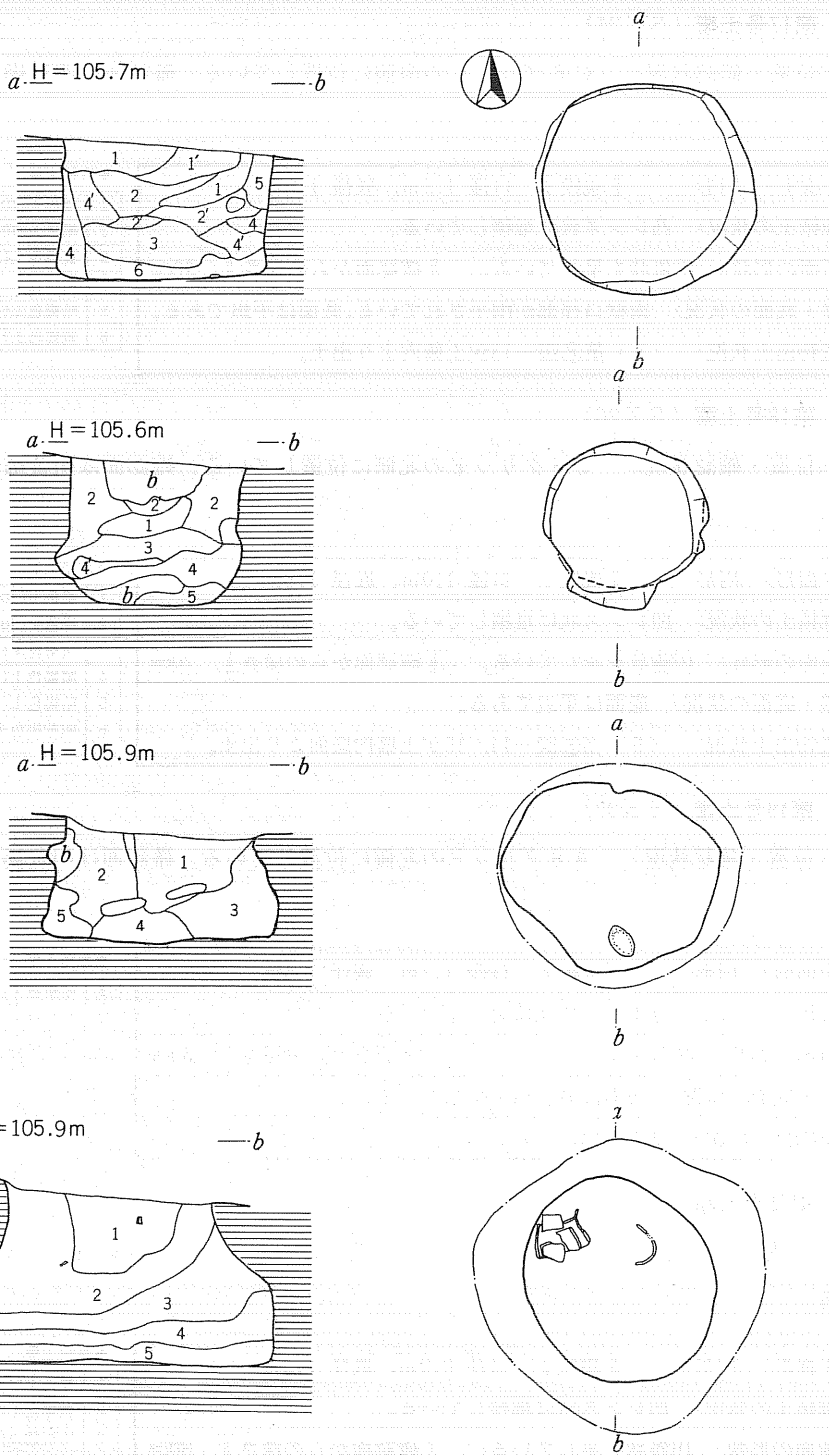
第16号土壙（ＳＫ22）

〈位置・確認状況〉　Ｂ５グリッドの北側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。

〈平面形〉 円形	‖規模‖ 口径 1.1m，底径 1.6m
〈堆積土の状況〉 凹レンズ状の堆積をしている。	
〈断面の形状〉 袋状を呈している。	‖確認面からの深さ‖ 90cm
〈壁・底面の状況〉 底面は平坦である。	
〈遺物出土状況〉 〈５〉第⑧図―３・４，第⑤図―５が土壙内より出土。	

※堆積土層

1	黒褐色土(10Y R3／2)
2	黄褐色土(10Y R5／6)
3	黄褐色土(10Y R5／4)
4	褐色土(10Y R4／4)炭化物混
5	褐色土(10Y R4／6)



〈5〉第10図　第13，14，15，16号土壙

第17号土壙（ＳＫ24）

〈位置・確認状況〉　Ｃ６グリッドの南側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。

〈平面形〉 円形	‖規模‖ 口径 1.2m，底径 1.9m
〈堆積土の状況〉 凸レンズ状に堆積している。	
〈断面の形状〉 円錐状を呈している。	‖確認面からの深さ‖ 90cm
〈壁・底面の状況〉 南壁口径部が削平されている。底面は平坦である。	
〈遺物出土状況〉 〈５〉第⑧図―13が土壙内より出土。	

※堆積土層

1	褐色土(10Y R4／4)
2	褐色土(10Y R4／4)炭化物混
3	黄褐色土(10Y R4／3)炭化物混
4	暗褐色土(10Y R3／4)
5	暗褐色土(10Y R3／3)炭化物密
6	黄褐色土(10Y R4／3)炭化物混

第18号土壙（ＳＫ26）

〈位置・確認状況〉　Ｃ８グリッドの北側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。

〈平面形〉 円形	‖規模‖ 口径 1.0m，底径 1.8m
〈堆積土の状況〉 凹レンズ状に堆積している。	
〈断面の形状〉 円錐状を呈している。	‖確認面からの深さ‖ 70cm
〈壁・底面の状況〉 底面は平坦である。	
〈遺物出土状況〉 〈５〉第⑧図―14，15が土壙内底面より出土。	

※堆積土層

1	褐色土(10Y R4／4)
2	褐色土(10Y R4／4)炭化物混
3	黄褐色土(10Y R4／3)
4	暗褐色土(10Y R3／4)炭化物混
5	暗褐色土(10Y R3／4)炭化物混
b	明黄褐色土(10Y R6／8)地山同

第19号土壙（ＳＫ07）

〈位置・確認状況〉　Ａ８グリッドの北側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。

〈平面形〉 円形	‖規模‖ 口径 1.3m，底径 1.4m
〈堆積土の状況〉 覆土の土質はほぼ一様である。	
〈断面の形状〉 袋状を呈している。	‖確認面からの深さ‖ 50cm
〈壁・底面の状況〉 底面は鍋底状を呈している。	
〈遺物出土状況〉 出土遺物はない。	

※堆積土層

1	暗褐色土(10Y R3／3)
2	黒褐色土(10Y R3／2)
b	明黄褐色土(10Y R6／8)地山同

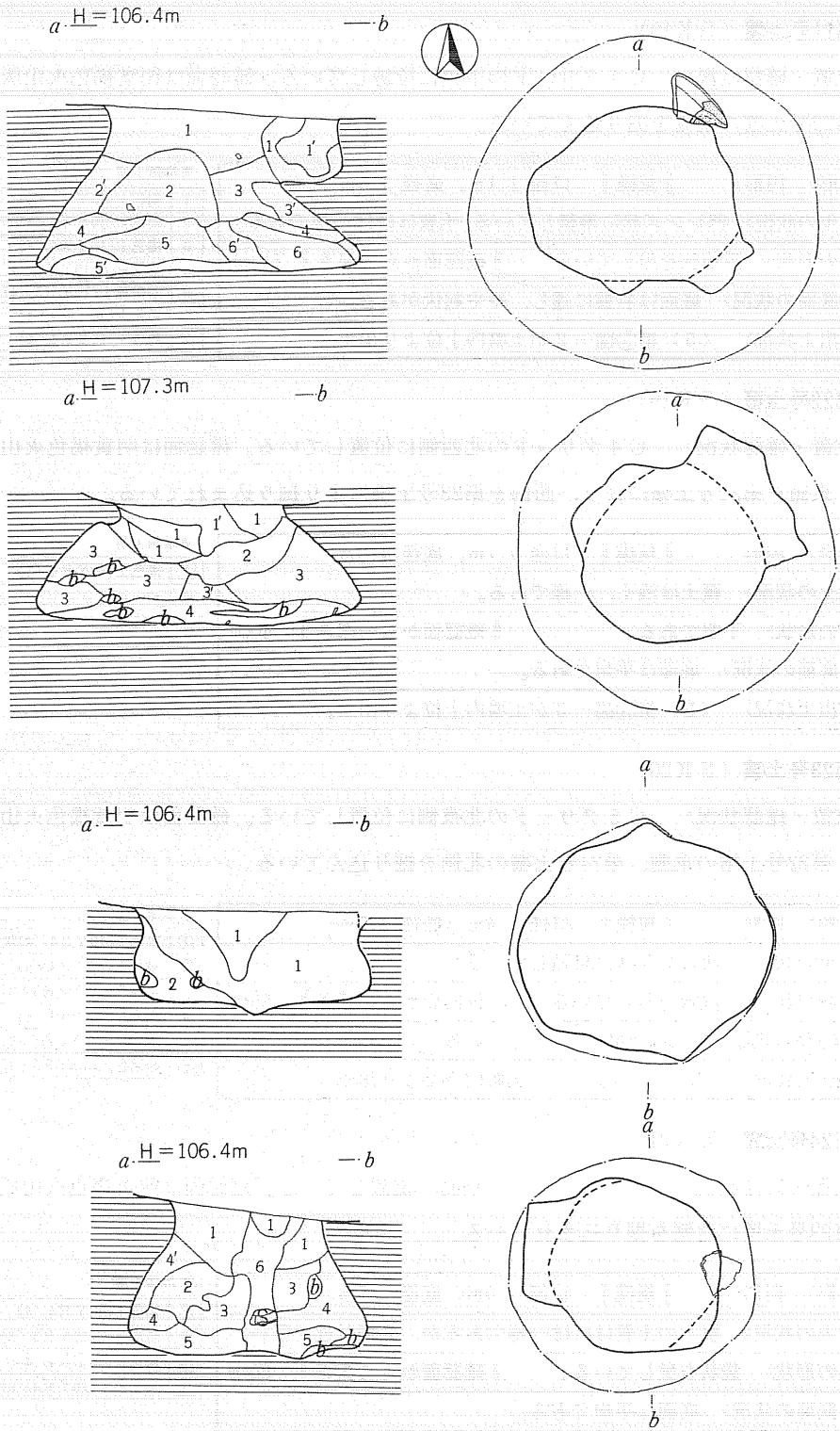
第20号土壙（ＳＫ25）

〈位置・確認状況〉　Ｂ８グリッドの南西側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。

〈平面形〉 円形	‖規模‖ 口径 0.9m，底径 1.3m
〈堆積土の状況〉 凹レンズ状に堆積している。	
〈断面の形状〉 円錐状を呈している。	‖確認面からの深さ‖ 80cm
〈壁・底面の状況〉 底面は鍋底状を呈している。	
〈遺物出土状況〉 〈５〉第⑧図―８，〈５〉第⑥図―６が土壙内出土。	

※堆積土層

1	褐色土(10Y R4／4)炭化物混
2	黄褐色土(10Y R5／4)
3	暗褐色土(10Y R3／3)炭化物混
4	褐色土(10Y R4／4)
5	暗褐色土(10Y R3／4)
6	暗褐色土(10Y R3／3)根撹乱



〈5〉第11図　第17，18，19，20号土壙

第21号土壙（ＳＫ18）

〈位置・確認状況〉　Ｃ４グリッドの中央に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。第22号土壙の東側を掘り込んでいる。

〈平面形〉　円形	‖規模‖　口径 1.1m，底径 1.3m
〈堆積土の状況〉　凹レンズ状に堆積している。土質はほぼ一様である。	
〈断面の形状〉　円筒状を呈している。	‖確認面からの深さ‖　110cm
〈壁・底面の状況〉　底面は岩盤に達し，やや起伏がある。	
〈遺物出土状況〉　〈５〉第⑤図―２が土壙内上位より出土。	

※堆積土層

1	褐色土(10Ｙ R4／6)
2	褐色土(10Ｙ R4／6)
3	褐色土(10Ｙ R4／4)
4	暗褐色土(10Ｙ R3／4)
5	暗褐色土(10Ｙ R3／4)
6	褐色土(10Ｙ R4／4)
7	褐色土(10Ｙ R4／4)

第22号土壙（ＳＫ19）

〈位置・確認状況〉　Ｃ４グリッドの北西側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。東側を第21号土壙により，西側を第23号土壙により掘り込まれている。

〈平面形〉　円形	‖規模‖　口径 1.1m，底径 1.2m
〈堆積土の状況〉　覆土は浅く，一様である。	
〈断面の形状〉　不明である。	‖確認面からの深さ‖　40cm
〈壁・底面の状況〉　底面は平坦である。	
〈遺物出土状況〉　〈５〉第⑤図―３が土壙内上位より出土。	

※堆積土層

1	褐色土(10Ｙ R4／4)

第23号土壙（ＳＫ20）

〈位置・確認状況〉　Ｃ５グリッドの北東側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。第22号土壙の東側，第24号土壙の北側を掘り込んでいる。

〈平面形〉　円形	‖規模‖　口径 1.4m，底径 1.5m
〈堆積土の状況〉　凹レンズ状に堆積している。	
〈断面の形状〉　円錐状を呈している。	‖確認面からの深さ‖　85cm
〈壁・底面の状況〉　底面は鍋底状を呈している。	
〈遺物出土状況〉　〈５〉第⑤図―４が土壙内上位より出土。	

※堆積土層

①	褐色土(10Ｙ R4／4)炭化物密
②	褐色土(10Ｙ R4／4)
③	暗褐色土(10Ｙ R3／3)炭化物混
④	褐色土(10Ｙ R4／6)
⑤	暗褐色土(10Ｙ R3／3)
⑥	暗褐色土(10Ｙ R3／3)

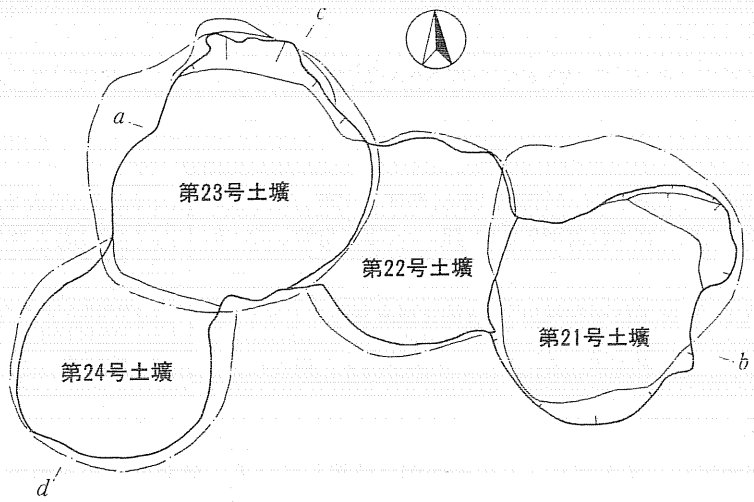
第24号土壙（ＳＫ21）

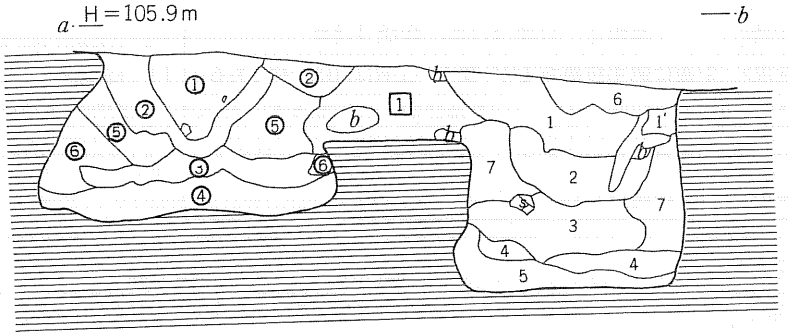
〈位置・確認状況〉　Ｃ５グリッドの東側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。第23号土壙に北側を掘り込まれている。

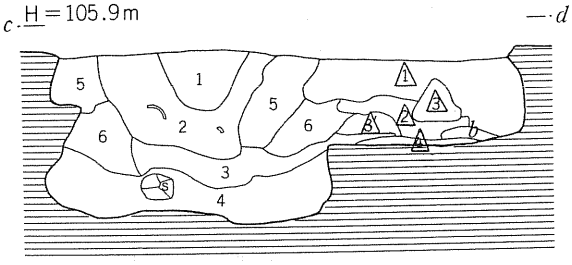
〈平面形〉　円形	‖規模‖　口径 1.0m，底径 1.2m
〈堆積土の状況〉　覆土の土質はほぼ一様であるが，底面付近で堅い。	
〈断面の形状〉　袋状を呈している。	‖確認面からの深さ‖　50cm
〈壁・底面の状況〉　底面は平坦である。	
〈遺物出土状況〉　出土遺物はない。	

※堆積土層

⚠	褐色土(10Ｙ R4／4)
⚠	暗褐色土(10Ｙ R3／3)
⚠	褐色土(10Ｙ R4／4)
⚠	黒褐色土(10Ｙ R3／2)堅い







〈5〉第12図　第21，22，23，24号土壙

第25号土壙（ＳＫ33）

〈位置・確認状況〉　Ｄ５グリッドの南東側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。

〈平面形〉　円形	‖規模‖　口径 1.0m，底径 1.5m	
〈堆積土の状況〉　上面に倒木痕跡があるが，凹レンズ状に堆積している。		
〈断面の形状〉　円錐状を呈している。	‖確認面からの深さ‖	90cm
〈壁・底面の状況〉　壁は下位で張り出し，底面は鍋底状を呈している。		
〈遺物出土状況〉　〈５〉第⑧図―５，６，７が土壙内より出土。		

※堆積土層

1	暗褐色土(10Y R3／3)
2	褐色土(10Y R4／4)炭化物混
3	黒褐色土(10Y R2／3)炭化物混
4	褐色土(10Y R4／4)
5	暗褐色土(10Y R3／4)
6	黒褐色土(10Y R2／3)
b	明黄褐色土(10Y R6／8)地山同

第26号土壙（ＳＫ35）

〈位置・確認状況〉　Ｅ５グリッドの南西側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。第４号住居跡の東側に位置している。

〈平面形〉　円形	‖規模‖　口径 1.1m，底径 1.3m	
〈堆積土の状況〉　上面に倒木痕跡あるが，覆土の土質はほぼ一様である。		
〈断面の形状〉　袋状を呈している。	‖確認面からの深さ‖	70cm
〈壁・底面の状況〉　南側の壁がやや張り出し，底面は鍋底状を呈する。		
〈遺物出土状況〉　出土遺物はない。		

※堆積土層

1	暗褐色土(10Y R3／4)
2	暗褐色土(10Y R3／3)
3	褐色土(10Y R4／6)
4	褐色土(10Y R4／4)
b	明黄褐色土(10Y R6／8)地山同

第27号土壙（ＳＫ37）

〈位置・確認状況〉　Ｅ６グリッドの北側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。第５号住居跡の南東側にある。

〈平面形〉　円形	‖規模‖　口径 0.7m，底径 1.2m	
〈堆積土の状況〉　上面に倒木痕跡あるが，覆土の土質はほぼ一様である。		
〈断面の形状〉　袋状を呈している。	‖確認面からの深さ‖	80cm
〈壁・底面の状況〉　壁の北側にふくらみをもつ。底面は平坦である。		
〈遺物出土状況〉　〈５〉第⑧図―10，〈５〉第⑥図―７が土壙内出土。		

※堆積土層

1	暗褐色土(10Y R3／4)
2	暗褐色土(10Y R3／3)
3	暗褐色土(10Y R3／3)
4	黄褐色土(10Y R4／6)
5	褐色土(10Y R4／4)
b	明黄褐色土(10Y R6／8)地山同

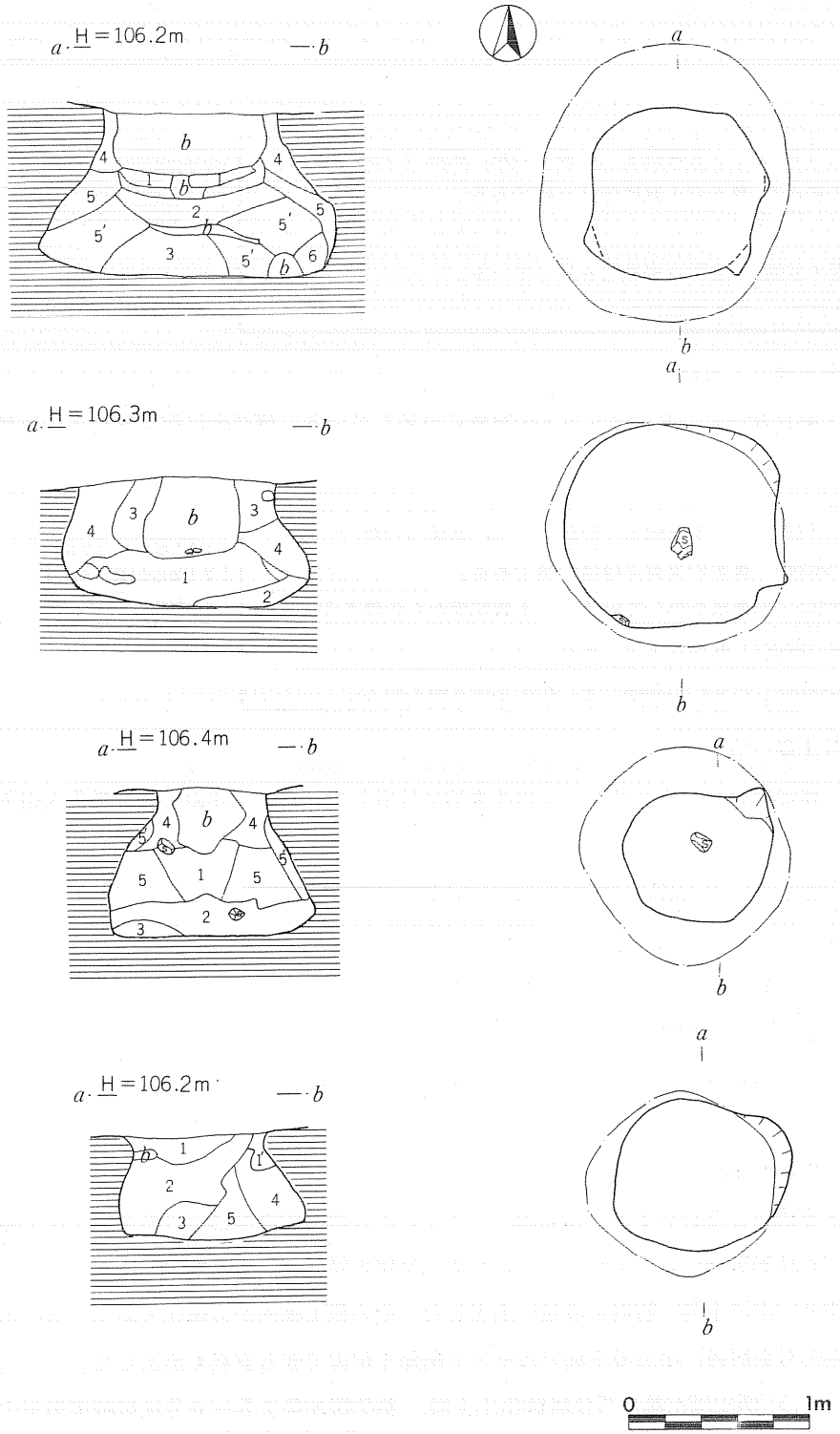
第28号土壙（ＳＫ38）

〈位置・確認状況〉　Ｆ６グリッドの南東側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。第５号住居跡の北東側にある。

〈平面形〉　円形	‖規模‖　口径 0.8m，底径 1.0m	
〈堆積土の状況〉　覆土の土質はほぼ一様である。		
〈断面の形状〉　袋状を呈している。	‖確認面からの深さ‖	60cm
〈壁・底面の状況〉　壁は南側で深く入り込む。底面は鍋底状を呈する。		
〈遺物出土状況〉　出土遺物はない。		

※堆積土層

1	黄褐色土(10Y R4／6)
2	褐色土(10Y R4／4)
3	褐色土(10Y R4／4)
4	暗褐色土(10Y R3／4)
5	暗褐色土(10Y R3／4)軟質



〈5〉第13図　第25，26，27，28号土壙

第29号土壙（ＳＫ13）

〈位置・確認状況〉　Ｃ２グリッドの南側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。

〈平面形〉　円形	‖規模‖	口径 1.3m，底径 1.3m
〈堆積土の状況〉　覆土の土質はほぼ一様である。		
〈断面の形状〉　袋状を呈している。	‖確認面からの深さ‖	45cm
〈壁・底面の状況〉　底面は鍋底状を呈している。		
〈遺物出土状況〉　出土遺物はない。		

※堆積土層

1	褐色土(10Ｙ R4／4)
2	黄褐色土(10Ｙ R5／6)
3	黄褐色土(10Ｙ R5／4)

第30号土壙（ＳＫ44）

〈位置・確認状況〉　Ｂ２グリッドの東側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。

〈平面形〉　円形	‖規模‖	口径 1.6m，底径 1.5m
〈堆積土の状況〉　覆土の土質はほぼ一様である。		
〈断面の形状〉　円筒状を呈している。	‖確認面からの深さ‖	50cm
〈壁・底面の状況〉　底面は平坦である。		
〈遺物出土状況〉　〈５〉第⑥図―９，10が土壙上面で出土。		

※堆積土層

1	黄褐色土(10Ｙ R4／6)
2	褐色土(10Ｙ R4／4)
3	褐色土(10Ｙ R4／4)

第31号土壙（ＳＫ42）

〈位置・確認状況〉　Ｉ９グリッドの北東側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。

〈平面形〉　円形	‖規模‖	口径 1.7m，底径 1.8m
〈堆積土の状況〉　覆土の土質はほぼ一様である。		
〈断面の形状〉　袋状を呈している。	‖確認面からの深さ‖	60cm
〈壁・底面の状況〉　壁は北側に深く入り込む。底面は平坦である。		
〈遺物出土状況〉　〈５〉第⑧図―９，〈５〉第⑥図―８が土壙内出土。		

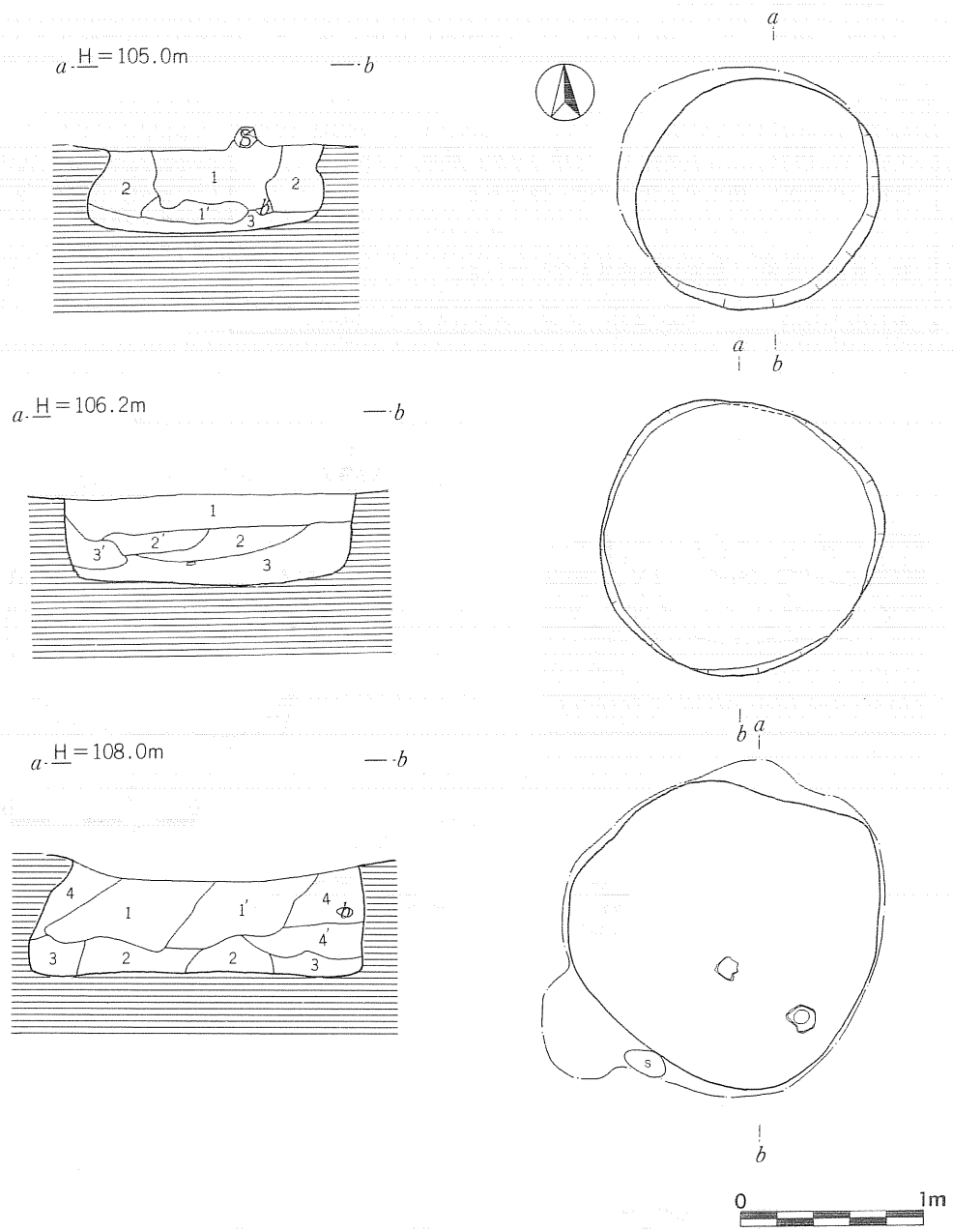
※堆積土層

1	暗褐色土(10Ｙ R3／3)
2	褐色土(10Ｙ R4／6)
3	褐色土(10Ｙ R4／6)
4	暗褐色土(10Ｙ R3／4)

◇出土遺物について

グリッドを設定したＤラインから北側，５ラインから西側では褐色土の第２層上面で遺物の出土が多く，住居跡群に伴うものと考えられる。東側の傾斜面でも遺物の出土があり，とくにＦ２・３グリッドで土器・石器が多量に出土した。その他土壙内から復元可能な土器が出土しており，第１号住居跡，第32号土壙ではセット関係を把握できる資料も出土した。

挿図は〈５〉第①図が第１号住居跡出土土器，第②図が第２号～６号住居跡周辺出土土器第③～⑥⑧図が土壙出土土器，第⑦図がＦ２・３グリッド出土土器，第⑨～⑫が各グリッド



〈5〉第14図　第29，30，31号土壙

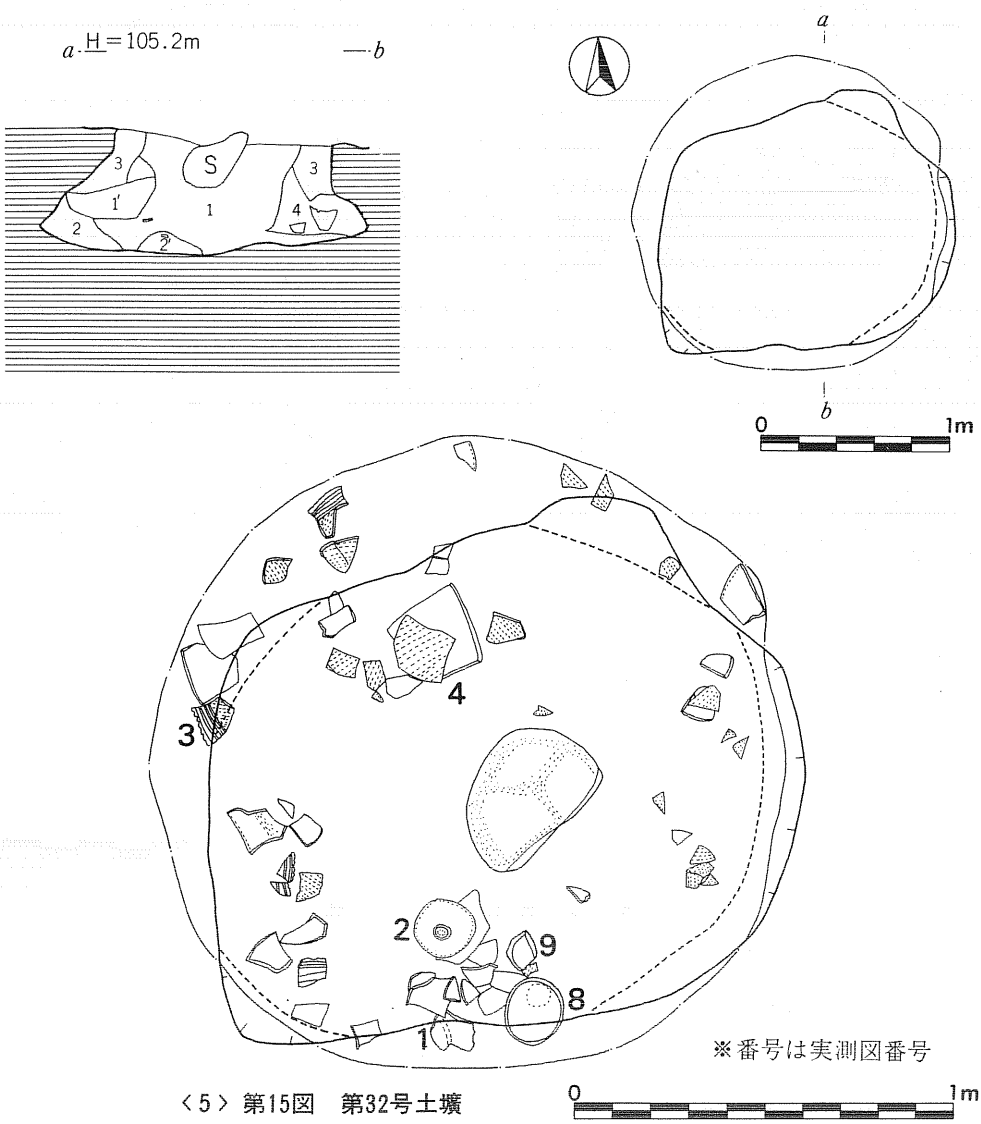
第32号土壙（ＳＫ14）

〈位置・確認状況〉　Ｃ３グリッドの北東側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。

〈平面形〉　円形	‖規模‖　口径 1.2m，底径 1.7m
〈堆積土の状況〉　覆土の土質はほぼ一様である。	
〈断面の形状〉　円錐状を呈している。	‖確認面からの深さ‖　60cm
〈壁・底面の状況〉　底面は鍋底状を呈している。	
〈遺物出土状況〉　〈５〉第③-④図の土器が底面付近より一括出土した。	

※堆積土層

1	暗褐色土(10Ｙ Ｒ3／4)
2	黄褐色土(10Ｙ Ｒ5／8)
3	黄褐色土(10Ｙ Ｒ5／6)
4	黄褐色土(10Ｙ Ｒ5／6)



〈５〉第15図　第32号土壙

出土土器，第⑭・⑮図が各グリッドおよび遺構の出土石器で構成した。

〈5〉第⑬図下に示したように縄文時代早期の尖底深鉢形土器が1点出土している。D6，D7，H6グリッドの第2層上面にかなり散乱した状態で発見された。口縁部の破片が多く，胴部より下が少ない。外面の文様は口縁部の幅4.5cm以内に口辺部から瓜形状の刺突文が斜位に5列，横位に2列施され，胴部に至っては斜縄文が施されている。刺突文，斜縄文の施文以前に横位のナデで器面が丁寧に調整されている。内面も横位のナデで調整されている。

上記以外に出土した土器は縄文時代晩期前半のものであり，大洞B，B—C式に比定される。縄文時代晩期前半の土器について器種を分類した上で説明を加えたい。

深鉢形土器 a＝〈5〉第①図

底部より直線的に外傾し，胴部上半から口縁部にかけて内彎し，胴部上半で最大径をもつ。大きさは大・中・小に大別される。大は器高が30cm以上であり，中は20cm前後，小が15cm前後である。外面の文様は斜縄文を施したものであり，内面はミガキにより丁寧に調整されたものが多い。口唇部は大体が平坦であるが，大形のもので小波状を呈するものがあり，中形のものにコブのつくものがあり，コブは二個で一対である。

深鉢形土器 b＝〈5〉第②図

a類に対して15cm以下の小形のものである。器形はほとんどかわらないが，口縁部に文様帯をもつものである。外面の文様は口縁部に平行沈線をめぐらし，口唇部外側に浮彫的手法で刻目あるいは小突起をつけたもので，沈線より下にはこまかい斜縄文を施している。薄でで内面のミガキも丁寧である。b類には片口を付けたものが1点ある。

台付鉢形土器＝〈5〉第⑦図

器高に比して口径の大きい鉢形土器に台がついたものである。器形をさらに分けると，深鉢形土器b類に台がつき，器高が低くなったもの。器高が低く，頸部がすぼまり，口縁部が強く外反したものに台がついたものとなる。外面の文様は口縁部から頸部にかけて沈線あるいは刺突文で平行沈線の他に羊歯状文，S字状文，C字文を施しており，はりコブのつくものもある。胴部上半より斜縄文を施している。台は「ハ」の字状を呈し，台付部にC字状の刺突を入れたものもある。いずれも内外面にススが付着する。

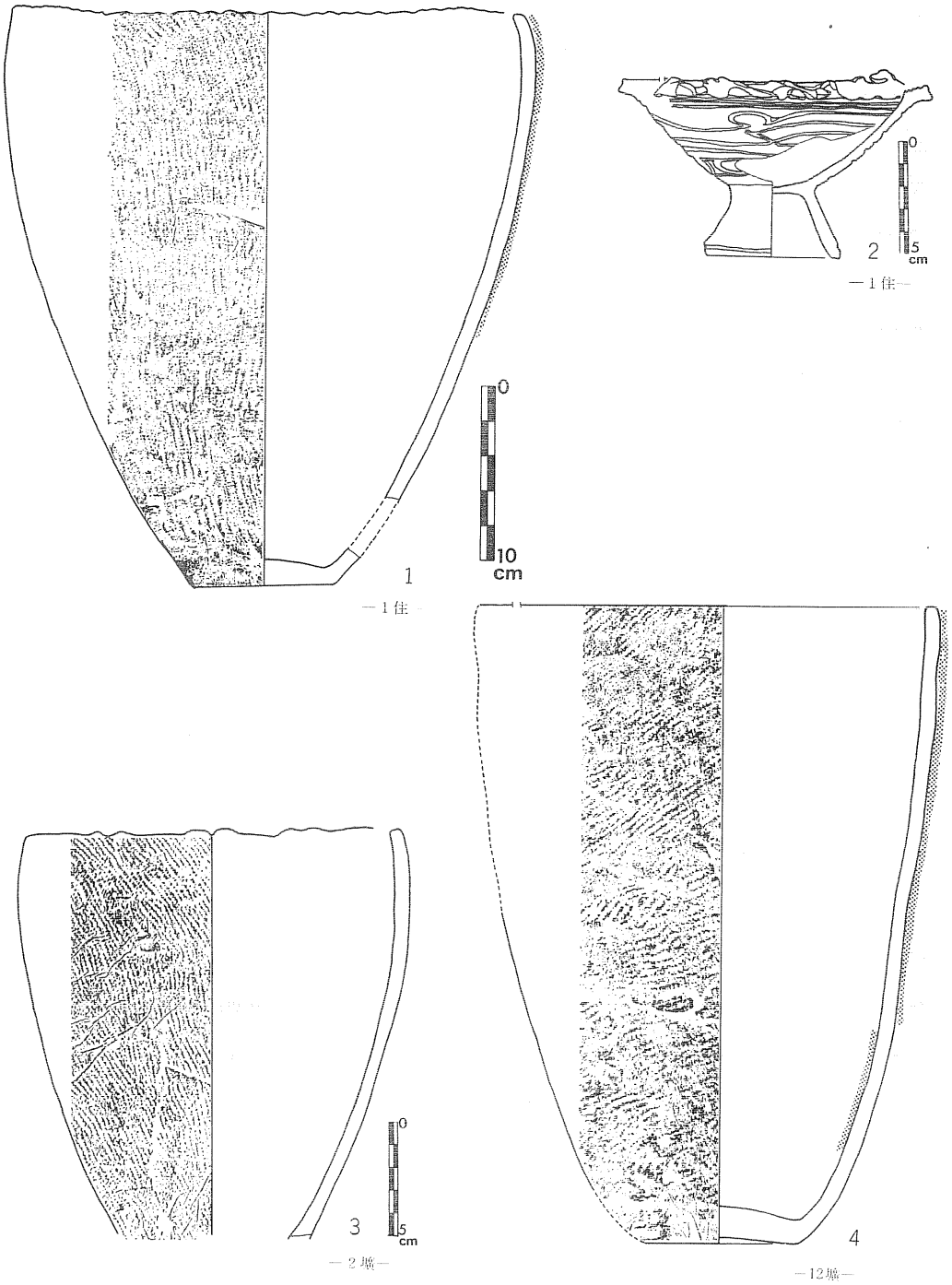
鉢形土器＝〈5〉第⑤図—4

直線的に外傾し，浮彫的な磨消縄文で文様を描いている。

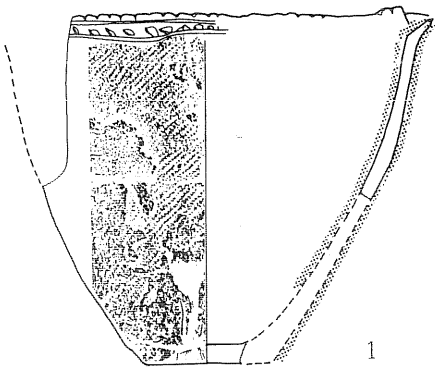
香炉形土器＝〈5〉第①図—2

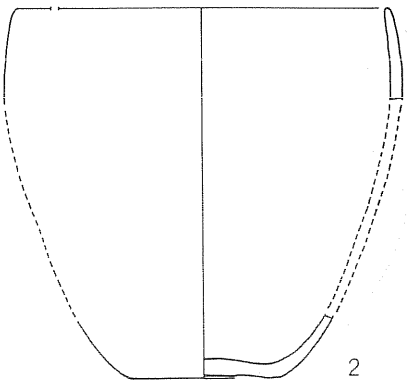
第1号住居跡から出土したもので原形は復元できなかったが，大略台付杯形土器に透しおよび突起をつけたものと考えられる。体部には浮彫的手法でK字類似文が帯状に展開する。

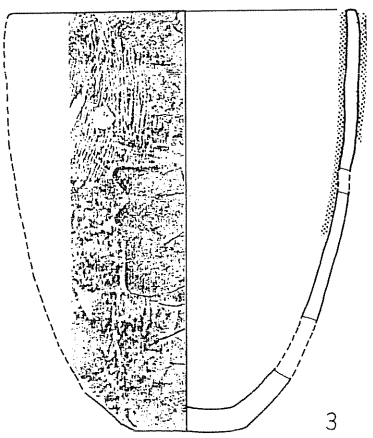
破片より皿形土器と考えられるものもある。

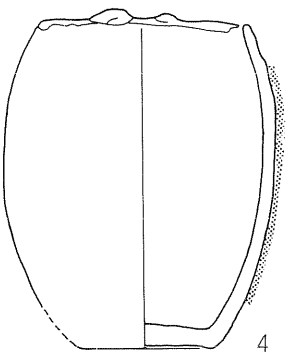


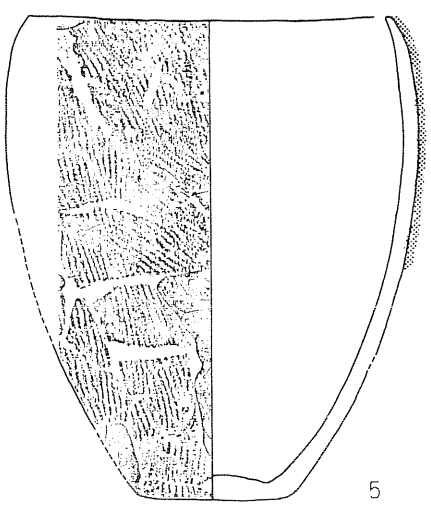
〈5〉第①図　第1号住居跡，第2号土壙，第12号土壙出土遺物

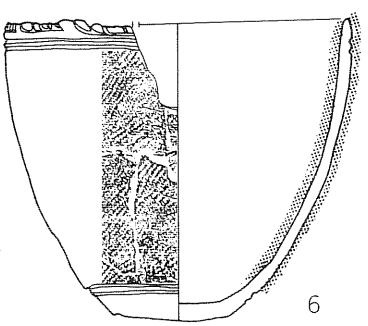


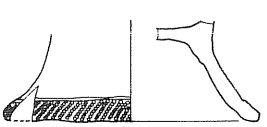




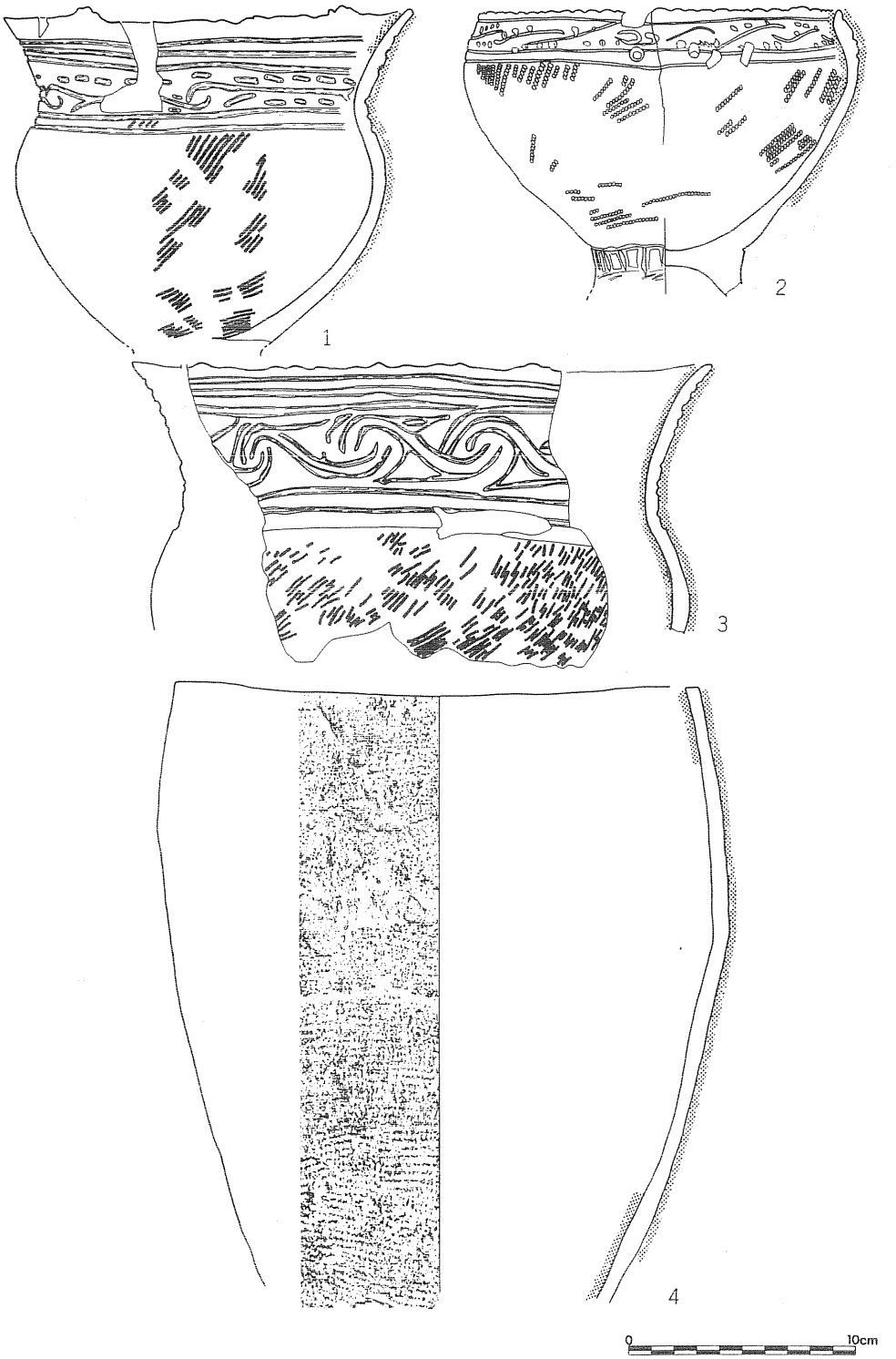






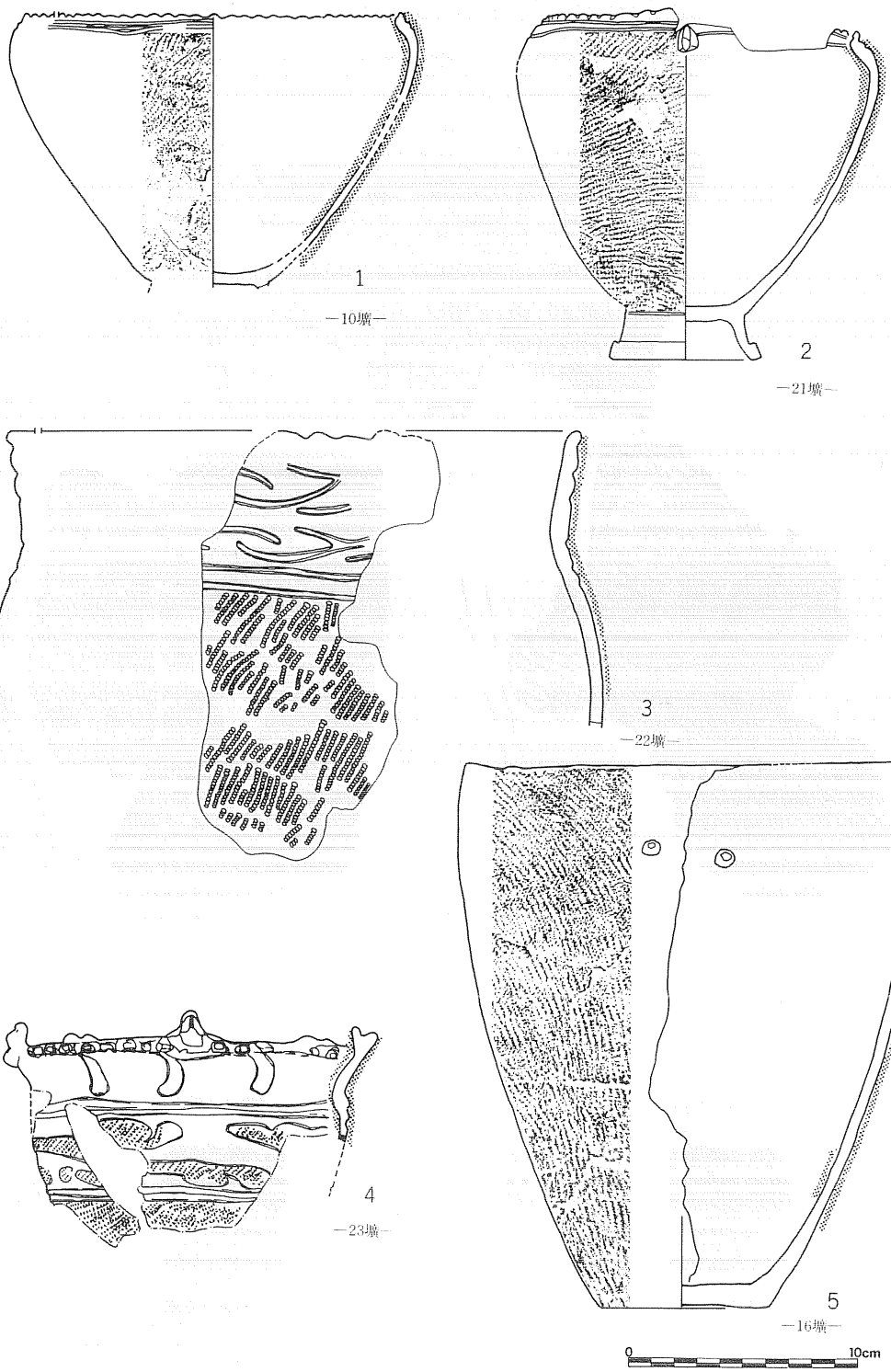


〈5〉第②図　第2，3，4，5号住居跡出土遺物

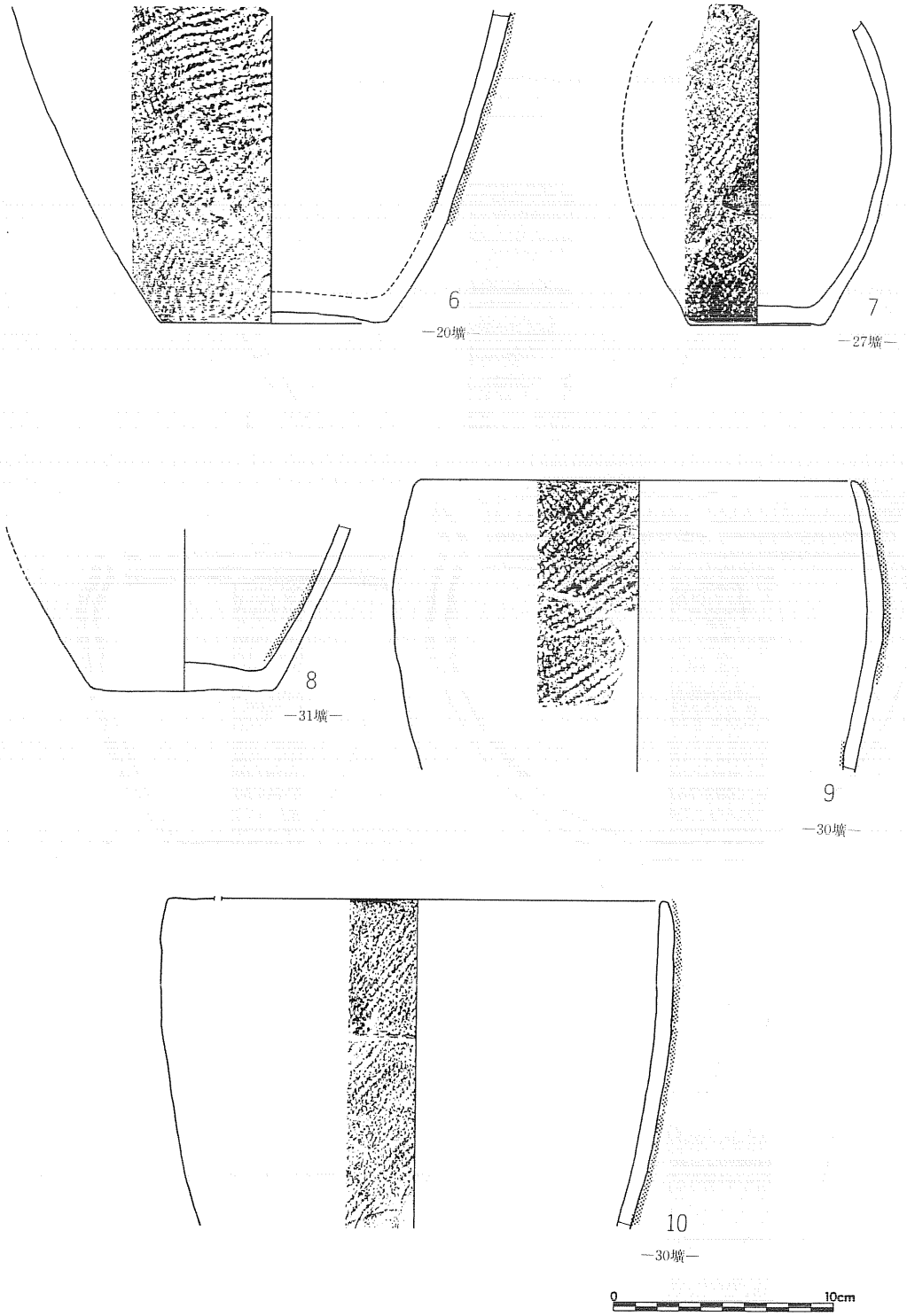


〈5〉第③図　第32号土壙出土遺物(1)

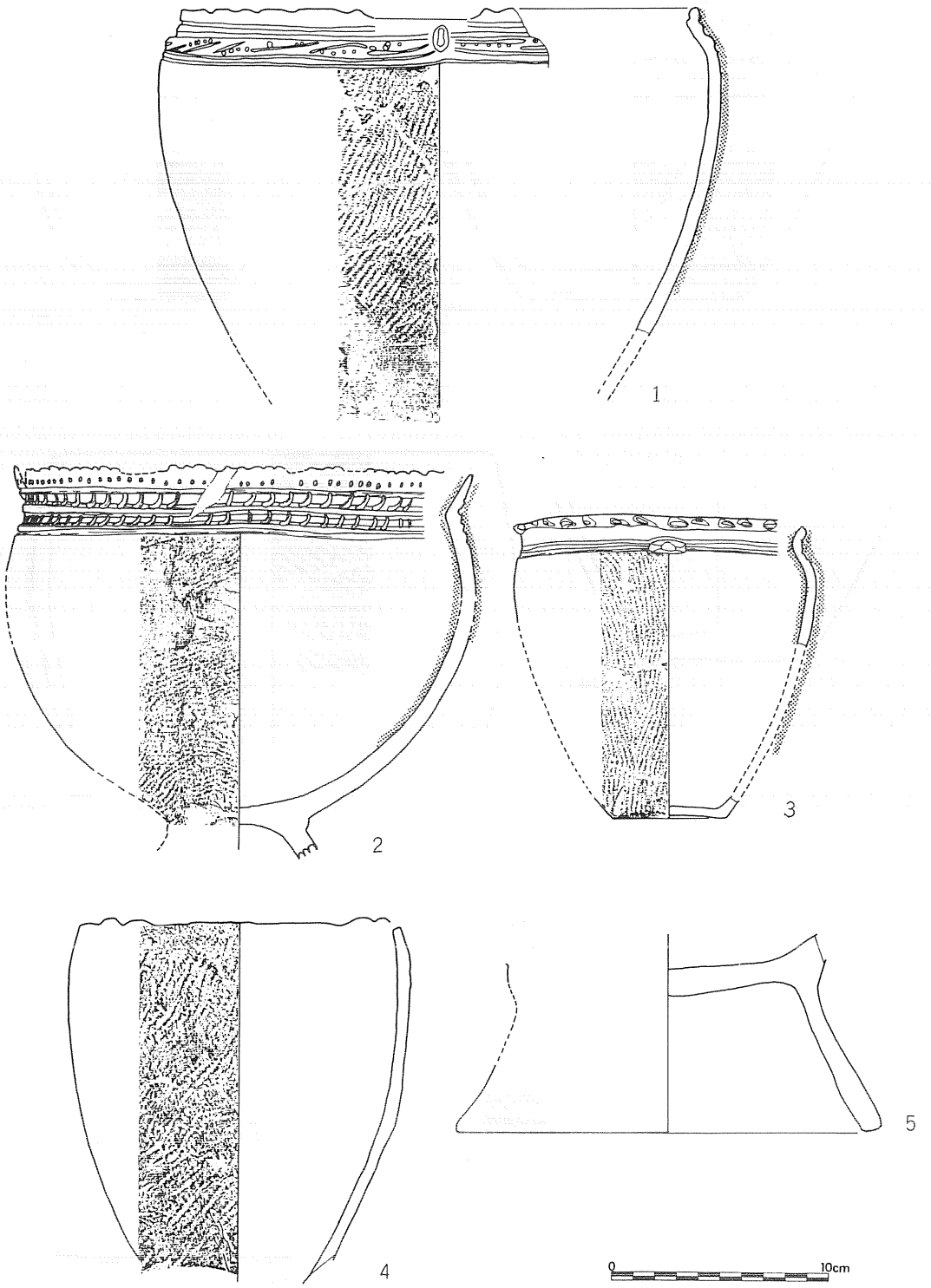
〈5〉第④図　第32号土壙出土遺物(2)



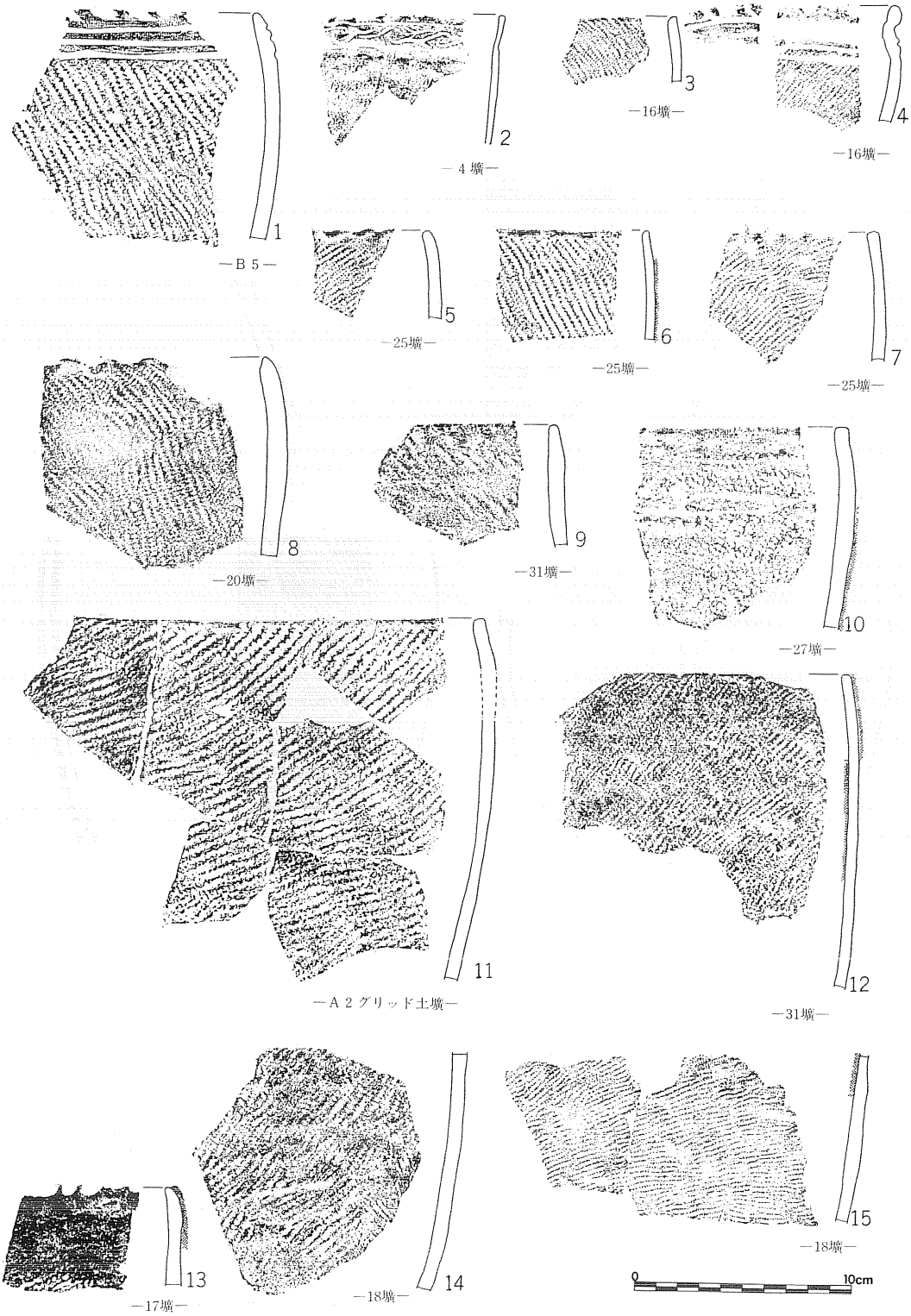
〈5〉第⑤図　土壙出土遺物(1)



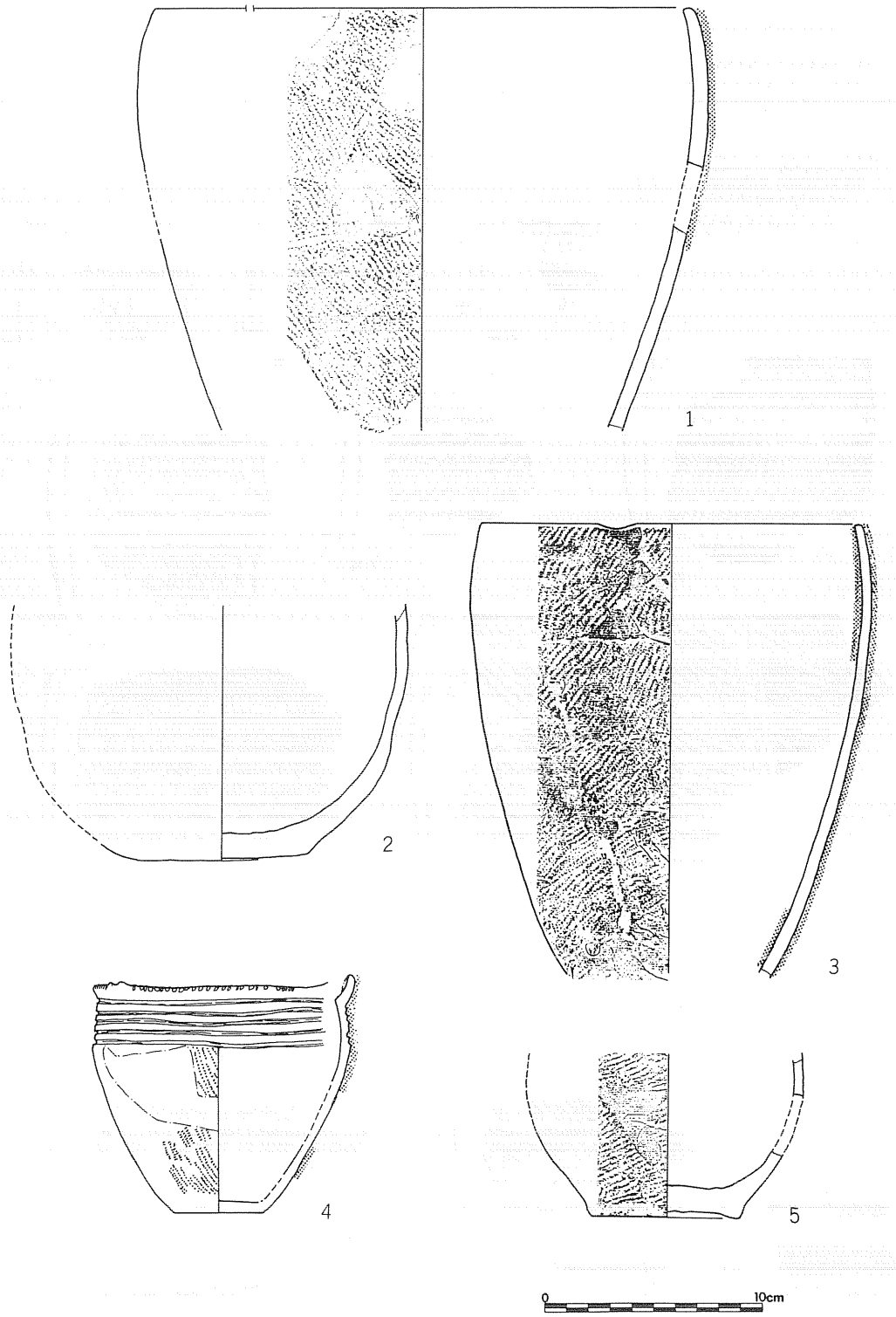
〈5〉第⑥図　土壙出土遺物(2)



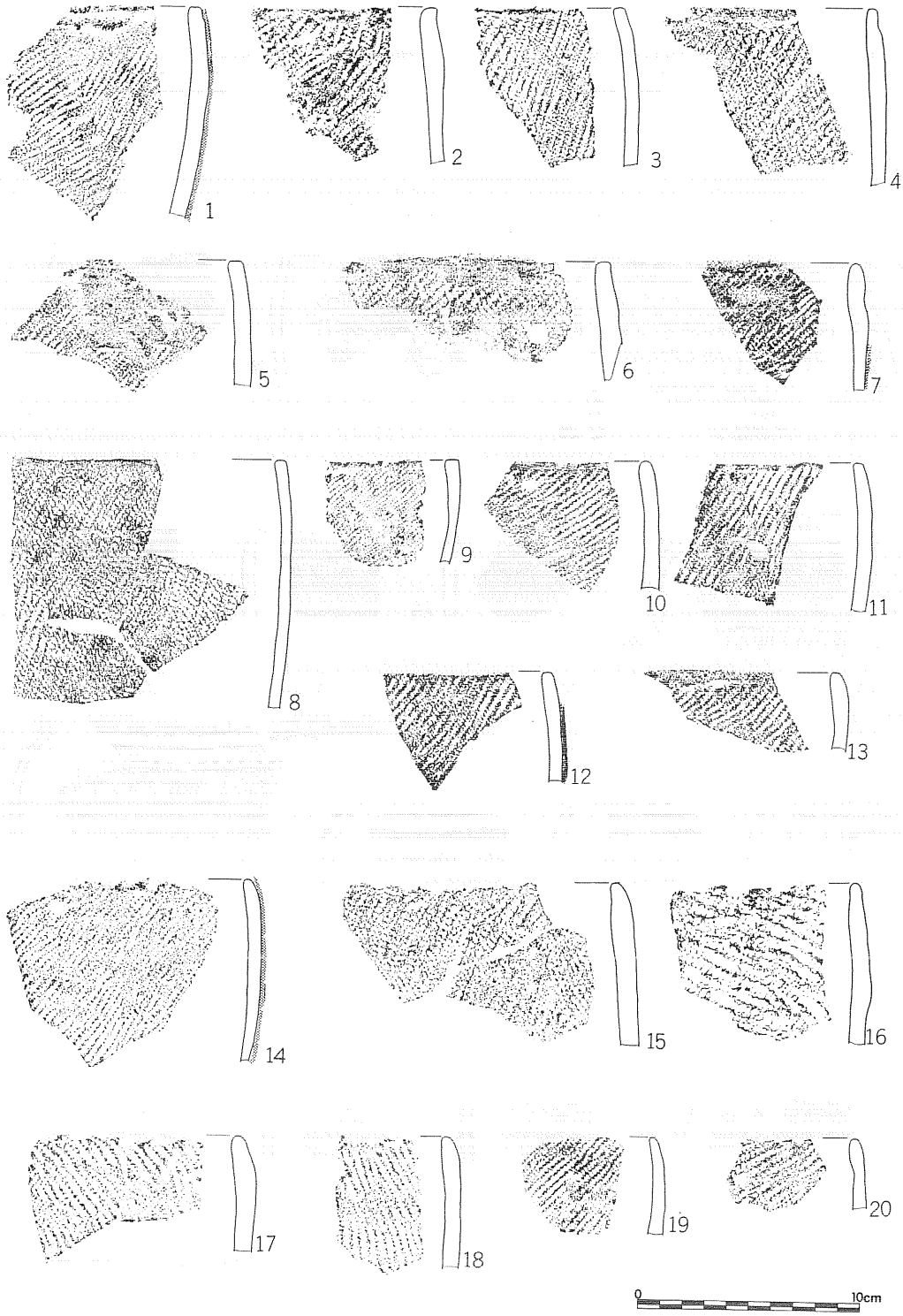
〈5〉第⑦図　Ｆ２，３グリッド出土遺物


1
—B 5—
2
— 4 壙—
3
—16壙—
4
—16壙—
5
—25壙—
6
—25壙—
7
—25壙—
8
—20壙—
9
—31壙—
10
—27壙—
11
—A 2 グリッド土壙—
12
—31壙—
13
—17壙—
14
—18壙—
15
—18壙—
0
10cm

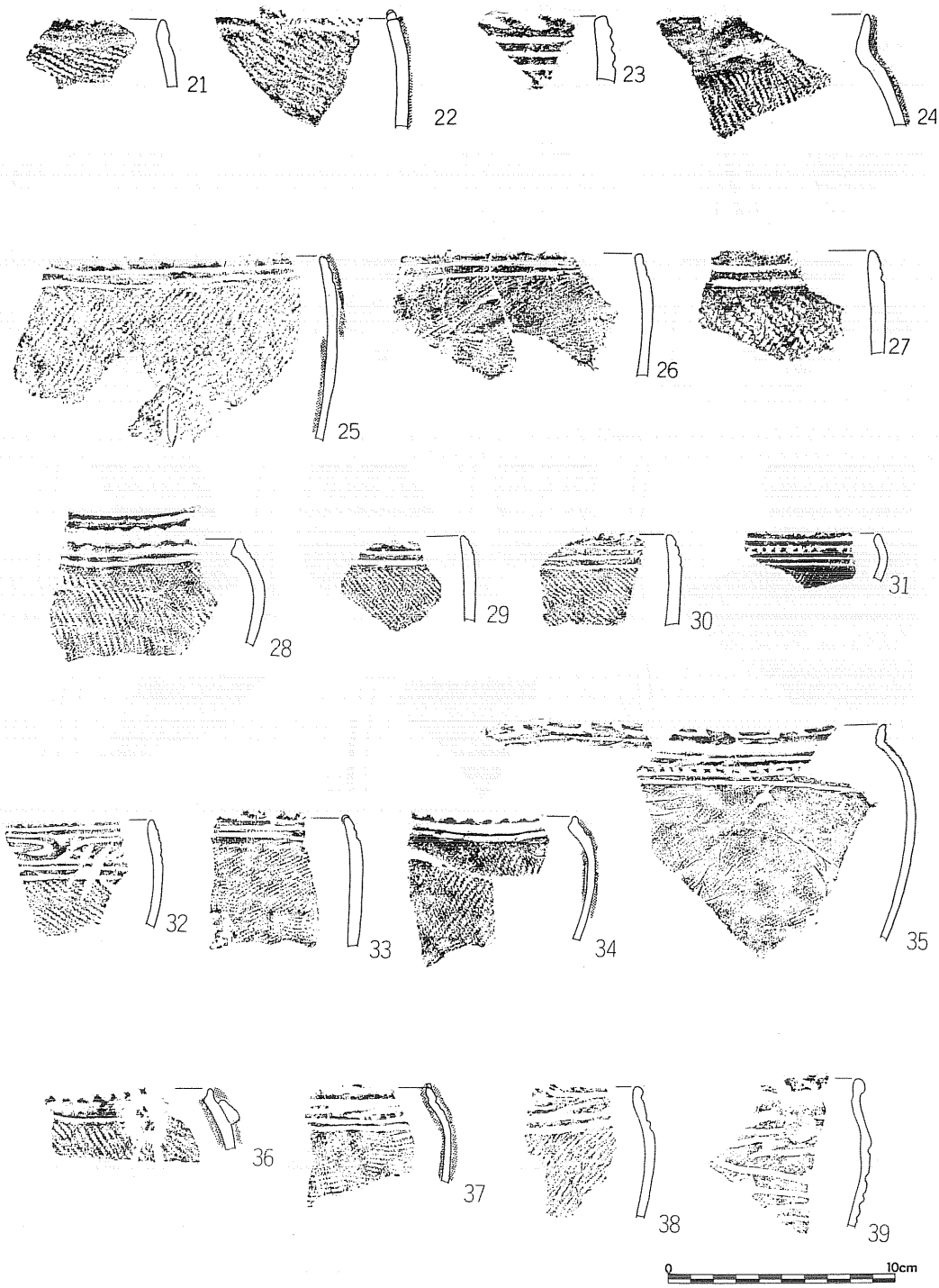
〈5〉第⑧図　土壙出土遺物



〈5〉第⑨図　グリッド出土遺物

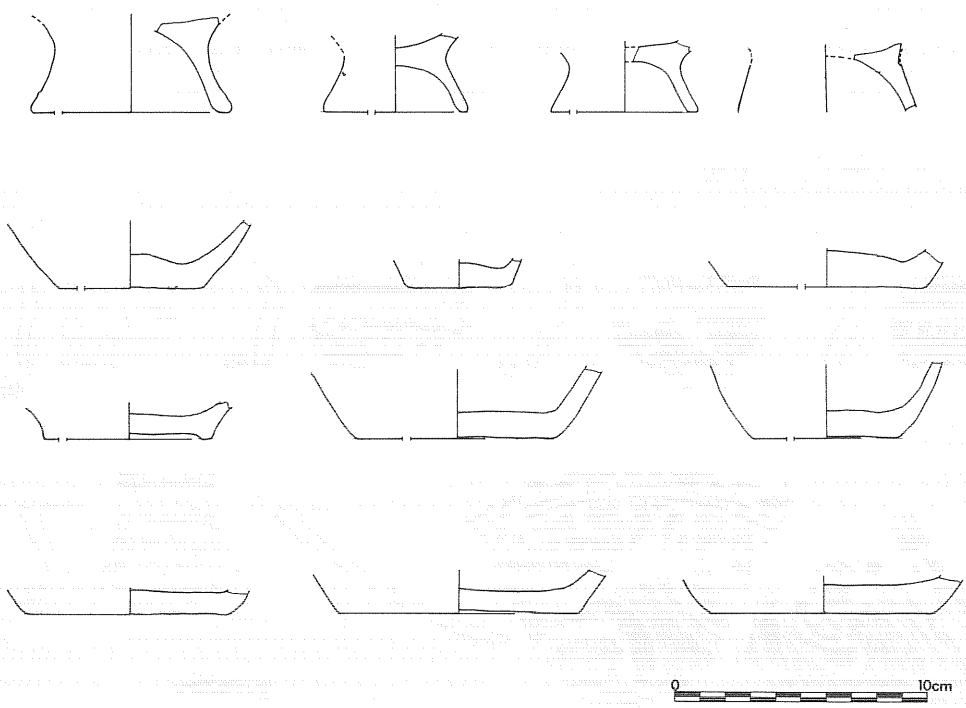


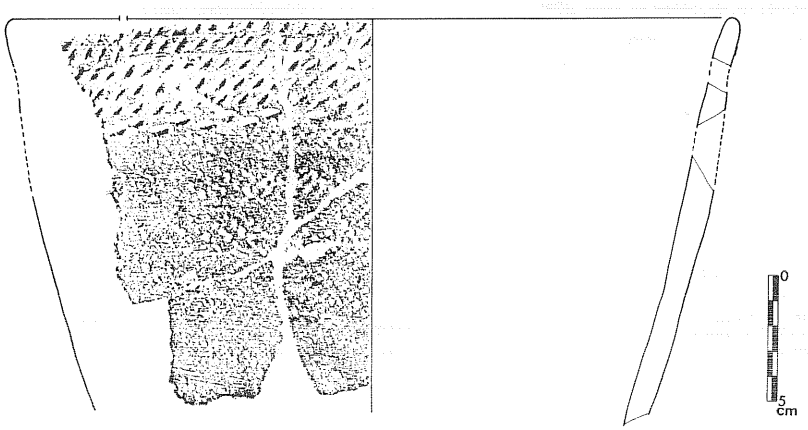
〈5〉第⑩図　グリッド出土遺物(1)



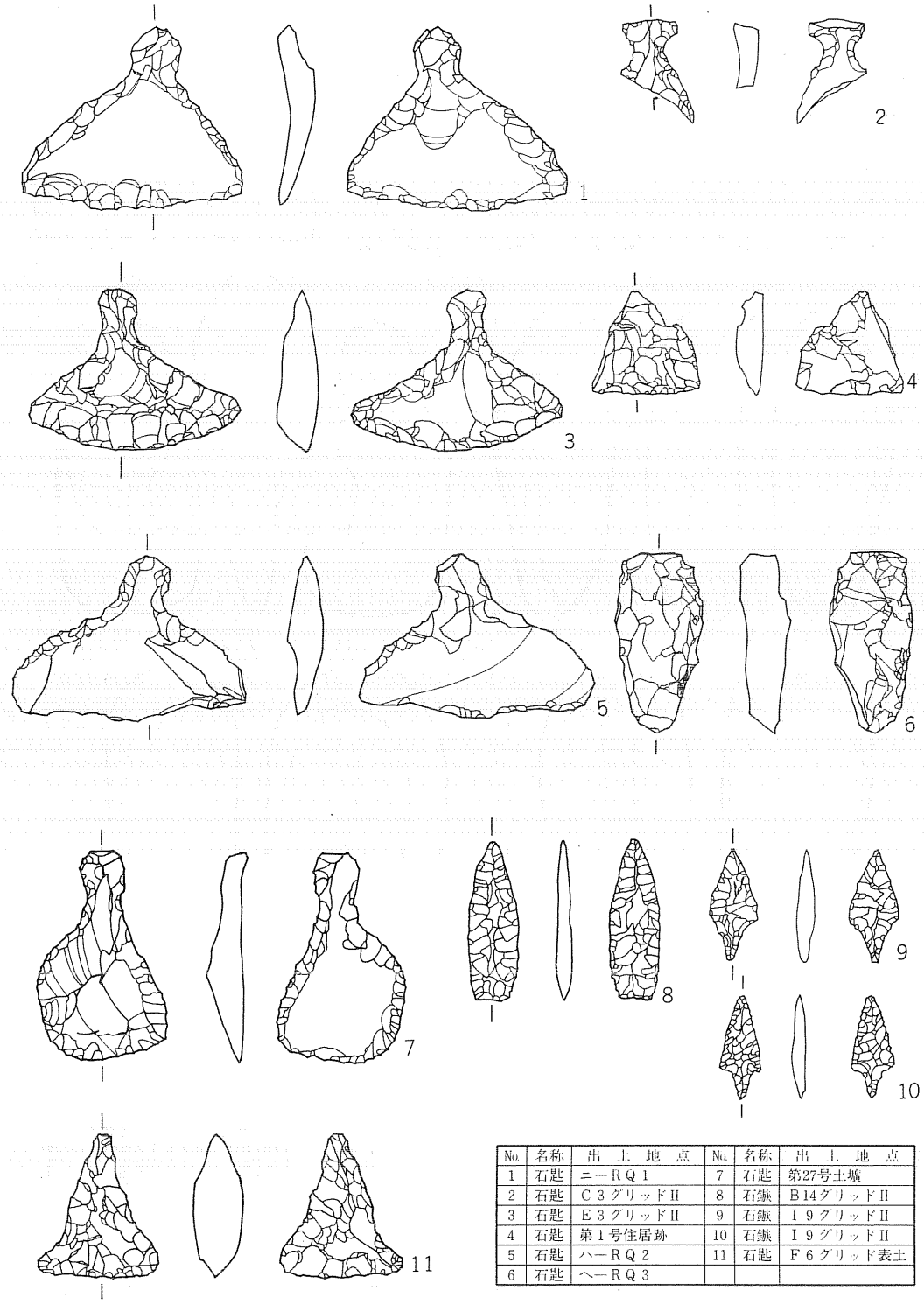
〈5〉第Ⅱ図　グリッド出土遺物(2)

〈5〉第⑫図　グリッド出土遺物(3)





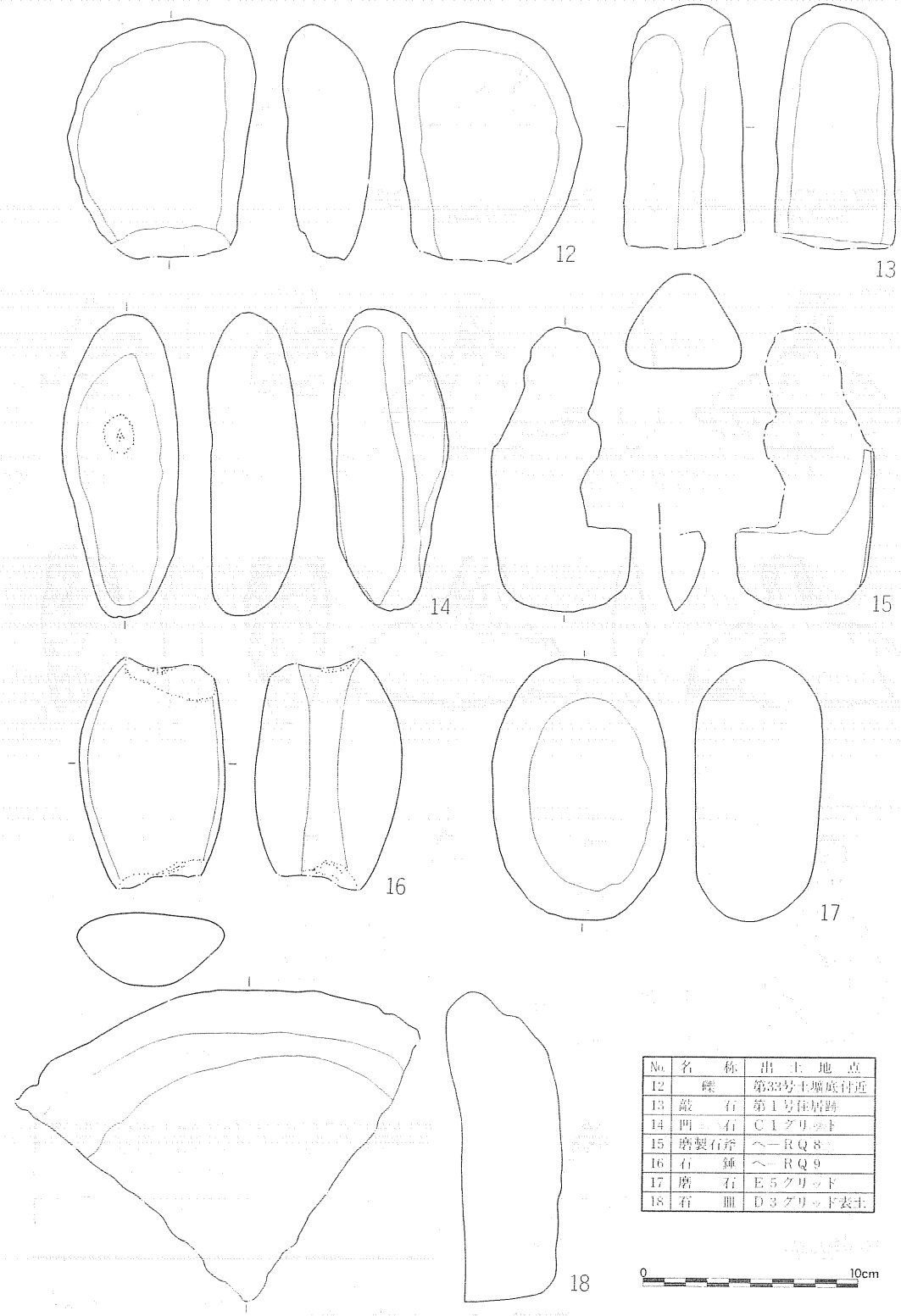
〈5〉第⑬図　底部実測図・縄文時代早期の土器



No.	名称	出土地点	No.	名称	出土地点
1	石匙	ニ－ＲＱ１	7	石匙	第27号土壙
2	石匙	Ｃ３グリッドII	8	石鏃	Ｂ14グリッドII
3	石匙	Ｅ３グリッドII	9	石鏃	Ｉ９グリッドII
4	石匙	第１号住居跡	10	石鏃	Ｉ９グリッドII
5	石匙	ハ－ＲＱ２	11	石匙	Ｆ６グリッド表土
6	石匙	ヘ－ＲＱ３			

0 10cm

〈5〉第⑭図　グリッド出土石器(1)



No.	名　称	出土地点
12	礫	第33号土壙底付近
13	敲　石	第1号住居跡
14	門　石	C1グリッド
15	磨製石斧	へ－RQ8
16	石　鏃	へ－RQ9
17	磨　石	E5グリッド
18	石　皿	D3グリッド表土

0　10cm

〈5〉第⑮図　グリッド出土石器(2)

◇鳶ケ長根Ⅲ遺跡実測土器のまとめ (1)　　※(　) は残存・推定寸法

図版番号 出土地点	①器種 ②口径・底径・高さ(cm) ③色調 ④胎土 ⑤焼成 ⑥器表面の主な文様(調整)／器内面の調整 ⑦備考
〈5〉第①図—1 第1号住居跡内	①深鉢形土器 ②29.2・8.3・33.5 ③にぶい橙色 ④密 ⑤良好 ⑥斜縄文 ／縦位ナデ ⑦外面にスス付着
〈5〉第①図—2 第1号住居跡内	①香炉形土器 ②——・台部6.0・(8.3) ③にぶい橙色 ④密 ⑤良好 ⑥沈線K字状文 ／ナデ ⑦透し，突起つく
〈5〉第①図—3 第2号土壙内	①深鉢形土器 ②16.3・——・(17.6) ③明黄褐色 ④密 ⑤良好 ⑥斜縄文 ／縦位ミガキ ⑦口頸部コブ付
〈5〉第①図—4 第12号土壙内	①深鉢形土器 ②(26.0)・8.5・36.8 ③にぶい黄褐色 ④密 ⑤比較的良 ⑥斜縄文 ／横位ナデ ⑦外面・内面にスス付着
〈5〉第②図—1 E5グリッド	①片口付深鉢形土器 ②(17.5)・5.0・14.9 ③灰黄褐色 ④密 ⑤良好 ⑥口縁部沈線文・刺突文下に斜縄文／ミガキ ⑦外面・内面にスス厚く付着
〈5〉第②図—2 E5グリッド	①深鉢形土器 ②(15.0)・5.9・(15.0) ③にぶい黄褐色 ④比較的粗 ⑤比較的良 ⑥斜縄文 ／ナデ
〈5〉第②図—3 E6グリッド	①深鉢形土器 ②14.0・4.0・17.0 ③明赤褐色 ④比較的粗 ⑤良好 ⑥一部撚糸文 ／縦位ミガキ ⑦外面・内面にスス付着
〈5〉第②図—4 E8グリッド	①深鉢形土器 ②8.3・5.2・13.7 ③橙色 ④密 ⑤良好 ⑥ナデ ／ナデ ⑦外面にスス付着
〈5〉第②図—5 E5グリッド	①深鉢形土器 ②14.6・6.0・19.6 ③にぶい橙色 ④密 ⑤良好 ⑥斜縄文 ／縦位ミガキ ⑦外面にスス付着
〈5〉第②図—6 E6グリッド	①深鉢形土器 ②13.8・4.6・12.2 ③明黄褐色 ④密 ⑤良好 ⑥口縁部沈線文下に斜縄文／横位・縦位ナデ ⑦外面・内面にスス付着
〈5〉第②図—7 F6グリッド	①台付台部 ②——・台部10.3・(4.1) ③明赤褐色 ④密 ⑤良好 ⑥縦位ミガキ・斜縄文 ／ナデ ⑦台のみ
〈5〉第③図—1 第32号土壙内	①台付鉢形土器 ②18.0・——・(14.9) ③にぶい黄橙色 ④密 ⑤良好 ⑥口縁部沈線文下に斜縄文／横位ナデ ⑦外面・内面にスス付着，補修孔あり
〈5〉第③図—2 第32号土壙内	①台付鉢形土器 ②16.0・——・(12.9) ③にぶい黄橙色 ④密 ⑤良好 ⑥口縁部沈線羊歯状文／横位・縦位ミガキ ⑦外面・内面にスス付着，補修孔あり
〈5〉第③図—3 第32号土壙内	①台付鉢形土器 ②(25.5)・——・(13.3) ③明黄褐色 ④密 ⑤良好 ⑥口縁部沈線文下に斜縄文／横位ミガキ ⑦外面・内面にスス付着
〈5〉第③図—4 第32号土壙内	①深鉢形土器 ②23.0・——・(27.2) ③にぶい橙色 ④比較的粗 ⑤比較的良 ⑥斜縄文 ／横位ナデ ⑦外面・内面にスス付着
〈5〉第④図—8 第32号土壙内	①深鉢形土器 ②——・6.9・(14.3) ③にぶい黄橙色 ④比較的粗 ⑤比較的良 ⑥横位・斜縄文 ／縦位ナデ ⑦外面・内面にスス付着
〈5〉第④図—9 第32号土壙内	①深鉢形土器 ②——・(7.5)・(12.3) ③明黄褐色 ④比較的密 ⑤良好 ⑥斜縄文 ／縦位・横位ナデ
〈5〉第⑤図—1 第10号土壙内	①台付鉢形土器 ②16.4・——・(12.1) ③灰黄褐色 ④密 ⑤良好 ⑥口縁部沈線文下に斜縄文／縦位ミガキ ⑦外面・内面にスス付着
〈5〉第⑤図—2 第21号土壙内	①台付鉢形土器 ②13.8・6.6・15.4 ③橙色 ④密 ⑤良好 ⑥斜縄文 ／縦位ミガキ ⑦外面・内面にスス付着

◇蔦ケ長根Ⅲ遺跡実測土器のまとめ (2)　　※(　) は残存・推定寸法

図版番号 出土地点	①器種 ②口径・底径・高さ(cm) ③色調 ④胎土 ⑤焼成 ⑥器表面の主な文様(調整)／器内面の調整 ⑦備考
<5>第⑤図－3 第22号土壙内	①深鉢形土器 ②(24.8)・――・(18.8) ③橙色 ④密 ⑤良好 ⑥口縁部沈線文下に斜縄文／横位ミガキ ⑦外面にスス付着
<5>第⑤図－4 第23号土壙内	①鉢形土器 ②16.4・――・(10.3) ③明黄褐色 ④密 ⑤良好 ⑥磨消縄文・沈線文／横位ミガキ ⑦外面・内面にスス付着
<5>第⑤図－5 第16号土壙内	①深鉢形土器 ②25.4・9.6・32.1 ③明黄褐色 ④密 ⑤良好 ⑥斜縄文／ナデ ⑦外面・内面にスス付着，補修孔あり
<5>第⑥図－6 第20号土壙内	①深鉢形土器 ②――・10.2・(15.4) ③にぶい黄橙色 ④密 ⑤良好 ⑥斜縄文／ミガキ ⑦外面・内面にスス付着
<5>第⑥図－7 第27号土壙内	①深鉢形土器 ②――・5.9・(13.9) ③にぶい黄橙色 ④密 ⑤良好 ⑥斜縄文／横位ナデ ⑦内面朱付着
<5>第⑥図－8 第31号土壙内	①深鉢形土器 ②――・8.3・(7.6) ③にぶい黄橙色 ④密 ⑤良好 ⑥横位ナデ／横位ナデ ⑦内面にスス付着
<5>第⑥図－9 第30号土壙内	①深鉢形土器 ②(19.7)・――・(13.2) ③にぶい黄橙色 ④密 ⑤良好 ⑥斜縄文／ナデ ⑦外面・内面にスス付着
<5>第⑥図－10 第30号土壙内	①深鉢形土器 ②22.8・――・(14.9) ③にぶい黄橙色 ④密 ⑤良好 ⑥斜縄文／縦位・斜位ナデ ⑦外面にスス付着
<5>第⑦図－1 F3グリッド	①深鉢形土器 ②(24.0)・――・(15.1) ③明黄褐色 ④密 ⑤比較的良 ⑥口縁部沈線文下に斜縄文／ナデ ⑦外面にスス付着，内面二次火熱で剝落
<5>第⑦図－2 D2グリッド Sベルト	①台付鉢形土器 ②21.1・――・(18.2) ③赤褐色 ④密 ⑤良好 ⑥口縁部沈線文・刺突文下に斜縄文／ナデ ⑦外面・内面にスス付着
<5>第⑦図－3 遺物出土地点図 (へ)	①深鉢形土器 ②(13.4)・5.2・15.1 ③にぶい黄橙色 ④密 ⑤良好 ⑥口縁部沈線文下に斜縄文／ミガキ ⑦外面・内面にスス付着
<5>第⑦図－4 F2グリッド	①深鉢形土器 ②14.8・――・(16.9) ③明赤褐色 ④比較的密 ⑤良好 ⑥斜縄文／縦位ナデ ⑦口唇部コブ付
<5>第⑦図－5 F3グリッド	①台付土器 ②――・台部19.6・(9.1) ③明黄褐色 ④密 ⑤良好 ⑥無文／横位ナデ
<5>第⑨図－1 F3グリッド	①深鉢形土器 ②(24.6)・――・(19.5) ③明黄褐色 ④密 ⑤良好 ⑥斜縄文／横位ミガキ ⑦外面にスス付着
<5>第⑨図－2 I9グリッド	①深鉢形土器 ②――・7.5・(11.8) ③橙色 ④比較的密 ⑤良好 ⑥横位ナデ／横位ナデ
<5>第⑨図－3 遺物出土地点図 (い)	①深鉢形土器 ②(17.4)・――・(20.8) ③にぶい橙色 ④密 ⑤良好 ⑥斜縄文／横位ナデ ⑦外面・内面にスス付着
<5>第⑨図－4 遺物出土地点図 (ほ)	①深鉢形土器 ②11.9・4.0・10.5 ③明黄褐色 ④密 ⑤比較的良 ⑥口縁部沈線文下に斜縄文／横位ミガキ ⑦外面にスス付着
<5>第⑨図－5 遺物出土地点図 (ほ)	①壺形土器 ②――・6.8・(7.6) ③明黄褐色 ④密 ⑤良好 ⑥斜縄文／横位ナデ
<5>第⑬図 下 D6・7グリッド	①尖底深鉢形土器 ②(29.0)・――・(15.8) ③明赤褐色 ④密 ⑤良好 ⑥口縁部刺突文下に斜縄文／ナデ

◇小　結

本遺跡においては第１号住居跡を除いて平面形，規模が不明ながら石囲い炉あるいは地床炉をもつ６軒の住居跡と断面が袋状・円錐状・円筒状を呈する33基の土壙を検出した。出土遺物により縄文時代晩期前半にその時期が考えられる。

調査区内では住居跡は台地の中央に集まっており，土壙は住居跡に付属するものもあるが，大部分が南側に集まっている。集落としてはⅠ～Ⅱ期の短期間に営まれたものと考えられる。

秋田県内では縄文時代晩期の集落跡として比定される遺跡はない。『大館市史』は大館市山館上ノ山遺跡（第１章第３節参照）の調査で縄文時代晩期の竪穴住居跡１軒と袋状土壙を検出したとしているが，住居跡の詳細についてはふれていない。今後の類例の増加を期待したい。

なお住居跡は炉跡を第２層めの褐色土上面で確認し，柱穴を地山の明黄褐色火山灰層まで下げて確認した。鳶ケ長根Ⅳ遺跡でもふれたが，この台地周辺の縄文時代の生活面は地山の明黄褐色火山灰層より上の面で確認できると考えられる。

◇住居跡のまとめ

住居跡名	平面形	規模	柱穴	炉跡（位置）
第１号住居跡	円形	３ｍ70cm×３ｍ20cm	４～６個	地床炉（中央部）
第２号住居跡	不明	３ｍ90cm以上	４～６個	石囲い炉？（中央部）
第３号住居跡	不明	３ｍ90cm以上	４～６個	石囲い炉（南寄り）
第４・５・６号住居跡	不明	不明	４以上	地床炉？（不明）

◇土壙のまとめ

土壙名	平面形	規模（m）口径・底径・深さ	断面の形状	土壙名	平面形	規模（m）口径・底径・深さ	断面の形状
第１号土壙	円形	1.0　1.8　1.1	円錐状	第17号土壙	円形	1.2　1.9　0.9	円錐状
第２号土壙	円形	1.3　1.8　0.85	袋状	第18号土壙	円形	1.0　1.8　0.7	円錐状
第３号土壙	楕円形	1.7　1.7　0.65	袋状	第19号土壙	円形	1.3　1.4　0.5	袋状
第４号土壙	円形	1.2　1.2　0.5	袋状	第20号土壙	円形	0.9　1.3　0.8	円錐状
第５号土壙	円形	1.0　1.4　0.6	円錐状	第21号土壙	不整円形	1.1　1.3　1.1	円筒状
第６号土壙	円形	1.2　1.5　0.8	円錐状	第22号土壙	円形	1.1　1.2　0.4	不明
第７号土壙	円形	1.0　1.2　0.5	袋状	第23号土壙	円形	1.4　1.5　0.85	円錐状
第８号土壙	円形	1.0　1.7　0.9	円錐状	第24号土壙	円形	1.0　1.2　0.5	袋状
第９号土壙	円形	1.2　1.3　0.4	袋状	第25号土壙	円形	1.0　1.5　0.9	円錐状
第10号土壙	円形	1.3　2.3　0.95	袋状	第26号土壙	円形	1.1　1.3　0.7	袋状
第11号土壙	円形	1.3　1.4　1.05	袋状	第27号土壙	円形	0.7　1.2　0.8	袋状
第12号土壙	円形	1.9　2.5　0.6	袋状	第28号土壙	円形	0.8　1.0　0.6	袋状
第13号土壙	円形	1.1　1.0　0.7	円筒状	第29号土壙	円形	1.3　1.3　0.45	袋状
第14号土壙	円形	1.9　0.7　0.75	円筒状	第30号土壙	円形	1.6　1.5　0.5	円筒状
第15号土壙	円形	1.0　1.2　0.6	袋状	第31号土壙	円形	1.7　1.8　0.6	袋状
第16号土壙	円形	1.1　1.6　0.9	袋状	第32号土壙	円形	1.2　1.7　0.6	円錐状
				第33号土壙	円形	0.5　1.0　0.9	円錐状

放射性炭素年代測定結果報告

Code No.	試　　料	B.P.年代
N—3967	鳶ケ長根II遺跡第2号土壙内	2980± 90yB.P.(2900± 85yB.P.)

日本アイソトープ協会

放射性炭素年代測定結果報告

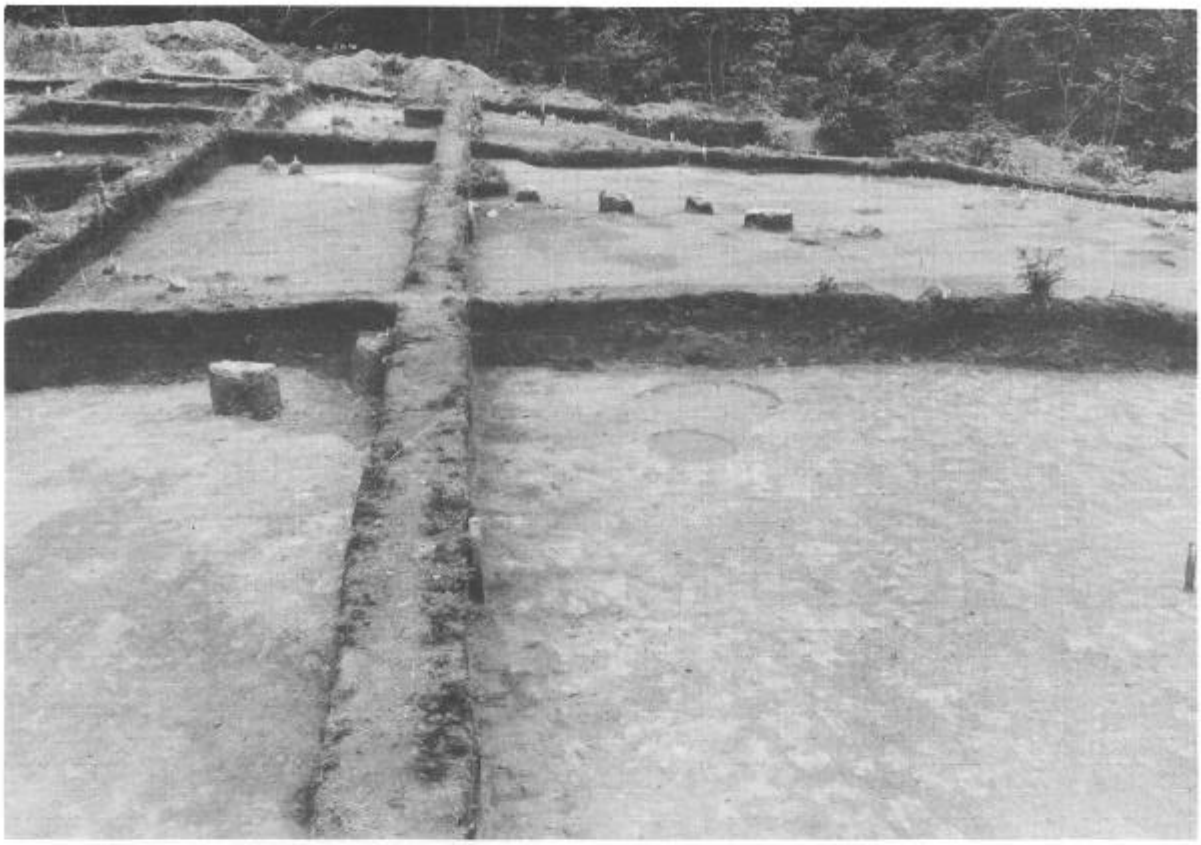
Code No.	試　　料	B.P.年代
N—3966	鳶ケ長根III遺跡第17号土壙内	2780± 90yB.P.(2700± 85yB.P.)
N—3968	鳶ケ長根III遺跡第16号土壙内	2940± 90yB.P.(2850± 85yB.P.)

年代は ^{14}C の半減期5730年（カッコ内はLibbyの値5568年）にもとづいて計算され，西暦1950年よりさかのぼる年数（years B.P.）として示されています。付記された年代誤差は、放射線計数の統計誤差と、計数管のガス封入圧力および温度の読取の誤差から計算されたもので、^{14}C 年代がこの範囲に含まれる確率は約70%です。この範囲を2倍に拡げますと確率は約95%となります。なお ^{14}C 年代は必らずしも真の年代とひとしくない事に御注意下さい。

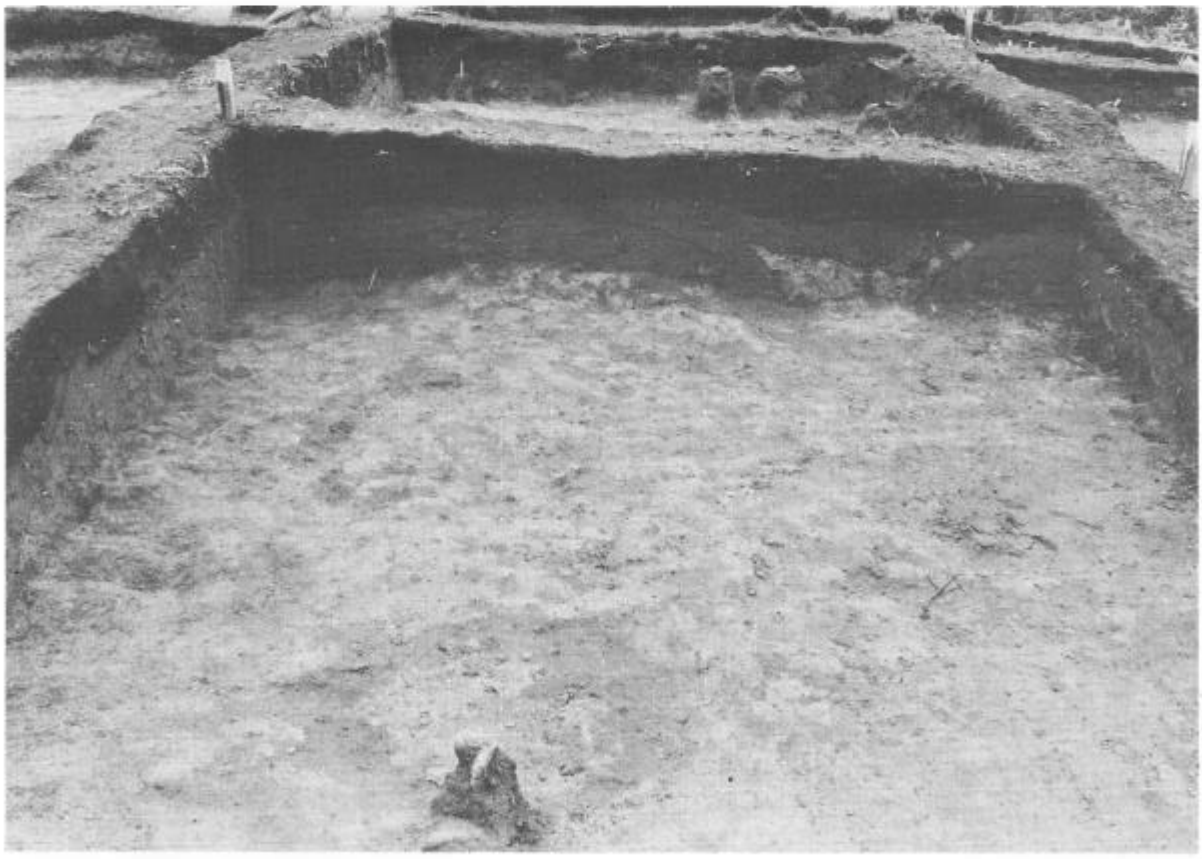
日本アイソトープ協会

発掘調査前（西▶東）

発掘調査後（西▶東）

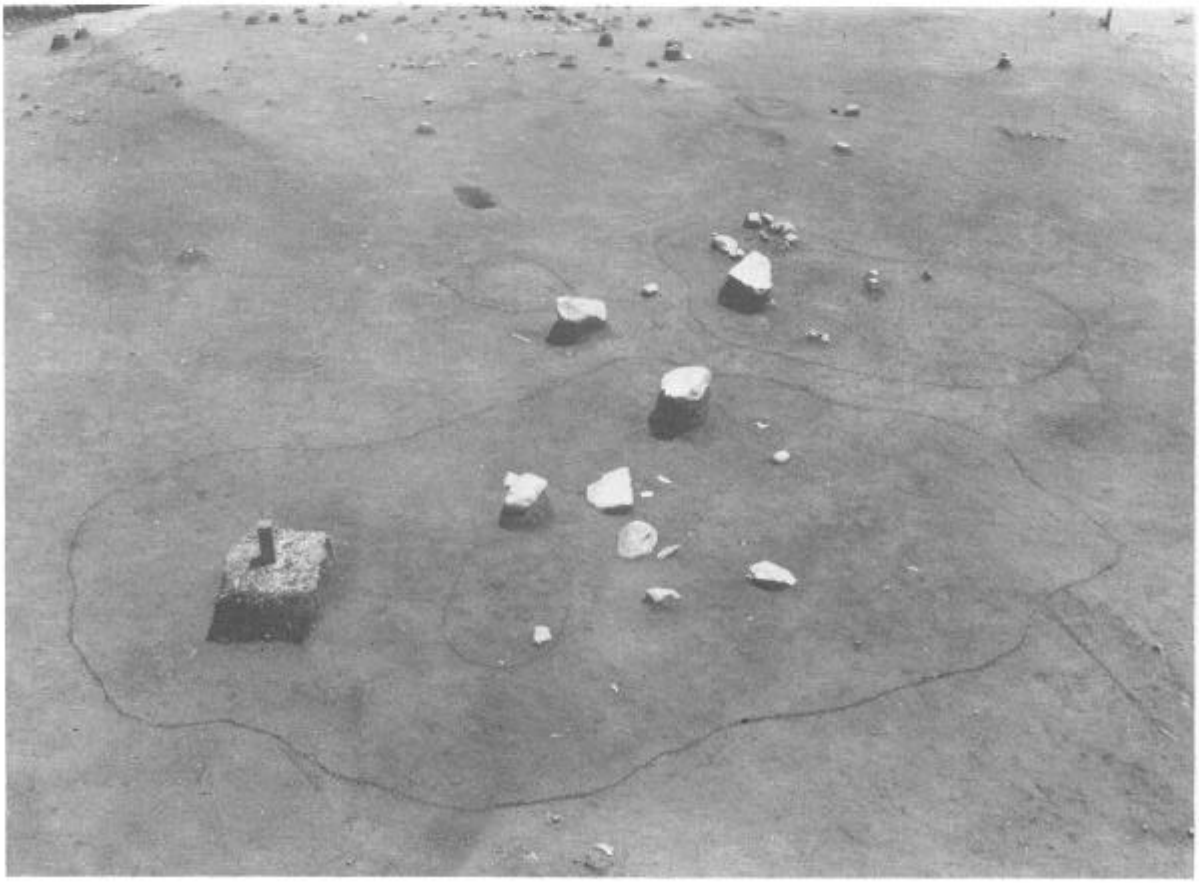


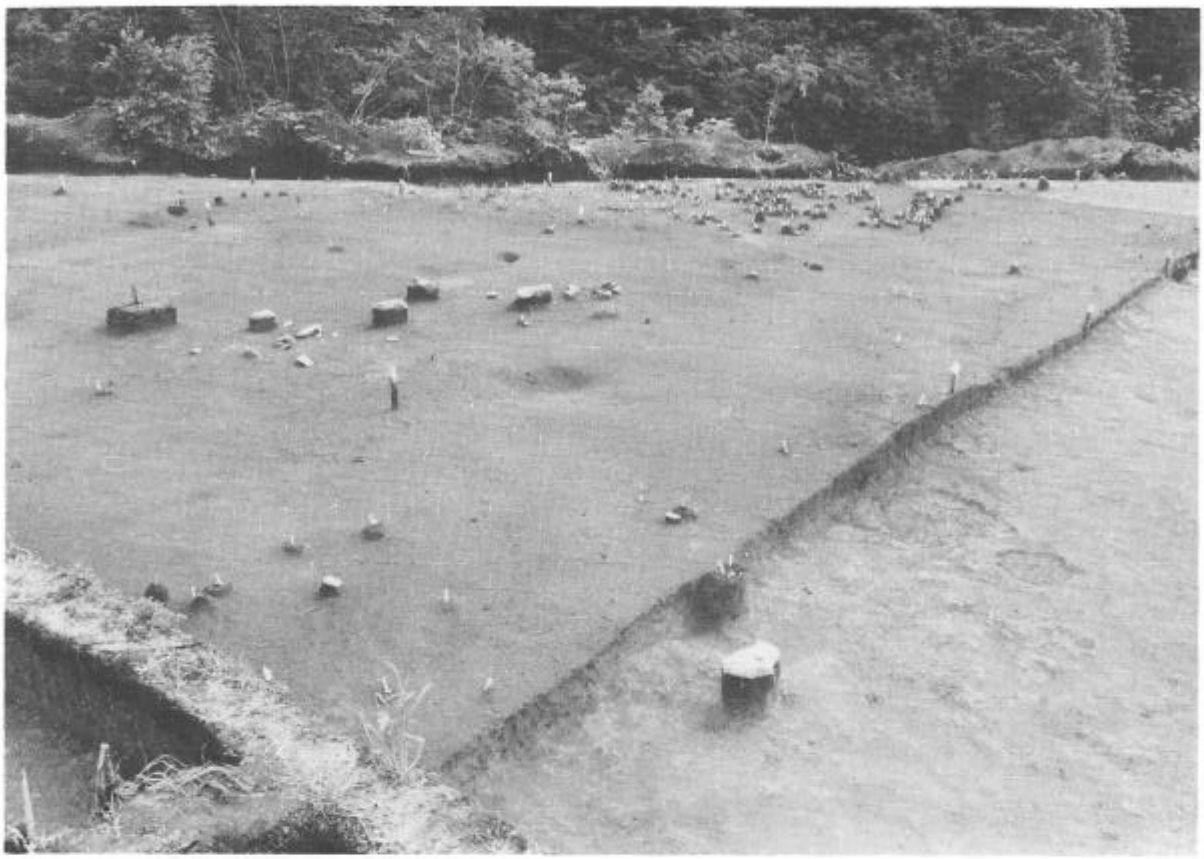
土　層（南▶北）



土　層（東▶西）

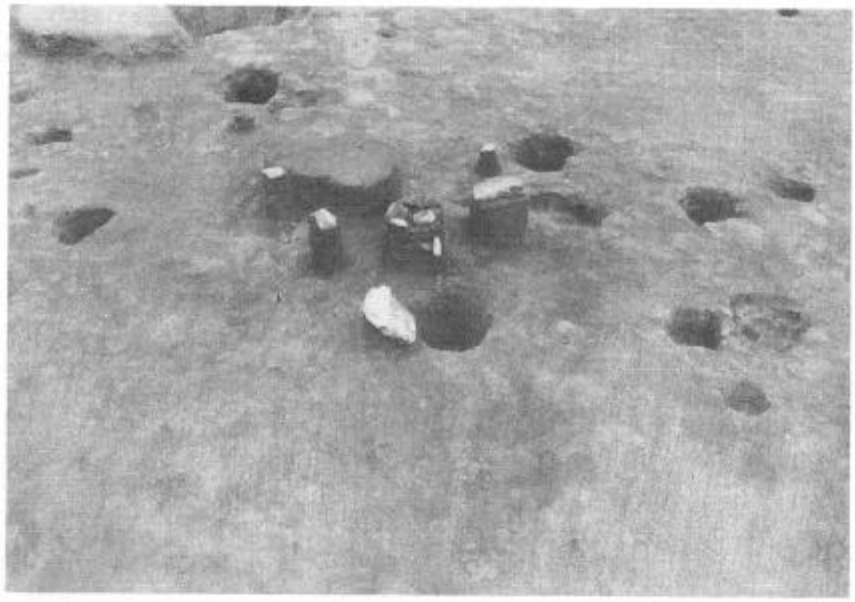
住居跡と遺物出土状況（西▶東）



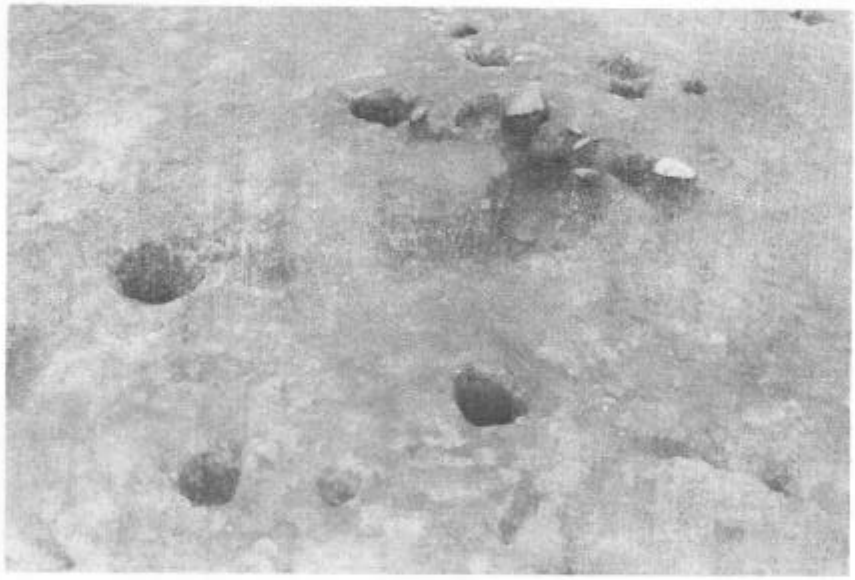


遺物出土状況（西▶東）

住居跡群と土壙群（西▶東）



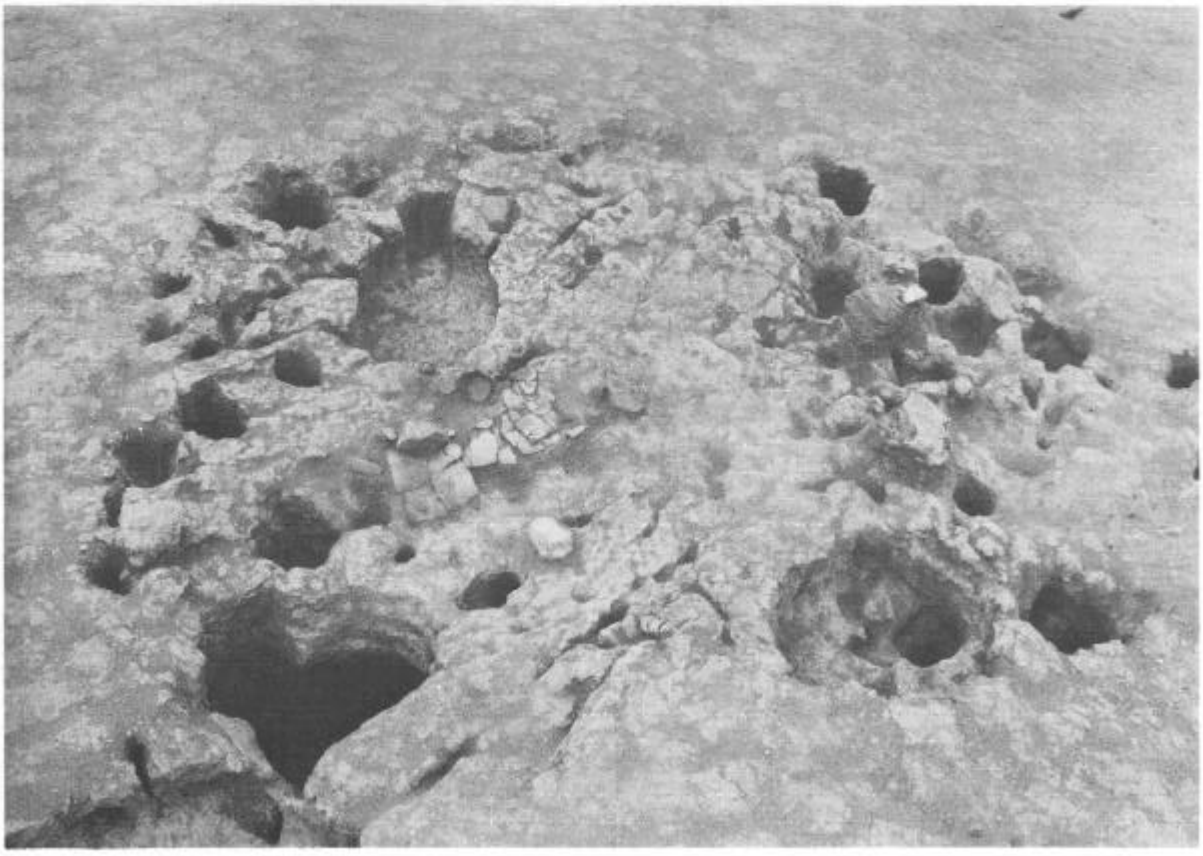
第2号住居跡
（南▶北）



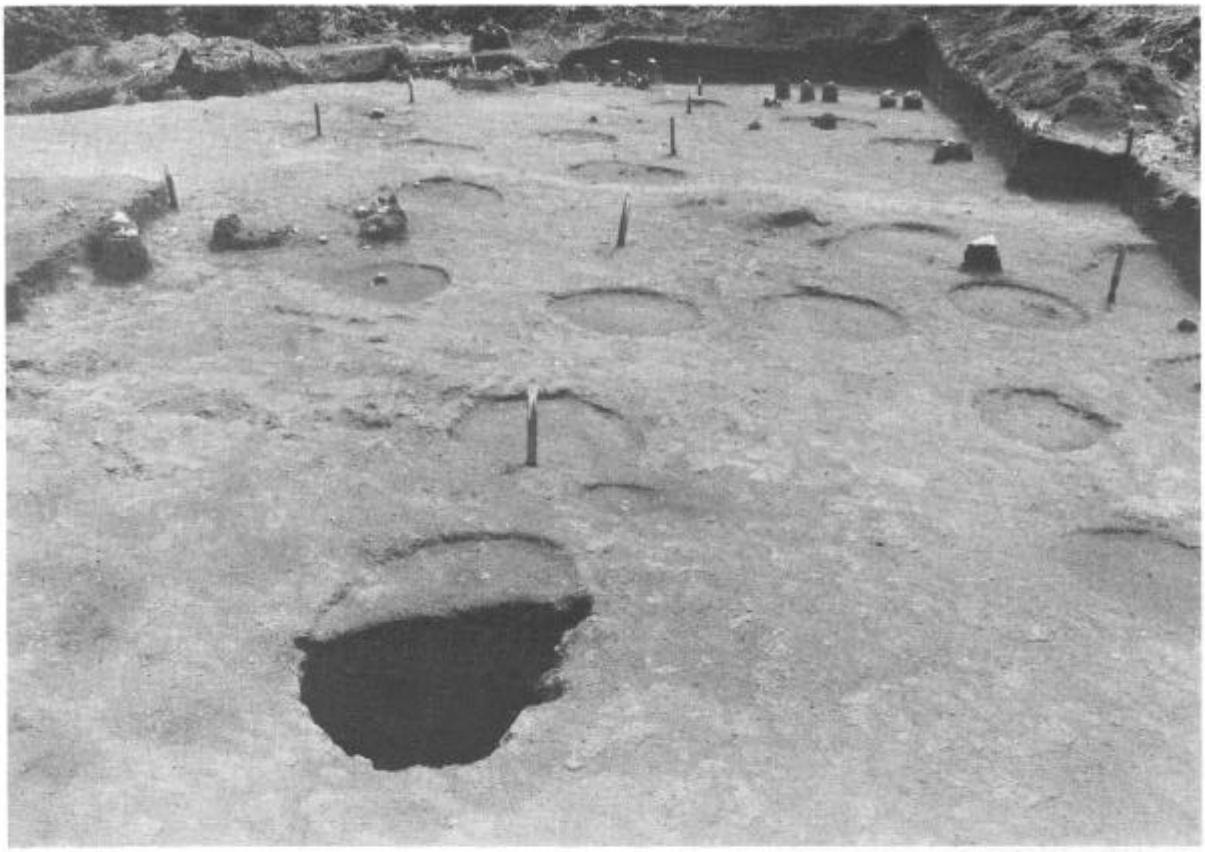
第3号住居跡
（南▶北）

集石と土壙
（南▶北）

第1号住居跡確認状況（南▶北）

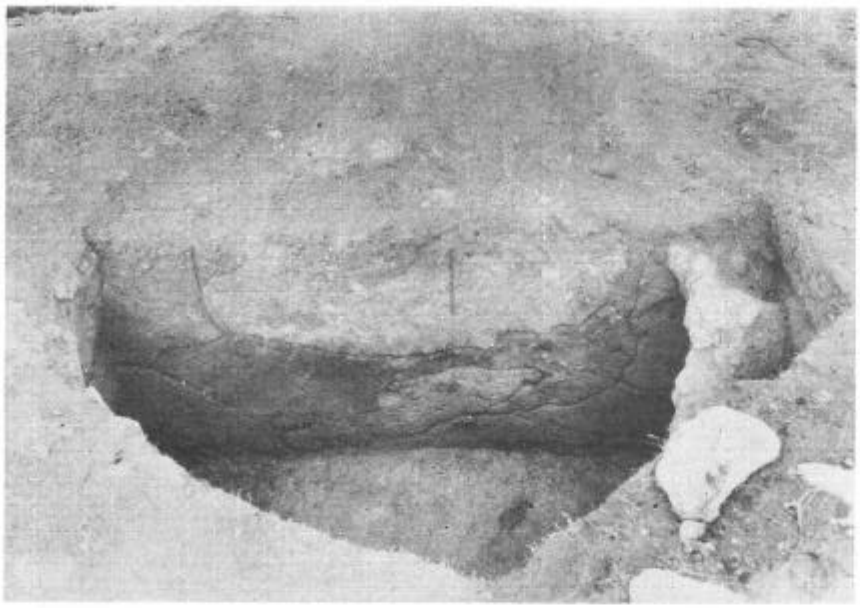


第1号住居跡検出状況（南▶北）

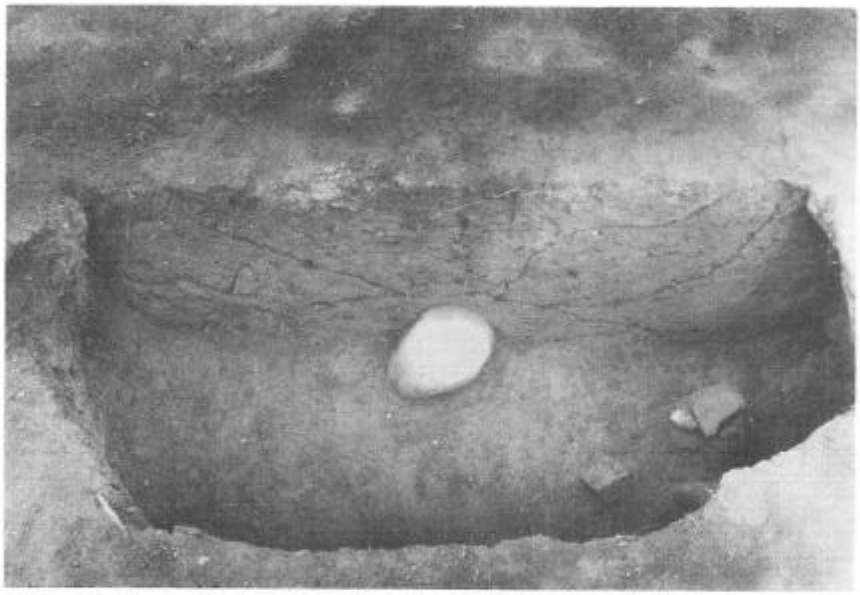


土壙群確認状況（西▶東）

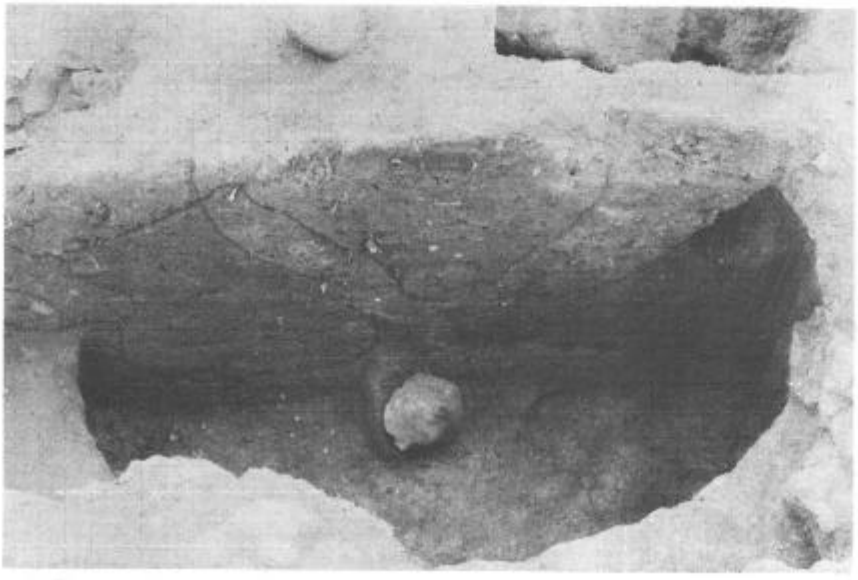
土壙群検出状況（西▶東）



第6号土壙
（西▶東）

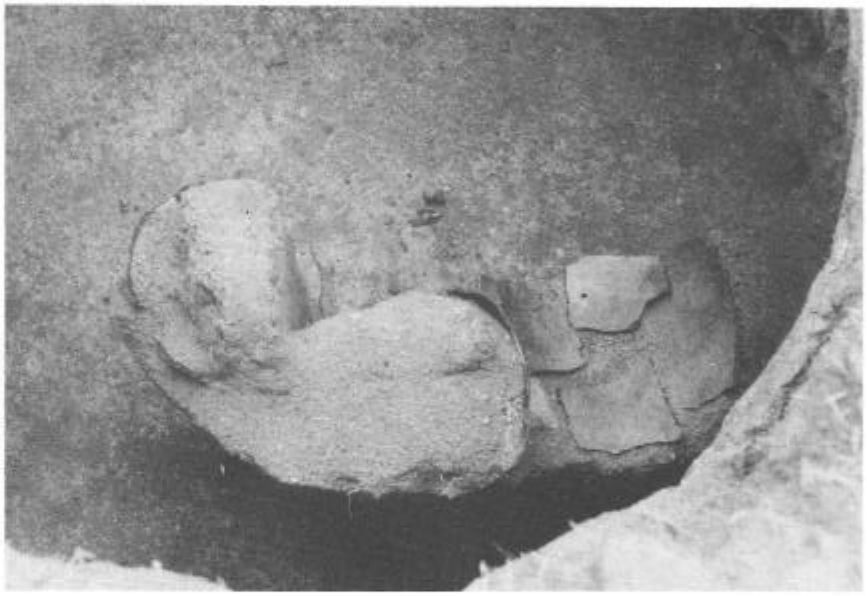


第28号土壙
（西▶東）

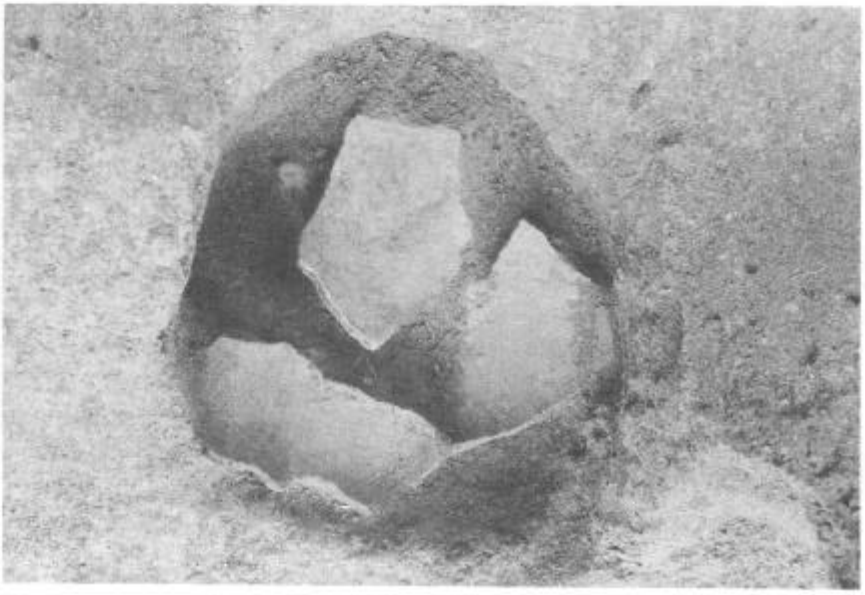


第22号土壙
（西▶東）

第21号土壙
出土遺物

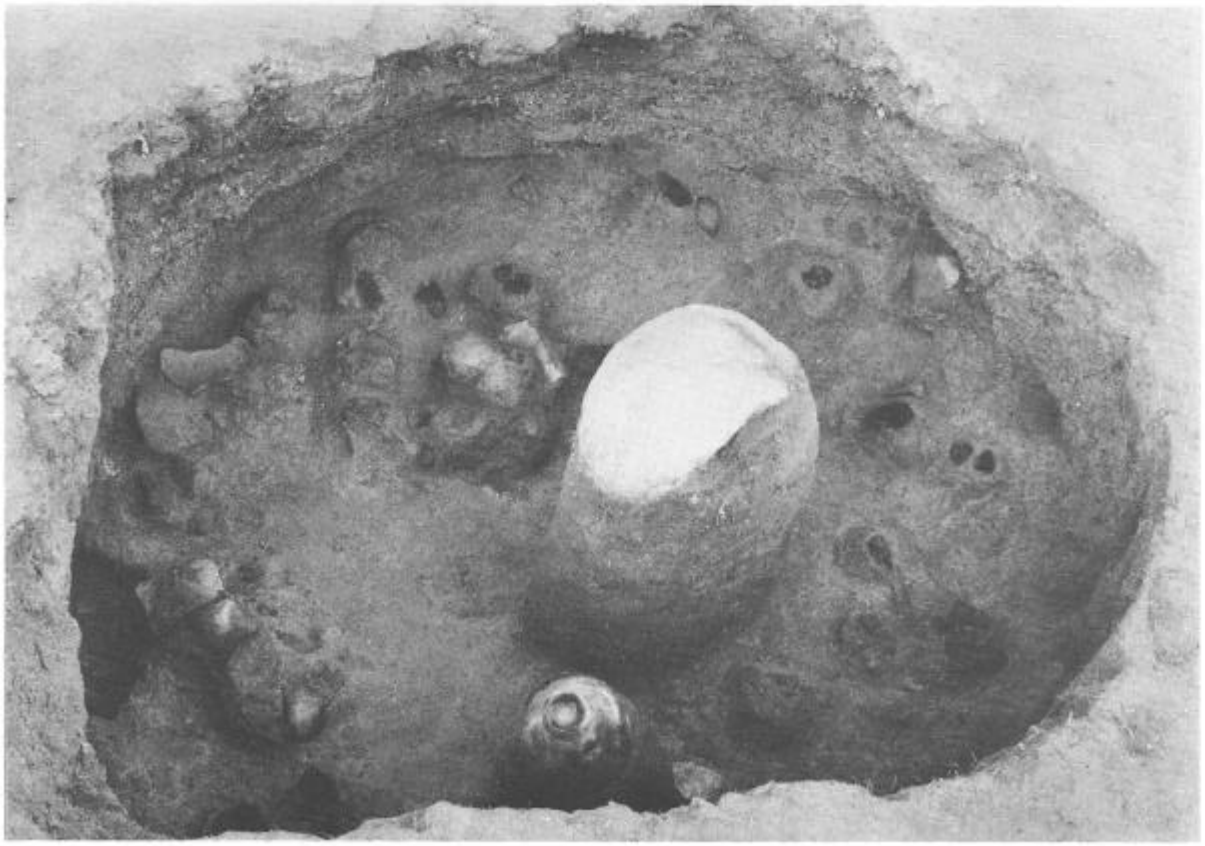


第16号土壙
出土遺物

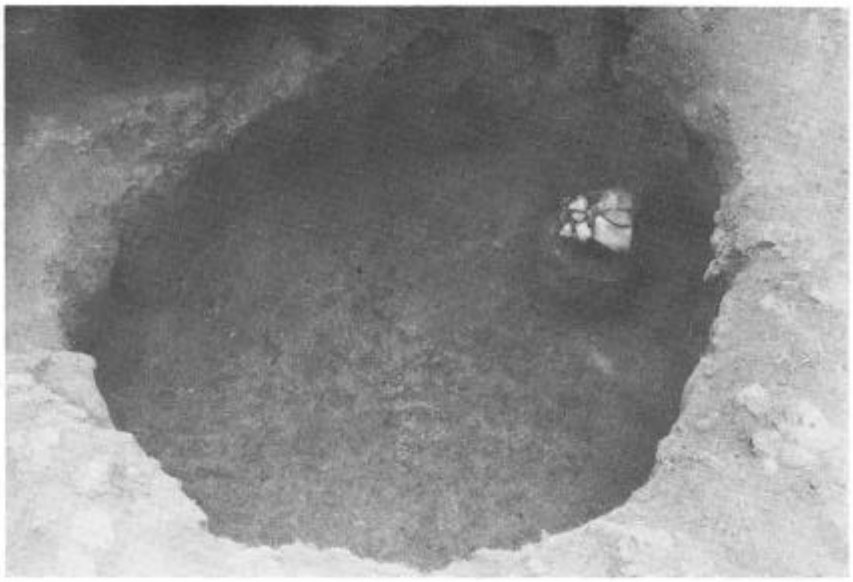


第12号土壙
出土遺物

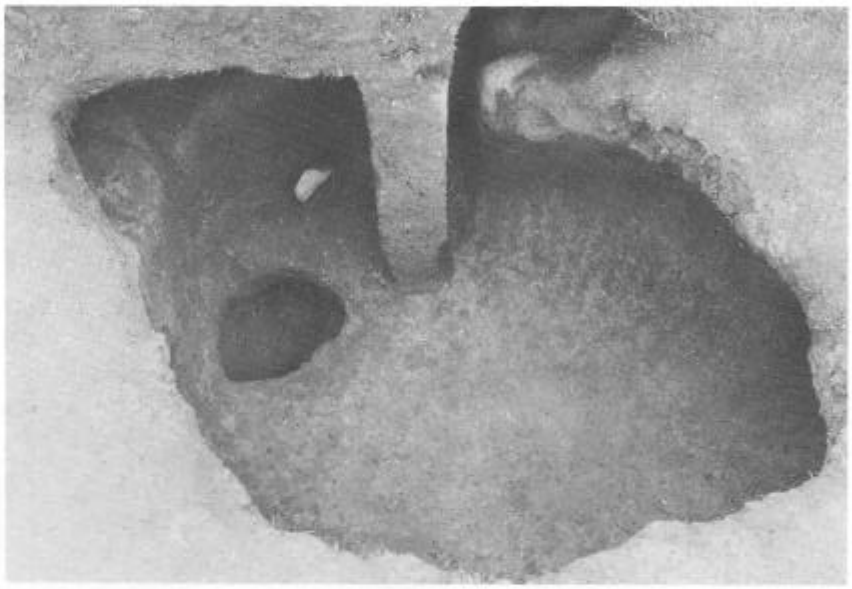
土壙群近景（南▶北）



第32号土壙（南▶北）



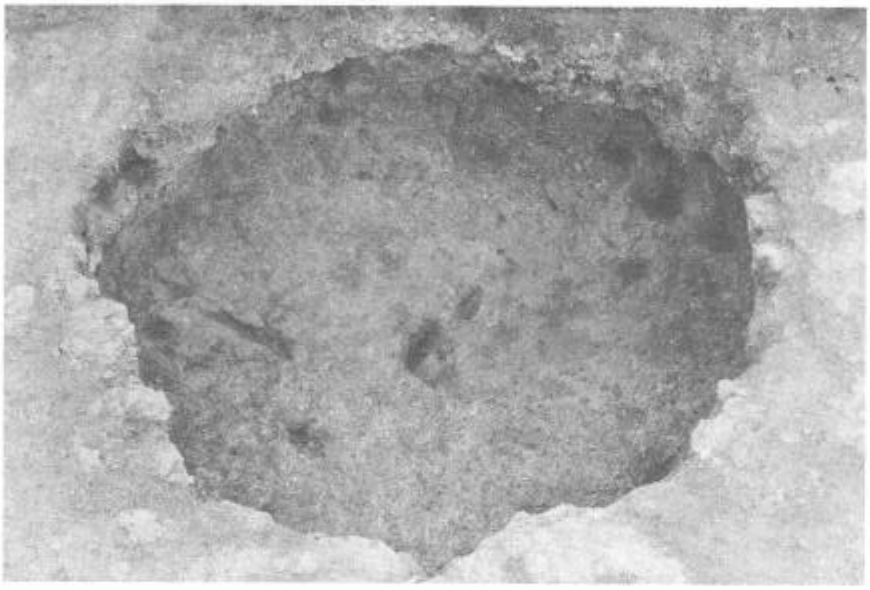
第2号土壙
（北▶南）



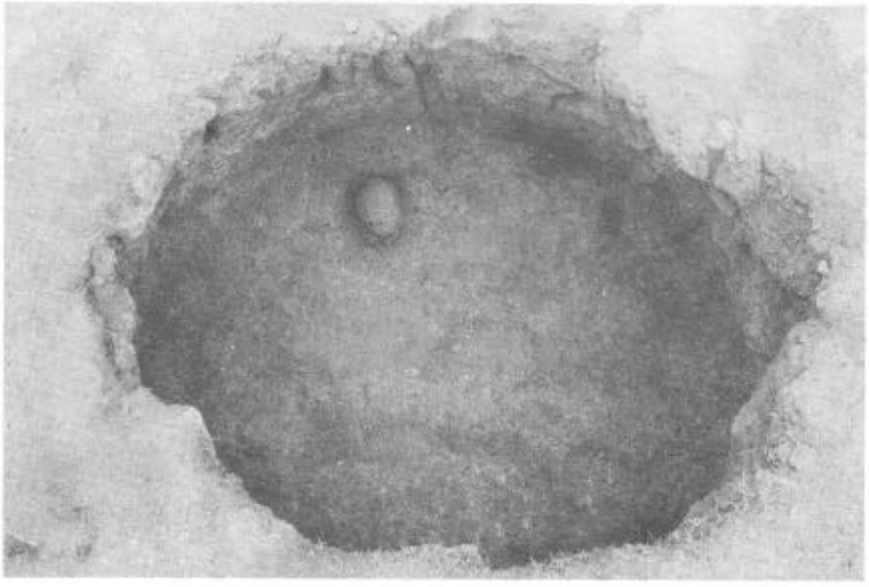
第3号土壙
（北▶南）

第11, 12, 12′号土壙
（北▶南）

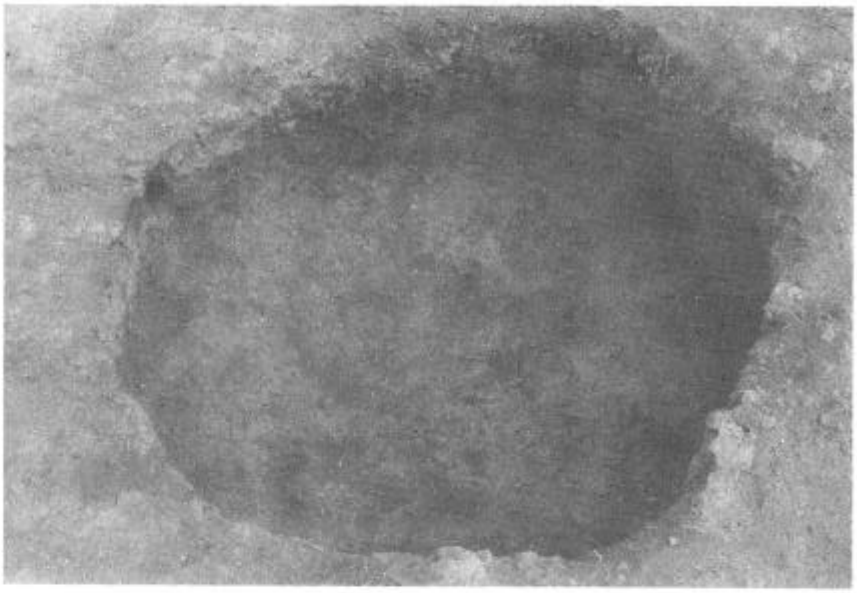
第4号土壙
（北▶南）



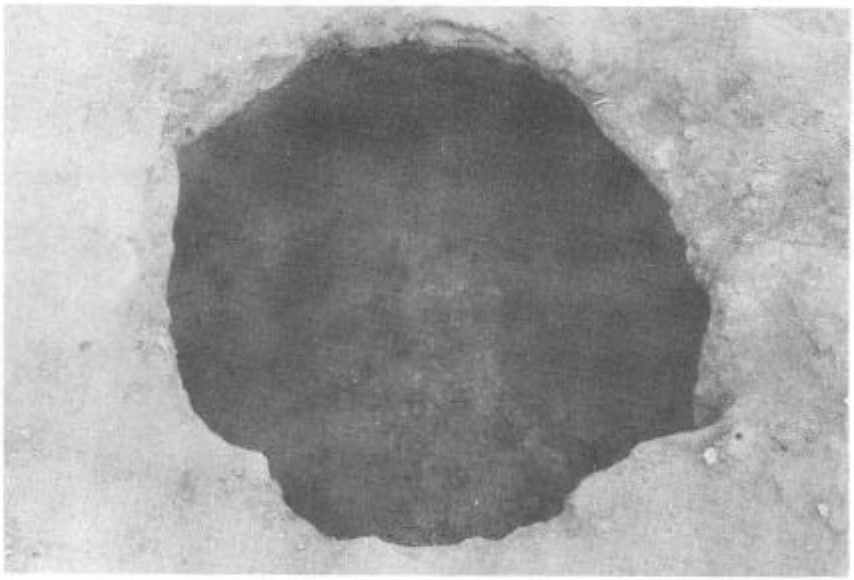
第19号土壙
（北▶南）



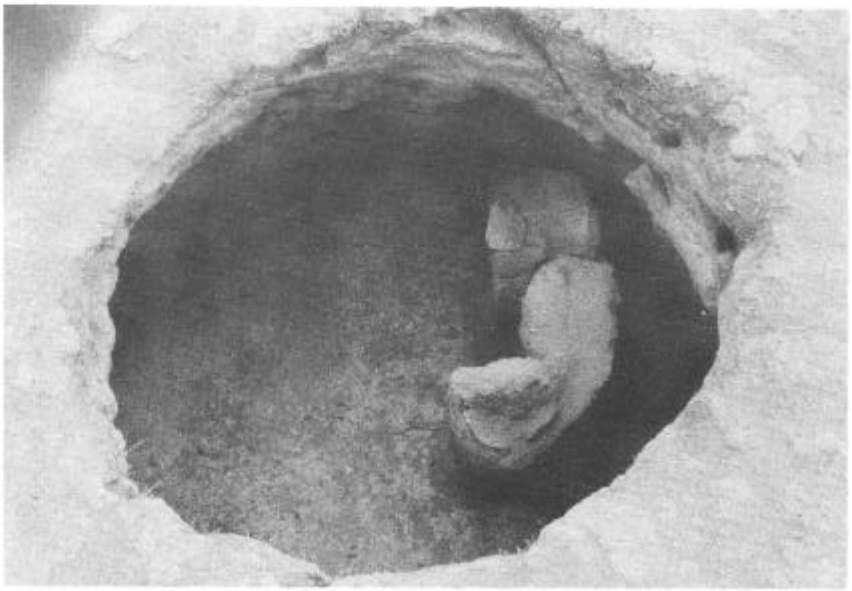
第15号土壙
（北▶南）



第29号土壙
（北▶南）

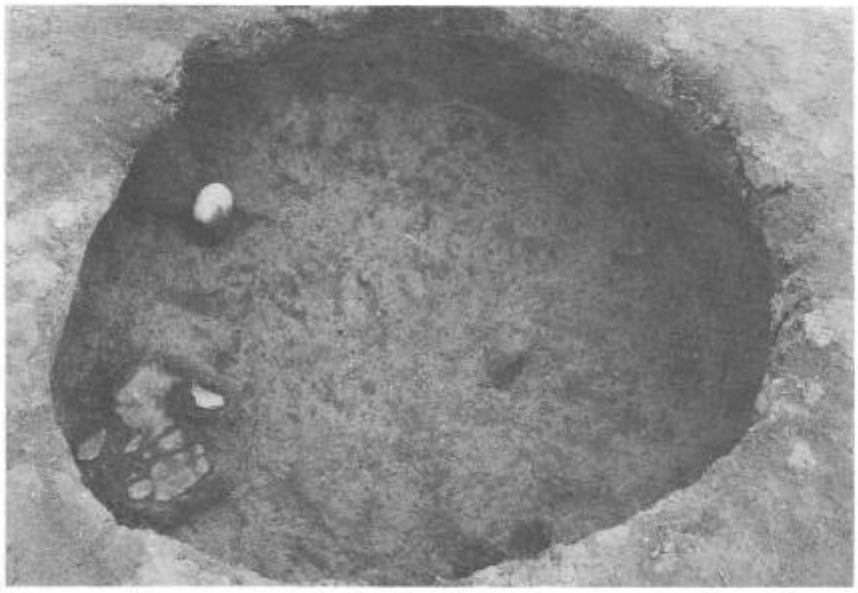


第8号土壙
（北▶南）



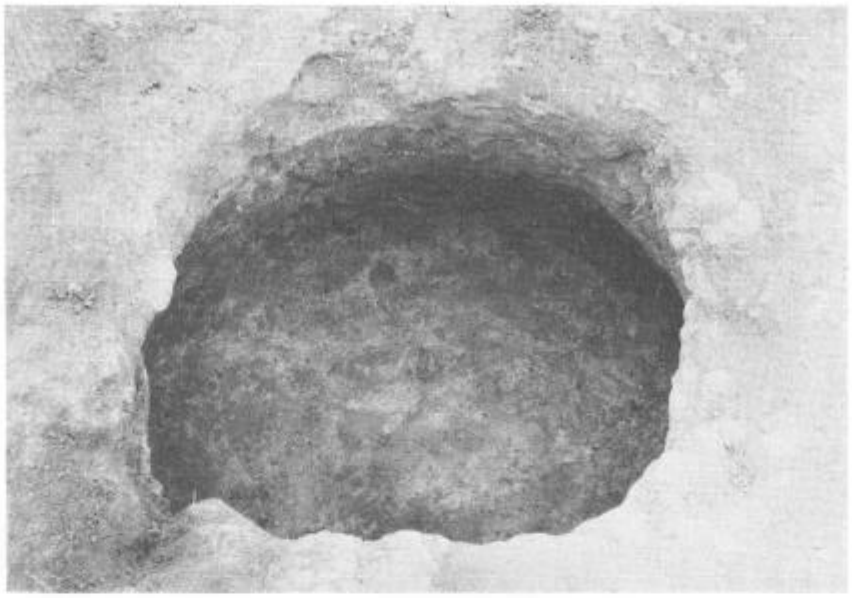
第16号土壙
（北▶南）

第17号土壙
（北▶南）

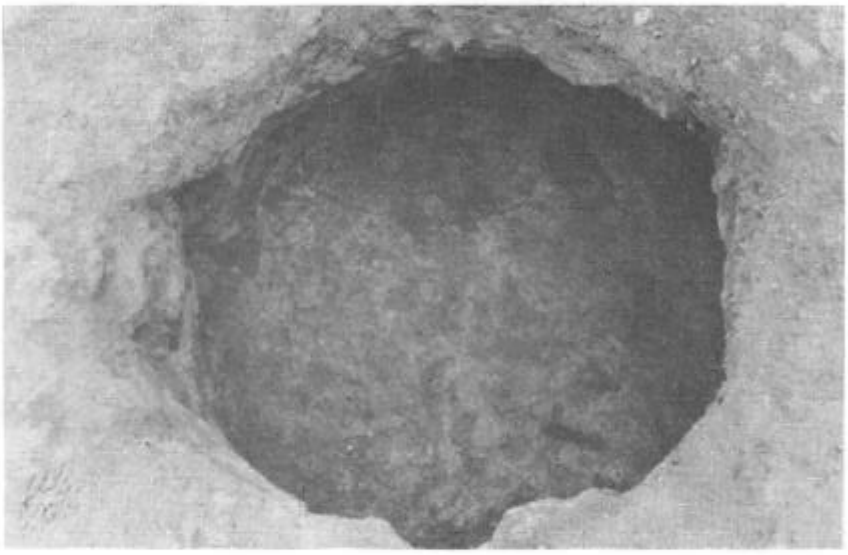


第9号土壙
（北▶南）

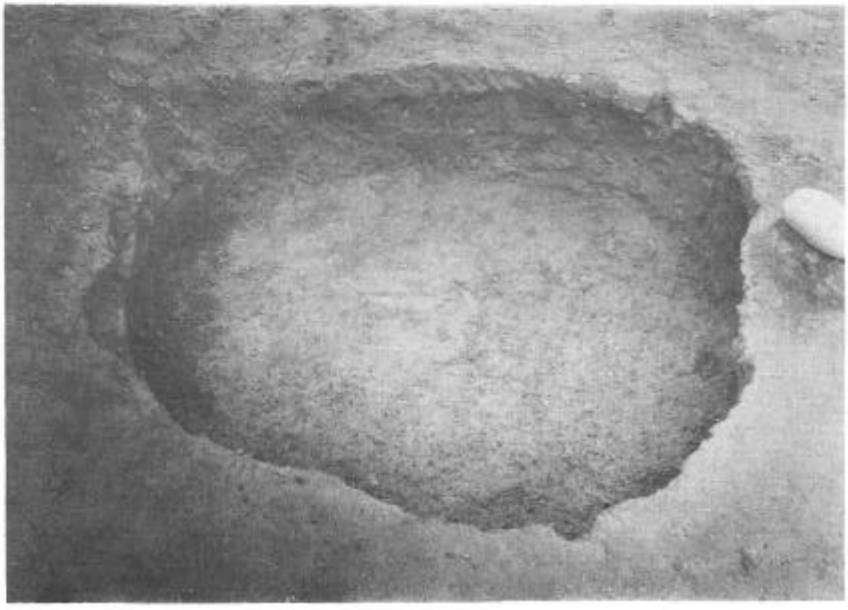
第6号土壙
（北▶南）



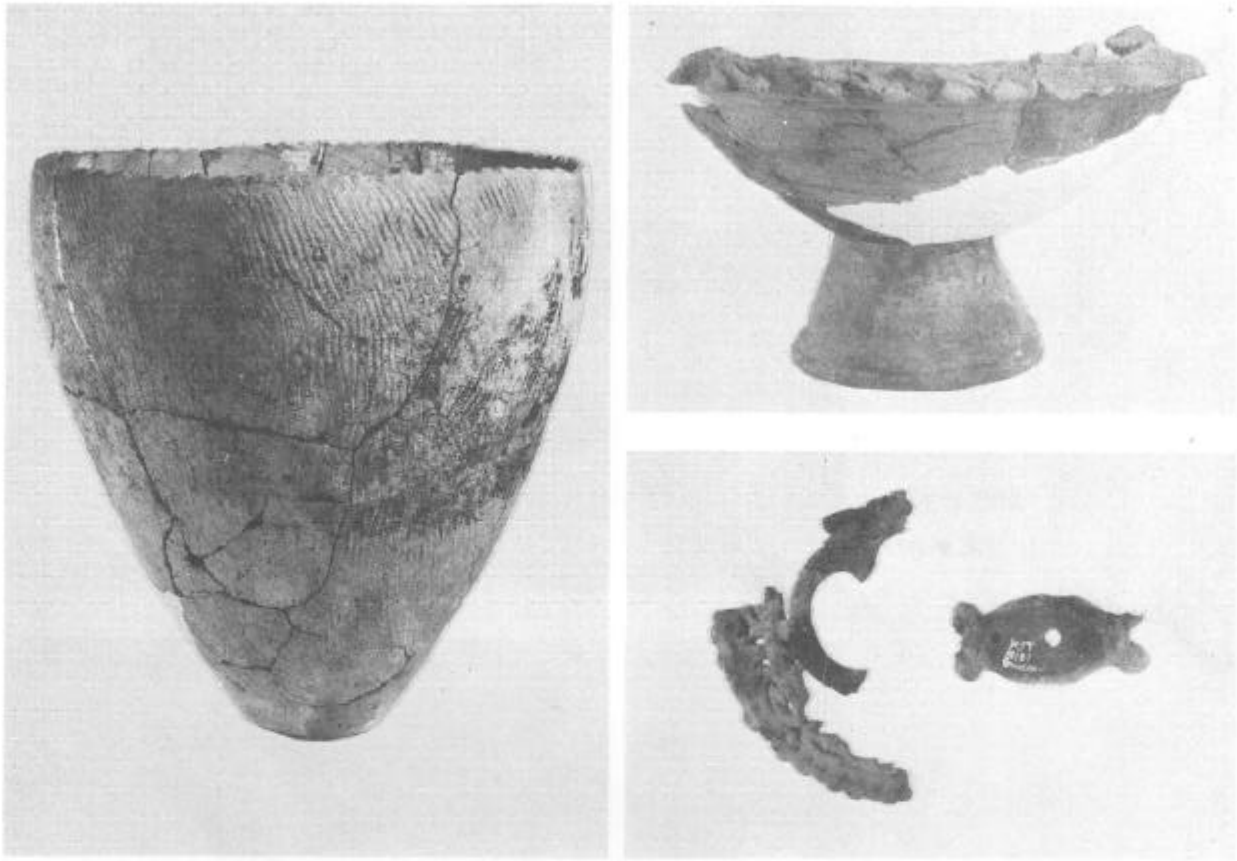
第27号土壙
（北▶南）



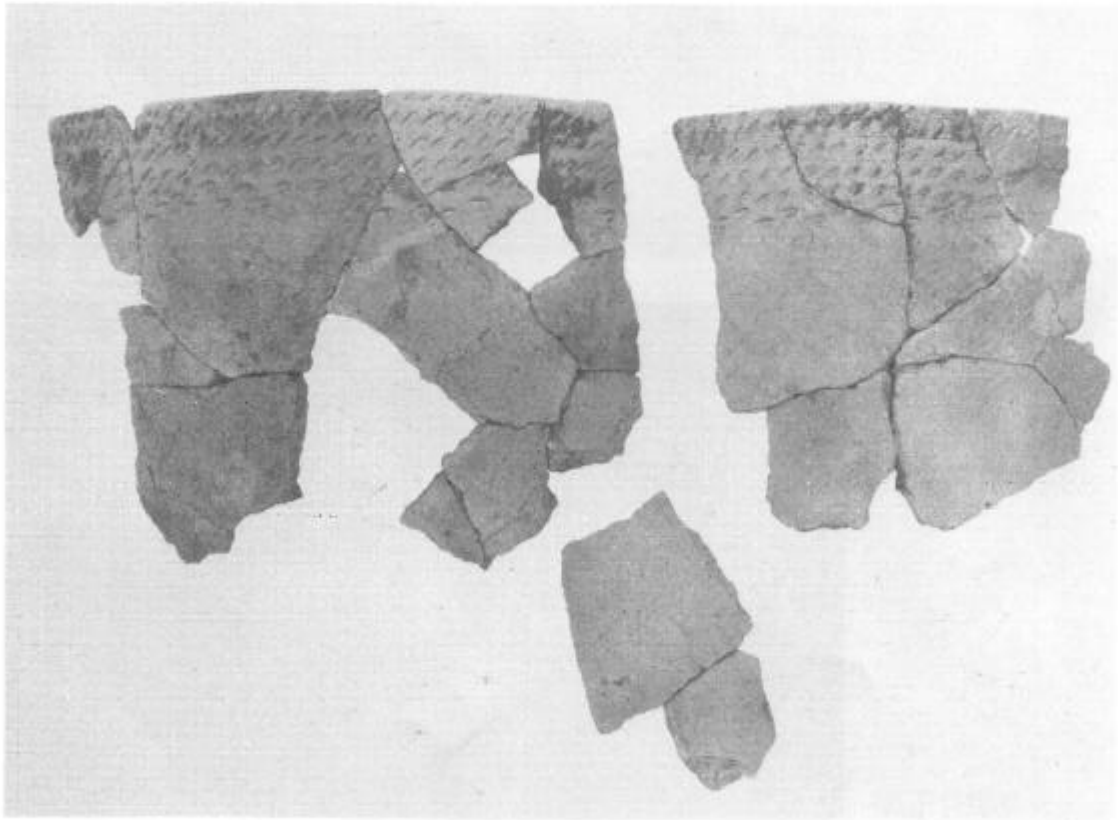
第28号土壙
（北▶南）



第31号土壙
（北▶南）

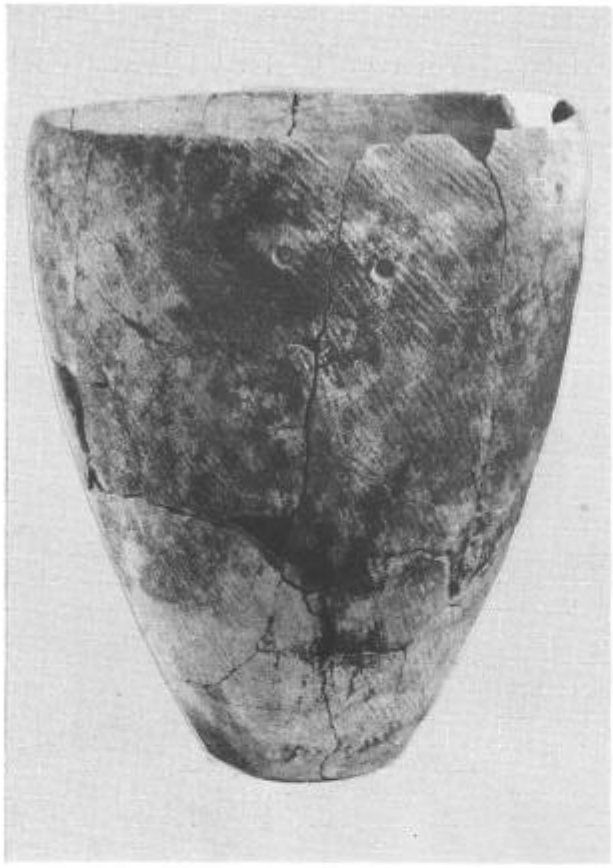


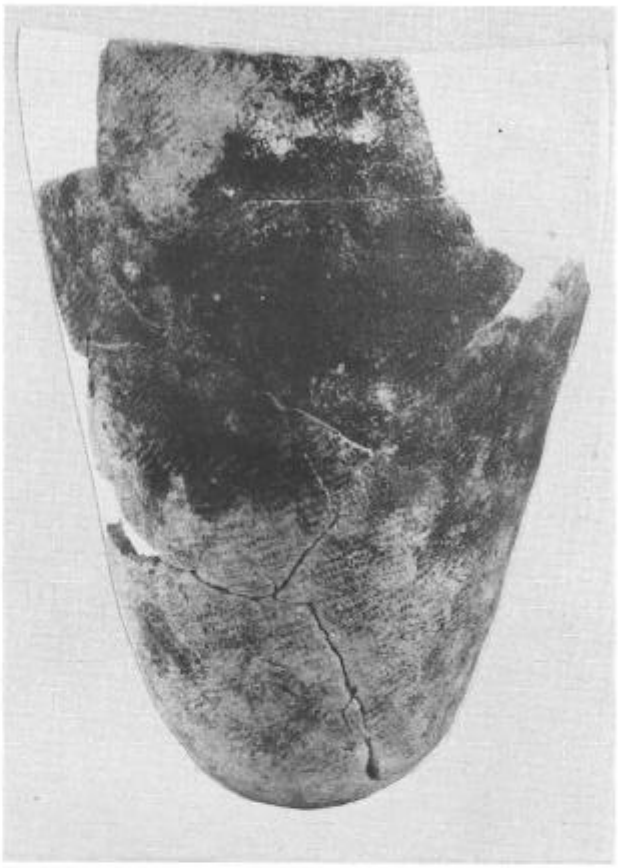
第1号住居跡出土土器



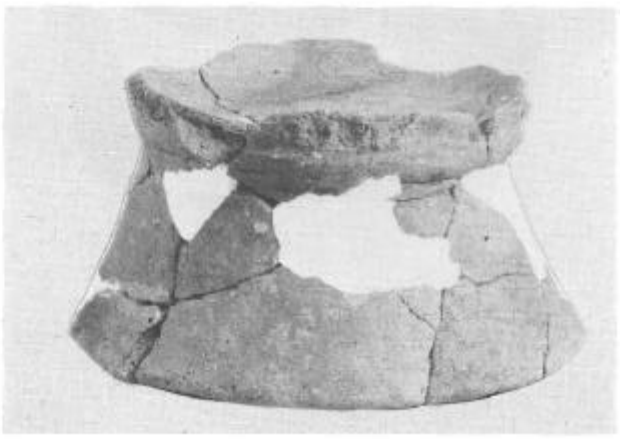
縄文時代早期の土器

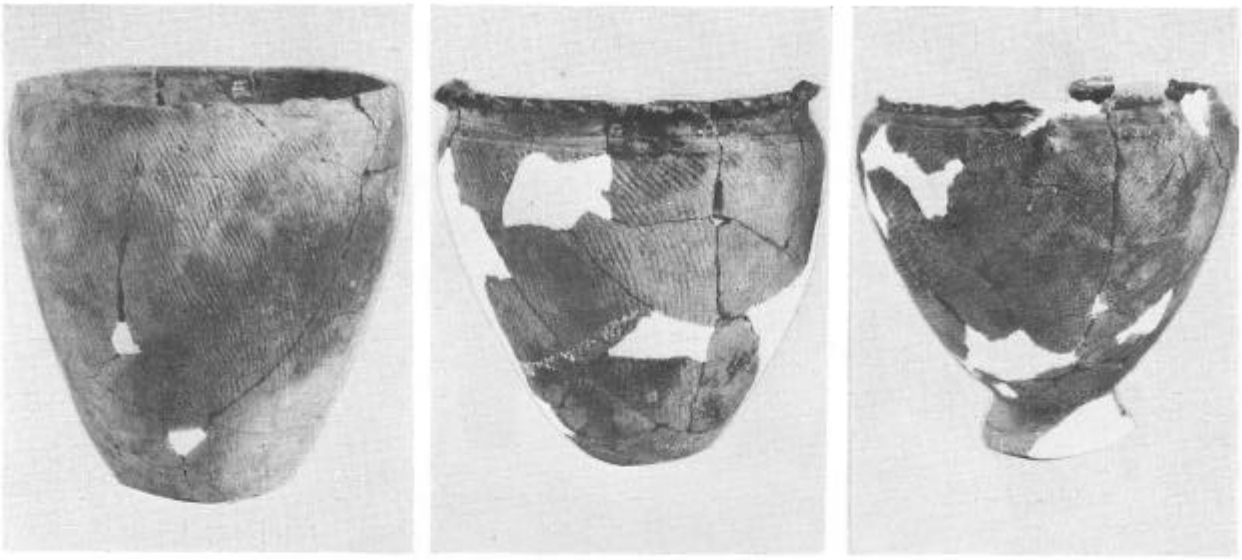
第32号土壙出土土器

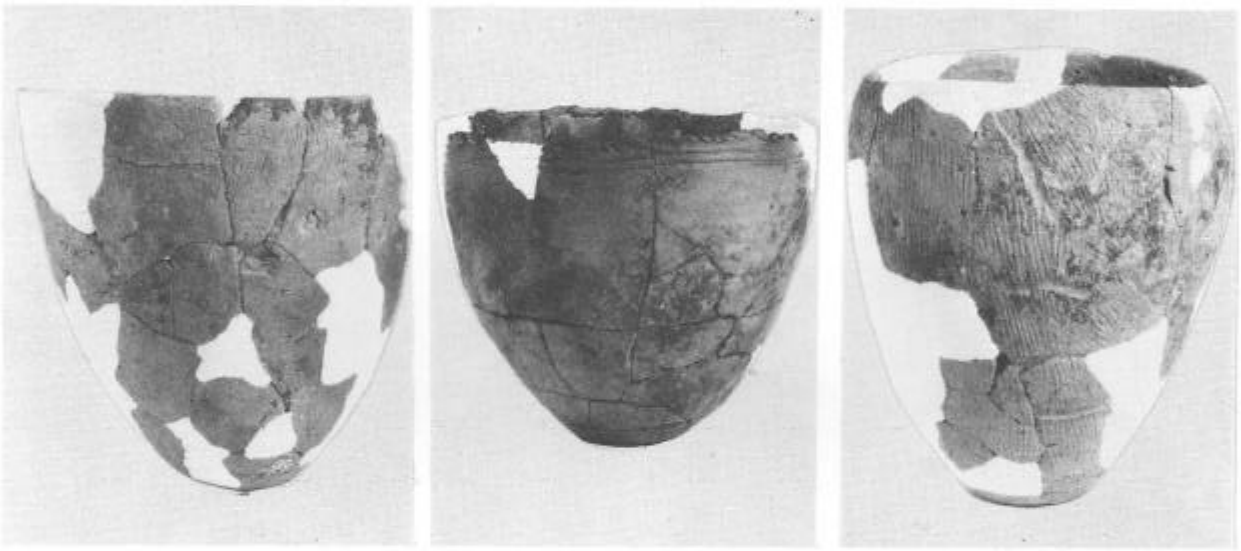




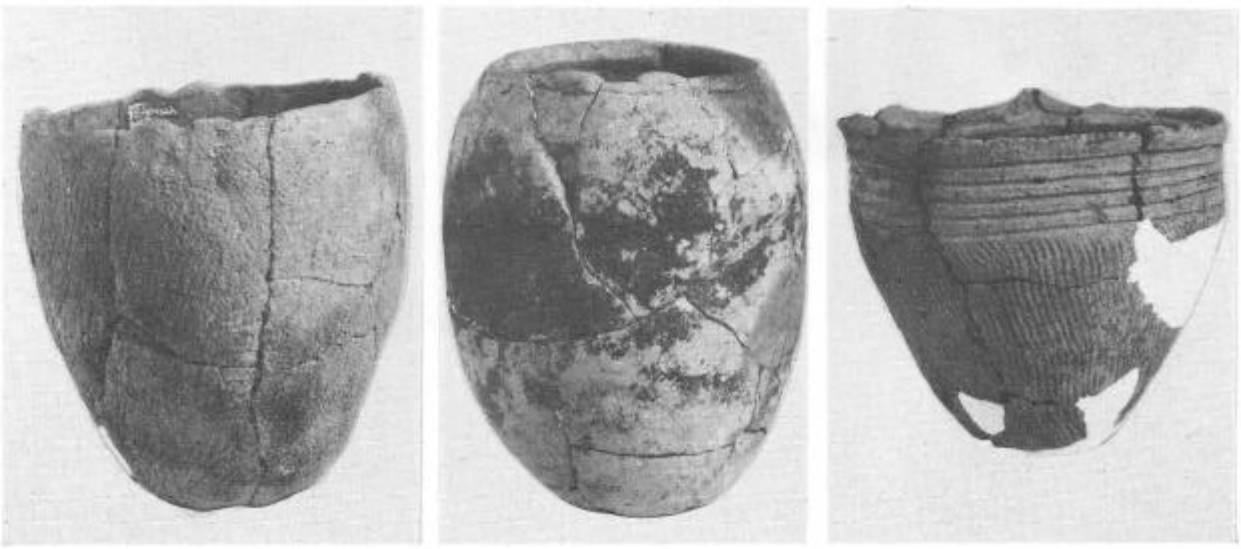
出　土　土　器

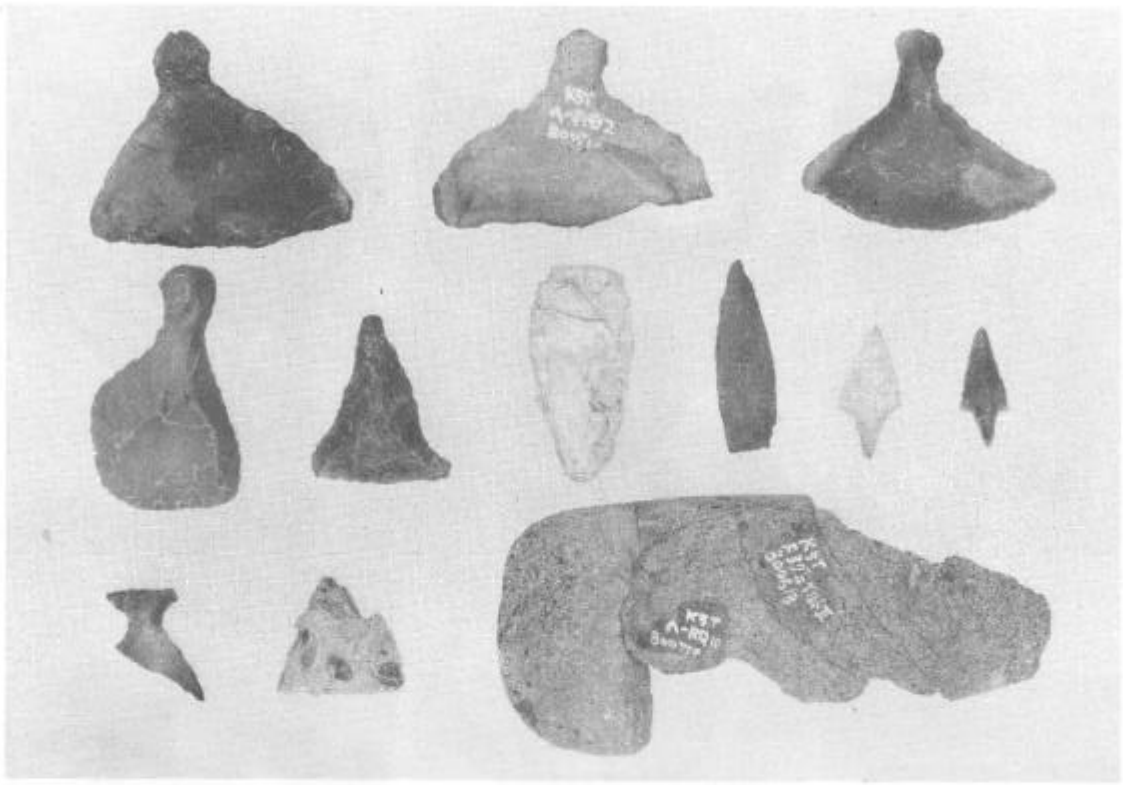


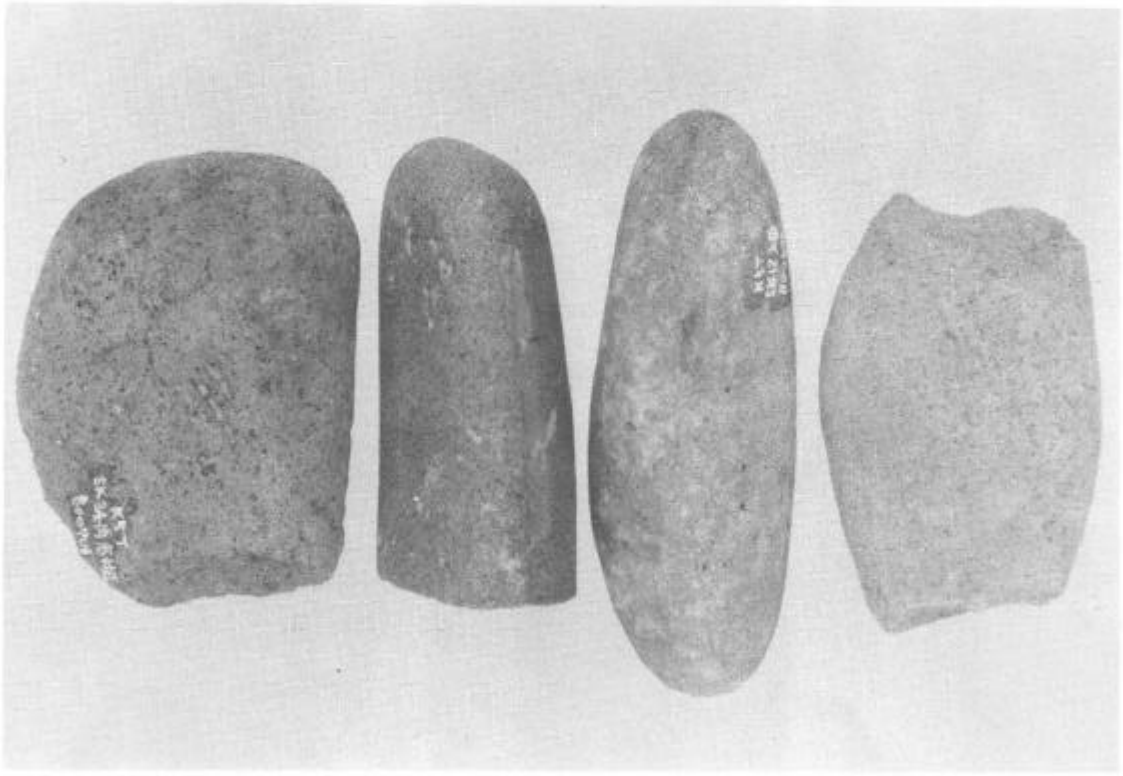




出　土　土　器







出　土　石　器

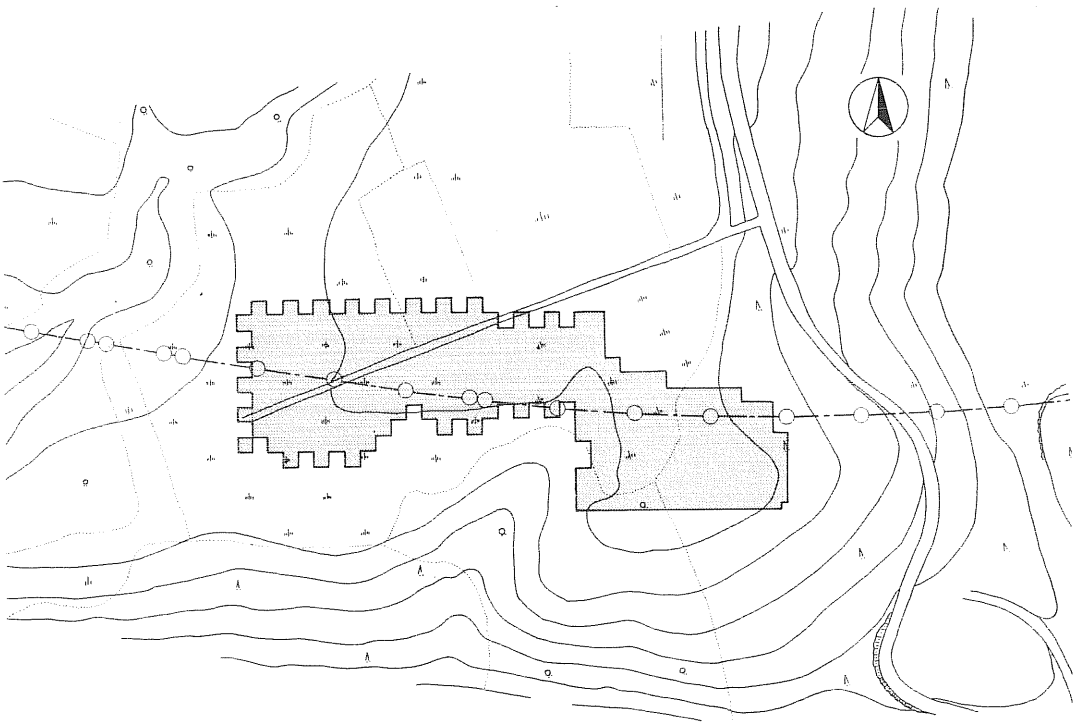
鳶ケ長根Ⅳ遺跡

遺跡記号　K７T

所在地　秋田県大館市軽井沢鳶ケ長根

調査対象面積　5,600㎡

調査期間　昭和54年６月21日～昭和54年12月８日



〈7〉第1図　遺跡地形図

◇概　要

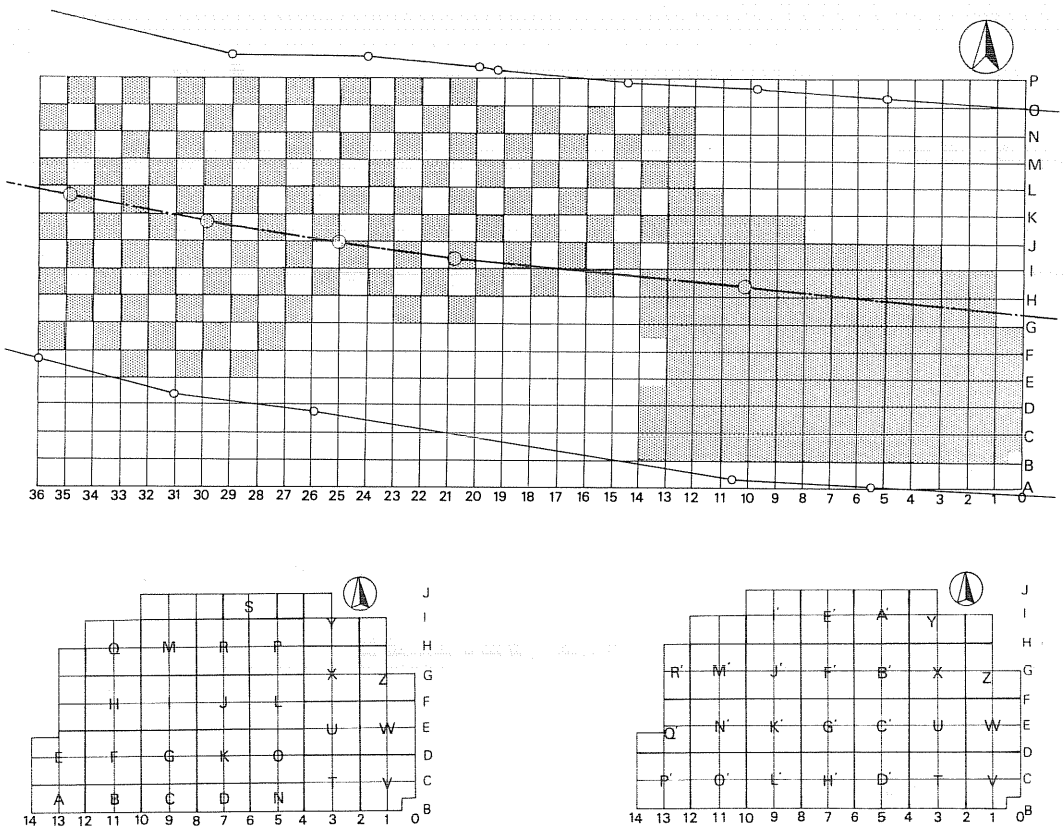
路線は東西に大きく沢が入る南向きの舌状台地にかかっており，傾斜面とわずかな平坦部を残して削平される予定である。標高115 m前後で，現状は東側が荒地，西側が牧草地であった。

土層は東側が深さ40cm前後で，西側が深さ60cm前後で地山の明黄褐色火山灰層に達する。層状について〈7〉第3図に示した。第1層めが黒色土層（10YR$\frac{2}{1}$）第2層めが暗褐色土層（10YR$\frac{3}{3}$）第3層めは暗褐色土層（10YR$\frac{3}{4}$）となっている。第1層めと第2層めの間に大湯浮石層が入り，浮石層をとり囲むように部分的に黒褐色土層がみられる。なお上面は牧草地にする際削平されている。

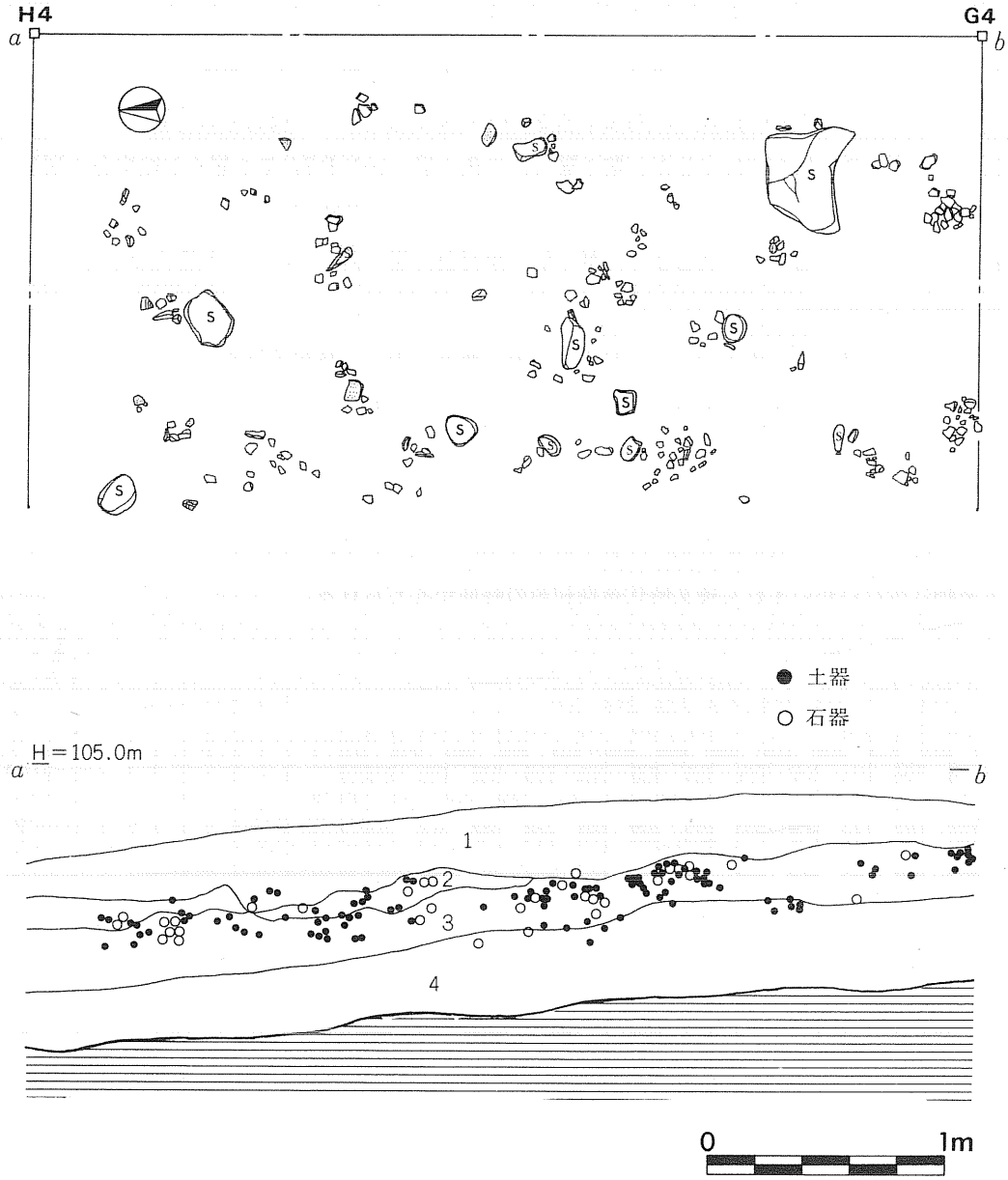
遺物の出土は〈7〉第3図に示したように第2層内で多く，現場では4グリッドを1ブロックとして〈7〉第2図下の記号に土器のPR番号，石器のRQ番号を付してとりあげた。

◇検出遺構

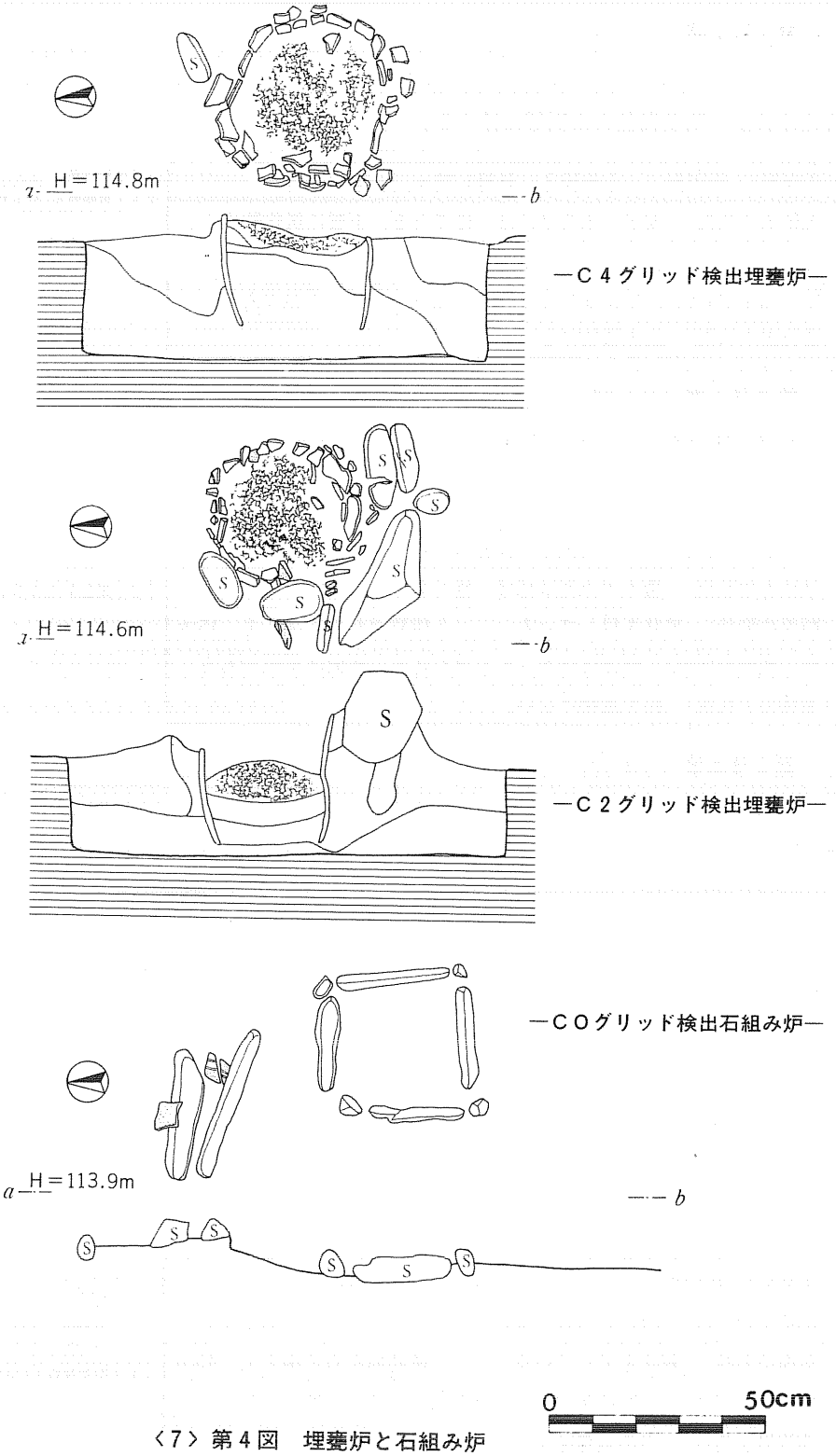
住居跡が1軒，埋甕炉が2基，埋設土器が2基，土壙が10基，検出された。土壙から伴出する遺物は少ないがいずれも縄文時代後期初頭の時期が考えられる。



〈7〉第2図　発掘調査区



〈7〉第3図　層位と出土遺物



〈7〉第４図　埋甕炉と石組み炉

第1号土壙（ＳＫ01）

〈位置・確認状況〉　Ｆ２グリッドの南西側に位置している。確認面は暗褐色土層であり，底面は地山の明黄褐色火山灰層に達する。

〈平面形〉　長円形	‖規模‖　長軸1.75m，短軸 1.2m
〈堆積土の状況〉　覆土の土質はほぼ一様である。下層に炭化物入る。	
〈断面の形状〉　皿状を呈している。	‖確認面からの深さ‖　10cm
〈壁・底面の状況〉　壁はなだらかに落ち込み，底面は平坦である。	
〈遺物出土状況〉　出土遺物はない。	

※堆積土層

1	黒褐色土(10Ｙ R2／2)軟質

第2号土壙（ＳＫ03）

〈位置・確認状況〉　Ｅ２グリッドの南東側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。

〈平面形〉　長円形	‖規模‖　長軸 1.6m，短軸0.75m
〈堆積土の状況〉　覆土の土質はほぼ一様である。	
〈断面の形状〉　皿状を呈している。	‖確認面からの深さ‖　15cm
〈壁・底面の状況〉　壁はほぼまっすぐ落ち込み，底面は平坦である。	
〈遺物出土状況〉　出土遺物はない。	

※堆積土層

1	黒褐色土(10Ｙ R3／2)
2	褐色土(10Ｙ R4／4)

第3号土壙（ＳＫ09）

〈位置・確認状況〉　Ｃ７グリッドの中央に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。

〈平面形〉　楕円形	‖規模‖　長軸1.55m，短軸 0.8m
〈堆積土の状況〉　覆土の土質はほぼ一様であり，根で動かされている。	
〈断面の形状〉　皿状を呈している。	‖確認面からの深さ‖　30cm
〈壁・底面の状況〉　壁はなだらかに落ち込み，底面は凹凸している。	
〈遺物出土状況〉　出土遺物はない。	

※堆積土層

1	暗褐色土(10Ｙ R3／4)軟質
2	暗褐色土(10Ｙ R3／3)
3	褐色土(10Ｙ R4／4)軟質
4	暗褐色土(10Ｙ R3／3)
b	明黄褐色土(10Ｙ R6／8)地山同

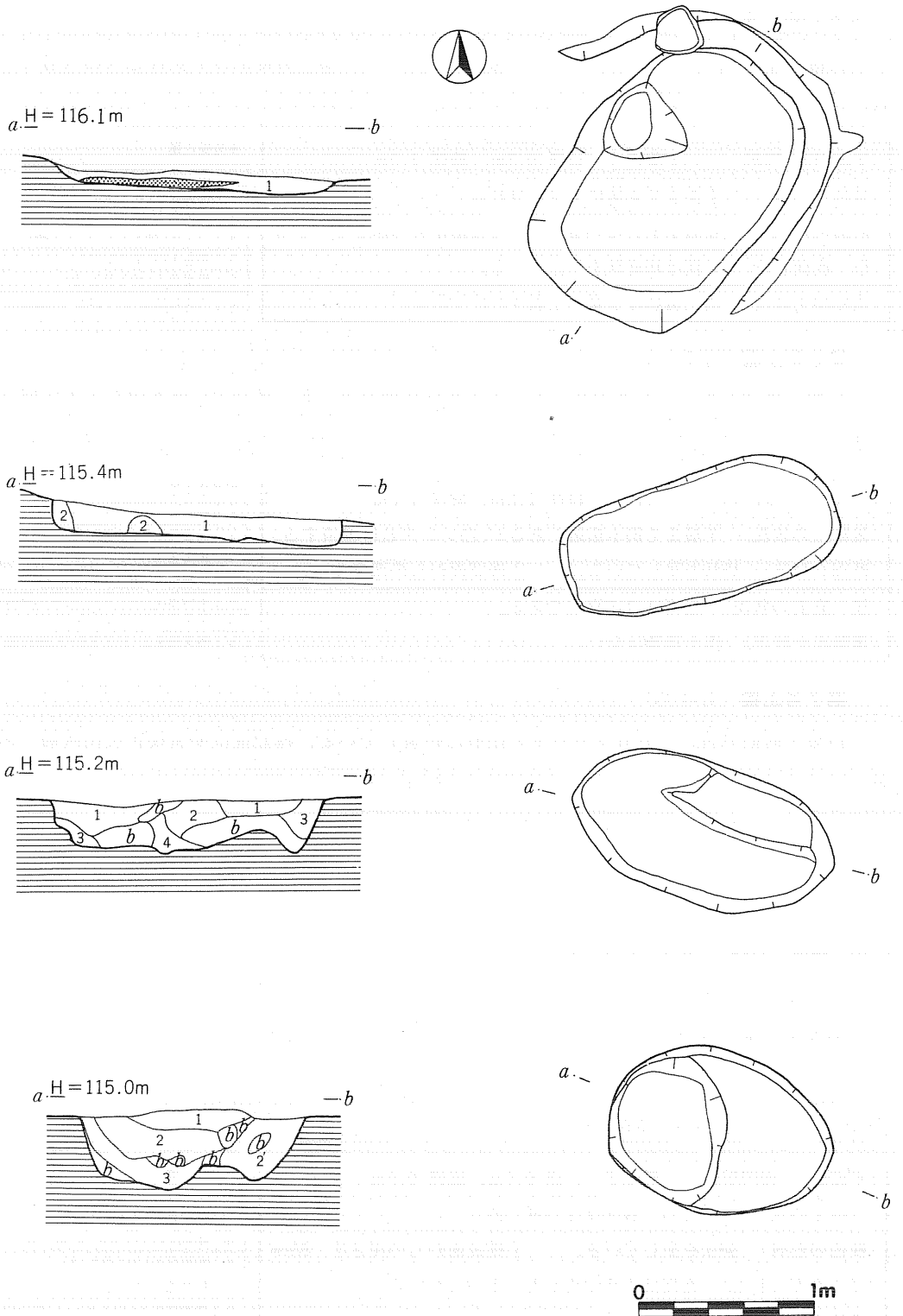
第4号土壙（ＳＫ10）

〈位置・確認状況〉　Ｃ８グリッドの南側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。

〈平面形〉　楕円形	‖規模‖　長軸1.35m，短軸0.95m
〈堆積土の状況〉　凹レンズ状の堆積をしている。中位に浮石が混在。	
〈断面の形状〉　袋状を呈している。	‖確認面からの深さ‖　45cm
〈壁・底面の状況〉　壁はなだらかに落ち込み，底面は凹凸している。	
〈遺物出土状況〉　出土遺物はない。	

※堆積土層

1	褐色土(10Ｙ R4／4)
2	暗褐色土(10Ｙ R3／3)浮石混
3	暗褐色土(10Ｙ R3／3)
b	明黄褐色土(10Ｙ R6／8)地山同



〈7〉第5図　第1，2，3，4号土壙

第5号土壙

〈位置・確認状況〉　Ｄ４グリッドの東側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。

〈平面形〉 円形	‖規模‖ 口径 0.9m，底径 1.0m
〈堆積土の状況〉 上面より４層に大きく分れる。	
〈断面の形状〉 円筒状を呈している。	‖確認面からの深さ‖ 120cm
〈壁・底面状況〉 底面は鍋底状を呈している。	
〈遺物出土状況〉 出土遺物は少量の土器片だけである。	

※堆積土層

1	黒褐色土(10Ｙ R3／2)
2	黒褐色土(10Ｙ R3／2)
3	黒褐色土(10Ｙ R2／2)
4	黒色土(10Ｙ R2／1)炭化物混
5	黒色土(10Ｙ R2／1)
6	黒褐色土(10Ｙ R3／2)
b	明黄褐色土(10Ｙ R6／8)地山同

第6号土壙（ＳＫ07）

〈位置・確認状況〉　Ｂ７グリッドの南東側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。

〈平面形〉 楕円形	‖規模‖ 口径 1,2m，底径 1.2m
〈堆積土の状況〉 下層まで倒木痕跡があるが，凹レンズ状に堆積する。	
〈断面の形状〉 袋状を呈している。	‖確認面からの深さ‖ 110cm
〈壁・底面の状況〉 底面はほぼ平坦である。	
〈遺物出土状況〉 出土遺物はない。	

※堆積土層

1	暗褐色土(10Ｙ R3／3)
2	黒褐色土(10Ｙ R2／3)
3	黒褐色土(10Ｙ R3／2)
4	黒褐色土(10Ｙ R2／2)
5	黒褐色土(10Ｙ R2／2)炭化物混
6	黒色土(10Ｙ R2／1)
b	明黄褐色土(10Ｙ R6／8)地山同

第7号土壙（ＳＫ06）

〈位置・確認状況〉　Ｂ６グリッドの南側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。

〈平面形〉 円形	‖規模‖ 口径 0.9m，底径 1.0m
〈堆積土の状況〉 覆土の土質はほぼ一様である。	
〈断面の形状〉 袋状を呈している。	‖確認面からの深さ‖ 45cm
〈壁・底面の状況〉 底面は鍋底状を呈している。	
〈遺物出土状況〉 出土遺物は少量の土器片だけである。	

※堆積土層

1	暗褐色土(10Ｙ R3／3)
2	黒褐色土(10Ｙ R3／2)
3	黒褐色土(10Ｙ R3／2)

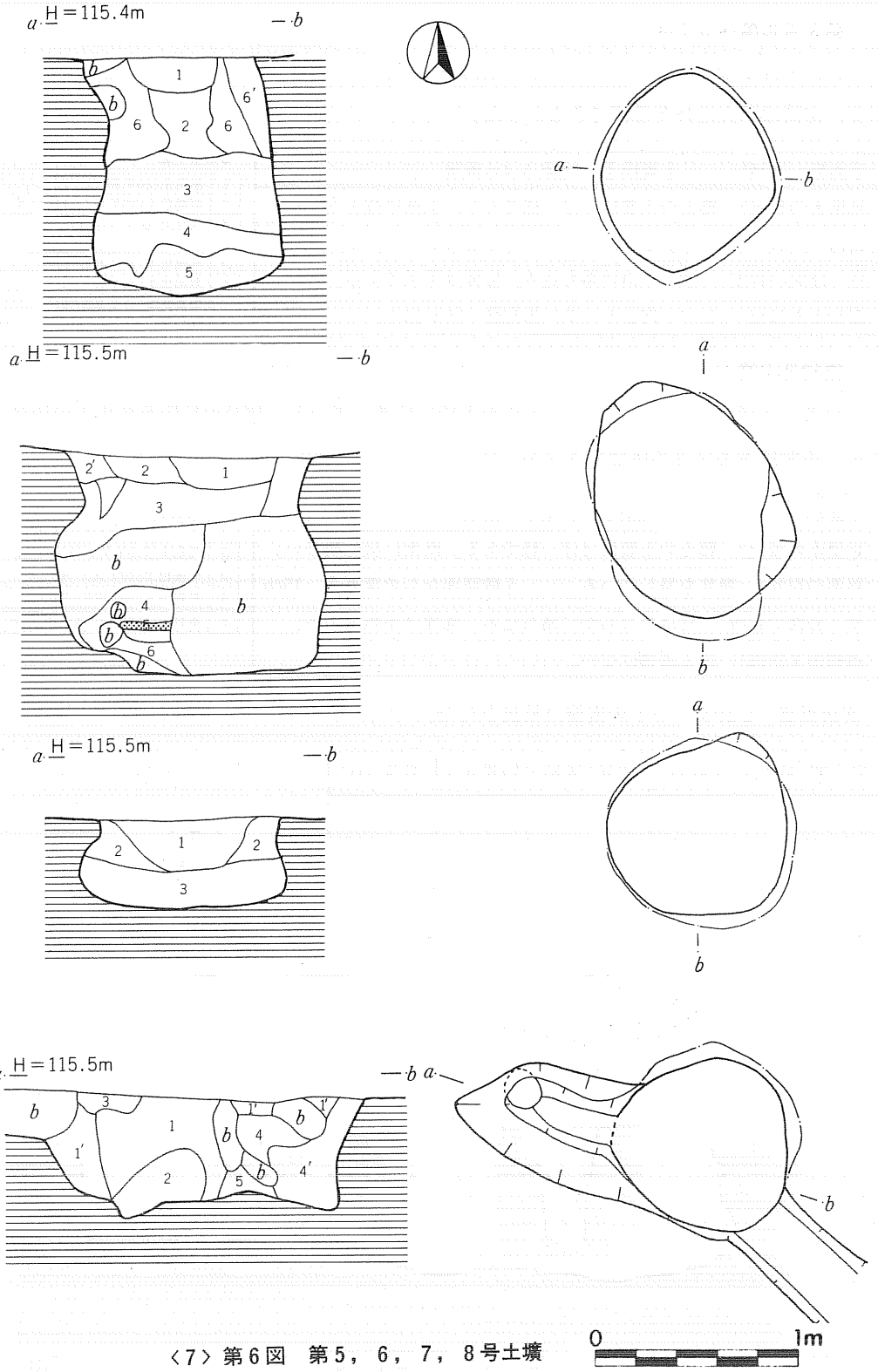
第8号土壙（ＳＫ番号なし）

〈位置・確認状況〉　Ｃ７グリッドの南西側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。西から東に溝状の攪乱が入る。

〈平面形〉 楕円形	‖規模‖ 口径 0.9m，底径 0.9m
〈堆積土の状況〉 覆土の土質はほぼ一様である。	
〈断面の形状〉 袋状を呈している。	‖確認面からの深さ‖ 55cm
〈壁・底面の状況〉 底面はやや中央がもり上がっている。	
〈遺物出土状況〉 出土遺物はない。	

※堆積土層

1	暗褐色土(10Ｙ R3／4)
2	暗褐色土(10Ｙ R3／3)
3	褐色土(7.5Ｙ R4／4)焼土混
4	暗褐色土(10Ｙ R3／4)
5	暗褐色土(10Ｙ R3／3)
b	明黄褐色土(10Ｙ R6／8)地山同



〈7〉第6図　第5，6，7，8号土壙

第９号土壙（ＳＩ05）

〈位置・確認状況〉　Ａ７グリッドの南西側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。南側は調査区外で確認できなかった。

〈平面形〉　円形	‖規模‖　長軸 3.4ｍ前後
〈堆積土の状況〉　覆土の土質はほぼ一様であり，上面に焼土うく。	
〈断面の形状〉　皿状を呈している。	‖確認面からの深さ‖　35cm
〈壁・底面の状況〉　壁は垂直に落ち込み，底面は平坦である。	
〈遺物出土状況〉　ピット内より〈７〉第㊷図―20が出土。	

※堆積土層

1	黒色土(10Ｙ R1.7／1)
2	暗褐色土(10Ｙ R3／4)浮石混
3	褐色土(10Ｙ R4／4)
4	暗褐色土(10Ｙ R3／4)
5	暗褐色土(10Ｙ R3／3)
6	黒褐色土(10Ｙ R3／2)
7	暗褐色土(10Ｙ R3／4)
8	褐色土(10Ｙ R4／6)

第10号土壙

〈位置・確認状況〉　Ｂ10グリッドの南東側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。南側は調査区外で確認できなかった。

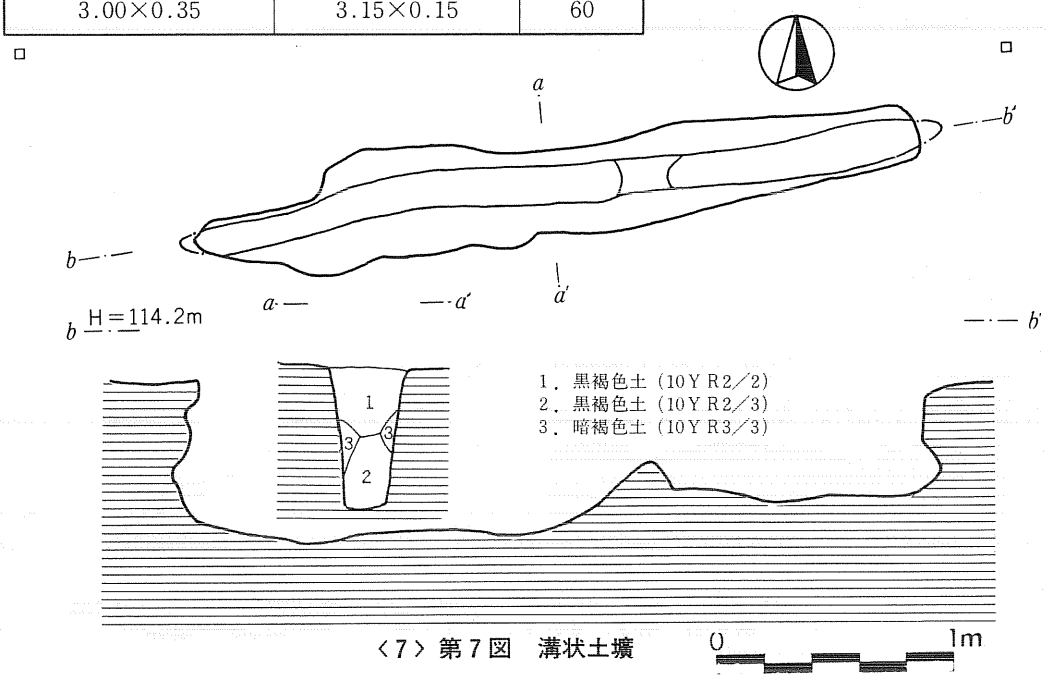
〈平面形〉　円形	‖規模‖　長軸３ｍ前後
〈堆積土の状況〉　覆土の土質はほぼ一様である。底面に炭化物多い。	
〈断面の形状〉　皿状を呈している。	‖確認面からの深さ‖　15cm
〈壁・底面の状況〉　壁はなだらかに落ち込み，底面は平坦である。	
〈遺物出土状況〉　出土遺物はない。	

※堆積土層

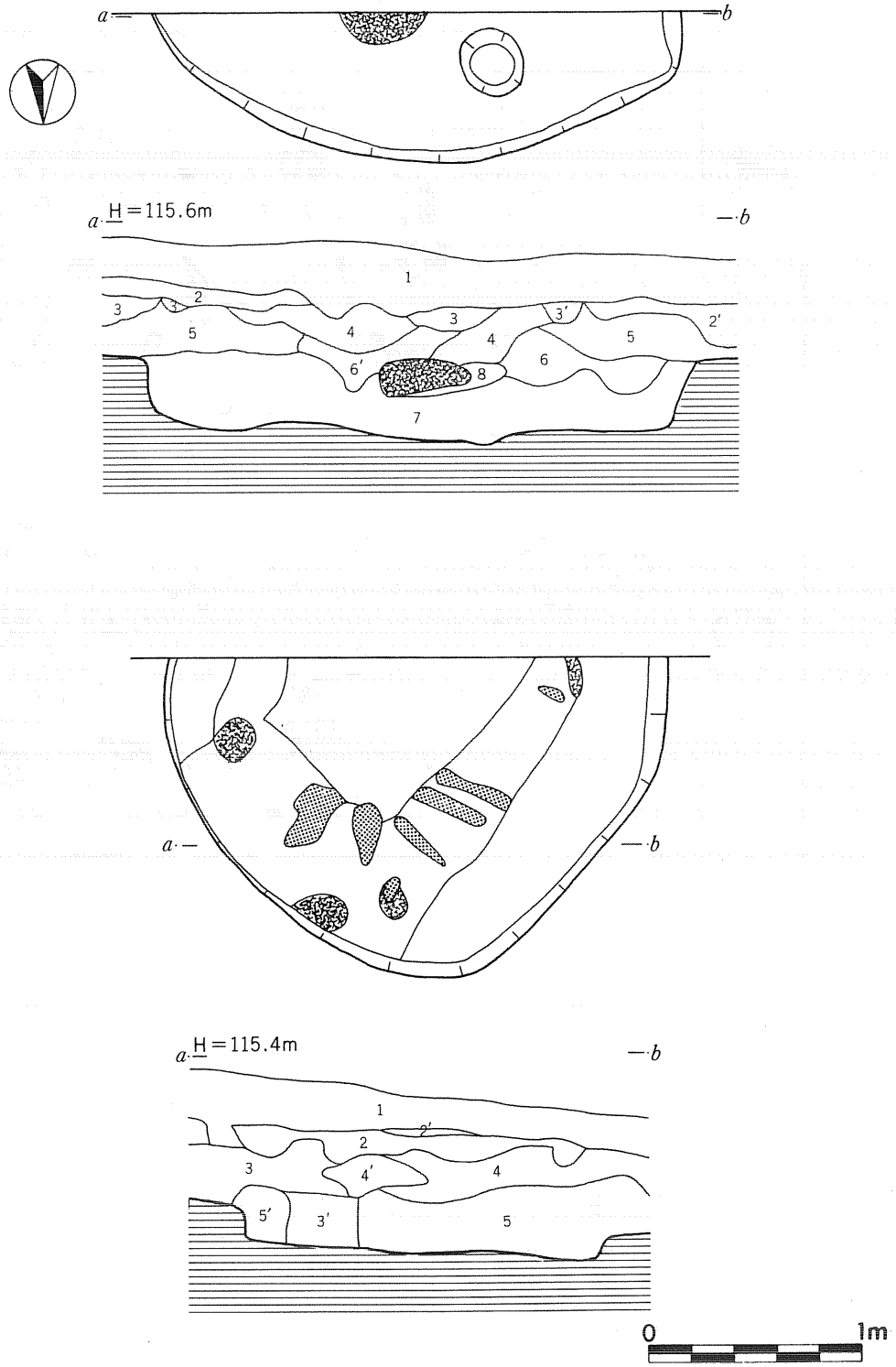
1	黒色土(10Ｙ R1.7／1)
2	褐色土(7.5Ｙ R4／4)浮石混
3	暗褐色土(10Ｙ R3／4)
4	黒褐色土(10Ｙ R3／2)
5	褐色土(10Ｙ R4／4)炭化物混

溝状土壙　Ｃ19グリッドの南側に検出された。

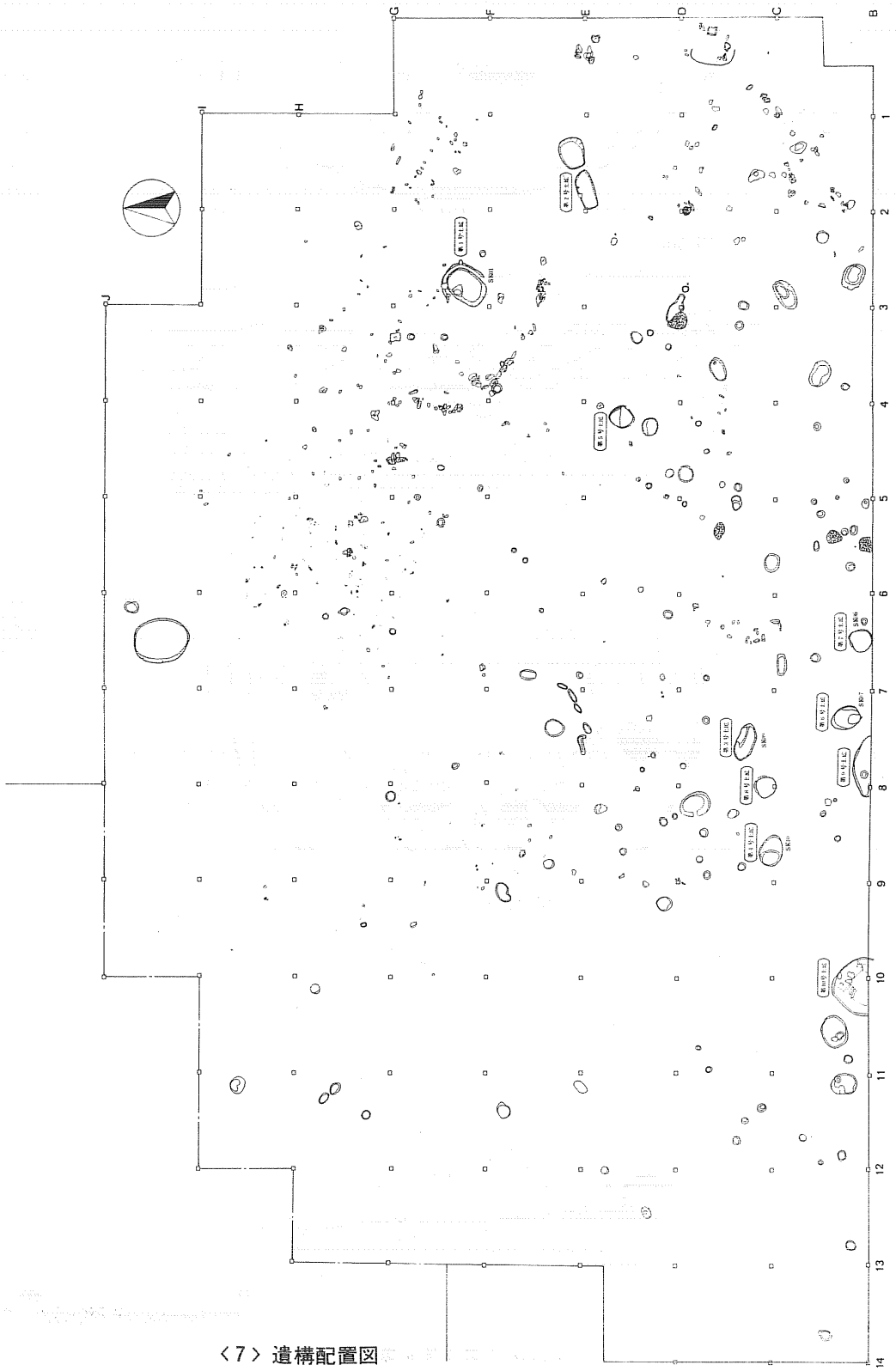
開口部(長軸×短軸ｍ)	底面(長軸×短軸ｍ)	深さ(cm)
3.00×0.35	3.15×0.15	60



〈７〉第７図　溝状土壙



〈7〉第8図　第9号，第10号土壙



〈7〉遺構配置図

◇蔦ケ長根Ⅳ遺跡における出土遺物の概要

調査区の14ラインより東側で多量に遺物が出土した。出土遺物は縄文土器，弥生土器，土製品，石器および石器用原石である。14ラインより東側で出土した土器，石器については現場でそれぞれの出土地点を記録して行った。記録した土器類は一括土器を含めて 7,332点であり，石器類は 962点である。出土遺物の総数は土器類が約 8,000点，石器類が約 1,000 点である。

出土した土器について本報告では時期毎にⅠ～Ⅴ群まで次のように分類した。

第Ⅰ群土器：縄文時代早期〈7〉第①～㉞図　第Ⅱ群土器：縄文時代前期〈7〉第㉟～㊱図

第Ⅲ群土器：縄文時代後期〈7〉第㊲～㊹図　第Ⅳ群土器：縄文時代晩期〈7〉第㊺図

第Ⅴ群土器：弥生時代〈7〉第㊻～㊼図

出土した石器について本報告では形態毎にａ～ｋまで分類し，捜図に示した。

ａ：トランシェ様石器〈7〉第㊽～㊺図　　ｂ：篦状石器〈7〉第㊻～㊾図

ｃ：石錐〈7〉第㊿～(81)図　　ｄ：石匙〈7〉第(82)～(84)図

ｅ：ｆ：Ｋ：その他の打製石器〈7〉第(85)(86)(87)(88)(95)図　ｋ：石鏃〈7〉第(95)図上

ｇ：凹石〈7〉第(89)～(91)図　　ｈ：磨製石斧〈7〉第(92)図

ｉ：石錘〈7〉第(93)図上　　ｉ：ｊ：ｋ：敲石・石皿，その他の石器

石器の出土地点については付図に形態記号と捜図番号を合せて付している。

なお土器類・石器類の出土層位は〈7〉第３図に示したように地山の明黄褐色火山灰層より上層の第２～３層間に集中している。各時期のものを層位的に分けることができなかった。

第Ⅰ群土器

縄文時代早期の土器を本群とする。出土点数は約 5,000 点である。

第Ⅰ群土器については掲載した拓本の第①図～第㉝図を通して番号を打っており，出土地点を石器類の出土と合せて付図に示し，付図の番号と一致するようにした。出土地点はおおよそ台地東側の南西部・北東部の緩斜面に集中し，台地の先端に対して開く円弧状を呈している。

本群の土器は復元できた土器が１点だけであり，分類については文様要素・構成により行った。したがって文様帯のある口縁部・頸部付近を主に取り扱い，胴部については若干を限定して取り扱っている。器形の変化，各種部位の観察はまとめて検討した。

本群のうち貝殻文系の土器が大部分を占めている。１～ 337 までが該当し，考察を加えた。

文様施文はＡ：貝殻腹縁文，Ｂ：棒状工具による刺突文，Ｃ：沈線文を要素として構成されている。分類は各文様施文要素を施文の方向性で分け，各要素が組み合わさる文様構成についても要素の方向性と結びつけて考察をした。器表面に殻表面・殻頂面を圧痕したもの，腹縁条痕文だけを施文したものについては器内面の調整と合せて考察を加えた。

◇文様構成について

〈A〉：貝殻腹縁圧痕文＝〈7〉第①～⑨図

a・羽状施文

イ・器表面に対し，殻表面・殻内面を交互に上にして30～60度の角度で「く」の字状を縦位に圧痕し，それを横方向に連続して施文して行くもの。

ロ・①殻表面を上にして30～60度の角度で圧痕し，横方向に連続して施文して行くものと②殻内面を上にして30～60度の角度で圧痕し，横方向に連続して施文して行くものが，「く」の字状に組み合わさるもの。

ハ・〈A〉aイの下に〈A〉aロ①あるいは〈A〉aロ②が組み合わさるもの。

※「く」の字状のものが1段半以上のものが多い。

ニ・〈A〉aイあるいは〈A〉aロを「V」字形に置き換え，縦方向に施文して行くもの。

※本遺跡においては最も多い文様構成であり，刺突文との組み合わせも多い。

b・斜位，縦位，横位施文のいずれかの施文だけを連続して行くもの。

イ・器表面に対し，殻表面・殻内面を上にして30～60度の角度で左傾または右傾させて圧痕し，横方向に施文して行くもの。

ロ・器表面に対し，殻表面を上に平らに圧痕し，横方向に連続して施文して行くもの。

ハ・器表面に対し，殻表面を垂直に圧痕し，横方向に連続して施文して行くもの。

c・斜位，縦位，横位施文を部位により変えているもの。

イ・〈A〉bイと〈A〉bロを組み合わせたもの。

※〈A〉bロが下になるものが多い。

ロ・〈A〉bイの左傾あるいは右傾したものをやや間隔をおいて組み合わせたもの。

ハ・〈A〉bハに対し，下に間隔をおいて〈A〉bイ，〈A〉bロを組み合わせたもの。

※口縁部が山形状を呈するところや頸部の段のあるところで組み合わせが変わる。

ニ・〈A〉bイの左傾あるいは右傾したものを交さするように組み合わせたもの。

〈B〉：刺突文＝〈7〉第㉑図

刺突は角棒状工具，丸棒状工具，竹管状工具，竹管状のものを二分の一・四分の一に半載した工具によるものとがある。特異なものとしては二列の引っかき状のものがある。

a・刺突文を横方向に連続して施文して行くもの。

b・刺突文を斜め，縦方向に連続して施文して行くもの。

〈C〉：沈線文＝〈7〉第㉒図

a・二条が一対で横方向に施文して行くもの。

※断面は凹形を呈し，強く施文されたものと弱く施文されたものが組み合わさる。

b・二条が一対で縦方向に施文して行くもの。

※沈線文だけではみられず，貝殻腹縁圧痕文と刺突文との組み合わせでみられる。

c・平行沈線文で山形状あるいは波状に横方向に施文して行くもの。

※〈C〉aとの組み合わせで施文されている。

d・一条の沈線で山形状あるいは波状に横方向に施文して行くもの。

※断面は「U」字状を呈する。

e・貝殻腹縁圧痕文で羽状に圧痕したものを沈線文で表現したもの。

〈A＋B〉：貝殻腹縁圧痕文と刺突文との組み合わせ＝〈7〉第⑩～⑮図

ⓐ・〈A〉aと〈B〉aとの組み合わせがある。

※刺突列が「く」の字形の中位にくるものと「く」の字形の下位にくるものとがある。

ⓑ・〈A〉bと〈B〉aとの組み合わせがある。

ⓒ・〈A〉cと〈B〉aとの組み合わせがある。

※ⓐ・ⓑ・ⓒともに横方向の刺突列で文様帯の最後をしめくくる場合が多い。

ⓓ貝殻腹縁圧痕文が集合するところに1個以上の刺突文を付属的につけたものがある。

〈A＋C〉：貝殻腹縁圧痕文と沈線文との組み合わせ＝〈7〉第⑯⑰図

ⓐ・〈A〉bイと〈C〉aとの組み合わせがある。

平行沈線の間隔を広くとり，中に貝殻腹縁圧痕文を連続して施文して行くもの。

ⓑ・貝殻腹縁圧痕文と〈C〉aあるいは〈C〉bとの組み合わせがある。

イ・横・縦方向の平行する沈線の間に横位・縦位に貝殻腹縁圧痕文を施文したもの。

ロ・横・縦方向の平行する沈線に接して横位・縦位に貝殻腹縁圧痕文を施文したもの。

ⓒ・〈A〉aロと沈線文との組み合わせがある。

貝殻腹縁圧痕文を横方向に連続して施文した間に沈線文を引いたもの。

ⓓ・〈C〉cに付属的に貝殻腹縁文圧痕を施文したものである。

※沈線文と組み合わさるときは斜位の貝殻腹縁圧痕文で文様帯をしめくくる例が多い。

〈A＋B＋C〉：貝殻腹縁圧痕文と刺突文と沈線文との組み合わせ＝〈7〉第⑱～⑳図

ⓐ・〈A＋C〉ⓐと〈A＋C〉ⓑイの組み合わせで平行沈線の間に刺突列が入るものである。

口縁部が山形状を呈する中央に縦位の沈線文を，左右に口縁部に平行な沈線文を引き，その間に貝殻腹縁圧痕文と刺突文を施文するものである。

ⓑ・〈A〉bイと〈B＋C〉ⓑが組み合わさるもの

※この場合の貝殻腹縁圧痕文は口縁部に沿って横方向に連続して施文して行くものである。

ⓒ・〈A＋C〉ⓐの貝殻腹縁文の下に刺突列を入れたものである。

ⓓ・〈A＋C〉ⓑロに付属的に刺突文を施文したものである。

ⓔ・〈C〉cを上に〈A＋B〉ⓐを下に施文したものである。その他バラエテーがある。

〈B＋C〉　刺突文と沈線文の組み合わせ＝〈7〉第㉓㉔図

ⓐ・〈B〉 a と〈C〉 c の組み合わせがある。

ⓑ・〈C〉 a の間に〈B〉 a が施文されるものがある。

ⓒ・〈C〉 b の間に〈B〉 b が施文されるものがある。

◇器形について

口縁部の形状は平縁，波状，山形に大別され，平縁の中にも口唇部に貝殻腹縁圧痕文による刻目を施文したものが多い。〈A〉・〈B〉・〈C〉の要素が組み合わさるものは口縁部が山形を呈するものが多い。〈7〉第㉔図に示したように無文のものも多様である。

口頸部の形状は比較的まっすぐに外傾するもの，ゆるやかに外反するもの，段をもって内彎するものがある。外反，内彎する位置は口縁部に近く，短い変化である。

底部はいずれも尖底で砲弾状あるいは乳頭状を呈するが，口縁部との接合関係は不明である。

◇文様帯について

文様帯の幅は〈A〉，〈B〉，〈C〉の要素を主体としたものは5cm前後，〈A＋B〉は5～10cm，〈A＋C〉は10cm前後，〈A＋B＋C〉は10cm以上のものが多い。文様構成の多様化により広くなる傾向がある。なお口頸部に段をもつものでは段の下にも文様帯がある。

◇色調・胎土・焼成について

色調はにぶい黄橙色を呈するものが多く，明赤褐色，赤褐色を呈するものもある。胎土は比較的緻密であるが，酸化鉄粒子，白色岩末を含む。焼成は比較的良好である。

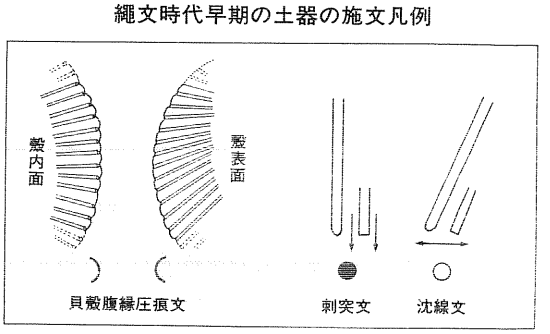
◇貝殻文糸土器のまとめ

文様は貝殻腹縁圧痕文では羽状に施文したものが多く，貝殻腹縁圧痕文・刺突文・沈線文の組み合わせも多様である。胴部の器面調整は内外面をナデあるいは貝殻条痕文で行っている。

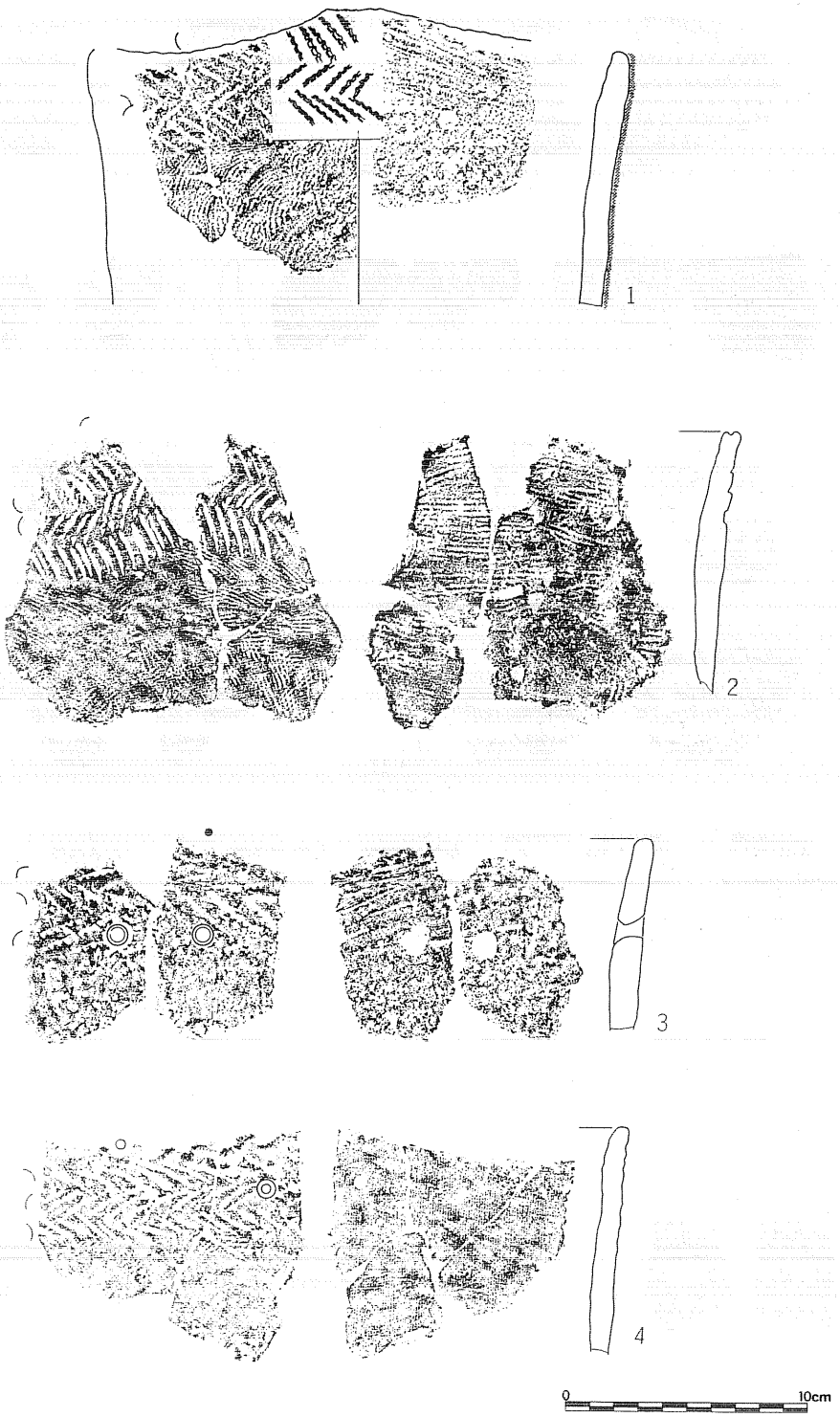
文様の構成，器形等から縄文時代早期中葉に時期が考えられる。従来の東北北部の型式からは吹切沢式⟶物見台式の序列の中間に位置づけられる。青森県大鰐町砂沢平遺跡，青森市蛍沢遺跡出土のものに類似点を見出し得るが，今後さらに検討して研究報告にまとめたい。

338～342はいずれも薄での土器片であり，338～340は器表面に撚糸文を施し，器内面は貝殻条痕文で調整している。341は器表面に横位の撚糸文を施しているが，内面はナデである。342は山形状の口縁部を呈し，器表面に条の幅がある撚糸文を施しており。内面はナデである。いずれも早期末葉に時期が考えられる。

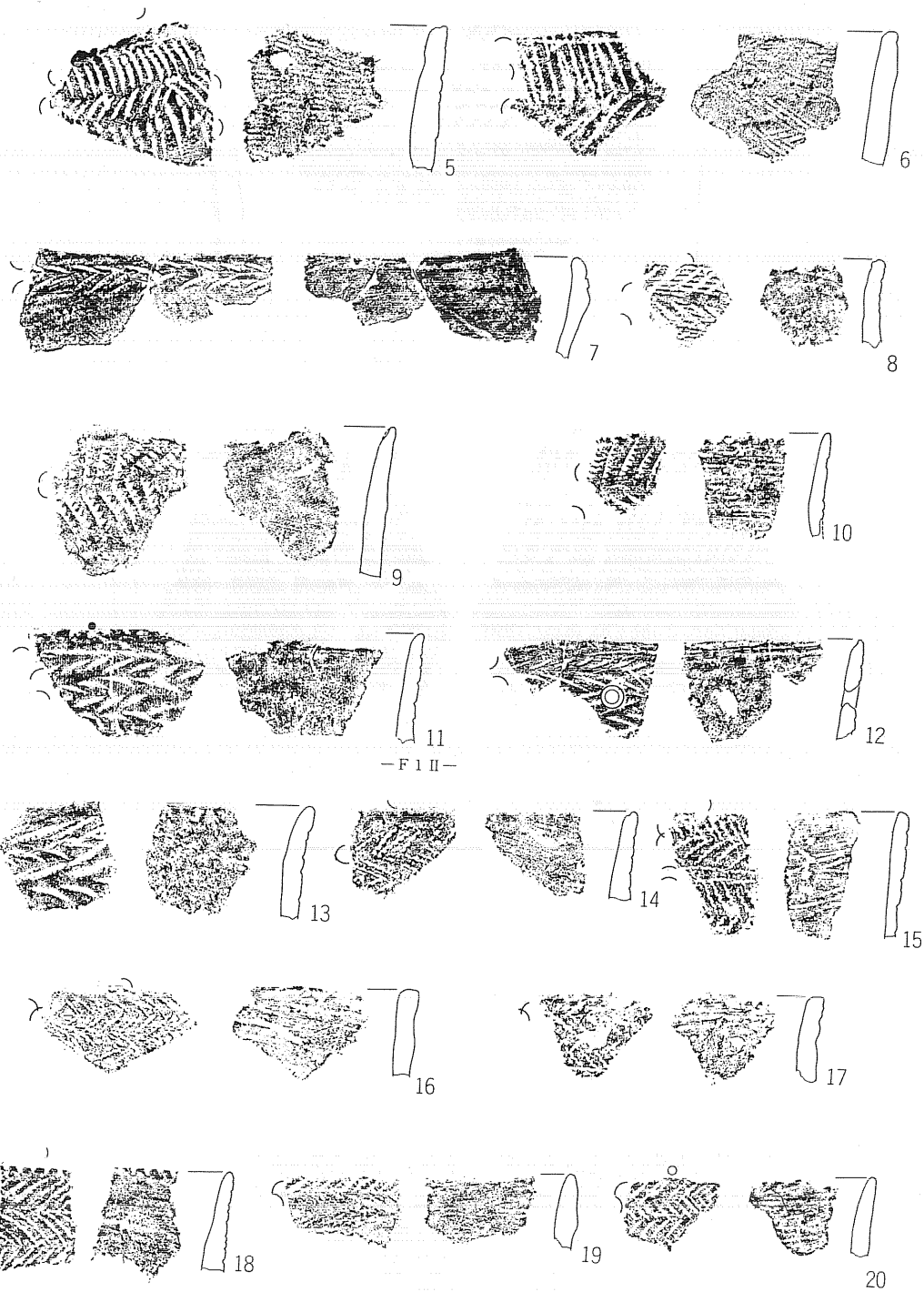
縄文時代早期の土器の施文凡例



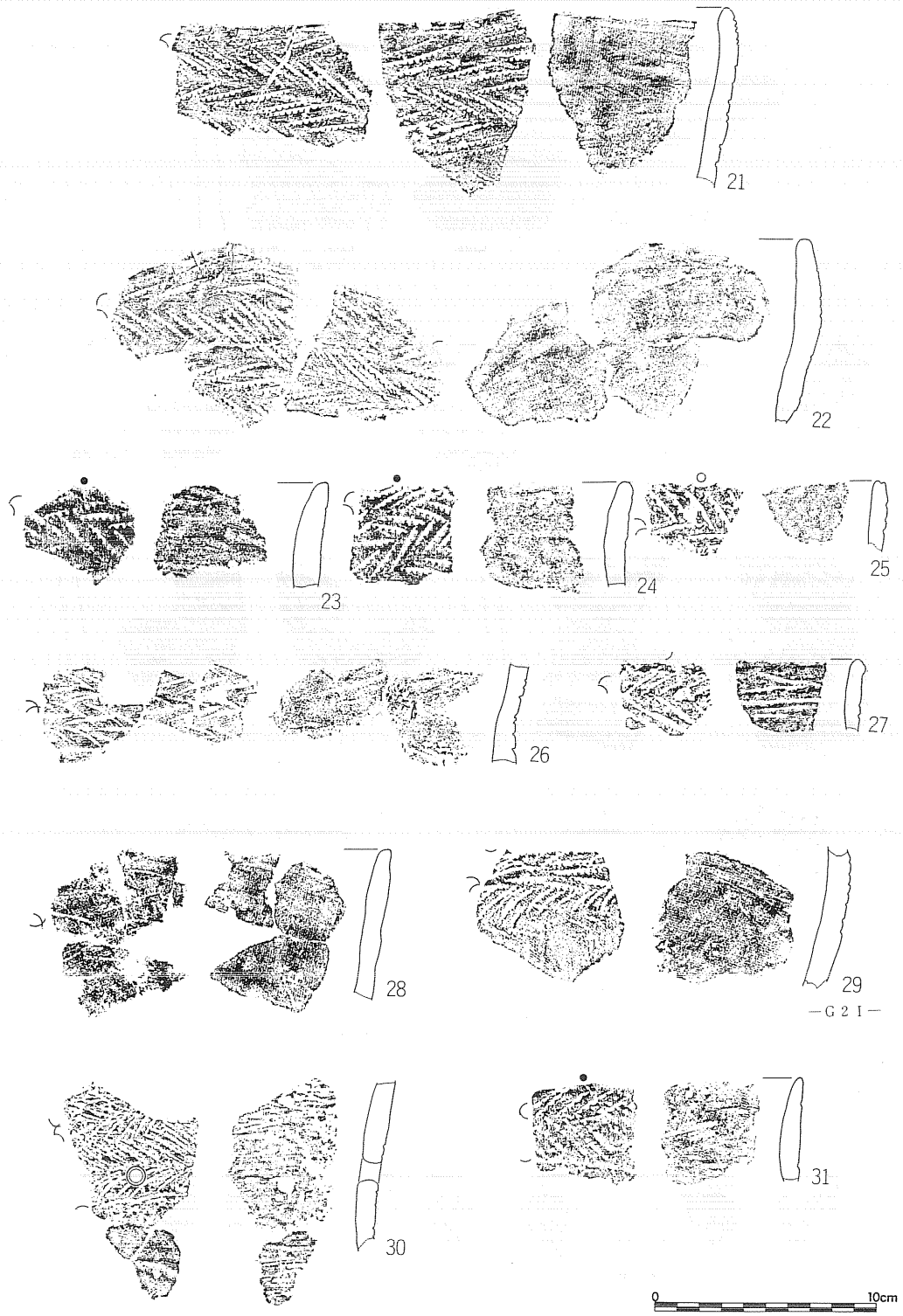
※横方向の施文を左に，縦方向の施文を下に印した。
※口唇部の施文は上に印した。棒状工具・指頭による圧痕は口唇部に垂直なものは●で水平なものは○で示した。



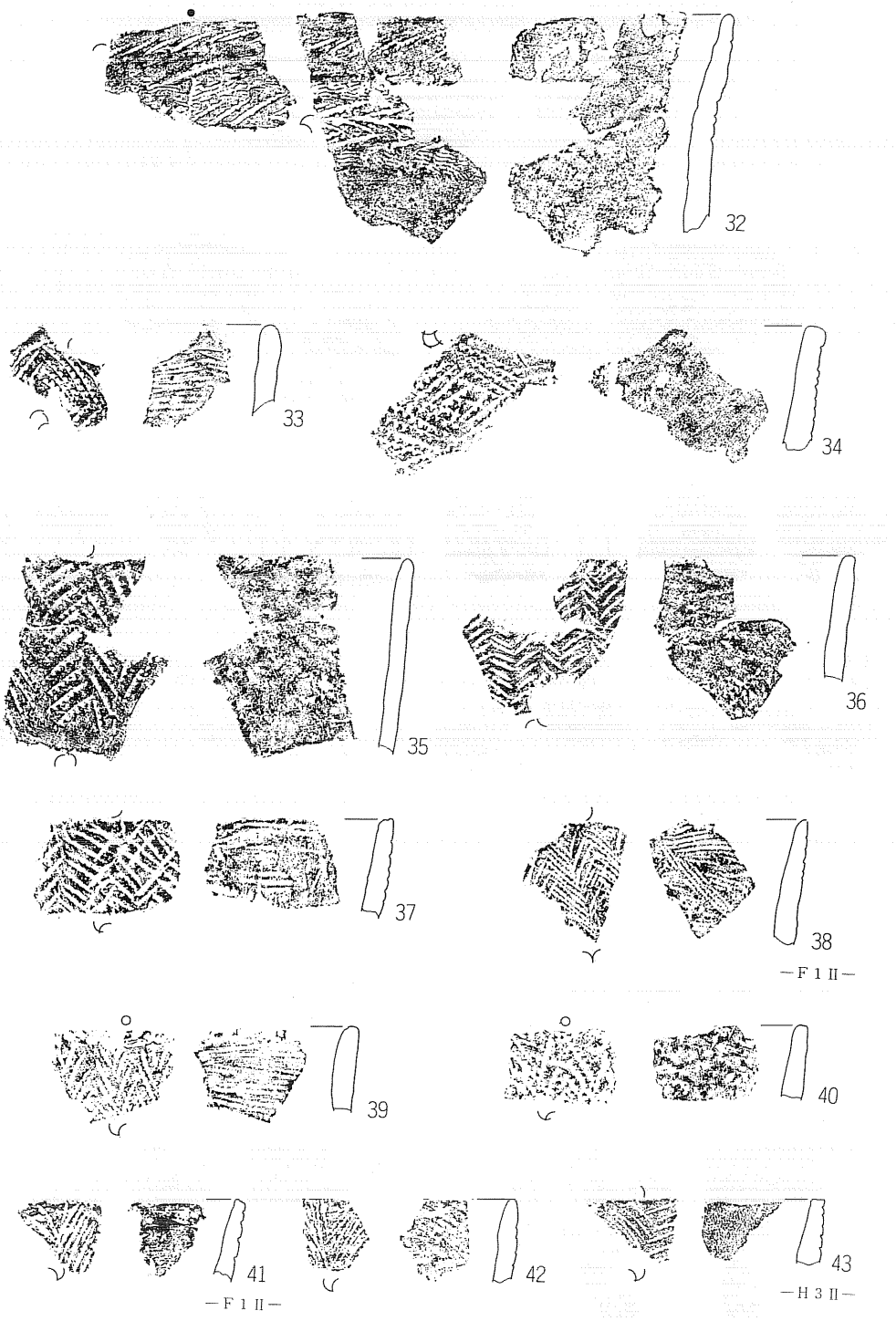
〈7〉第①図　第Ⅰ群土器(1)



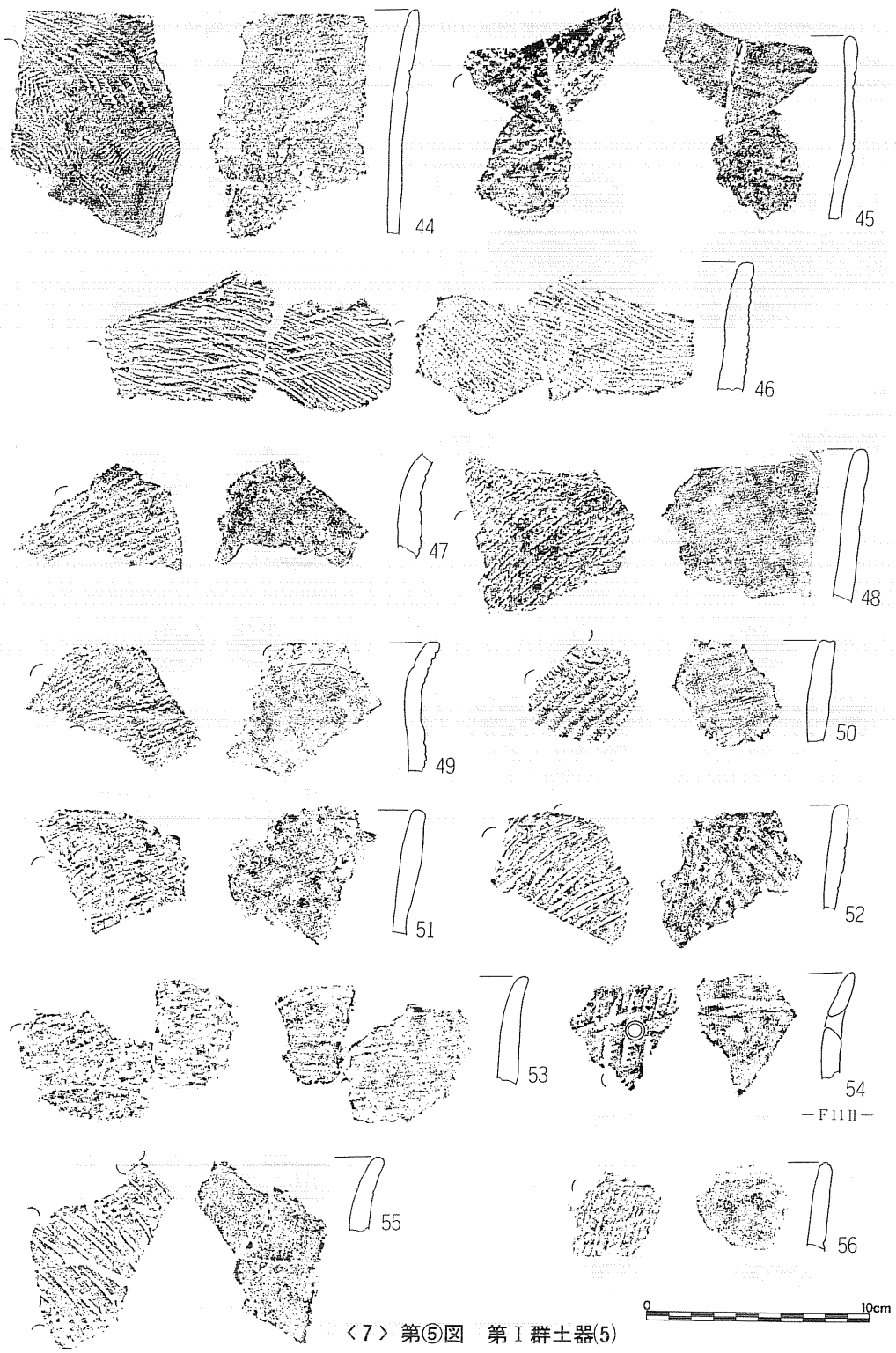
〈7〉第②図　第Ⅰ群土器(2)



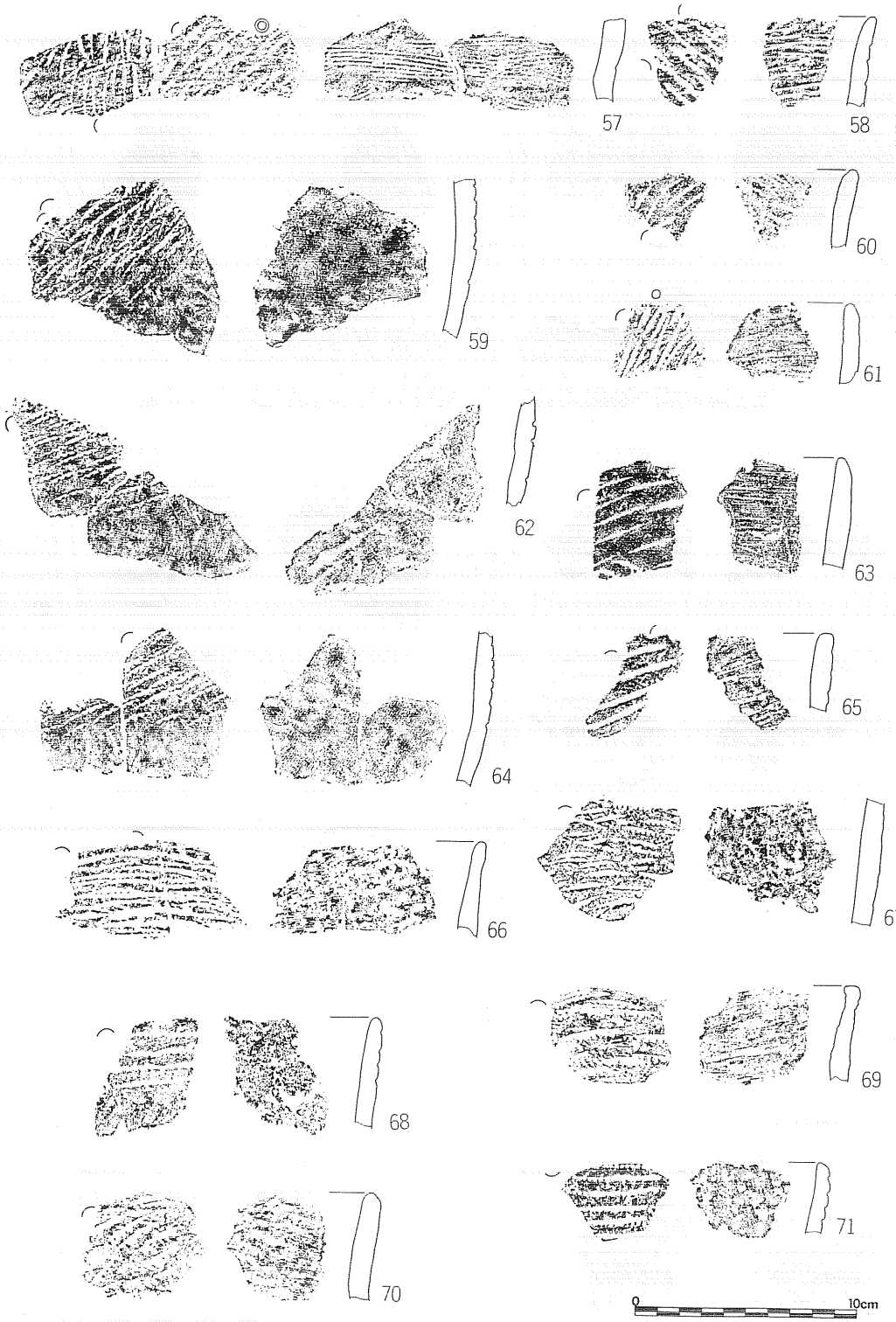
〈7〉第③図　第Ⅰ群土器(3)



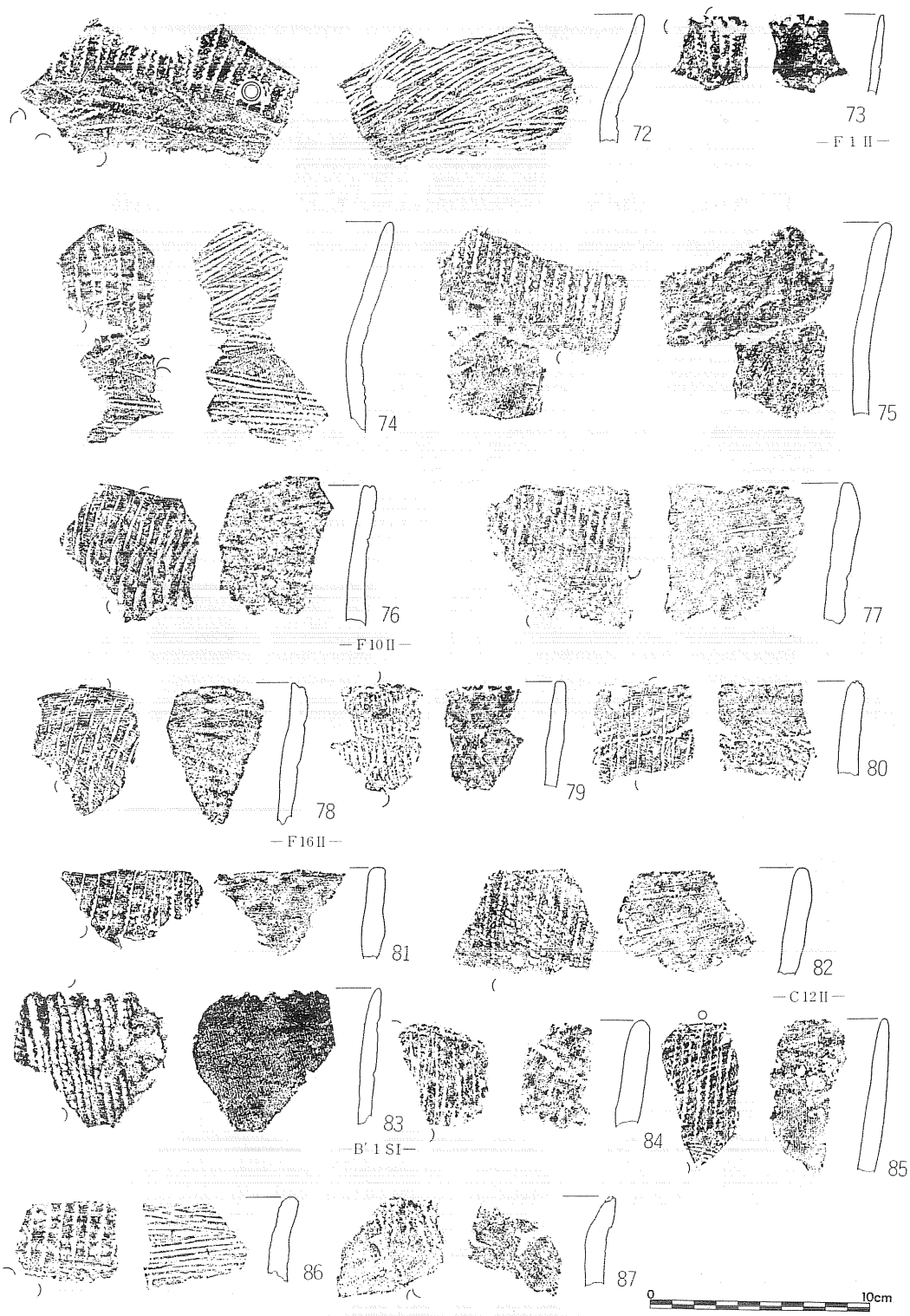
〈7〉第④図　第Ⅰ群土器(4)



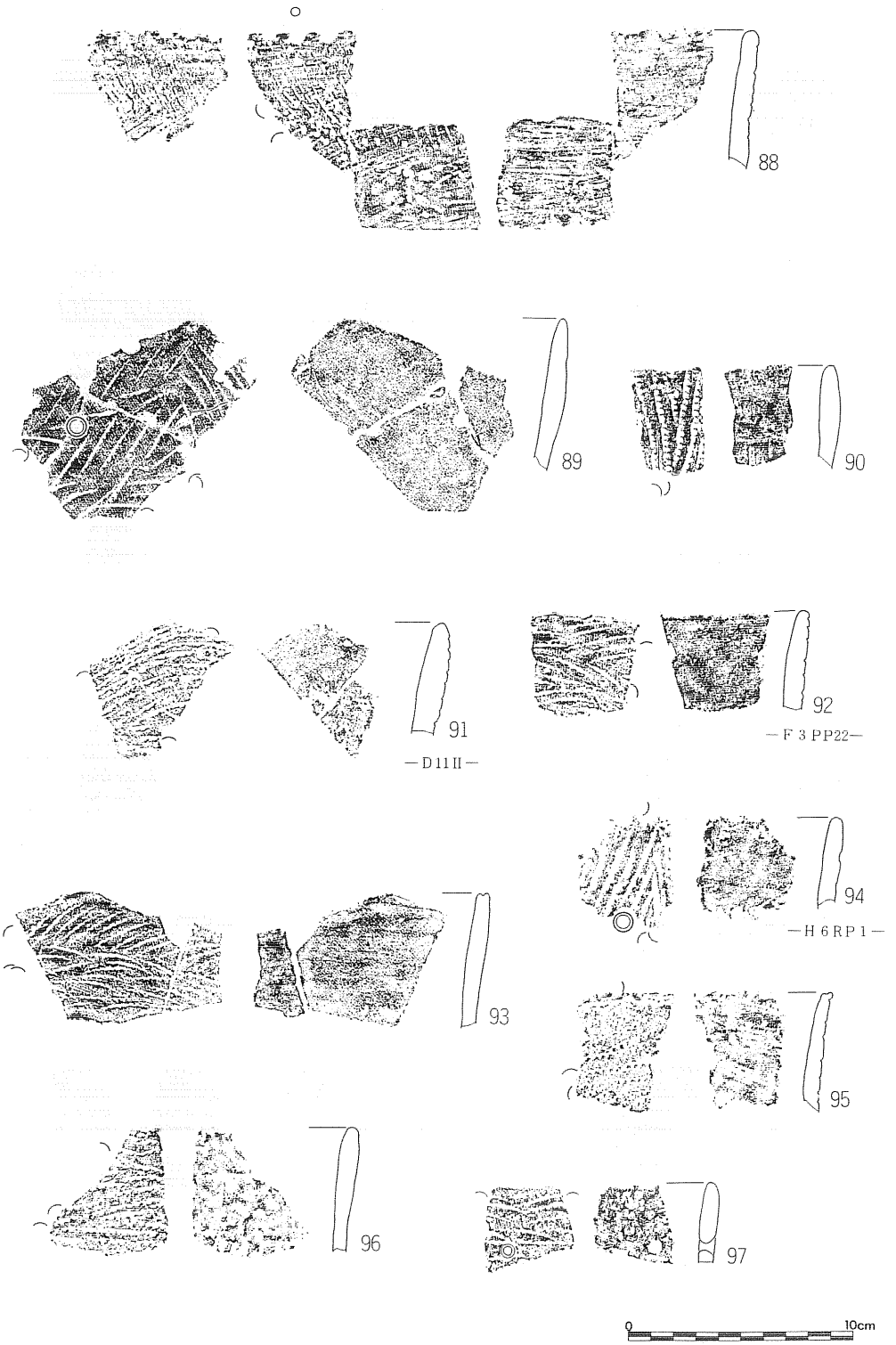
〈7〉第⑤図　第Ⅰ群土器(5)



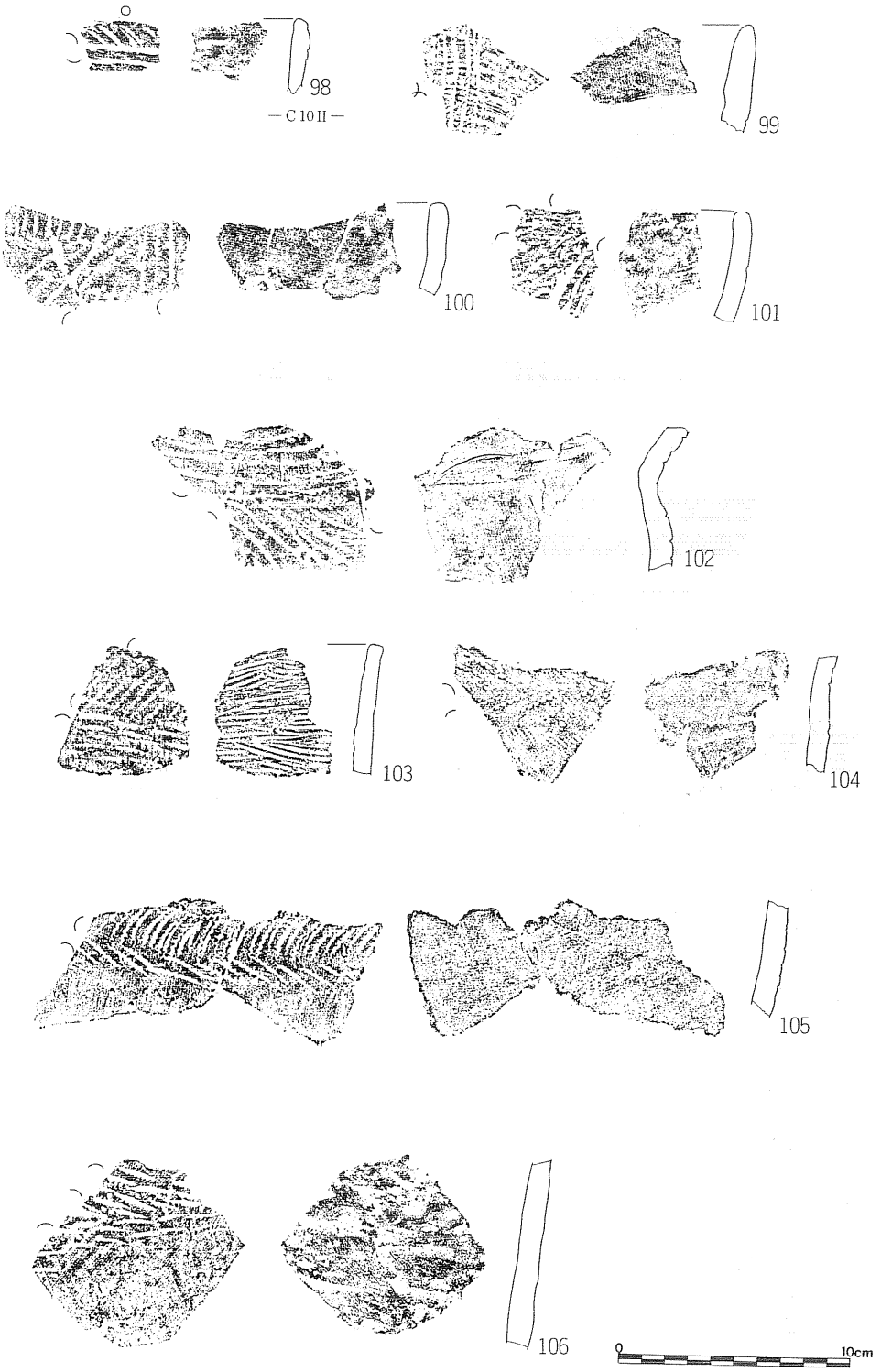
〈7〉第⑥図　第Ⅰ群土器(6)


72
73
—F1II—
74
75
76
—F10II—
77
78
—F16II—
79
80
81
82
—C12II—
83
—B'1SI—
84
85
86
87
0
10cm

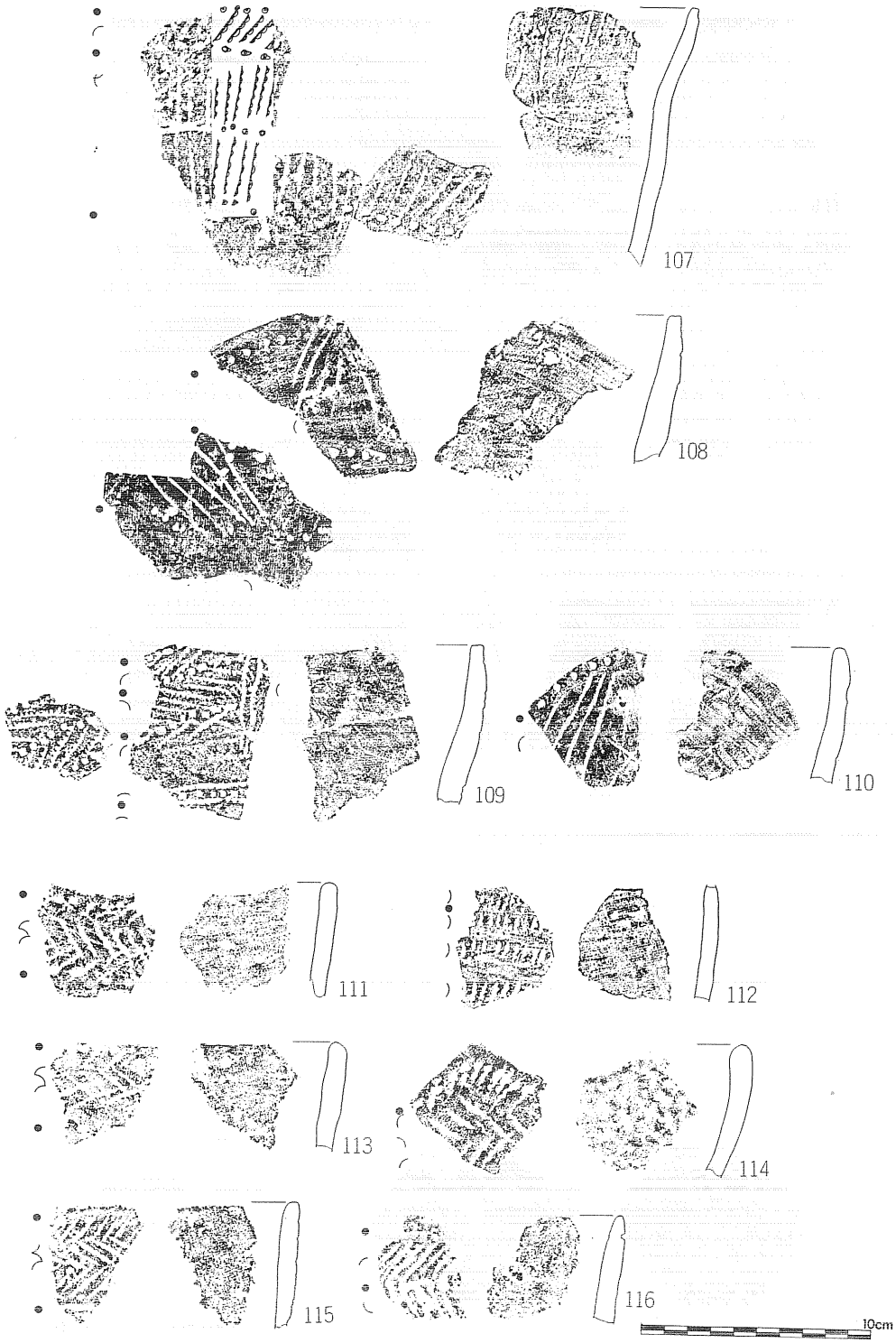
〈7〉第⑦図　第Ⅰ群土器(7)



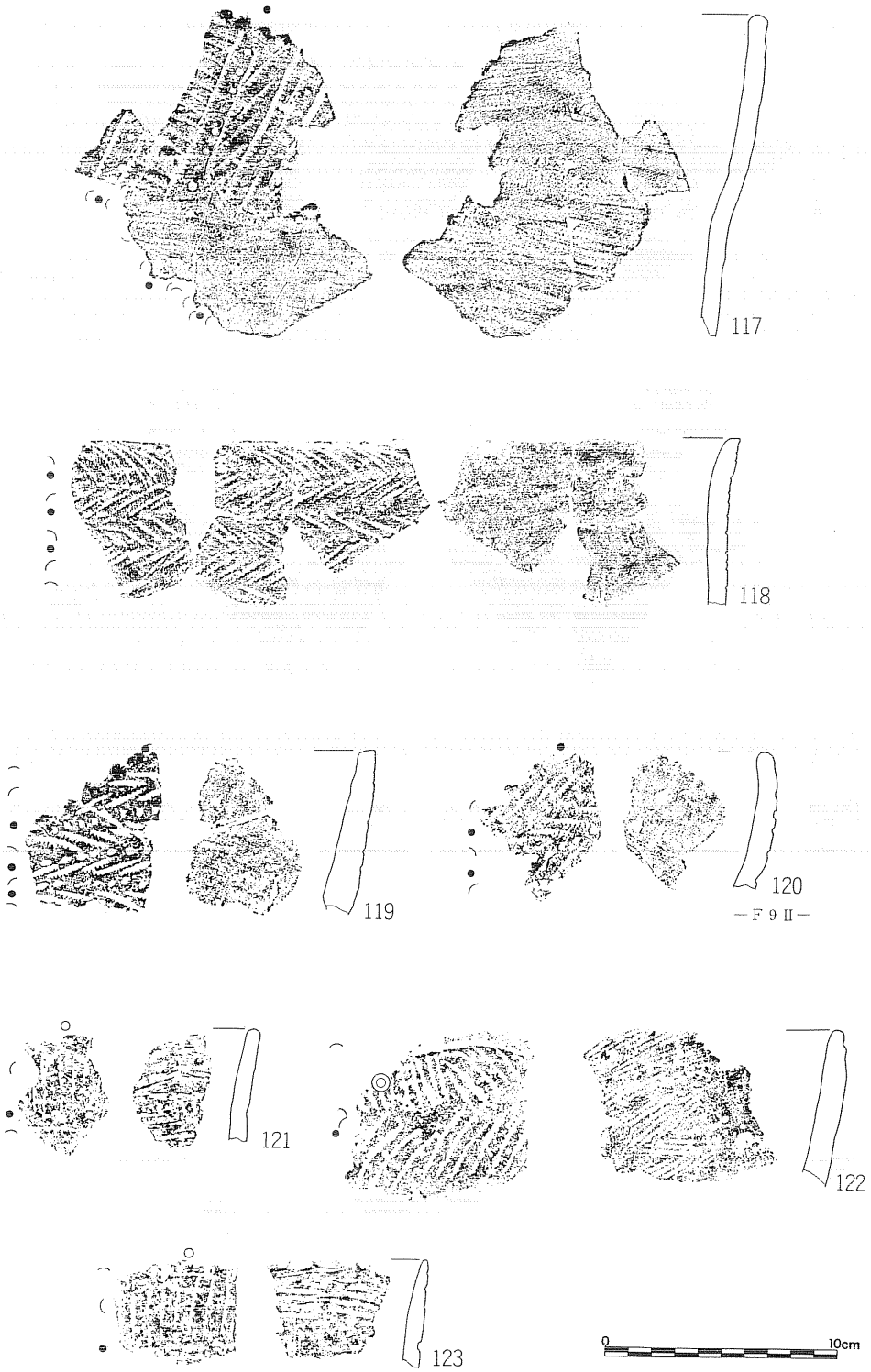
〈7〉第⑧図　第Ⅰ群土器(8)



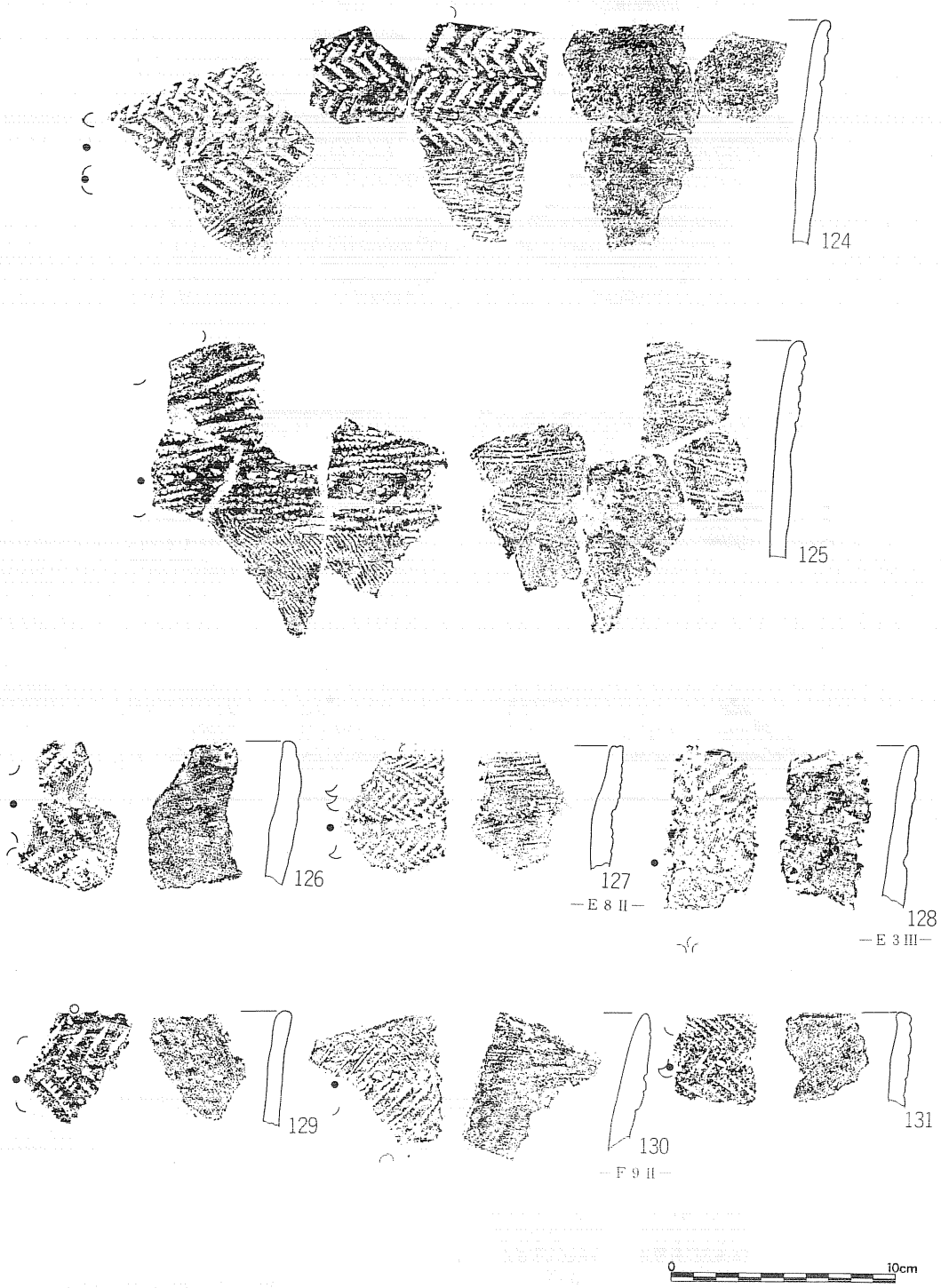
〈7〉第⑨図　第Ⅰ群土器(9)



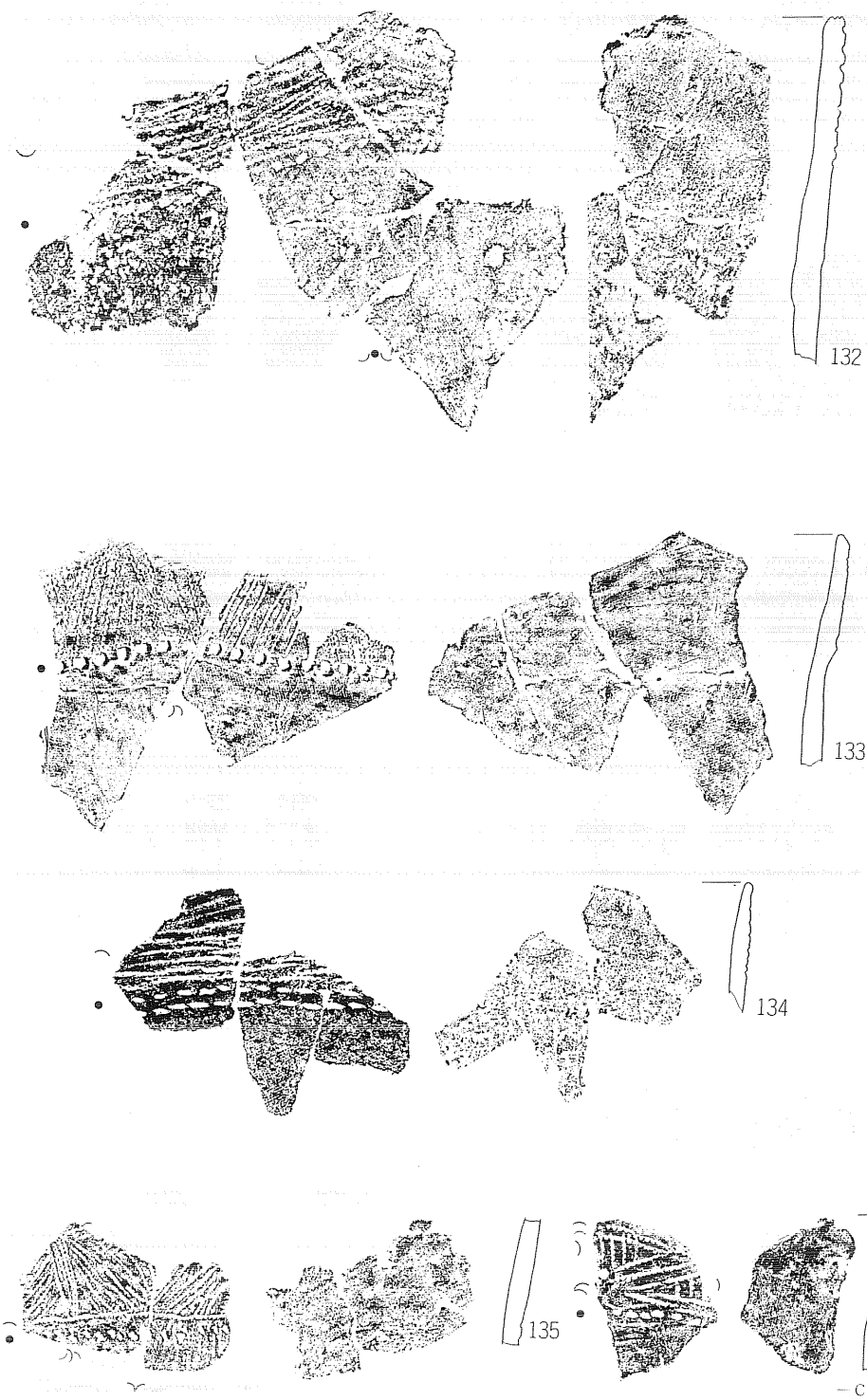
〈7〉第⑩図　第Ⅰ群土器(10)



〈7〉第⑪図　第Ⅰ群土器(11)

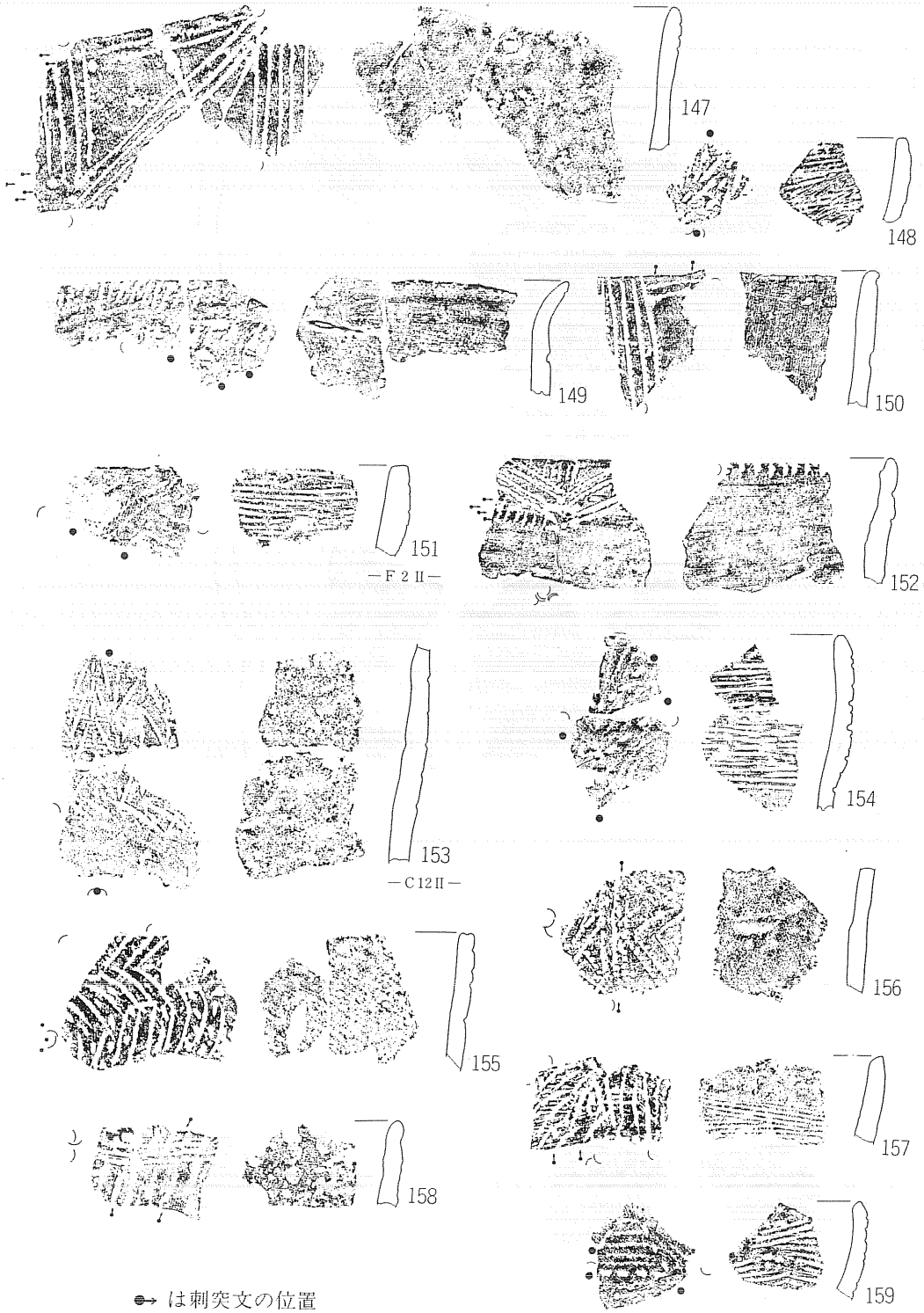


〈7〉第⑫図　第Ⅰ群土器(12)



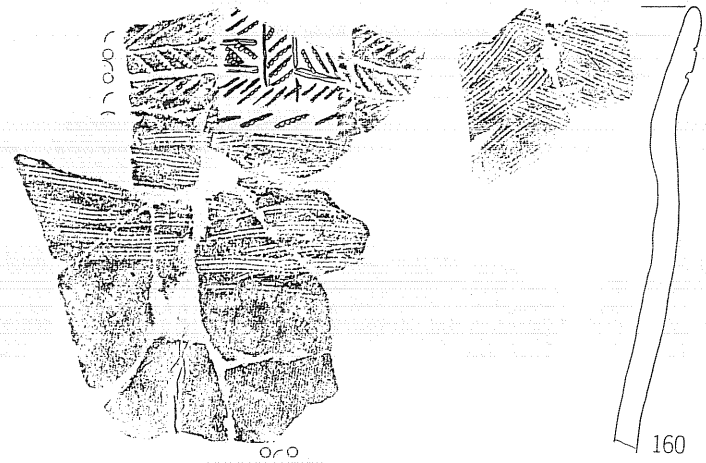
〈7〉第⑬図　第Ⅰ群土器(13)

〈7〉第⑭図　第Ⅰ群土器(14)

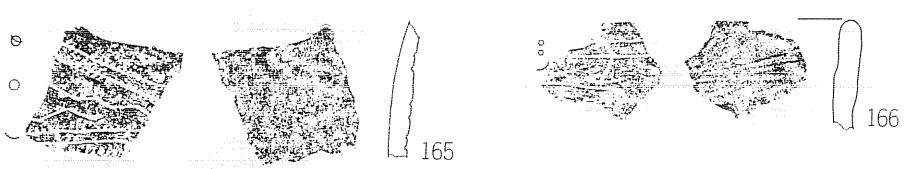


↔ は刺突文の位置

〈7〉第⑮図　第Ⅰ群土器(15)

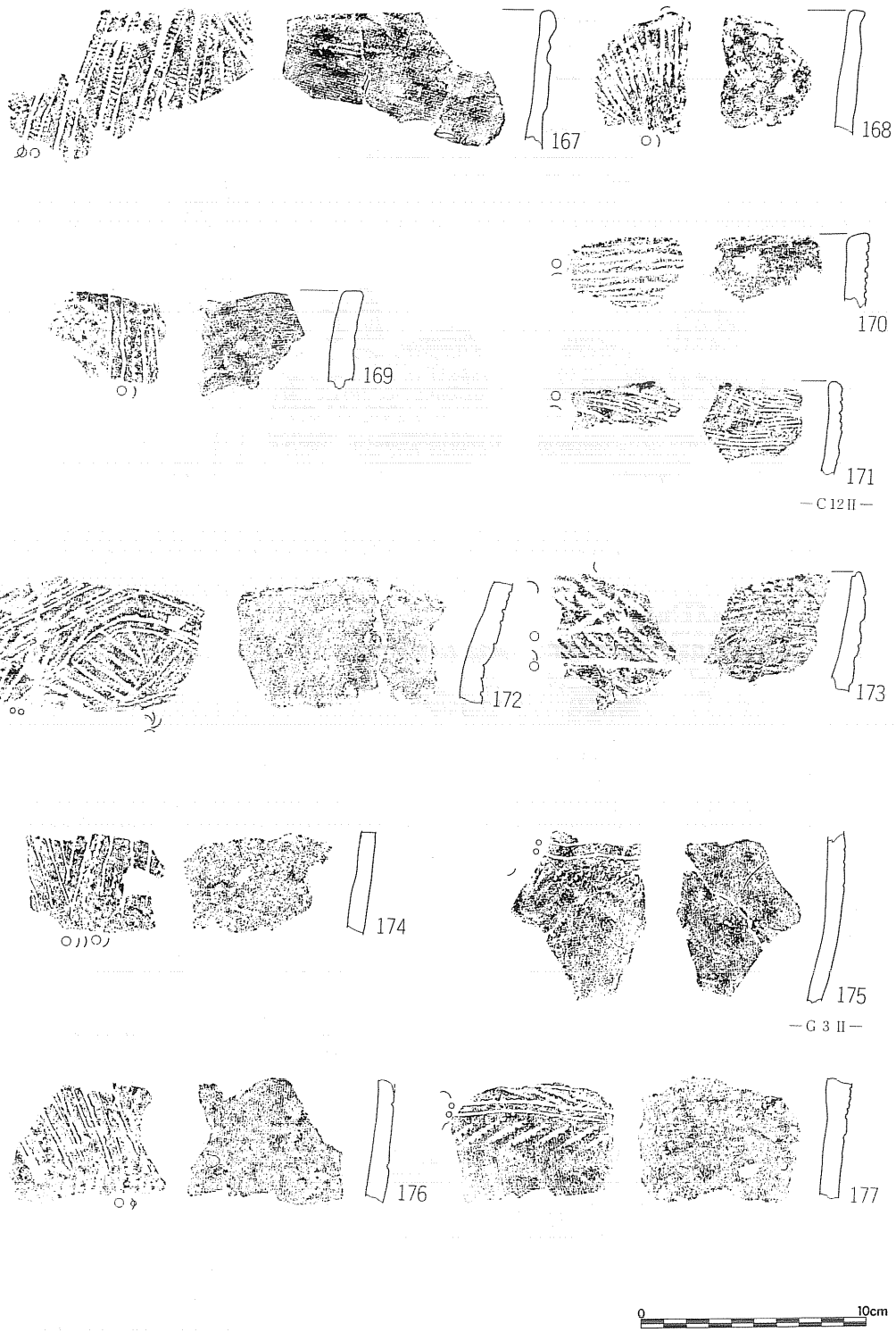


—C12II—



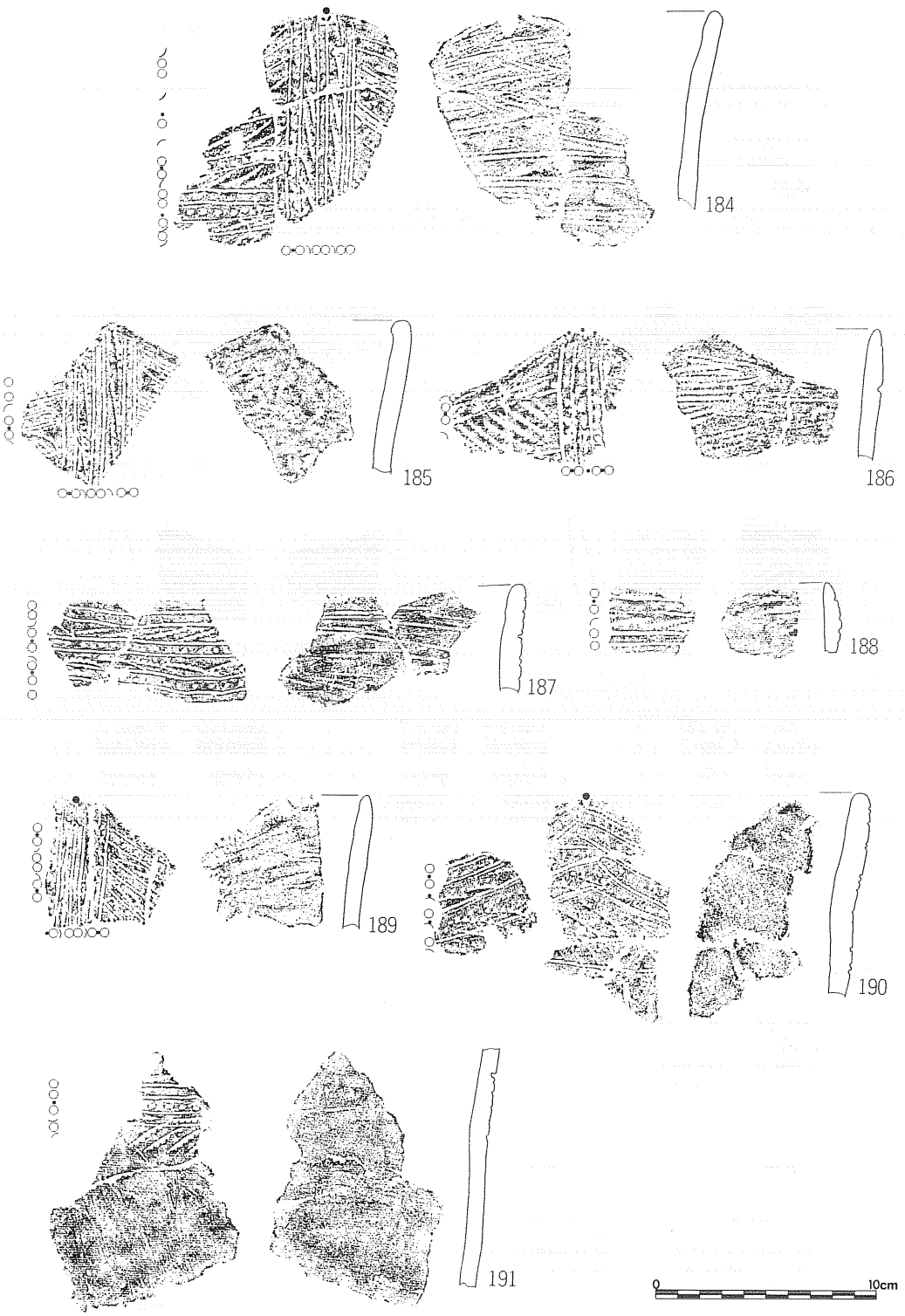
0 10cm

〈7〉第⑯図　第Ⅰ群土器(16)

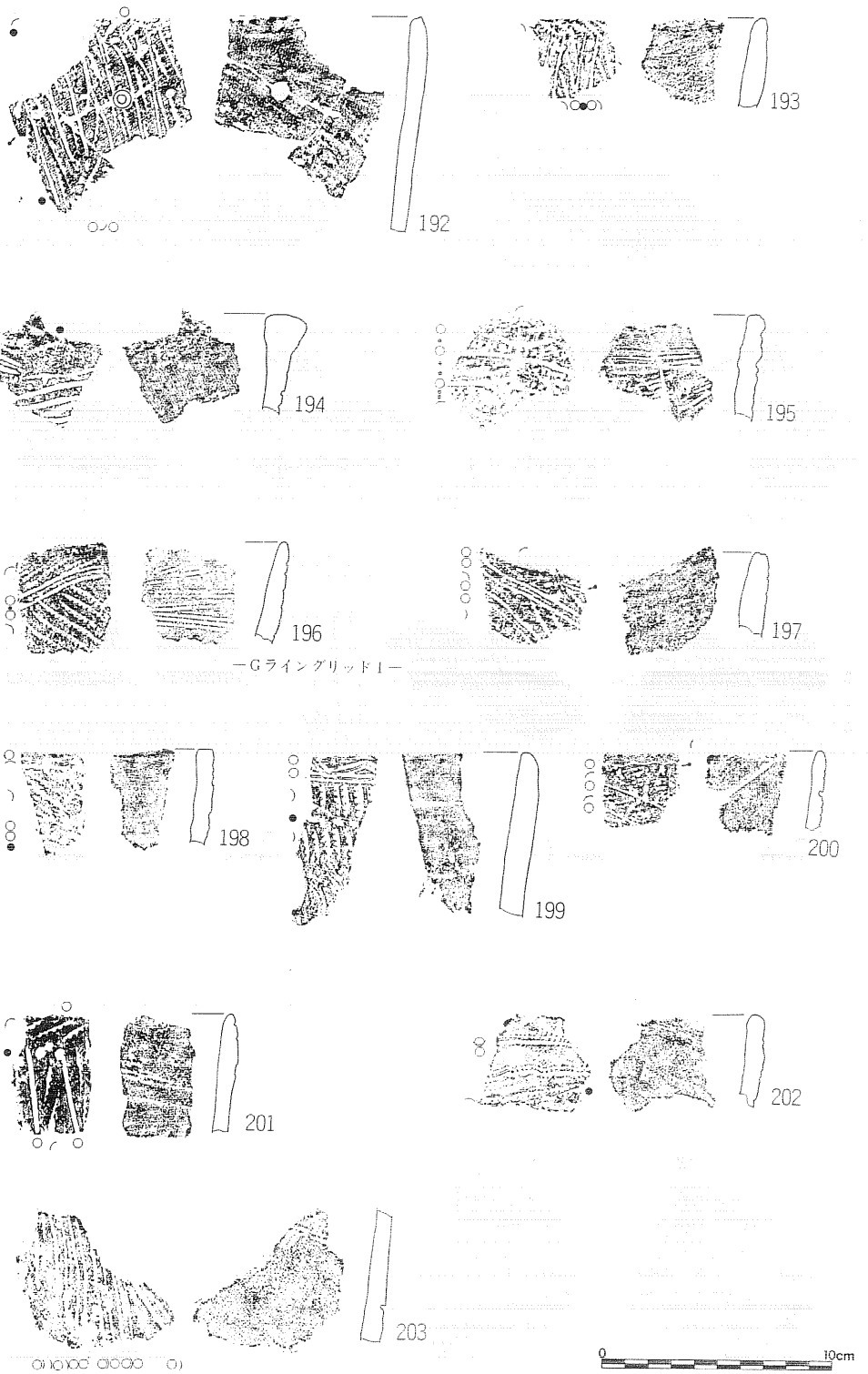


〈7〉第⑰図　第Ⅰ群土器(17)

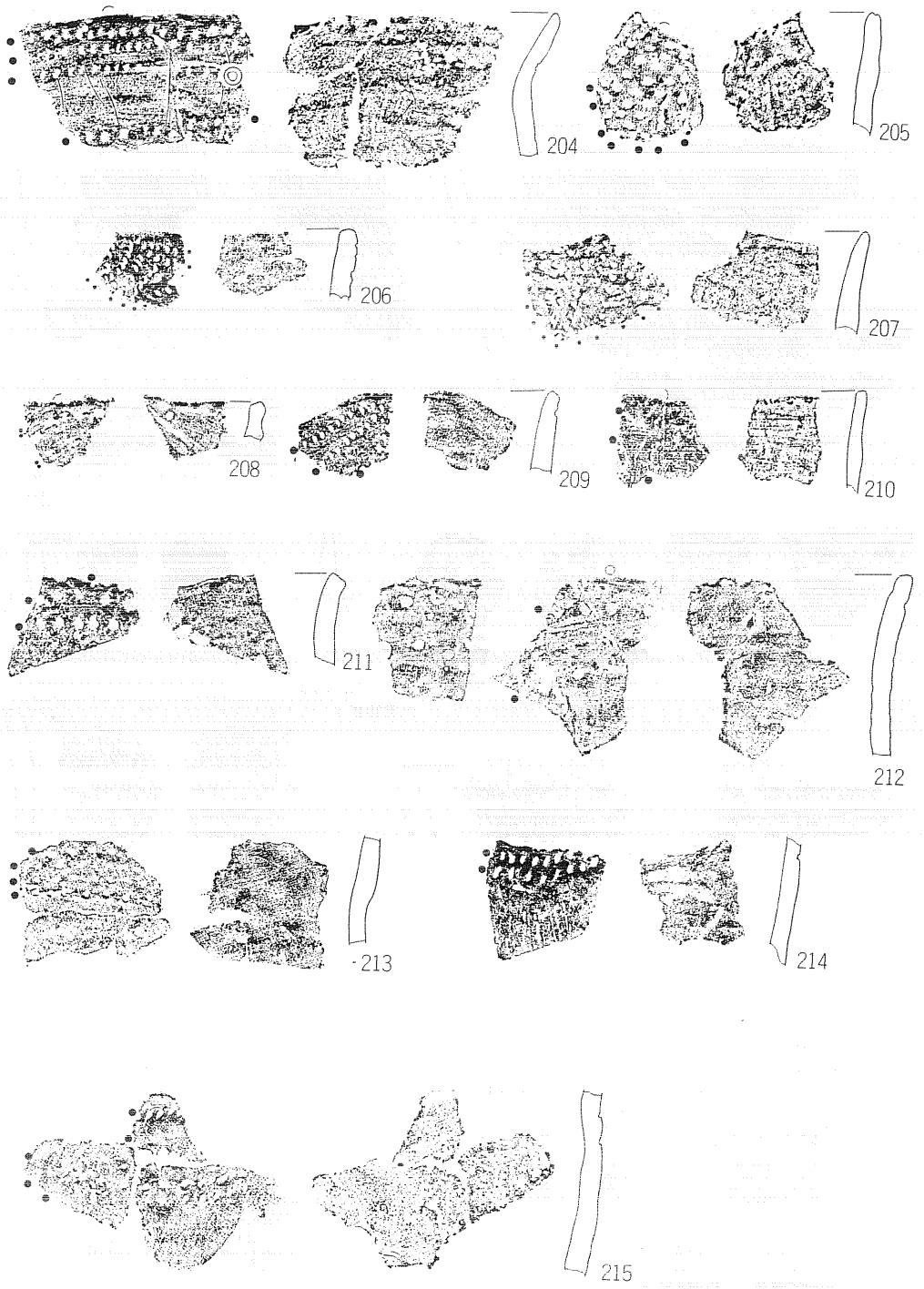
〈7〉第⑱図　第Ⅰ群土器(18)



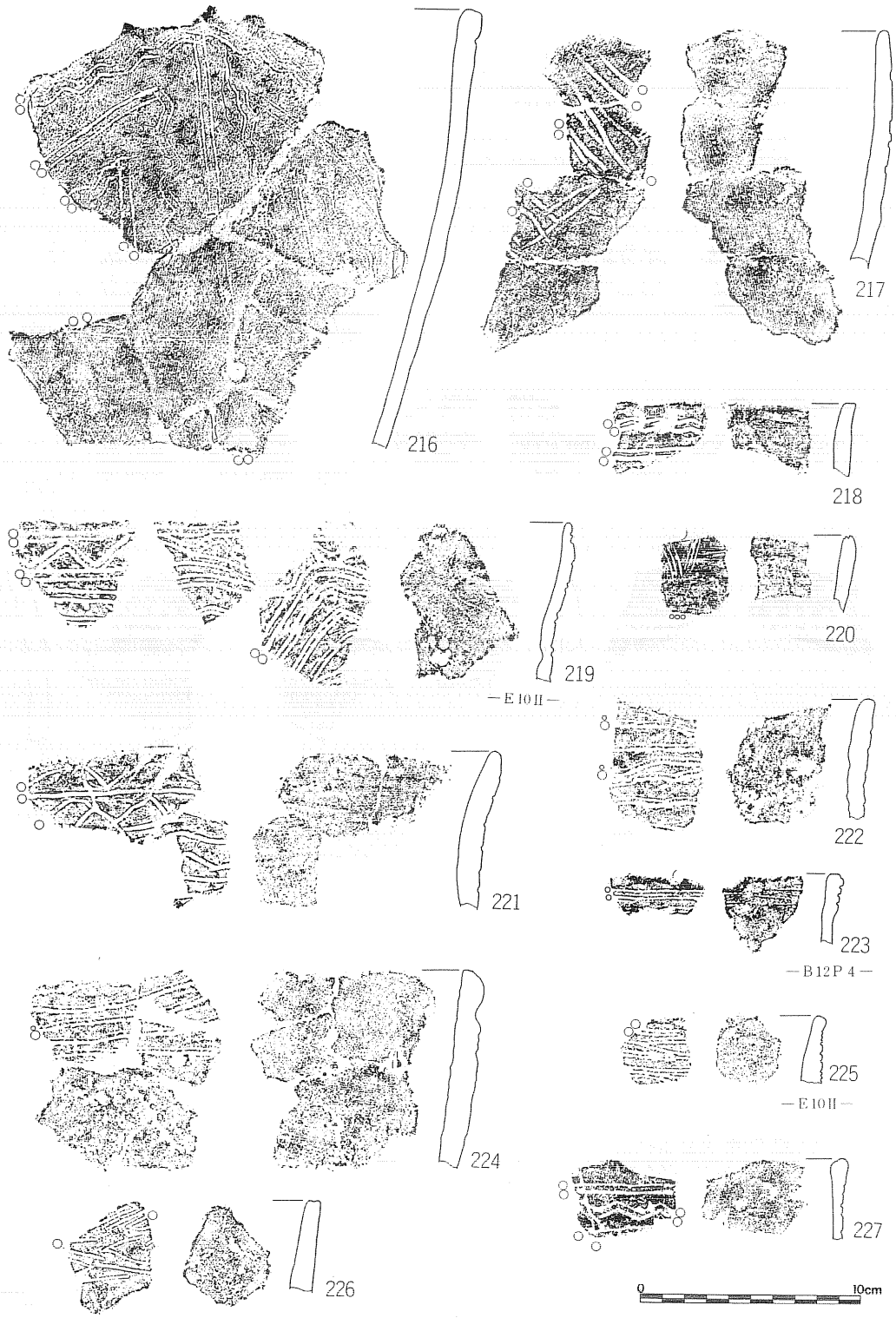
〈7〉第⑲図　第Ⅰ群土器(19)


192
193
194
195
196
197
—Gライングリッド I—
198
199
200
201
202
203
0
10cm

〈7〉第⑳図　第Ⅰ群土器⑳



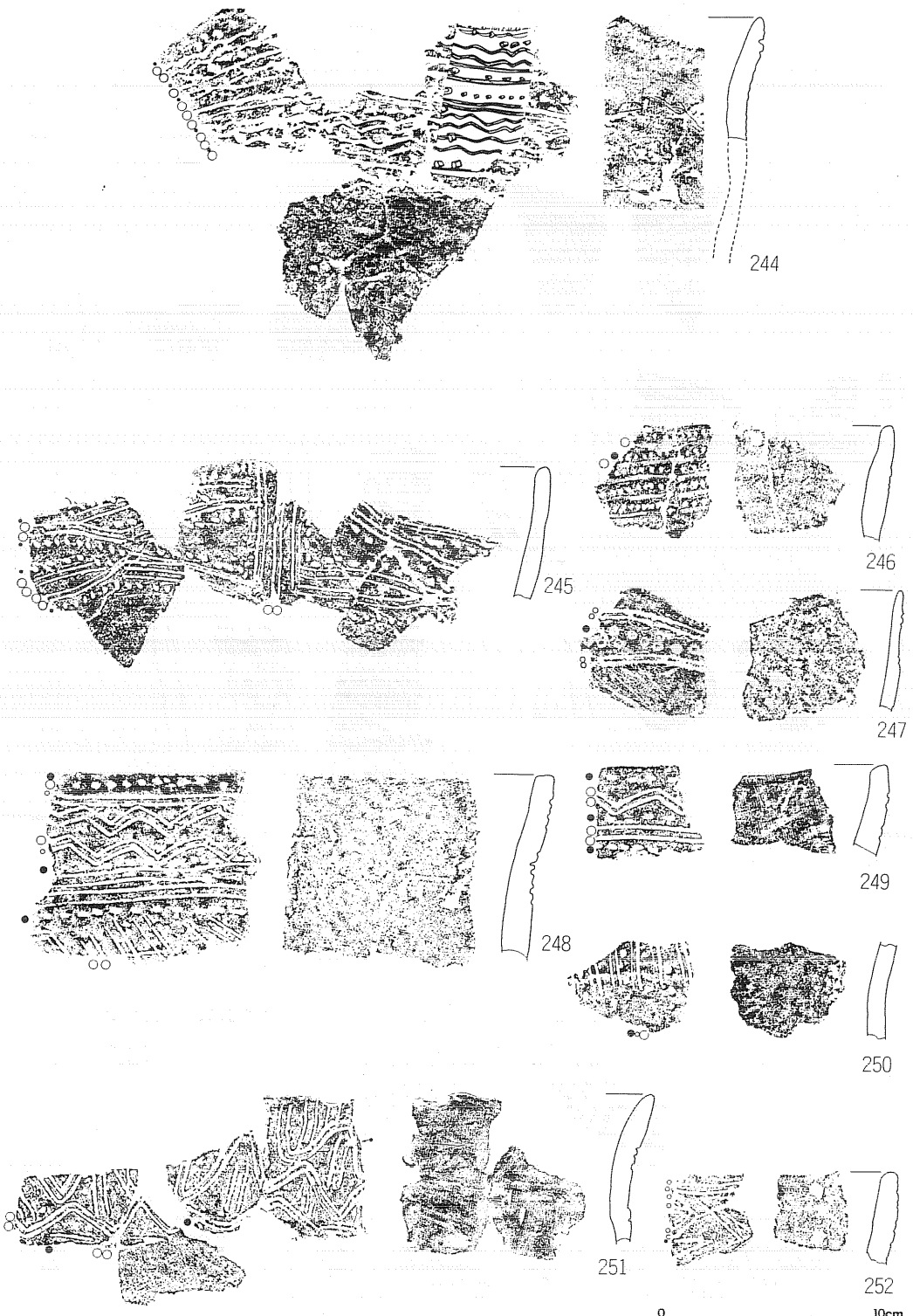
〈7〉第㉑図　第Ⅰ群土器(21)


216
217
218
219
220
—E10Ⅱ—
221
222
223
—B12P4—
224
225
—E10Ⅱ—
226
227
0
10cm

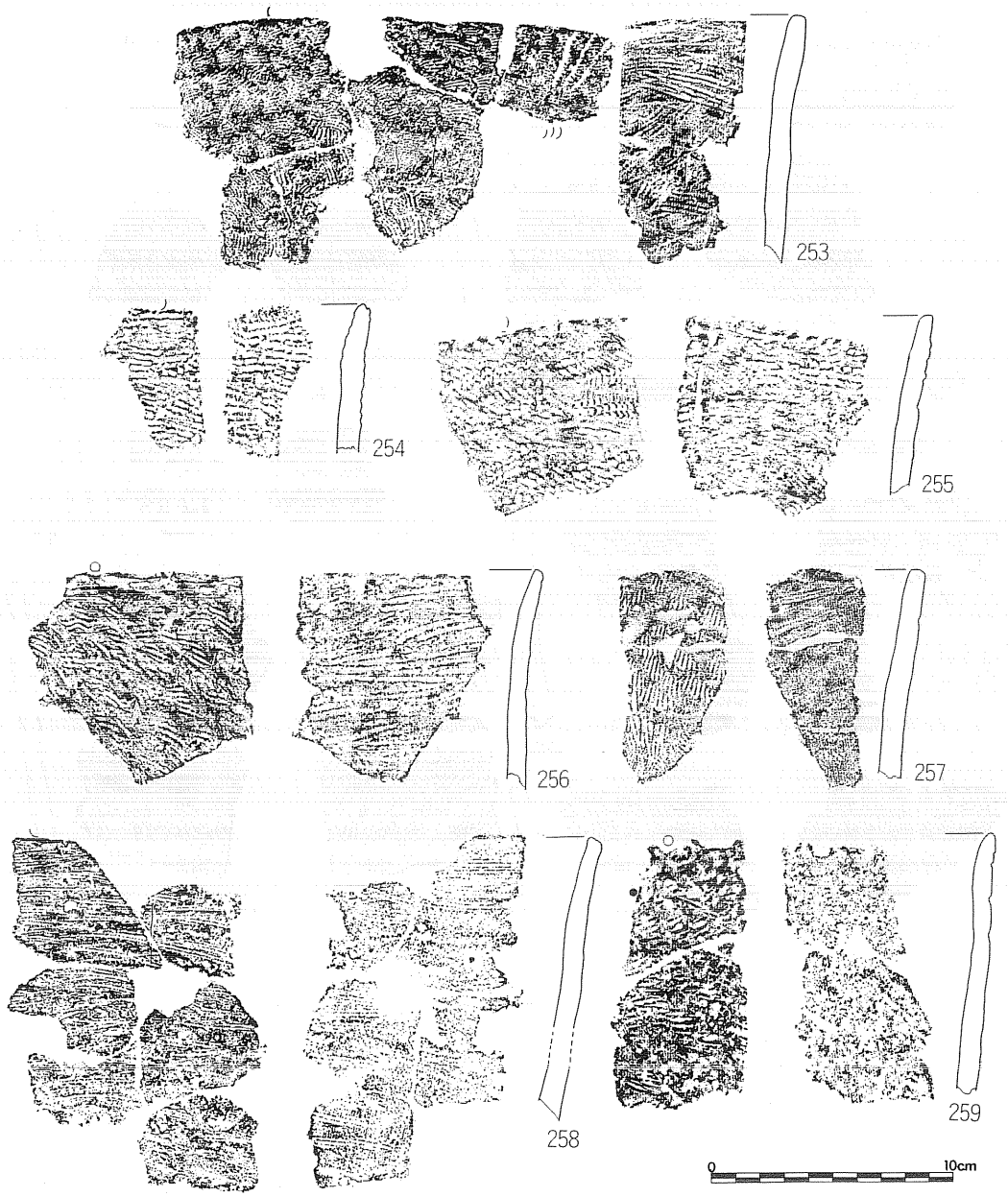
〈7〉第㉒図　第Ⅰ群土器㉒

228
— C 12 II —
229
230
231
232
233
— B 12 P 4 —
234
235
236
237
238
239
240
241
242
— E 10 II —
243
10cm

〈7〉第㉓図　第Ⅰ群土器㉓

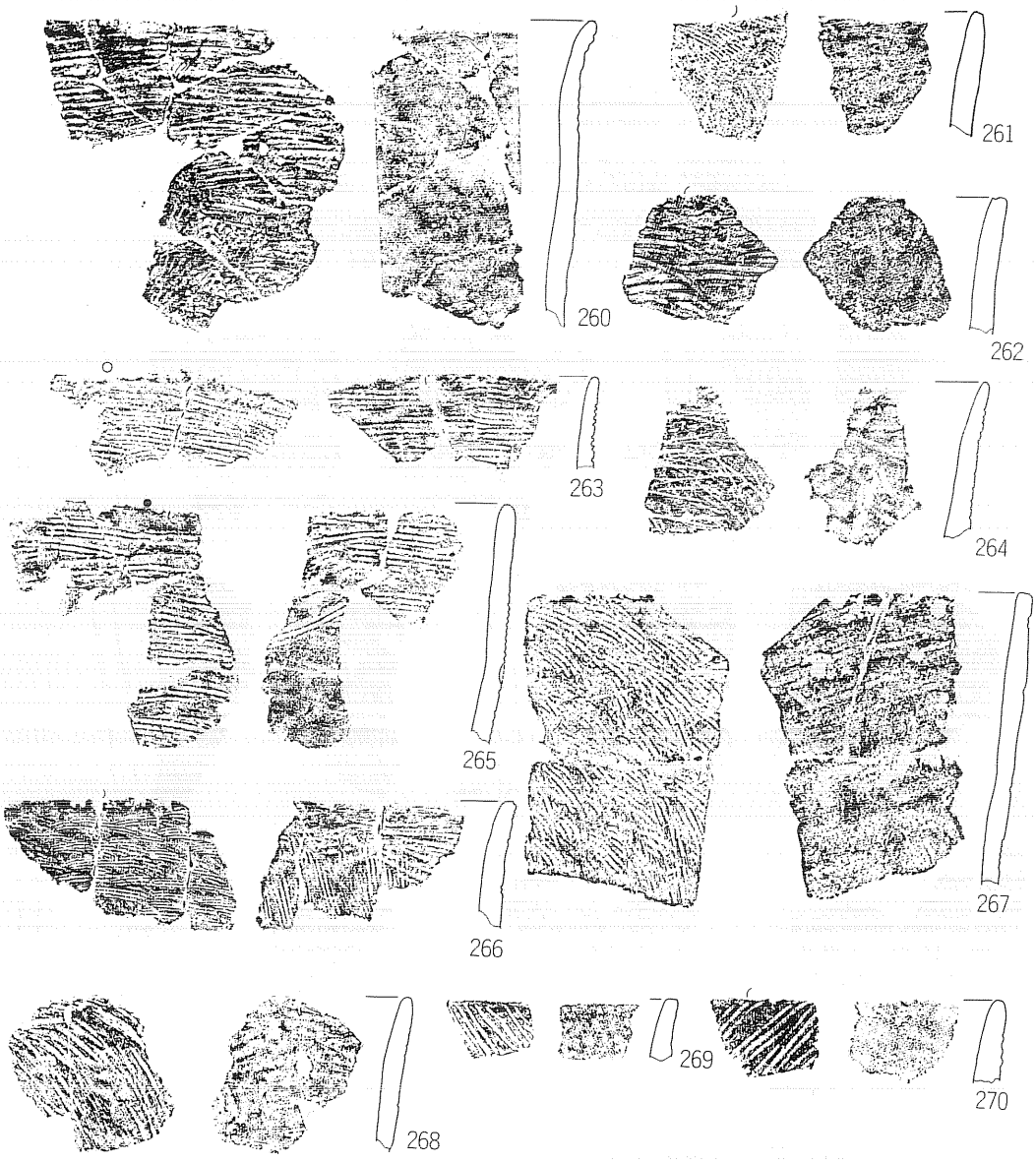


〈7〉第㉔図　第Ⅰ群土器㉔



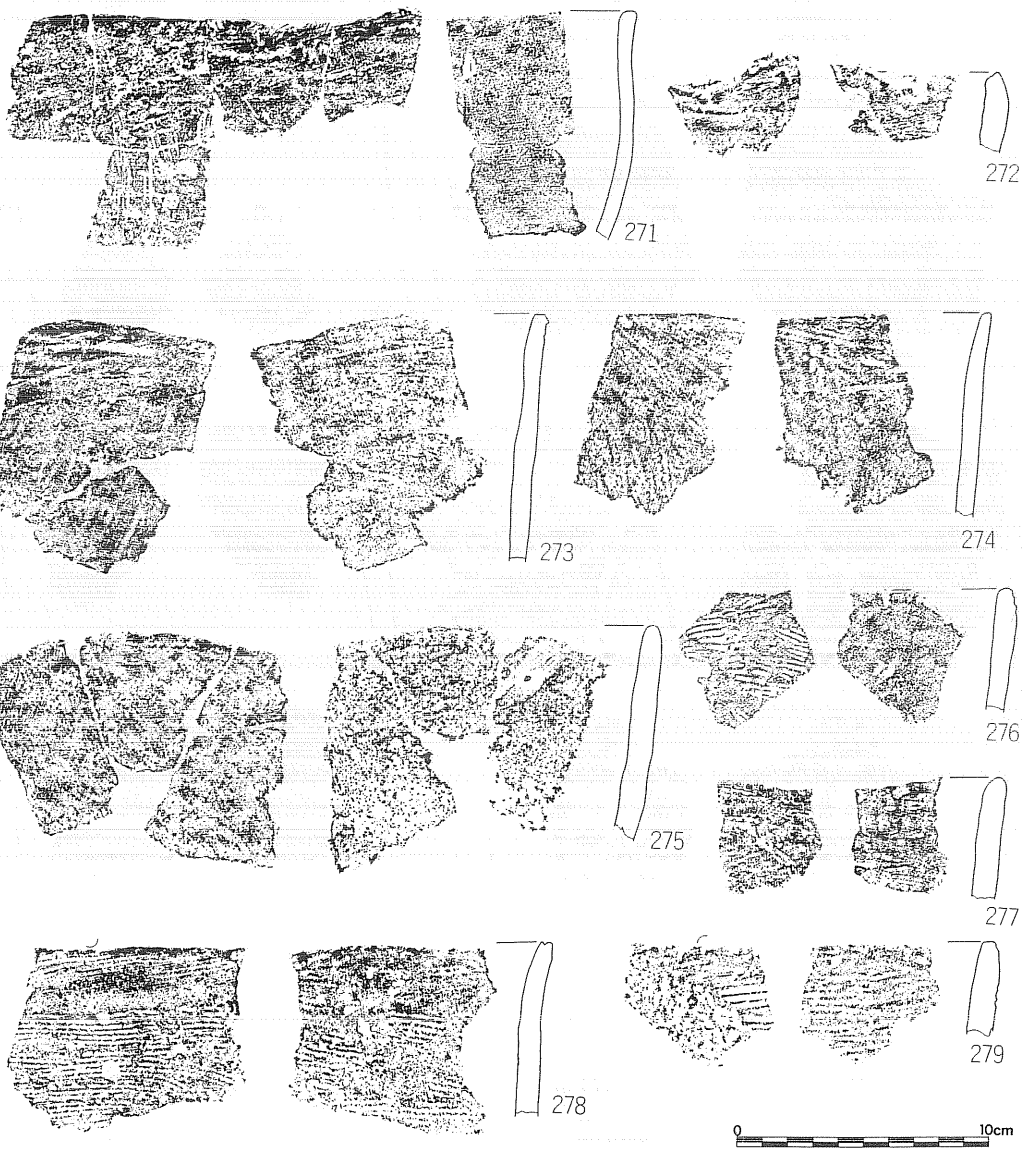
番号	出土地点	口縁部形状	器表面調整	器内面調整
253	X－RP 163他	平縁・刻目	殻頂圧痕	横位条痕
254	G－RP 228	平縁・刻目	押し引き	押し引き
255	U－RP30	山形・刻目	押し引き	押し引き
256	B′－RP176	小波状	殻表圧痕	横位条痕
257	A′－RP167	山形	殻表圧痕	横位条痕・ナデ
258	A－RP25他	平縁・刻目	横位条痕	横位条痕
259	D11グリッド	小波状	殻表圧痕	ナデ

〈7〉第㉕図　第Ⅰ群土器㉕



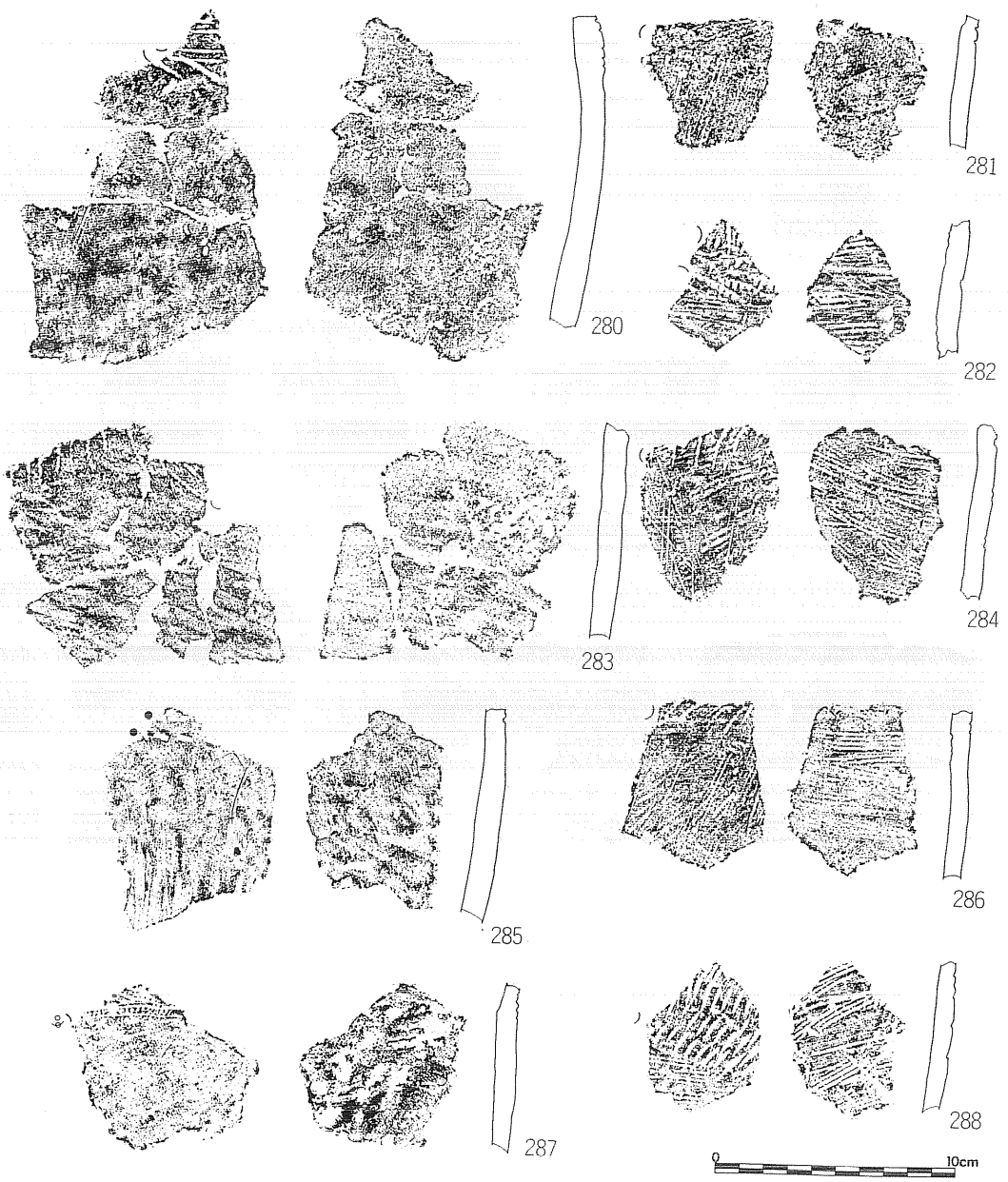
番号	出土地点	口縁部形状	器表面調整	器内面調整	番号	出土地点	口縁部形状	器表面調整	器内面調整
260	C6グリッド	平縁	横位条痕	ミガキ	266	K－RP17他	平縁・刻目	横位条痕	横位条痕・斜位条痕
261	X－RP349	山形・刻目	殻表圧痕	ナデ	267	P'－RP 182他	小波状	斜位条痕	横位条痕・ナデ
262	U－RP74	平縁・刻目	横位条痕	ナデ	268	Z－RP 169	山形	斜位条痕	ナデ
263	X－RP 384他	平縁・刺突	横位条痕	横位条痕	269		平縁	斜位条痕	ナデ
264	B'－RP248	山形	横位条痕・斜位条痕	ナデ	270	B'－RP792	平縁・刻目	斜位条痕	ナデ
265	B'－RP28	平縁・刺突	横位条痕	横位条痕・ナデ					

〈7〉第㉖図　第Ⅰ群土器㉖



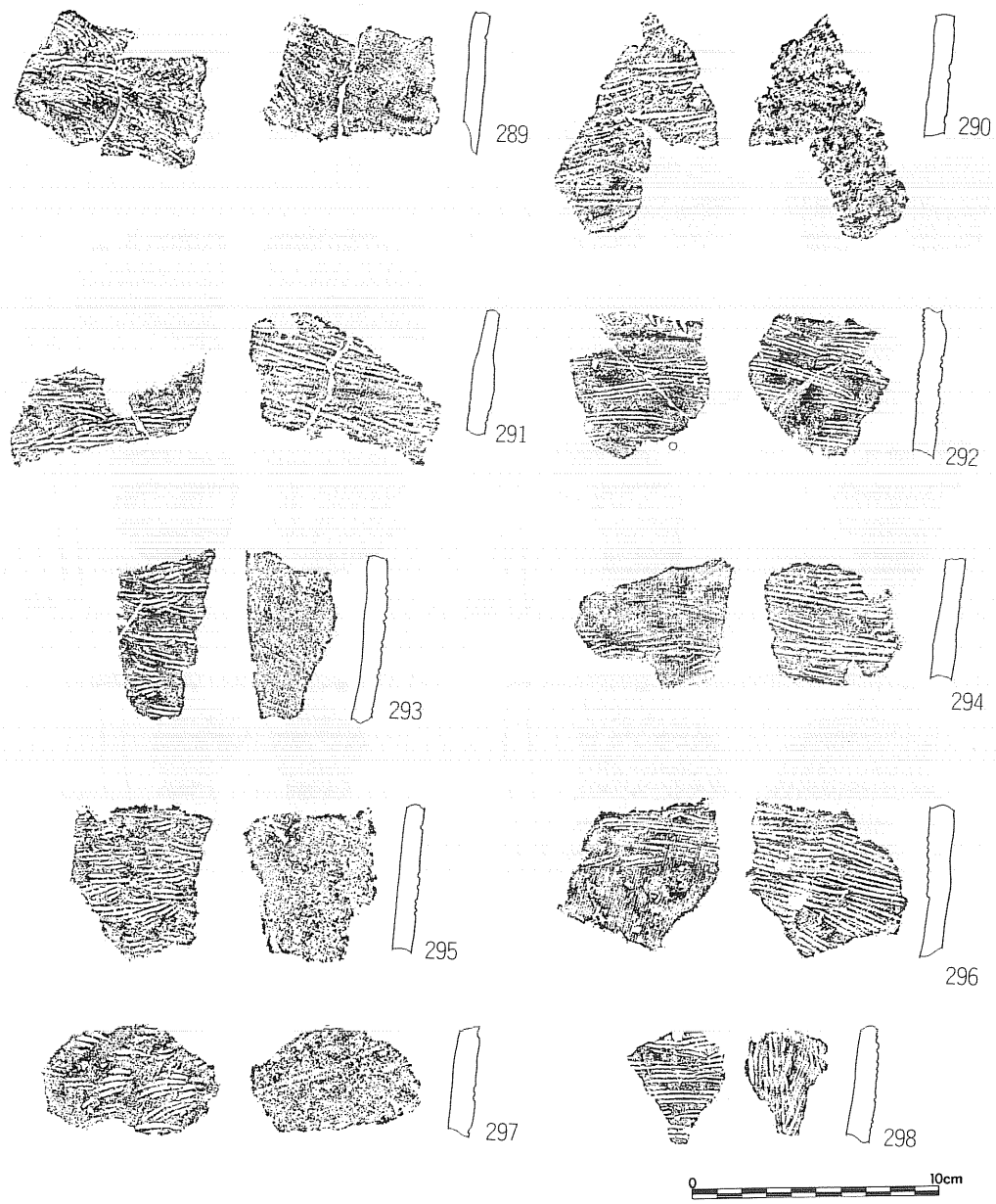
番号	出土地点	口縁部形状	器表面調整	器内面調整	番号	出土地点	口縁部形状	器表面調整	器内面調整
271	P'－RP 245他	平縁	ナデ	ナデ	276	A'－RP165	山形	殻表圧痕	ナデ
272		山形	ナデ	ナデ	277	K'－RP53	山形	腹縁圧痕	ナデ
273	E－RP 133他	山形	ナデ	ナデ	278	D9グリッド	平縁・刻目	横位条痕	横位条痕
274	X－RP 393	平縁・刻目	斜位条痕	横位条痕・ナデ	279	G－RP179	平縁・刻目	横位条痕	横位条痕
275	F9グリッドII	山形	ナデ	ナデ					

〈7〉第㉗図　第Ⅰ群土器(27)



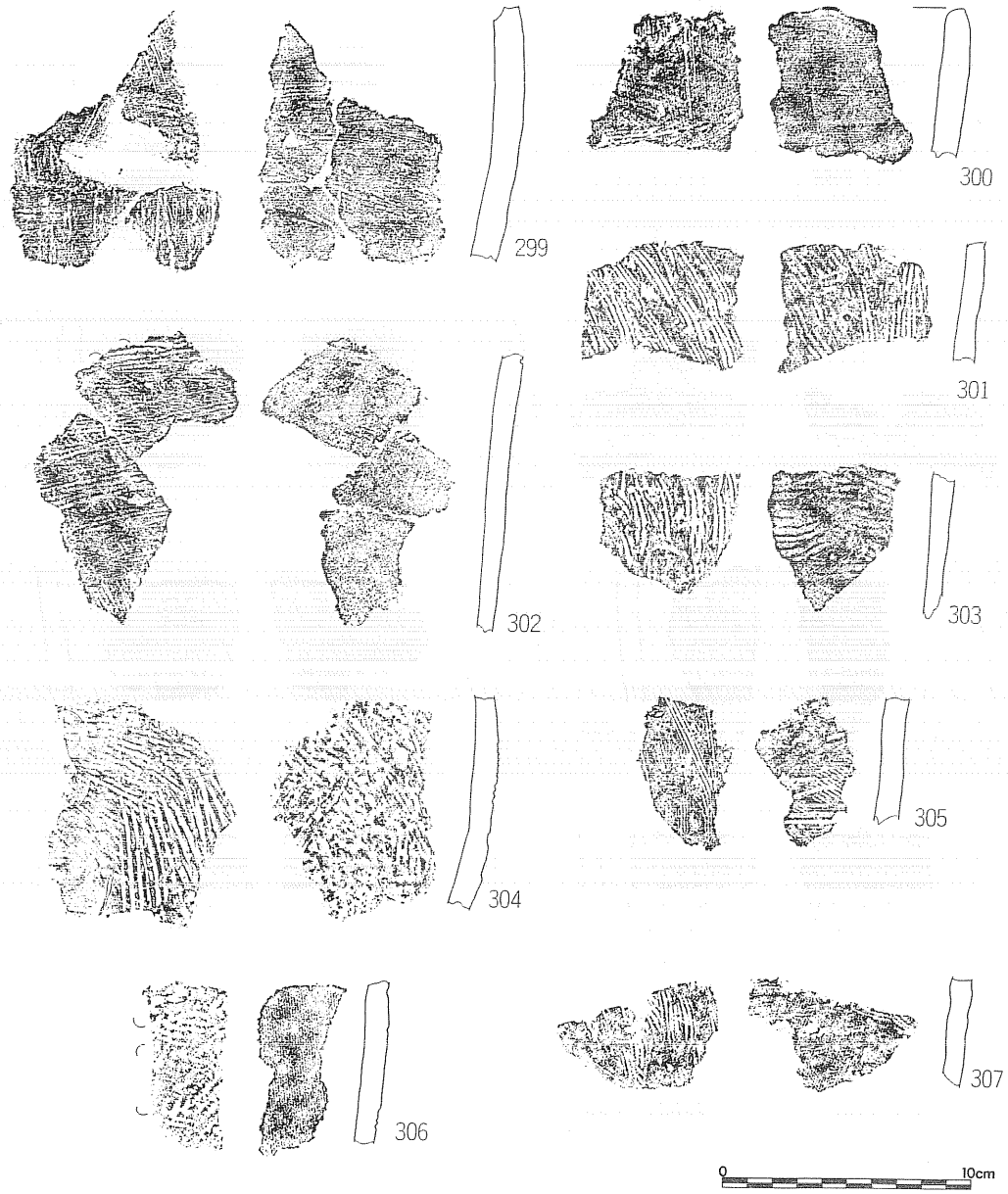
番号	出土地点	器表面調整	器内面調整	番号	出土地点	器表面調整	器内面調整
280	Z－RP 142他	ナデ	ナデ	285	X－RP 181	ナデ	ナデ
281	B′－RP86	ナデ	ナデ	286	T′－RP43	縦位条痕	横位条痕
282	X－RP 630	横位条痕	横位条痕	287	F1グリッド－RP2	ナデ	ナデ
283	M′－RP25	ナデ	ナデ	288	G－RP 162	横位条痕	横位条痕
284	M′－RP20	横位条痕・斜位条痕	横位条痕				

〈7〉第㉘図　第Ⅰ群土器㉘



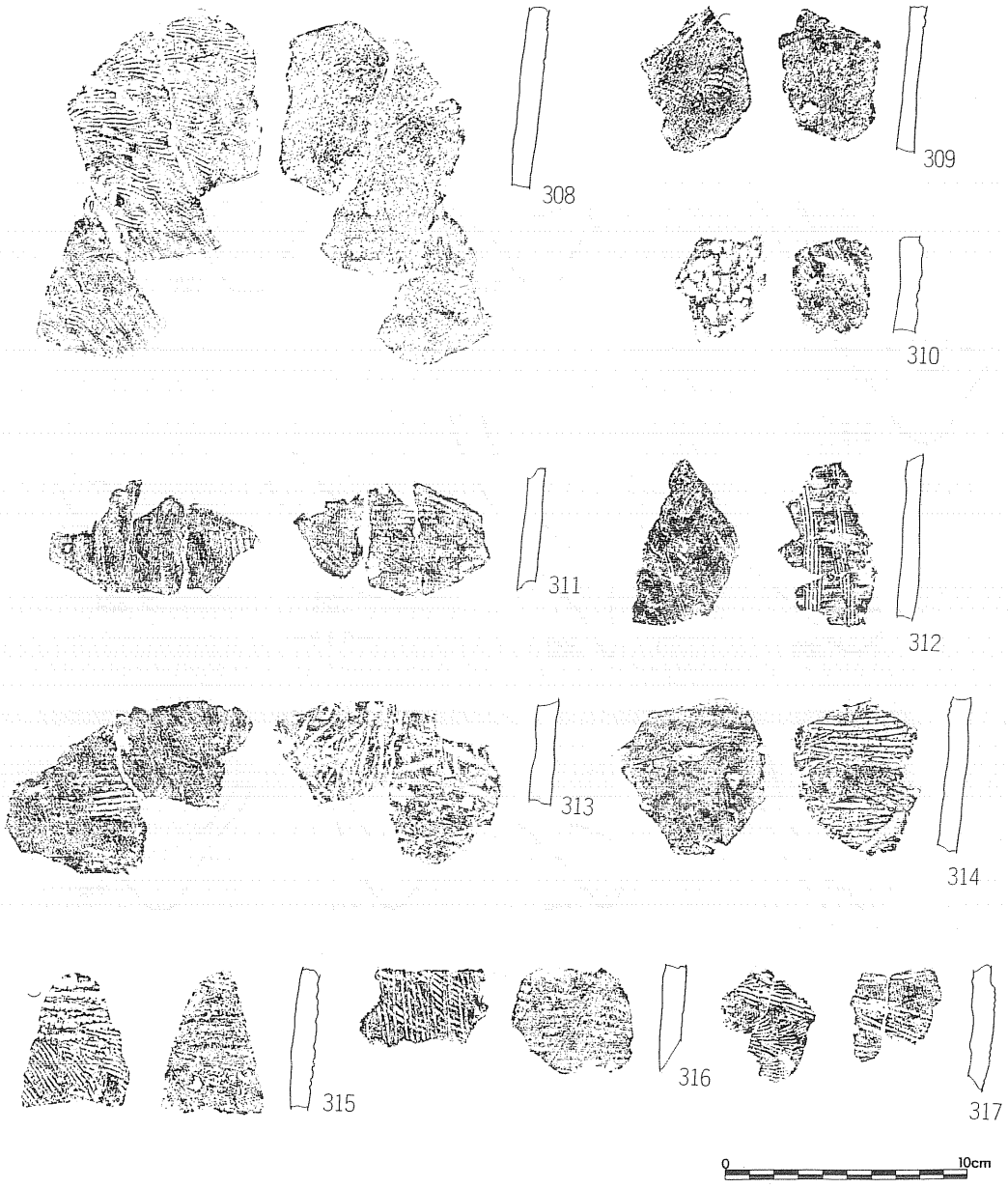
番号	出土地点	器表面調整	器内面調整	番号	出土地点	器表面調整	器内面調整
289	B－RP57・58	殻表圧痕	ナデ	294	K－RP84	横位条痕	横位条痕
290	Z－RP 178	横位条痕	ナデ	295	E10グリッドII	殻表圧痕	ナデ
291	A'－RP198・199	横位条痕	横位条痕	296	K'－RP34	横位条痕	横位条痕
292	B12グリッドII	横位条痕	横位条痕	297	Z－RP96	殻表圧痕	ナデ
293	W－RP28	殻表圧痕・横位条痕	ナデ	298	F－RP 125	横位条痕	横位条痕

〈7〉第㉙図　第Ⅰ群土器(29)



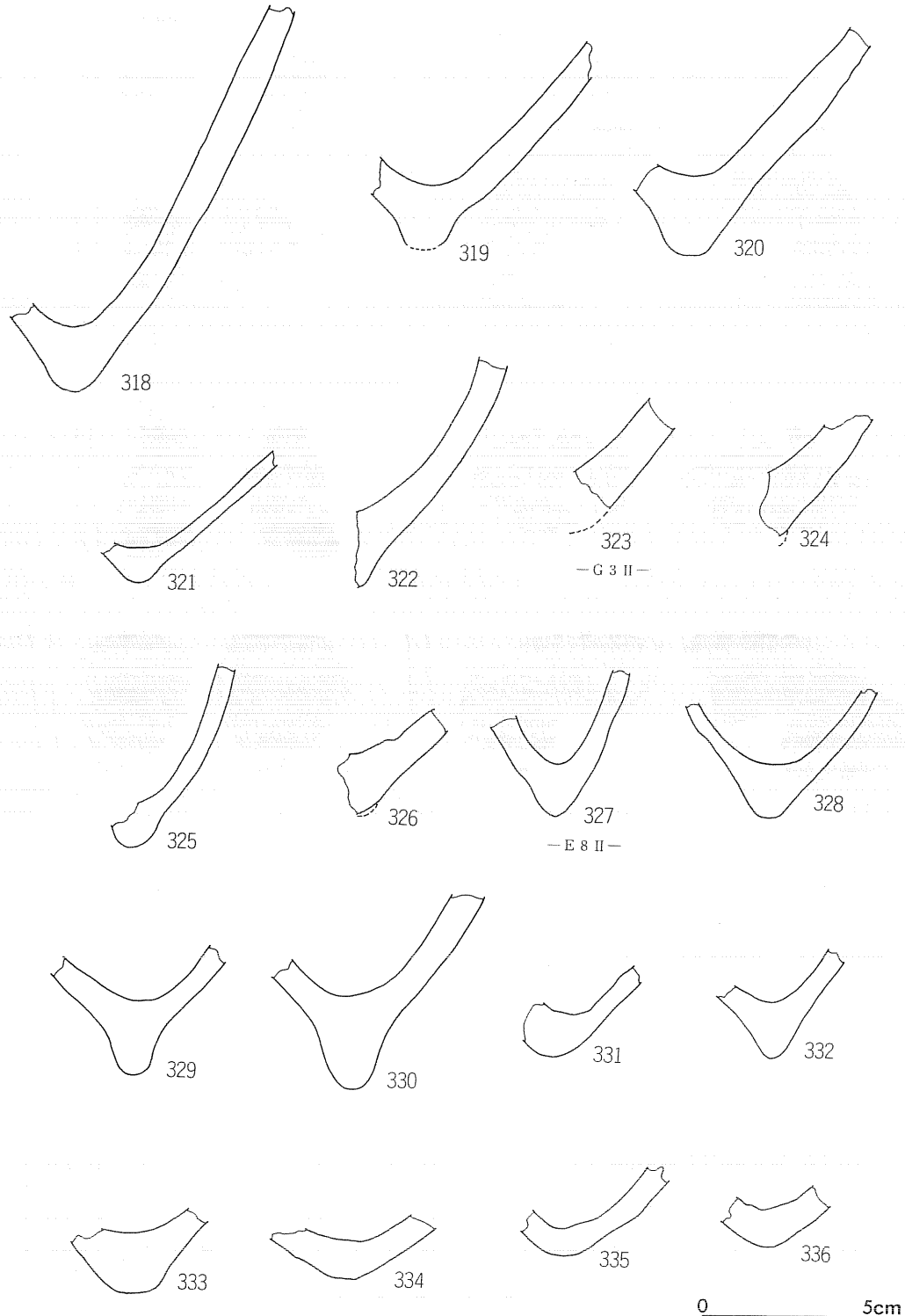
番号	出土地点	器表面調整	器内面調整	番号	出土地点	器表面調整	器内面調整
299	I′－RP3・7	ナデ	ナデ	304	U－RP25	横位条痕・斜位条痕	斜位条痕
300	M′－RP72	ナデ	ナデ	305	X－RP49	斜位条痕	斜位条痕・ナデ
301	F－RP 134	斜位条痕	縦位条痕	306	K－RP 109	腹縁圧痕	ナデ
302	Bライングリッド	横位条痕	ナデ	307	O′－RP42	殻表圧痕	横位条痕
303	F－RP 174	縦位条痕	横位条痕				

〈7〉第㉚図　第Ⅰ群土器(30)

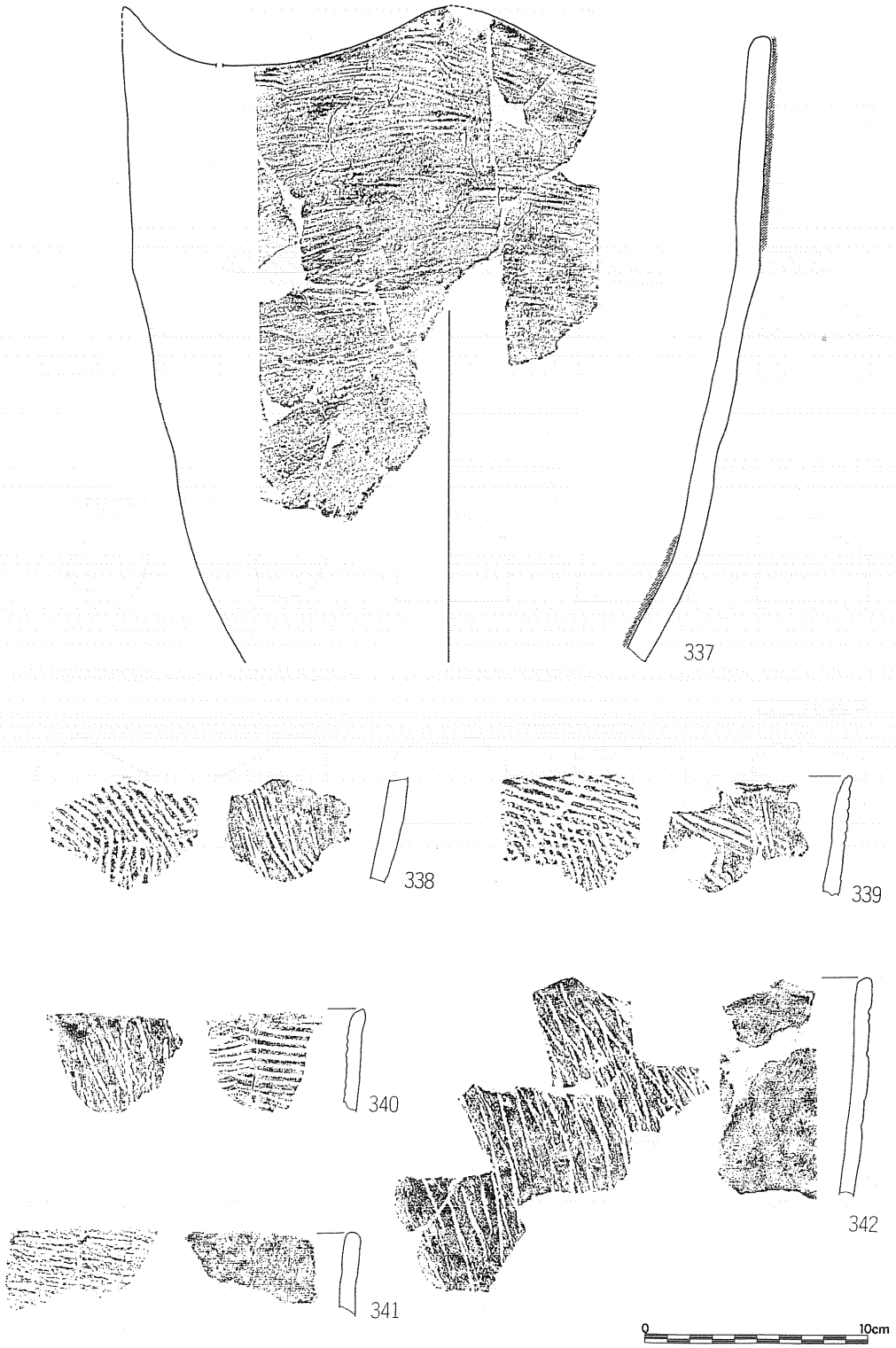


番号	出土地点	器表面調整	器内面調整	番号	出土地点	器表面調整	器内面調整
308	O'—RP 106他	殻表圧痕	ナ　デ	313	A'—RP141・114	横位条痕・ナデ	ナ　デ
309	X—RP 581	殻表圧痕	ナ　タ	314	O'—RP126	ナ　デ	横位条痕
310	K'—RP76	指頭圧痕	ナ　デ	315	I—RP 102	殻表圧痕	ナ　デ
311	E6グリッド	ナ　デ	ナ　デ	316	F—RP212	ナ　デ	横位条痕
312	X—RP44・45	ナ　デ	縦位条痕・ナデ	317	A—RP29・68	殻頂圧痕	横位条痕

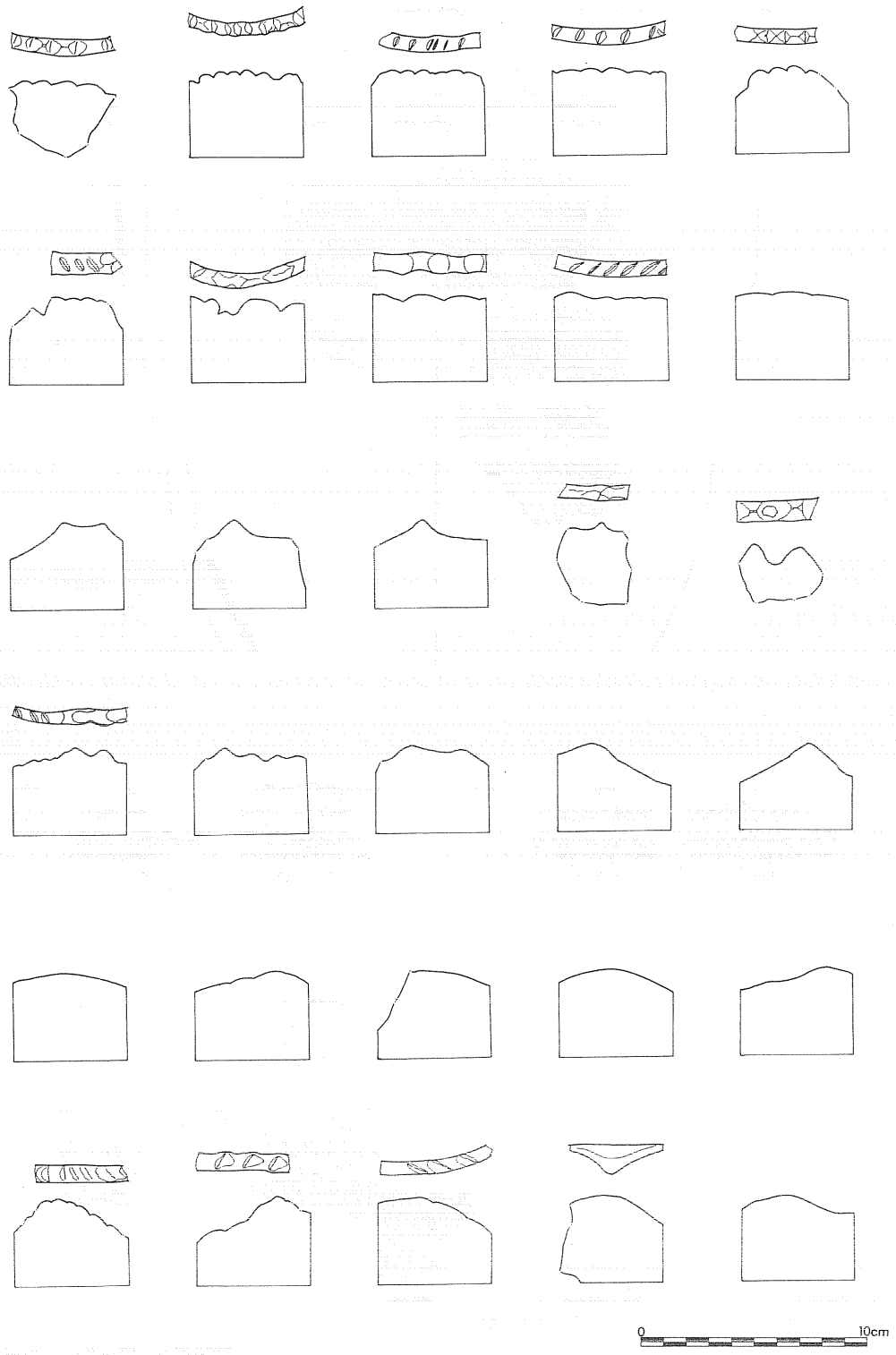
〈7〉第㉛図　第Ⅰ群土器(31)



〈7〉第㉜図　第Ⅰ群土器(32)尖底部



〈7〉第㉝図　第Ⅰ群土器(33)



〈7〉第㉞図　第Ⅰ群無文土器口縁部模式図

第Ⅱ群土器—〈7〉第㉟・㊱図—

縄文時代前期の土器を本群とする。出土の量は相対的に少なく，出土点数は約190点である。南西部のＢ８，Ｂ９，Ｃ８，Ｃ９グリッドに多く出土している。

捜図に示したのはいずれも深鉢形土器の口縁部，胴部，底部破片である。

口縁部の文様は縄文により施文されており，施文方法でいくつかに分類される。

ａ：綾絡文を施文したもの〈7〉第㉟図—１・２・11・12

ｂ：斜縄文を施文したもの〈7〉第㉟図—８

ｃ：付加条で上の撚糸を離して巻きつけ施文したもの〈7〉第㉟図—６・７・９

c_2：付加条で上の撚糸を反対にして巻きつけ格子目状に施文したもの〈7〉第㉟図—３～５・10・13～15

口縁部の器形はほとんどが平縁であるが，口唇部の突き出したものがあり，１・２では刻目を施す。11は口縁部が山形状を呈し，突起をもつ。９も口縁部がゆるい山形状を呈し，裏面にも付加条縄文が圧痕施文されている。文様により16～18・21～25が口縁部と接合関係にある胴部，底部と考えられる。平底で底辺部が突き出し，安定性があり，底部外面まで縄文が施文されている。16は底部よりまっすぐ立ち上がり，外傾するもので，器表面の文様は胴部上半から下半にかけては付加条縄文の格子目文が施文され，底辺部付近ではその原体を横位に圧痕施文している。内面はナデで調整している。３～５の口縁部が接合資料とも考えられる。

ａ～ｃの口縁部，胴部，底部はいずれも縄文時代前期初頭に時期が考えられる。なお色調はにぶい黄橙色を呈し，胎土は比較的粗く，厚い器壁の中に繊維を混入したものが多くみられる。焼成も比較的不良である。

19は胴部破片で器表面は多軸絡条体回転文を施文している。20は口縁部破片で短い口縁部に絡条体を横位に圧痕施文し，その下の隆線文に刺突文を施文している。胴部は羽状縄文を施文しており，隆線文の下に綾絡文がみられる。19・20は前期末葉に時期が考えられ，円筒下層ｄ式に比定される。

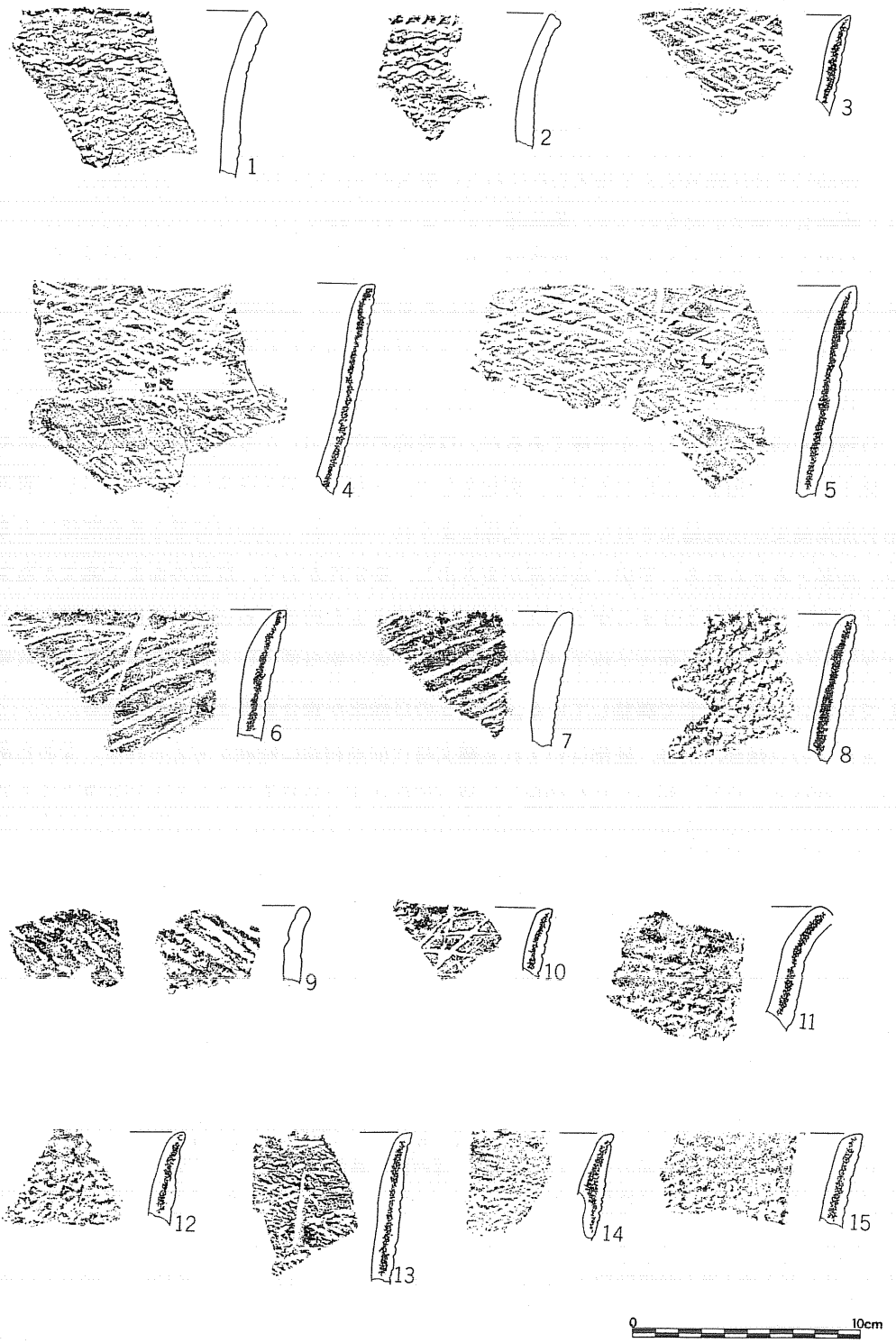
◇鳶ケ長根Ⅳ遺跡実測土器のまとめ(1)

第Ⅰ群土器

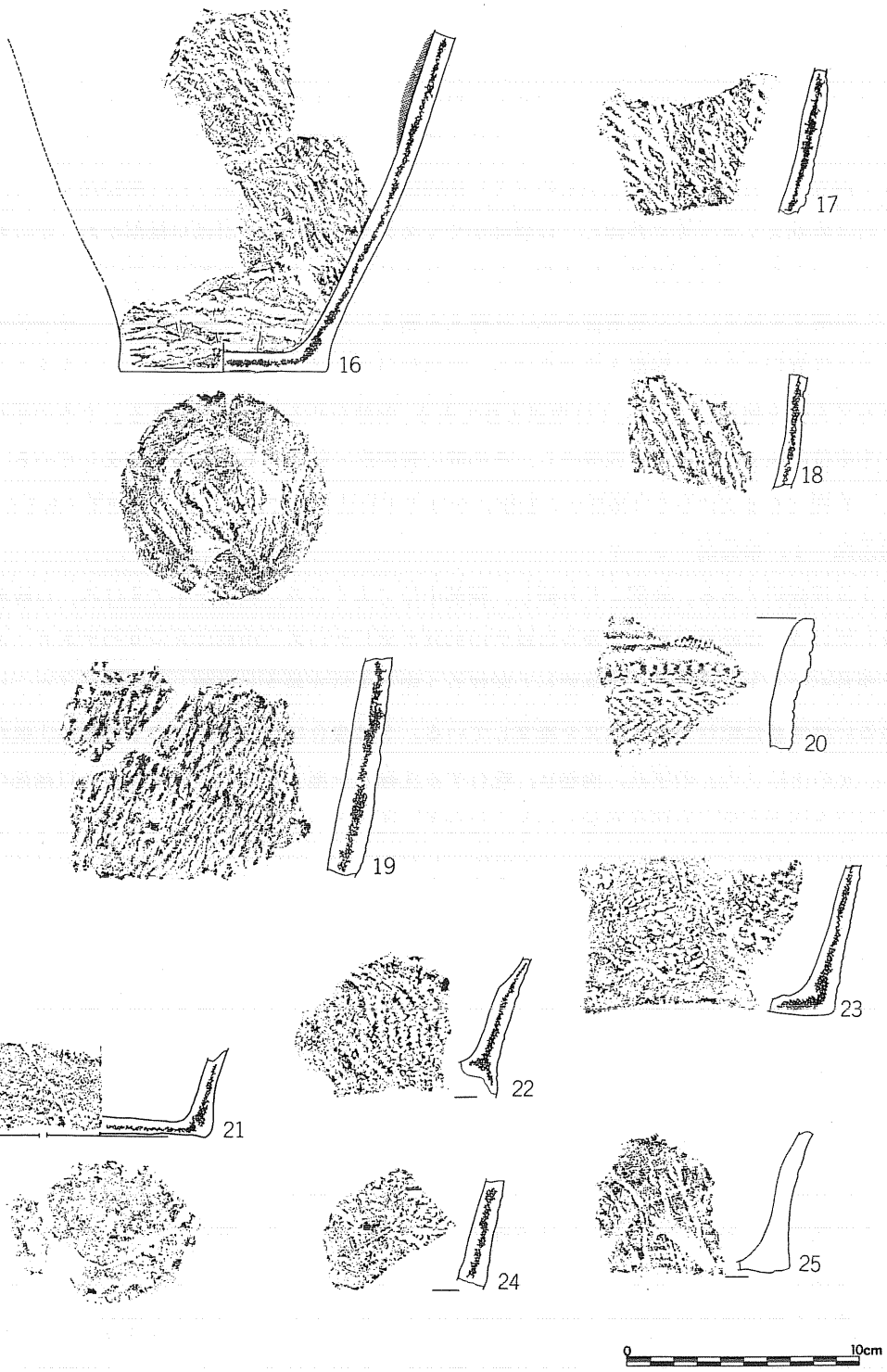
図版番号 出土地点	①器種 ②口径・底径・高さ(cm) ③色調 ④胎土 ⑤焼成 ⑥器表面の主な文様(調整)／器内面の調整 ⑦備考
〈7〉第①図—１ Ｘ—ＲＰ 262 他	①尖底深鉢形土器 ②(22.4)・——・(10.6) ③赤褐色 ④比較的粗 ⑤比較的良 ⑥貝殻腹縁圧痕文 ／貝殻条痕文 ⑦外面にスス付着
〈7〉第㉝図-337 Ｘ—ＲＰ 207 他	①尖底深鉢形土器 ②(29.0)・——・(29.4) ③灰黄褐色 ④密 ⑤良好 ⑥貝殻条痕文 ／ナデ ⑦内面・外面にスス付着

第Ⅱ群土器

〈7〉第㊱図—16 Ｇ—ＲＰ85他	①深鉢形土器 ②——・9.0・(14.7) ③にぶい黄橙色 ④比較的密 ⑤良好 ⑥付加条縄文 ／ナデ ⑦内面にスス付着



〈7〉第㉟図　第II群土器(1)



〈7〉第㊱図　第II群土器(2)

第Ⅲ群土器—〈7〉第㊲～㊹図—

縄文時代後期の土器を本群とする。東側に広範囲に分布し，出土点数は約1,500点である。第Ⅲ群の土器は深鉢形土器が多く，浅鉢形土器は1点だけである。土壙内から出土した小形壺形土器，土製品も含めた。深鉢形土器を文様の構成で分類すると以下のとおりである。

a：器表面に斜縄文を施文したもの〈7〉第㊵図—10・11，第㊶図—13，第㊸図—21～23

11は底部よりまっすぐ外傾し，口唇部がやや突き出している。21は口縁部がわずかに複合するものである。13は口縁部が無文帯となり，強く外反して5つの山形状を呈するものである。

b：斜縄文を地文にして器表面全体に沈線文を施文したもの〈7〉第㊲図—2，第㊳図—4他

2は埋甕炉である。胴部上半ですぼみ，口縁部付近で外反する。1本の沈線文を大きく蛇行させて文様を施文している。4は埋設土器である。胴部がゆるやかに外傾する。2本の平行沈線文を縦位に施文し，胴部を四等分し，その間に長円形・蛇行する沈線文を施文している。

c_1：斜縄文を地文にして口縁部から胴部にかけて平行沈線文で区画された文様帯のあるもの〈7〉第㊲図—1，第㊴図—5・7

1は埋甕炉である。底部より外傾し，胴部中位でふくらみ，胴部上半ですぼみ，口縁部が外反している。口縁部は無文の複合口縁で山形状を呈している。山形は8～9つであり，その下に突起がつくようである。口縁部から胴部を3段の平行沈線文で区画，その間に「の」の字状あるいは波状に蛇行する沈線文を施文している。5は複合口縁部の山形の下に指頭圧痕が押され，その下に「の」の字状，渦巻状，蛇行する沈線文を施文している。7は複合口縁部の山形の下に刺突文を施した棒状突起がつき，蛇行する沈線文が胴部の下半まで施文されている。

c_2：無節の斜縄文を地文にしてc_1の文様帯をもち，平行沈線文の間が磨り消されているもの〈7〉第㊴図—6，第㊵図—8

6，8は埋設土器で器形の特徴はc_1と同様であり，複合口縁部が山形状を呈し，山形は5つである。口縁部から胴部の平行沈線文の間と「の」字状を呈する沈線文の間を磨り消している。

d：斜縄文を地文にして口縁部にせまく沈線文をめぐらすもの〈7〉第㊶図—12

12は口縁部が平縁を呈し，3条の平行する沈線文間は「ハ」の字状の沈線文で区画されている。

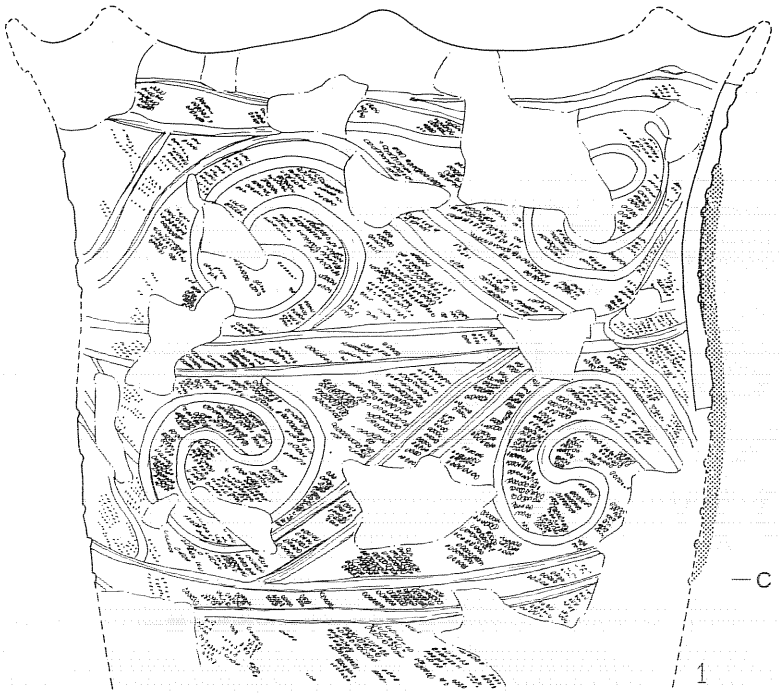
e：斜縄文を地文に施文せず，蛇行する沈線文だけを施文したもの〈7〉第㊳図—3

3は埋設土器で立石が伴う。口縁部に沿って3条の沈線文がめぐり，下は蛇行している。

f：沈線文の間隔が一定で交互に磨消縄文を施文するもの〈7〉第㊸図—25・26・31

g：隆線文に刻目，刺突文を施し，沈線文と併用施文するもの〈7〉第㊹図—37・39他

いずれも縄文時代後期初頭の時期に位置づけられる。大きくは斜縄文を地文にして沈線文を施文して文様構成するものと沈線文の間を磨消するものに分けられる。c_1，c_2の関係からほぼ系統を一にする土器群であり，青森県の十腰内Ⅰ式以前の型式に比定すると考えられる。



—C２グリッド検出
埋設土器—
※第４図下参照

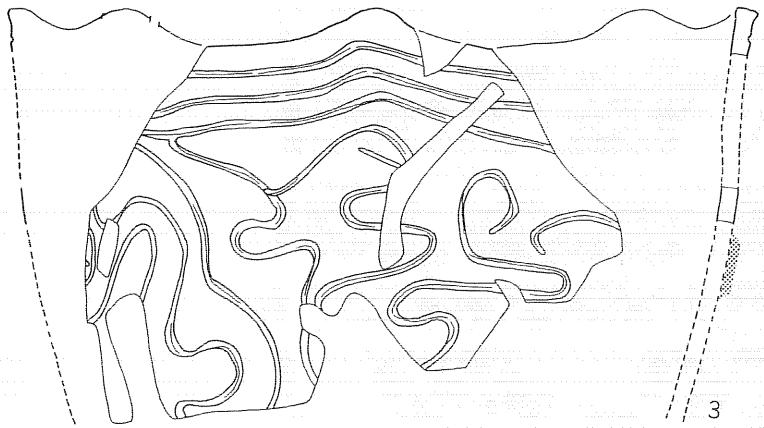
1

—C４グリッド検出
埋設土器—
※第４図上参照

2

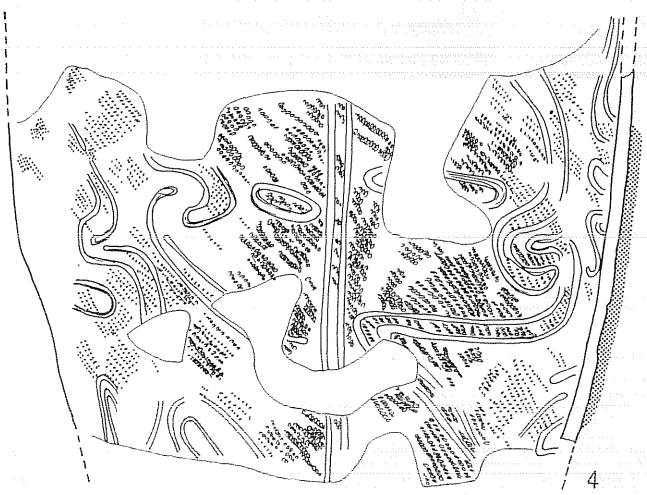
0　10cm

〈７〉第㊲図　第Ⅲ群土器(1)

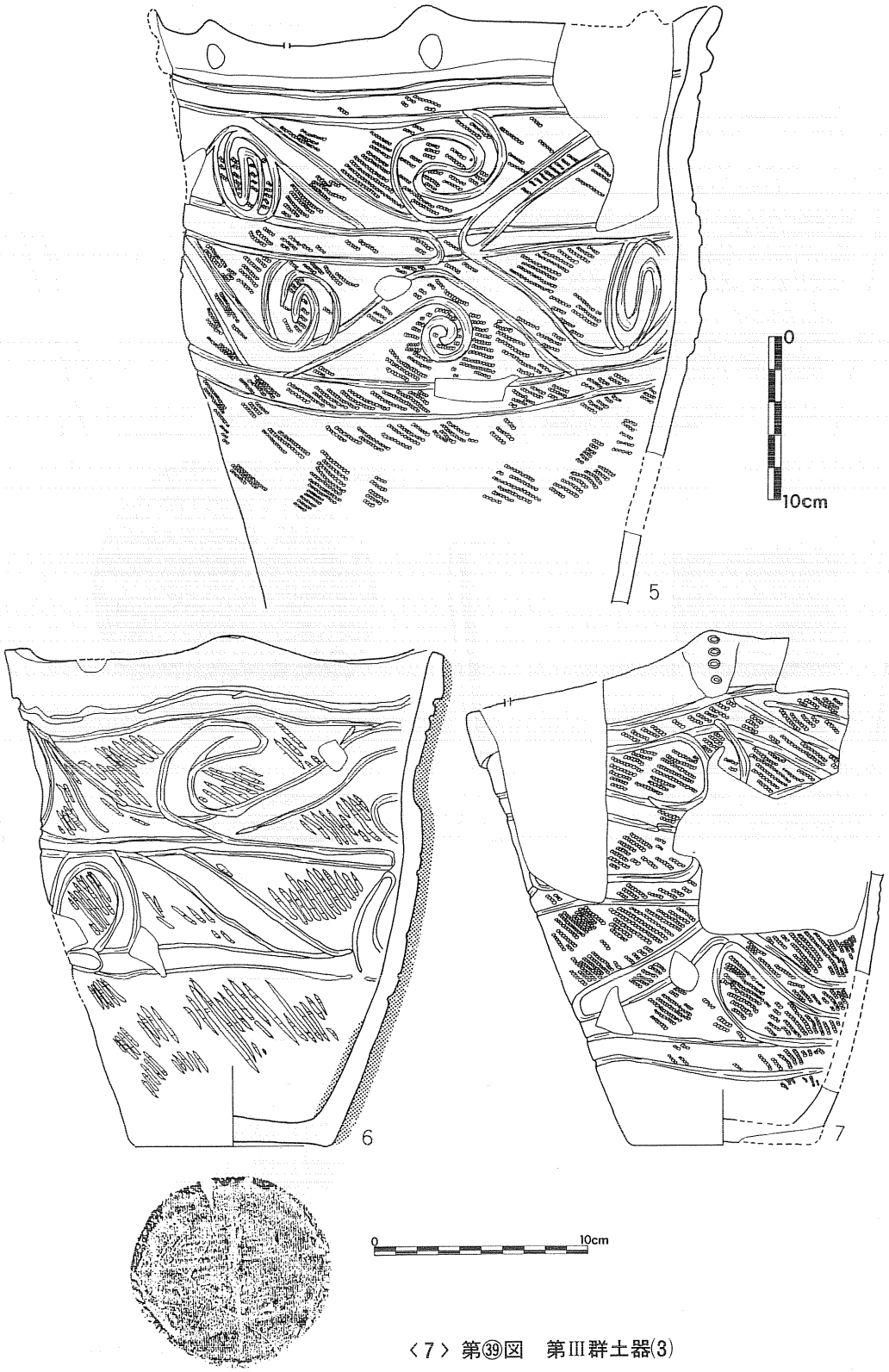


—B１グリッド検出埋設土器—

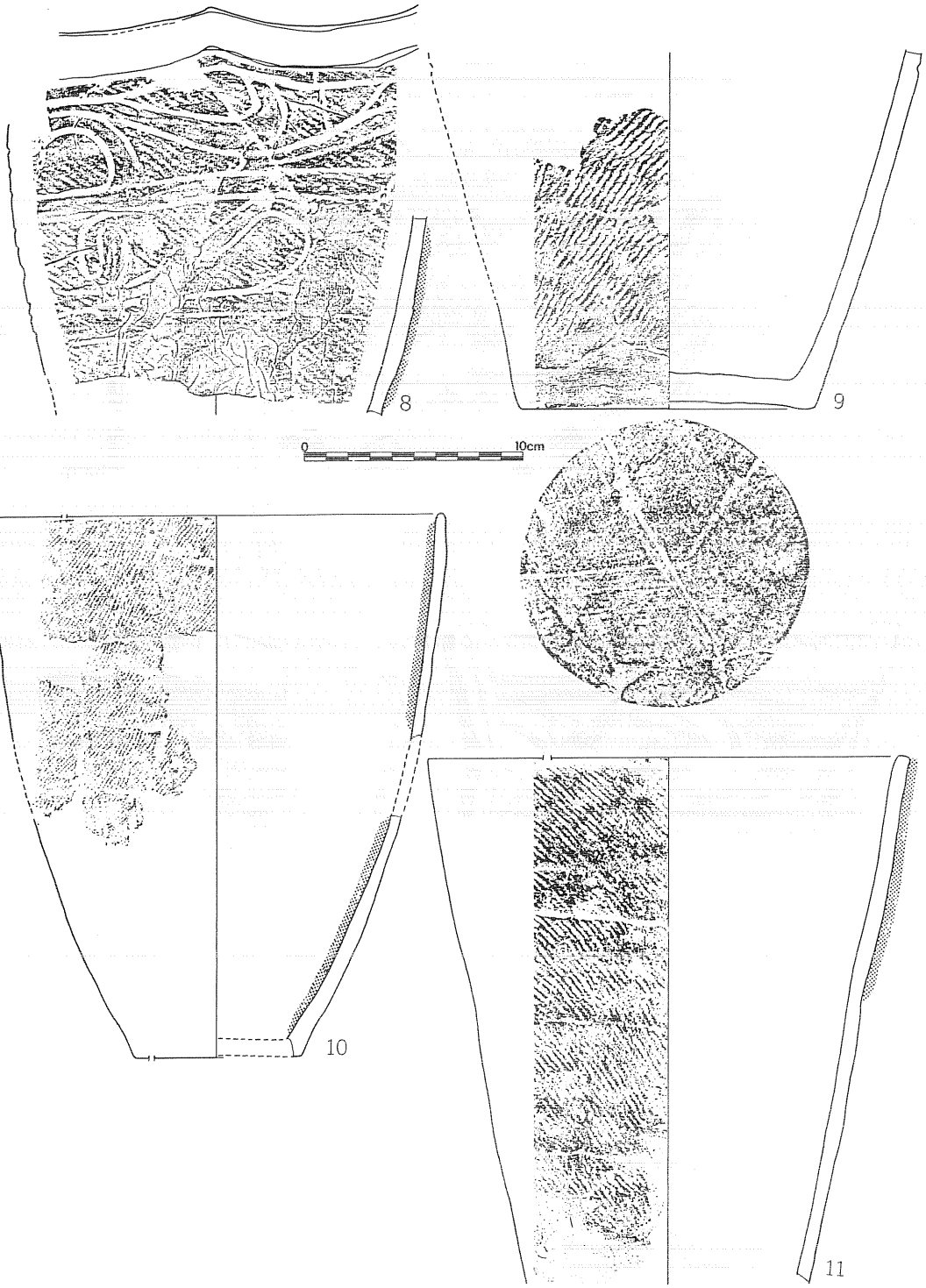
—F４グリッド検出埋設土器—



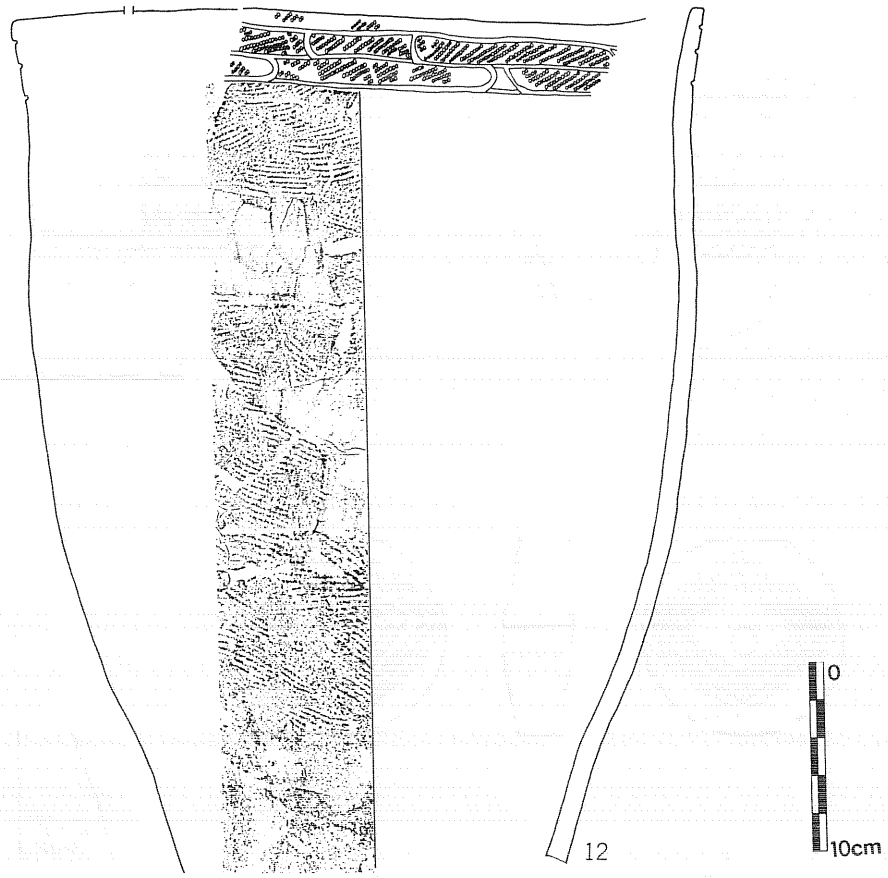
〈7〉第㊳図　第Ⅲ群土器(2)

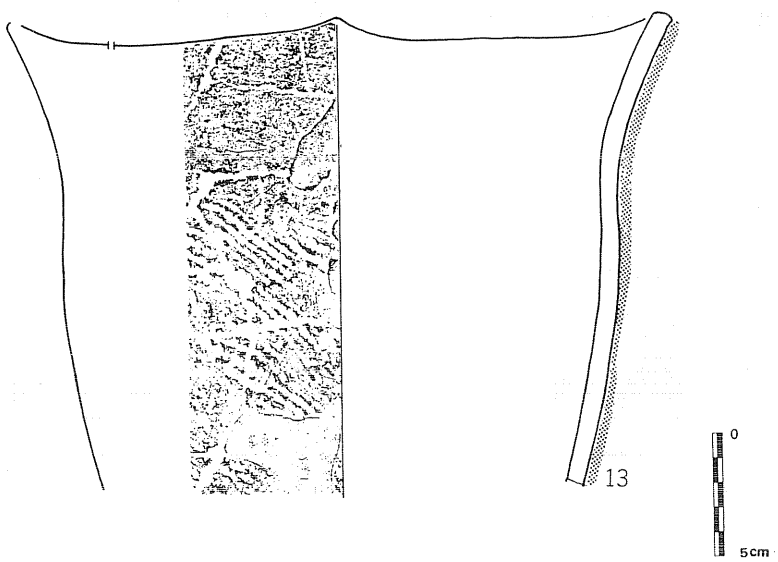


〈7〉第㊴図　第Ⅲ群土器(3)

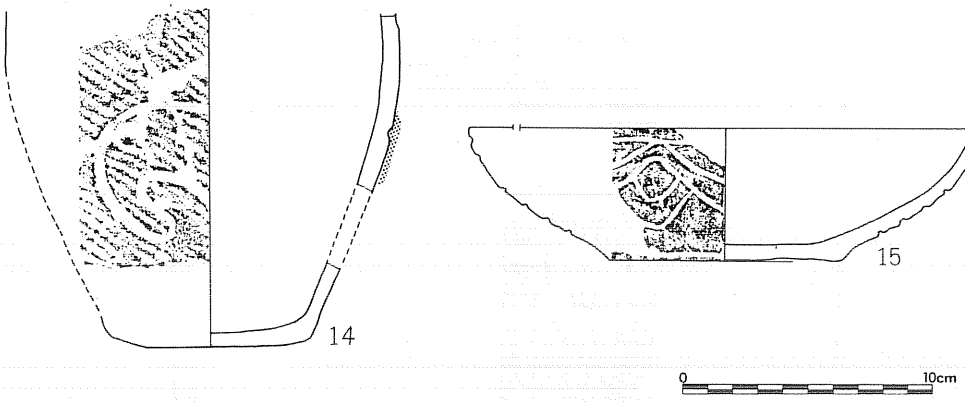


〈7〉第㊵図　第Ⅲ群土器(4)



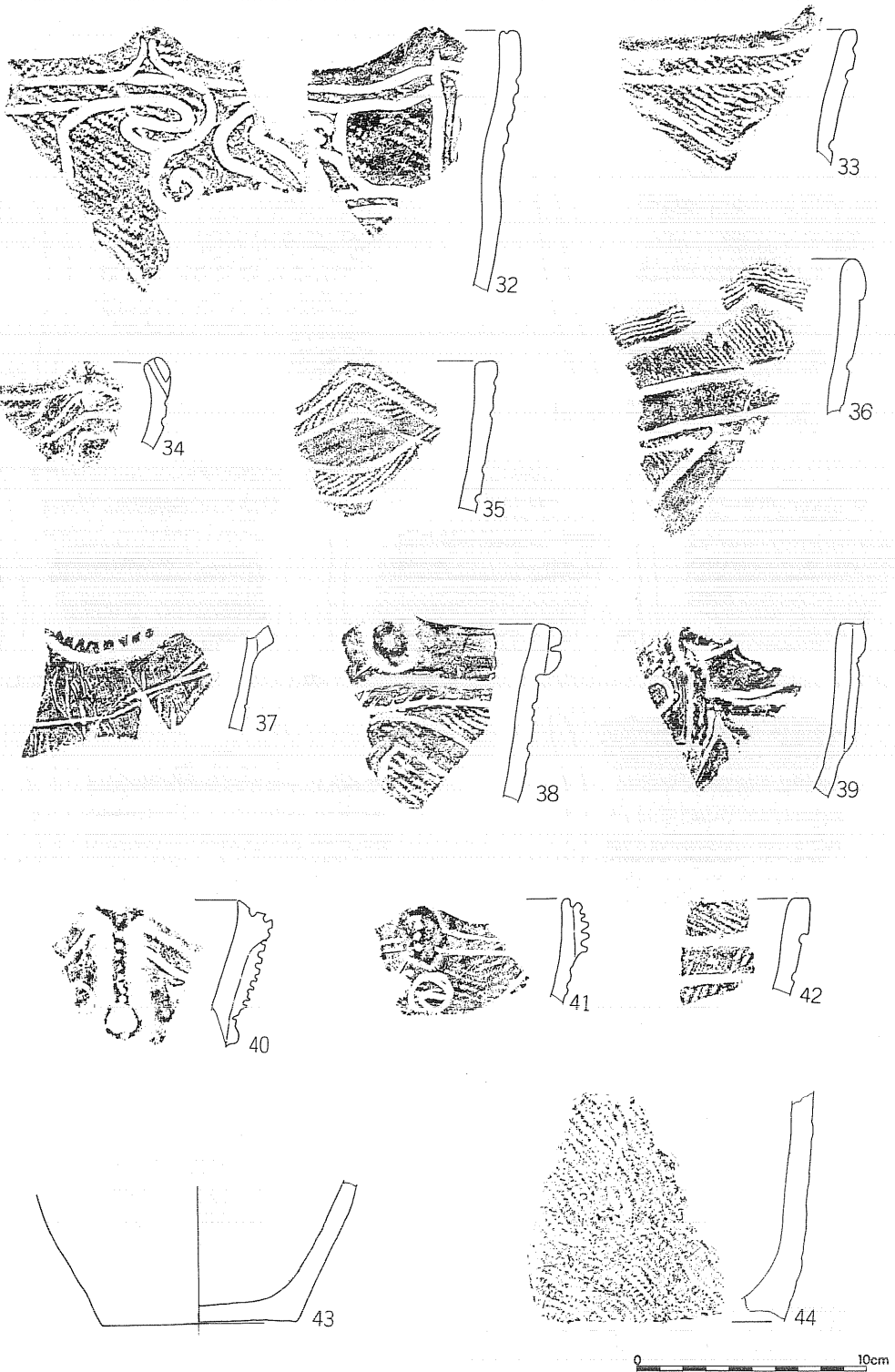


〈7〉第④図　第Ⅲ群土器(5)



〈7〉第㊷図　第Ⅲ群土器(6)

〈7〉第㊸図　第Ⅲ群土器(7)



〈7〉第㊹図　第Ⅲ群土器(8)

◇蔦ケ長根IV遺跡実測土器のまとめ(2)

第III群土器　　※(　　)は残存・推定寸法

図版番号 出土地点	①器種 ②口径・底径・高さ(cm) ③色調 ④胎土 ⑤焼成 ⑥器表面の主な文様(調整)／器内面の調整 ⑦備考
〈7〉第㊲図－1 C2グリッド	①深鉢形土器 ②40.4・――・(36.2) ③明黄褐色 ④比較的粗 ⑤比較的良 ⑥斜縄文・沈線文 ／横位ナデ ⑦埋甕炉,外面・内面にスス付着,二次火熱剝落
〈7〉第㊲図－2 C4グリッド	①深鉢形土器 ②(42.2)・――・(36.5) ③明黄褐色 ④密 ⑤良好 ⑥斜縄文・沈線文 ／横位ナデ ⑦埋甕炉，外面にスス付着
〈7〉第㊳図－3 B2グリッド	①深鉢形土器 ②(39.5)・――・(22.0) ③明黄褐色 ④比較的粗 ⑤比較的良 ⑥沈線文 ／横位ナデ ⑦埋設土器，外面にスス付着
〈7〉第㊲図－4 F4グリッド	①深鉢形土器 ②(33.5)・――・(24.9) ③黄灰色 ④密 ⑤良好 ⑥斜縄文・沈線文 ／横位ナデ ⑦埋設土器，外面にスス付着
〈7〉第㊴図－5 O－RP157 他	①深鉢形土器 ②(35.3)・――・(35.9) ③明黄褐色 ④密 ⑤良好 ⑥斜縄文・沈線文／横位・縦位のミガキ ⑦一部に二次的火熱による剝落
〈7〉第㊴図－6 C2グリッド	①深鉢形土器 ②20.6・ 9.1・23.9 ③明黄褐色 ④密 ⑤良好 ⑥磨消縄文・沈線文 ／横位・縦位のミガキ ⑦外面・内面にスス付着
〈7〉第㊴図－7 B'－RP517 他	①深鉢形土器 ②(21.1)・ 8.7・24.1 ③赤褐色 ④密 ⑤良好 ⑥斜縄文・沈線文 ／横位・縦位のミガキ
〈7〉第㊵図－8 B'－RP334 他	①深鉢形土器 ②(20.4)・――・(18.7) ③明黄褐色 ④密 ⑤良好 ⑥磨消縄文・沈線文 ／縦位のミガキ ⑦外面にスス付着
〈7〉第㊵図－9 F4グリッド	①深鉢形土器 ②――・13.5・(16.5) ③明黄褐色 ④密 ⑤良好 ⑥斜縄文・沈線文 ／縦位のミガキ
〈7〉第㊵図－10 B－RP101 他	①深鉢形土器 ②27.2・10.0・33.0 ③赤褐色 ④比較的粗 ⑤良好 ⑥斜縄文 ／横位ナデ ⑦内面にスス付着
〈7〉第㊵図－11 B'－RP309 他	①深鉢形土器 ②28.9・――・(32.0) ③明黄褐色 ④比較的粗 ⑤比較的良 ⑥斜縄文 ／ナデ ⑦外面にスス付着
〈7〉第㊶図－12 G－RP	①深鉢形土器 ②36.4・――・(45.8) ③明黄褐色 ④密 ⑤良好 ⑥斜縄文・沈線文 ／ナデ
〈7〉第㊶図－13 O－RP103 他	①深鉢形土器 ②(29.2)・――・(20.9) ③明赤褐色 ④比較的粗 ⑤比較的良 ⑥斜縄文 ／横位ミガキ ⑦外面にスス付着
〈7〉第㊷図－14 V－RP25他	①深鉢形土器 ②――・ 8.1・(13.4) ③赤褐色 ④密 ⑤良好 ⑥斜縄文・沈線文 ／横位ミガキ ⑦外面にスス付着
〈7〉第㊷図－15 B－RP28他	①浅鉢形土器 ②(20.7)・(9.2)・ 5.3 ③灰黄褐色 ④密 ⑤良好 ⑥沈線文 ／ミガキ

第IV群土器

〈7〉第㊺図－1 K20グリッド	①深鉢形土器 ②(31.0)・――・(22.5) ③にぶい黄橙色 ④密 ⑤良好 ⑥斜縄文 ／横位ナデ ⑦外面にスス付着
〈7〉第㊺図－2 A－RP151 他	①鉢形土器 ②(18.4)・ 7.6・13.9 ③にぶい黄橙色 ④密 ⑤良好 ⑥頸部沈線文下に斜縄文 ／ミガキ ⑦外面にスス付着

第Ⅳ群土器—〈7〉第㊺図—

縄文時代晩期の土器を本群とする。出土点数は約100点であり，14ラインの東側南西部と西側のK20グリッド内からの出土が多い。〈7〉第㊺図—1～5。

1は大形の深鉢形土器であり，口縁部が内彎している。口縁部から胴部上半に斜縄文が施文されている。整形は粗末で器壁は凸凹し，口縁部内側に巻き上げ痕が残る。2は鉢形土器であり，底部より内彎ぎみに立ち上がり，口縁部が短く外反する。頸部に沈線文が3条めぐり，横列のはりコブが付く。胴部に斜縄文が施文されている。3は深鉢形土器，4・5・6は鉢形土器の破片である。いずれも縄文晩期中葉に位置づけられ，大洞C_2式に比定される。

第Ⅴ群土器—〈7〉第㊻・㊼図—

弥生時代の土器を本群とする。出土点数は約300点であり，広範囲に分布している。

いずれも各部位の破片であり，器種は不明である。口縁部は器表面の文様で分類される。

a：平行沈線文と交互刺突文を施文したもの〈7〉第㊻図—1・12・13

12は2条の平行沈線文の間に交互刺突文を施文している。口縁部は平縁であり，口唇部を平坦にしている。1は弧状を呈する平行沈線文の間に交互刺突文が施文されており，連弧状に組み合わせている。頸部の下は結節回転文で区画され，胴部には羽状縄文が施文されている。なお口縁部に突起がつく。13は平行沈線文の下に鋸歯状の交互刺突文が施文されている。

b：横位の沈線文，刺突文を施文したもの〈7〉第㊻図—2・3

2は口縁部に横位の沈線文を多条に施文し，頸部に沈線文と接するように刺突文を施文している。3は山形状の口縁部に沿って数条の沈線文を施文している。

c_1：斜縄文を施文したもの〈7〉第㊻図—7～10・15・17～19・21・22

口辺部に沿って短い斜縄文を施文している。15，22はやや横位の施文である。17～19は口縁部が外反し，上位に軽く段をもつ。7～10は下に結節回転文を施文している。10は籾痕が付く。

c_2：結節回転文を施文したもの〈7〉第㊻図—4～6・11・16・20

口縁部に平行して二列の結節回転文を施文したものである。c_1，c_2が口縁部の中で最も数が多い。4は口縁部が強く外反し，20は複合口縁であり，11は軽く段をもつ。

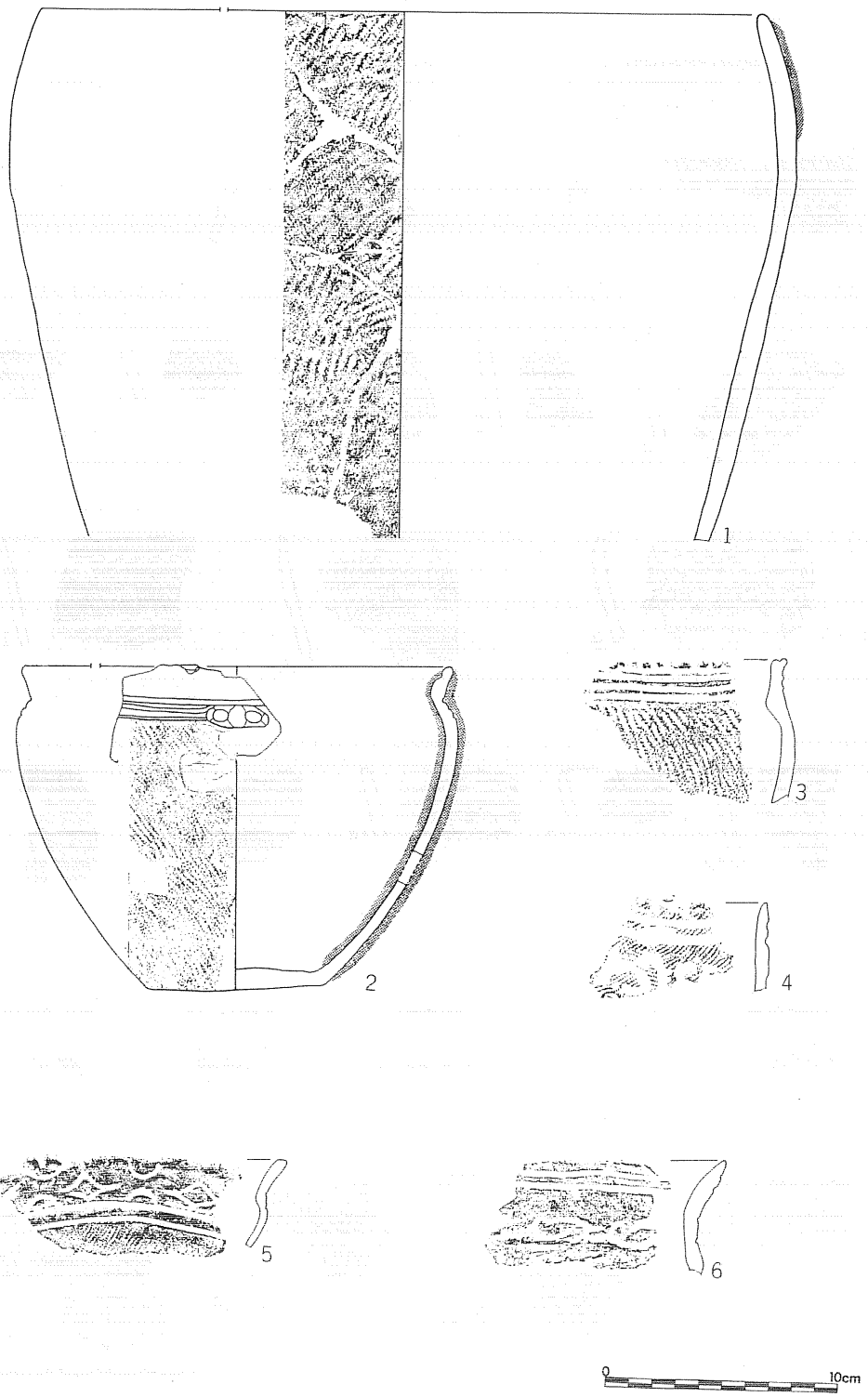
d：羽状縄文を施文したもの〈7〉第㊻図—24・25

25は口唇部を平坦にして口唇部に縄文を施文している。

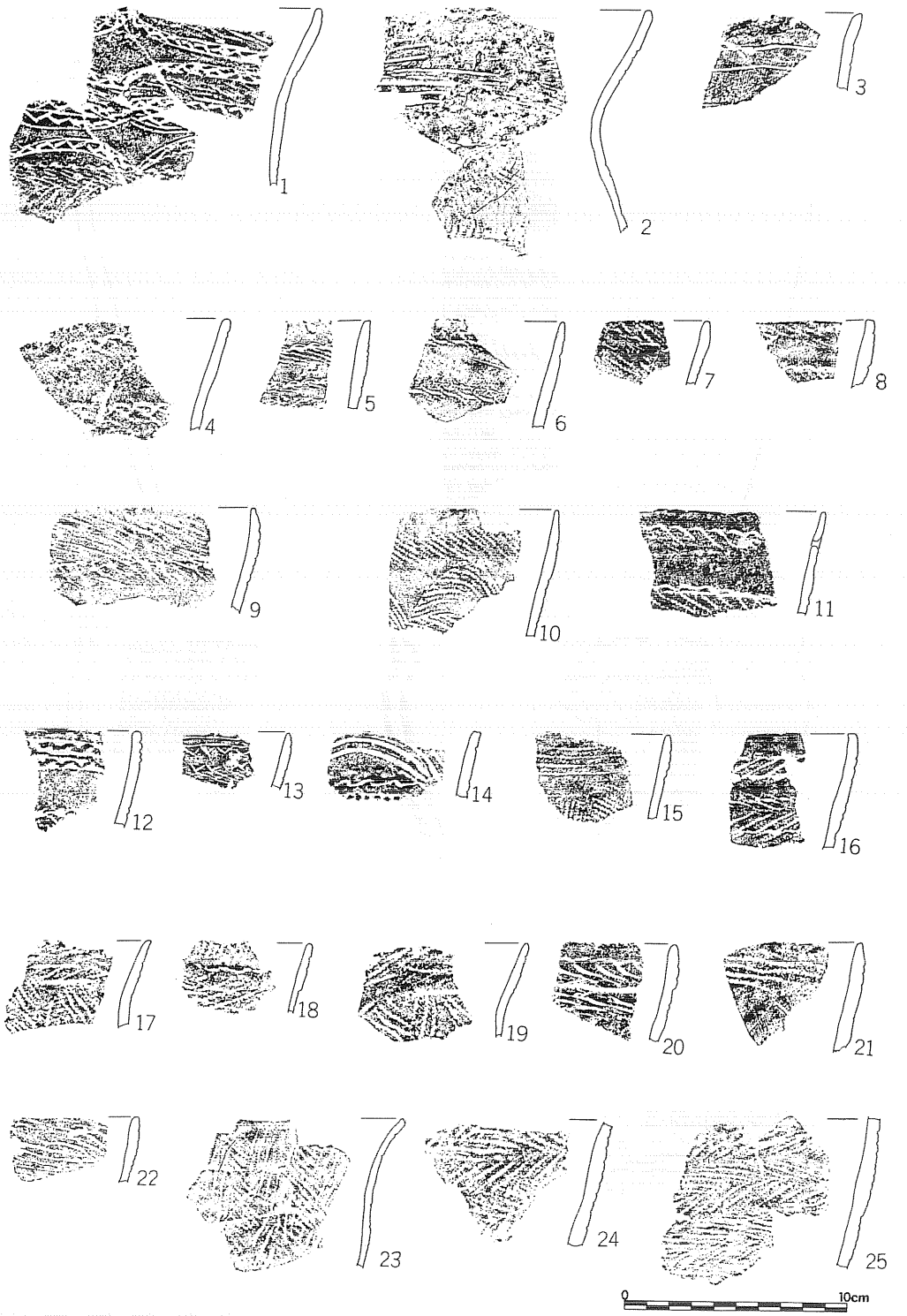
e：帯状縄文を施文したもの〈7〉第㊻図—23

23は帯状縄文を交互に左傾，右傾させて施文したもので，口縁部が強く外反している。

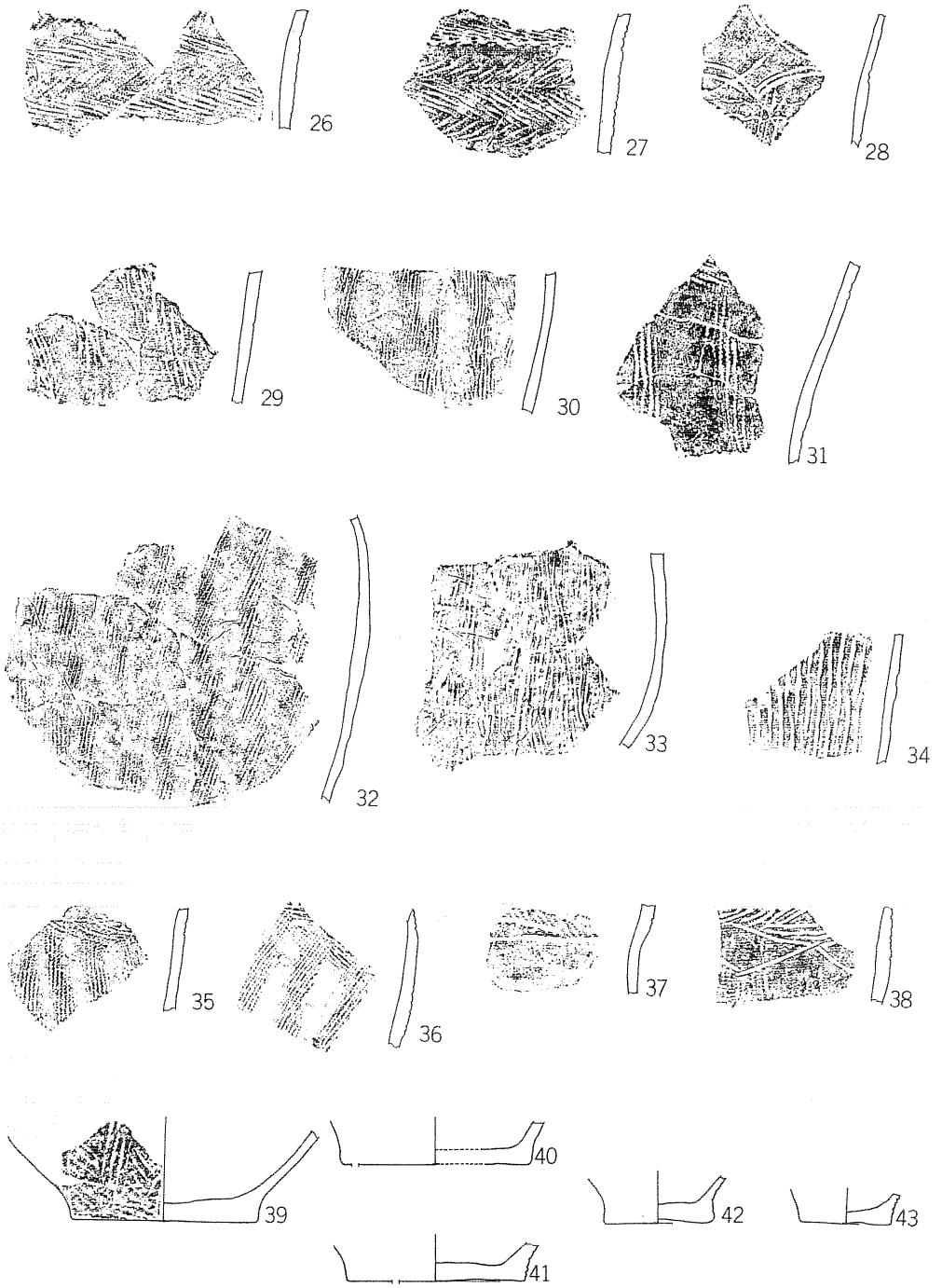
他の部位については14・37・38が頸部で連弧文あるいは山形文を施文している。胴部は帯状縄文を施文したものが多く，他に縦位の縄文，羽状縄文が施文されている。底部は平底で底辺部が突き出し，安定性がある。いずれも弥生時代後期に位置づけられ，天王山式に比定される。



〈7〉第㊺図　第Ⅳ群土器



〈7〉第㊻図　第Ⅴ群土器(1)



〈7〉第㊼図　第Ⅴ群土器(2)

鳶ケ長根IV遺跡出土の石器および石器素材は約1,000点であり，そのうち石器として調整痕の認められたものは300点である。本報告では形態毎に分類し，捜図に示した。

a：トランシェ様石器〈7〉第㊽～㊺図－1～54

トランシェ様石器は篦状石器の156点についで出土点数が多く，54点出土している。富樫泰時氏が『東北考古学の諸問題』の中でその剝離技法について要約している。

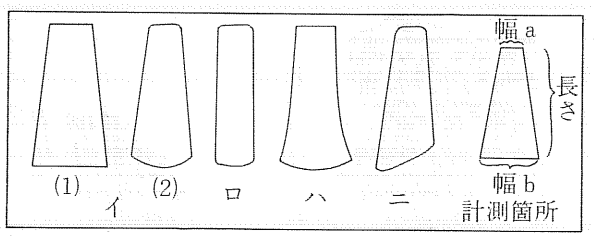
① 石器の刃部は石器の中でもっとも古い面をなすこと。

② 石器の形態は台形か，二等辺三角形をなすこと。

その形態について3分類しているが，本報告では表に示すようにイ～ニに分類している。イは台形，ロは短冊形，ハは撥形を呈するものであり，ニは基本的に台形を呈するが刃部の傾斜が強くとくに分類した。

b：篦状石器〈7〉第㊻～㊾図－1～156

篦状石器についてもトランシェ様石器同様のイ～ニの形態分類を行っている。

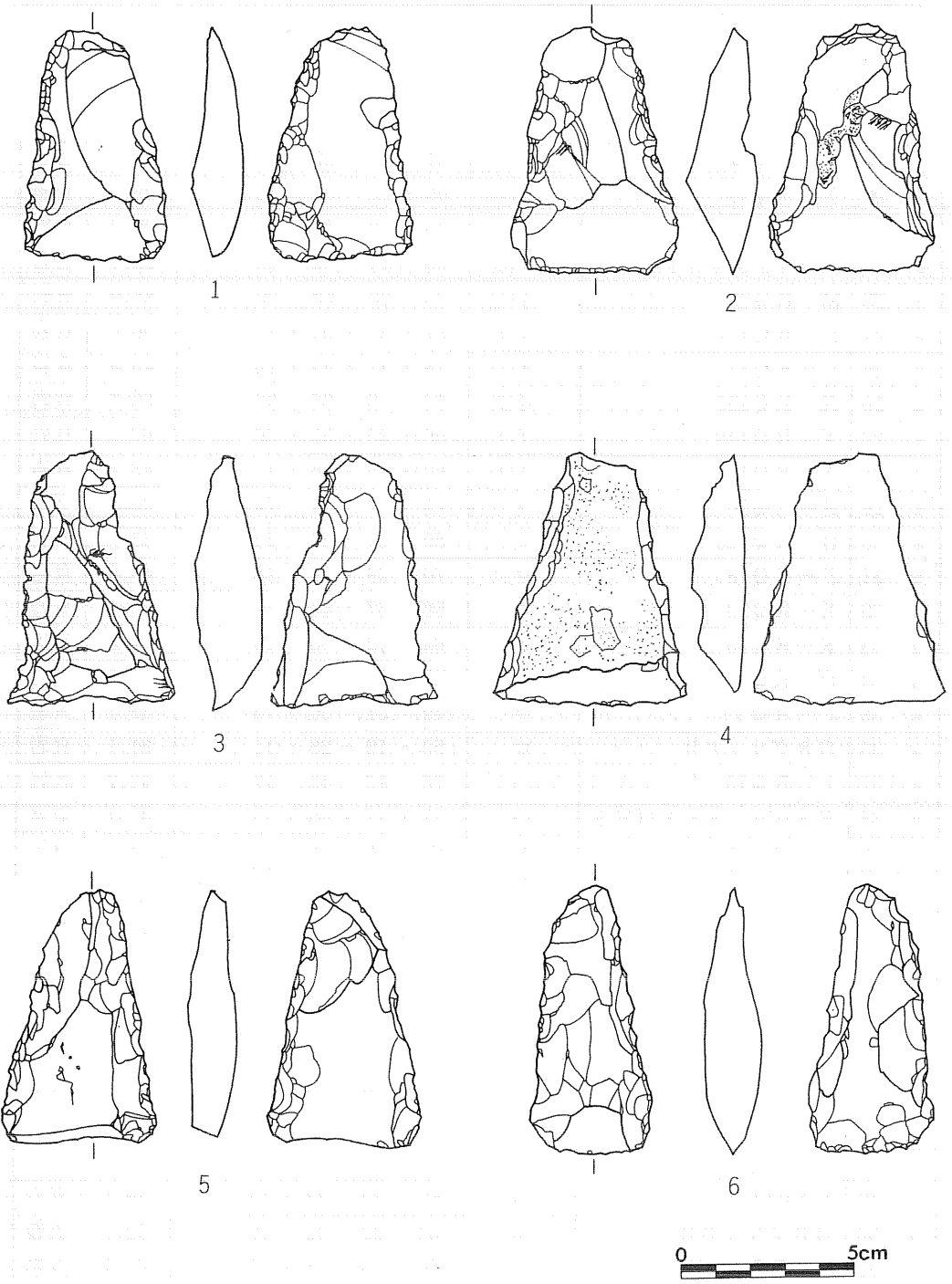


◇トランシェ様石器

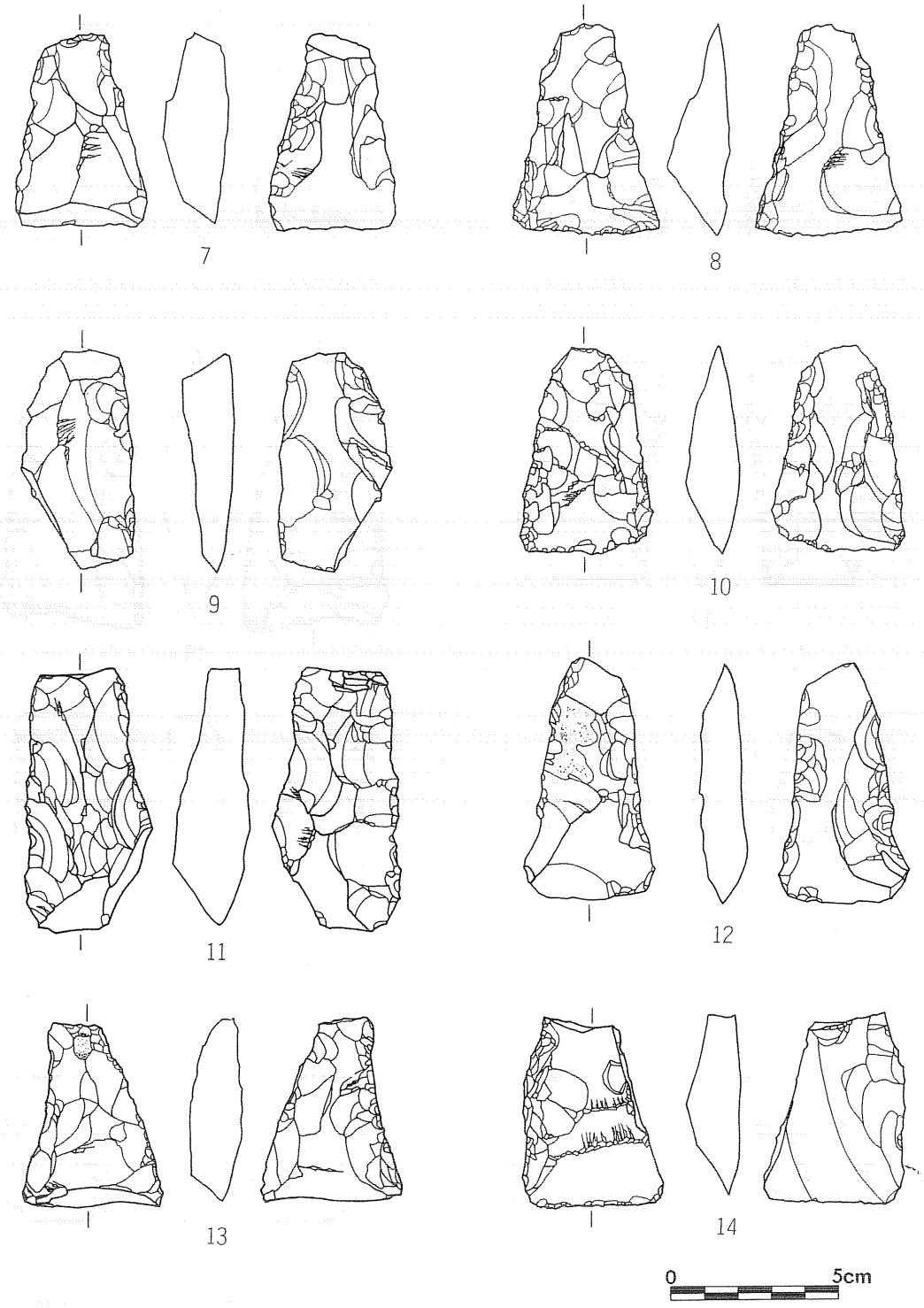
番　号	出　土　地　点	形態分類	長さ・幅a・幅b・厚さ（mm）	重さ(g)	石質
a　1	G－RQ35	イ(1)	67・22・40・15	40.7	頁岩
a　2	SX01周辺	イ(1)	71・23・47・21	55.5	頁岩
a　3	B′－RQ203	イ(1)	74・20・47・16	47.8	頁岩
a　4	FライングリッドEI	イ(1)	74・20・55・15	58.5	頁岩
a　5	aセクションベルト付近	イ(1)	73・11・45・13	44.0	頁岩
a　6	O11グリッドII	イ(1)	78・12・35・17	40.5	頁岩
a　7	X－RQ101	イ(1)	57・18・37・17	32.8	頁岩
a　8	P－RQ	イ(1)	58・15・44・18	30.5	頁岩
a　9	C12グリッドII	イ(1)	66・17・(19)・16	30.5	頁岩
a　10	E10グリッドII	イ(1)	61・23・39・16	30.4	頁岩
a　11	H1－1127－RQ1	イ(1)	79・23・(21)・19	51.9	頁岩
a　12	X－RQ6	イ(1)	72・15・39・13	35.1	頁岩
a　13	B′－RQ173	イ(1)	55・14・41・15	28.9	頁岩
a　14	J－RQ24	イ(1)	(57)・23・40・16	42.8	頁岩
a　15	A′－RQ4	イ(1)	60・27・45・8	22.9	頁岩

◇トランシェ様石器

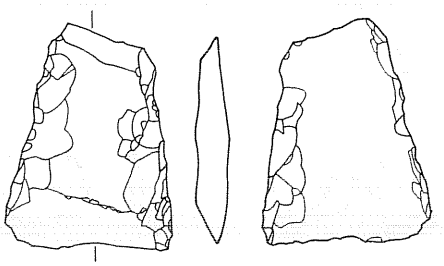
番　号	出　土　地　点	形態分類	長さ・幅ａ・幅ｂ・厚さ（mm）	重さ(g)	石質
a　16	X－RQ82	イ(1)	58・27・37・10	23.3	頁岩
a　17	B′－RQ166	イ(1)	68・(17)・(27)・14	31.8	頁岩
a　18	M－RQ16	イ(1)	83・24・43・15	43.9	頁岩
a　19	B′－RQ34	イ(1)	61・15・37・9	16.6	頁岩
a　20	X－RQ85	イ(1)	66・22・36・12	25.3	頁岩
a　21	表　採	ニ	49・18・32・12	20.8	頁岩
a　22	GライングリッドEI	イ(2)	56・14・36・13	25.4	頁岩
a　23	M′－RQ3	イ(1)	75・28・58・20	68.9	頁岩
a　24	B′－RQ171	イ(1)	87・32・54・15	66.6	頁岩
a　25	G－RQ37	イ(1)	78・12・43・22	45.8	頁岩
a　26	X－RQ133	イ(2)	78・5・38・10	39.7	頁岩
a　27	X－RQ148	イ(1)	(66)・(30)・53・26	67.7	頁岩
a　28	X－RQ155	イ(1)	(60)・26・46・17	43.2	頁岩
a　29	B′－RQ50	ロ	75・27・34・17	45.6	頁岩
a　30	B′－RQ125	ロ	80・24・34・14	45.5	頁岩
a　31	J′－RQ18	ロ	70・29・39・15	43.6	頁岩
a　32	E－RQ23	ロ	58・37・44・13	33.1	頁岩
a　33	K－RQ25	ロ	64・22・36・14	32.6	頁岩
a　34	P′－RQ55	ロ	60・28・34・11	21.2	頁岩
a　35	J′－RQ7	ロ	(49)・(31)・30・13	32.1	頁岩
a　36	G8グリッドII	ロ	50・19・28・11	21.1	頁岩
a　37	L－RQ15	ハ	76・16・40・17	46.7	頁岩
a　38	E8グリッドSX11N下	ハ	77・17・46・19	47.1	頁岩
a　39	J－RQ8	ハ	62・25・38・14	31.1	頁岩
a　40	H－RQ40	ハ	67・27・39・23	46.9	頁岩
a　41	Z－RQ3	ハ	(66)・(34)・50・15	47.3	頁岩
a　42	G5グリッド表土	ハ	(47)・(19)・51・15	30.3	頁岩
a　43	M－RQ7	ハ	87・21・44・17	68.0	頁岩
a　44	C12グリッドII	ハ	95・18・47・13	62.5	頁岩
a　45	X－RQ164	ハ	97・31・45・17	66.9	頁岩
a　46	X－RQ108	ハ	67・29・40・15	41.9	頁岩
a　47	X－RQ110	ハ	(54)・(21)・38・14	30.5	頁岩
a　48	G′－RQ2	ハ	57・16・40・20	58.2	頁岩
a　49	SX03W下	ニ	67・20・43・15	39.5	頁岩
a　50	G8グリッドII	ニ	63・22・46・19	52.2	頁岩
a　51	K′－RQ9	ニ	66・18・35・21	62.4	頁岩
a　52	E2グリッドNベルトII	イ(1)	71・17・42・13	29.4	頁岩
a　53	O′－RQ15	ニ	71・14・(28)・13	29.2	頁岩
a　54	U－RQ11	ニ	55・7・40・16	24.9	頁岩

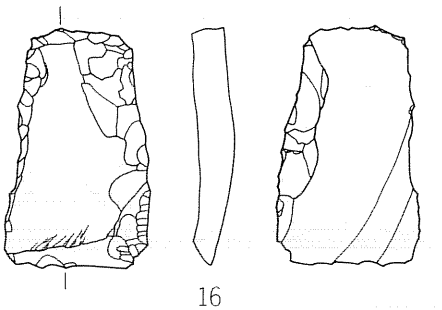


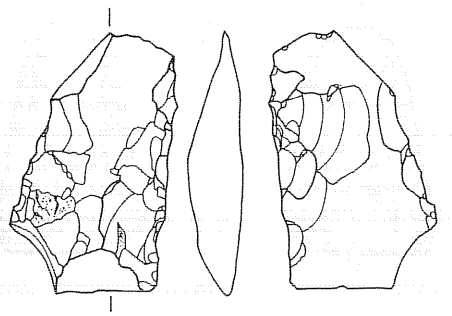
〈7〉第㊽図　出土石器a(1)

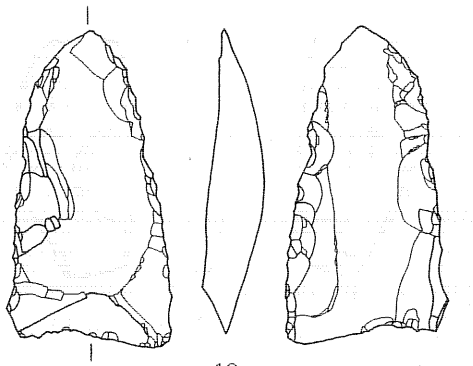


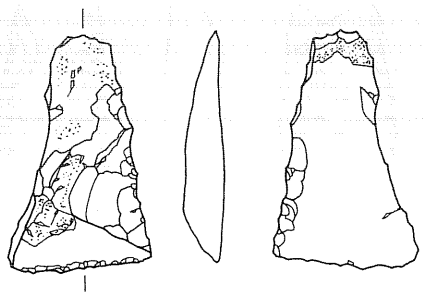
〈7〉第㊾図　出土石器a(2)

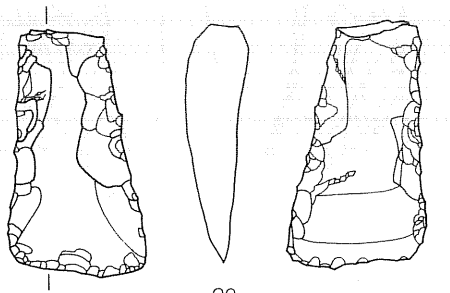

15

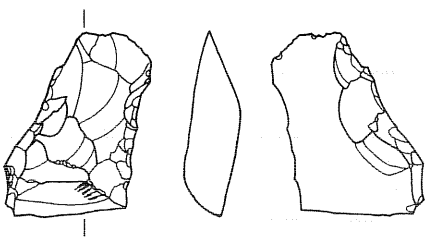

16

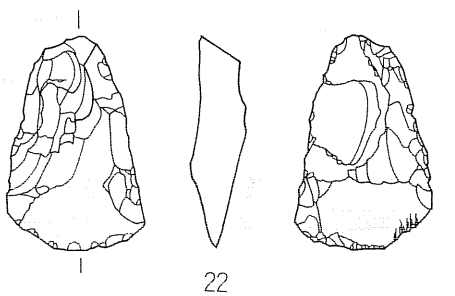

17


18


19

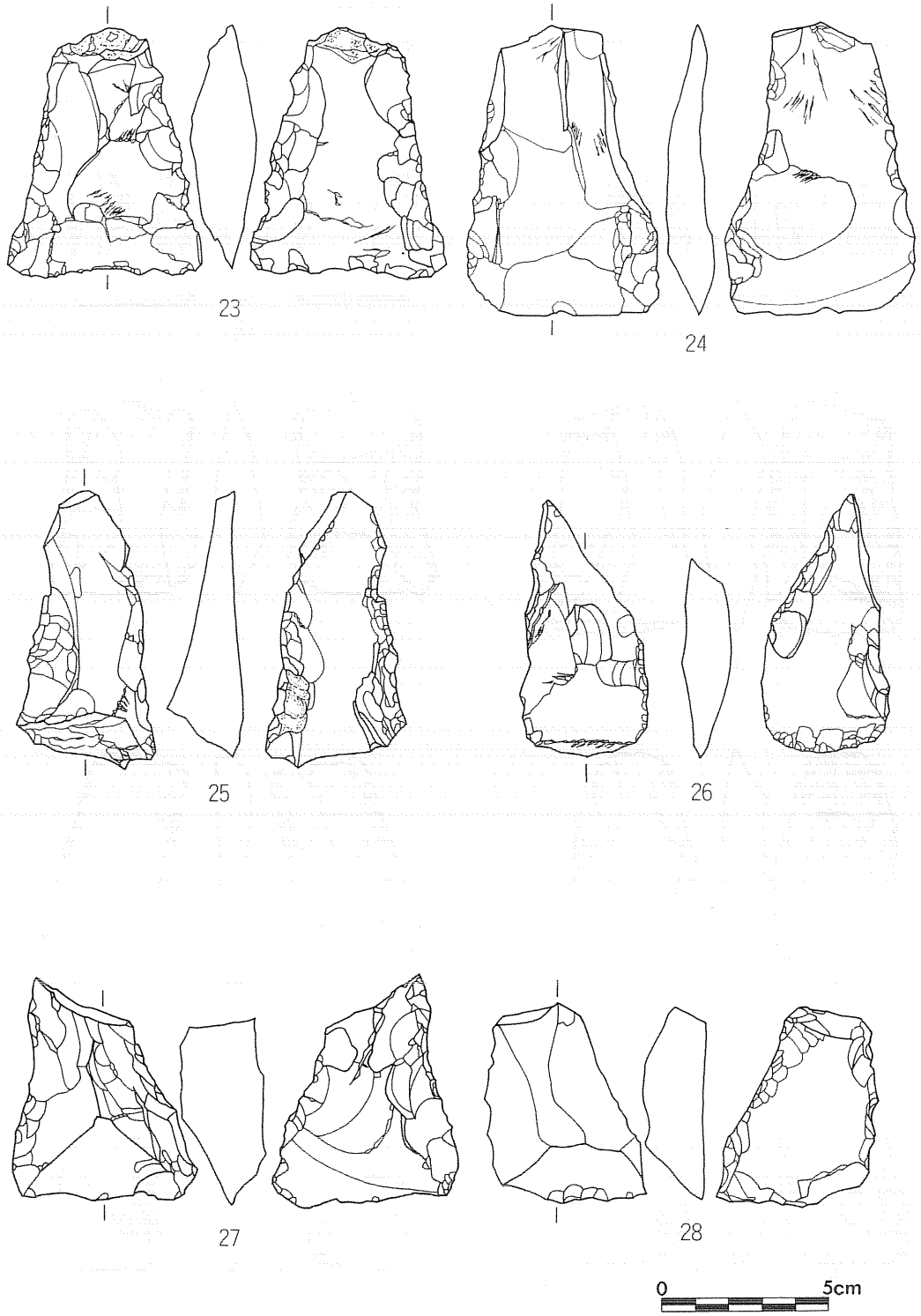

20


21

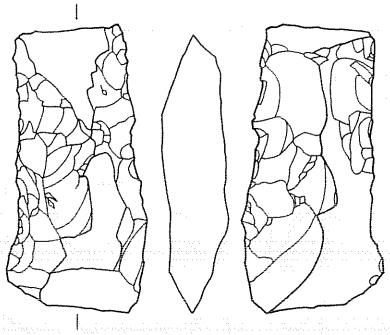

22

0 5cm

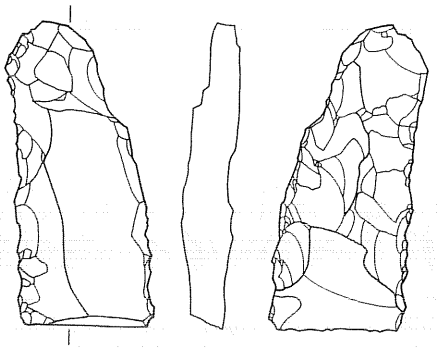
〈7〉第㊿図　出土石器a(3)



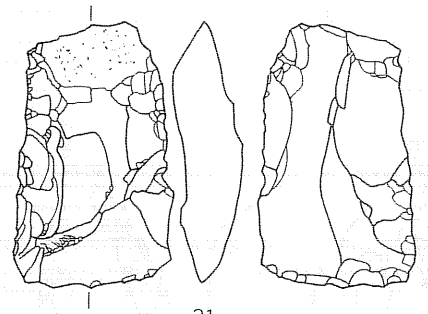
〈7〉第51図　出土石器a(4)



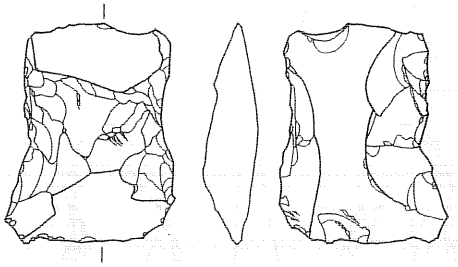
29



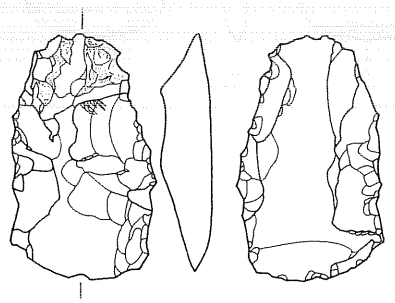
30



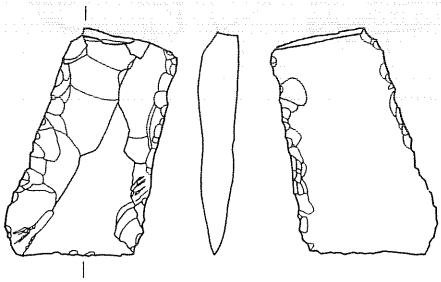
31



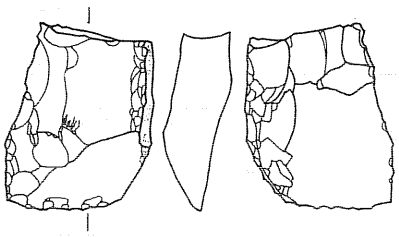
32



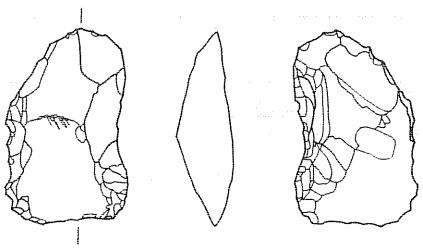
33



34



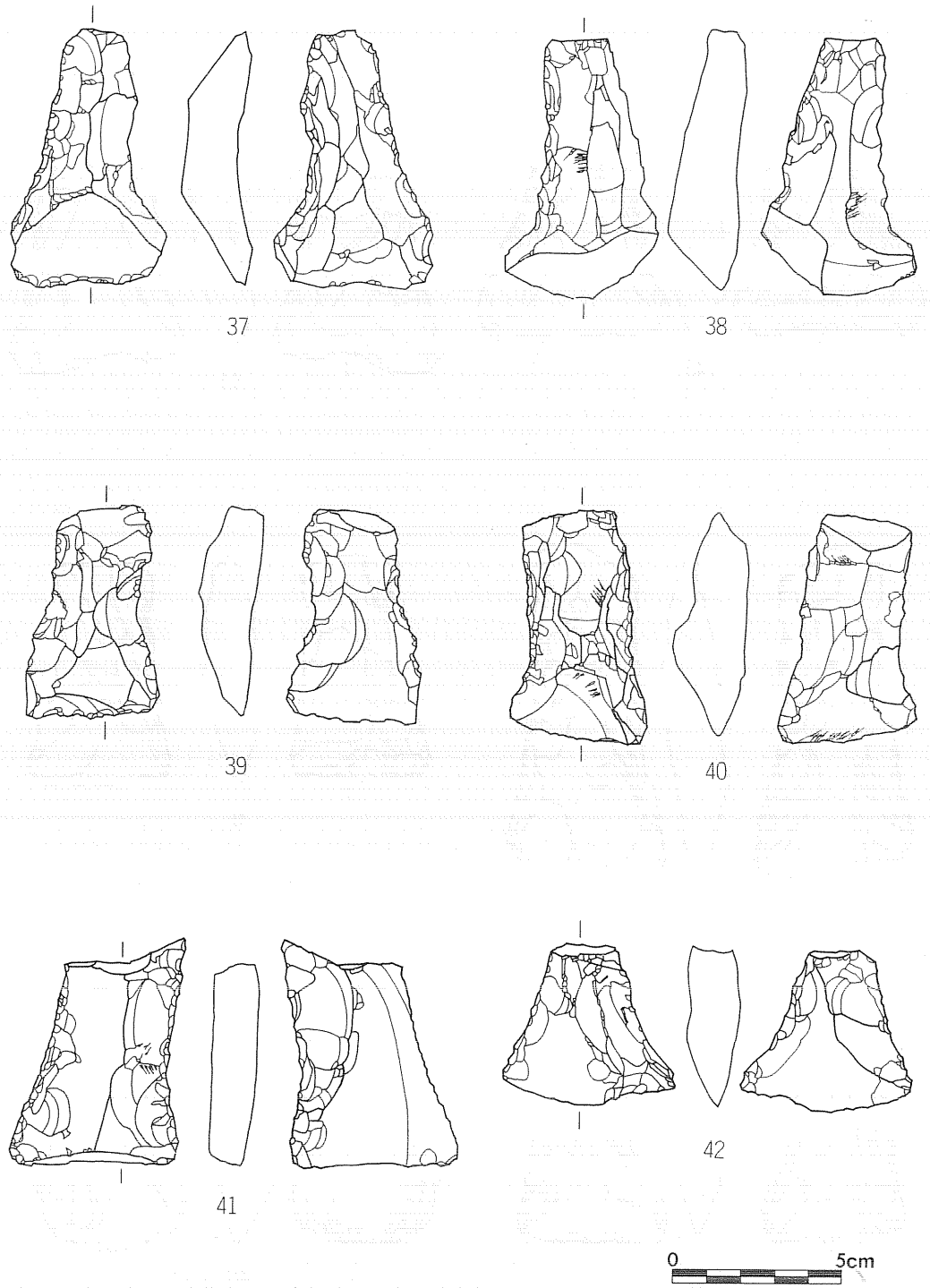
35



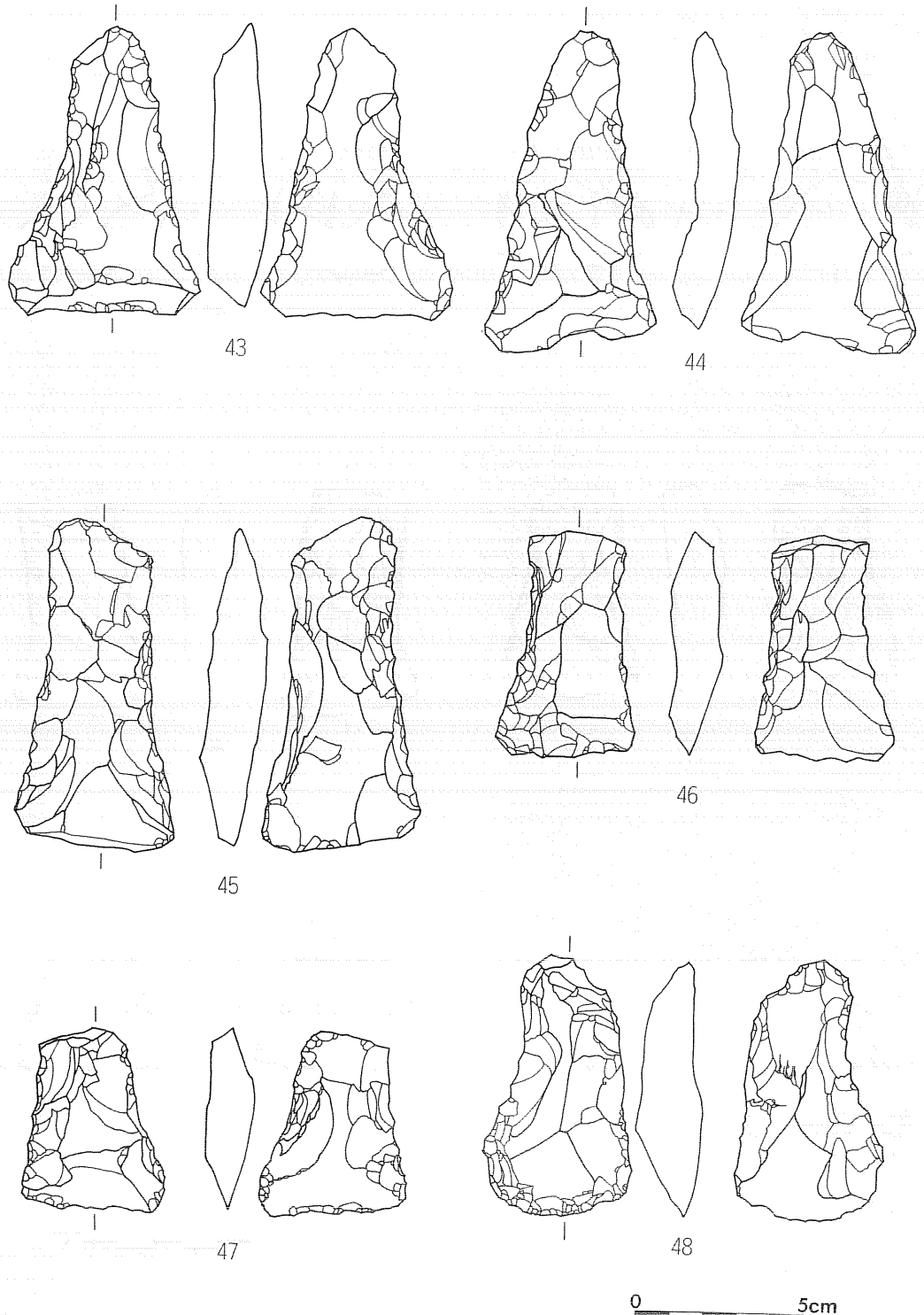
36

〈7〉第㊷図　出土石器a(5)

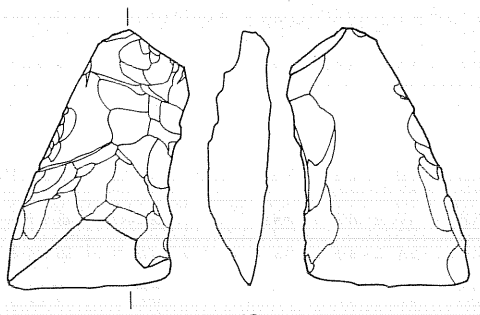
0　5cm



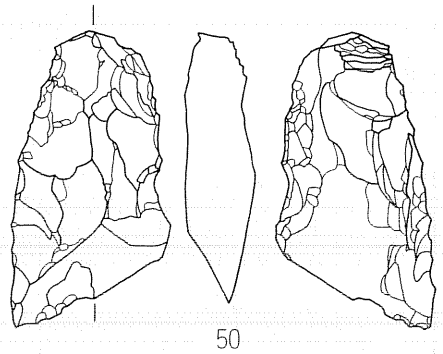
〈7〉第㊸図　出土石器a(6)



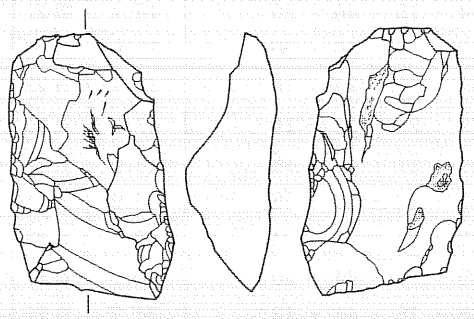
〈7〉第㊹図　出土石器a(7)



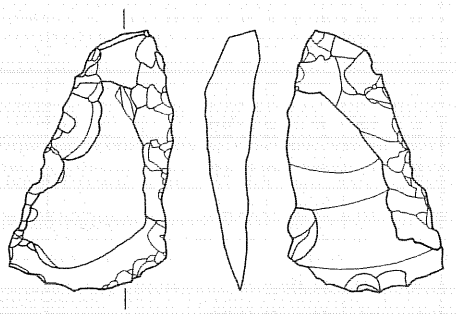
49



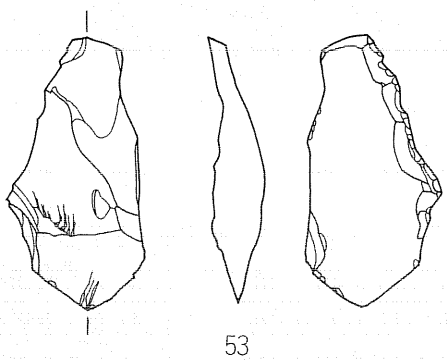
50



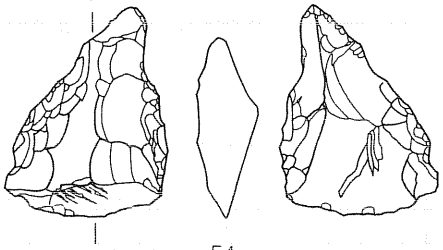
51



52



53



54

0 5cm

〈7〉第㊺図　出土石器a(8)

◇箆状石器 (1)

番号	出土地点	形態分類	長さ・幅a・幅b・厚さ (mm)	重さ(g)	石質
b 1	B－RQ12	イ(1)	83・10・43・22	54.9	頁岩
b 2	A－RQ42	イ(2)	100・21・40・23	87.7	頁岩
b 3	B′－RQ165	イ(1)	97・15・37・18	58.6	頁岩
b 4	L－RQ 8	イ(1)	88・18・42・17	82.3	頁岩
b 5	F1グリッドII	イ(2)	63・37・47・23	64.0	頁岩
b 6	O′－RQ12	イ(1)	62・34・42・24	65.7	頁岩
b 7	X－RQ54	イ(1)	88・16・46・18	57.6	頁岩
b 8	F11グリッドI	イ(1)	91・7・46・17	50.7	頁岩
b 9	V－RQ 4	イ(1)	79・10・48・18	60.4	頁岩
b 10	Z－RQ16	イ(1)	79・10・48・20	54.7	頁岩
b 11	F3グリッドII	イ(1)	70・20・43・18	37.4	頁岩
b 12	G－RQ 9	イ(1)	70・8・44・17	51.0	頁岩
b 13	F1グリッドII	イ(1)	74・15・40・20	46.1	頁岩
b 14	P′－RQ29	イ(1)	70・5・39・20	52.9	頁岩
b 15	T′－RQ17	イ(1)	69・20・43・16	43.6	頁岩
b 16	F－RQ22	イ(1)	79・22・38・16	47.9	頁岩
b 17	F－RQ15	イ(1)	67・17・40・18	46.0	頁岩
b 18	N′－RQ29	イ(1)	63・12・42・16	45.9	頁岩
b 19	B′－RQ108	イ(1)	72・24・46・21	60.9	頁岩
b 20	E10グリッドII	イ(1)	69・6・44・20	50.5	頁岩
b 21	H－RQ30	イ(1)	68・15・44・12	31.7	頁岩
b 22	M′－RQ10	イ(1)	71・36・46・16	51.0	頁岩
b 23	P－RQ34	イ(2)	65・10・44・22	48.2	頁岩
b 24	E－RQ 4	イ(2)	61・33・46・16	44.0	頁岩
b 25	S1L1	イ(1)	63・(14)・37・18	44.0	頁岩
b 26	P′－RQ22	イ(1)	59・22・38・16	34.0	頁岩
b 27	SK02下	イ(1)	69・14・24・15	28.5	頁岩
b 28	M－RQ 4	イ(1)	70・10・40・13	31.4	頁岩
b 29	B′－RQ207	イ(2)	67・17・37・18	33.7	頁岩
b 30	O－RQ35	イ(1)	(64)・25・(37)・12	28.0	頁岩
b 31	Z－RQ 9	イ(2)	72・12・38・16	35.9	頁岩
b 32	G－RQ43	イ(2)	69・14・37・17	31.3	頁岩
b 33	Y－RQ 8	イ(2)	69・21・40・17	33.7	頁岩
b 34	C4グリッド埋甕付近	イ(2)	70・15・40・16	36.6	頁岩
b 35	B12グリッドII下	イ(2)	68・17・(27)・18	41.2	頁岩
b 36	D11グリッドII	イ(2)	60・13・40・18	35.5	頁岩
b 37	G－RQ 6	イ(1)	60・17・40・14	31.9	頁岩
b 38	G3グリッドII	イ(2)	64・18・35・14	32.9	頁岩
b 39	F1グリッドII	イ(1)	72・9・(20)・20	50.5	頁岩

◇ 箆状石器 (2)

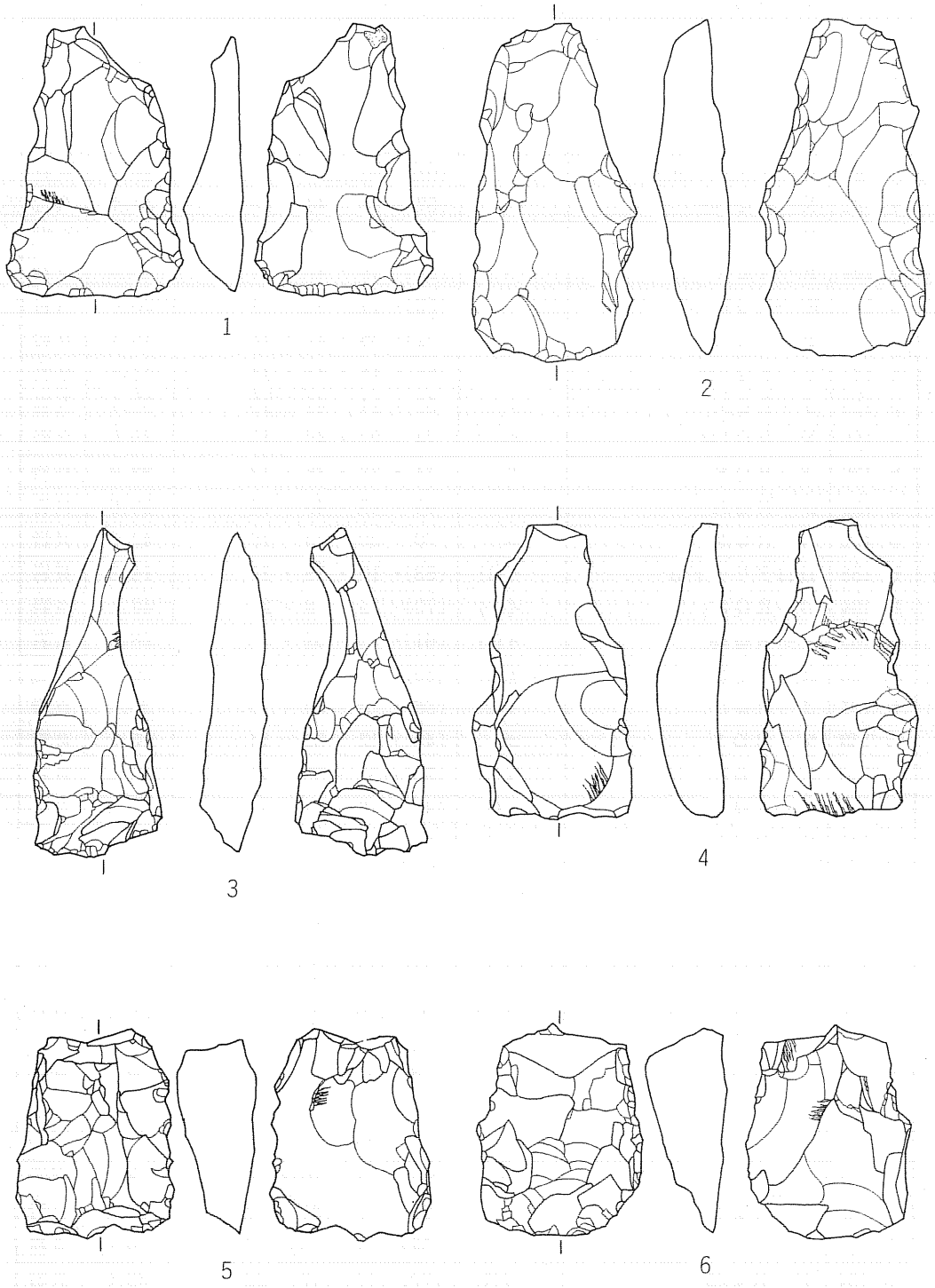
番　号	出　土　地　点	形態分類	長さ・幅a・幅b・厚さ (mm)	重さ(g)	石質
b　40	B′－RQ139	イ(1)	63・23・35・13	34.7	頁岩
b　41	B′－RQ104	イ(2)	55・(15)・35・14	31.4	頁岩
b　42	P′－RQ 2	イ(1)	66・20・43・14	34.5	頁岩
b　43	E 8 グリッドI	イ(1)	70・18・38・14	33.2	頁岩
b　44	P′－RQ30	イ(1)	68・16・41・15	34.2	頁岩
b　45	K－RQ36	イ(1)	69・13・46・12	32.2	頁岩
b　46	X－RQ43	イ(1)	85・23・(50)・13	44.6	頁岩
b　47	F11グリッドI	イ(1)	63・20・40・14	33.6	頁岩
b　48	G－RQ15	イ(1)	67・15・40・11	27.3	頁岩
b　49	B′－RQ37	ロ	58・31・34・11	25.4	頁岩
b　50	P′－RQ54	イ(1)	59・27・39・11	28.0	頁岩
b　51	X－RQ111	イ(1)	58・20・30・11	20.8	頁岩
b　52	U－RQ19	ロ	56・21・30・11	19.4	頁岩
b　53	A′－RQ28	ロ	62・20・32・9	26.4	頁岩
b　54	C12グリッドII	イ(1)	55・20・36・9	18.0	頁岩
b　55	G－RQ12	イ(2)	81・20・37・14	48.6	頁岩
b　56	B′－RQ147	イ(2)	88・18・38・24	70.6	頁岩
b　57	E 2 グリッドII Nベルト	イ(2)	81・20・39・25	66.1	頁岩
b　58	J′－RQ26	イ(2)	78・30・44・19	50.7	頁岩
b　59	J′－RQ24	イ(2)	81・18・37・21	59.0	頁岩
b　60	X－RQ153	イ(2)	79・25・35・15	44.4	頁岩
b　61	Y－RQ 3	イ(2)	62・29・30・15	37.8	頁岩
b　62	E10グリッドII	イ(1)	59・15・40・12	32.7	頁岩
b　63	V－RQ 2	イ(2)	62・17・30・16	32.9	頁岩
b　64	A－RQ18	イ(2)	70・9・36・14	31.5	頁岩
b　65	B－RQ22	イ(2)	60・28・33・15	29.9	頁岩
b　66	W－RQ10	イ(2)	61・22・33・14	26.3	頁岩
b　67	F－RQ54	イ(1)	53・17・35・18	31.0	頁岩
b　68	D 9－1127－RQ 4	イ(2)	60・25・37・16	32.5	頁岩
b　69	B′－RQ153	イ(2)	58・20・(35)・17	35.3	頁岩
b　70	H－RQ31	イ(1)	57・16・28・15	25.7	頁岩
b　71	O－RQ 6	イ(1)	48・20・35・21	32.3	頁岩
b　72	A－RQ 2	イ(1)	49・20・34・15	24.4	頁岩
b　73	B′－RQ157	イ(1)	45・29・35・16	24.2	頁岩
b　74	B′－RQ227	イ(1)	46・10・36・16	23.7	頁岩
b　75	J－RQ36	ハ	62・18・32・14	27.2	頁岩
b　76	P－RQ26	ハ	66・10・34・14	24.0	頁岩
b　77	F10グリッドII	ハ	67・(8)・37・12	27.0	頁岩
b　78	K′－RQ31	ロ	66・22・27・13	20.5	頁岩

◇篦状石器 (3)

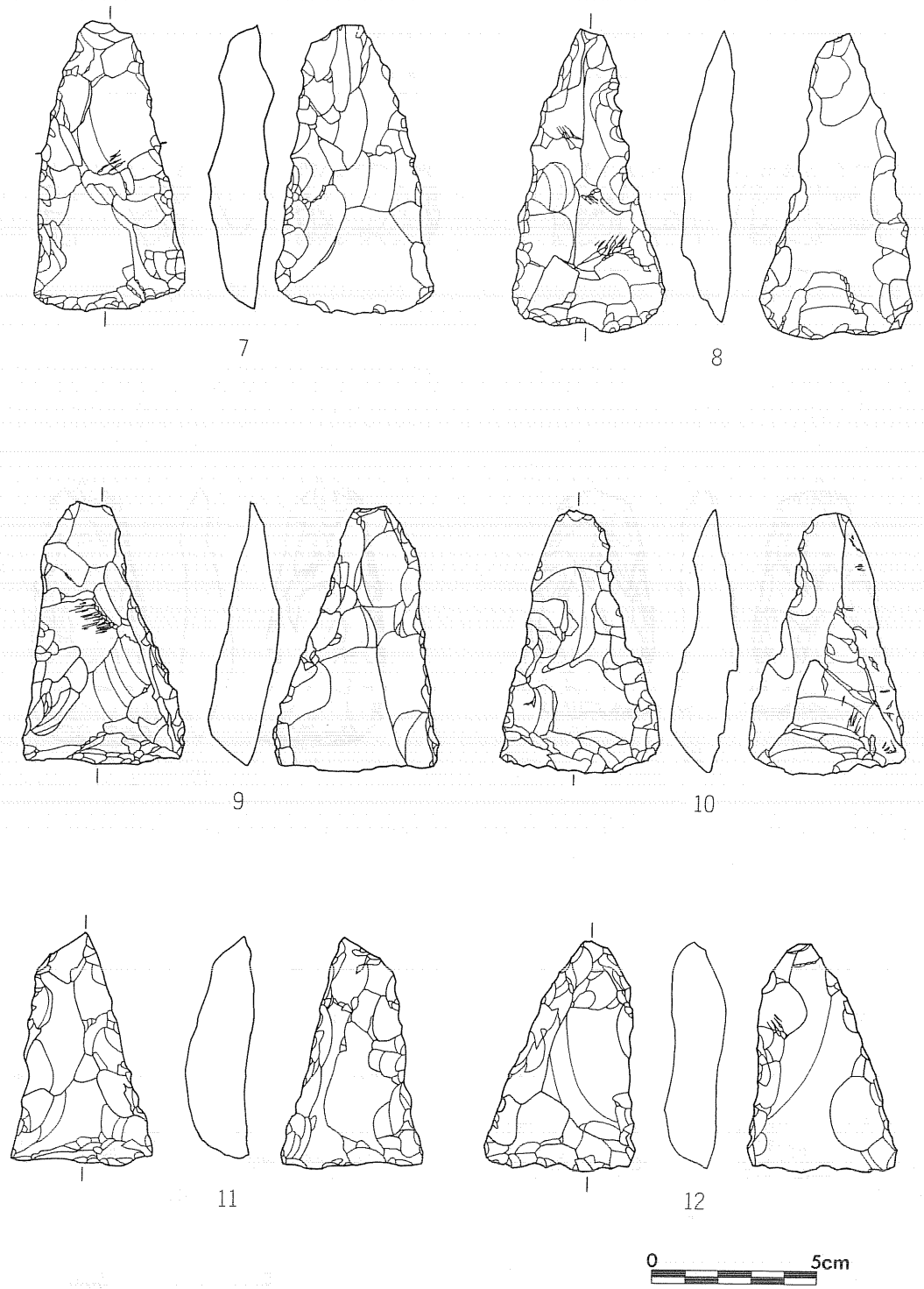
番　号	出　土　地　点	形態分類	長さ・幅ａ・幅ｂ・厚さ（mm）	重さ(g)	石質
b　79	E－RQ20	イ(2)	60・22・40・17	26.5	頁岩
b　80	B′－RQ109	ロ	(54)・(29)・34・19	34.9	頁岩
b　81	X－RQ117	ロ	81・33・45・20	87.9	頁岩
b　82	O′－RQ19	ロ	92・36・45・25	131.5	頁岩
b　83	A－RQ 6	ロ	87・28・30・18	77.0	頁岩
b　84	F3グリッドIII	ロ	88・42・50・17	76.5	頁岩
b　85	B′－RQ14	ロ	84・30・10・18	57.4	頁岩
b　86	B′－RQ159	ロ	82・26・27・23	72.2	頁岩
b　87	F9グリッドII	ロ	81・14・40・24	82.8	頁岩
b　88	F1グリッドII下	ロ	83・32・47・24	85.2	頁岩
b　89	G－RQ10	ロ	78・24・50・17	58.4	頁岩
b　90	EラングリッドEI	ロ	84・21・43・25	86.2	頁岩
b　91	J′－RQ 7	ロ	75・20・43・19	60.9	頁岩
b　92	K′－RQ30	ロ	75・27・30・20	53.7	頁岩
b　93	EラングリッドII下	ロ	70・25・30・20	49.2	頁岩
b　94	J′－RQ 1	ロ	74・23・35・16	49.3	頁岩
b　95	D11グリッドII	ロ	66・23・30・19	42.1	頁岩
b　96	D11グリッドI	ロ	(61)・31・40・20	52.9	頁岩
b　97	K20グリッドII上	ロ	67・23・35・16	45.3	頁岩
b　98	C3グリッドP1	ロ	(61)・30・38・16	33.3	頁岩
b　99	Z－RQ35	ロ	84・23・24・18	53.7	頁岩
b 100	G2グリッドII下	ロ	80・26・35・13	39.9	頁岩
b 101	X－RQ105	ロ	87・20・33・13	51.7	頁岩
b 102	C12グリッドII	ロ	74・15・25・15	29.6	頁岩
b 103	X－RQ31	ロ	72・17・34・15	39.5	頁岩
b 104	N′－RQ 4	ロ	74・21・35・15	46.4	頁岩
b 105	X－RQ95	ロ	73・17・33・12	31.3	頁岩
b 106	C13グリッドEベルトI	ロ	78・(14)・19・17	49.8	頁岩
b 107	Y－RQ 4	ロ	69・10・30・12	31.3	頁岩
b 108	O′RQ22	ロ	78・13・33・15	35.6	頁岩
b 109	F－RQ10	ロ	69・17・21・16	33.5	頁岩
b 110	A′－RQ15	ロ	62・(12)・30・17	28.6	頁岩
b 111	G－RP86	ロ	57・23・28・15	29.1	頁岩
b 112	G9グリッド表土	ロ	63・20・29・16	38.3	頁岩
b 113	F3グリッドIII上	ロ	59・22・37・15	30.7	頁岩
b 114	G2グリッドI	ロ	61・25・31・16	35.8	頁岩
b 115	X－RQ132	ロ	60・14・31・14	29.5	頁岩
b 116	O′－RQ 2	ロ	54・30・34・18	37.9	頁岩
b 117	D11グリッドII	ロ	60・13・27・14	24.8	頁岩

◇箆状石器 (4)

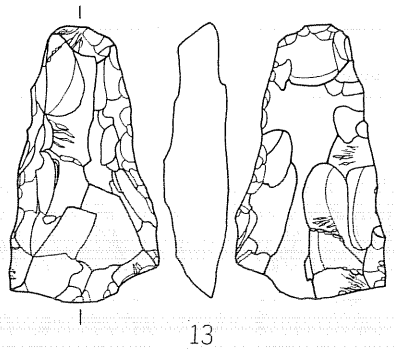
番　号	出　土　地　点	分類形態	長さ・幅ａ・幅ｂ・厚さ（mm）	重さ(g)	石質
b 118	E－RQ 7	ロ	71 ・ 18 ・ 21 ・ 14	31.3	頁岩
b 119	Z－RQ10	ハ	73 ・ 22 ・ 40 ・ 18	44.8	頁岩
b 120	CラインクリッドEI	ハ	66 ・ 17 ・ 43 ・ 16	41.5	頁岩
b 121	E10グリッドII	ハ	(61)・ 32 ・ 50 ・ 16	39.4	頁岩
b 122	X－RQ169	ハ	(57)・ 25 ・ 40 ・ 16	34.4	頁岩
b 123	X－RQ167	ハ	56 ・ 22 ・ 45 ・ 14	31.4	頁岩
b 124	R－RQ 4	ハ	(59)・ 29 ・ 47 ・ 11	26.6	頁岩
b 125	K'－RQ17	ハ	(52)・ 26 ・ 47 ・ 14	28.0	頁岩
b 126	F－RQ59	ハ	(51)・ 36 ・ 47 ・ 18	45.4	頁岩
b 127	B－RQ107	ニ	65 ・ 18 ・ 43 ・ 14	33.4	頁岩
b 128	J－RQ34	ニ	59 ・ 14 ・ 41 ・ 15	35.1	頁岩
b 129	X－RQ134	ニ	74 ・ 22 ・ 49 ・ 13	48.6	頁岩
b 130	J－RQ 8	ニ	74 ・ 23 ・ 35 ・ 13	32.0	頁岩
b 131	D'－RQ31	ニ	65 ・ 15 ・ 40 ・ 14	39.6	頁岩
b 132	A－RQ20	ニ	70 ・ 20 ・ 43 ・ 19	47.3	頁岩
b 133	D11グリッドII	イ(1)	(53)・ 10 ・ 19 ・ 11	14.5	頁岩
b 134	O－RQ47	イ(1)	(73)・ 15 ・ 8 ・ 27	46.1	頁岩
b 135	K'－RQ18	イ(2)	(61)・ 2 ・ 32 ・ 15	28.1	頁岩
b 136	X－RQ145	イ(1)	(65)・ 14 ・(29)・ 16	30.4	頁岩
b 137	J－RQ19	イ(2)	(66)・ 8 ・ 36 ・ 15	30.9	頁岩
b 138	N'－RQ 7	ニ	(49)・ 12 ・ 32 ・ 14	18.8	頁岩
b 139	N'－RQ28	イ(1)	(52)・(33)・ 33 ・ 15	25.6	頁岩
b 140	B'－RQ 1	イ(1)	(47)・ 10 ・ 25 ・ 11	19.8	頁岩
b 141	O'－RQ24	イ(1)	(51)・(28)・ 39 ・ 15	28.2	頁岩
b 142	B'－RQ177	イ(1)	(43)・(40)・ 51 ・ 14	40.4	頁岩
b 143	G 9 グリッド表土	イ(1)	(53)・(25)・ 40 ・ 16	37.4	頁岩
b 144	C12グリッドII	イ(2)	(54)・(36)・ 38 ・ 16	36.6	頁岩
b 145	H－RQ 9	イ(1)	(45)・(27)・(35)・ 8	19.3	頁岩
b 146	F 1 グリッドII	イ(2)	(55)・(30)・ 35 ・ 16	38.2	頁岩
b 147	N'－RQ36	イ(1)	(53)・(32)・ 38 ・ 20	45.9	頁岩
b 148	P－RQ 4	イ(2)	(37)・(33)・ 40 ・ 11	18.1	頁岩
b 149	G－RQ55	イ(1)	(49)・ 31 ・(37)・ 15	31.2	頁岩
b 150	I－RQ18	イ(1)	(59)・ 30 ・(50)・ 14	45.7	頁岩
b 151	C－RQ29	ロ	(65)・ 21 ・(10)・ 18	28.2	頁岩
b 152	V－RQ 9	ロ	(57)・ 12 ・(31)・ 19	30.4	頁岩
b 153	F 1 グリッドII	ロ	(58)・ 14 ・(33)・ 17	26.0	頁岩
b 154	F－RQ25	イ(1)	(77)・(17)・(47)・ 22	58.6	頁岩
b 155	X－RQ92	イ(1)	(53)・ 2 ・(35)・ 17	23.9	頁岩
b 156	A'－RQ26	イ(1)	(50)・ 18 ・(35)・ 12	21.7	頁岩

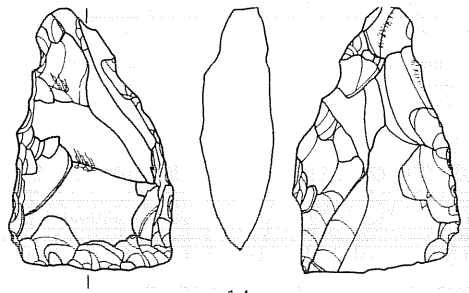


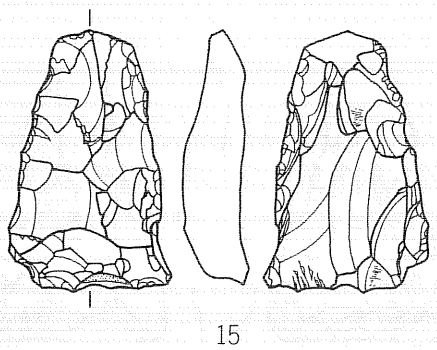
〈7〉第㊻図　出土石器b(1)

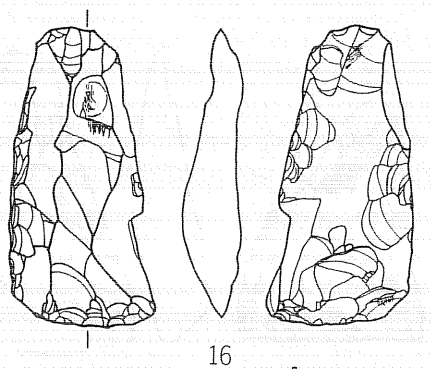


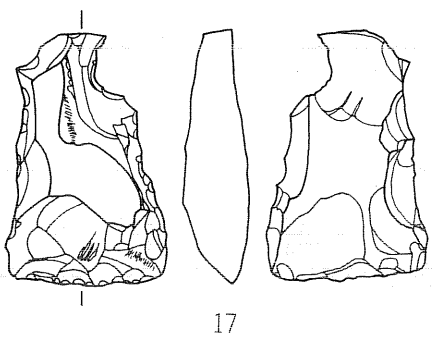
〈7〉 第㊼図　出土石器 b(2)

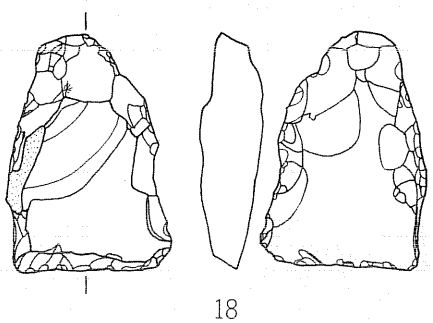




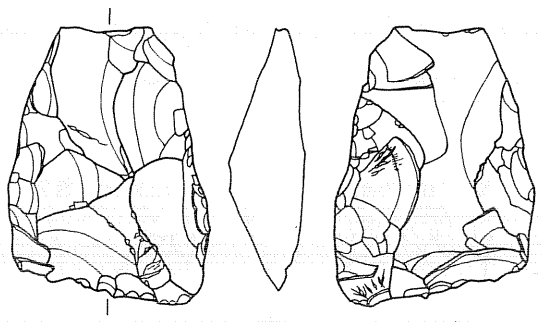


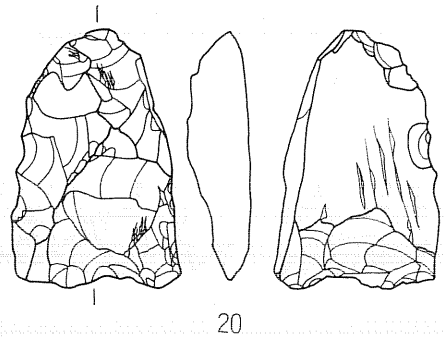


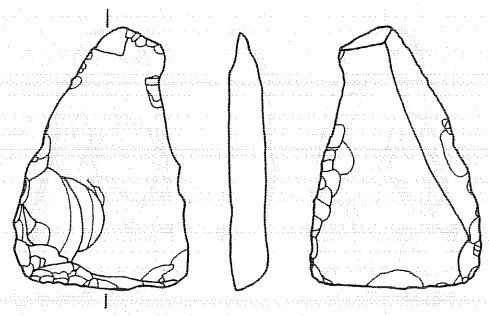


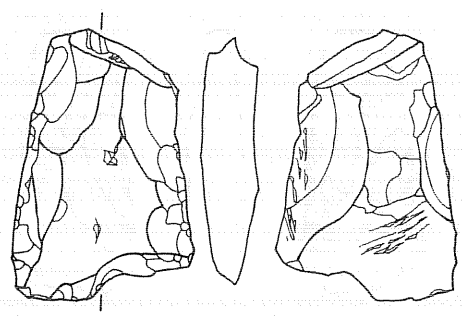


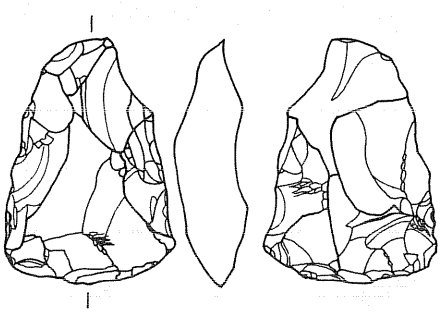
〈7〉第㊿図　出土石器b(3)

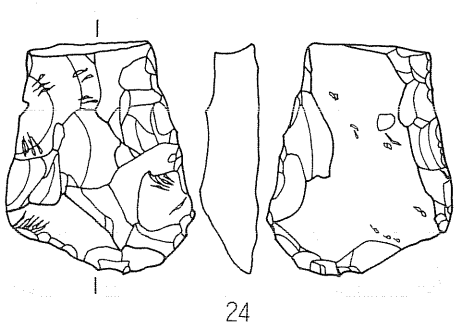




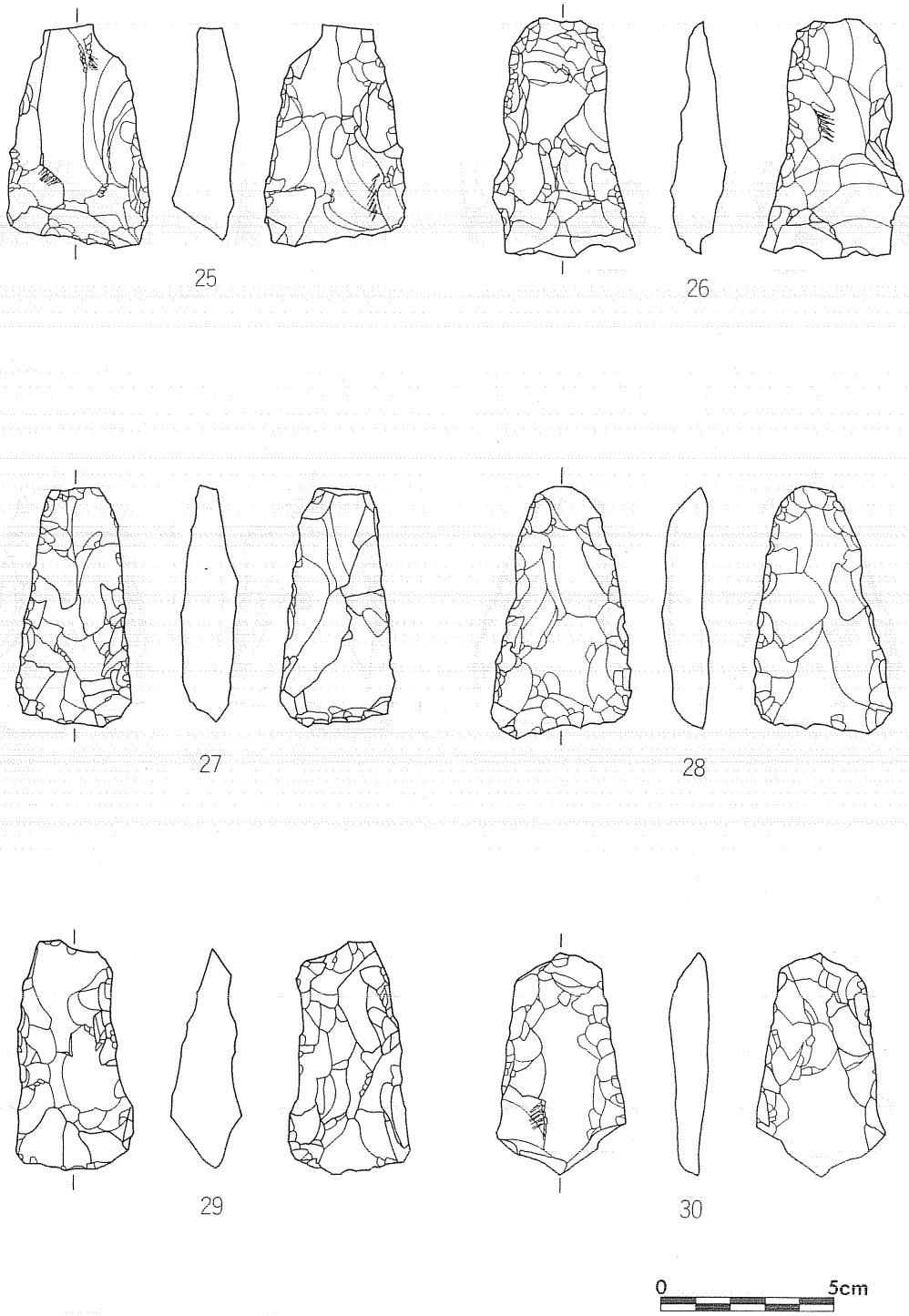




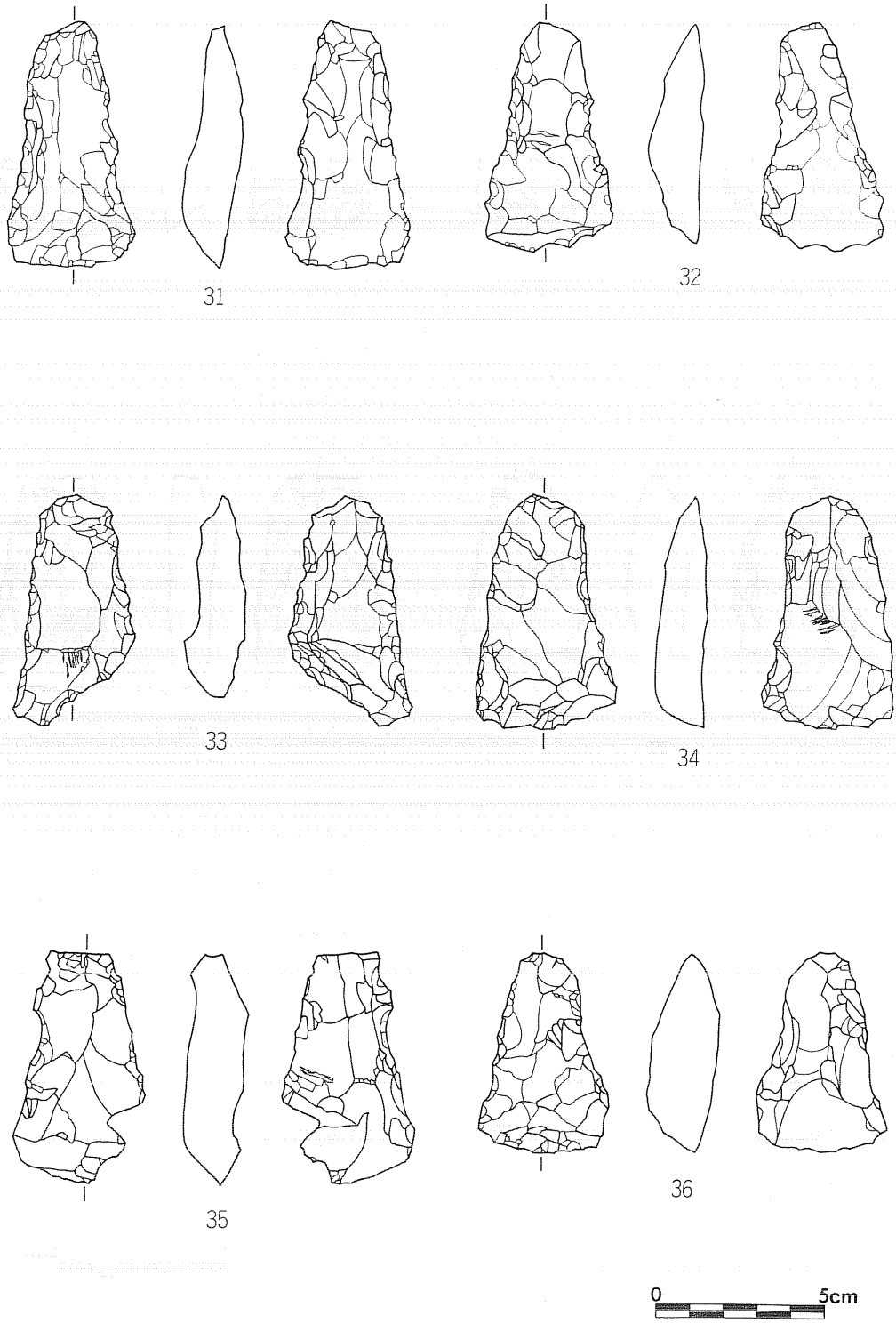




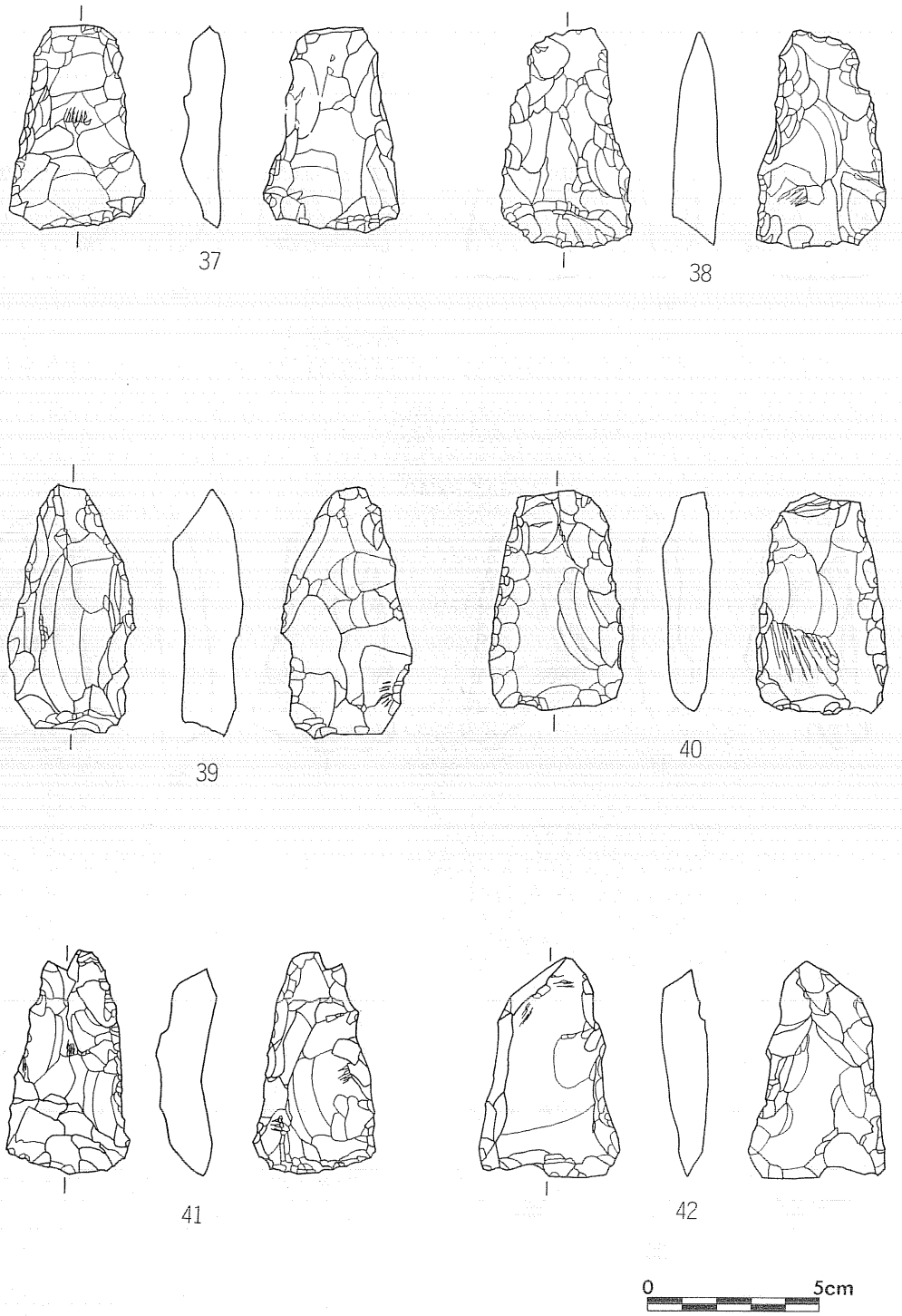
〈7〉 第㊾図　出土石器 b(4)



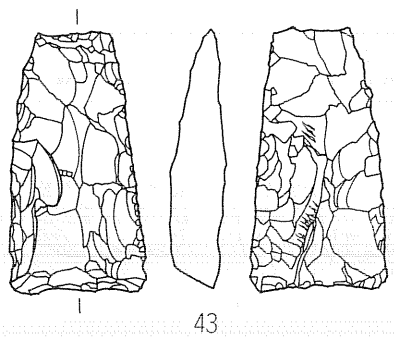
〈7〉第㊿図　出土石器b(5)

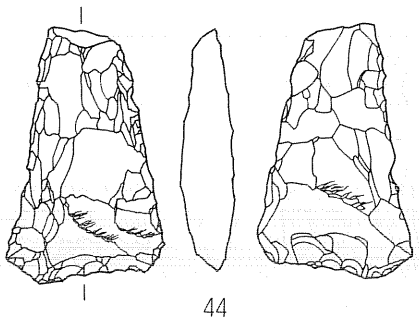


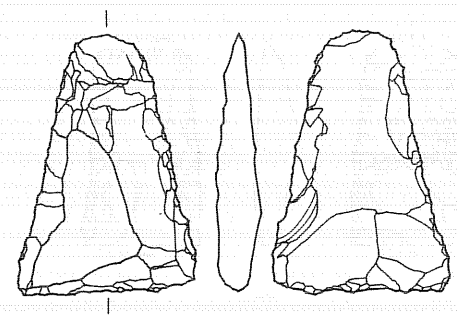
〈7〉第⑥図　出土石器b(6)

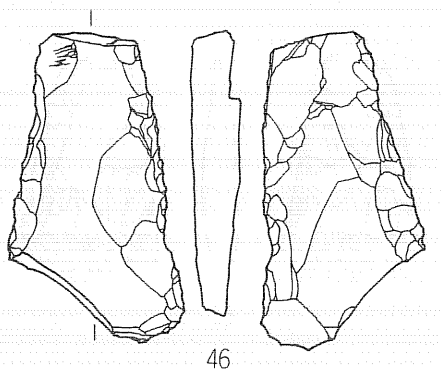


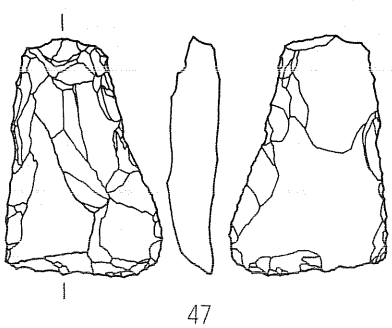
〈7〉第㊷図　出土石器b(7)

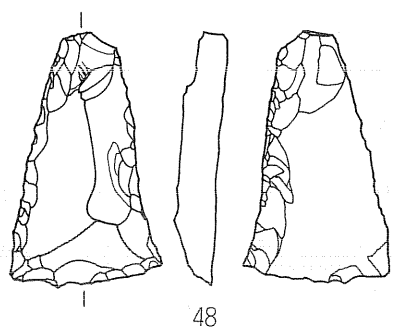




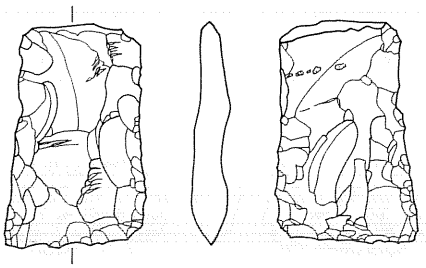




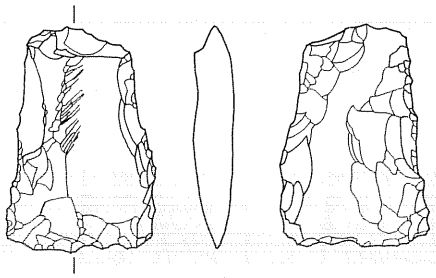




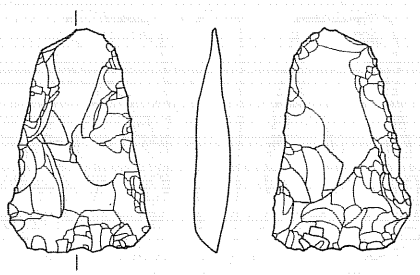
〈7〉第㊸図　出土石器b(8)



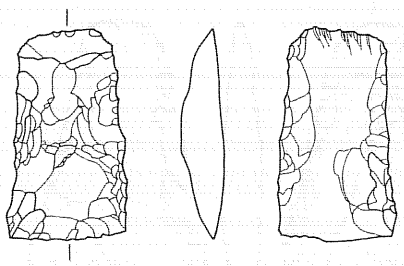
49



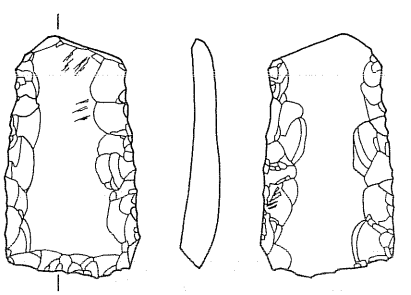
50



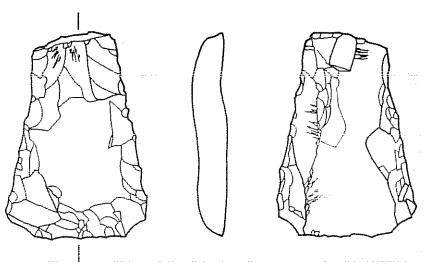
51



52

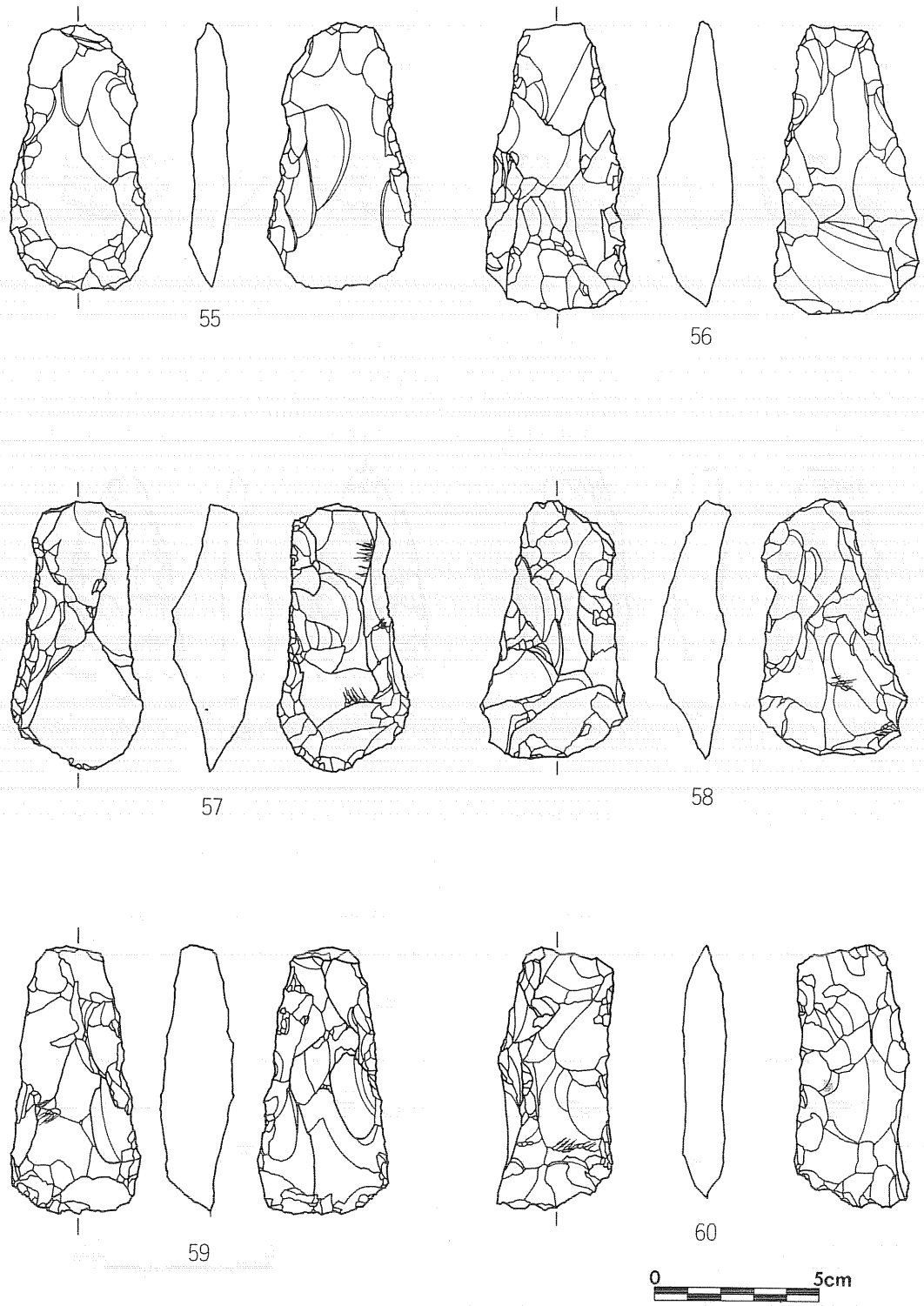


53

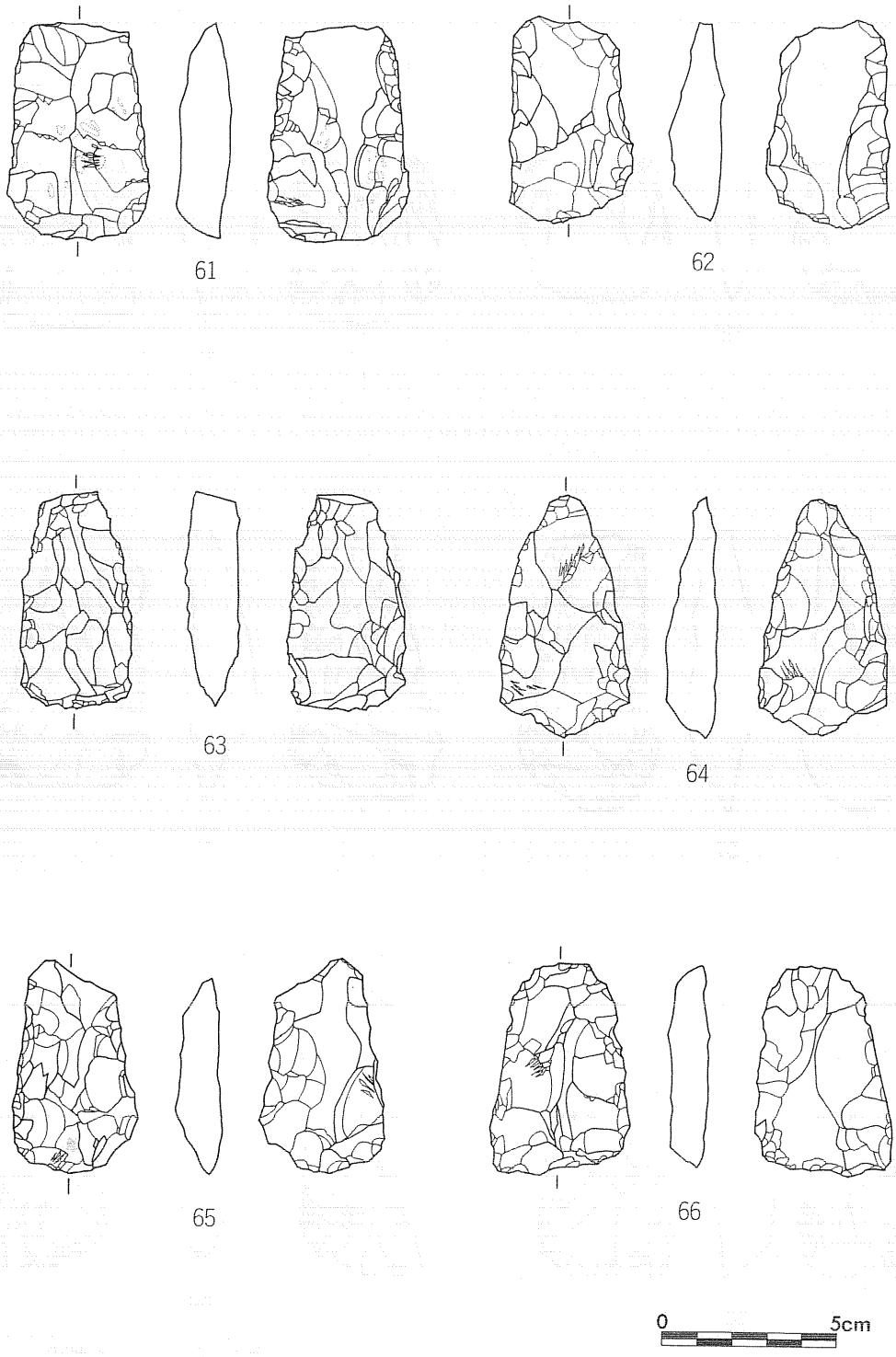


54

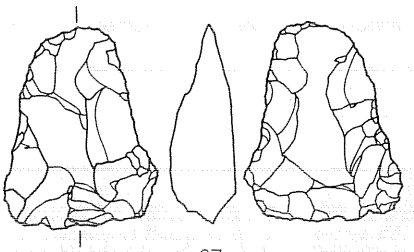
〈7〉第⑭図　出土石器b(9)

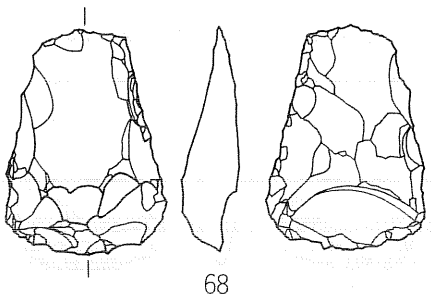


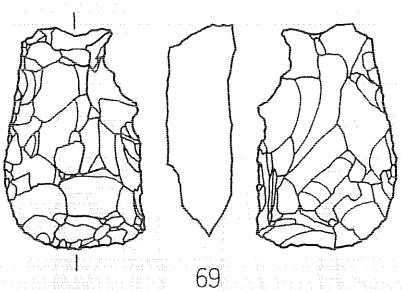
〈7〉第㊺図　出土石器b(10)

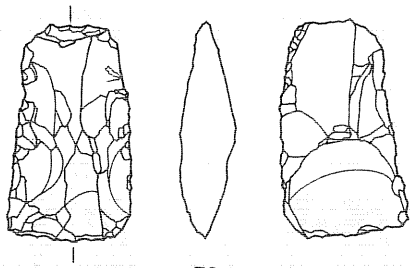


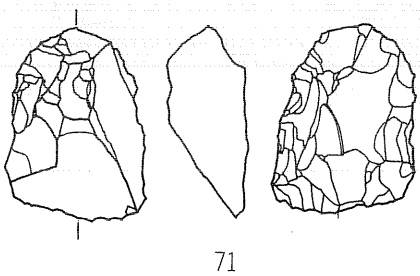
〈7〉第⑯図　出土石器b(11)

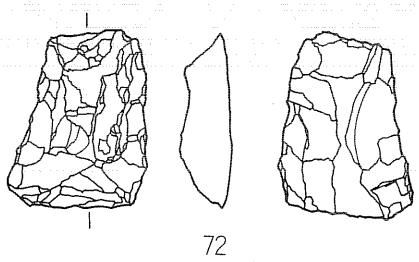


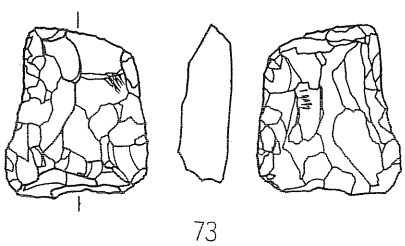


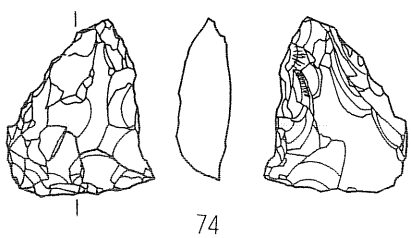




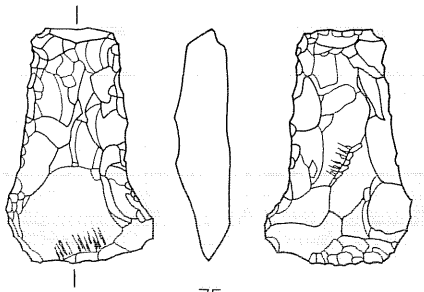


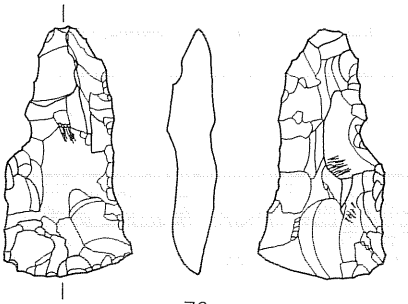


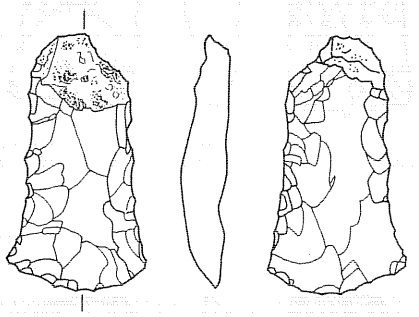


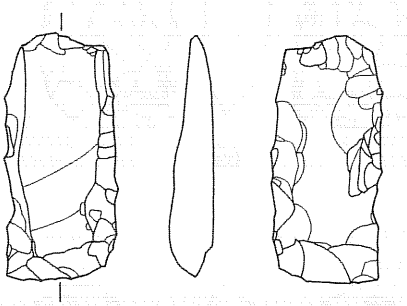


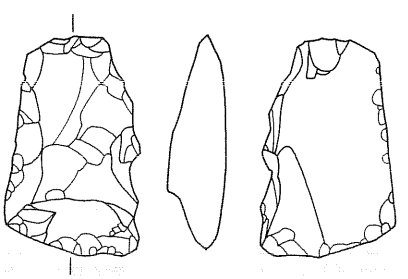
〈7〉第⑰図　出土石器b(12)

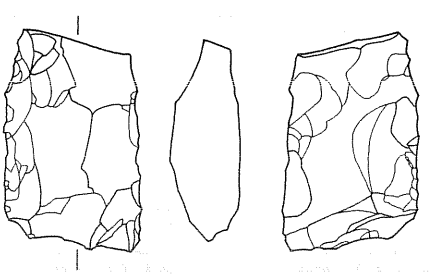


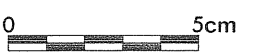




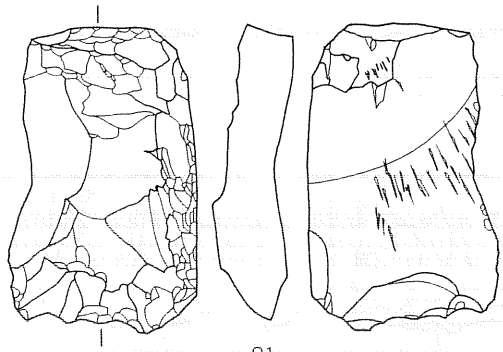


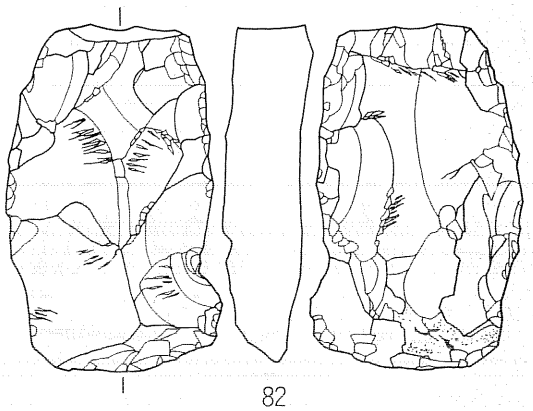


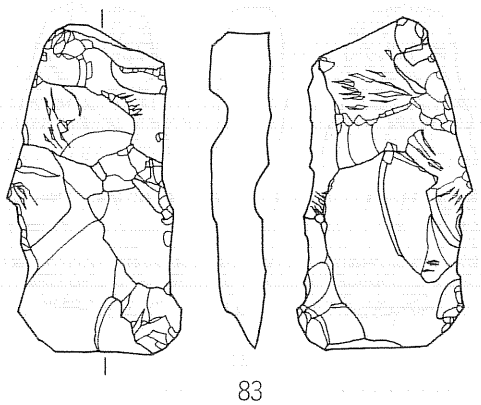


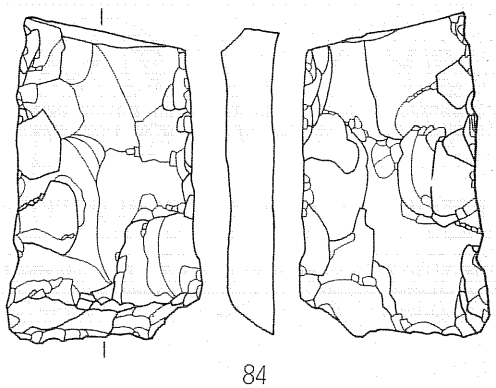


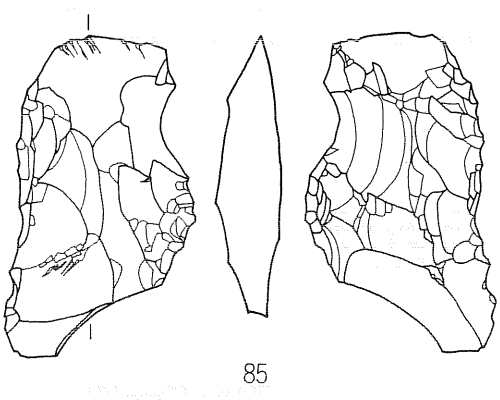
〈7〉第㊽図　出土石器 b(13)

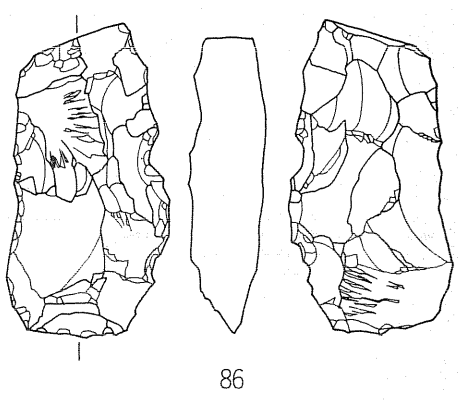




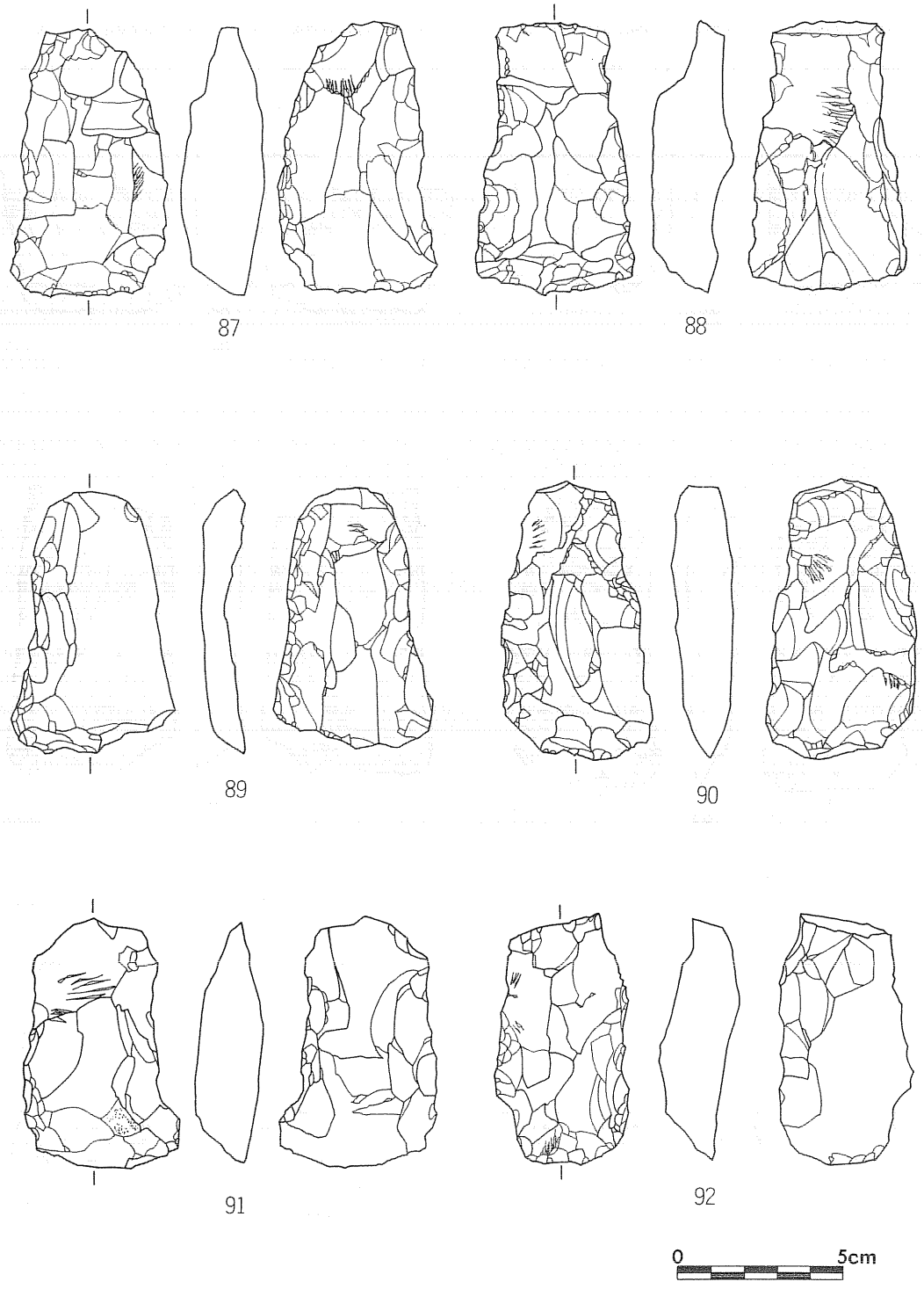




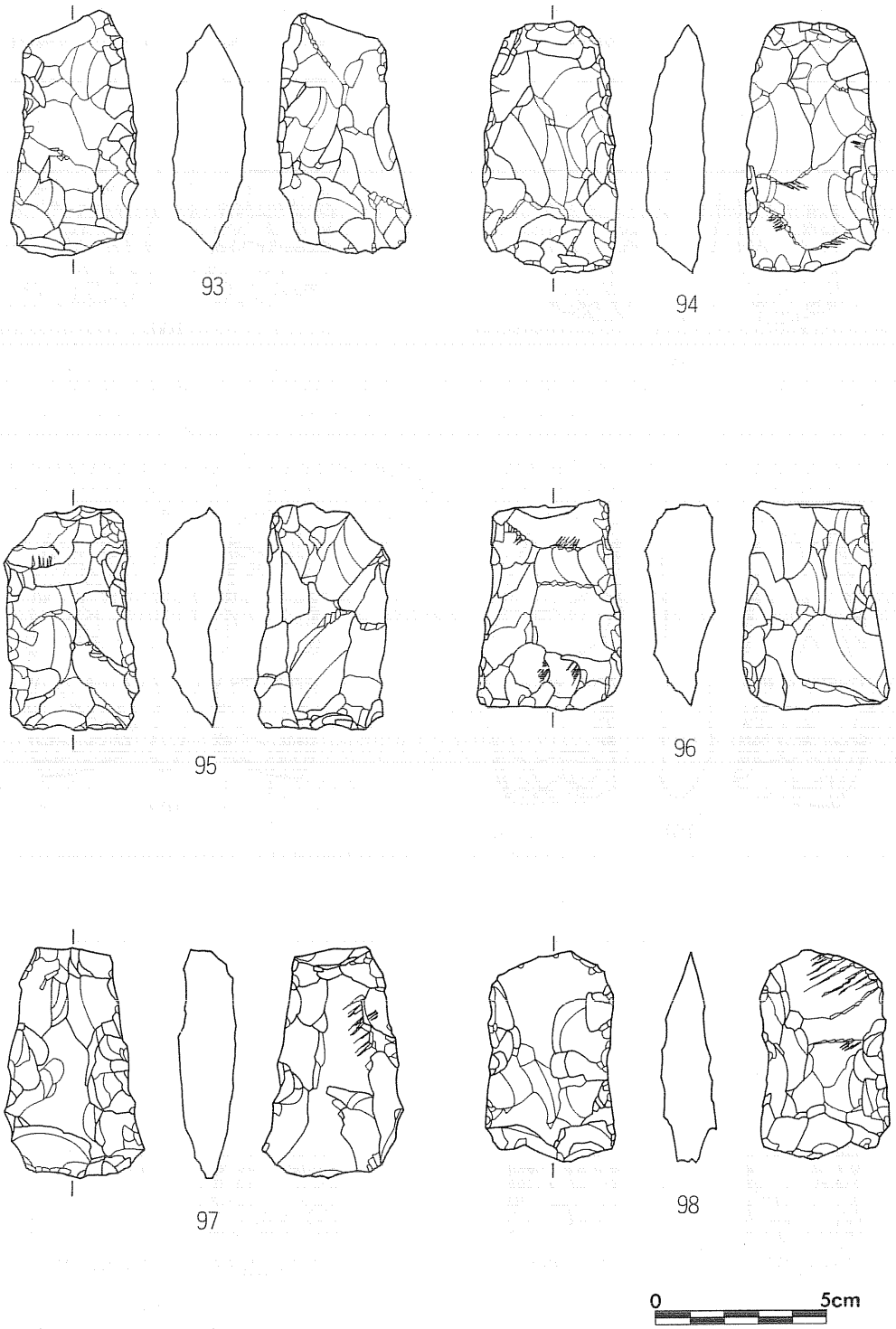




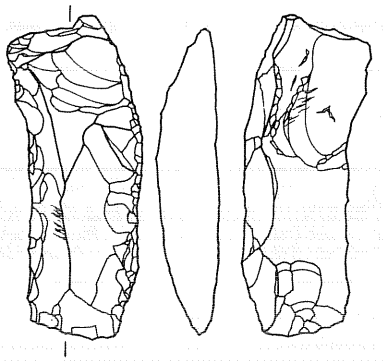
〈7〉第㊾図　出土石器b(14)

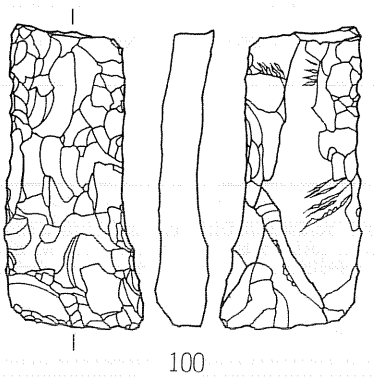


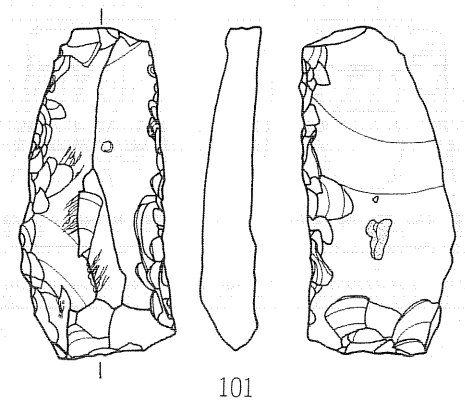
〈7〉第⑦⓪図　出土石器ｂ(15)

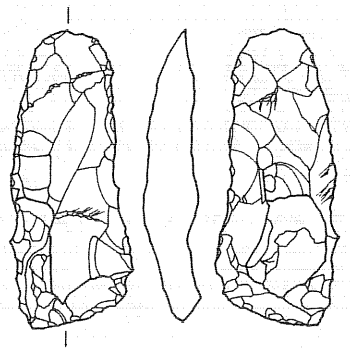


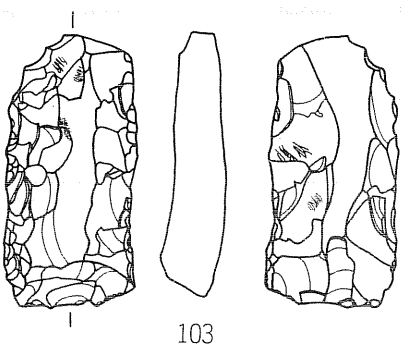
〈7〉第⑦図　出土石器b⑯

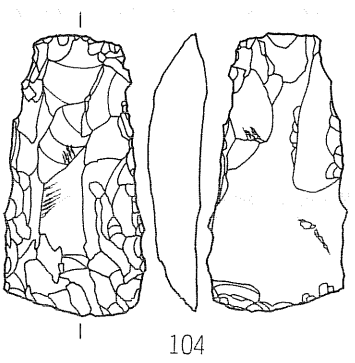




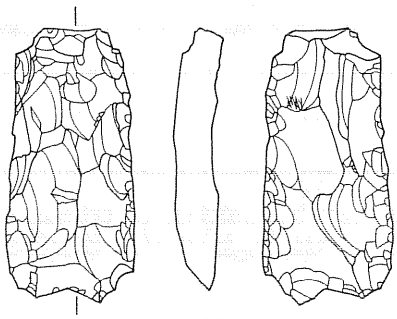


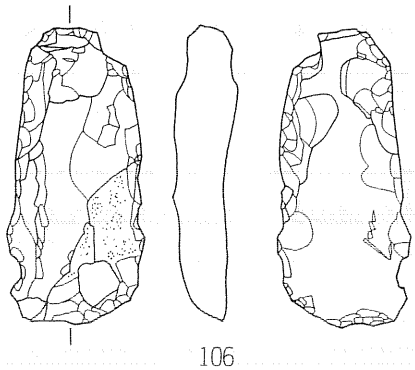


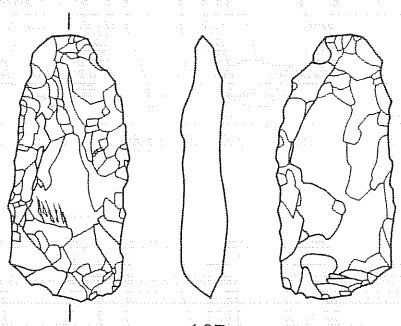


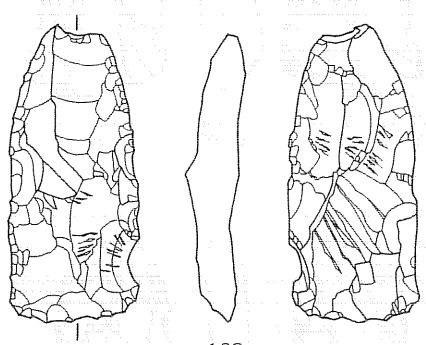


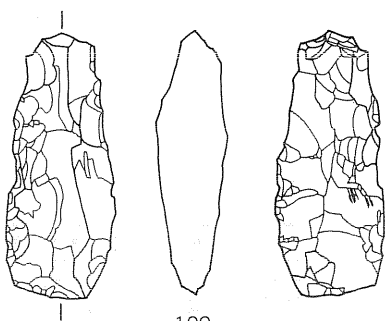
〈7〉第⑫図　出土石器b(17)

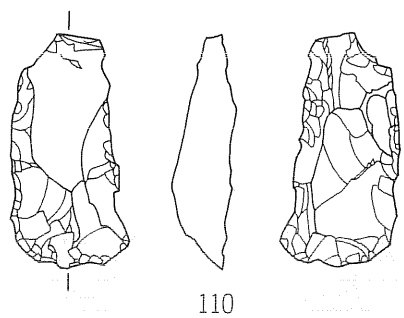




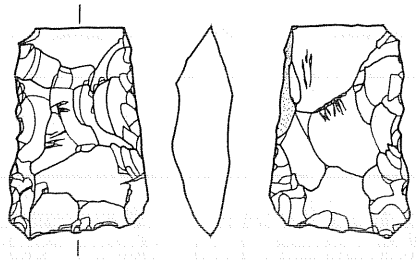


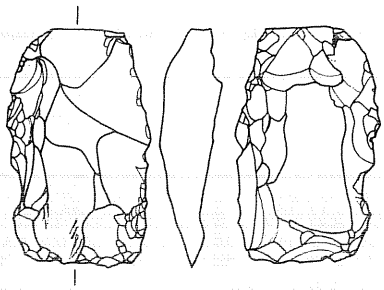


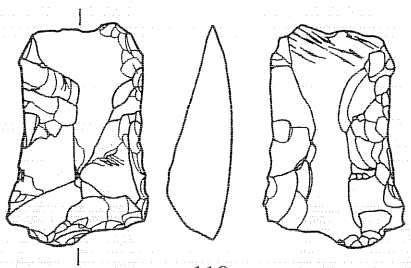


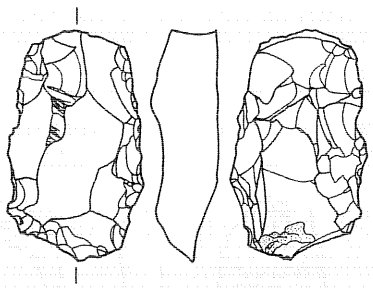


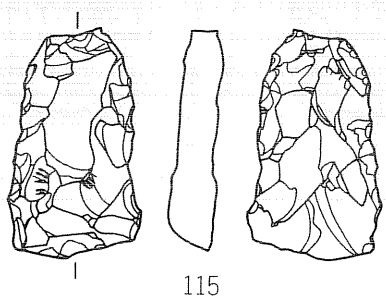
〈7〉第⑬図　出土石器b(18)

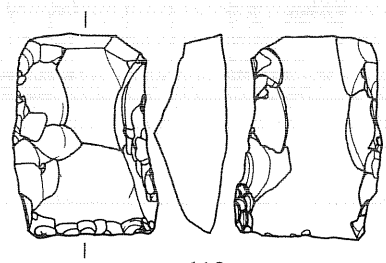

111

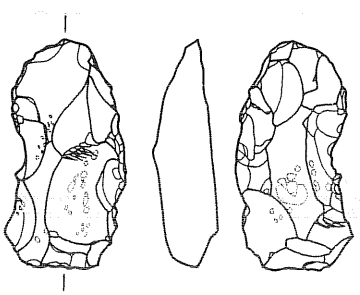

112

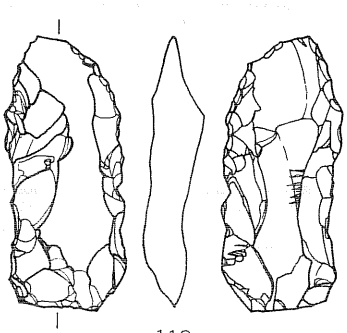

113


114

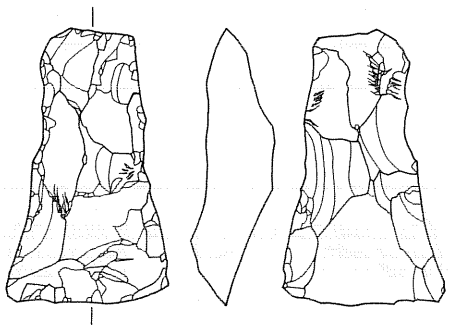

115

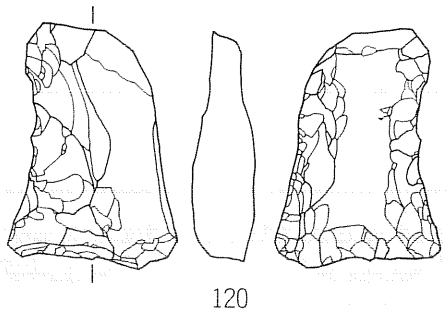

116

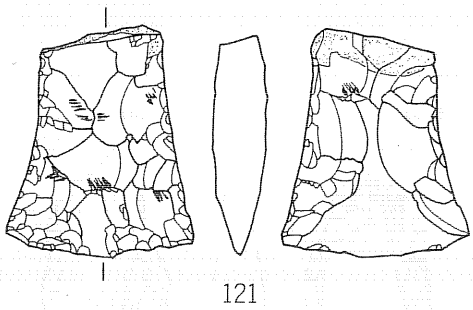

117

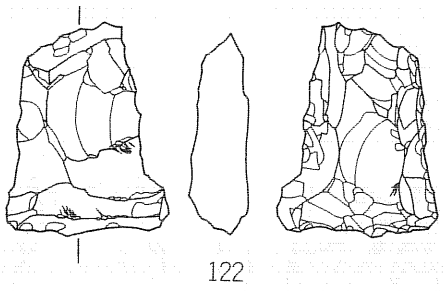

118

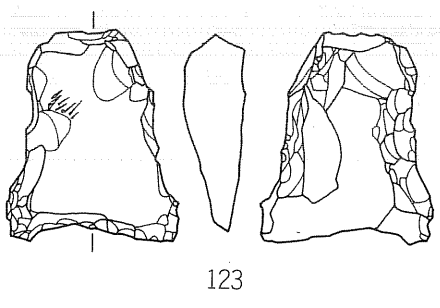
〈7〉第⑭図　出土石器 b(19)

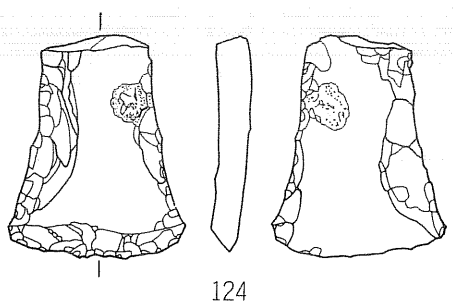


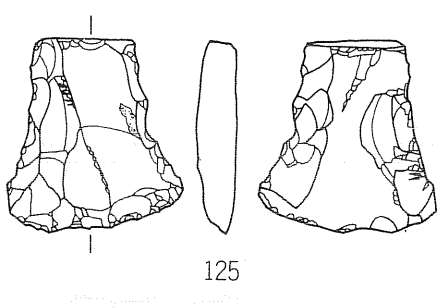


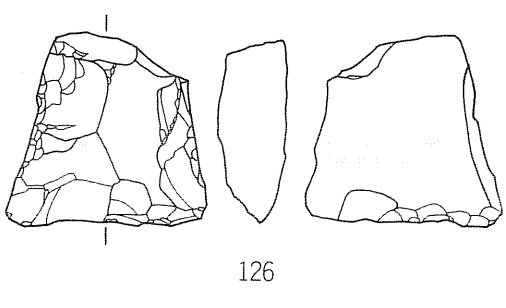


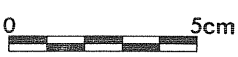




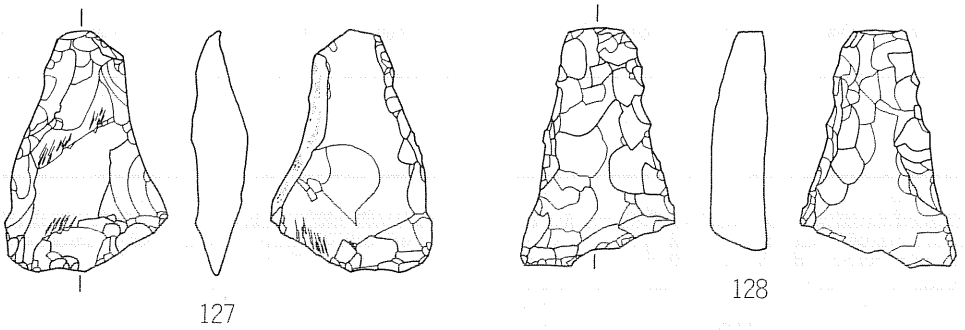


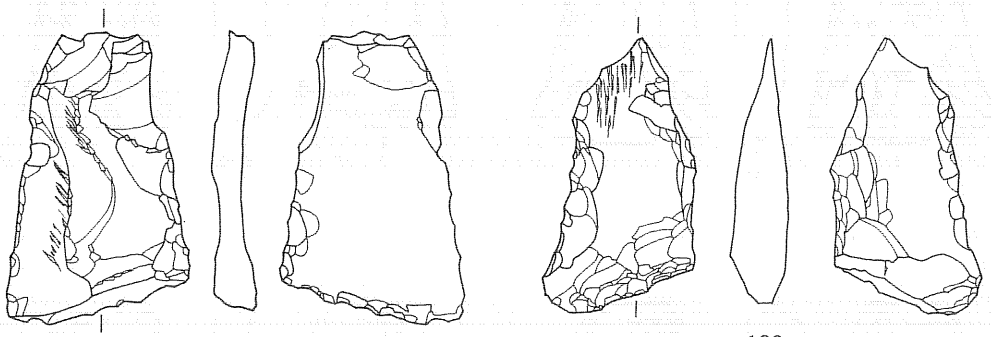


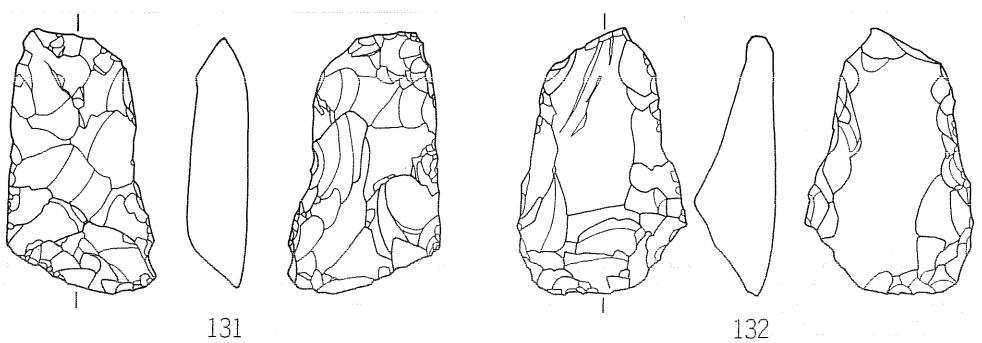




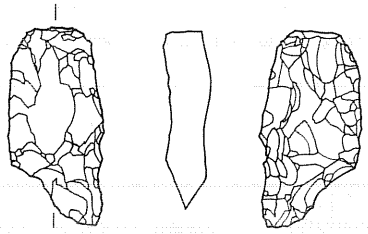
〈7〉第⑮図　出土石器ｂ⑳



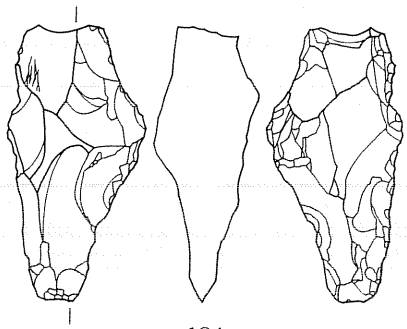




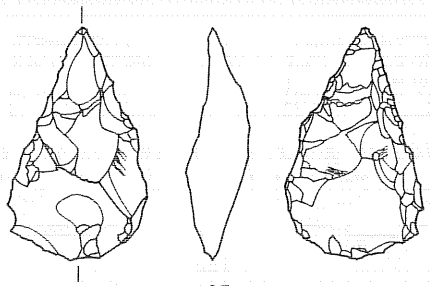
〈7〉第⑯図　出土石器b(21)



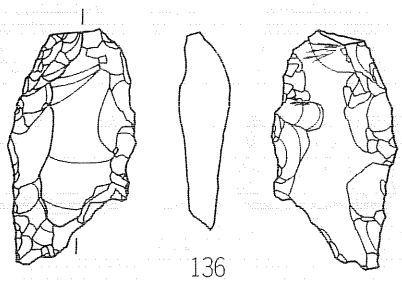
133



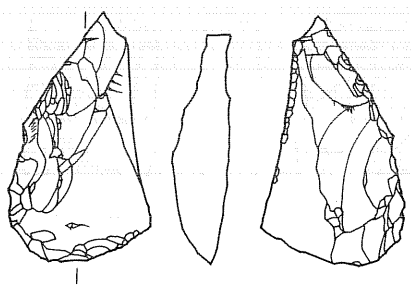
134



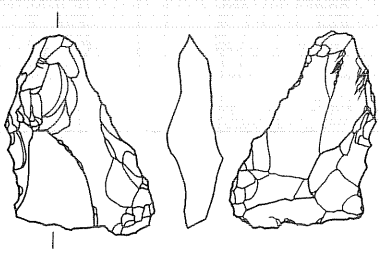
135



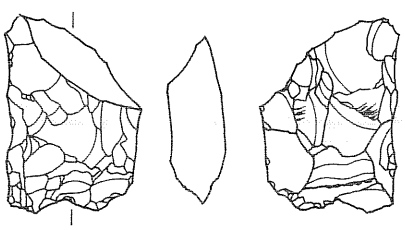
136



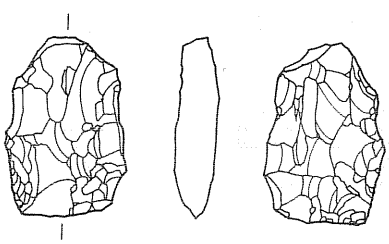
137



138



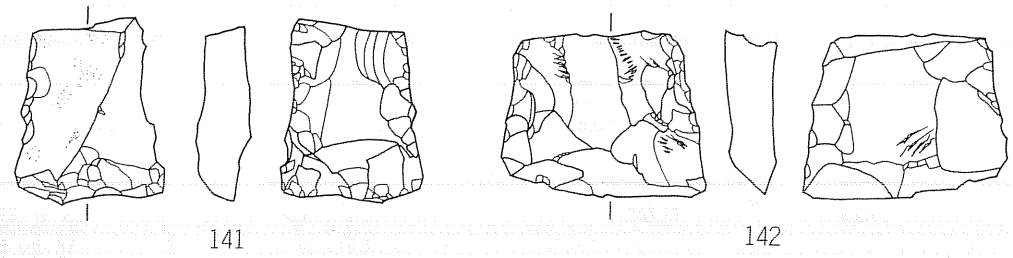
139

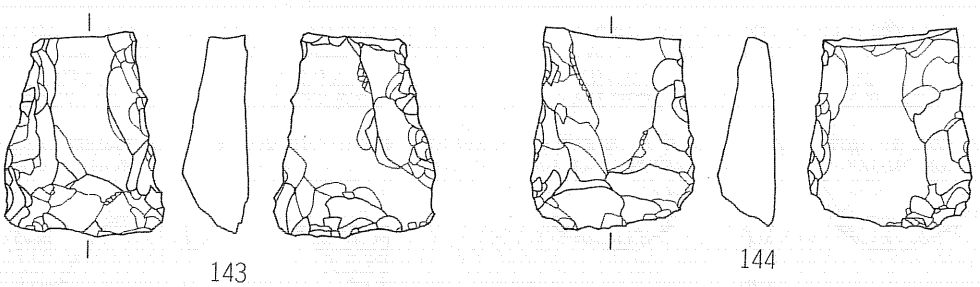


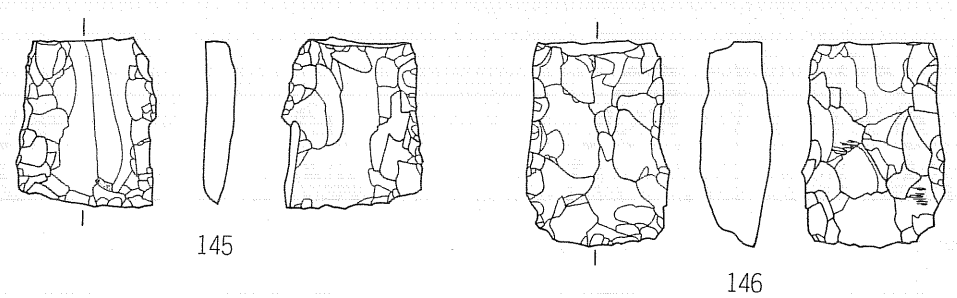
140

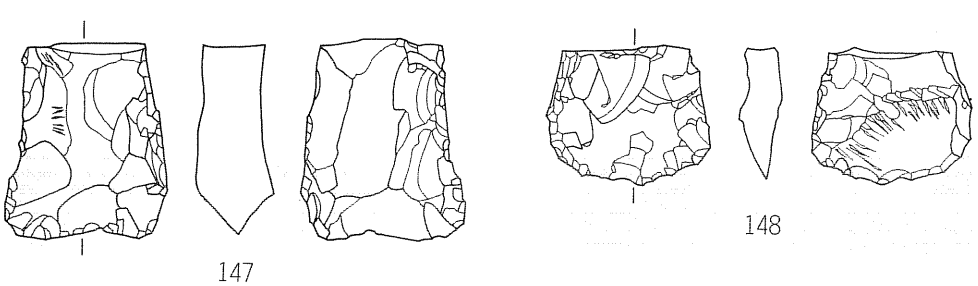
0 5cm

〈7〉第⑰図　出土石器b(22)



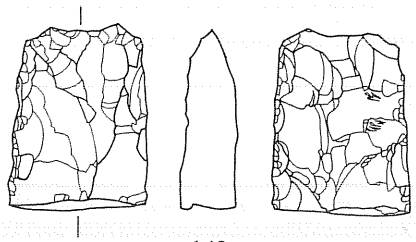




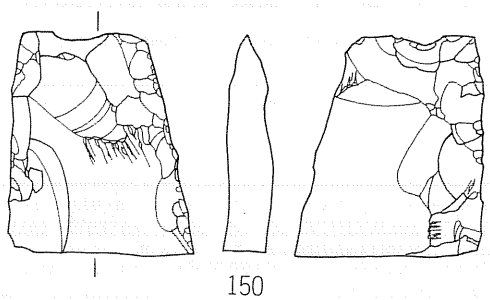


0 5cm

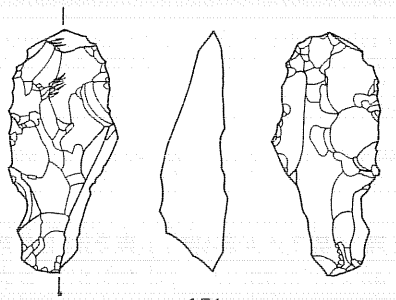
〈7〉第⑱図　出土石器ｂ(23)



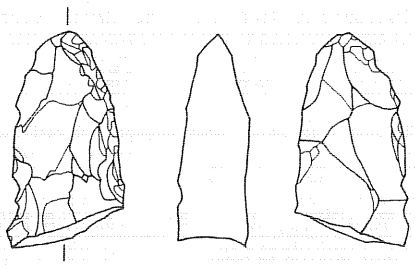
149



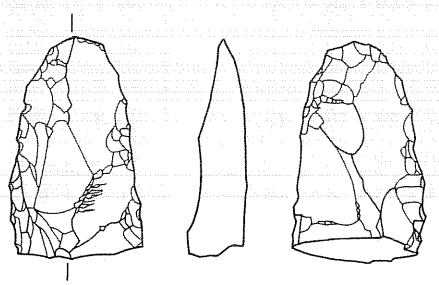
150



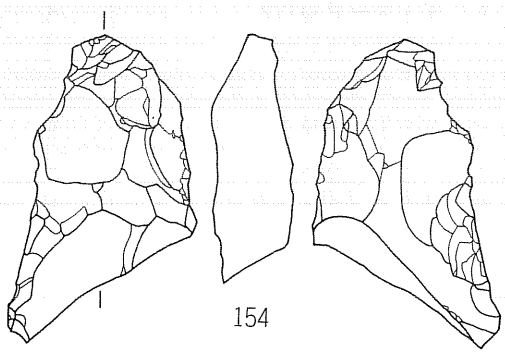
151



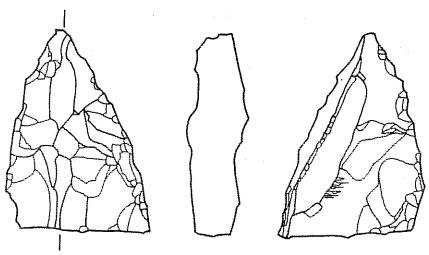
152



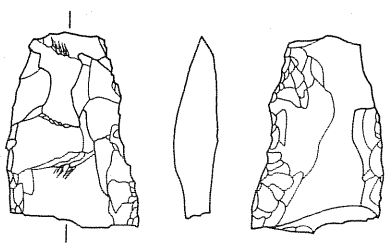
153



154



155



156

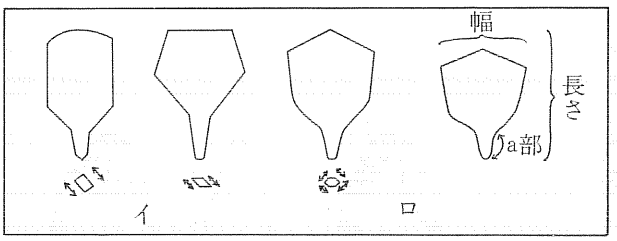
0 5cm

〈7〉第⑲図　出土石器b(24)

c：石　錐〈7〉第㊽・㊾図―1～14

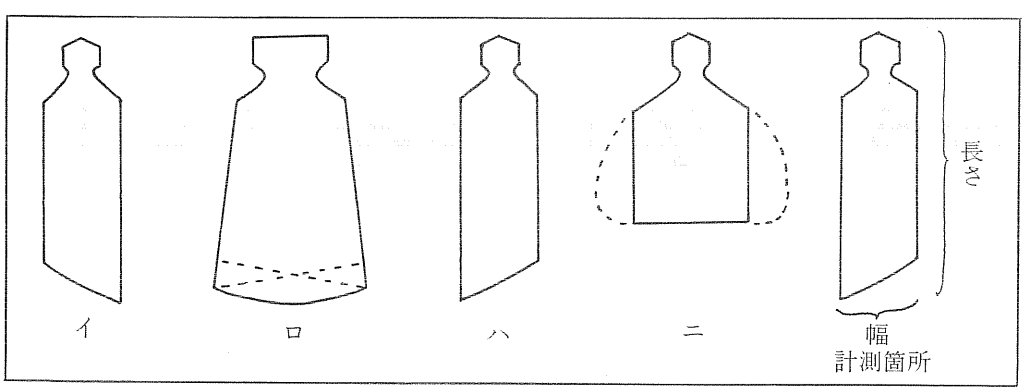
出土点数は14点である。いずれも不定形な剝片の一端に先端部をもっており，基部と先端部のつけねにおける調整剝離により表に示すイ・ロに分類している。

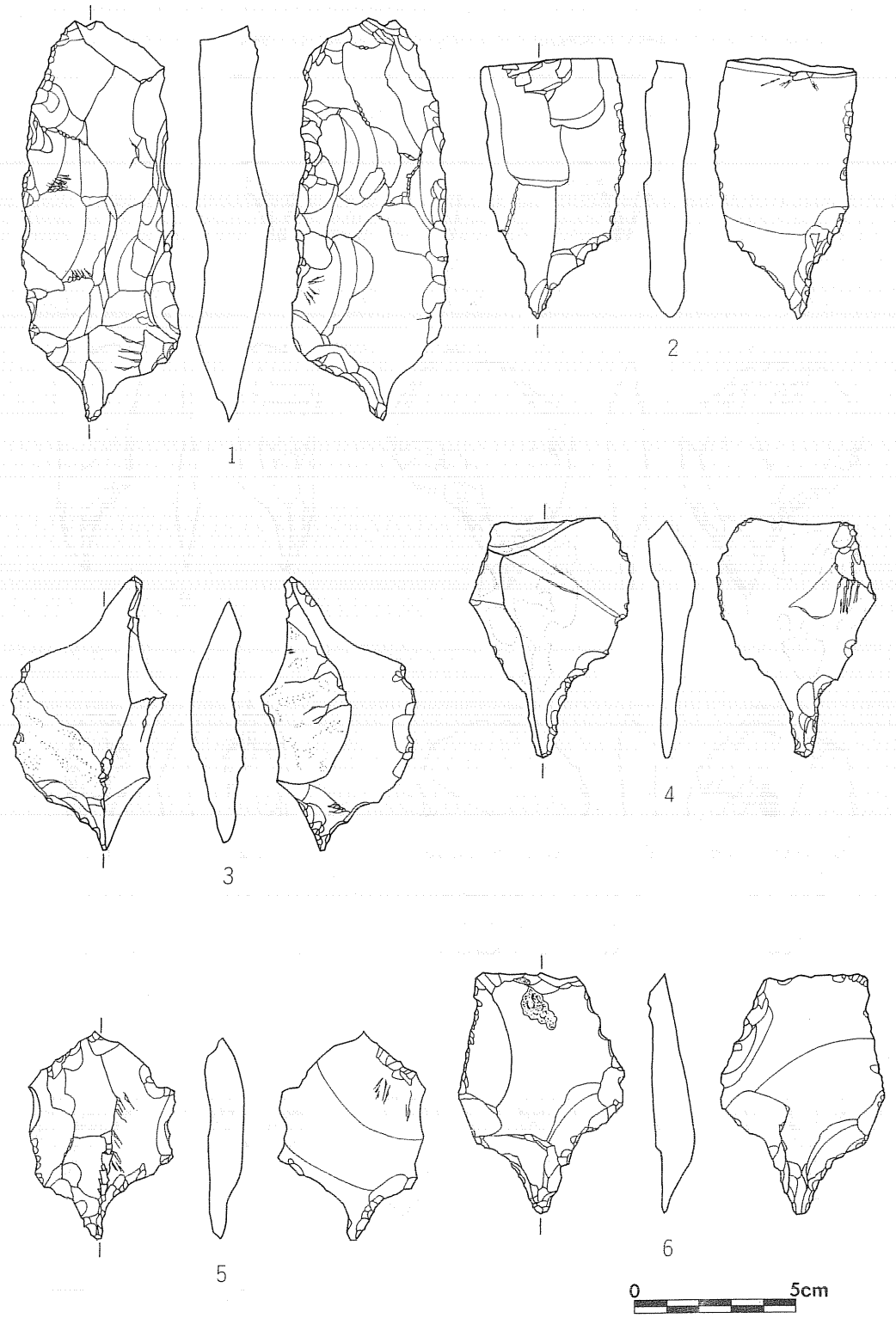
イは基部と先端部のつけねに対し，対応する面の片側から一方向に調整剝離しており，断面は菱形を呈している。ロは基部と先端部のつけねに対し，対応する面の両側から調整剝離しており，断面は楕円形を呈している。



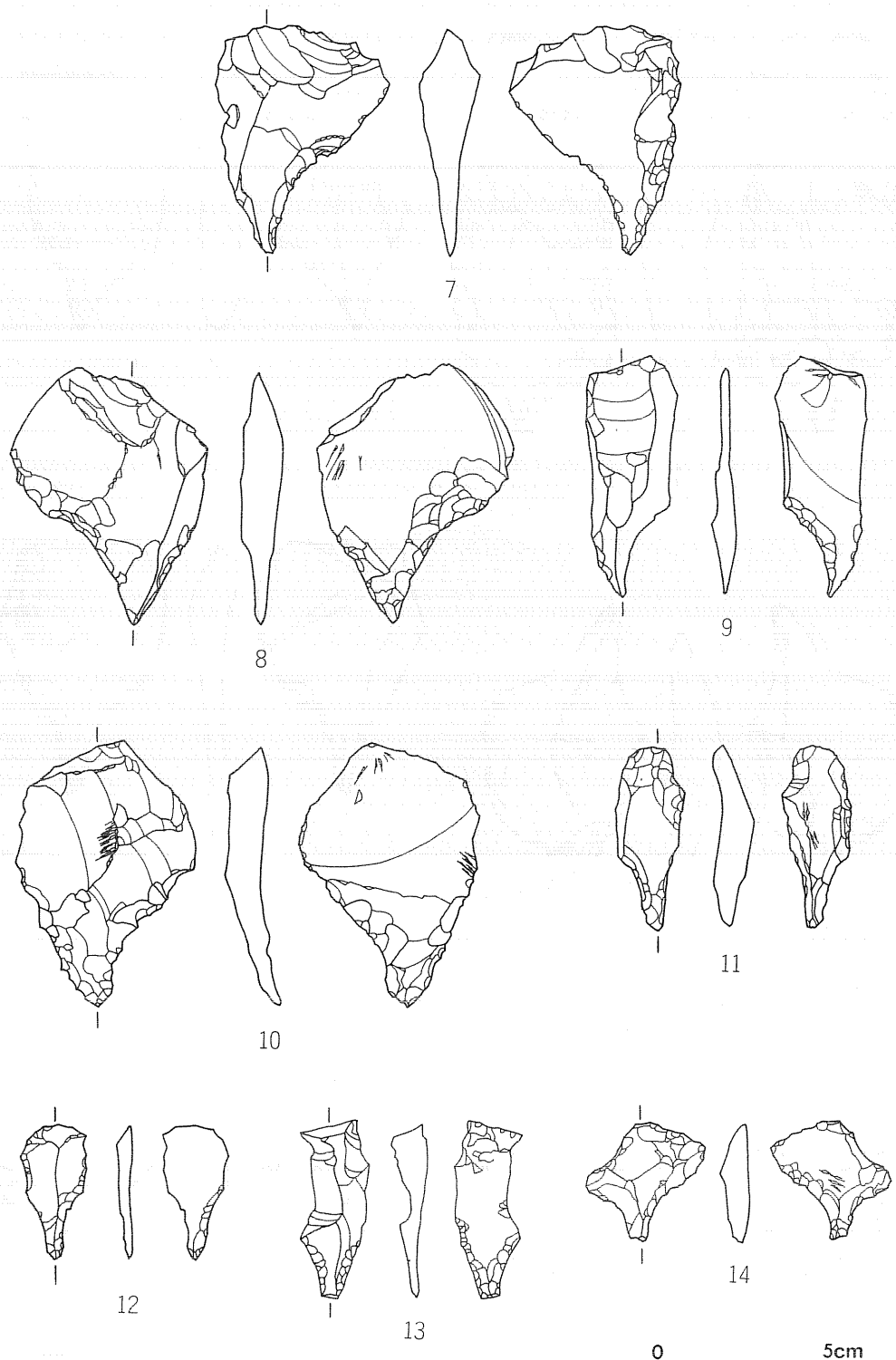
◇石　　錐

番　号	出　土　地　点	形態分類	長さ・幅・厚さ・a部(mm)	重さ(g)	石質
c　1	X―RQ100	イ	123・46・21・13	129.6	頁岩
c　2	Z―RQ37	イ	80・42・16・15	49.9	頁岩
c　3	V―RQ6	イ	85・45・16・14	42.9	頁岩
c　4	X―RQ172	イ	73・49・18・20	30.7	頁岩
c　5	H―RQ32	イ	63・44・10・10	24.0	頁岩
c　6	C12グリッドII	ロ	76・51・17・14	49.9	頁岩
c　7	T―RQ1	ロ	67・49・16・15	29.9	頁岩
c　8	J―RQ27	ロ	66・58・12・13	43.4	頁岩
c　9	EラングリッドE1	ロ	71・26・8・18	11.5	頁岩
c　10	N―RQ12	ロ	77・52・12・16	36.9	頁岩
c　11	L'―RQ4	ロ	53・19・9・16	11.5	頁岩
c　12	D11グリッドII	ロ	38・18・5・17	2.8	頁岩
c　13	F―RQ52	ロ	52・17・12・10	8.0	頁岩
c　14	K24グリッドII	ロ	34・31・10・11	7.4	頁岩





〈7〉第㊽図　出土石器c(1)



〈7〉第⑥①図　出土石器 c(2)

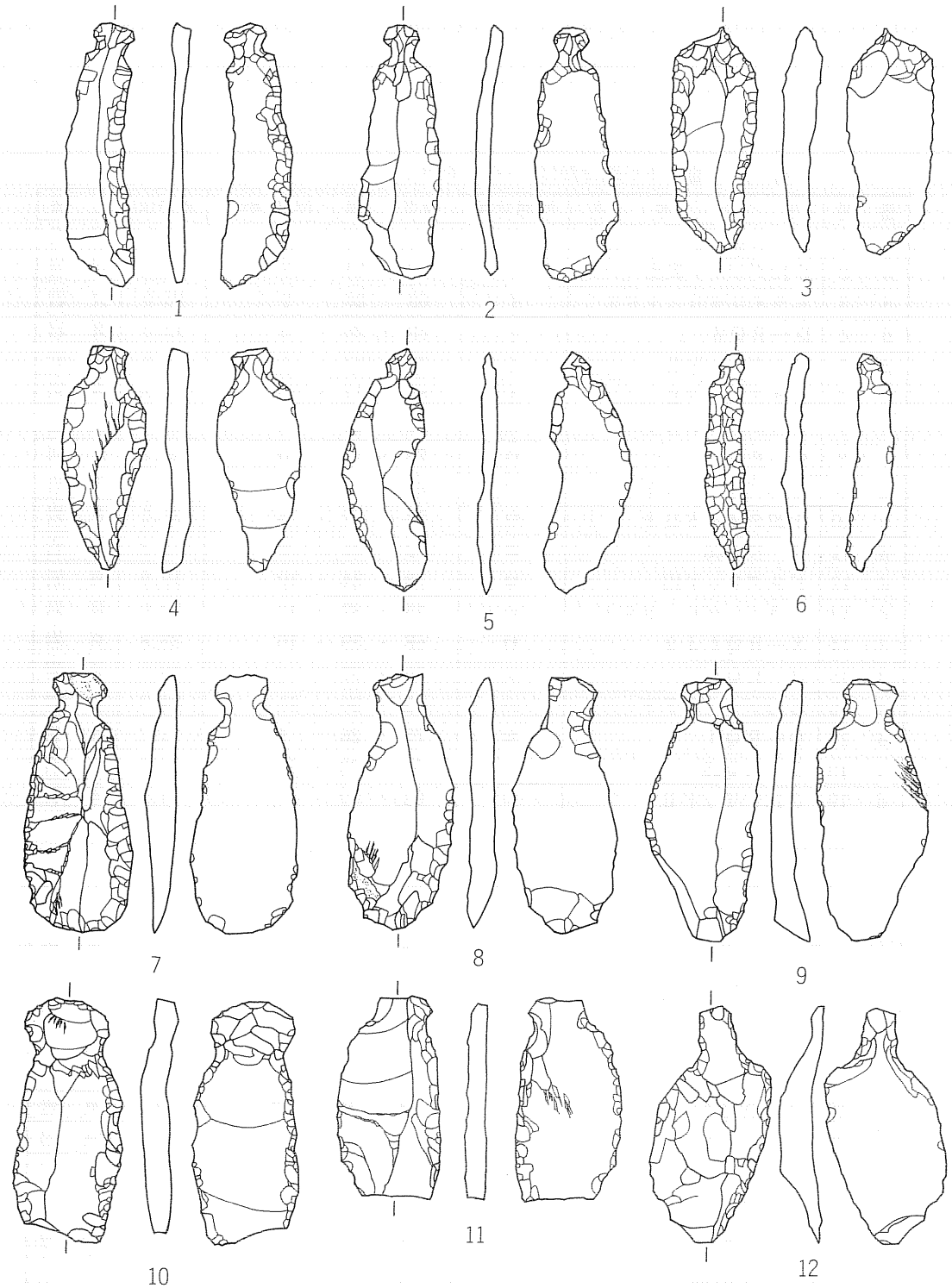
d：石　匙〈7〉第㉜～㉞図－1～35

出土点数は35点である。つまみの位置，刃部により形態分類した。

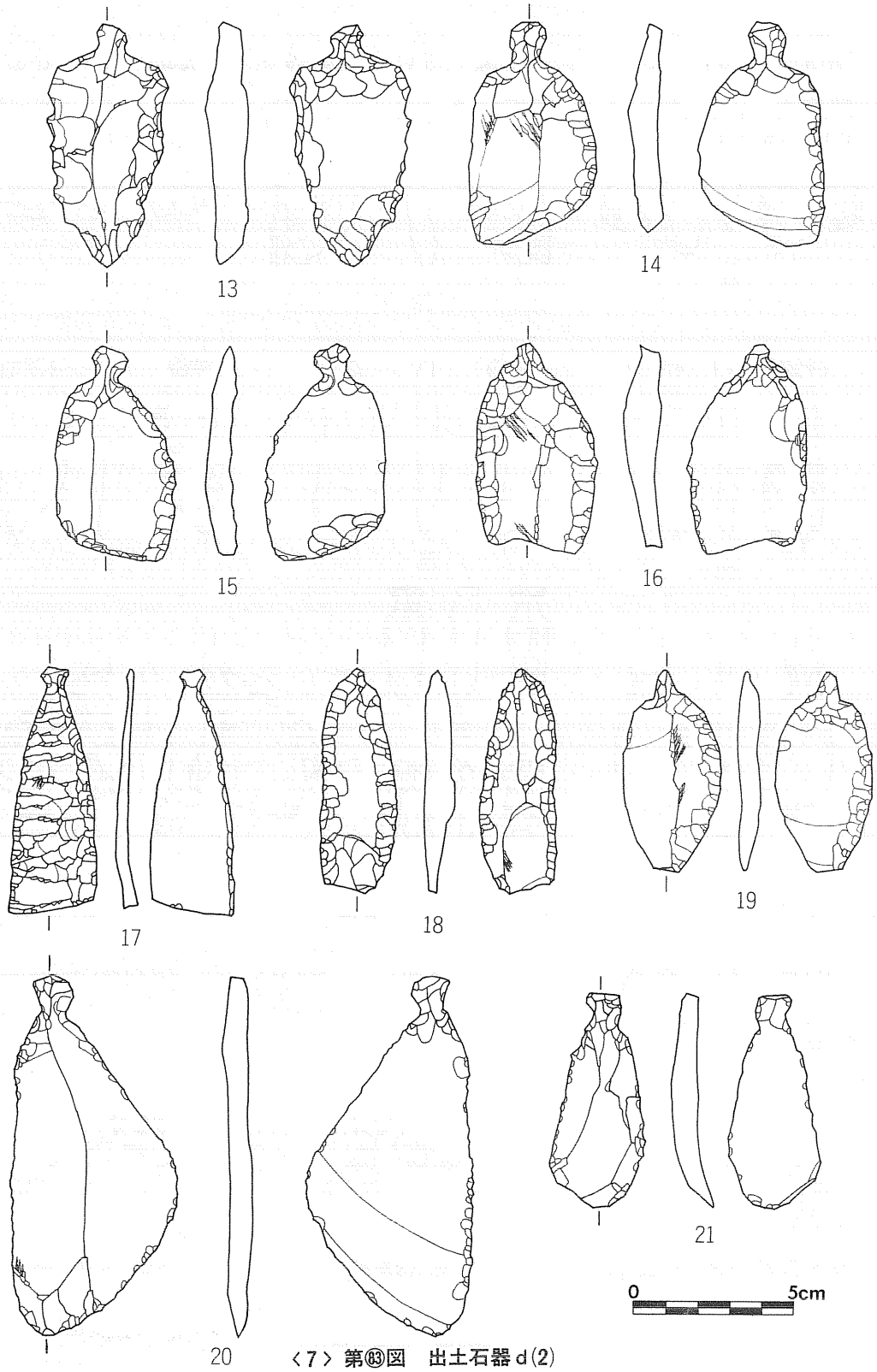
イはつまみを通る中心線に対し刃部が右に弧をなすもの，ハは左に弧をなすもの，ロはほぼ中心線と平行にあるもの，ニは直角に近いものである。イ，ロ，ハは縦型，ニは横型である。

◇石　　匙　※形態分類はP177を参照

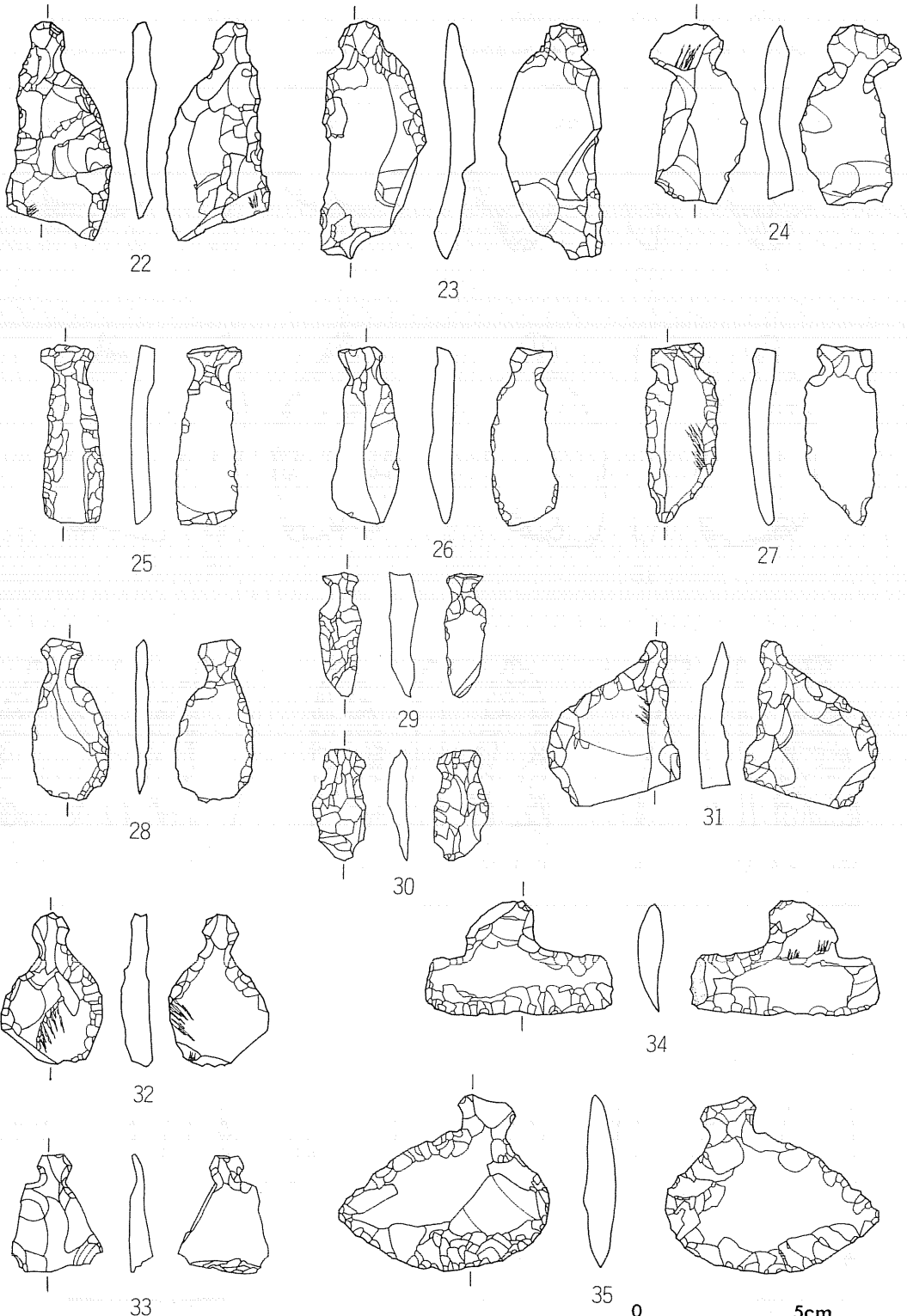
番　号	出　土　地　点	形態分類	長さ・幅・厚さ(mm)	重さ(g)	石　質
d　1	P′－RQ181	イ	81・19・7	11.3	頁　岩
d　2	C12グリッド表土	イ	78・24・7	11.4	頁　岩
d　3	EライングリッドEI	イ	69・26・9	16.0	頁　岩
d　4	D′－RQ4	イ	69・26・8	12.3	頁　岩
d　5	F9グリッドII	イ	73・22・7	6.5	頁　岩
d　6	E8グリッドII	イ	66・12・5	4.3	頁　岩
d　7	J21グリッドII上	ロ	80・33・9	21.9	頁　岩
d　8	G－RQ17	ロ	78・32・10	23.2	頁　岩
d　9	B10グリッドII下	ロ	81・33・9	21.4	頁　岩
d　10	I20グリッドII上	ロ	73・32・8	21.2	頁　岩
d　11	K－RQ96	ロ	62・31・9	18.2	頁　岩
d　12	F9グリッドIII	ロ	73・34・10	19.9	頁　岩
d　13	EライングリッドEI	ロ	75・37・12	28.0	頁　岩
d　14	X－RQ1J9	ロ	68・39・10	22.8	頁　岩
d　15	P′－RQ24	ロ	66・37・9	18.5	頁　岩
d　16	B12グリッドF下	ロ	65・36・11	24.3	頁　岩
d　17	Q－RQ1	ロ	75・26・6	11.7	頁　岩
d　18	P－RQ29	ロ	69・23・10	16.7	頁　岩
d　19	C12グリッドII	ロ	62・30・8	14.3	頁　岩
d　20	T－RQ7	ハ	111・52・13	52.2	頁　岩
d　21	B′－RQ132	ハ	66・28・8	14.5	頁　岩
d　22	B′－RQ94	ハ	68・32・9	17.5	頁　岩
d　23	EライングリッドEI	ハ	73・31・10	20.9	頁　岩
d　24	C－RQ22	ハ	55・26・9	11.3	頁　岩
d　25	F－RQ28	ハ	55・18・6	8.0	頁　岩
d　26	X－RQ151	ハ	55・20・8	7.2	頁　岩
d　27	A－RQ25	ハ	56・26・7	7.6	頁　岩
d　28	G3－1128－RQ1	ハ	50・23・4	5.1	頁　岩
d　29	E－RQ7	イ	38・12・7	3.2	頁　岩
d　30	G－RQ25	ハ	34・16・7	3.5	頁　岩
d　31	C′－RQ15	ニ	52・40・10	17.1	頁　岩
d　32	G－RQ34	ニ	46・31・8	10.8	頁　岩
d　33	A－RQ16	ニ	36・28・8	4.3	頁　岩
d　34	I22グリッドII上	ニ	35・57・9	11.7	頁　岩
d　35	C7グリッド表土	ニ	54・65・11	27.9	頁　岩



〈7〉第㉜図　出土石器d(1)



〈7〉第83図　出土石器d(2)



〈7〉第㉞図　出土石器d(3)

e・f：剝　片〈7〉第○～○図

不定形な剝片の中でも二次調整剝離と使用痕のあるものをe・fに分類した。

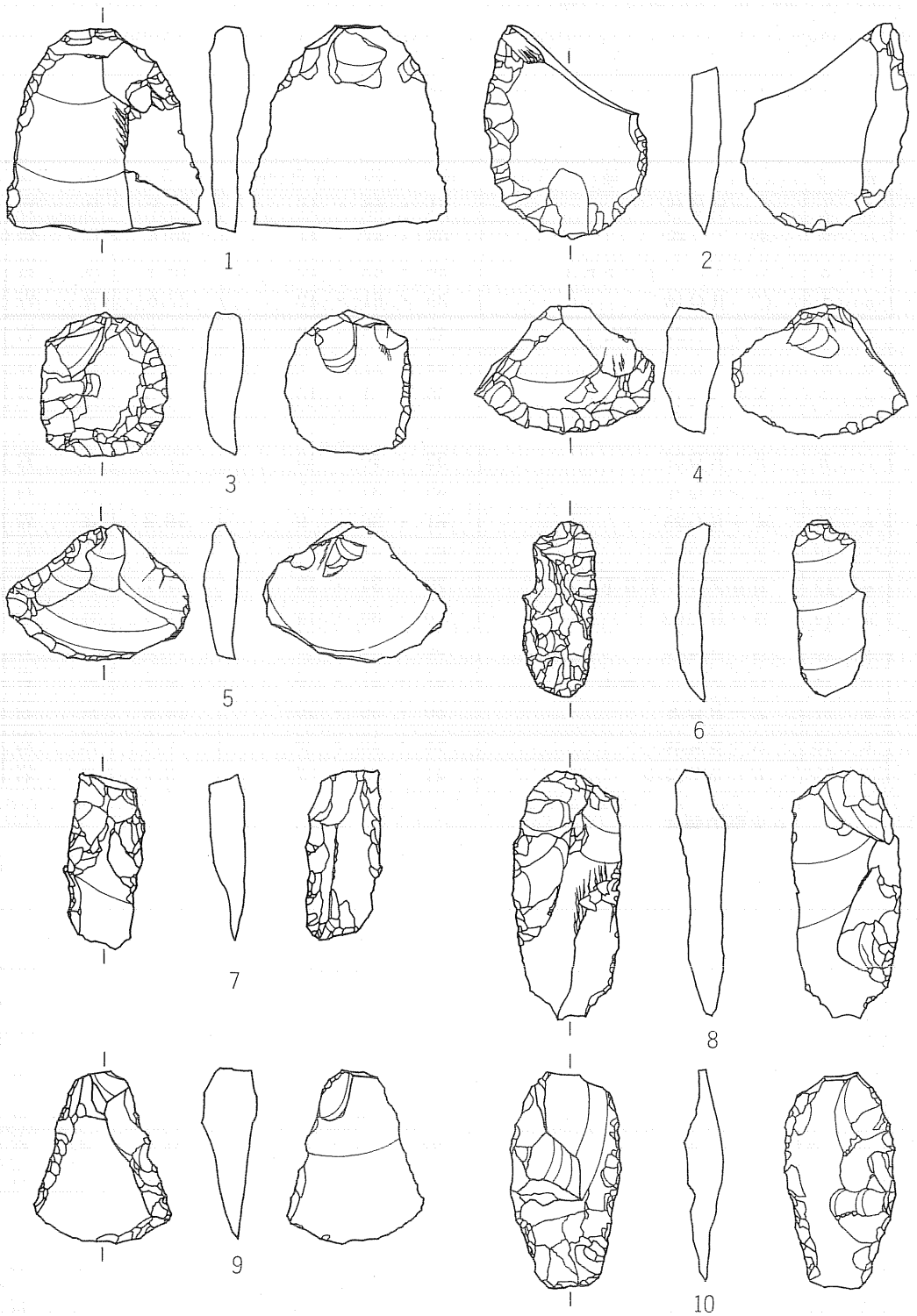
eは比較的中形・小形のもの，fは比較的大形のものである。

◇小形・中形の剝片

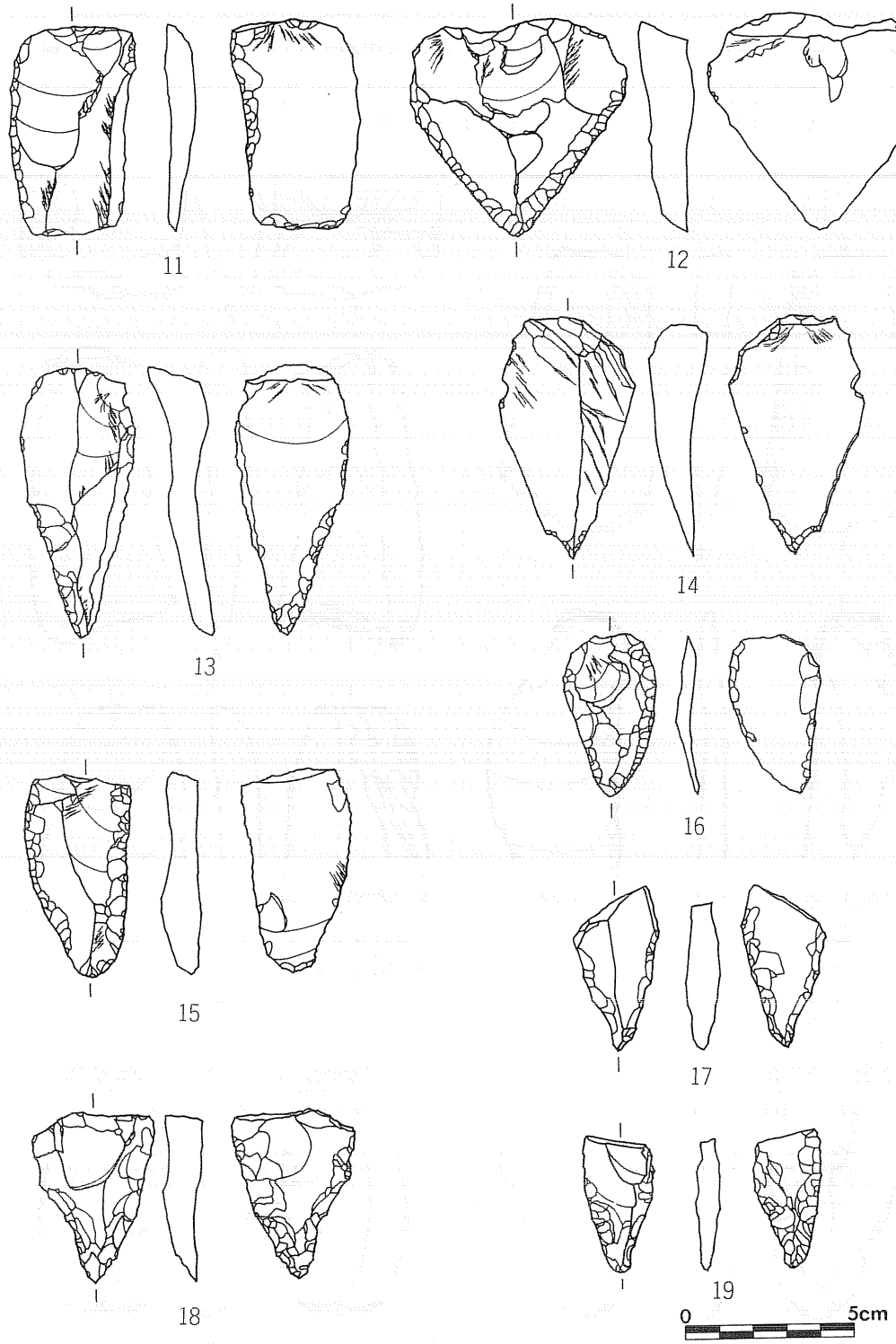
番　号	出　土　地　点	長さ・幅・厚さ(mm)	重　さ(g)	石　質
e　1	K'—RQ15	61・58・11	35.9	頁　岩
e　2	表　採	68・47・11	30.6	頁　岩
e　3	CライングリッドEI	38・43・10	18.4	頁　岩
e　4	C'—RQ16	39・51・12	27.6	頁　岩
e　5	I 6—1127—RQ1	42・54・9	18.5	頁　岩
e　6	T—RQ2	53・21・7	8.8	頁　岩
e　7	X—RQ176	50・21・10	10.3	頁　岩
e　8	G—RQ46	75・32・13	28.1	頁　岩
e　9	F—RQ39	52・40・13	17.7	頁　岩
e　10	L—RQ6	65・32・12	22.9	頁　岩
e　11	N'—RQ25	61・36・9	18.9	頁　岩
e　12	X—RQ15	60・61・15	46.6	頁　岩
e　13	B6グリッドII下	79・34・13	24.4	頁　岩
e　14	B'—RQ68	70・38・14	21.0	頁　岩
e　15	K—RQ32	60・31・9	15.8	頁　岩
e　16	G5グリッド表土	47・27・6	6.9	頁　岩
e　17	Z—RQ8	50・36・10	14.9	頁　岩
e　18	A—RQ36	48・25・9	7.5	頁　岩
e　19	F—2RQ2	41・20・7	5.4	頁　岩

◇大形の剝片

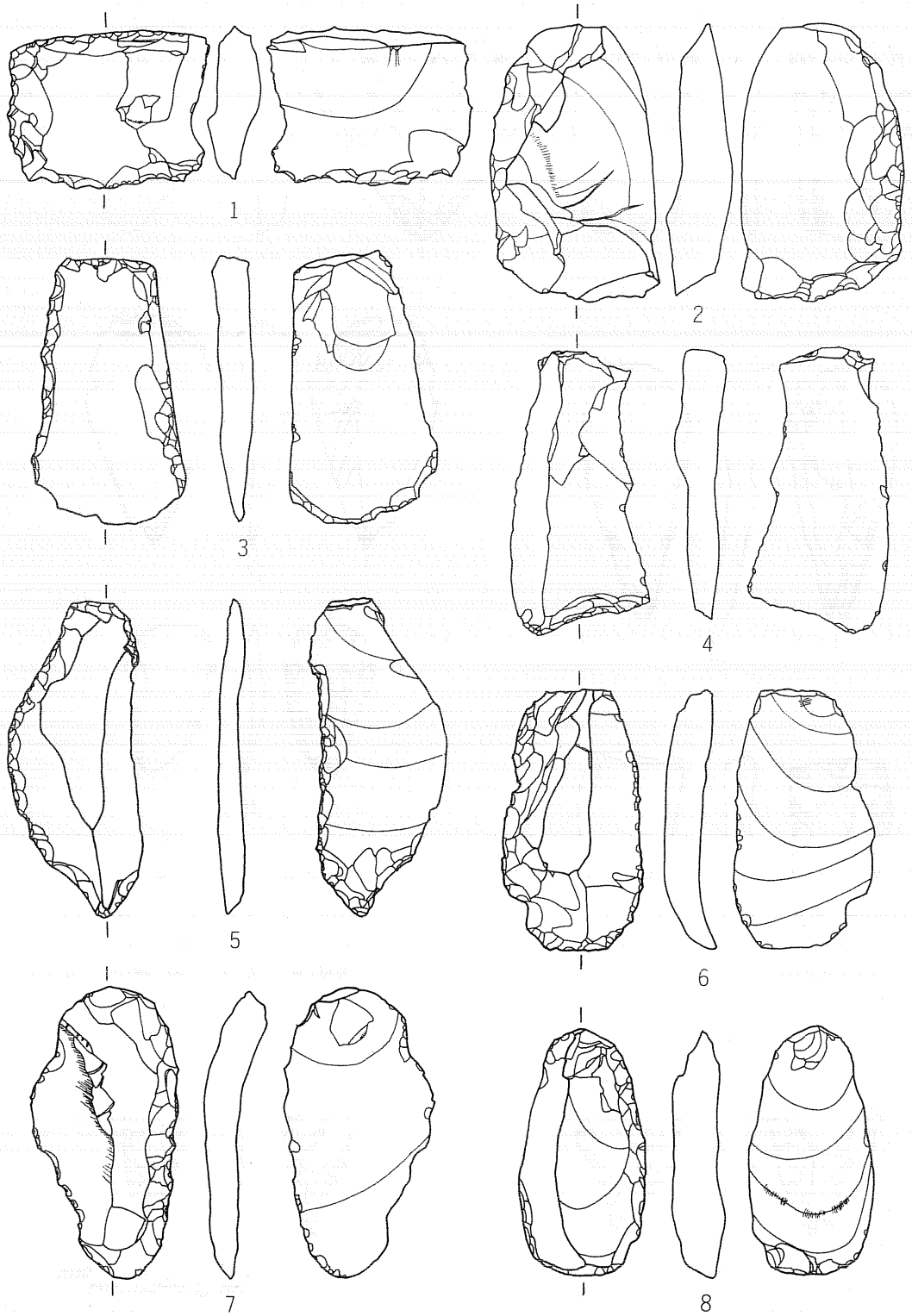
f　1	P'—RQ31	47・60・15	49.2	頁　岩
f　2	M—RQ8	85・50・17	92.0	頁　岩
f　3	X—RQ125	82・45・11	52.4	頁　岩
f　4	B'—RQ176	89・41・12	41.3	頁　岩
f　5	X—RQ44	97・38・10	36.5	頁　岩
f　6	BライングリッドEI	80・43・13	47.5	頁　岩
f　7	X—RQ21	89・45・10	45.2	頁　岩
f　8	A'—RQ16	76・38・13	54.9	頁　岩
f　9	B'—RQ53	96・36・13	45.5	頁　岩
f　10	P—RQ1	92・40・14	55.7	頁　岩
f　11	X—RQ112	90・38・11	42.0	頁　岩
f　12	P—RQ37	101・36・19	70.4	頁　岩
f　13	B'—RQ188	80・26・14	28.7	頁　岩
f　14	F11グリッドII	25・103・15	34.5	頁　岩
f　15	C—RQ20	82・30・12	26.1	頁　岩
f　16	N'—RQ35	97・31・15	38.3	頁　岩



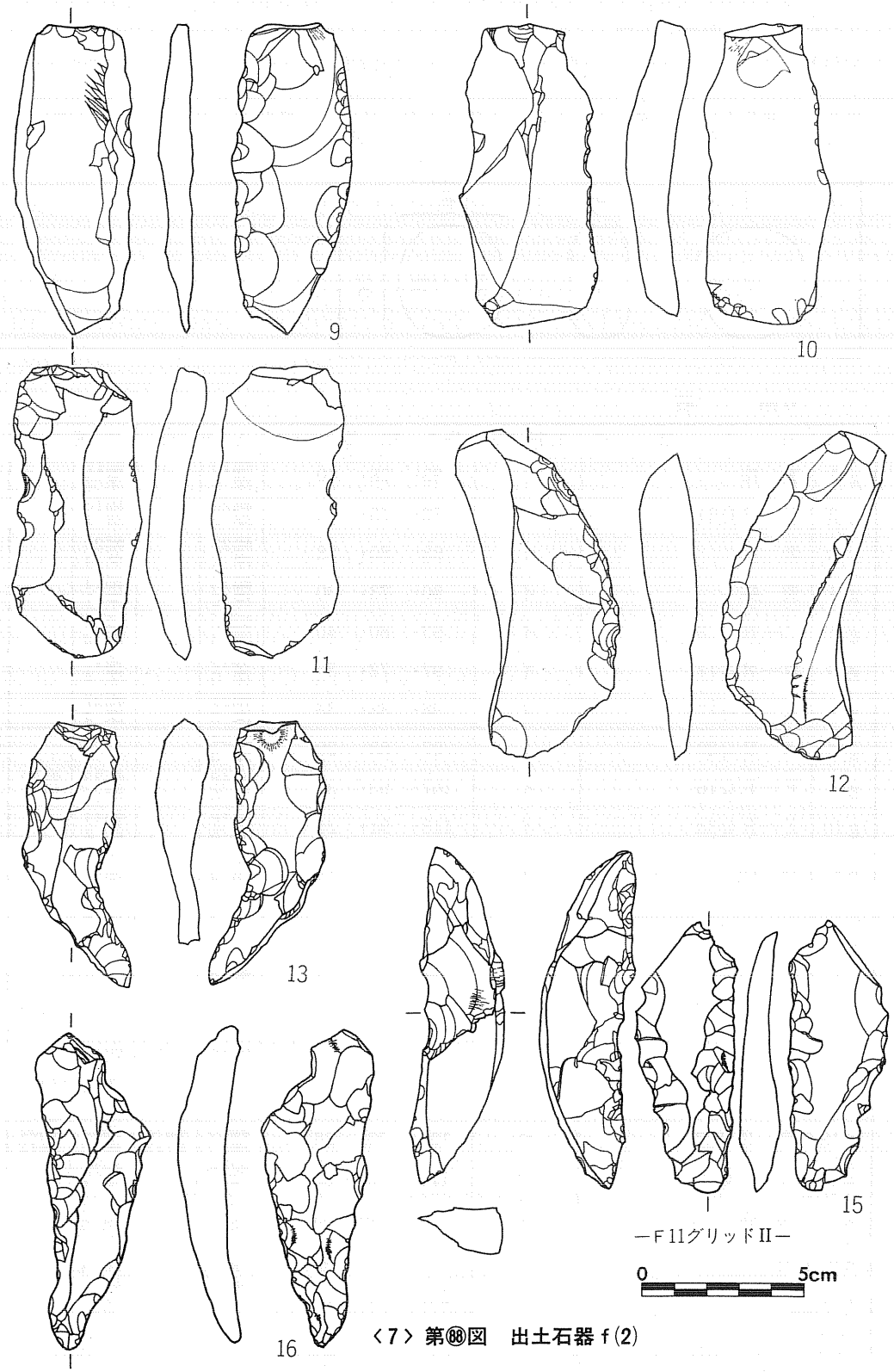
〈7〉第㊽図　出土石器 e(1)



〈7〉第㊱図　出土石器e(2)



〈7〉第㊼図　出土石器 f(1)

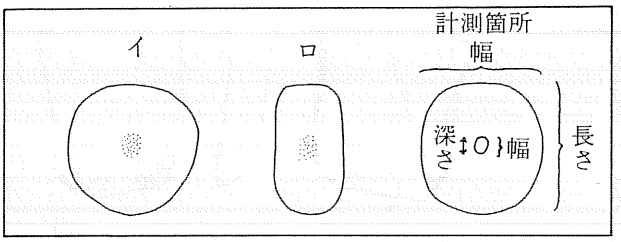


〈7〉第㊽図　出土石器 f(2)

g：凹石〈7〉第㊽～㊾図

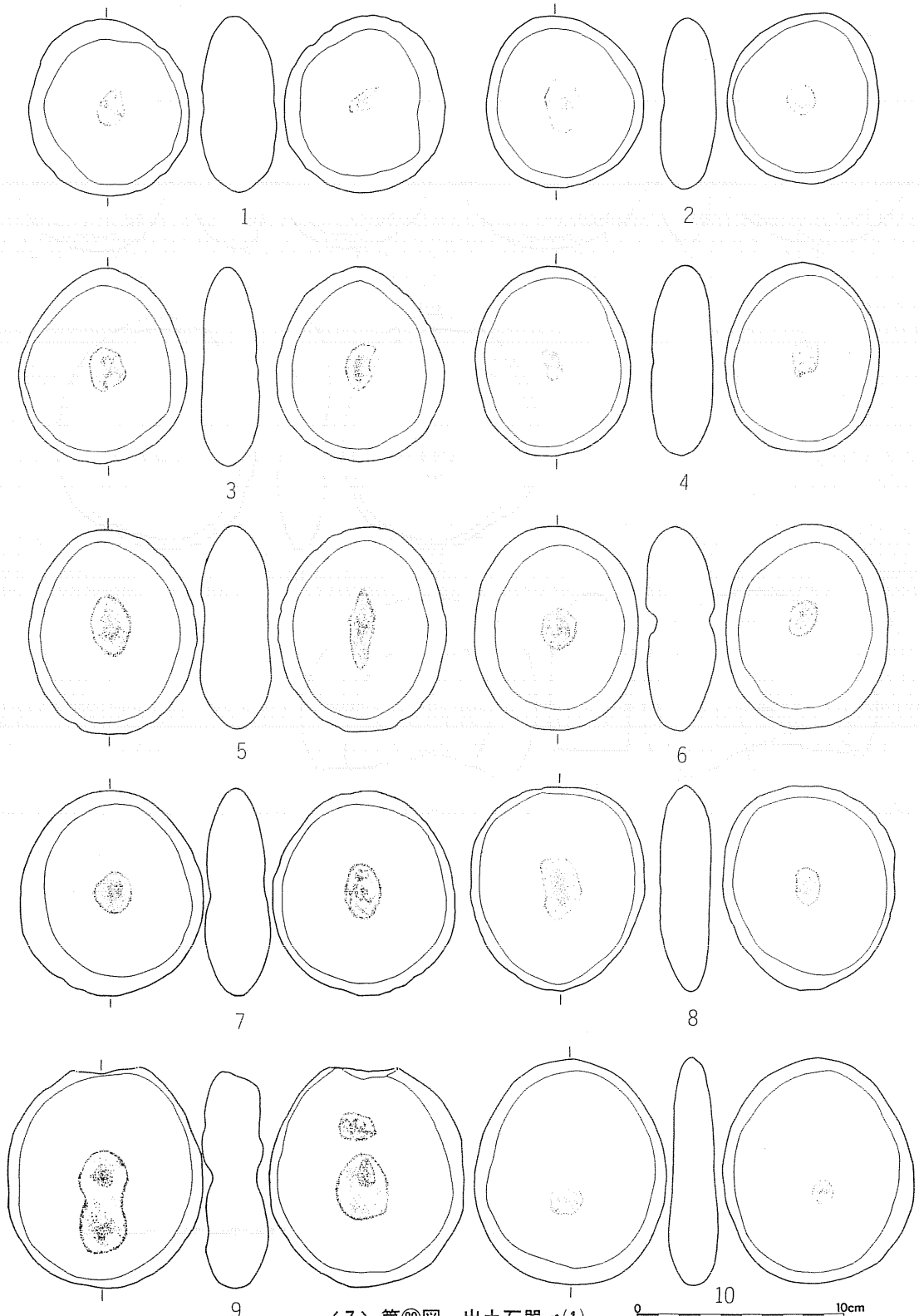
素材としての礫が円形を呈するものをイ，長円形を呈するものをロとして分類した。

凹面は片面あるいは両面にみられる。任意にA面，B面として凹面の長さ，深さを計測した。

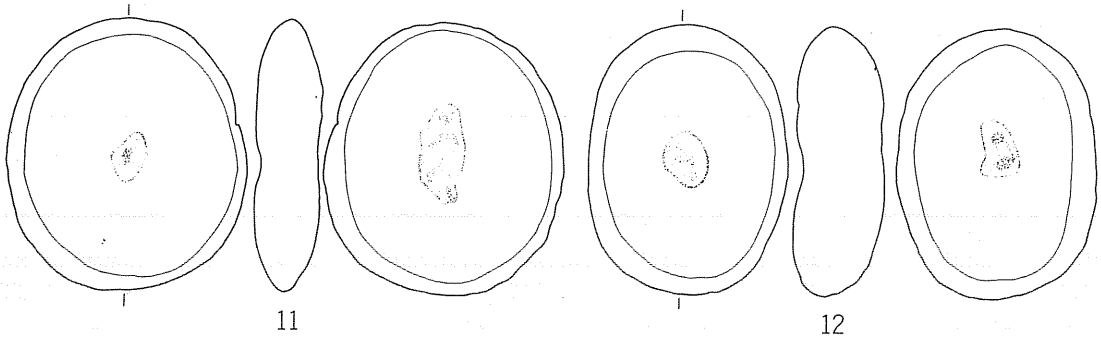


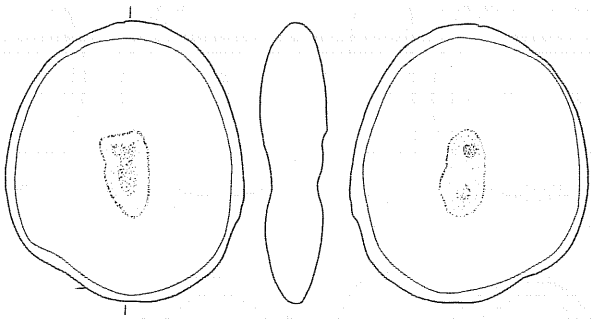
◇凹　　石

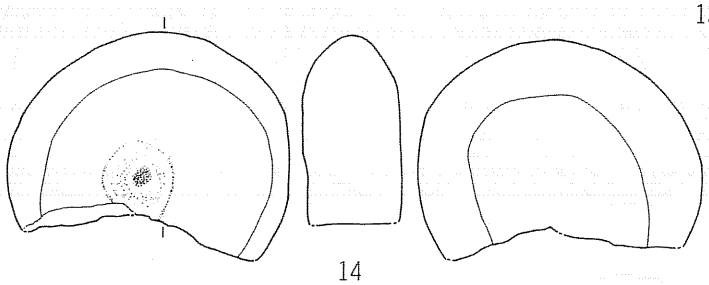
番号	出　土　地　点	形態分類	長さ・幅・厚さ(mm)	A 面 (mm)		B 面 (mm)	
g 1	表　採	イ	85・ 78・ 40	幅19 深 4		幅17 深 2	
g 2	F－R Q64	イ	82・ 75・ 30	幅20 深 2		幅16 深 1	
g 3	表　採	イ	93・ 80・ 28	幅23 深 2		幅20 深 4	
g 4	表　採	イ	90・ 73・ 30	幅15 深 2		幅14 深 1	
g 5	Z－R Q23	イ	93・ 80・ 40	幅23 深 3		幅35 深 2	
g 6	W－R Q11	イ	97・ 72・ 35	幅19 深 5		幅17 深 4	
g 7	X－R Q173	イ	98・ 88・ 38	幅21 深 3		幅27 深 4	
g 8	Z－R Q20	イ	97・ 83・ 29	幅34 深 3			
g 9	F－R Q16	イ	107・ 93・ 32	幅48 深 6		幅33 深 6	幅22 深 4
g 10	Z－R Q33	イ	113・ 91・ 26	幅16 深 3		幅11 深 2	
g 11	表　採	イ	108・ 94・ 34	幅19 深 6		幅36 深 5	
g 12	O－R Q	イ	108・ 73・ 37	幅21 深 3		幅18 深 2	
g 13	Z－R Q22	イ	112・ 95・ 28	幅31 深 4		幅32 深 7	
g 14	G－R Q	イ	77・ 112・ 40	幅28 深 3			
g 15	C11グリッドNベルト	イ	117・ 95・ 36	幅24 深 4	幅26 深 4	幅20 深 4	幅22 深 5
g 16	B－R Q106	イ	99・ 88・ 35	幅54 深 6		幅23 深 5	
g 17	F22グリッド表土	ロ	129・ 84・ 47	幅21 深 5		幅15 深 3	幅16 深 4
g 18	F－R Q37	ロ	109・ 70・ 36	幅20 深 3	幅53 深12	幅23 深 3	幅51 深12
g 19	H－R Q29	ロ	113・ 60・ 29	幅26 深 5		幅26 深 4	
g 20	表　採	ロ	77・ 59・ 33	幅20 深 4		幅34 深 5	
g 21	I 8グリッド	ロ	110・ 53・ 24	幅22 深 5		幅53 深 4	
g 22	C 4グリッド炉付近	ロ	146・ 51・ 33	幅42 深 9		幅36 深 2	
g 23	N－R Q32	ロ	139・ 57・ 31	幅37 深 6		幅38 深 2	

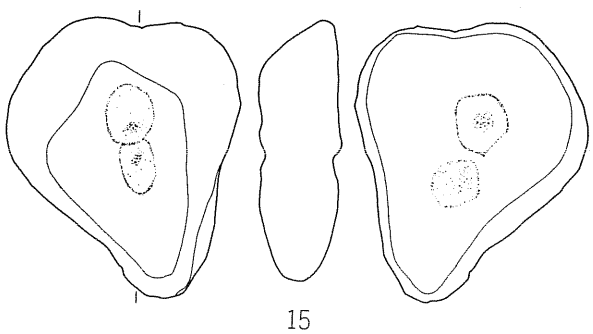


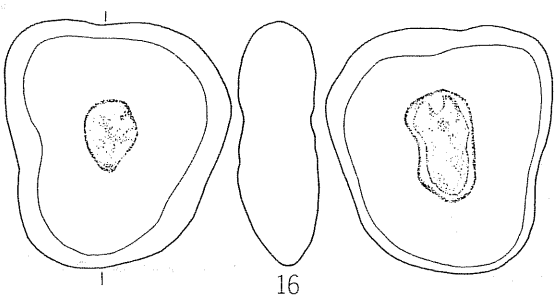
〈7〉第89図　出土石器g(1)



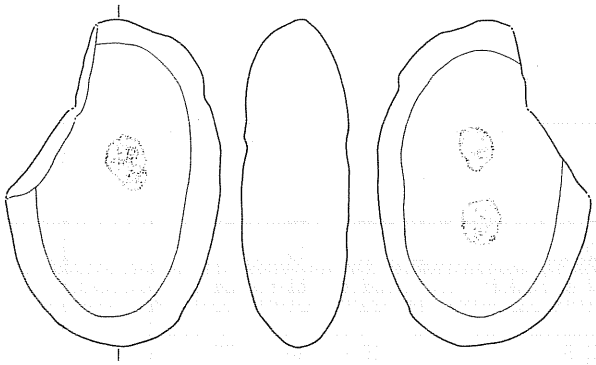


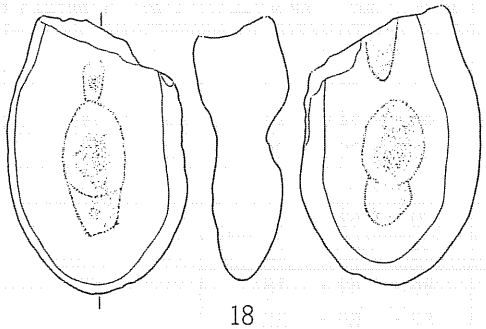


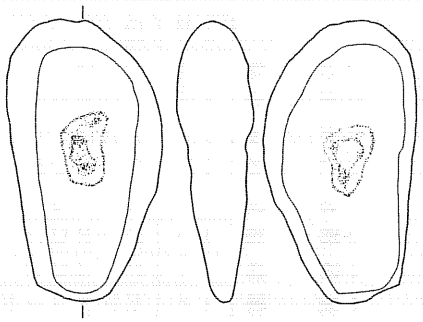


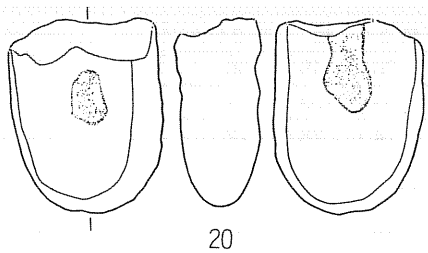


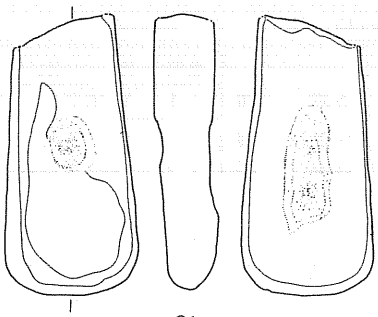
〈7〉第⑨⓪図　出土石器 g(2)

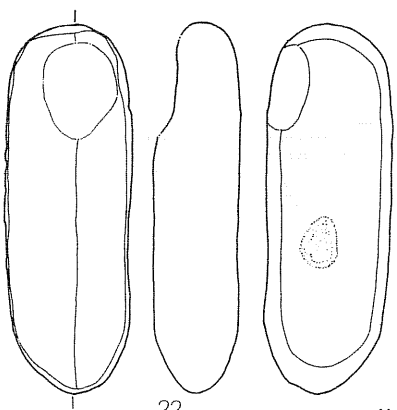


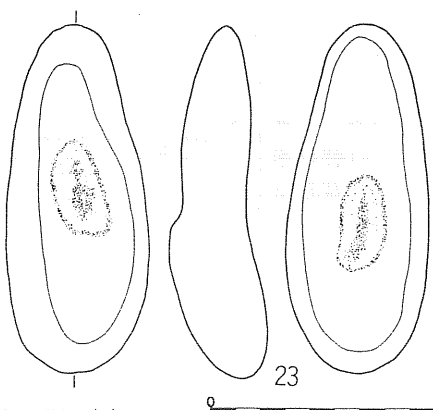










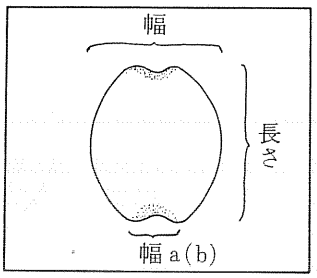


〈7〉第91図　出土石器 g(3)

H：磨製石斧〈7〉第92図

◇磨製石斧

番号	出　土　地　点	長さ・幅・厚さ(mm)
H 1	1区表採	161・ 61・ 30
H 2	CライングリッドE I	126・ 40・ 24
H 3	C－R Q28	109・ 44・ 27
H 4	K20グリッドIII上	124・ 41・ 24
H 5	H 7グリッド表土	66・ 54・ 21
H 6	C－R Q 5	45・ 36・ 22



I：石錘・礫器〈7〉第93図

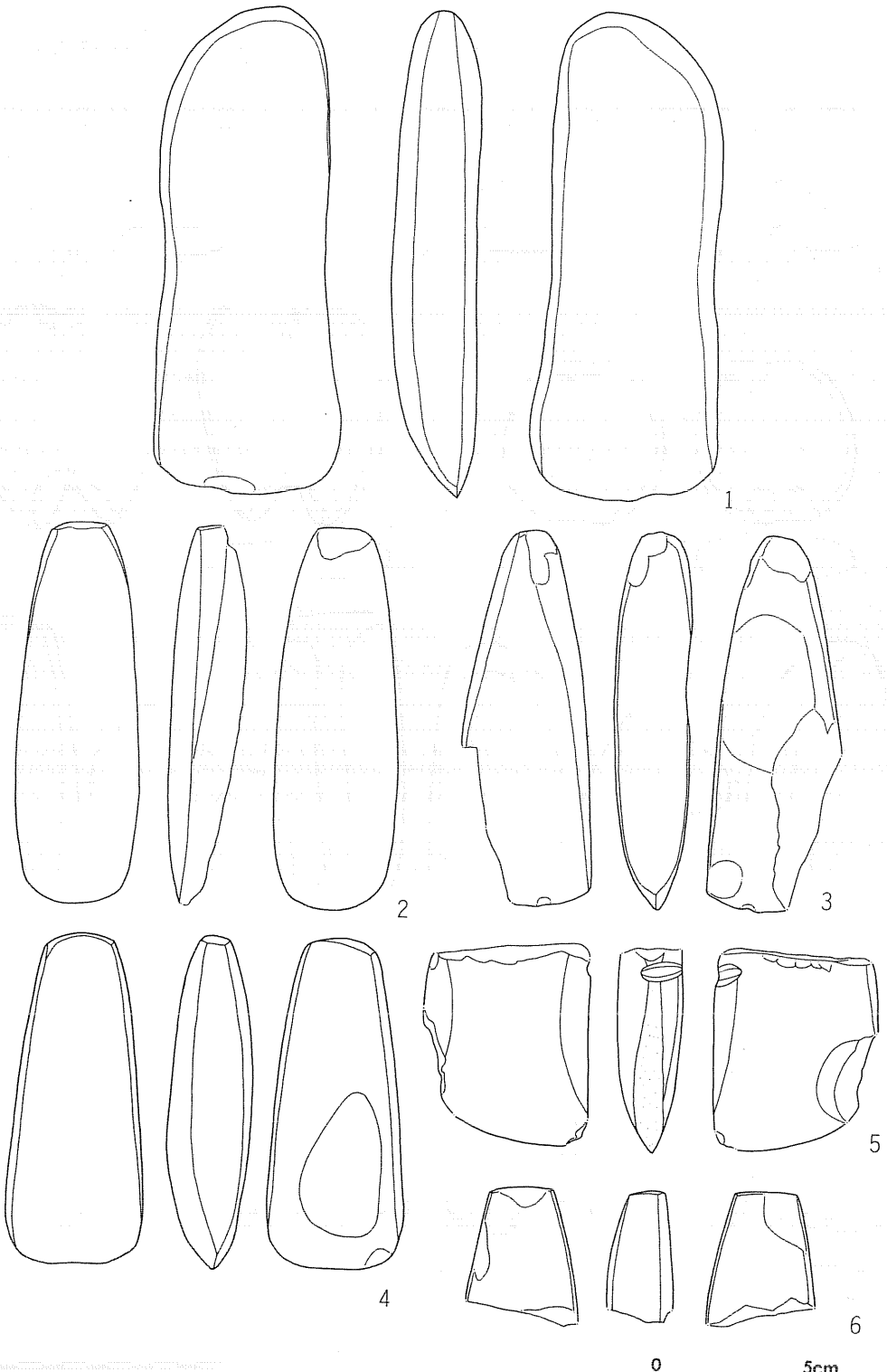
	番号	出　土　地　点	長さ・幅・厚さ(mm)	a部・b部(mm)
◇石　錘	I 1	表　採	50・ 41・ 13	13 ・ 15
◇石　錘	I 2	D－R Q 4	67・ 32・ 15	11 ・ 4
◇石　錘	I 3	E10グリッドII	86・ 51・ 14	21 ・ 14
◇石　錘	I 4	B′－R Q66	81・ 70・ 20	27 ・ 19
◇石　錘	I 5	B′－R Q77	101・ 83・ 18	25 ・ 34
◇礫　器	I 6	P′－R Q65	120・ 67・ 57	
◇礫　器	I 7	P′－R Q64	134・ 62・ 53	
◇礫　器	I 8	E10グリッドII	86・ 67・ 18	
◇礫　器	I 9	G－R Q48	82・ 59・ 22	
◇礫　器	I 10	B′－R Q197	135・ 71・ 31	

J：石皿・磨石〈7〉第94図

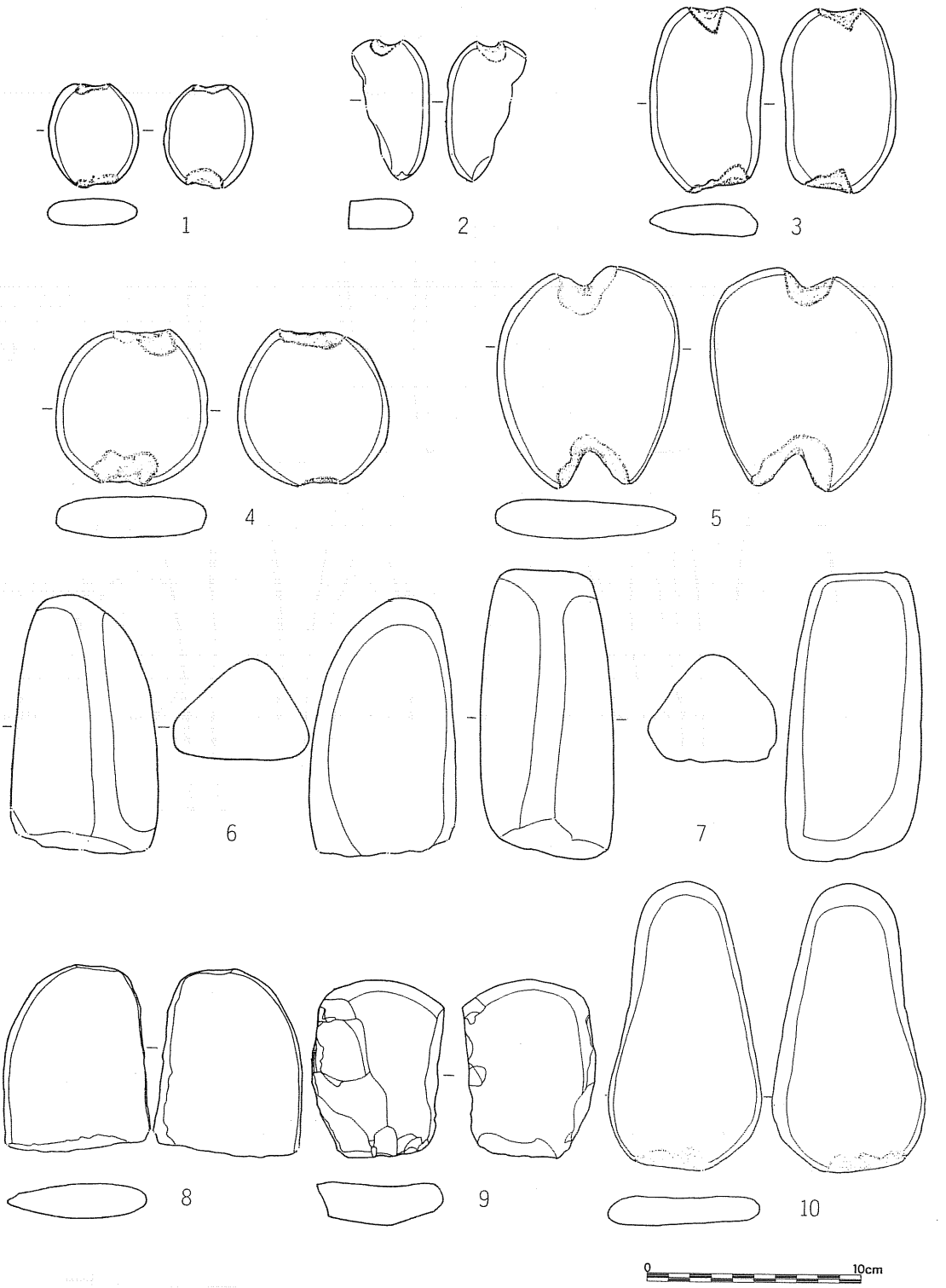
	番号	出　土　地　点	長さ・幅・厚さ(mm)
◇石　皿	J 1	M26グリッドIII上	170・ 149・ 60
◇石　皿	J 2	K′－R Q42	109・ 108・ 51
◇磨　石	J 3	O－R Q40	74・ 78・ 72
◇磨　石	J 4	G 2グリッドS X02	93・ 90・ 26
◇石　皿	J 5	G 3グリッド	72・ 93・ 28
◇石　皿	J 6	B′－R Q708	42・ 67・ 23
◇石　皿	J 7	T－R Q20，H－RQ49	74・ 68・ 15

K：石鏃・打製石器・石皿〈7〉第95図

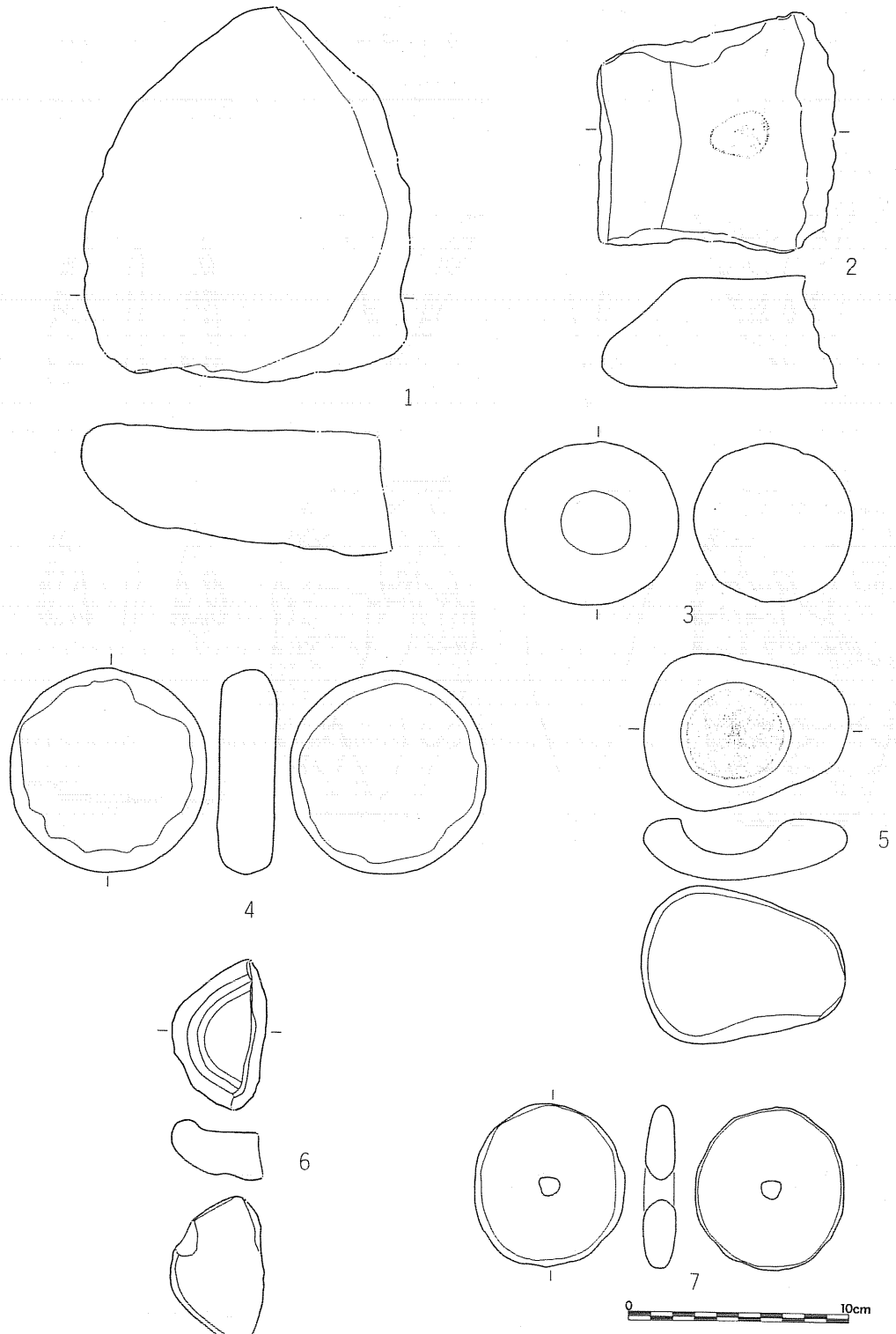
	番号	出　土　地　点	長さ・幅・厚さ(mm)	
◇石　鏃	K 1	D 9－1127－R Q 1	32・ 16・ 4	
◇石　鏃	K 2	A－R Q29	42・ 11・ 4	
◇石　鏃	K 3	E 8グリッドII	34・ 15・ 3	
◇打製石器	K 4	F 8グリッドII	110・ 57・ 22	
◇打製石斧	K 5	E 2グリッドII	102・ 62・ 36	
◇石　皿	K 6	J′－R Q28	344・ 230・ 58	※付図でL 3
◇石　皿	K 7	表　採	454・ 368・ 102	



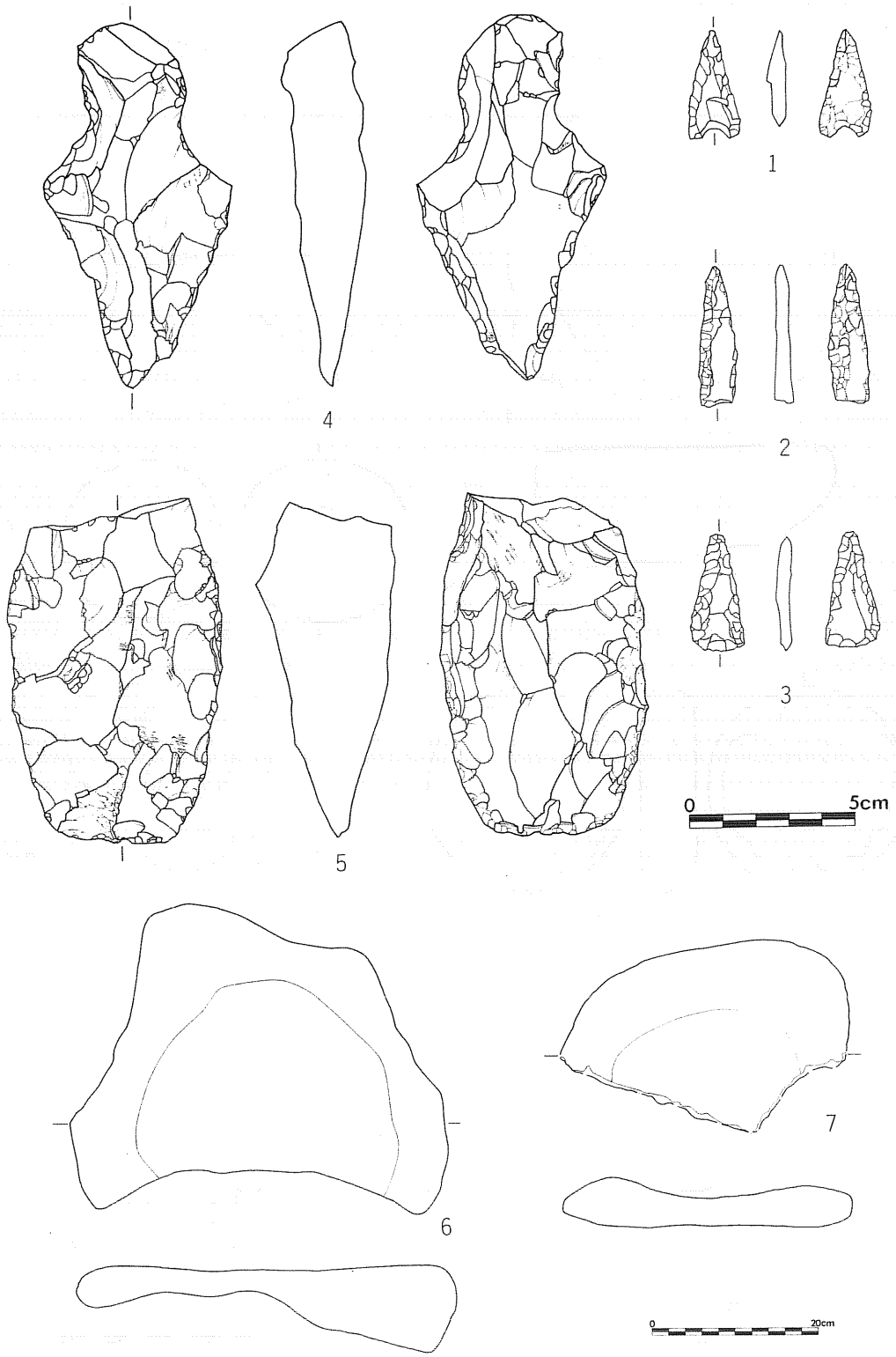
〈7〉第㉜図　出土石器h



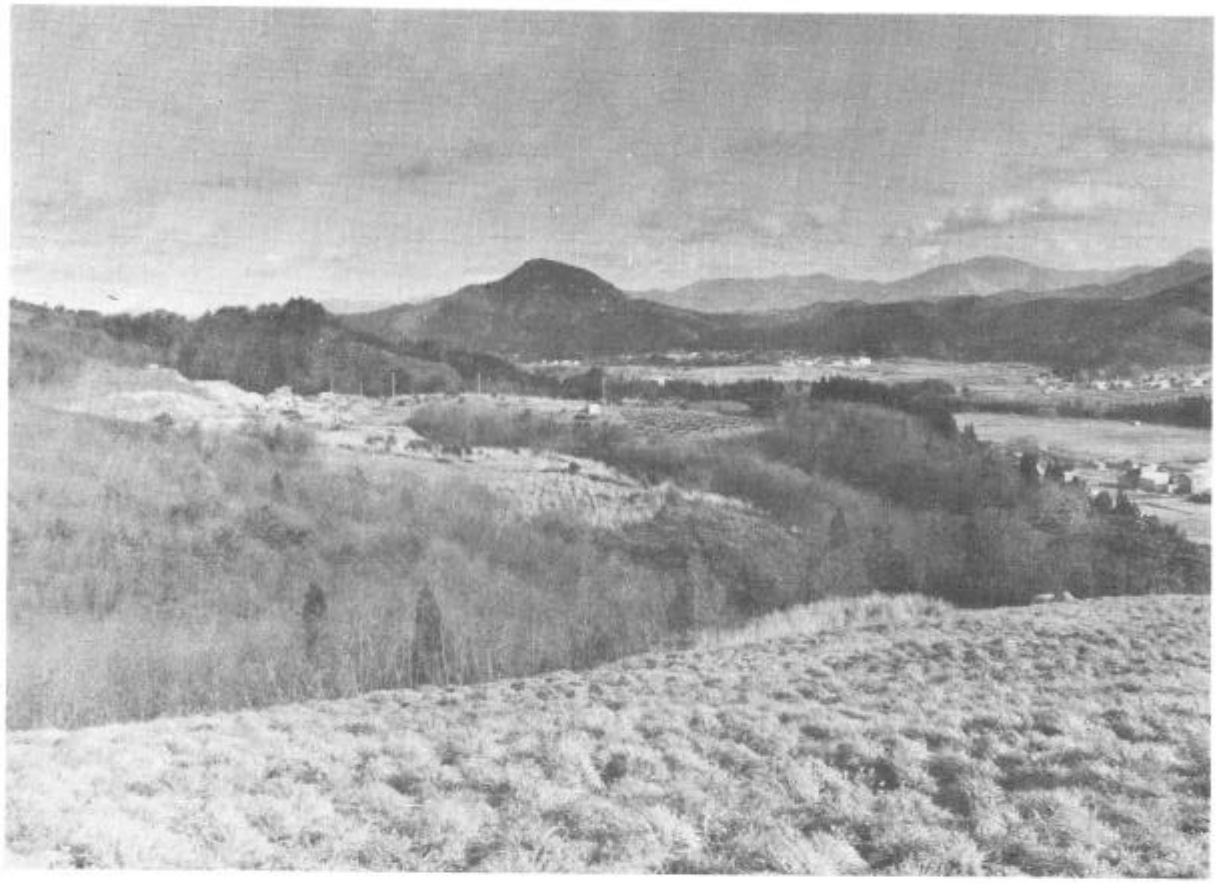
〈7〉第㉝図　出土石器 i



〈7〉第㊹図　出土石器 j



〈7〉第㊺図　出土石器ｋ



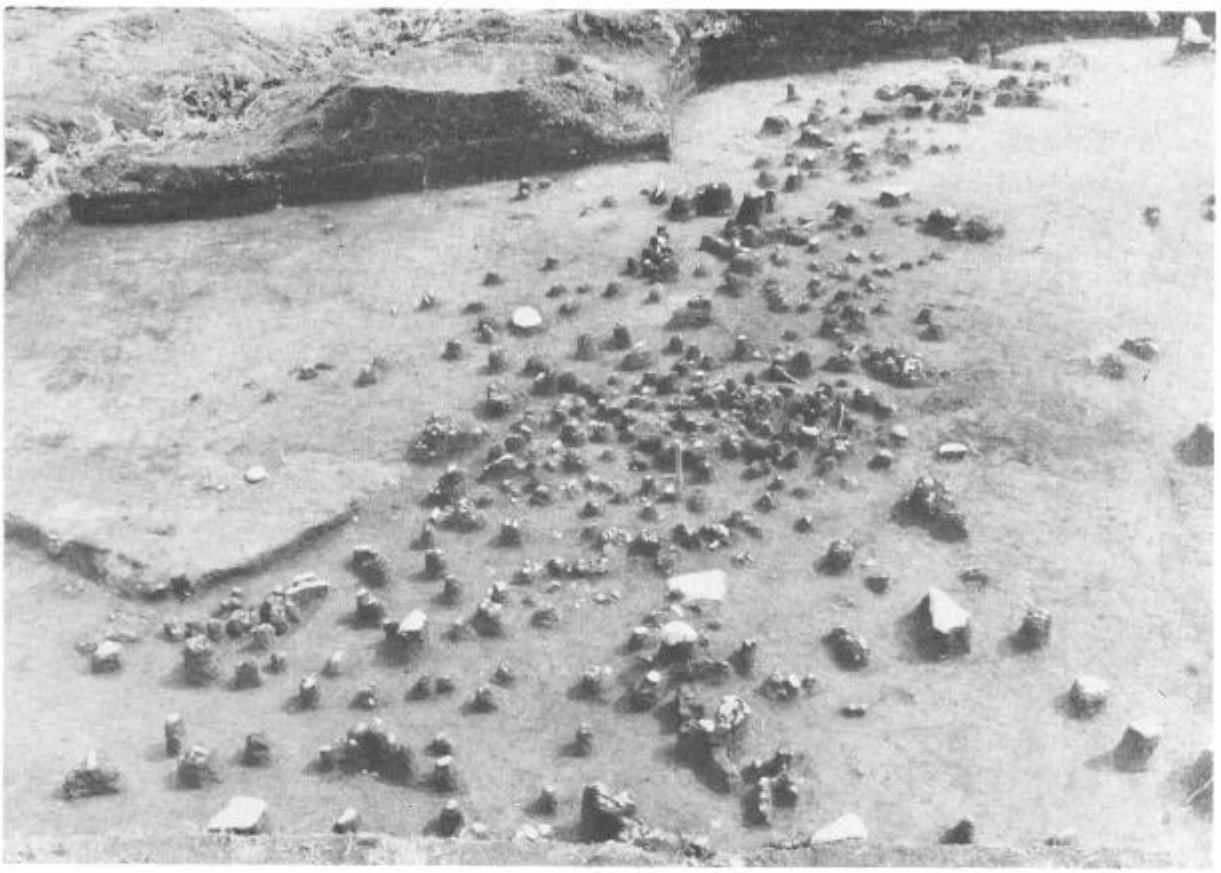
遺跡遠景（西▶東）

遺跡遠景（東▶西）

遺　跡　遠　景

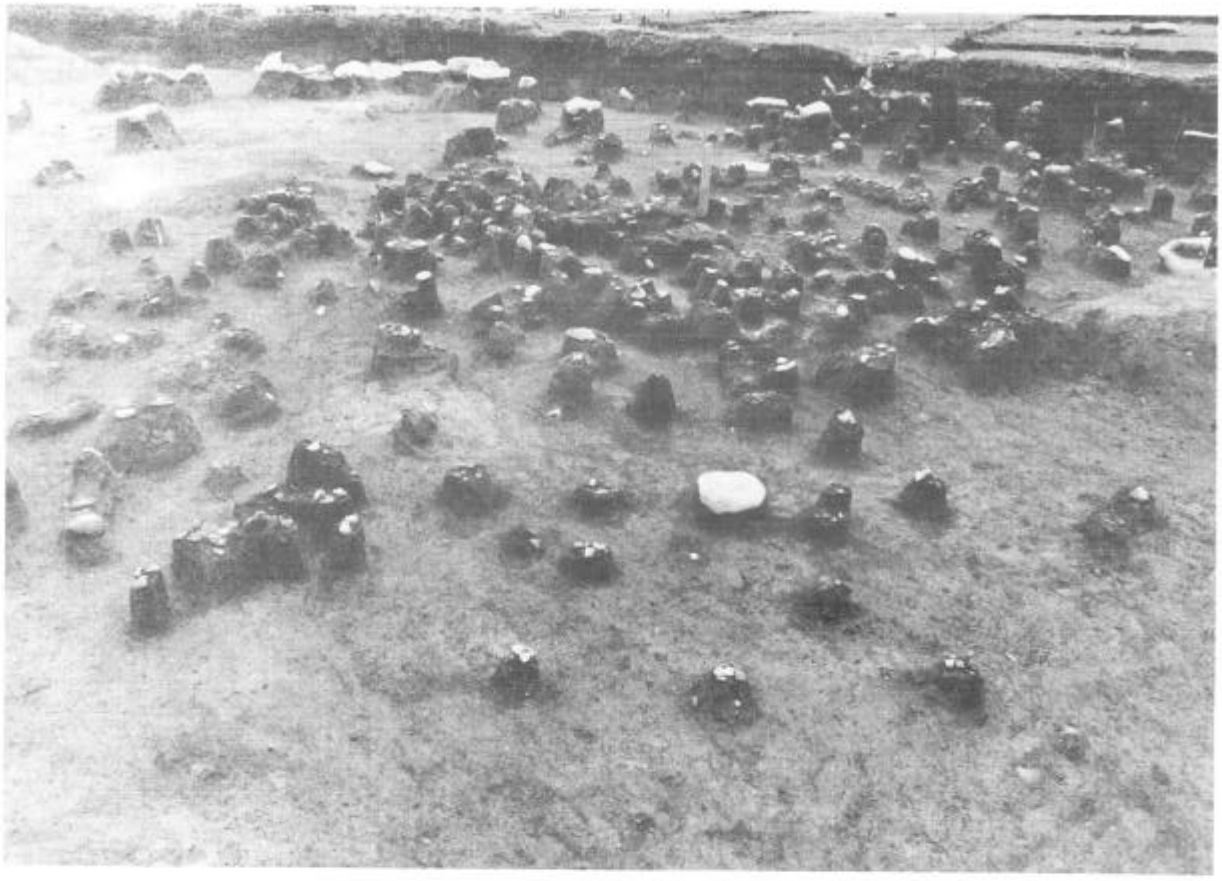
東側調査区遠景（西▶東）

発掘調査状況

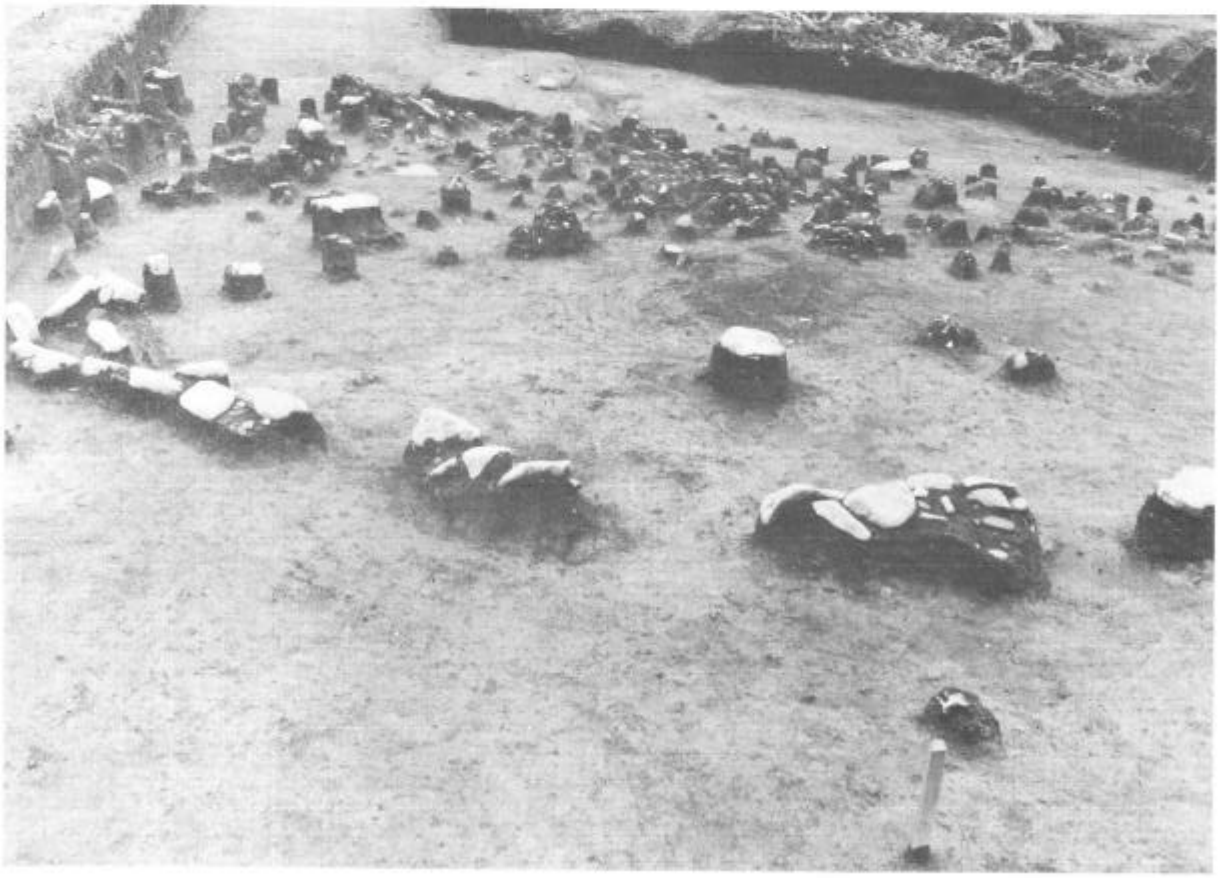


東側北東部遺物出土状況（西▶東）

東側北東部遺物出土状況（北▶南）



東側北東部遺物出土状況（北▶南）



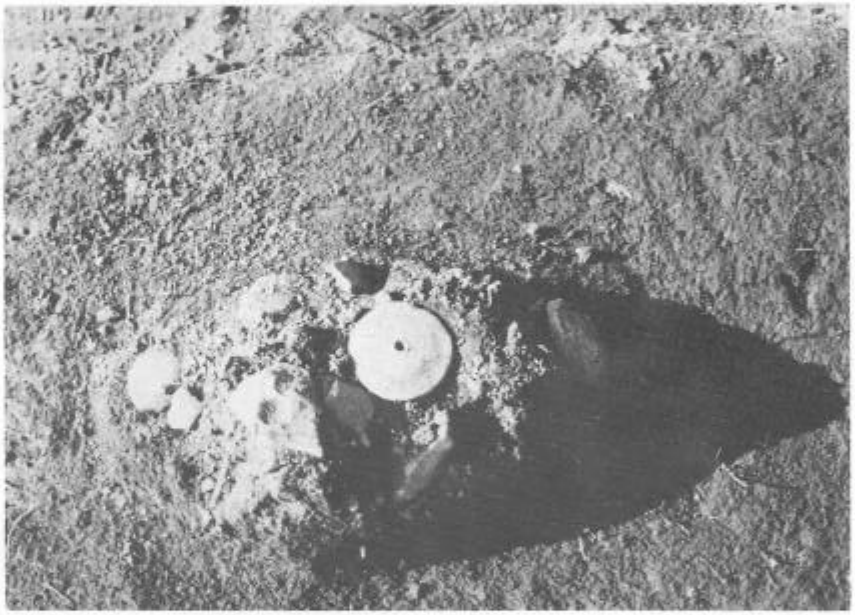
東側北東部遺物出土状況（南▶北）

縄文早期土器
出土状況

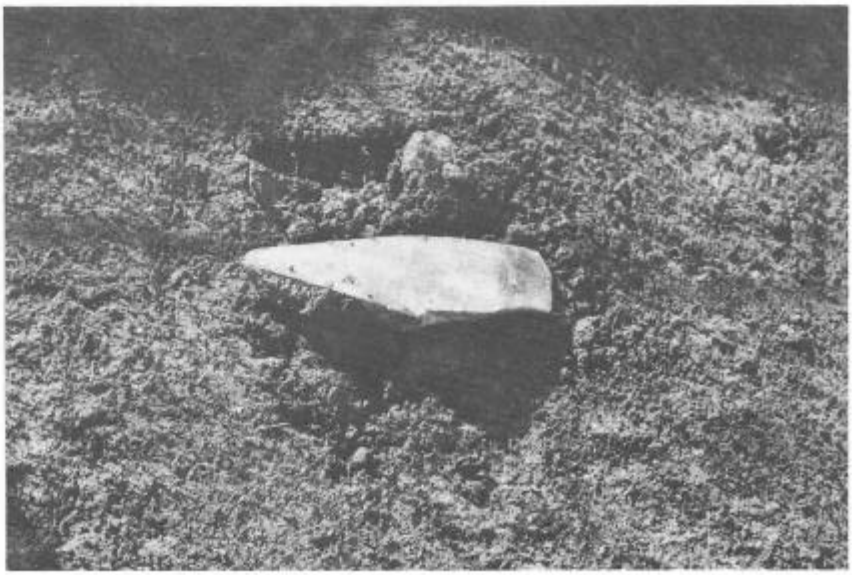
縄文早期土器
出土状況

縄文早期土器
出土状況

縄文後期土器
出土状況



土製品
出土状況



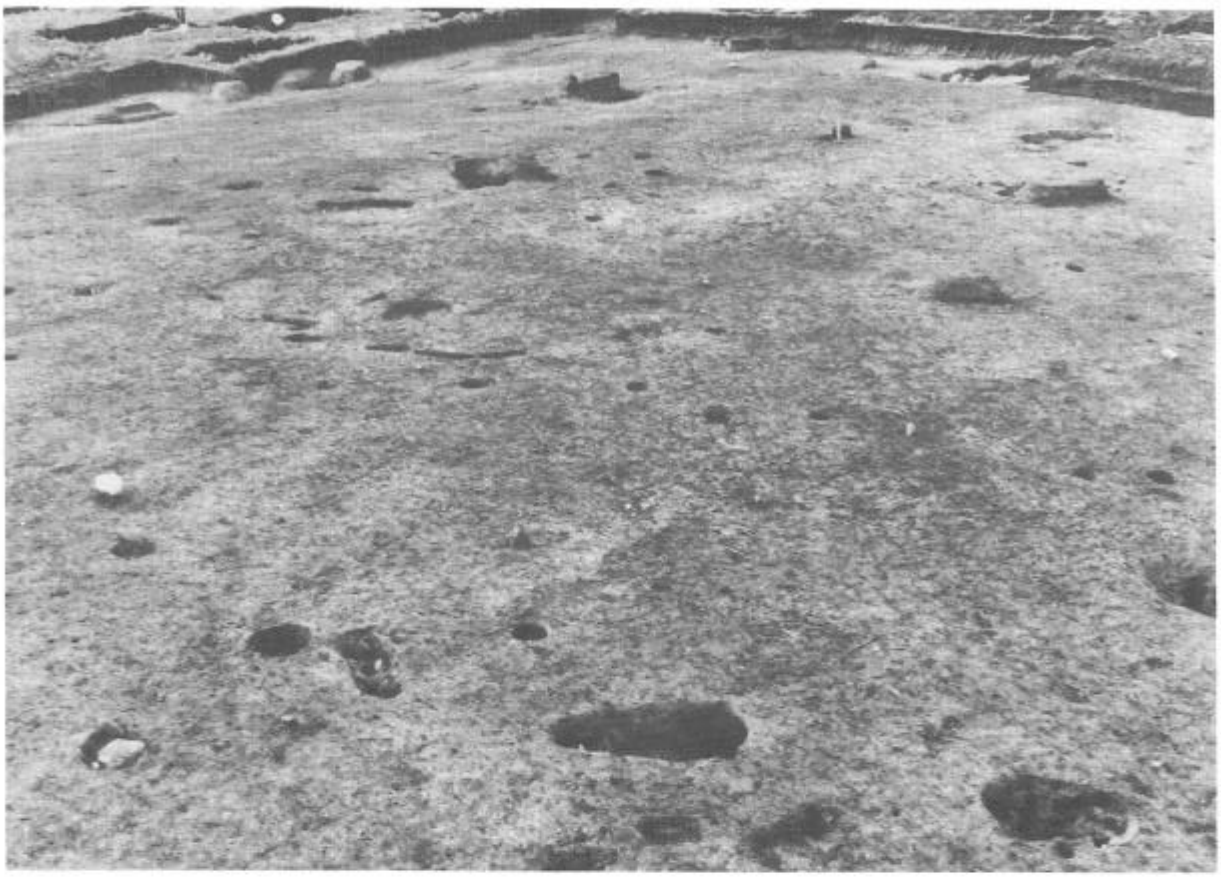
磨製石斧
出土状況

東側南東部礫群上面出土状況（西▶東）

東側東部礫群出土状況（西▶東）

東側南東部遠景（西▶東）

東側北東部遠景（西▶東）

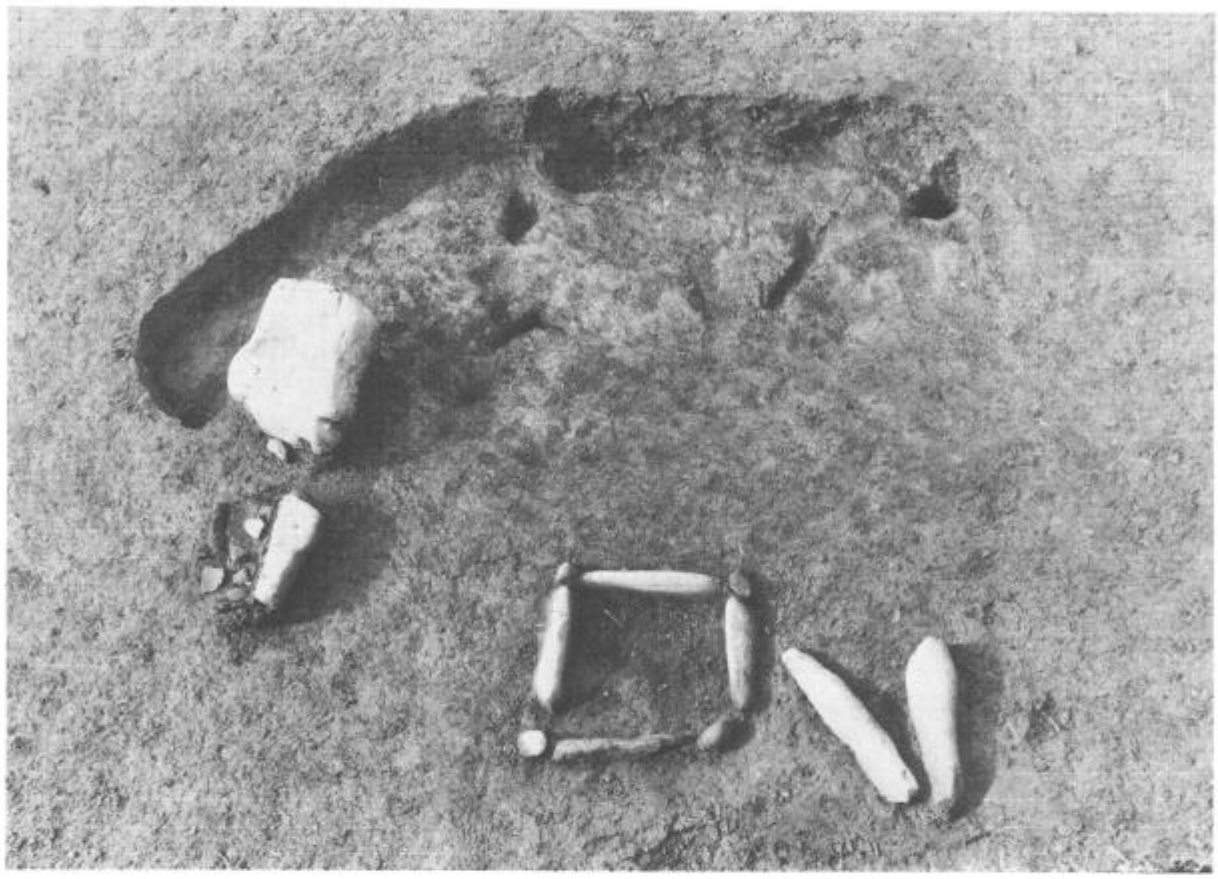


東側北西部遠景（南▶北）

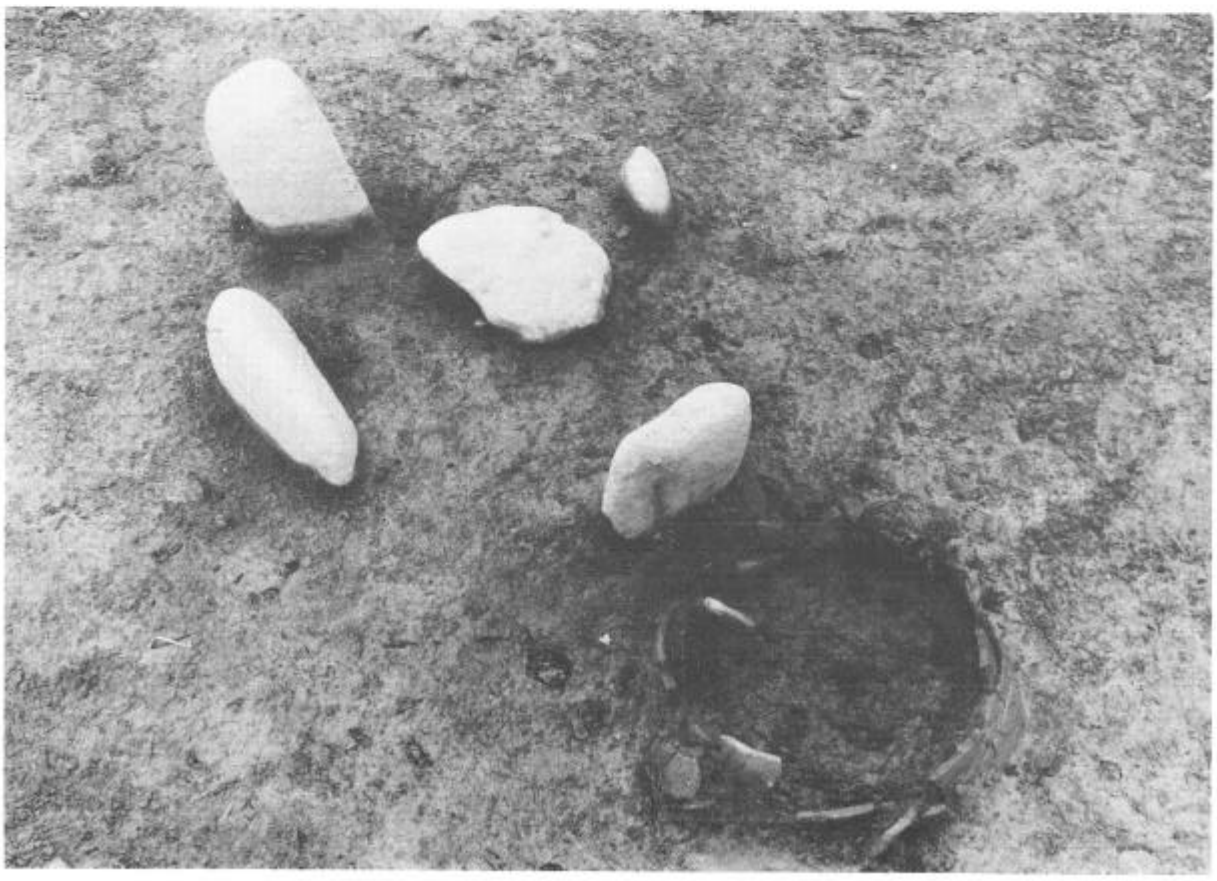
東側北部中央遠景（南▶北）

東側南西部遠景（北▶南）

東側南部遠景（東▶西）



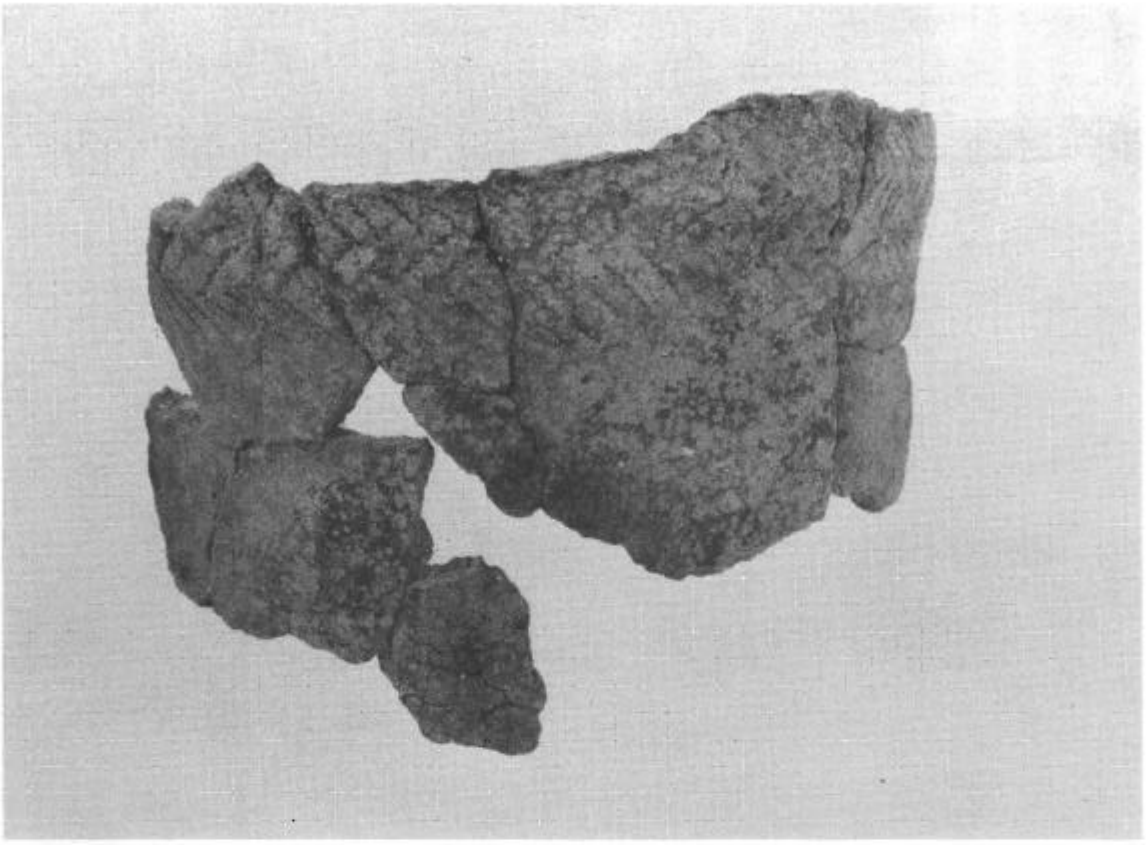
C 0 グリッド検出住居跡



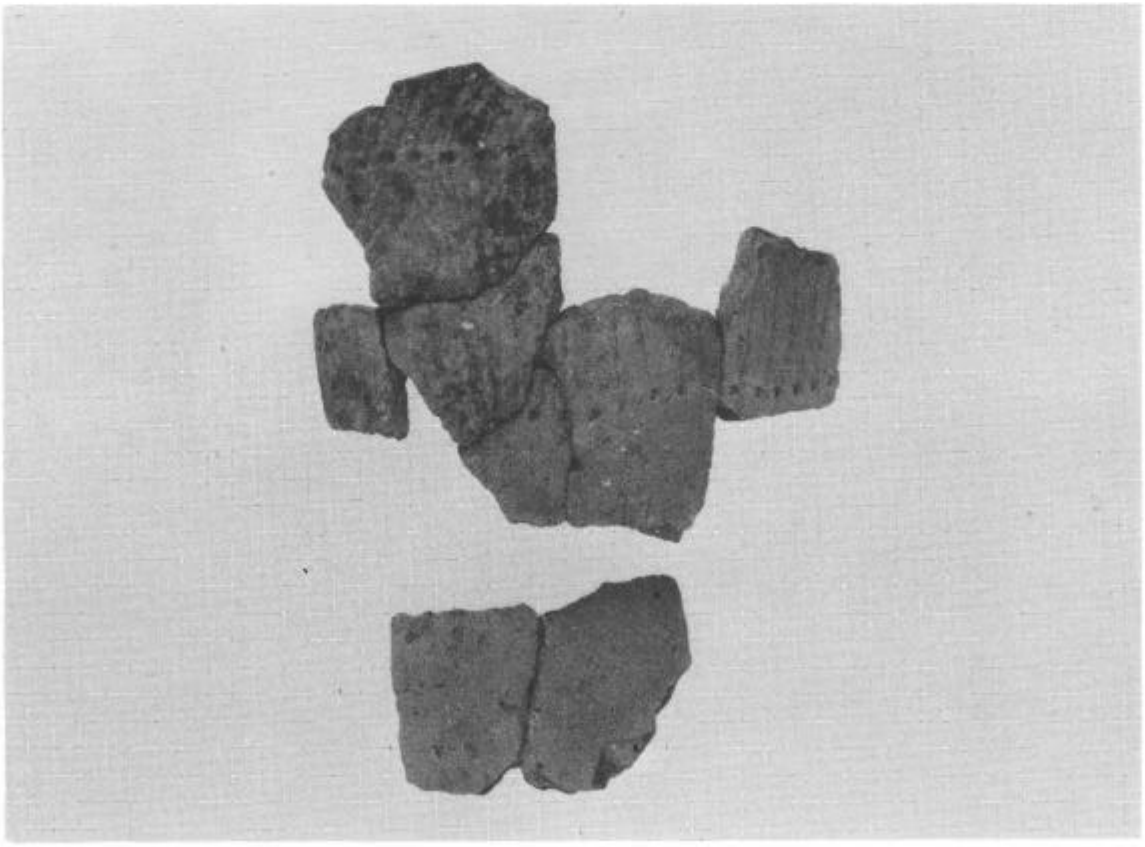
B 1 グリッド検出埋設土器

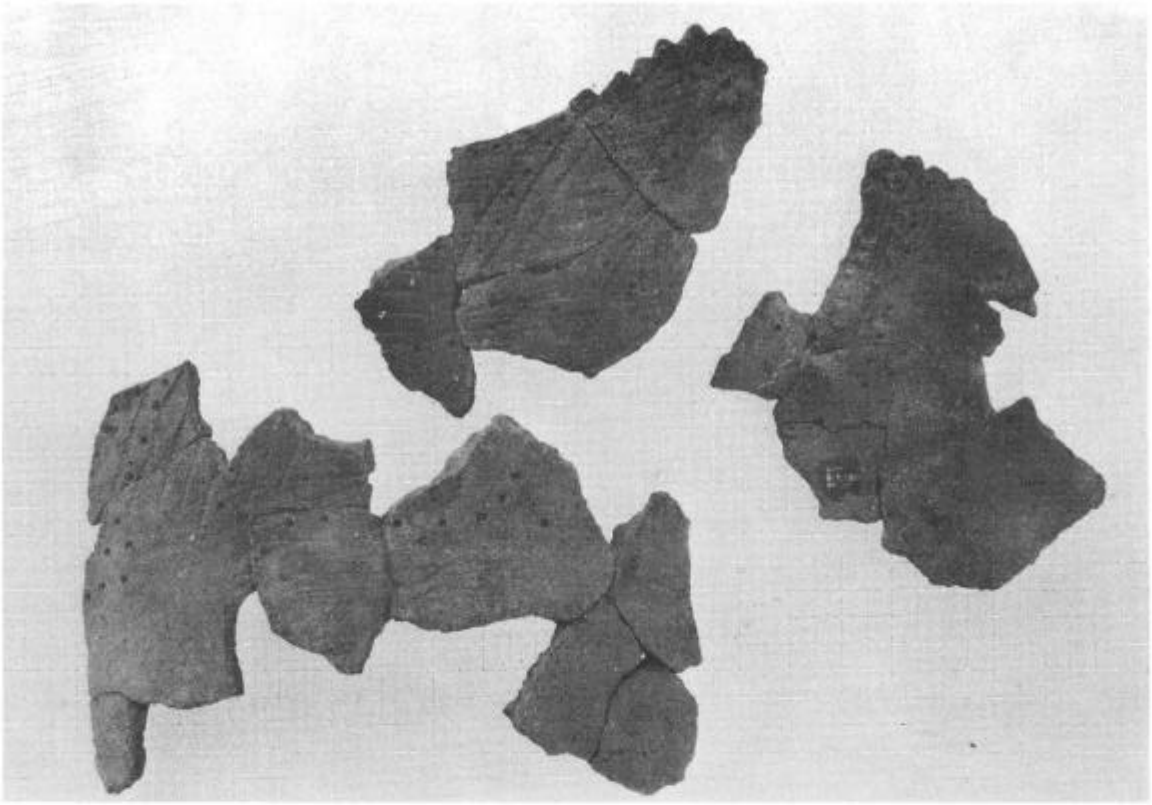
C４グリッド検出埋甕炉

C２グリッド検出埋甕炉

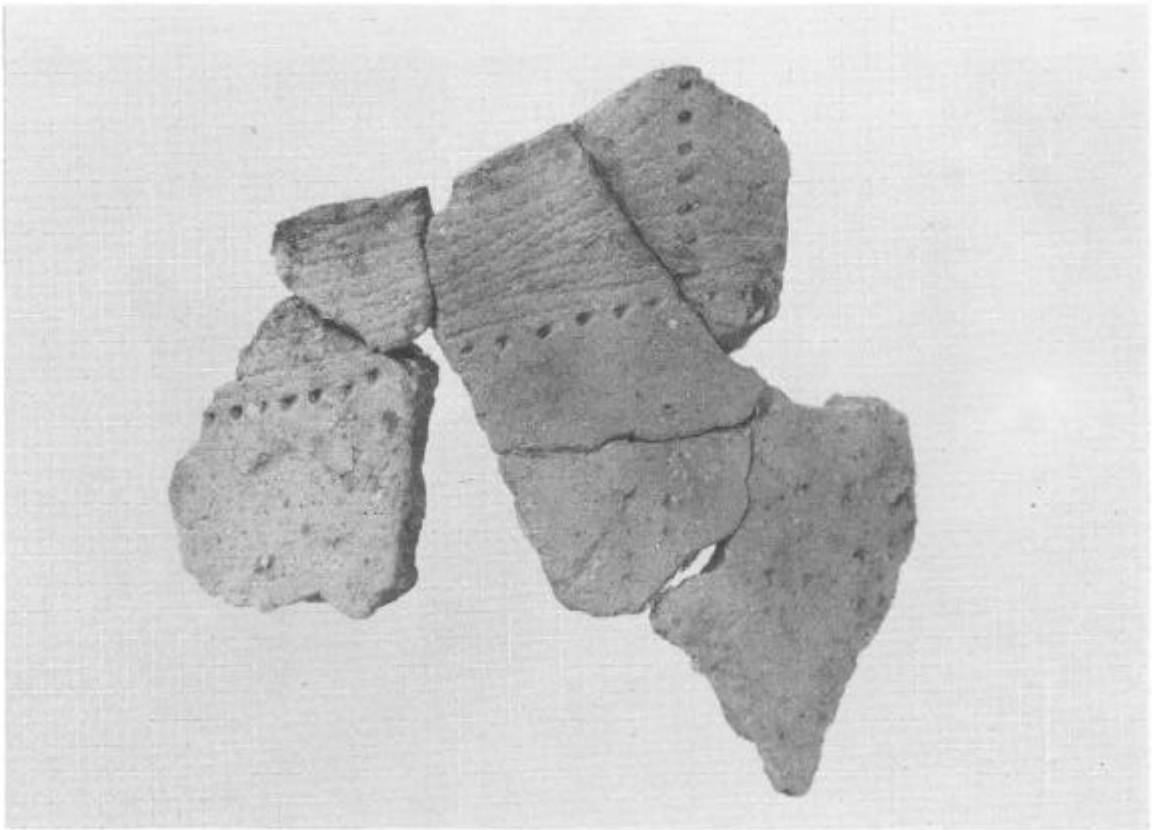


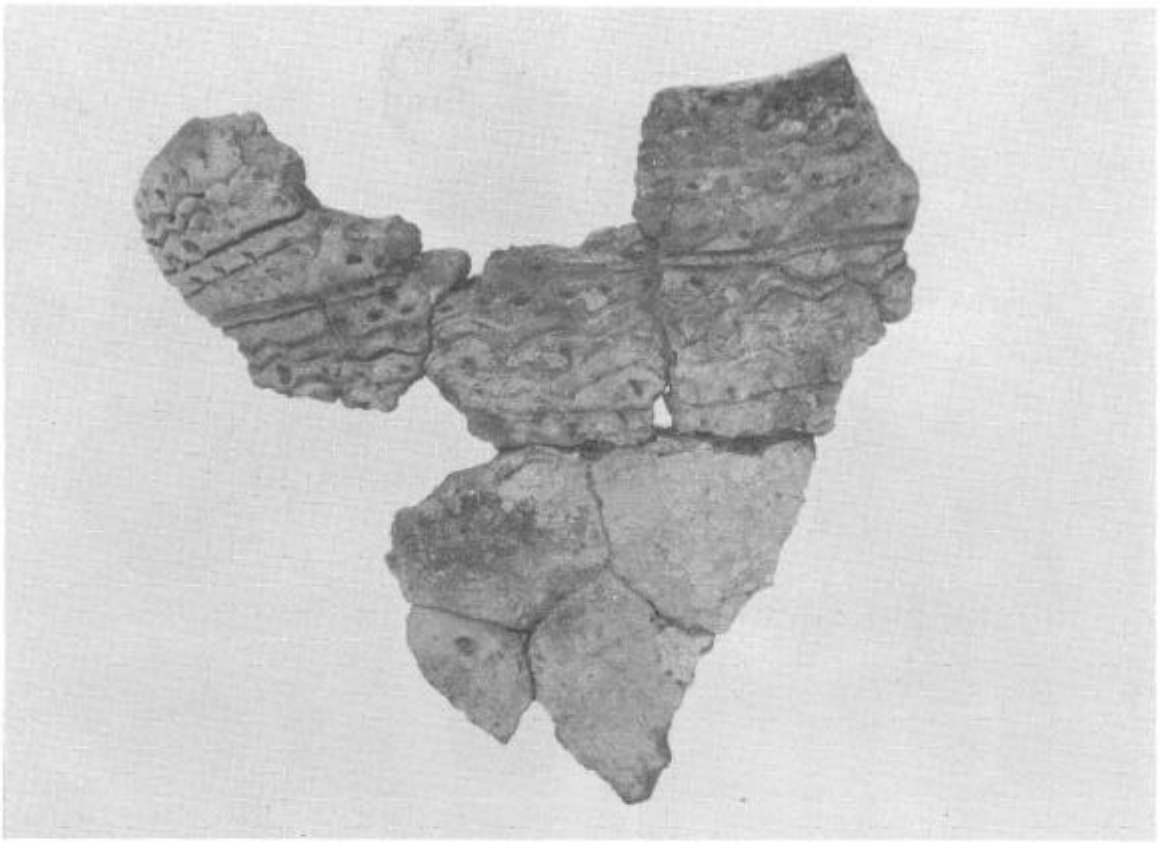
第 I 群 土 器



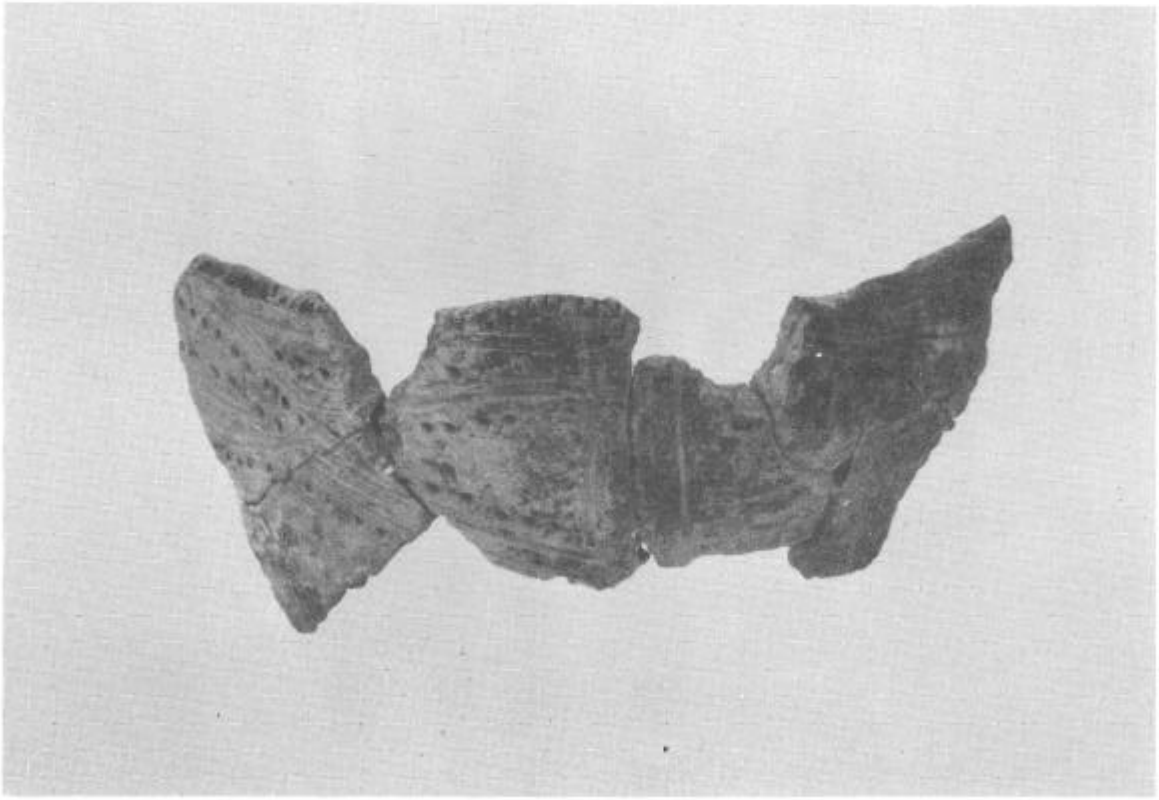


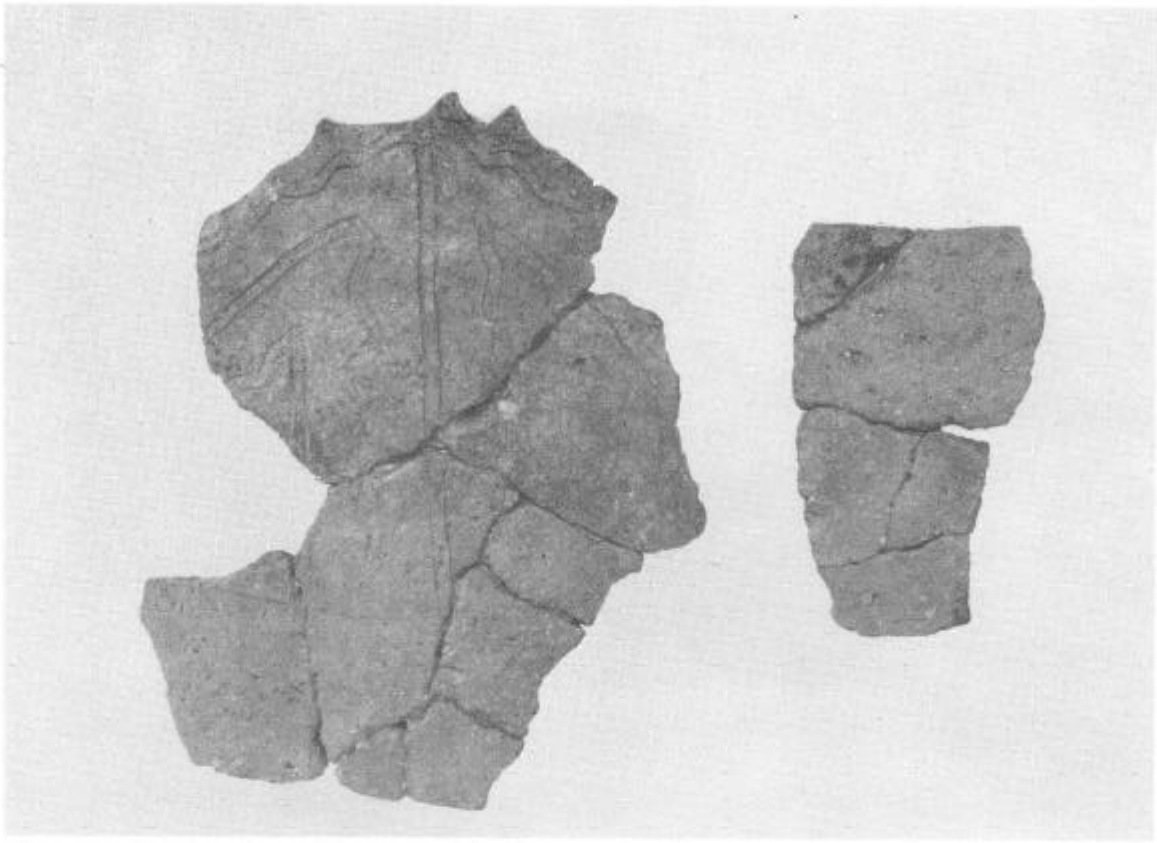
第 I 群 土 器



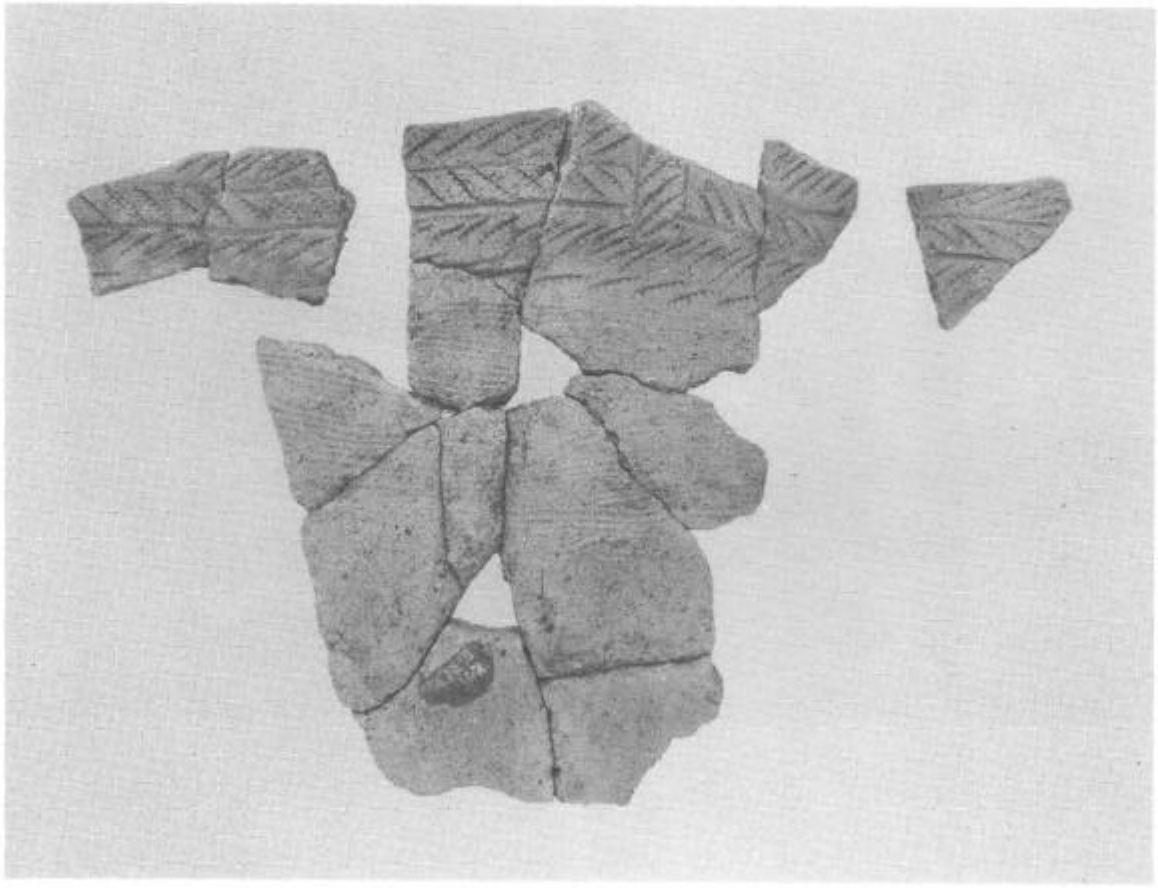


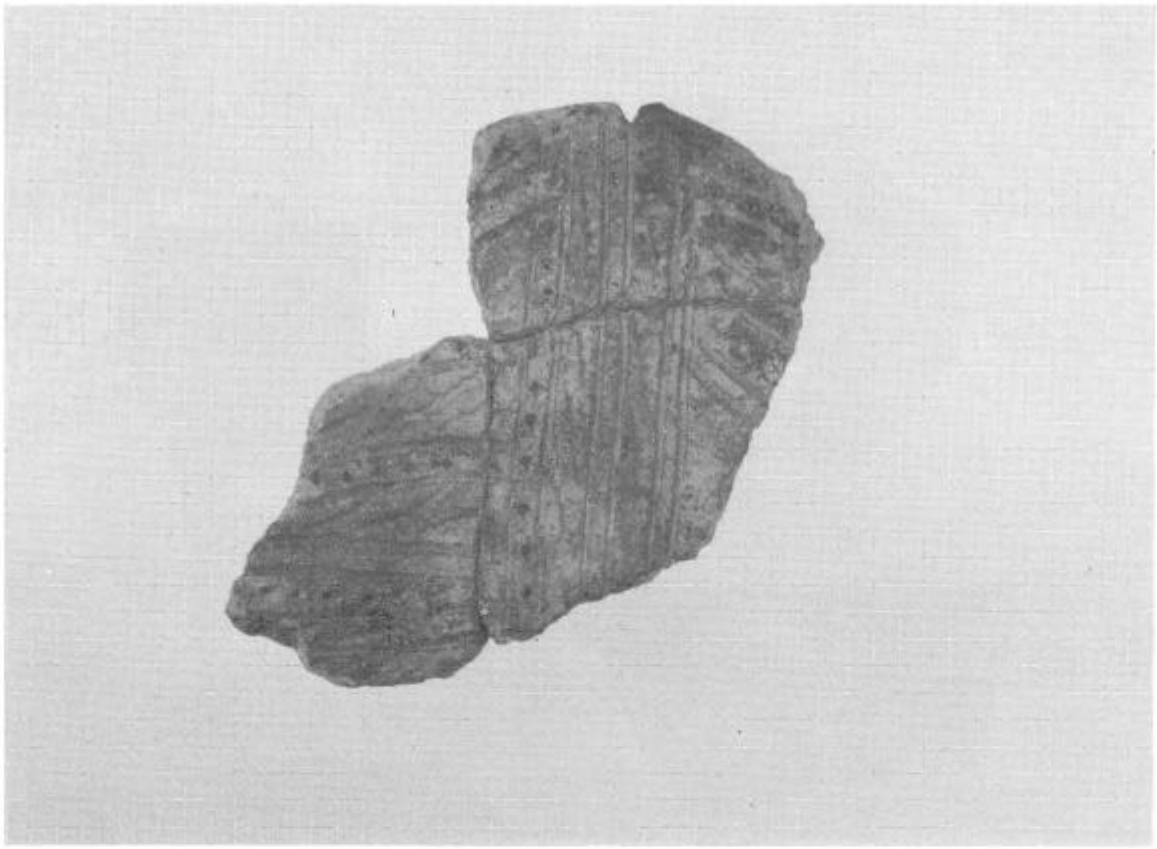
第 I 群 土 器



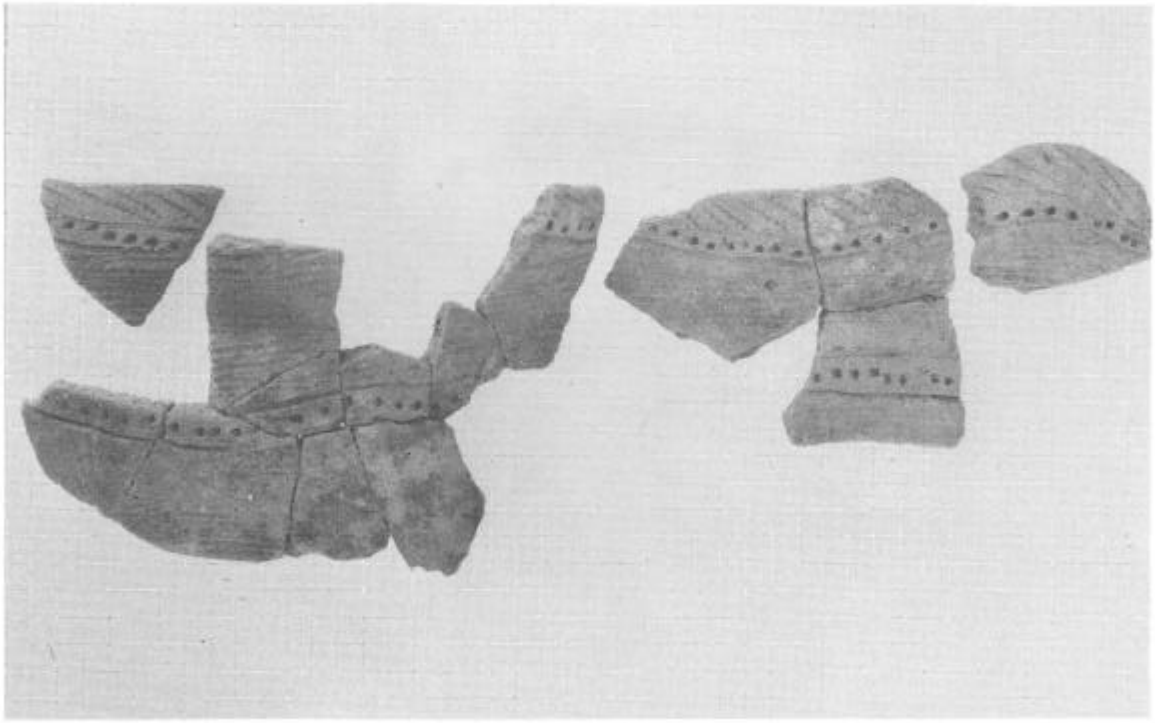


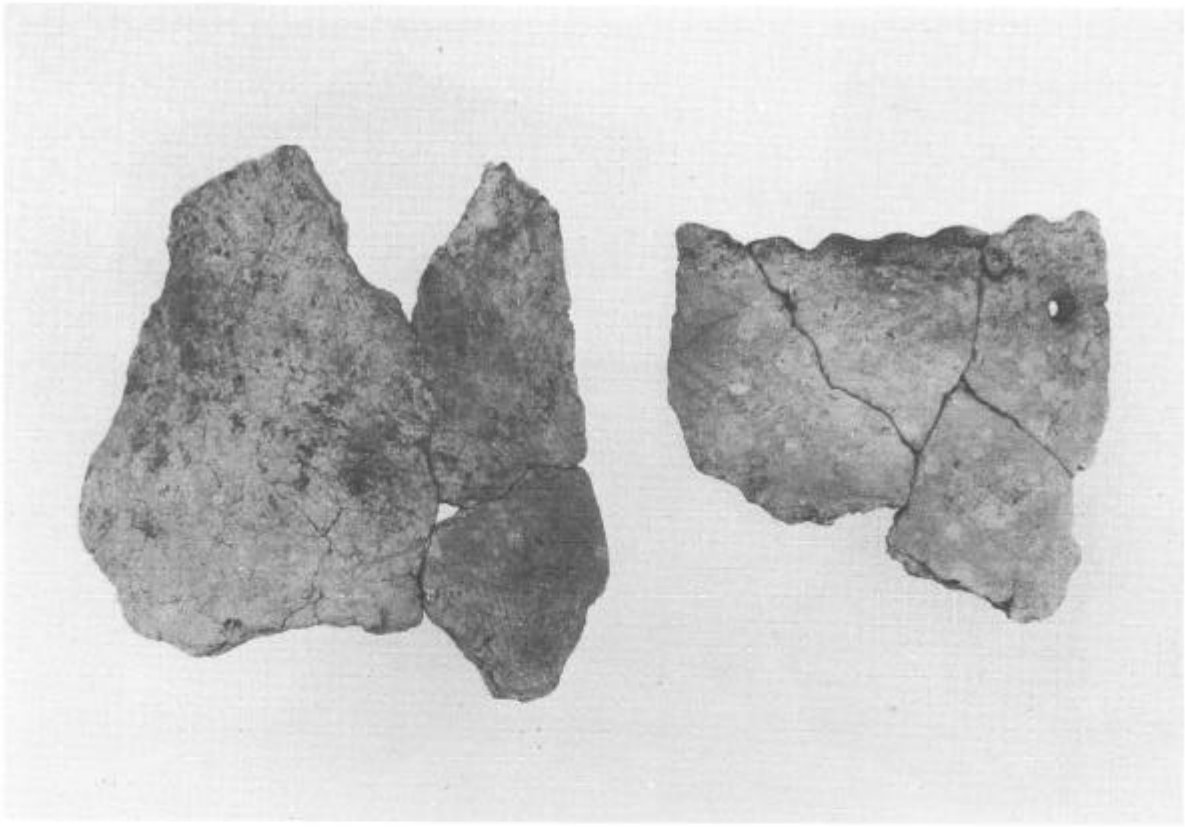
第 I 群 土 器



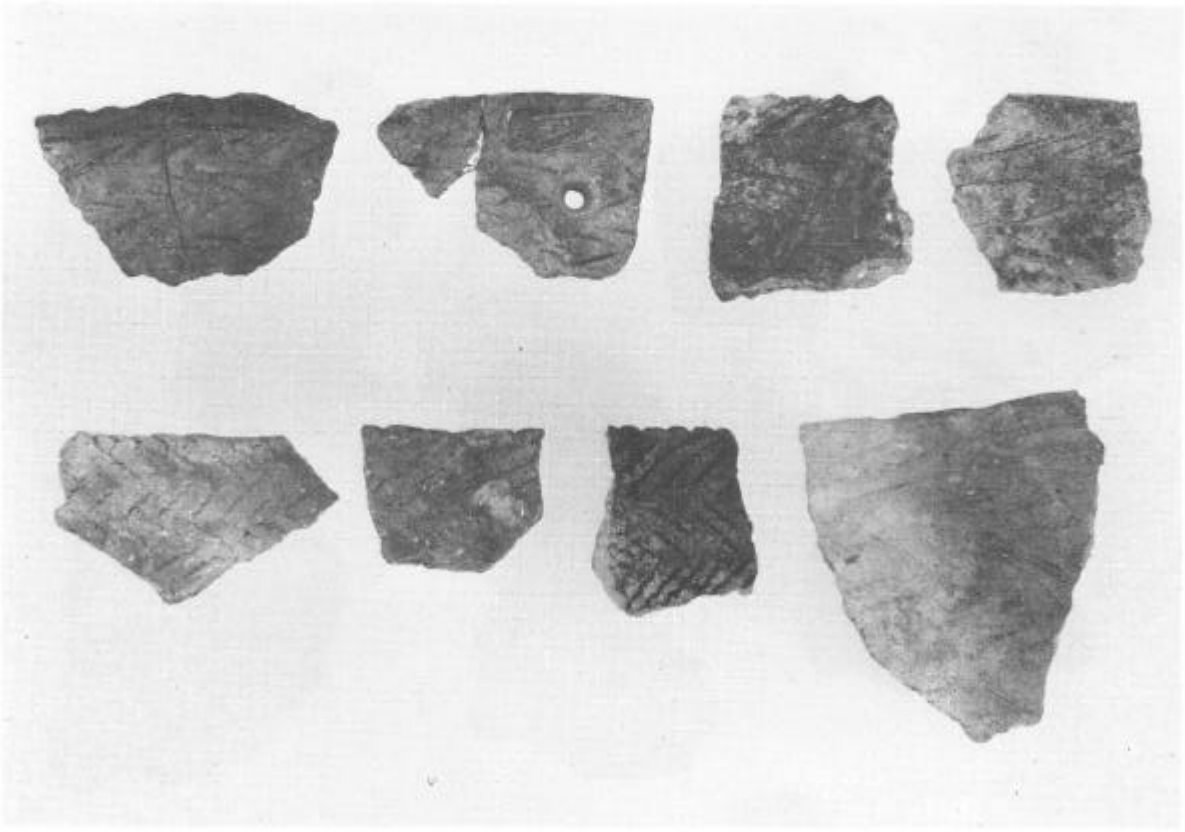


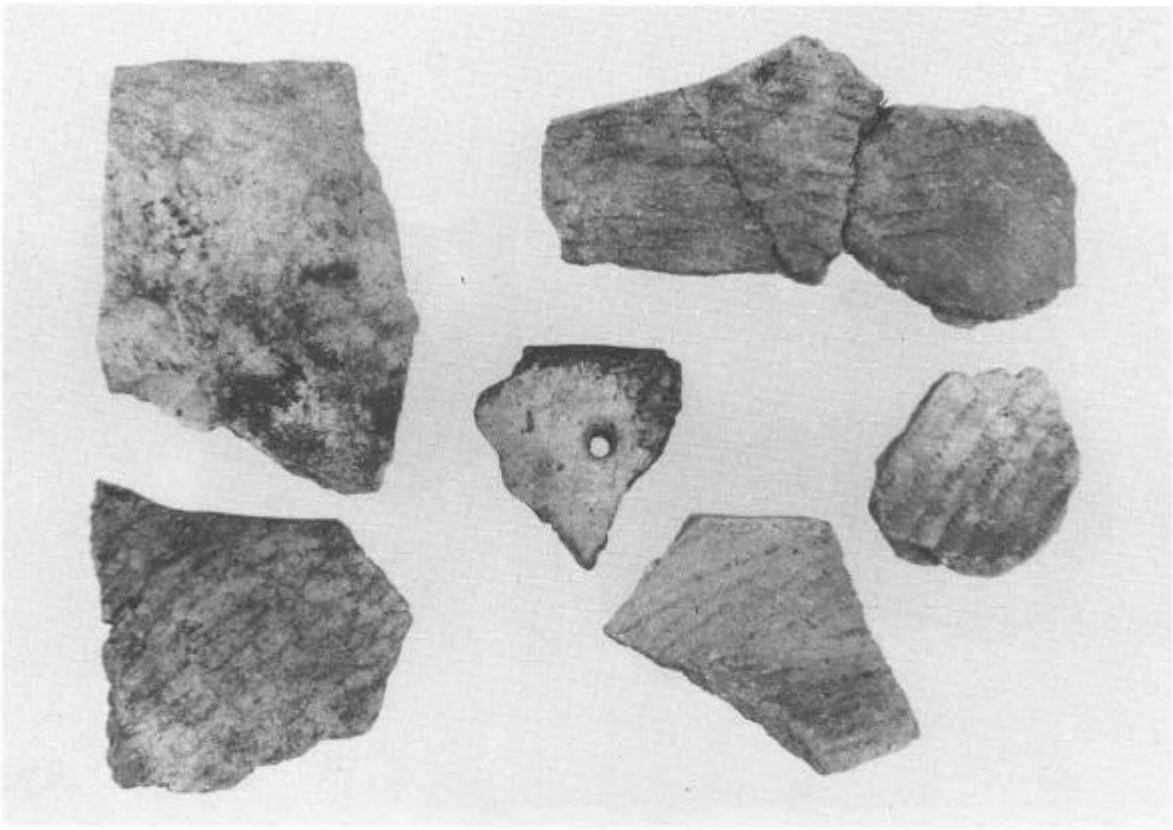
第 I 群 土 器



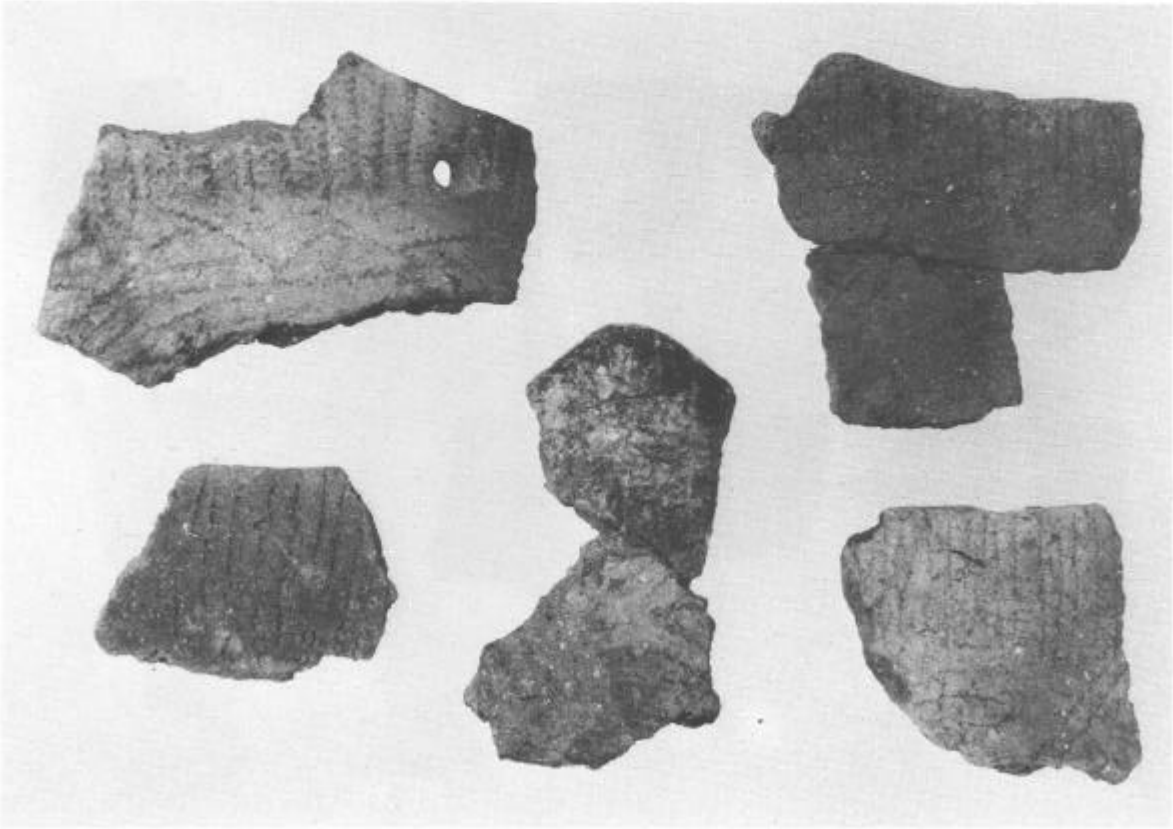


第 I 群 土 器

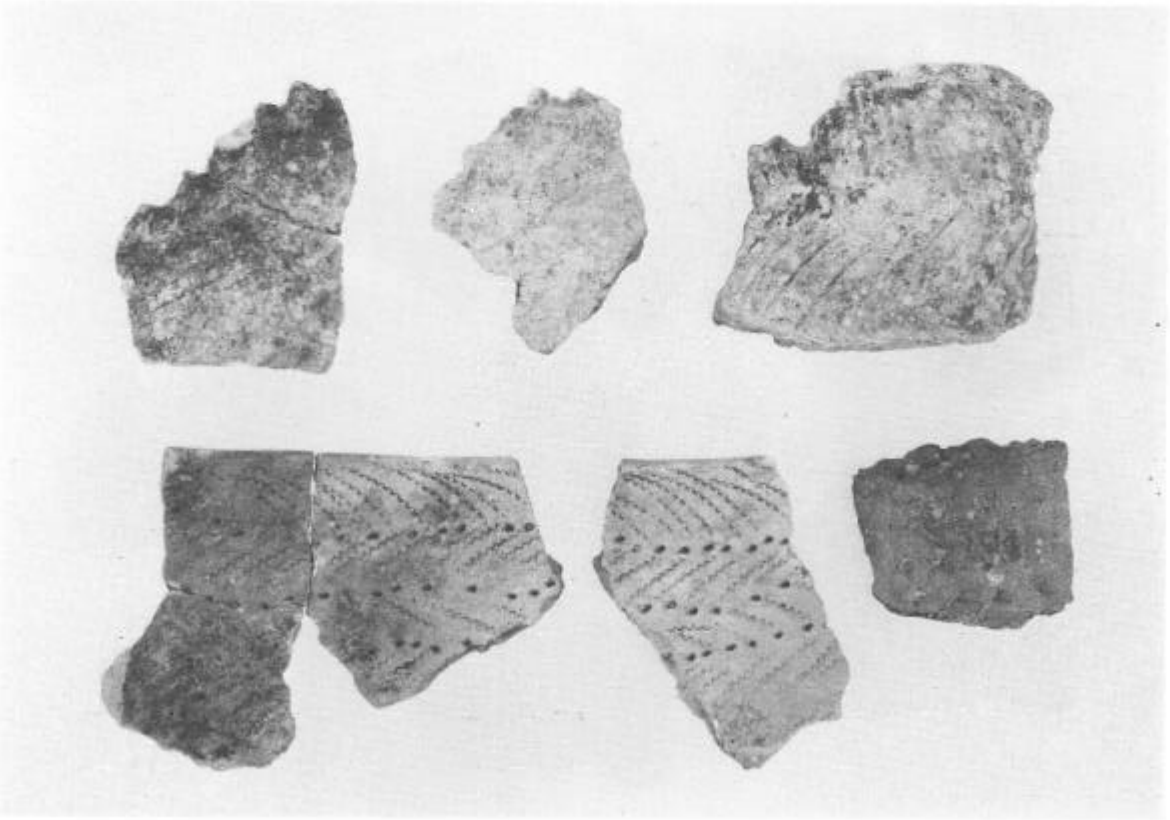


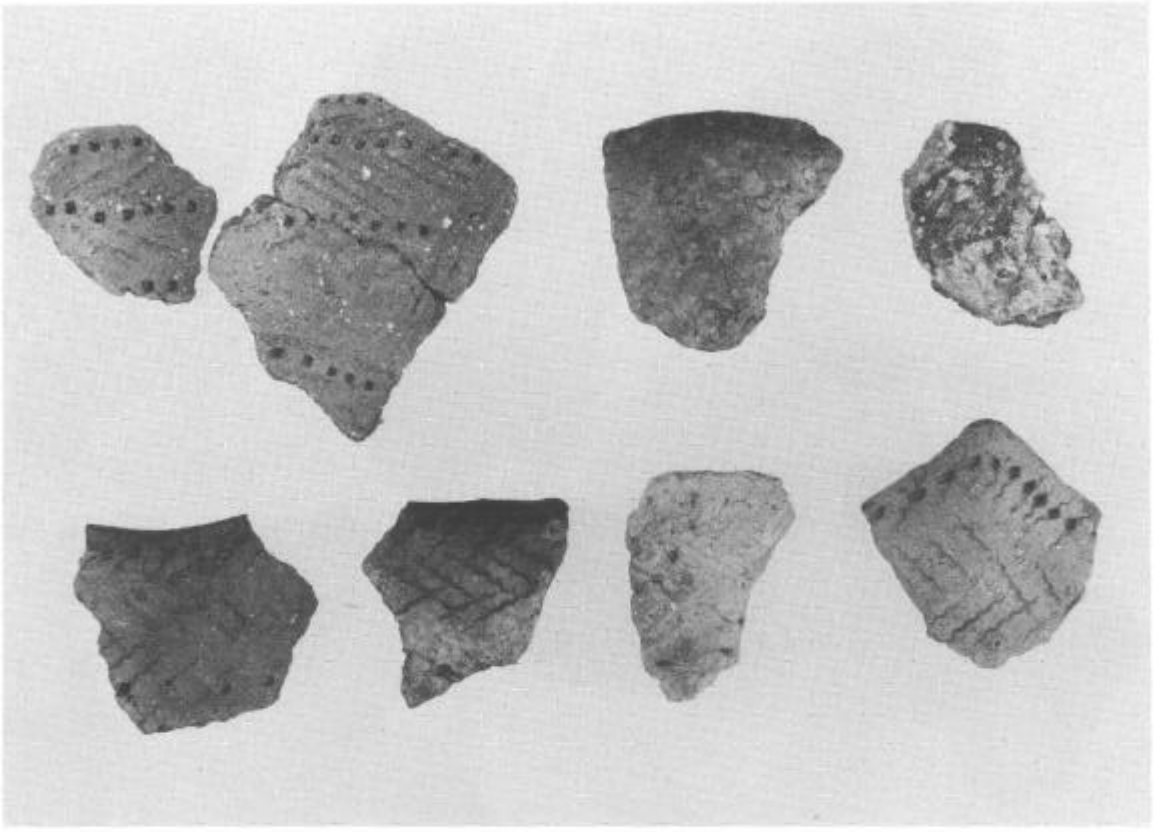


第 I 群 土 器

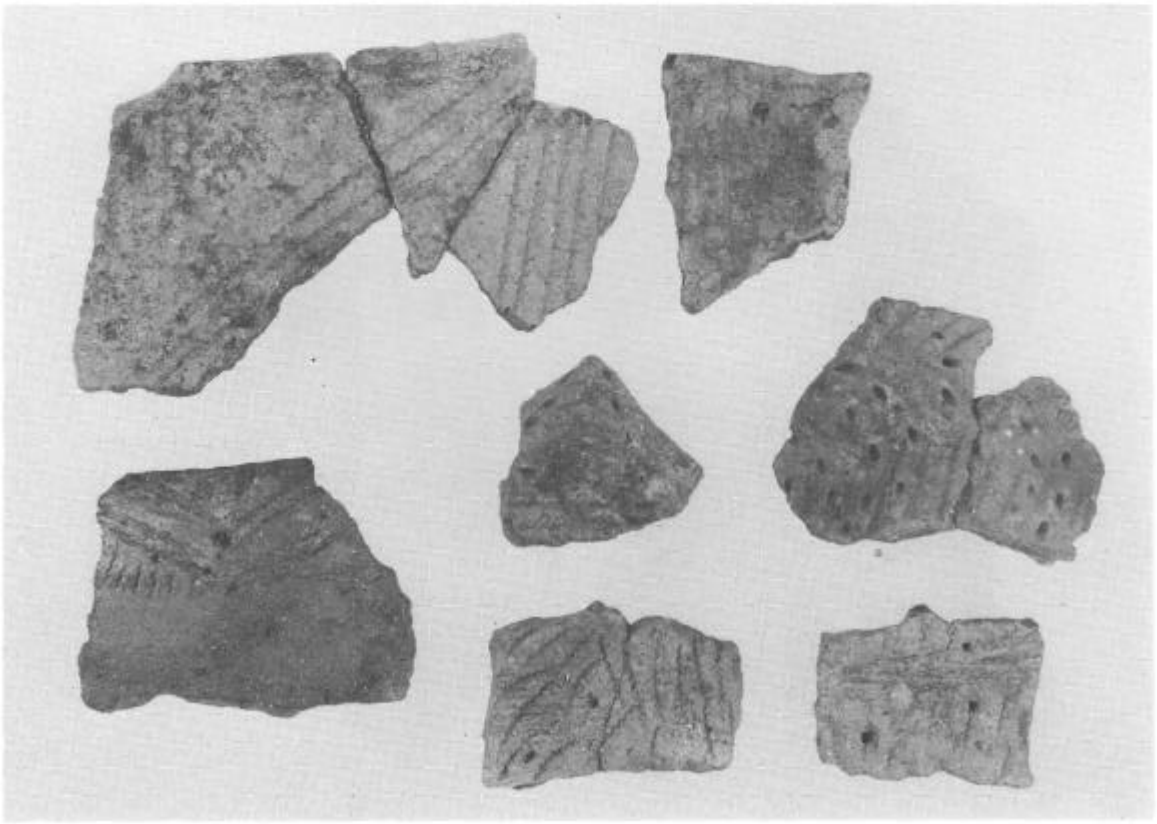


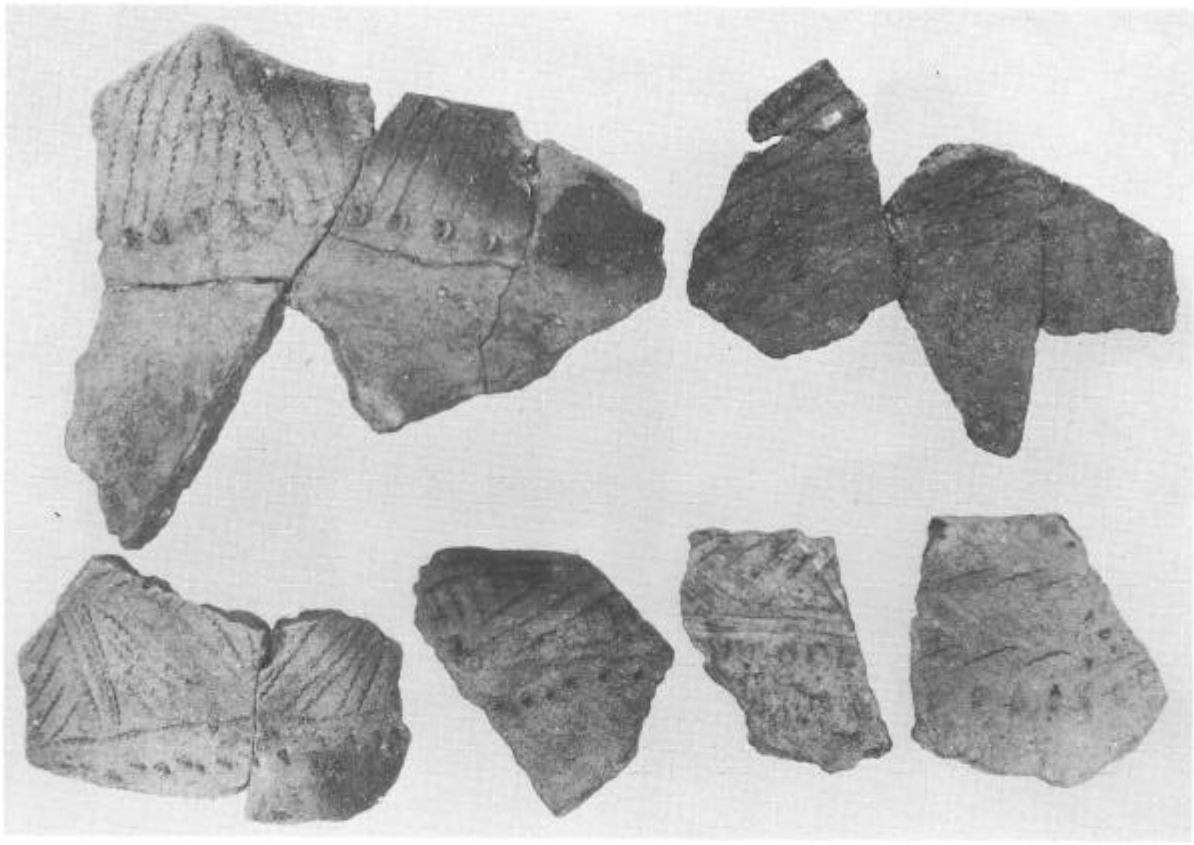
第Ⅰ群土器



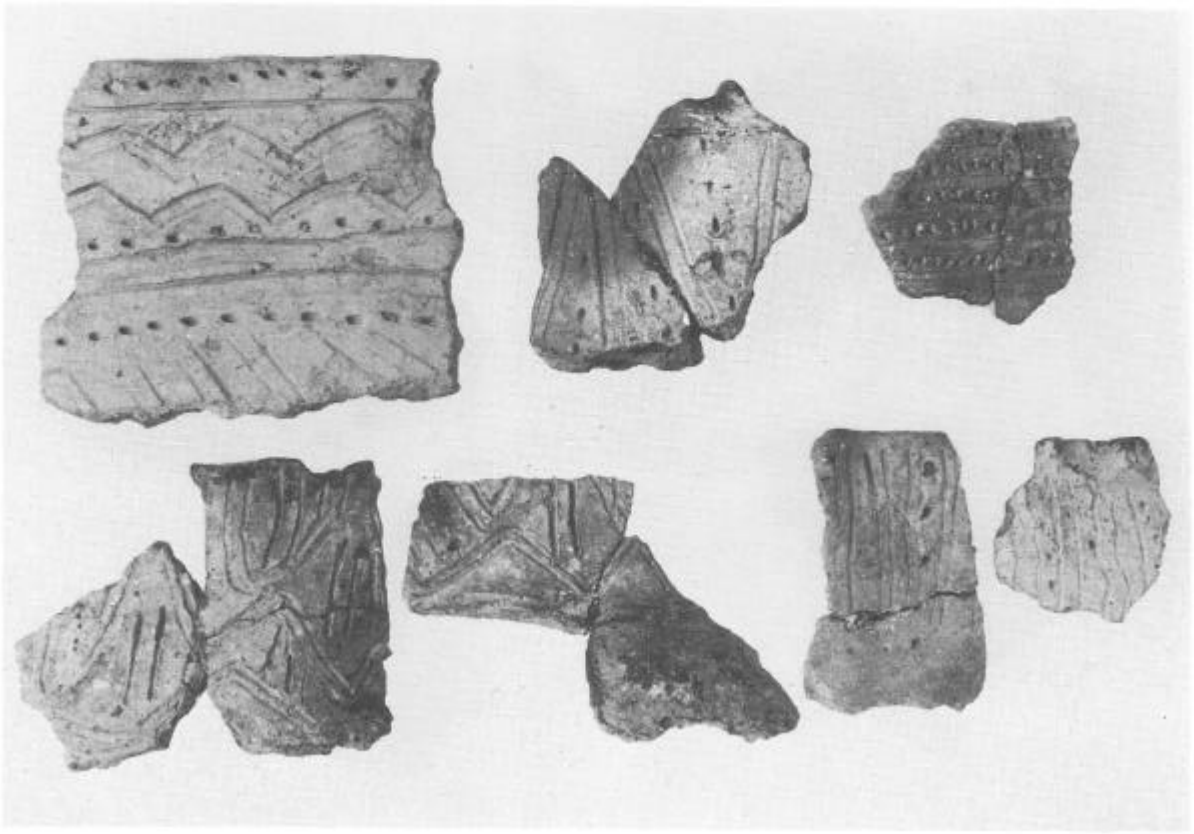


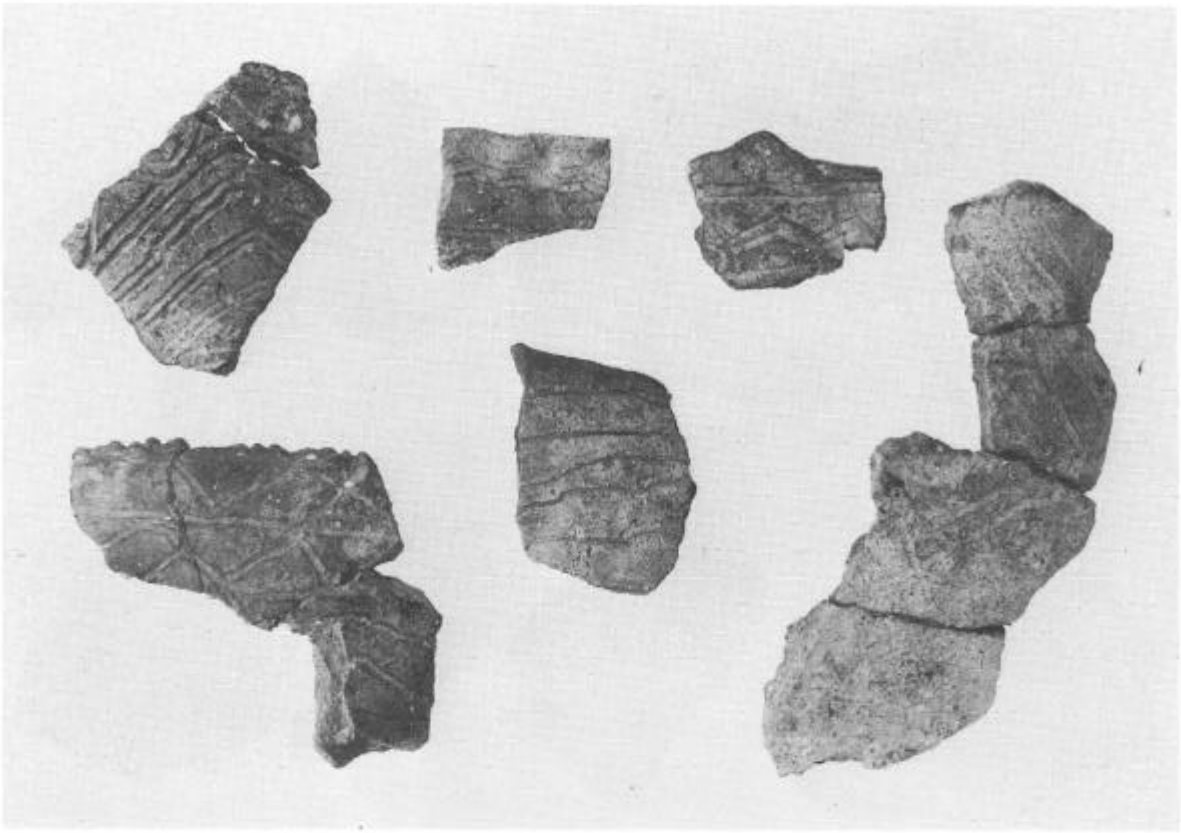
第 I 群 土 器



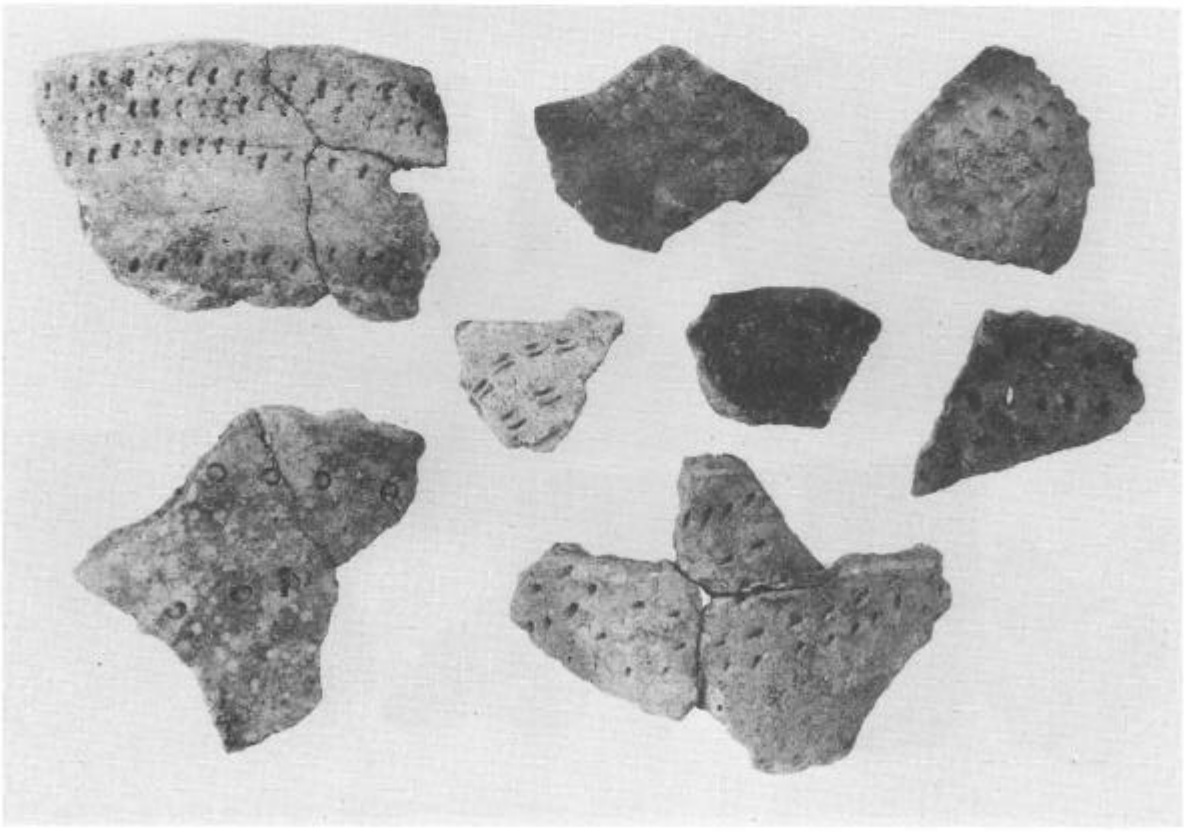


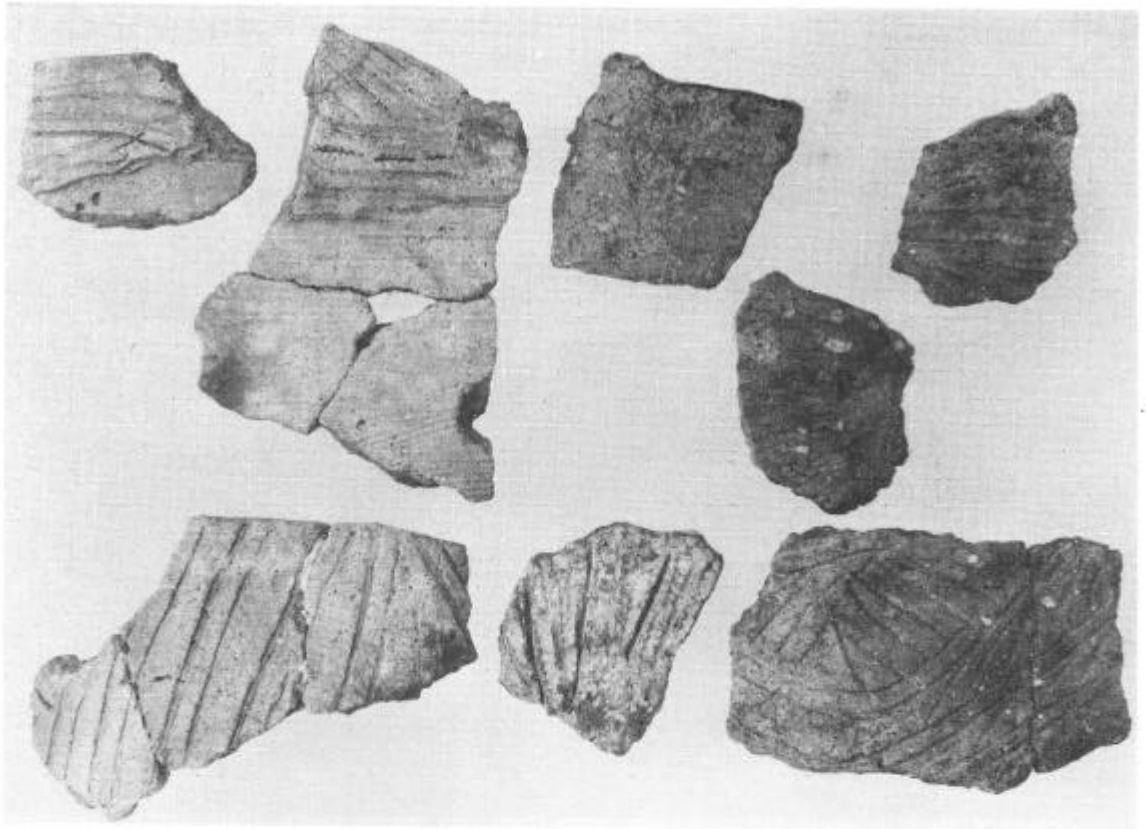
第 I 群 土 器



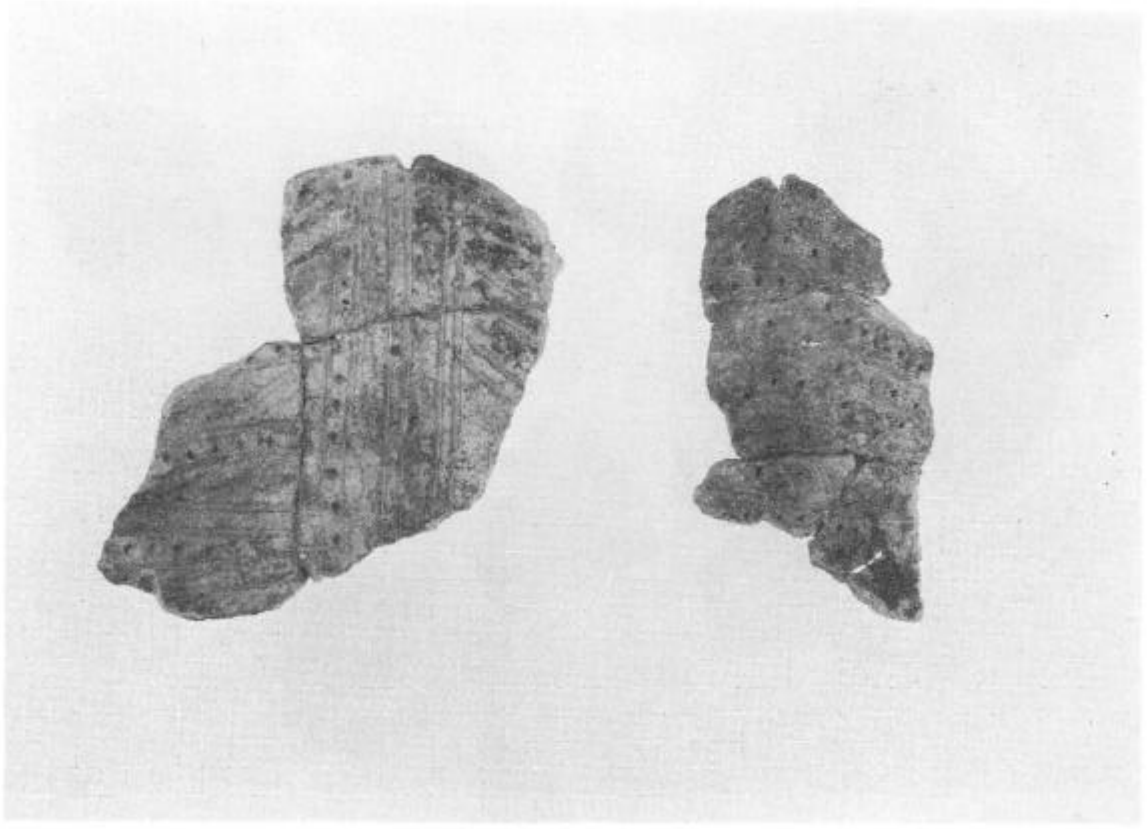


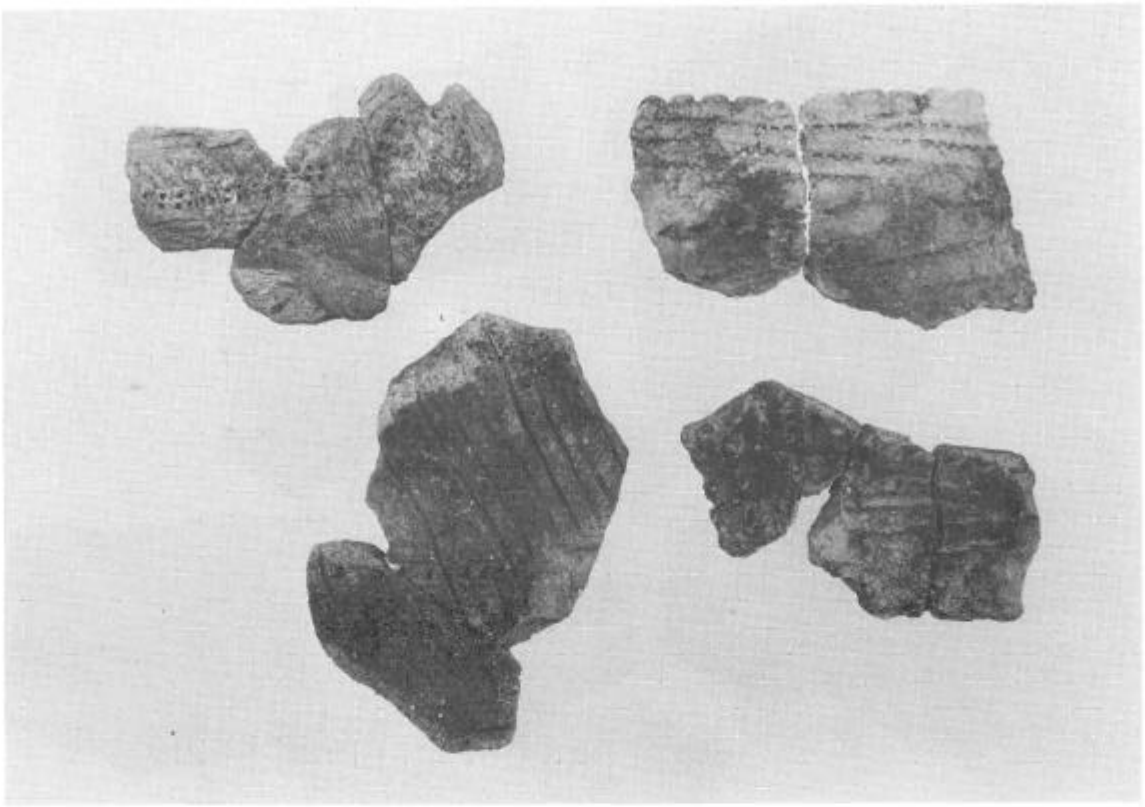
第 I 群 土 器



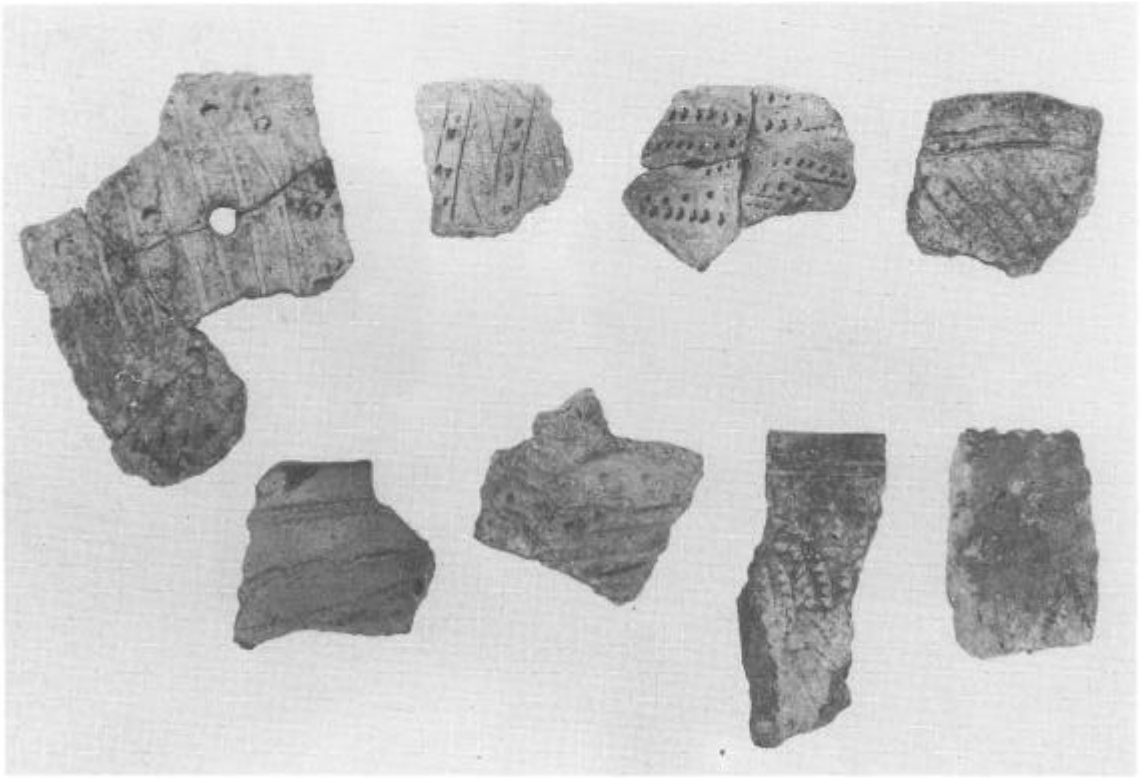


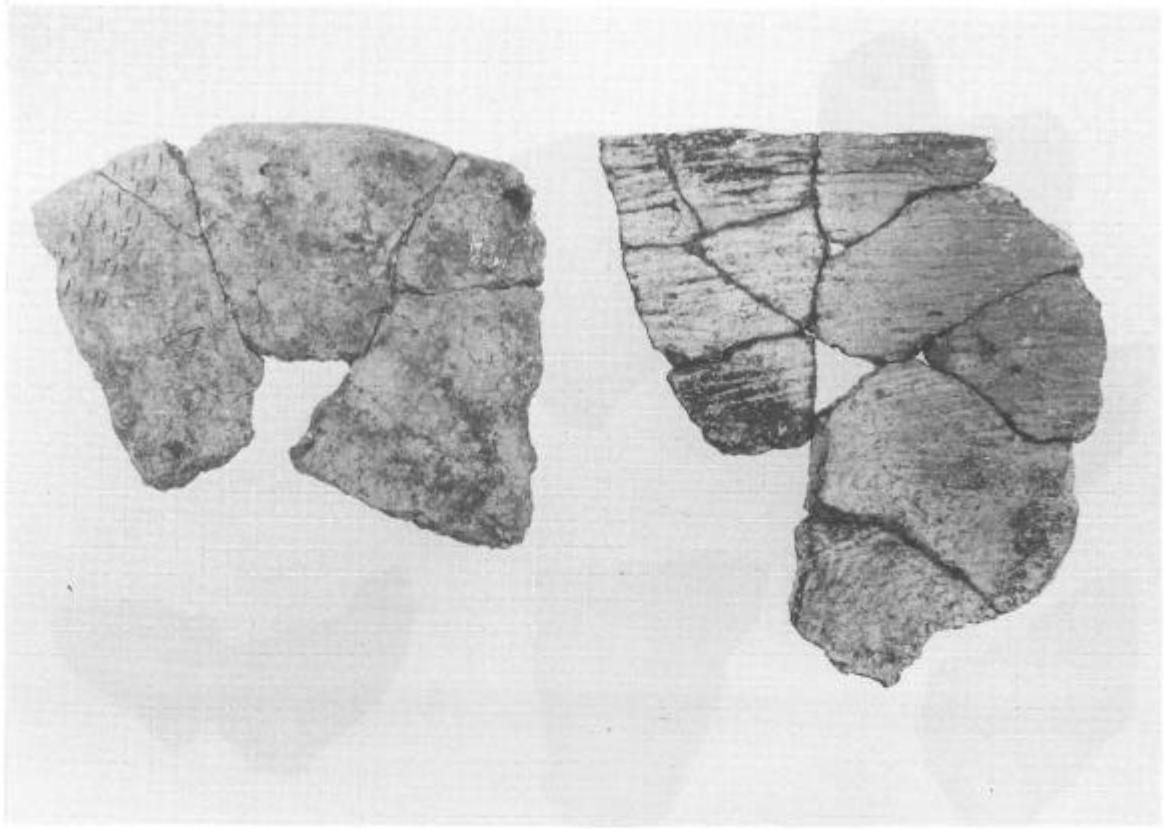
第 I 群 土 器



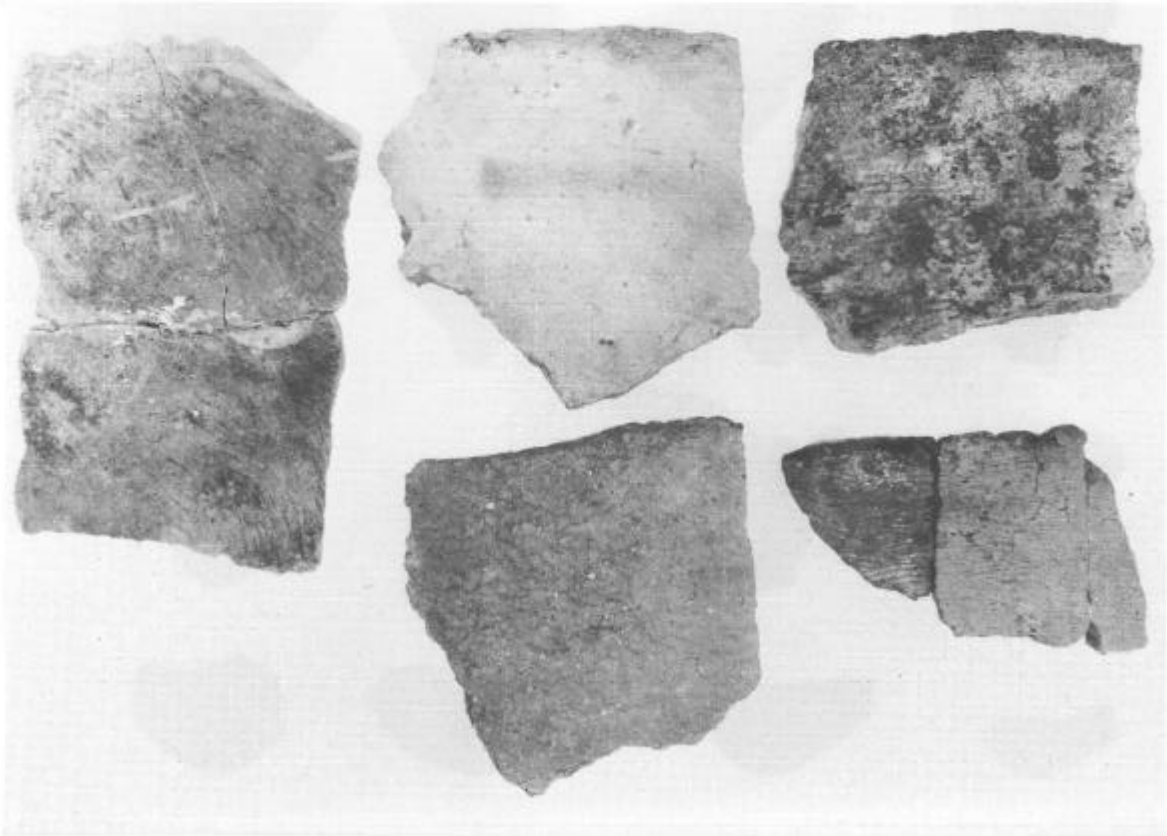


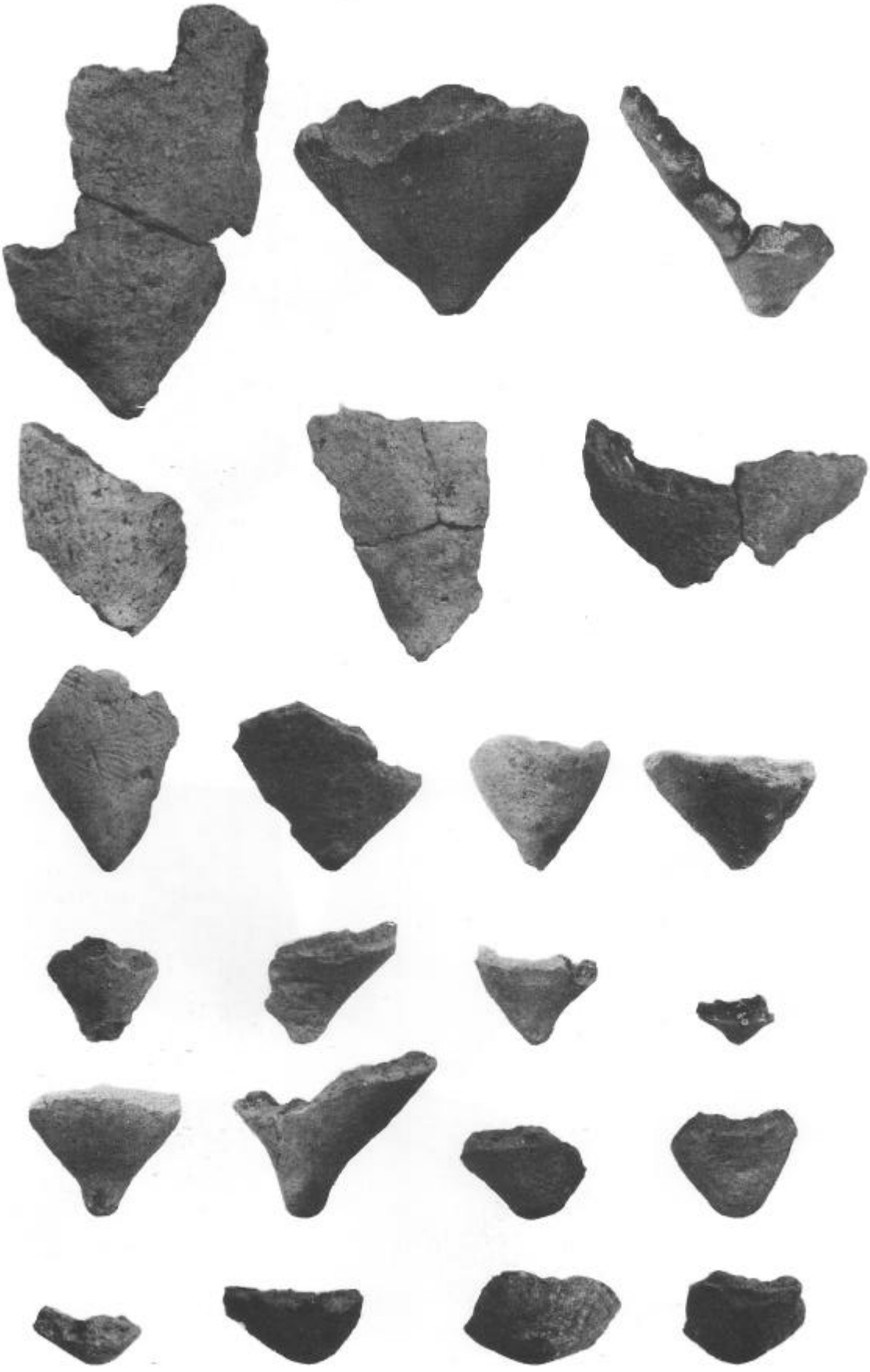
第 I 群 土 器



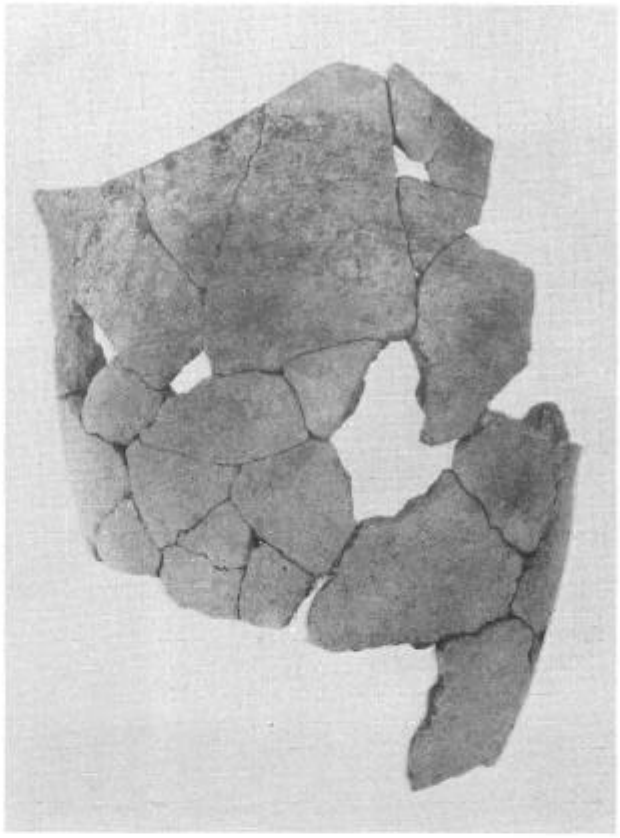


第 I 群 土 器

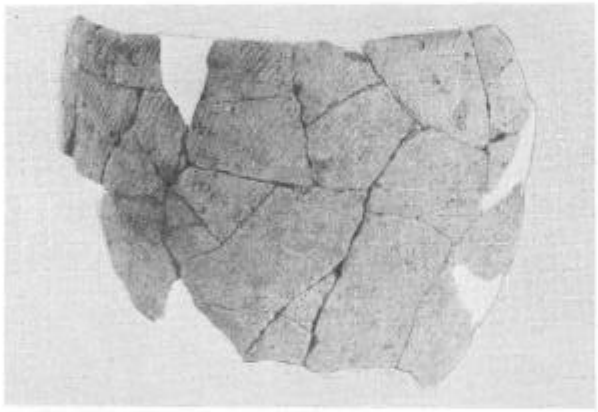




第Ⅰ群土器尖底部

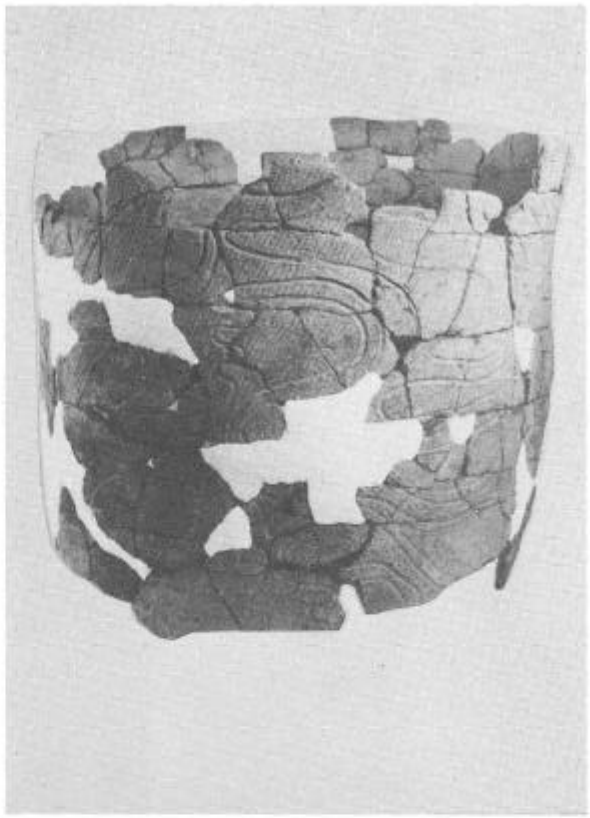


第 I 群 土 器

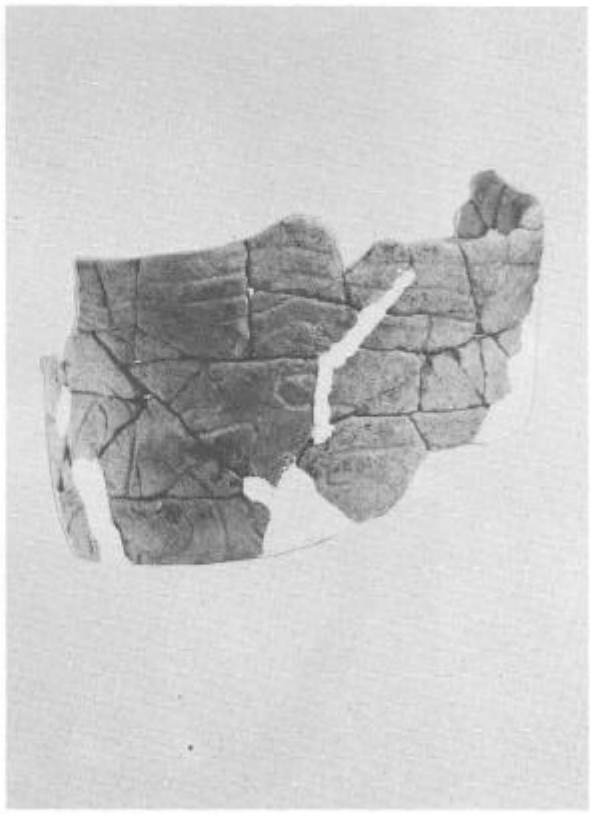


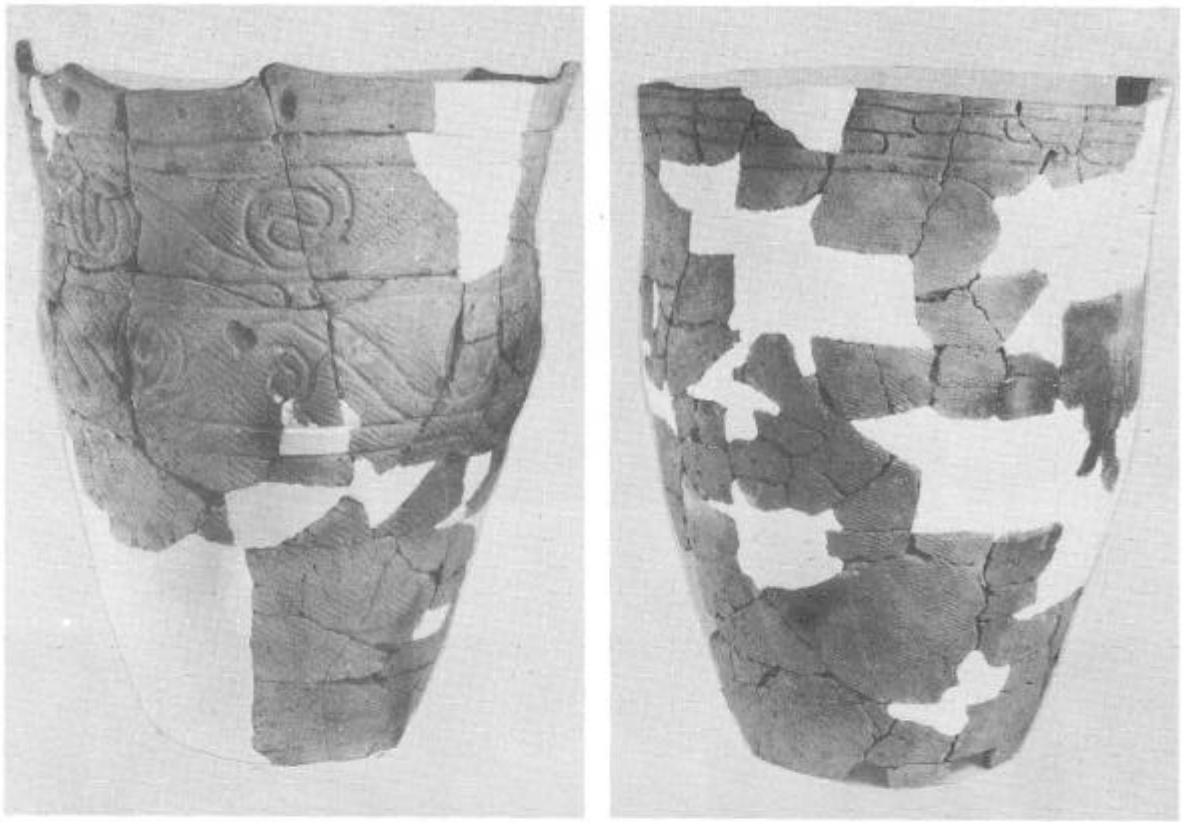
第 IV 群 土 器

第 II 群 土 器

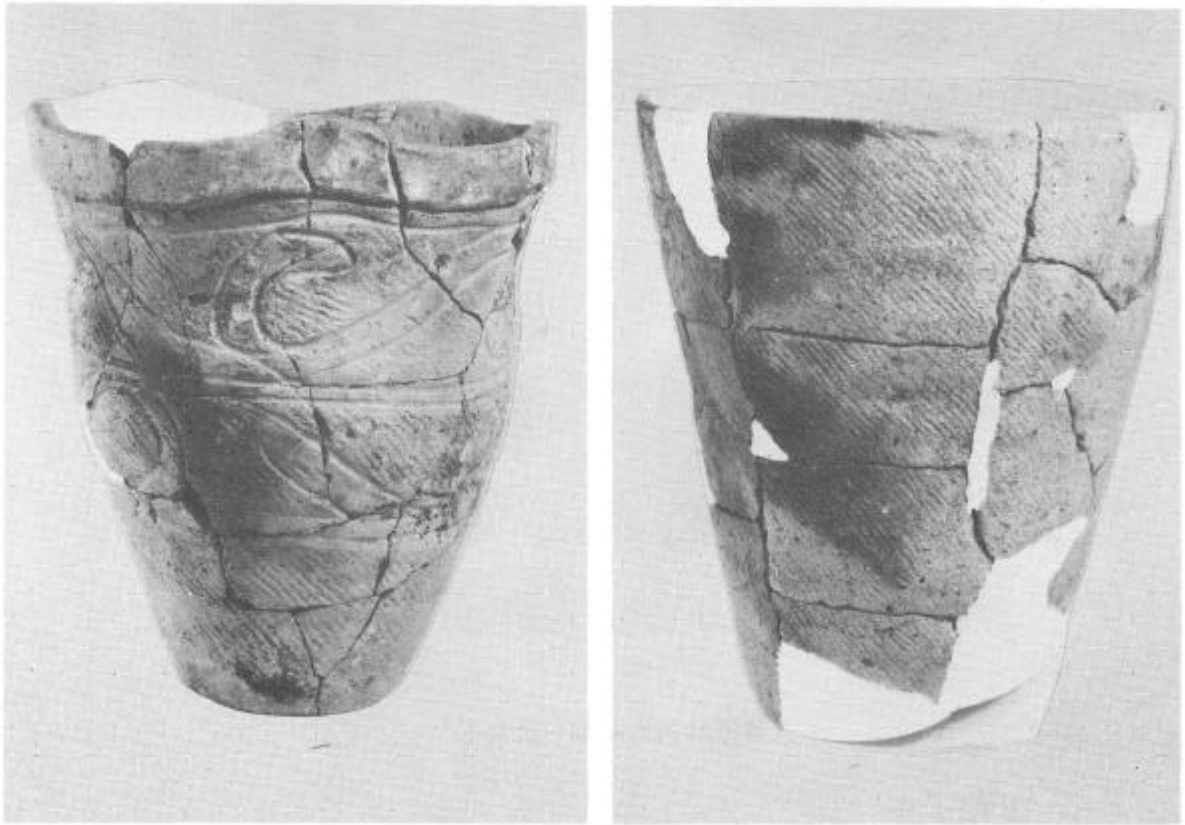


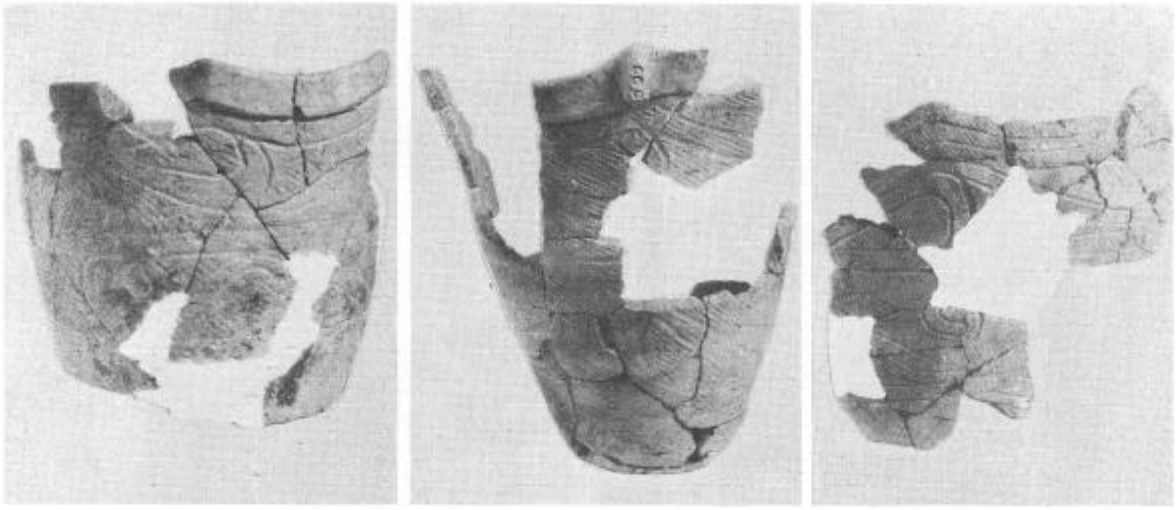
第 III 群 土 器

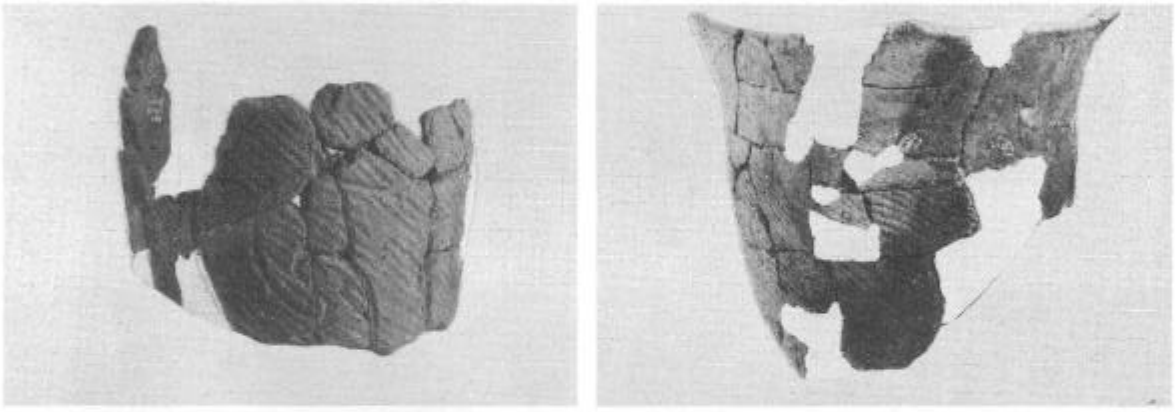


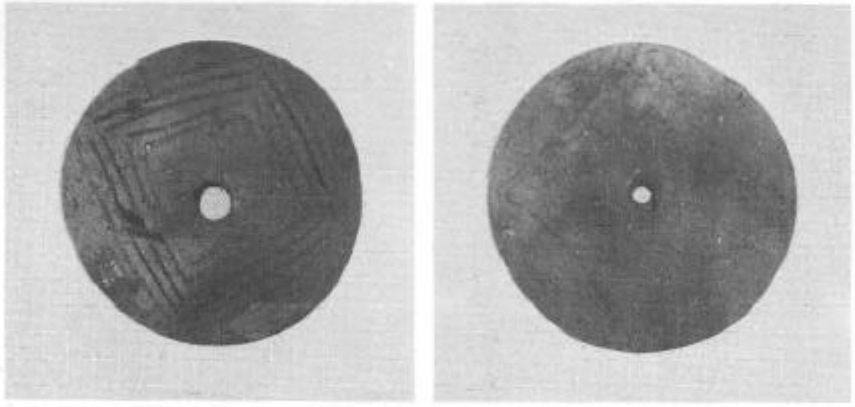


第 III 群 土 器

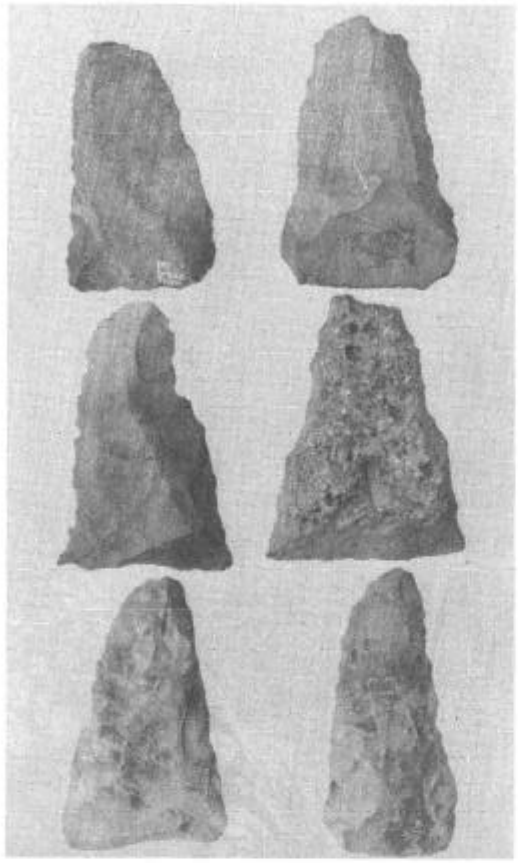


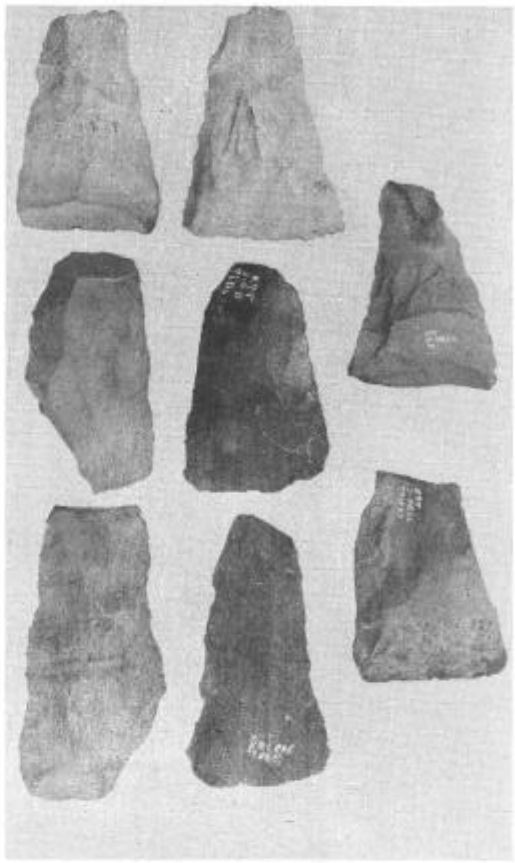


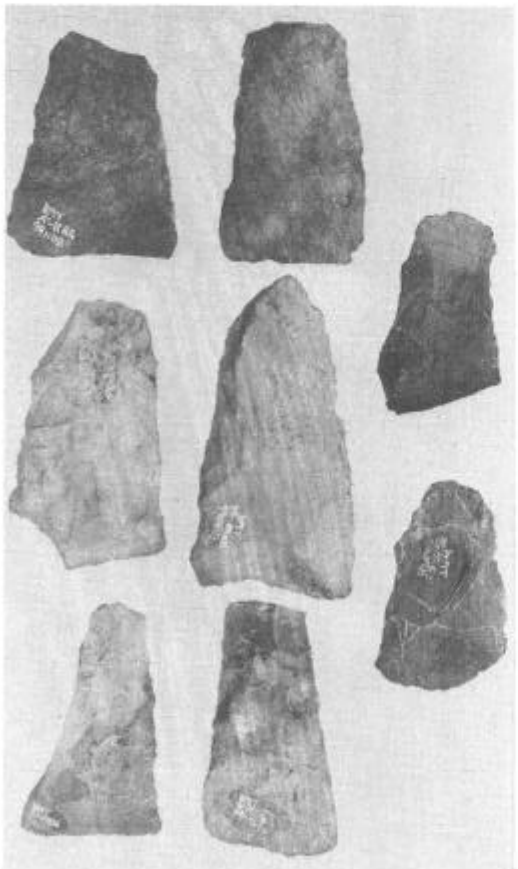


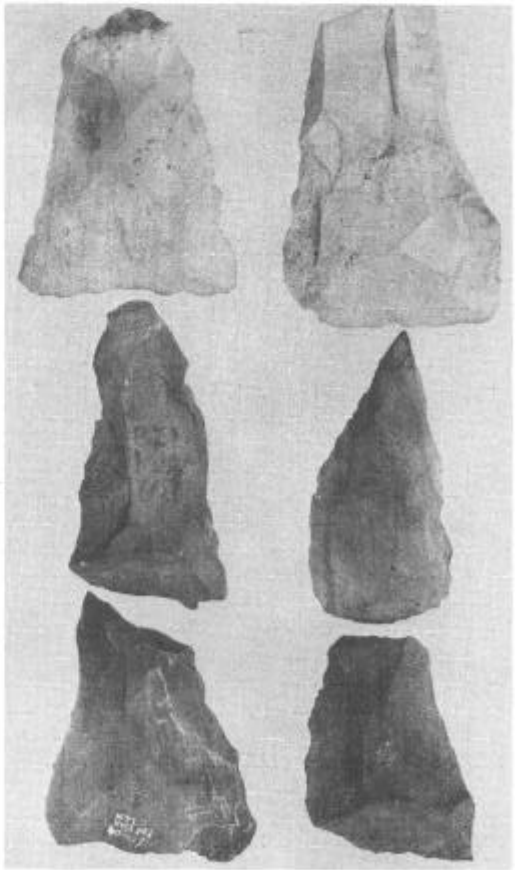


第Ⅲ群出土土器・土製品

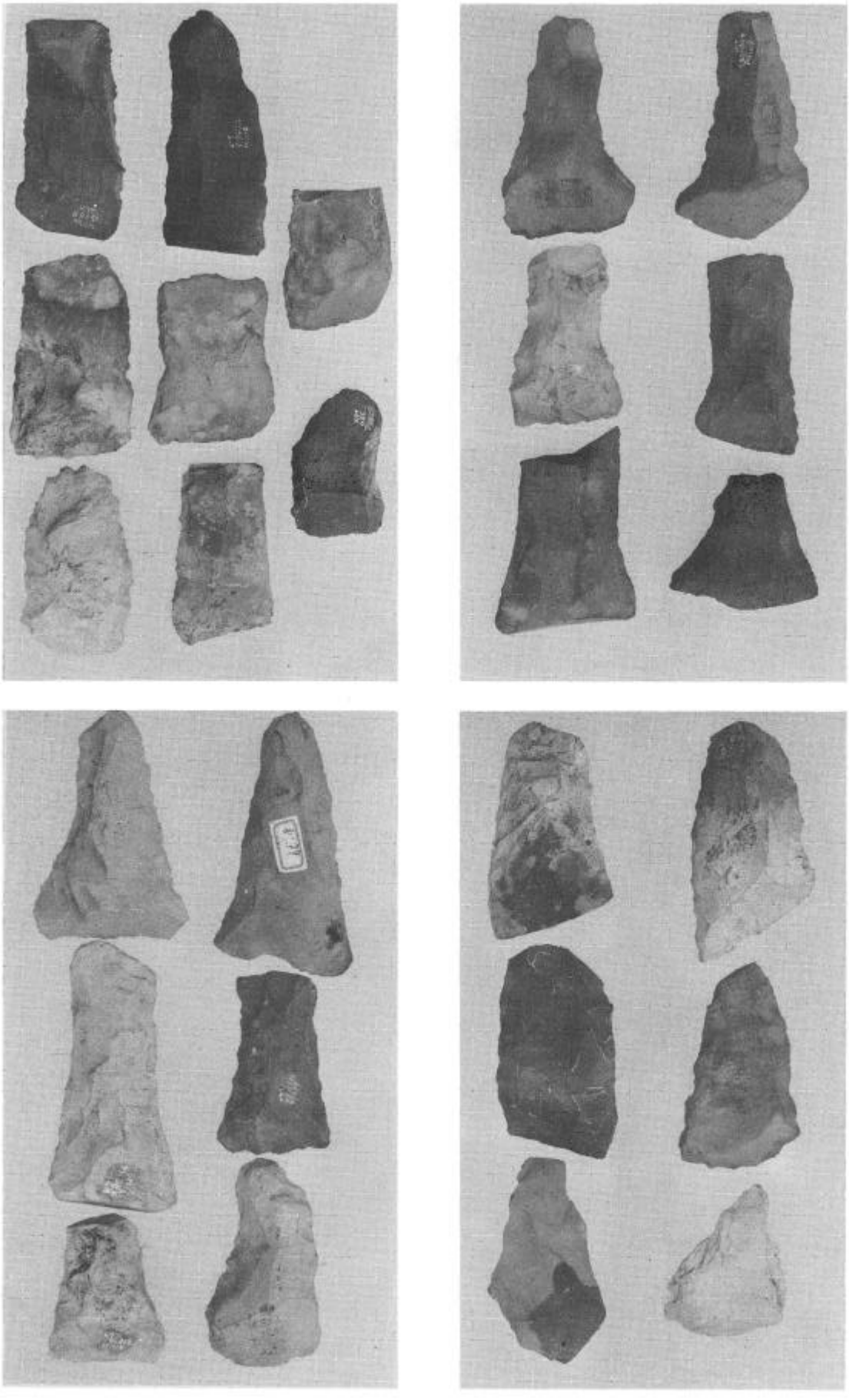




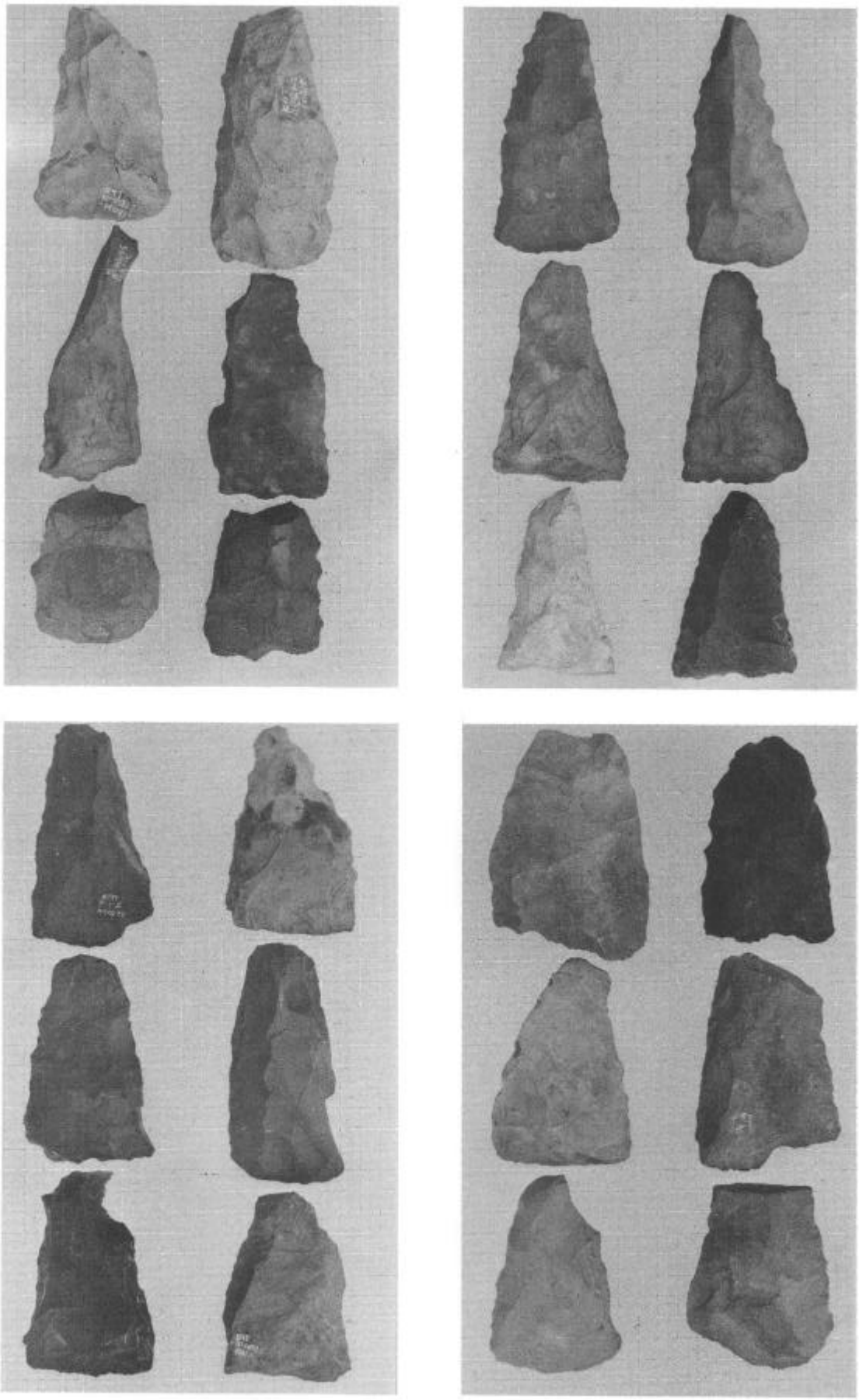




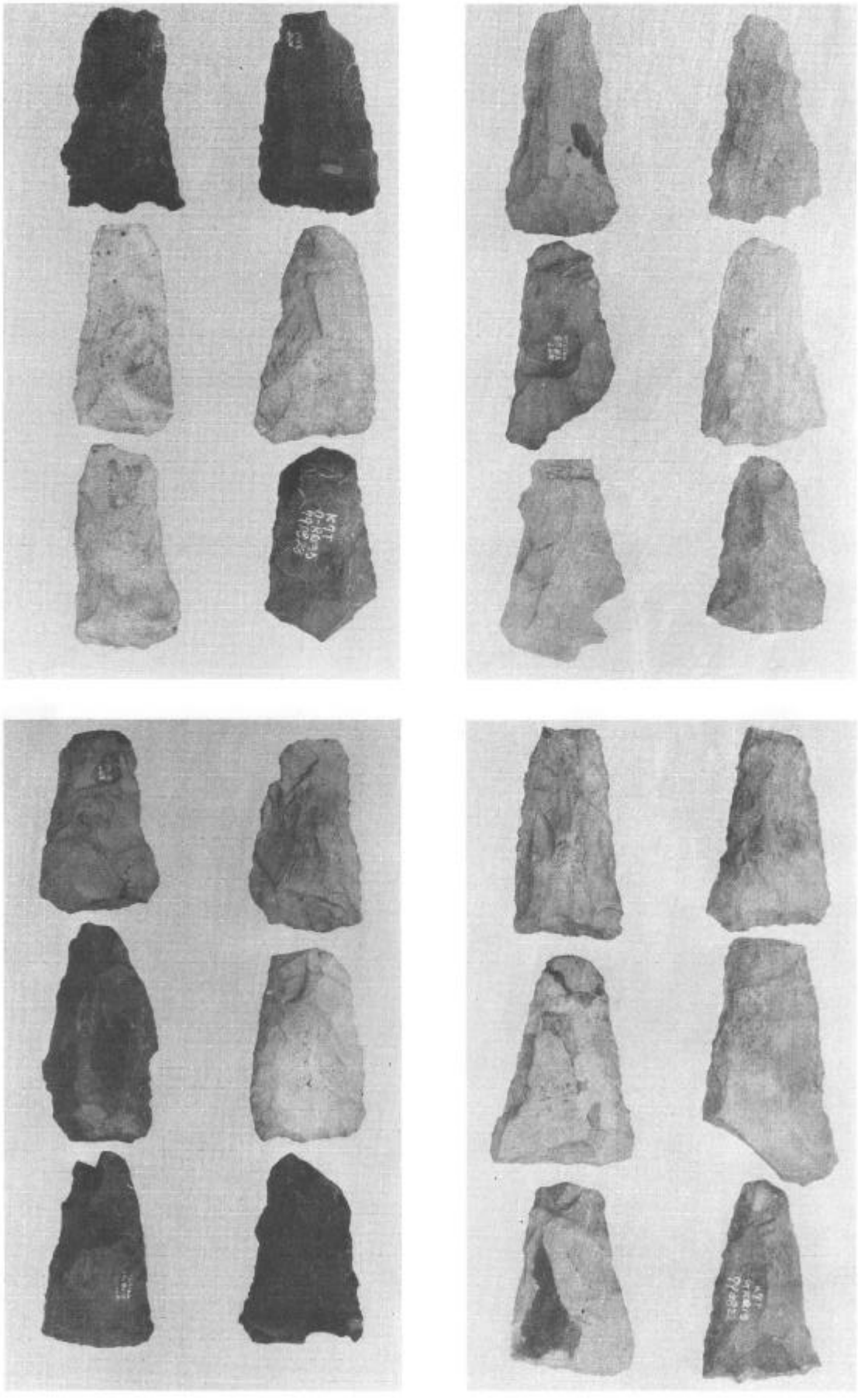
出土石器 a



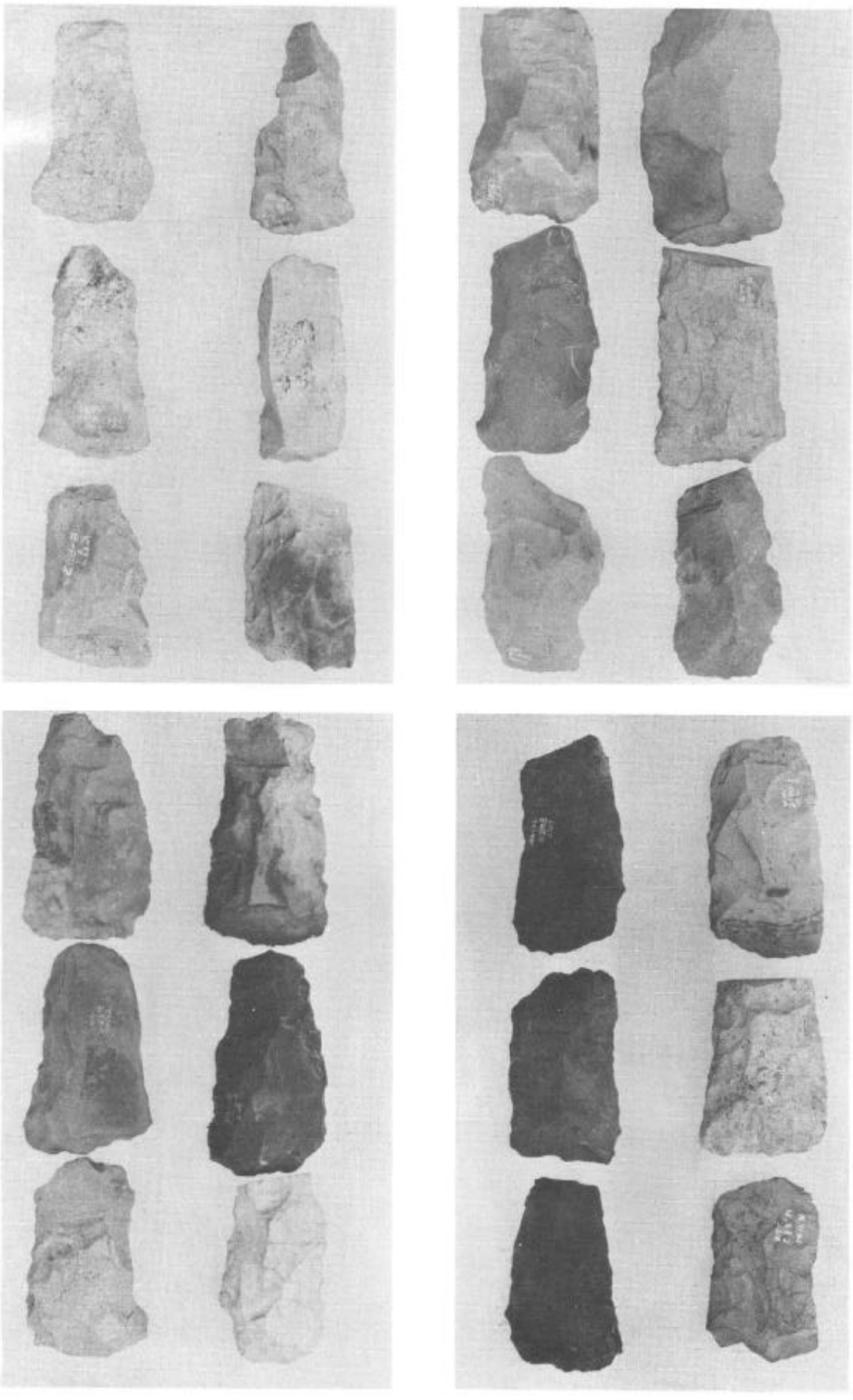
出土石器 a



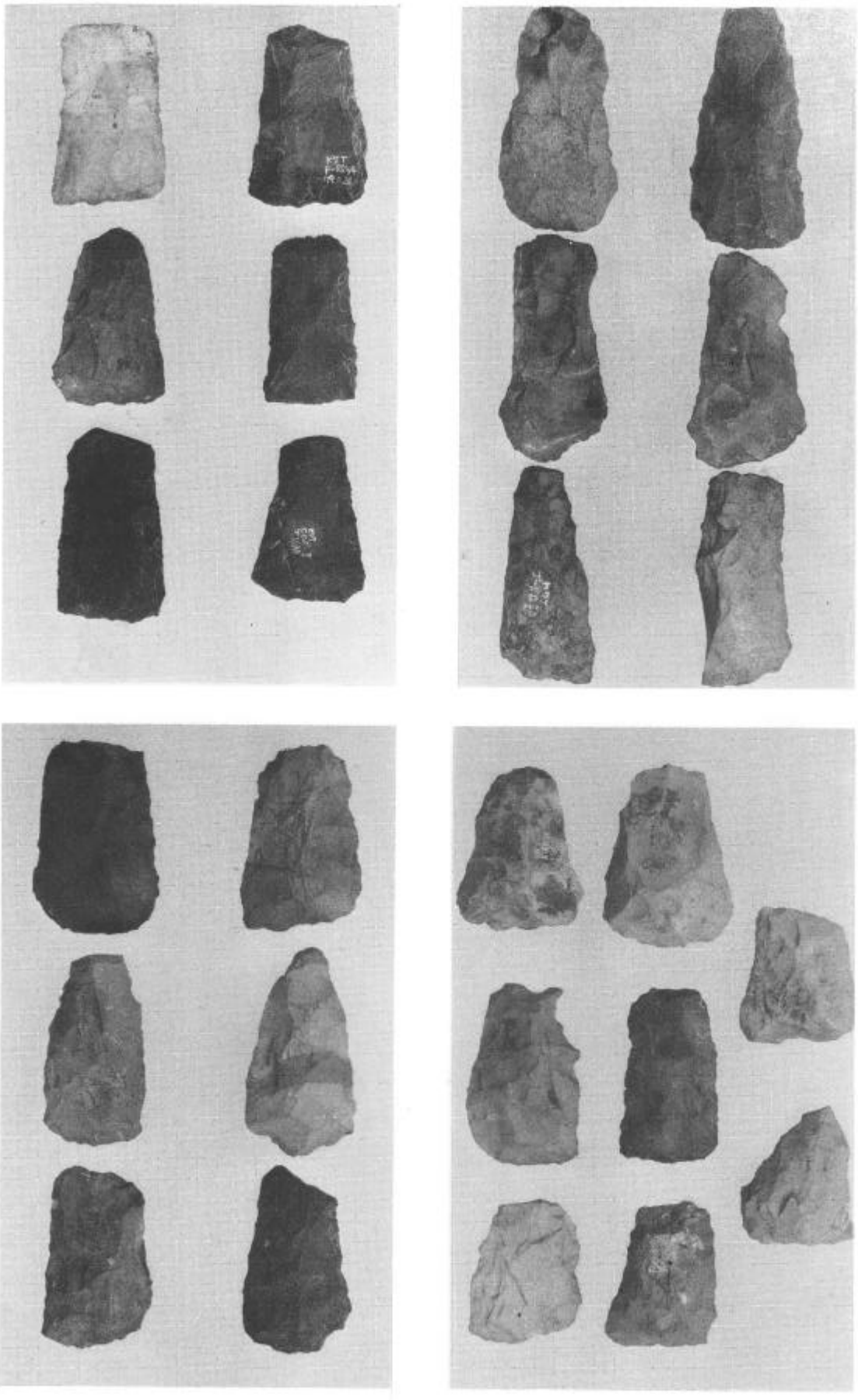
出土石器 b



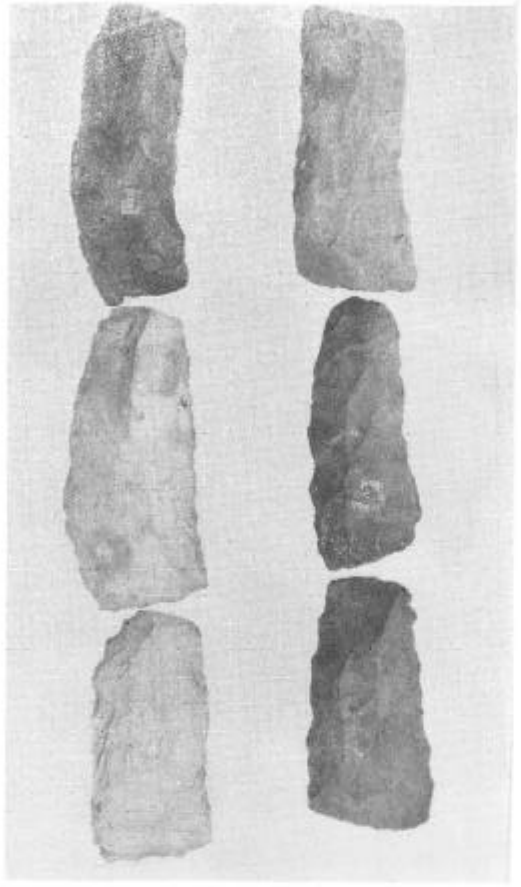
出土石器 b

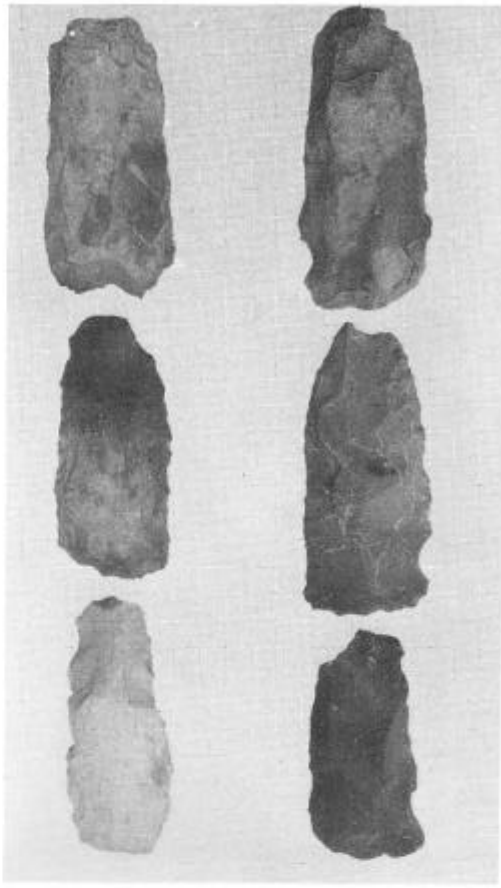


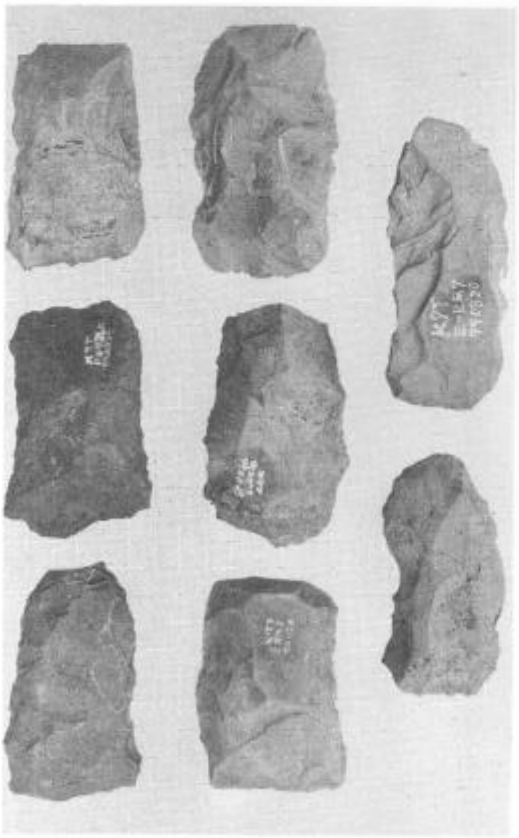
出土石器 b

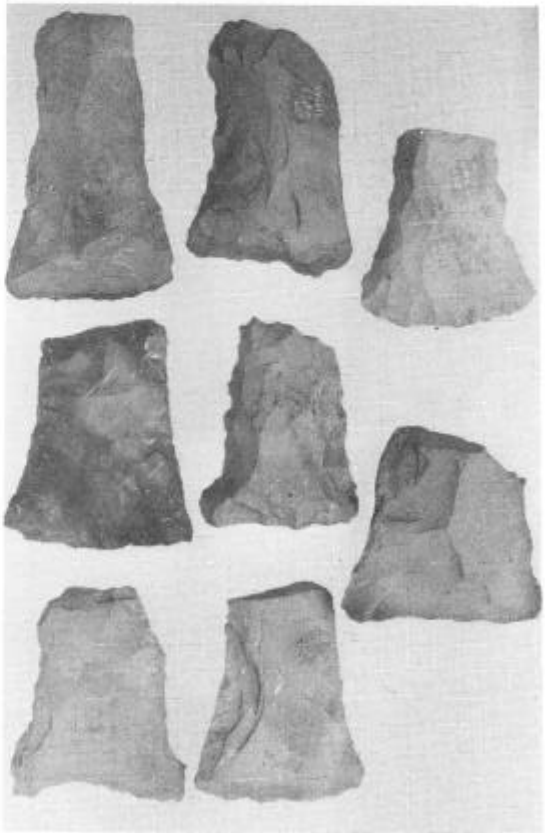


出土石器 b

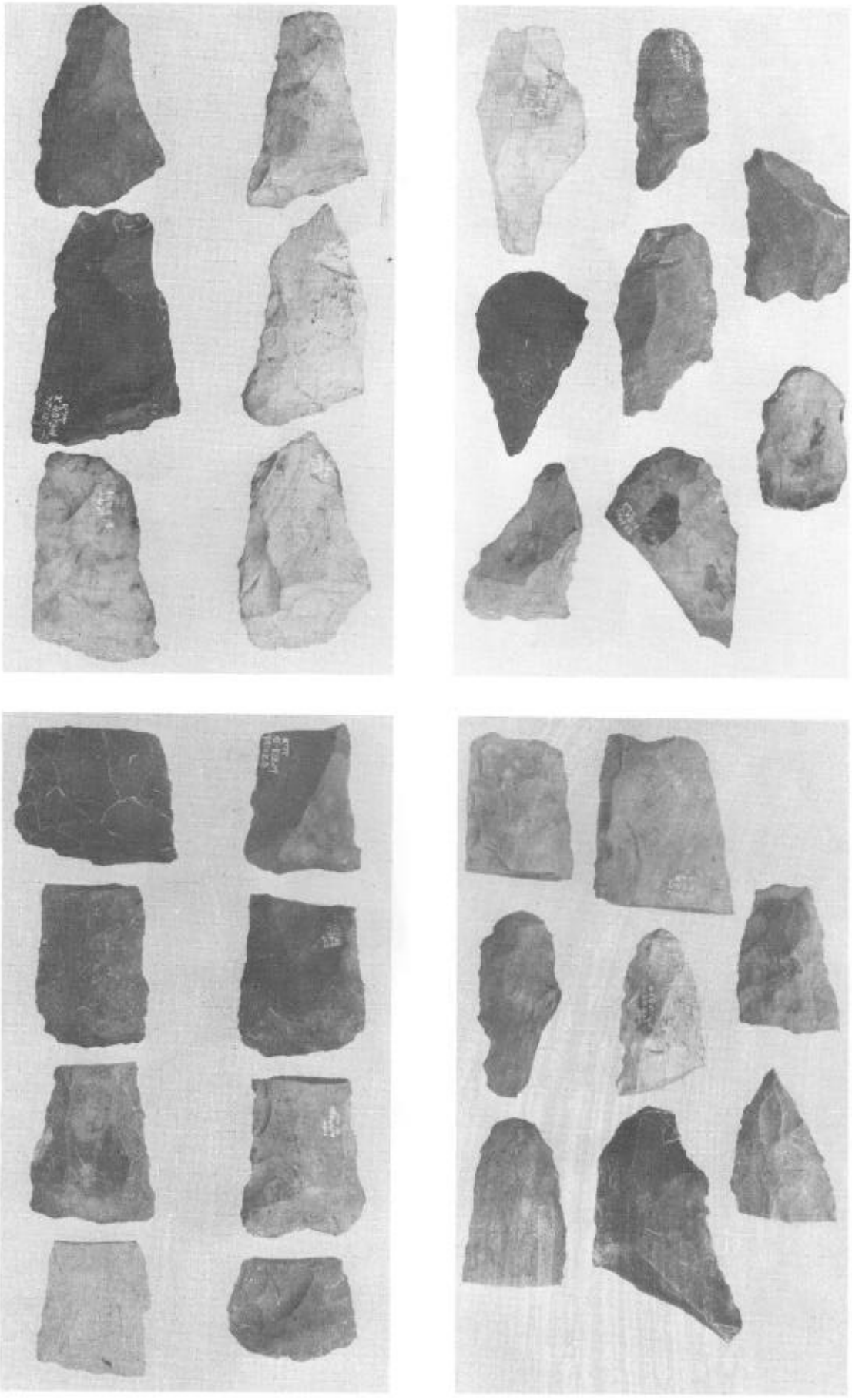




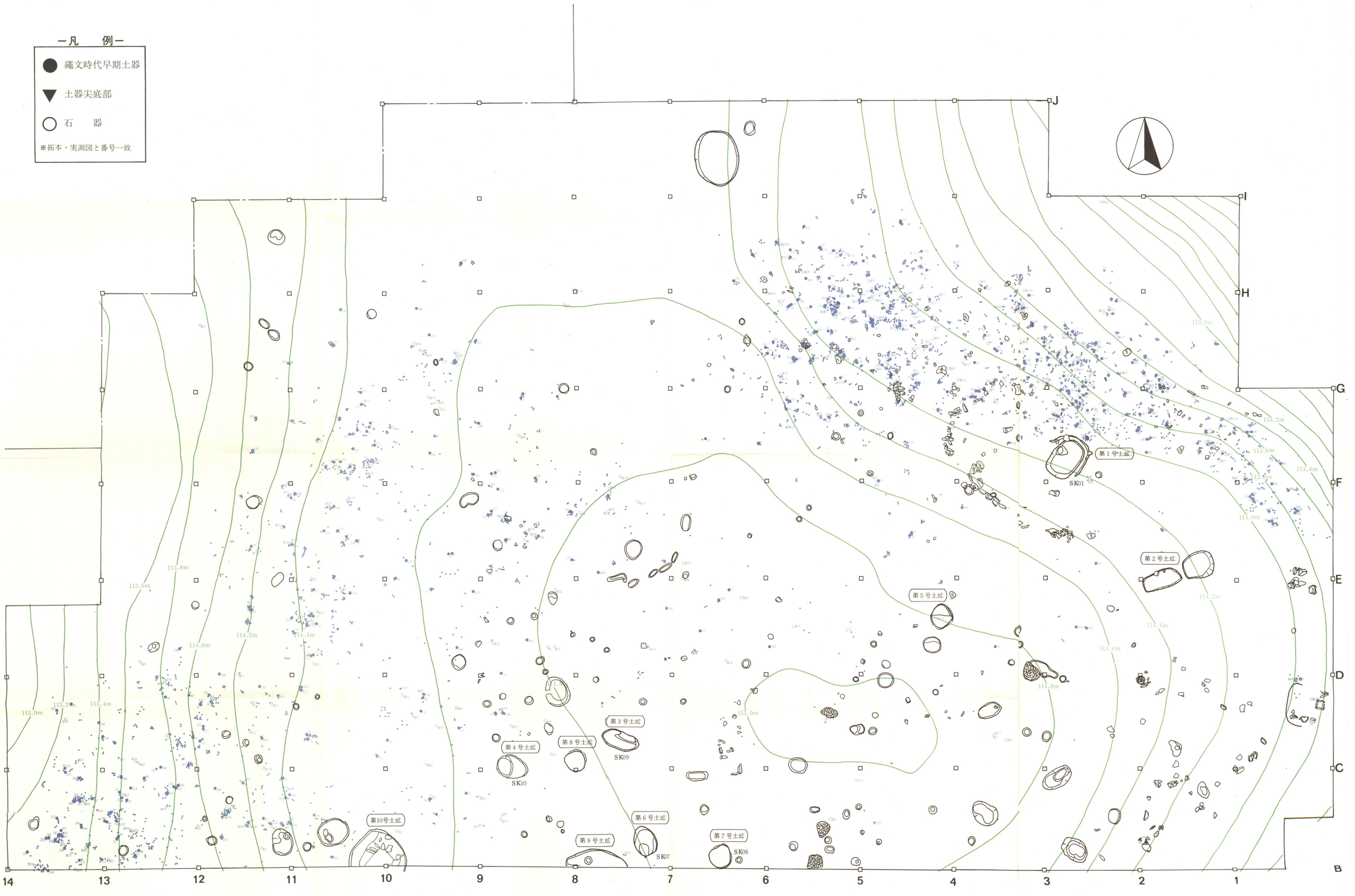




出土石器 b



出土石器 b



〈7〉付図　蔦ヶ長根Ⅳ遺跡縄文早期土器出土分布図

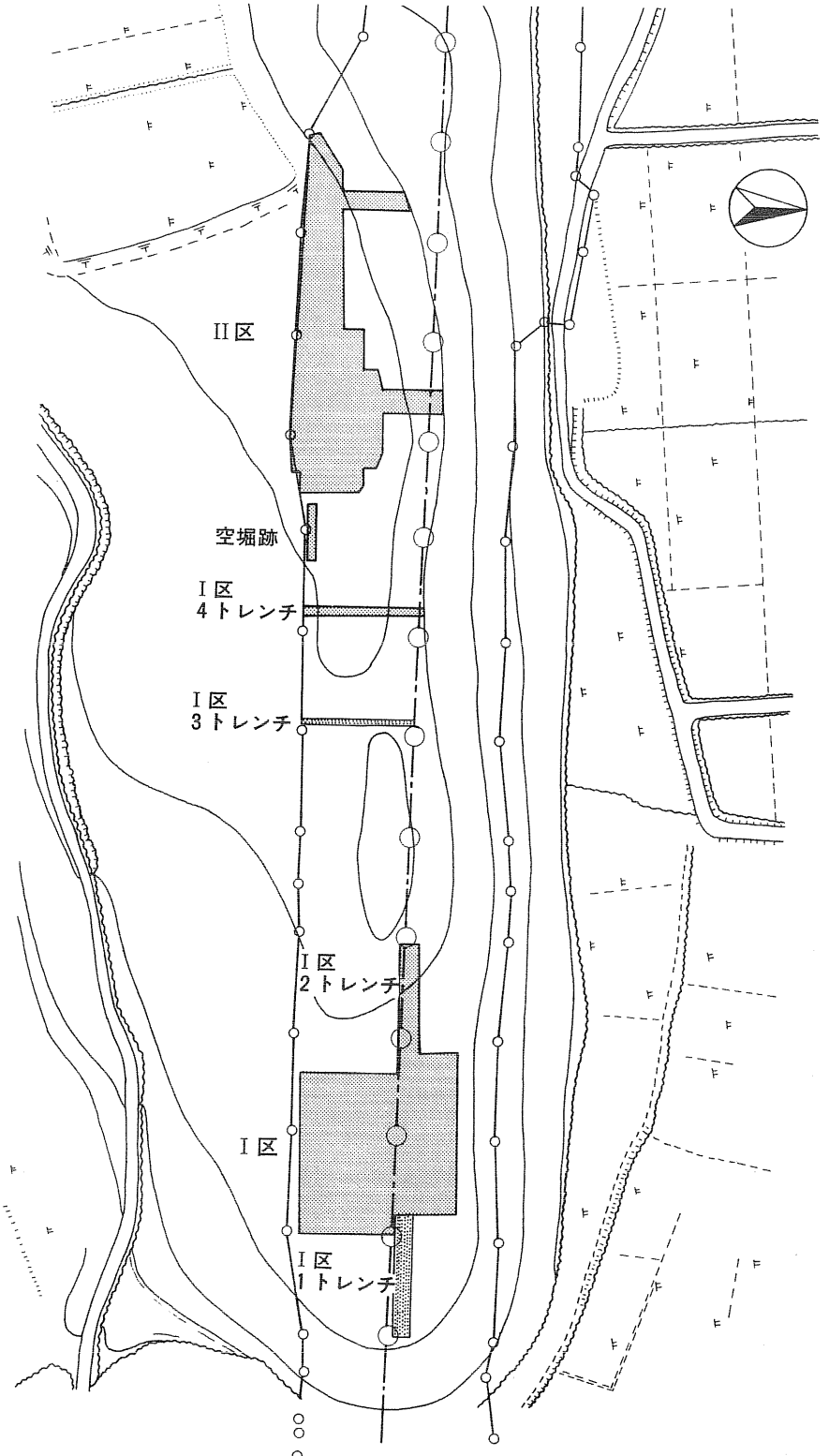
萩峠遺跡

遺跡記号　K８H

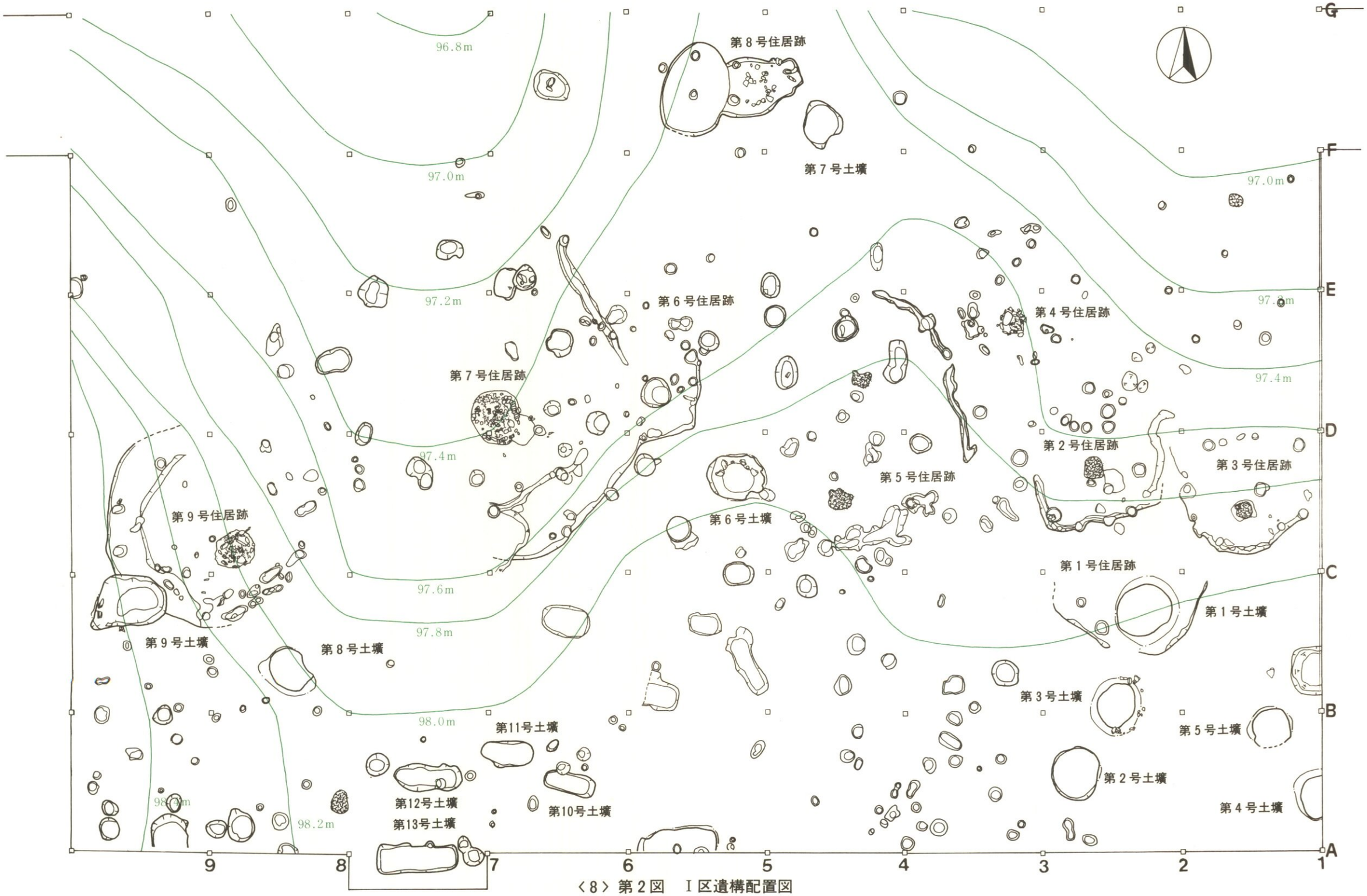
所在地　秋田県大館市軽井沢萩峠83他

調査対象面積　4,000㎡

調査期間　昭和54年４月25日～昭和54年11月８日



〈8〉第1図　I区・II区遺跡地形図

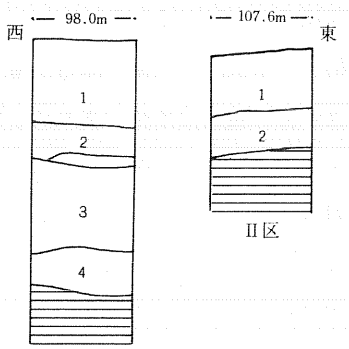


〈8〉第2図　Ⅰ区遺構配置図

◇概　要

萩峠遺跡は７遺跡の中で最も東に寄った遺跡である。米代川北岸の独立丘陵上に遺跡がある。路線は丘陵の北側を通る予定であり，それにかかる平坦部をⅠ～Ⅴ区に分けて調査を行った。なお中世の館跡としても伝えがあり，Ⅰ区では１～４トレンチを，Ⅱ区では１～３トレンチをⅣ区では１トレンチを設定し，斜面部分の調査を行った。現状は杉林，畑地，牧草地であり，Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ区では抜根作業にかなりの日数を費した。

土層は他の遺跡と比べて地山の明黄褐色土層までが深く，60～100㎝を測る。Ⅰ区では第１層めが黒褐色土層，第２層めが黒色土層，第３層めが黒褐色土層，第４層めが暗褐色土層と分れる。なお第２層めと第３層めの間に大湯浮石層が５～10cm堆積している。



※Ⅰ区土層

1	黒褐色土(10YR2／2)
2	黒色土(10YR2／1)
3	黒褐色土(10YR2／2)
4	暗褐色土(10YR3／4)

※Ⅱ区土層

1	黒色土(10YR1.7／1)
2	黒褐色土(10YR2／2)

◇検出遺構

Ⅰ区で住居跡が９軒，土壙が13基。Ⅱ区で住居跡１軒，建物跡２軒，土壙７基，空堀跡１，Ⅴ区で溝状土壙２基を検出した。Ⅰ区より順次説明を加えたい。

第１号住居跡（ＳＩ01）

〈位置・確認状況〉　Ｂ１，Ｂ２，Ｃ１，Ｃ２グリッドにまたがって検出された。確認面は明黄褐色火山灰層である。北東側で第３号住居跡に，北西側で第２号住居跡に接すると考えられる。炉跡は住居跡の南寄りにあるが，第１号土壙の上面に構築されている。

〈平面形・規模〉　北側半分は木根で攪乱され，判然としないが，円に近い隅丸方形あるいは長方形を呈すると考えられる。規模は東西幅で４ｍ前後である。

〈堆積土の状況〉　上面に黒色土層(10YR1.7／1)，黒褐色土層(10YR2／2)が堆積しており，確認面からの覆土はややしまりのよい黒褐色土層(10YR2／3)が堆積している。

〈壁・床面の状況〉　掘り込みは浅く，東側で確認できる壁高は５㎝である。床面は炉跡の周辺に向ってなだらかに落ち込んでいるが，炉跡周辺はきわめて堅緻で一部火熱を受けている。

〈柱穴〉　ピットは４個検出された。P_1，P_2は壁にそっており，P_3，P_4 は壁より離れている。床面からの深さは20cm前後で残い。

〈炉跡〉　南側に石組みの炉跡をもつ。偏平な河原石を立て中心に向けて放射状に組んでいる。

〈遺物出土状況〉　出土遺物は少ない。〈８〉第①図上―１～４が出土。

第2号住居跡（ＳＩ02）

〈位置・確認状況〉　Ｃ２グリッド内に検出された。確認面は明黄褐色火山灰層である。第１号住居跡が南側に，第４号住居跡が北側に，第５号住居跡が西側にあり，当住居跡はその中間にあたる。東側は第３号住居跡と接する。

〈平面形・規模〉　北側半分が落ち込み，判然としないが，円に近い隅丸方形を呈する。規模は東西幅で３ｍ90cmである。

〈堆積土の状況〉　上面に黒色土層(10ＹＲ1.7／1)，黒褐色土層(10ＹＲ2／2)が堆積しており，確認面からの覆土はややしまりのよい黒褐色土層(10ＹＲ2／3）である。

〈壁・床面の状況〉　掘り込みは浅く，南側で確認できる壁高は15cmである。南東側の壁に沿って周溝が走っている。深さは10cm前後である。床面はほぼ平坦である。

〈柱穴〉　ピットは15個以上検出された。P_1，P_2，P_3，P_{13}，P_{15}は壁に沿っており，P_5～P_{12}の北側のピットが対応するものと考えられる。床面からの深さは20～40cmである。

〈炉跡〉　住居跡のほぼ中央に地床炉がある。

〈遺物出土状況〉　出土遺物は少ない。底面より〈８〉第①図中―１～３が出土。

第3号住居跡（ＳＩ07）

〈位置・確認状況〉　Ｃ１，Ｃ２，Ｄ１グリッドにまたがって検出させた。確認面は明黄褐色火山灰層である。第１号住居跡の北東側，第２号住居跡の東側に位置し，西側で第２号住居跡と接する。

〈平面形・規模〉　南壁の状況および北側のピットの配列より円形を呈すると考えられる。規模は東西でやや幅が広く３ｍ80cm，南北で３ｍ50cm前後と推定される。

〈堆積土の状況〉　上面に黒色土層(10ＹＲ1.7／1)，黒褐色土層(10ＹＲ2／2)が堆積しており，確認面からの覆土は炭化物粒子が混在した黒色土層(10ＹＲ2／1)である。

〈壁・床面の状況〉　南壁に沿って周溝が一部でみられる。南側で壁高は10cm前後であるが，北側は判然としない。床面は南側で平坦で炉跡周辺は堅緻である。

〈柱穴〉　ピットは７個以上検出された。いずれも柱穴と考えられ，壁際によっている。床面からの深さは13～20cmで浅い。

〈炉跡〉　住居跡の中央から南寄りに位置し，地床炉である。

〈遺物出土状況〉　覆土上面および覆土内から多量の遺物が出土した。〈８〉第①図―１，２第②図―１，２，第⑰図―１～15が出土。

第4号住居跡（ＳＩ03）

〈位置・確認状況〉　Ｄ２，Ｄ３，Ｅ２，Ｅ３グリッドにまたがって検出された。確認面は明黄褐色火山灰層である。第１，２，３号住居跡群が南東側に，第５号住居跡が南西側に位置する。

〈平面形・規模〉　ピットの配列よりほぼ円形を呈すると考えられる。炉跡の中心を軸線として南北に４ｍ，東西に４ｍを測る。炉跡の南側に二個並列にならべた配石が存在する。

〈堆積土の状況〉　上面の堆積土は比較的浅く，深さが20～30cmである。黒褐色土層（10ＹＲ2／2）が堆積している。確認面からの覆土は暗褐色土層（10ＹＲ3／3）である。

〈壁・床面の状況〉　確認当初西側にわずかながら落ち込みを検出した。底面は平坦で炉跡周辺は堅緻である。

〈柱穴〉　ピットは15個以上検出された。P_3，P_5，P_6は周溝にともなうピットとも考えられる。内側のP_2，P_4，P_7，P_8，P_9が柱穴と考えられる。床面からの深さは20～30cmである。

〈炉跡〉　比較的大きい石を方形に組んでいる。炉跡の内側に焼土の堆積が厚い。

〈遺物出土状況〉　覆土上面より炉跡の周辺を中心として多量の土器が出土した。縄文を施した深鉢型土器が３点出土している。〈８〉第③・④図―１～９が出土。

第5号住居跡（ＳＩ05）

〈位置・確認状況〉　Ｃ３～５，Ｄ３～５グリッドにまたがって検出された。確認面は明黄褐色火山灰層である。調査区のほぼ中央に位置しており，北西側に第６号住居跡の炉跡を掘り込んだ柱穴がある。西側の柱穴は第７号住居跡の壁と接している。

〈平面形・規模〉　柱穴の配列よりほぼ円形を呈すると考えられる。東西幅10ｍ，南北幅９ｍである。

〈堆積土の状況〉　上面に黒色土層(10ＹＲ1.7／1)，黒褐色土層(10ＹＲ2／2)が堆積している。確認面からの覆土は炭化物粒子が混在した黒褐色土層(10ＹＲ2／3）である。

〈壁・床面の状況〉　壁は確認できなかった。東側に約６ｍの長さで周溝が走る。周溝の幅は20cm前後，深さ５cmである。床面はほぼ平坦である。

〈柱穴〉　住居跡のかかるグリッド内からは多くのピットが検出された。P_1～P_{12}が主柱穴と考えられる。柱間距離は等しく２ｍを測る。柱穴の直径は70cm前後，深さは60cm前後である。

〈炉跡〉　住居跡の中央より南寄りに地床炉がある。

〈遺物出土状況〉　出土遺物は少ない。Ｃ４グリッド内のPitから〈８〉第⑯図―15が出土。Ｃ６グリッドのP_{10}より第⑨図―18が出土。

第6号住居跡（ＳＩ06）

〈位置・確認状況〉　Ｄ５，Ｄ６グリッドに検出された。確認面は明黄褐色火山灰層である。第７号住居跡が西側半分を掘り込んでおり，第５号住居跡の柱穴が炉跡を掘り込んでいる。新旧関係は第６号住居跡がいちばん古く，第５号，第７号と構築されて行ったと考えられる。

〈平面形・規模〉　南東側の一辺が確認されただけで規模・平面形は判然としないが，ほぼ円形を呈し，幅は３ｍ前後である。

〈堆積土の状況〉　上面に黒色土層(10ＹＲ1.7／1)，黒褐色土層(10ＹＲ2／2)が堆積しており，確認面からの覆土は炭化物粒子が混在した黒色土層(10ＹＲ2／1)である。

〈壁・床面の状況〉　東側での壁高は10cm前後である。床面は平坦で比較的堅緻である。北西側に第７号住居跡の周溝が走っている。

〈柱穴〉　壁に沿ってピット列があるが，配列は不規則であり，とくに西側の掘り込まれた部分が判然としない。ピットの直径は大小があり，深さは20cm前後である。

〈炉跡〉　住居跡の中央から南寄りに位置している。北側に焼石がわずかに残る。

〈遺物出土状況〉　東側のピット内から土器・石器が出土した。〈８〉第⑤図―１～８が出土。

第7号住居跡（ＳＩ08）

〈位置・確認状況〉　Ｄ６，Ｄ７，Ｄ８，Ｃ７，Ｃ８，Ｅ７，Ｅ８グリッドにまたがって検出された。確認面は明黄褐色火山灰層である。第６号住居跡の西側を掘り込んでおり，第５号住居跡の柱穴が南東側で接する。

〈平面形・規模〉　南側の一辺と東側の周溝から推定すると，平面形は楕円形を呈し，規模は南北の長軸が10ｍ，東西の短軸が９ｍである。

〈堆積土の状況〉　上面には黒色土層(10ＹＲ1.7／1)，黒褐色土層(10ＹＲ2／2)が堆積し，中位に大湯浮石層が入る。確認面からの覆土は炭化物粒子が混在した黒褐色土層(10ＹＲ2／2)である。

〈壁・床面の状況〉　南側の壁高は10cm前後である。北側に向って地山が落ち込み，二カ所で倒木痕跡もみられる。地山の上面に堅い黒褐色土層があり，北側の床面であったと考えられる。

〈柱穴〉　ピットは20個以上検出された。南側で床面が一段下り，段に沿ったP_1～P_{15}が主柱穴と考えられる。主柱穴の規模は直径が50～70cm，深さ70cm前後である。P_1はやや傾斜がある。

〈炉跡〉　住居跡の中央からやや南寄りにある。不整形な石を一列の円形に組んでいる。

〈遺物出土状況〉　土器，石器等の遺物が住居内より多量に発見された。床面より出土したのは〈８〉第⑥図―９で，第⑥図～第⑩図は覆土内の発見である。なお南側の床面に炭化材が検出され，中央部覆土中位で酸化鉄の分布がみられた。

第８号住居跡（ＳＩ10）

〈位置・確認状況〉　Ｆ４，Ｆ５グリッドにまたがって検出された。確認面は明黄褐色火山灰層である。第５号住居跡の北側にあり，住居跡群の最も北側に位置している。第８号住居跡の北側は深く落ち込み。遺構の検出はできなかった。

〈平面形・規模〉　平面形ないし規模については地山上でできるだけ確認につとめたが，不明な点が多い。西側で円形を呈する。規模は東側の炉跡を入れて４ｍ前後である。

〈堆積土の状況〉　上面から黒色土層(10ＹＲ1.7／1)，黒褐色土層(10ＹＲ2／2)が堆積しており，西側の確認面からの覆土はやや軟質の暗褐色土層(10ＹＲ3／3)である。

〈壁・床面の状況〉　西側の壁はなだらかに落ち込み，壁高は５cm前後である。底面は平坦である。炉跡周辺は根による攪乱が激しい。

〈柱穴〉　西側の落ち込み部分にP_1～$P_4$４個のピットを検出したが，いずれも深さ15cm前後で浅い。

〈炉跡〉　住居跡の東側に炉跡がある。石組みである。

〈遺物出土状況〉　覆土内より比較的多くの遺物が出土した。〈８〉第⑪図上が出土。

第９号住居跡（ＳＩ09）

〈位置・確認状況〉　Ｂ８，Ｂ９，Ｃ８，Ｃ９にまたがって検出された。確認面は明黄褐色火山灰層である。第７号住居跡の南西側で，住居跡群の最も西側に位置している。さらに西側は上りの傾斜面となっている。南西側に第９号土壙が接する。

〈平面形・規模〉　北東側が落ち込み，判然としないが，平面形はほぼ円形を呈しており，規模は南北の長軸が６ｍ前後である。

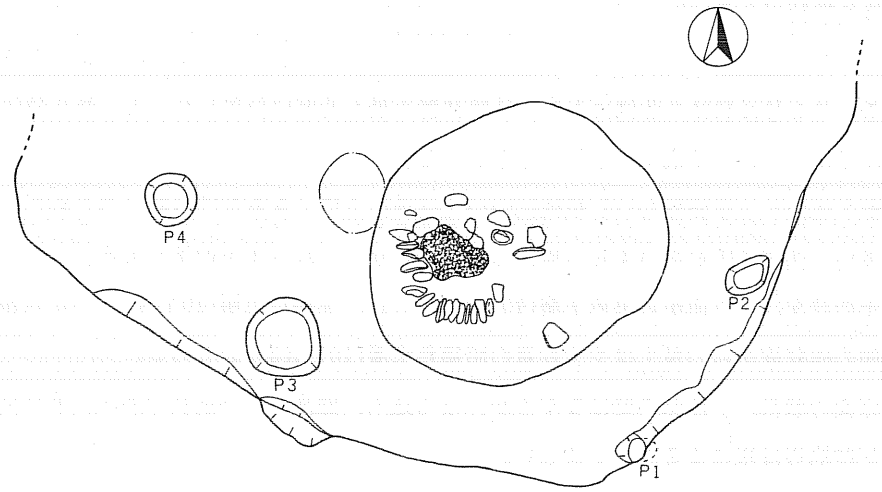
〈堆積土の状況〉　上面から黒色土層(10ＹＲ1.7／1)，黒褐色土層(10ＹＲ2／1)が堆積し，確認面からの覆土は炭化物粒子が混在した黒褐色土層(10ＹＲ2／2)である。

〈壁・床面の状況〉　西側での壁高は５cm前後である。内側で一段低くなっており，内側の床面は平坦で堅緻である。

〈柱穴〉　壁際に沿って一列，内側の段上に一列，合せて二列のピット列がある。内側に入ったものが主柱穴と考えられる。柱穴の直径は20cm前後，深さも20cm前後で浅い。

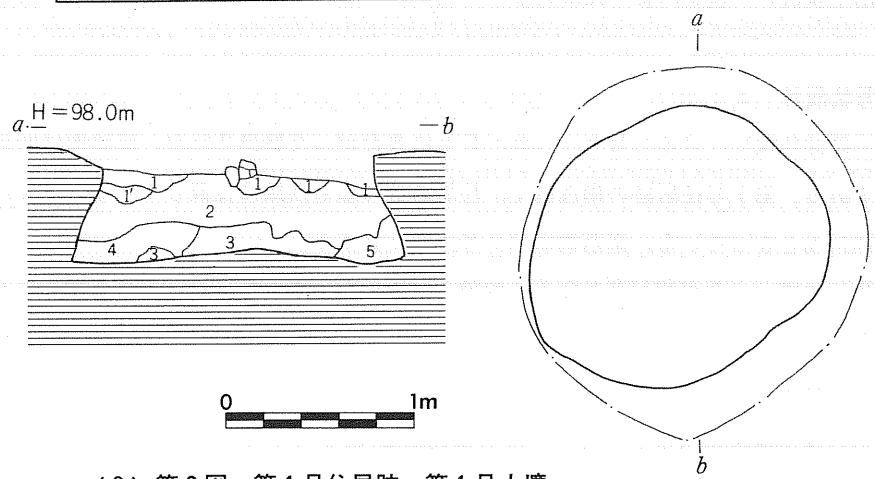
〈炉跡〉　住居跡の中央から南寄りにある。地山下の安山岩を使用して炉の外を囲っている。

〈遺物出土状況〉　比較的遺物の出土があり，床面からの出土が多い。〈８〉第⑫図―１～９が出土しており，１の深鉢形土器は住居跡の炉跡周辺に横たわって発見された。



※第１号住居跡Pit深さ一覧表

Pit No.	P1	P2	P3	P4
確認面から深さ (cm)	29	20	25	18



〈8〉第３図　第１号住居跡，第１号土壙

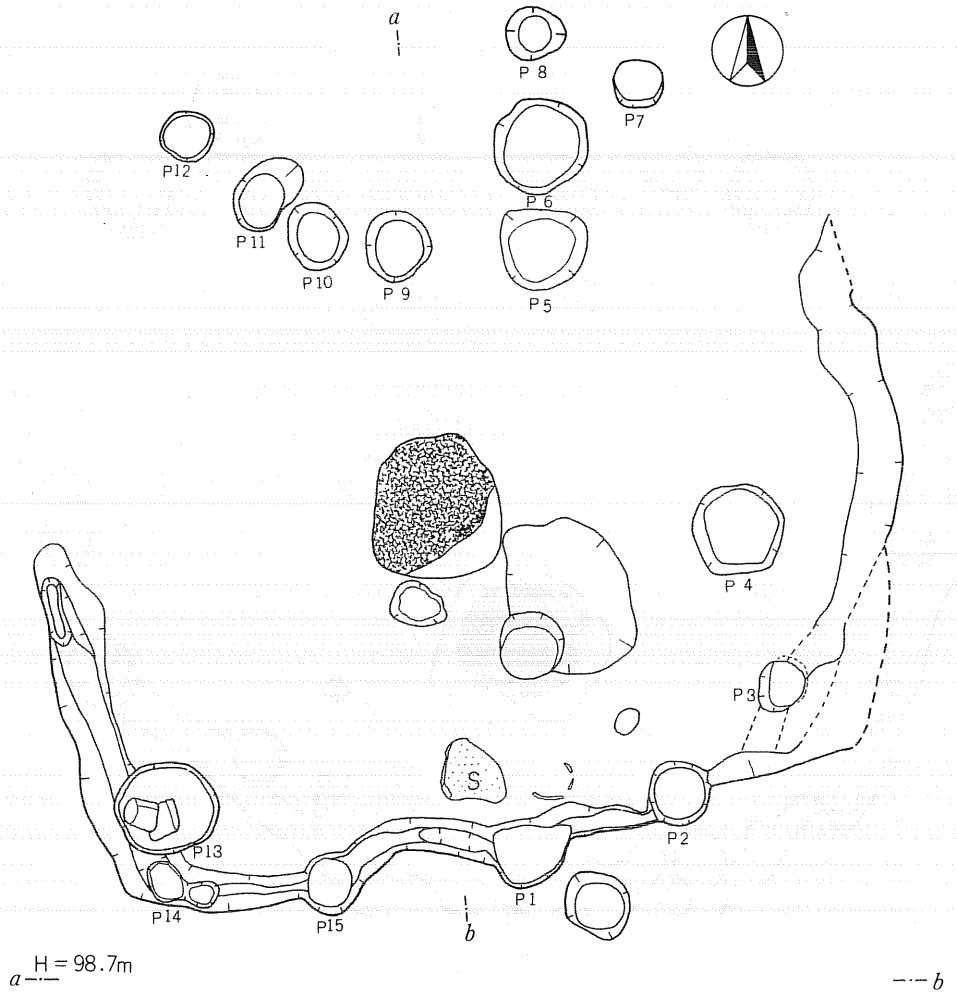
第１号土壙（ＳＫ03）

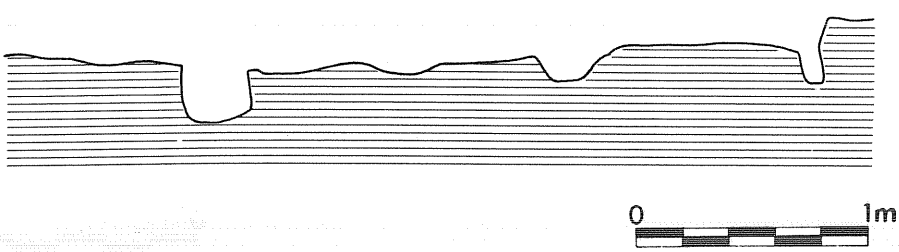
〈位置・確認状況〉　Ｂ２グリッドの北東側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。上に第１号住居跡の炉跡が構築されている。

〈平面形〉 円形　　‖規模‖　口径 1.4m，底径 1.9m
〈堆積土の状況〉 覆土の土質はほぼ一様である。
〈断面の形状〉 円錐状を呈している。　‖確認面からの深さ‖　50cm
〈壁・底面の状況〉 壁は斜めに入り込み，底面はやや上げ底状を呈する
〈遺物出土状況〉 土壙内より土器片が数点出土。

※堆積土層

1	暗褐色土(10Y R3／3)軟質
2	黒褐色土(10Y R2／2)
3	黒褐色土(10Y R2／2)
4	黒褐色土(10Y R2／2)
5	黒褐色土(10Y R2／2)
b	明黄褐色土(10Y R6／8)地山同

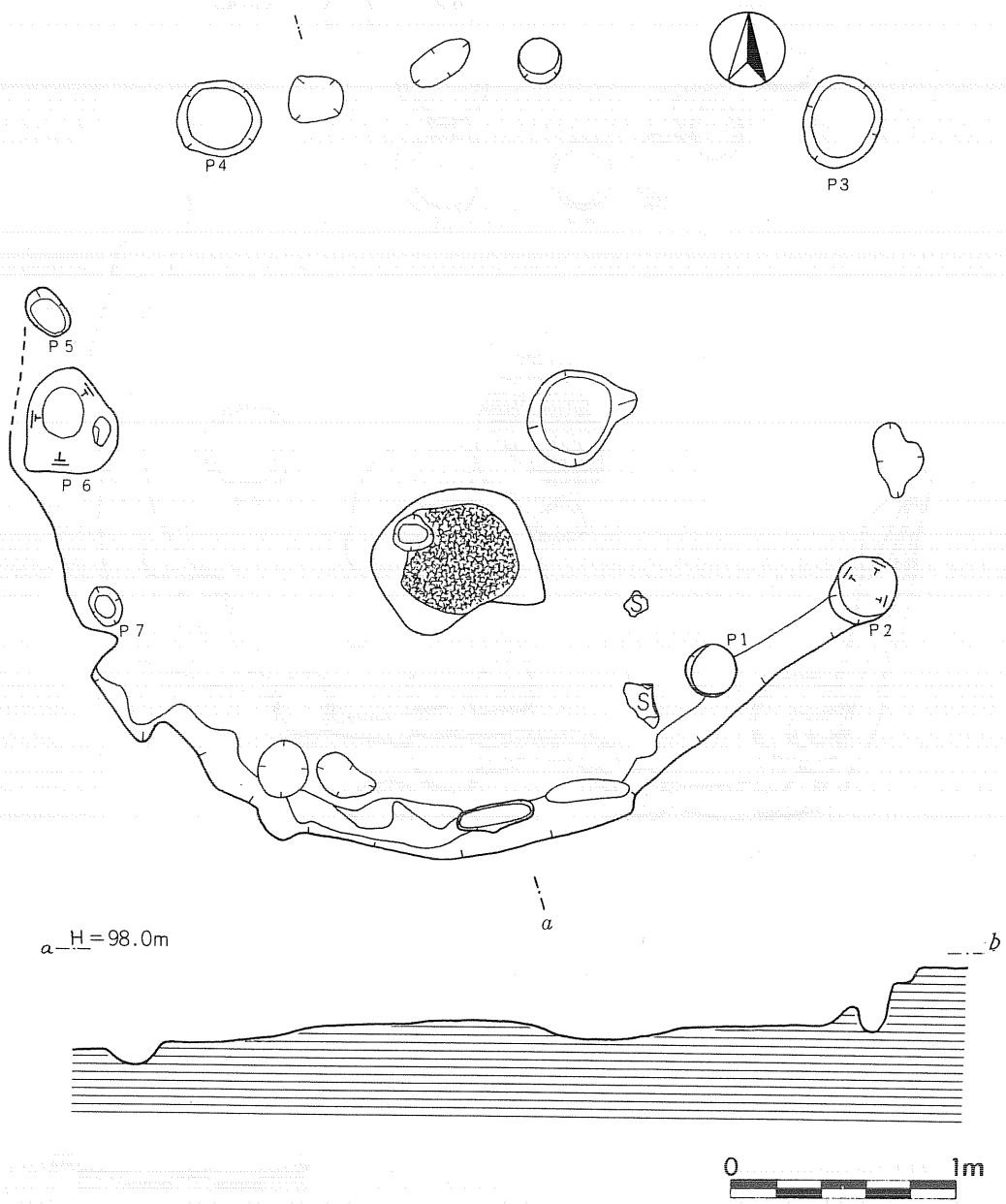




※第２号住居跡Pit深さ一覧表

Pit No,	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14	P15
確認面から深さ（cm）	32	45	28	29	11	25	34	32	30	27	28	21	37	40	26

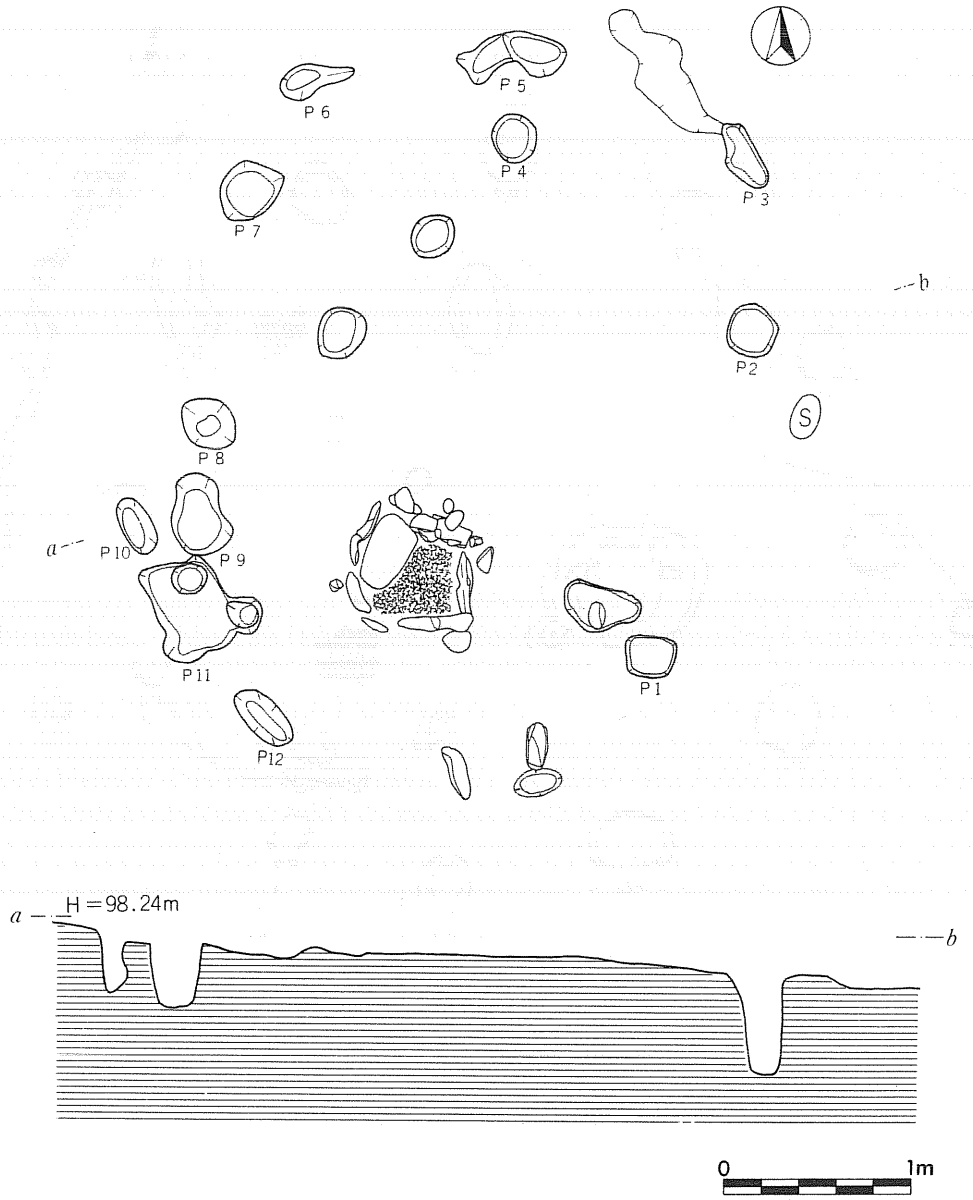
〈8〉第４図　第２号住居跡



※第3号住居跡Pit深さ一覧表

Pit No.	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7
確認面から深さ (cm)	19	13	18	20	13	17	15

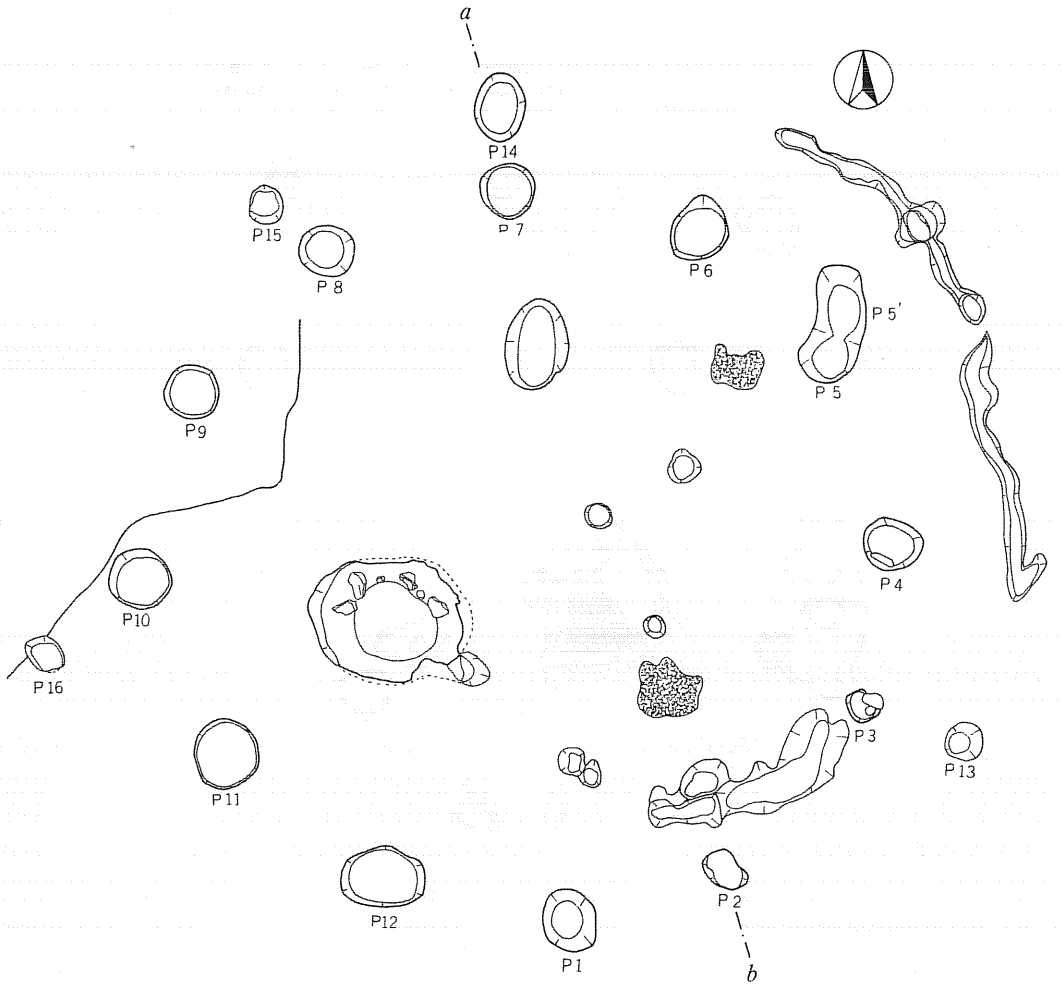
〈8〉第5図　第3号住居跡

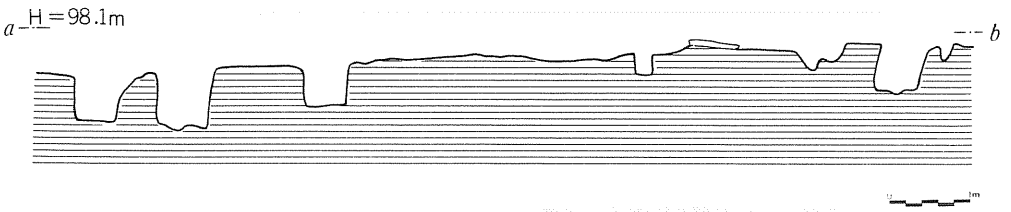


※第４号住居跡Pit深さ一覧表

Pit No.	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12
確認面から深さ（cm）	41	52	17	57	21	30	71	28	39	31	30	11

〈8〉第６図　第４号住居跡

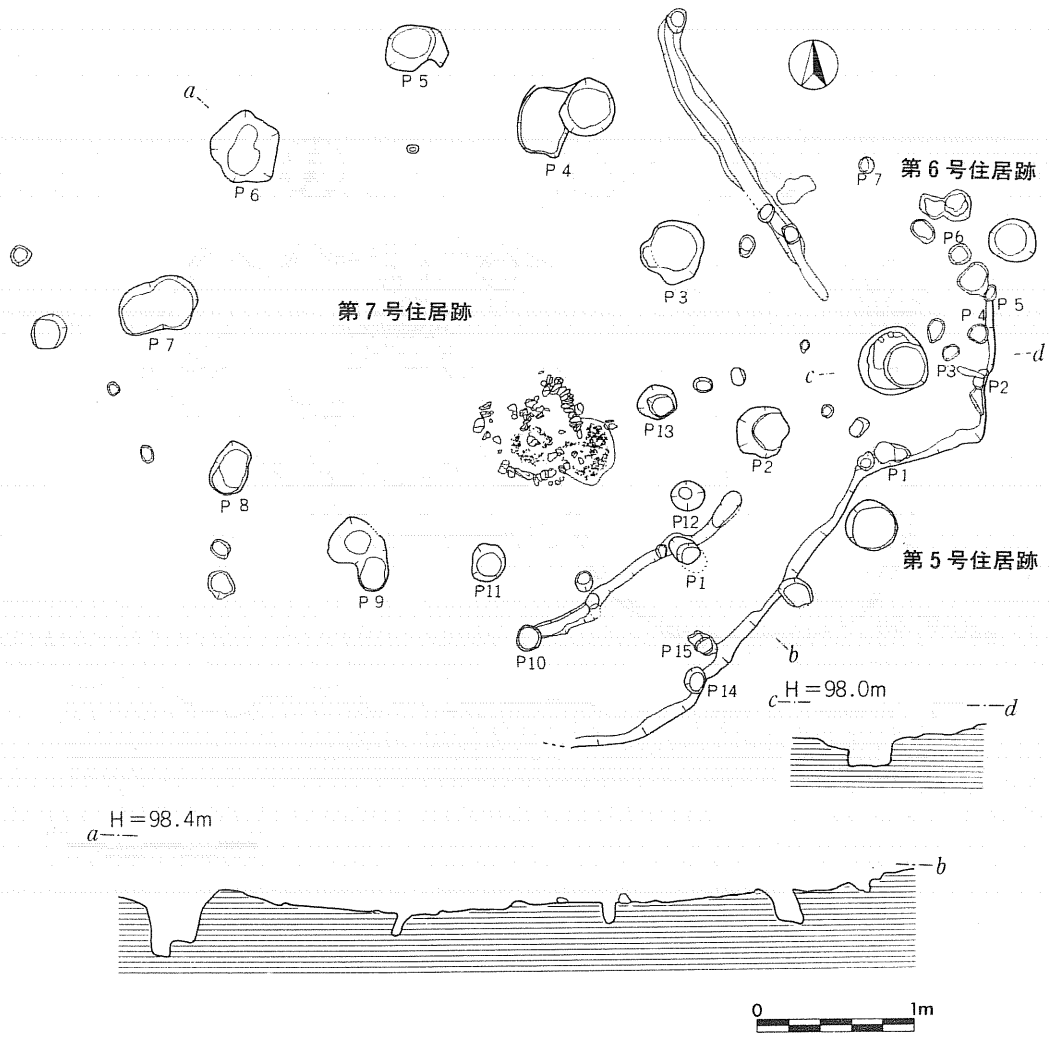




※第５号住居跡Pit深さ一覧表

Pit No.	P_1	P_2	P_3	P_4	P_5	P_6	P_7	P_8	P_9	P_{10}	P_{11}	P_{12}	P_{13}	P_{14}	P_{15}	P_{16}
確認面から深さ（cm）	55	58	37	56	53	57	65	42	33	38	74	75	58	49	40	33

〈8〉第７図　第５号住居跡



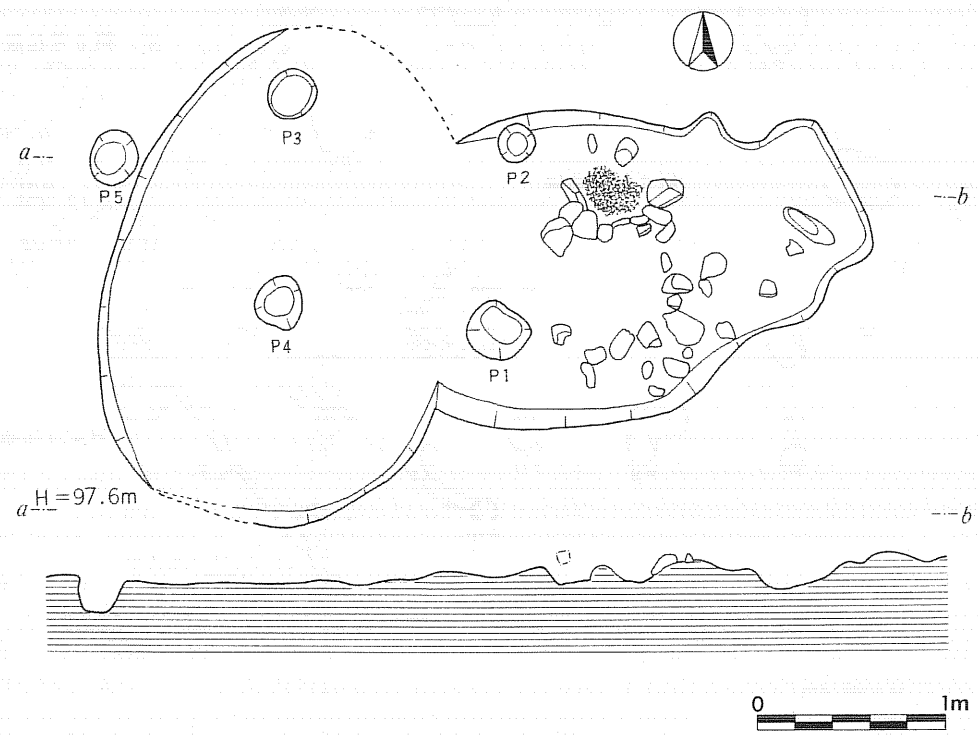
※第6号住居跡Pit深さ一覧表

Pit No.	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7
確認面から深さ (cm)	26	27	28	19	26	14	20

※第7号住居跡Pit深さ一覧表

Pit No.	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14	P15
確認面から深さ (cm)	43.5	55.5	55	59	46	69	33	41	52	38	48	38	59	34	31

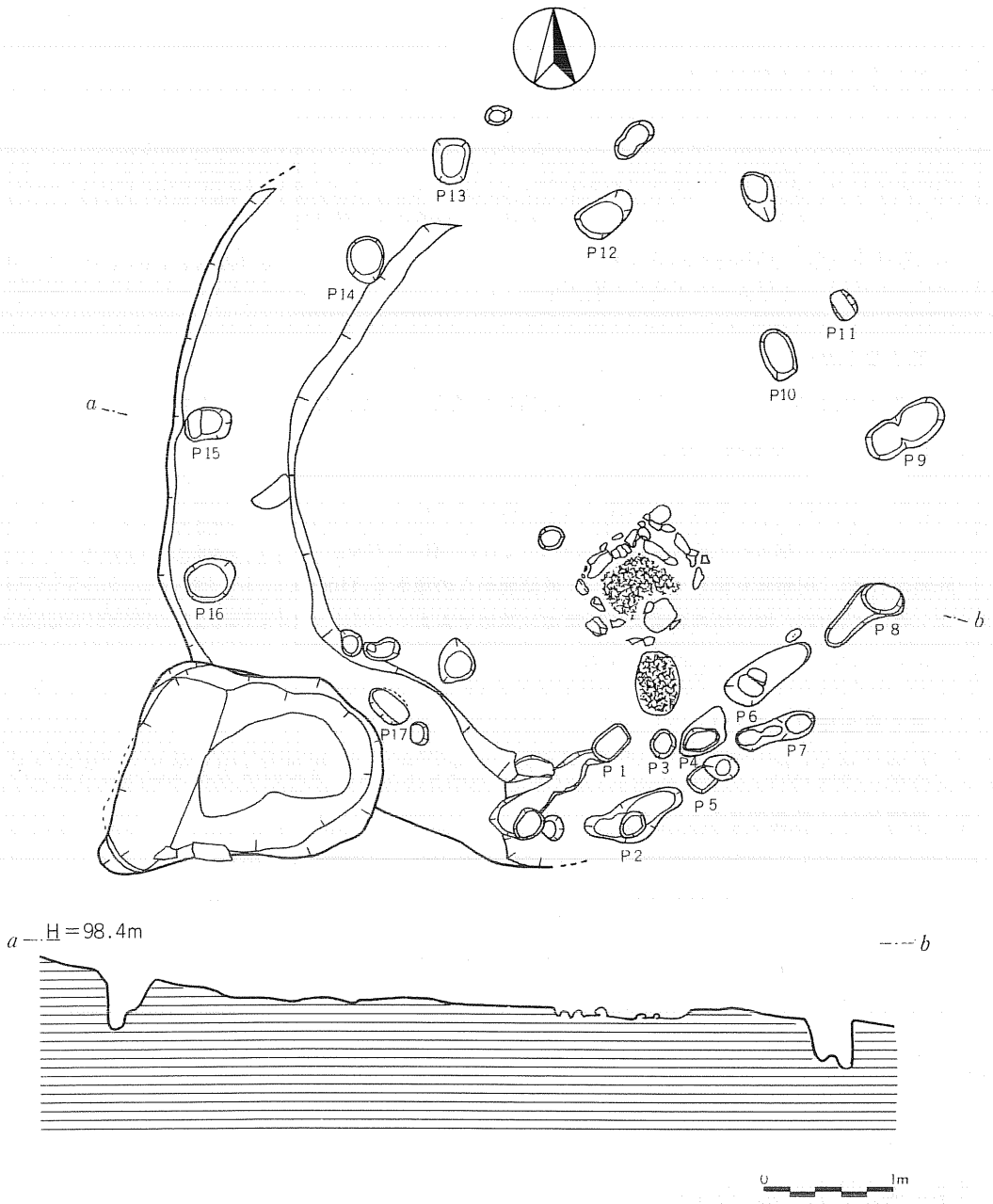
〈8〉第8図　第6，7号住居跡



※第８号住居跡Pit深さ一覧表

Pit No.	P1	P2	P3	P4	P5
確認面から深さ（cm）	19	14	19	4	21

〈8〉第９図　第８号住居跡



※第9号住居跡Pit深さ一覧表

Pit No.	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17
確認面から深さ(cm)	24	17	18	22	31	18	26	29.5	23	28	22	30	10	39	7	31	40

〈8〉第10図　第9号住居跡

第２号土壙（ＳＫ01）

〈位置・確認状況〉　Ａ２グリッドの西側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。第３号土壙の南側にある。

〈平面形〉　円形	‖規模‖　口径 1.3m，底径 1.4m
〈堆積土の状況〉　四レンズ状に堆積している。	
〈断面の形状〉　袋状を呈している。	‖確認面からの深さ‖　80cm
〈壁・底面の状況〉　底面は鍋底状を呈している。	
〈遺物出土状況〉　土壙内より土器片が数点出土。	

※堆積土層

1	黒色土(10Y R2／1)
2	黒褐色土(10Y R2／2)
3	黒褐色土(10Y R2／2)
4	黄褐色土(10Y R5／4)
5	暗褐色土(10Y R3／4)
6	黒褐色土(10Y R3／2)
b	明黄褐色土(10Y R6／8)地山同

第３号土壙（ＳＫ02）

〈位置・確認状況〉　Ａ２グリッドの北側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。第１号住居跡の南側にある。

〈平面形〉　楕円形	‖規模‖　口径 1.1m，底径 1.5m
〈堆積土の状況〉　覆土の土質はほぼ一様であるが，上下二層に分れる。	
〈断面の形状〉　円錐状を呈している。	‖確認面からの深さ‖　110cm
〈壁・底面の状況〉　壁は凹凸があるが，底面は平坦である。	
〈遺物出土状況〉　〈８〉第⑬図－１が出土。	

※堆積土層

1	黒褐色土(10Y R2／2)
2	黒褐色土(10Y R2／3)
3	黒褐色土(10Y R2／3)炭化物混
4	黒色土(10Y R2／1)堅い．
b	明黄褐色土(10Y R7／6)地山同

第４号土壙（ＳＫ24）

〈位置・確認状況〉　Ａ１グリッドの東側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。東側半分は調査できなかった。

〈平面形〉　円形	‖規模‖　口径 1.2m，底径 1.4m
〈堆積土の状況〉　中位に倒木痕跡があり，二層に大きく分れる。	
〈断面の形状〉　袋状を呈している。	‖確認面からの深さ‖　90cm
〈壁・底面の状況〉　底面は平坦である。	
〈遺物出土状況〉　〈８〉第⑪図下－３・４が出土。	

※堆積土層

1	黒色土(10Y R2／1)
2	暗褐色土(10Y R3／4)
3	黄褐色土(10Y R4／3)
4	黄褐色土(10Y R4／3)
5	暗褐色土(10Y R3／4)
6	黒色土(10Y R2／1)
7	黒褐色土(10Y R3／2)炭化物混
b	明黄褐色土(10Y R6／8)地山同

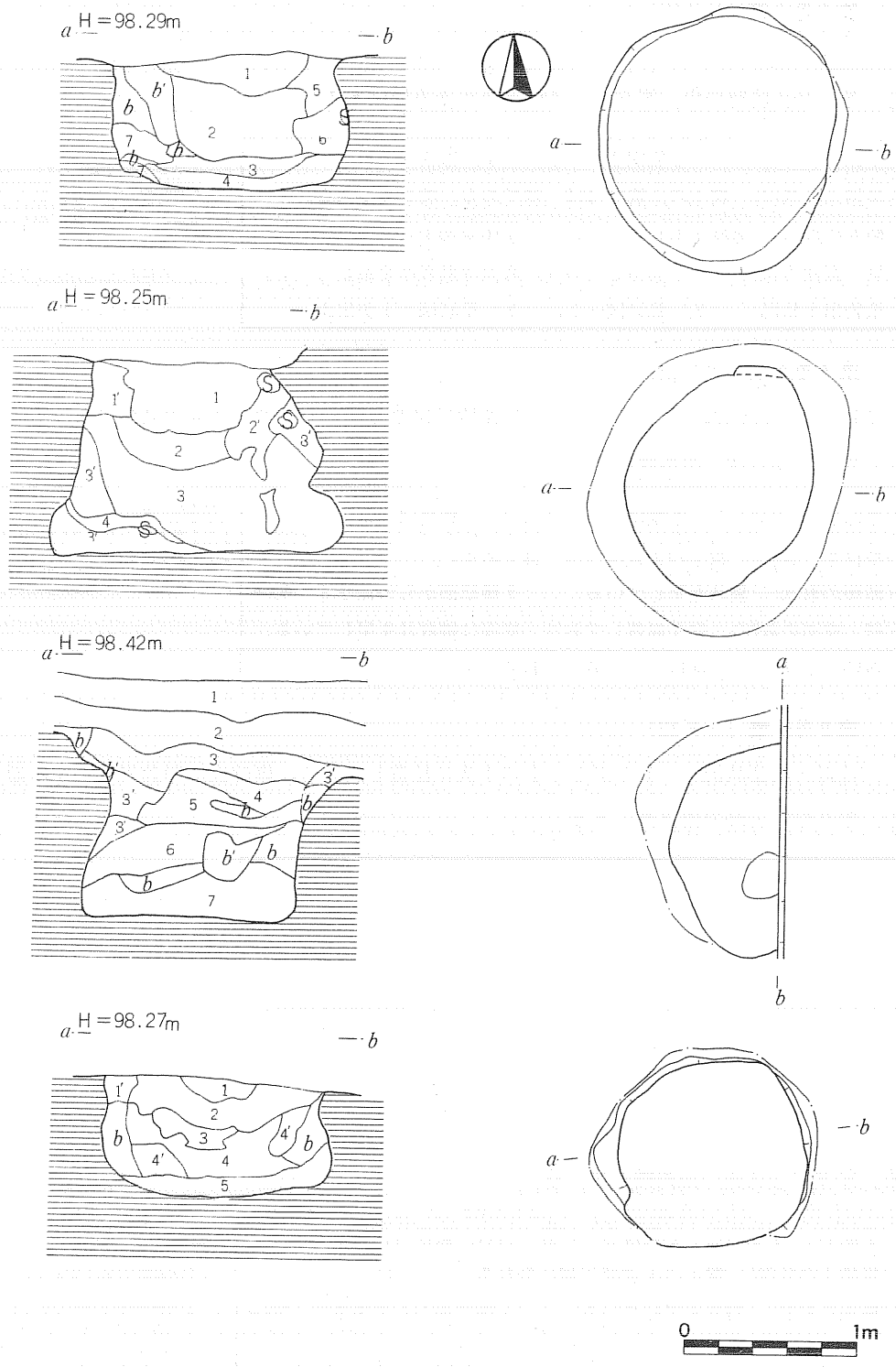
第５号土壙（ＳＫ19）

〈位置・確認状況〉　Ａ１グリッドの北東側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。南側半分は削平されている。

〈平面形〉　円形	‖規模‖　口径 1.2m，底径 1.3m
〈堆積土の状況〉　覆土の土質はほぼ一様である。	
〈断面の形状〉　袋状を呈している。	‖確認面からの深さ‖　70cm
〈壁・底面の状況〉　底面は鍋底状を呈している。	
〈遺物出土状況〉　出土遺物はない	

※堆積土層

1	黒色土(10Y R2／1)
2	黒褐色土(10Y R2／3)
3	黒褐色土(10Y R2／3)炭化物混
4	黒褐色土(10Y R2／3)
5	暗褐色土(10Y R3／3)
b	明黄褐色土(10Y R6／8)地山同



〈8〉第11図　第2，3，4，5号土壙

第６号土壙（ＳＫ10）

〈位置・確認状況〉　Ｃ５グリッドの東側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。第５号住居跡の中，第６，７号住居跡の南東側にある。

〈平面形〉　円形	‖規模‖　口径 1.6m，底径 0.8m	
〈堆積土の状況〉　覆土の土質はほぼ一様である。礫が多く入る。		
〈断面の形状〉　袋状を呈している。	‖確認面からの深さ‖	60cm
〈壁・底面の状況〉　壁が崩落しており，底面は鍋底状を呈している。		
〈遺物出土状況〉　〈８〉第⑲図―３，〈８〉第⑪図―１が出土。		

※堆積土層

1	黒色土(10Ｙ Ｒ2／1)
2	黒褐色土(10Ｙ Ｒ2／2)
3	黒褐色土(10Ｙ Ｒ2／2)
4	黒褐色土(10Ｙ Ｒ2／3)
5	黒褐色土(10Ｙ Ｒ2／3)軟質

第７号土壙（ＳＫ18）

〈位置・確認状況〉　Ｆ４グリッドの南側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。第８号住居跡の南東側にある。

〈平面形〉　円形	‖規模‖　口径 1.1m，底径 1.0m	
〈堆積土の状況〉　覆土の土質はほぼ一様である。		
〈断面の形状〉　袋状を呈している。	‖確認面からの深さ‖	60cm
〈壁・底面の状況〉　壁が崩落しており，底面は鍋底状を呈している。		
〈遺物出土状況〉　土壙内より土器片が数点出土。		

※堆積土層

1	黒褐色土(10Ｙ Ｒ2／2)軟質
2	黒褐色土(10Ｙ Ｒ2／2)
3	黒色土(10Ｙ Ｒ1.7／1)

第８号土壙（ＳＫ12）

〈位置・確認状況〉　Ｂ８グリッドの中央に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。第９号住居跡の南東側にある。

〈平面形〉　円形	‖規模‖　口径 1.2m，底径 1.3m	
〈堆積土の状況〉　覆土の土質はほぼ一様である。		
〈断面の形状〉　袋状を呈している。	‖確認面からの深さ‖	50cm
〈壁・底面の状況〉　西側の壁が入り込み，底面は鍋底状を呈している。		
〈遺物出土状況〉　土壙内からの出土遺物は多い。〈８〉第⑬図が出土。		

※堆積土層

1	黒褐色土(10Ｙ Ｒ2／3)
2	黒褐色土(10Ｙ Ｒ2／2)
3	黒褐色土(10Ｙ Ｒ2／3)
4	黒褐色土(10Ｙ Ｒ2／2)軟質

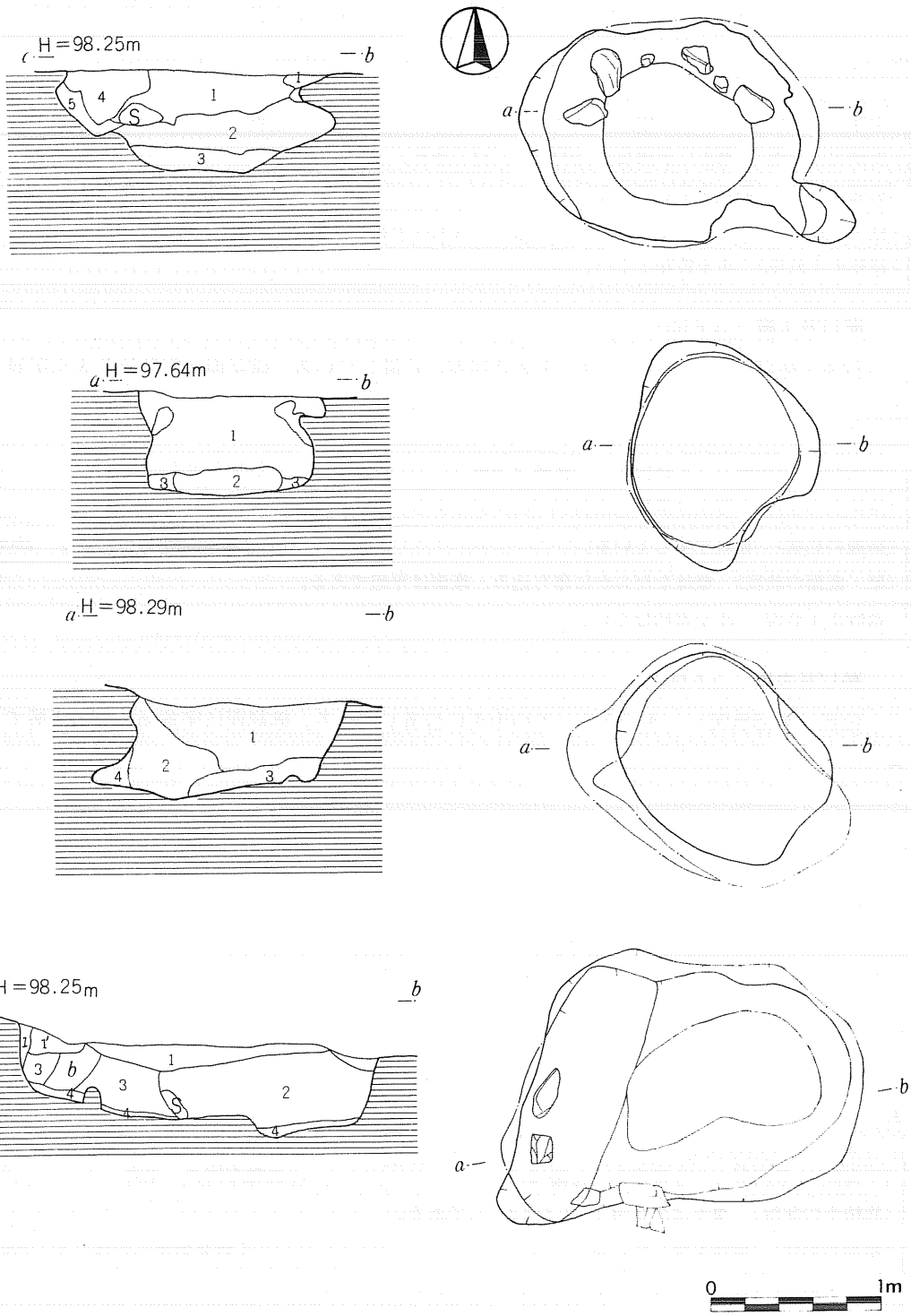
第９号土壙（ＳＫ25）

〈位置・確認状況〉　Ｂ９グリッドの北側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。第９号住居跡の南西側に接する。

〈平面形〉　不整円形	‖規模‖　口径 2.1m，底径 1.9m	
〈堆積土の状況〉　覆土の土質は二層に分れる。		
〈断面の形状〉　袋状を呈している。	‖確認面からの深さ‖	50cm
〈壁・底面の状況〉　底面は鍋底状を呈している。		
〈遺物出土状況〉　土壙内からの出土遺物は多い。〈８〉第⑭図が出土。		

※堆積土層

1	黒色土(10Ｙ Ｒ2／1) 軟質
2	黒褐色土(10Ｙ Ｒ2／2)
3	黒色土(10Ｙ Ｒ2／1)
4	黒色土(10Ｙ Ｒ2／1)炭化物混
b	明黄褐色土(10Ｙ Ｒ6／8)地山同



〈8〉第12図　第6，7，8，9号土壙

第10号土壙（ＳＫ04）

〈位置・確認状況〉　Ａ６グリッドの中央に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。

〈平面形〉 長円形	‖規模‖ 長軸 1.5m,	‖長軸方向‖	東西
〈堆積土の状況〉 覆土は黒褐色土(10Ｙ Ｒ2／3)である。			
〈断面の形状〉 皿状を呈している。		‖確認面からの深さ‖	25cm
〈壁・底面の状況〉 壁はなだらかに落み込み，底面は平坦である。			
〈遺物出土状況〉 出土遺物はない。			

第11号土壙（ＳＫ05）

〈位置・確認状況〉　Ａ6 グリッドの北西側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。

〈平面形〉 長円形	‖規模‖ 長軸 1.5m,	‖長軸方向‖	東西
〈堆積土の状況〉 覆土は黒褐色土(10Ｙ Ｒ2／3)である。			
〈断面の形状〉 皿状を呈している。		‖確認面からの深さ‖	25cm
〈壁・底面の状況〉 壁はなだらかに落ち込み，底面は平坦である。			
〈遺物出土状況〉 出土遺物はない。			

第12号土壙（ＳＫ06）

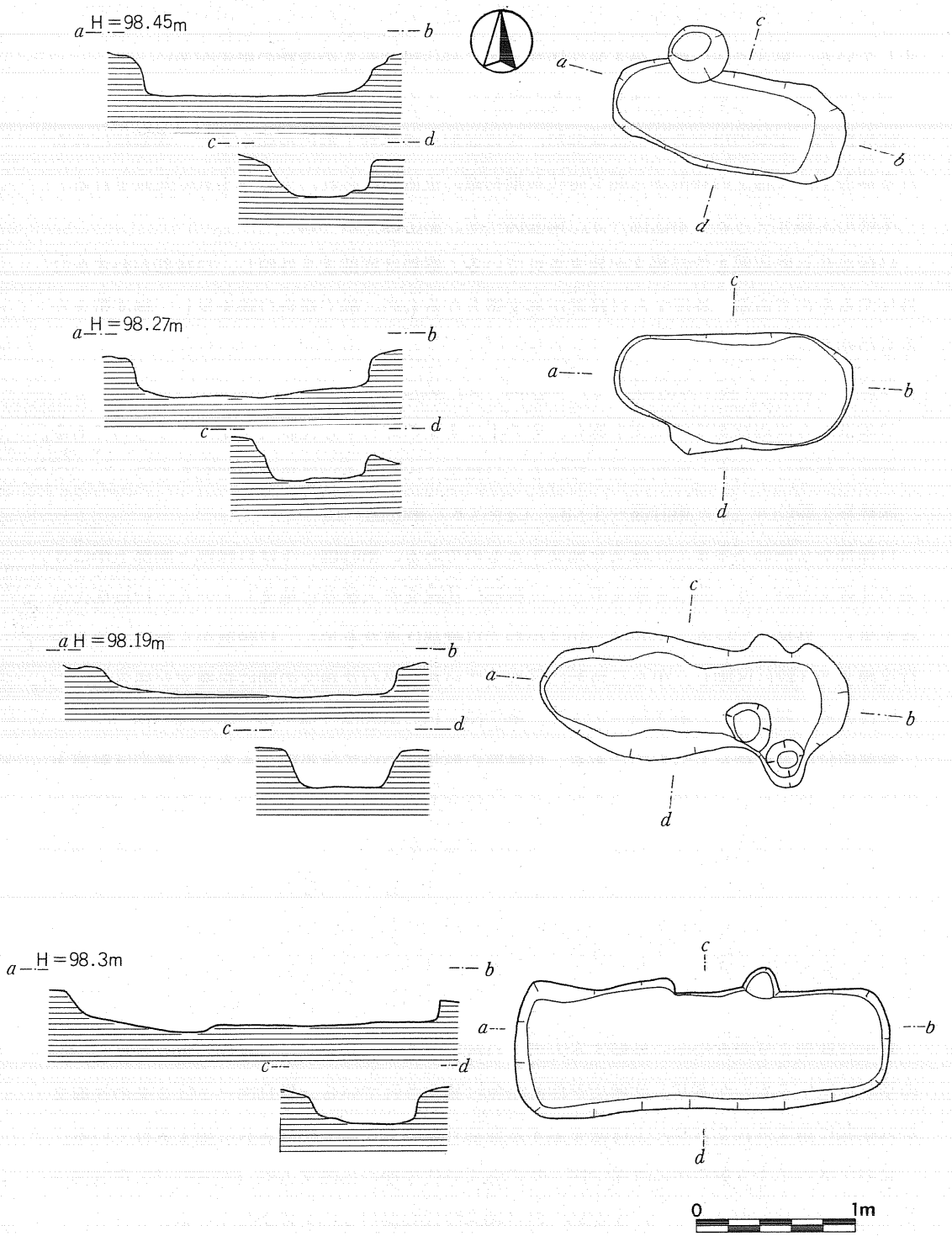
〈位置・確認状況〉　Ａ７グリッドの中央に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。

〈平面形〉 長円形	‖規模‖ 長軸 1.9m,	‖長軸方向‖	東西
〈堆積土の状況〉 覆土は黒褐色土(10Ｙ Ｒ2／3)である。			
〈断面の形状〉 皿状を呈している。		‖確認面からの深さ‖	20cm
〈壁・底面の状況〉 壁はなだらかに落ち込み，底面は平坦である。			
〈遺物出土状況〉 出土遺物はない。			

第13号土壙（ＳＫ26）

〈位置・確認状況〉　Ａ７グリッドの南側に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。

〈平面形〉 長円形	‖規模‖ 長軸 2.3m,	‖長軸方向‖	東西
〈堆積土の状況〉 覆土は黒褐色土(10Ｙ Ｒ2／3)である。			
〈断面の形状〉 皿状を呈している。		‖確認面からの深さ‖	20cm
〈壁・底面の状況〉 壁はなだらかに落ち込み，底面は平坦である。			
〈遺物出土状況〉 覆土中位より縄文土器が１点出土。			



〈8〉第13図　第10，11，12，13号土壙

◇ Ⅰ区出土遺物について

Ⅰ区内からは縄文時代後期の土器，土偶，土製品，石器，三角石製品，円盤状石製品等が出土している。第３号住居跡，第４号住居跡，第７号住居跡からの遺物の出土が多い。

掲図は遺構等出土地点を考慮して編集しており，拓本は器種，文様で分類している。

住居跡内，土壙内出土の土器は深鉢形，広口壺形，浅鉢形土器の種類があり，各器種にみられる器形上，文様上の特徴から縄文時代後期初頭に位置づけられ，十腰内Ⅰ式に比定される。

深鉢形土器ａ＝〈８〉第③図－３，第⑥図－９，第⑦図－11・12

口縁部から底辺部まで斜縄文が施文されている。器形は底部より外傾し，口縁部がわずかに外反するものである。外反する口縁部が無文帯となるもの，軽く複合口縁を呈し，無文帯となるものがある。

深鉢形土器ｂ＝〈８〉第①図－２，第③図－４，第⑫図－１

口縁部から底辺部まで斜縄文を施し，その上に１条の蛇行する沈線文を施文するものである。口縁部は外反し，大きく波状を呈している。口縁部に円形あるいは棒状の突起をもつ。

深鉢形土器C_1＝〈８〉第⑭図－１・３，C_2＝〈８〉第⑧図－16

口縁部から胴部下半まで沈線文を施文するものである。第⑭図－１は口縁部と胴部上半に３条の沈線文がめぐり，頸部を無文帯とし，胴部に沈線文を入組状に施文している。口縁部は波状を呈し，外反している。第⑧図－16は小形で口縁部は波状を呈し，口縁部から胴部下半を平行沈線文で３段に区画し，中を三角形に区切っている。平行沈線文の間に斜縄文が残る。

広口壺形土器＝〈８〉第②図－１・２，第⑦図－13，第⑧図－14・15，第⑨図－18

胴部中位に最大径をもつものである。口縁部の形状については不明である。文様帯は胴部上半にあり，長円形と円形状文が組み合わさる沈線文あるいは沈線文と付随する隆線文で区画され，胴部下半は無文である。胴部上半の文様は沈線文が１～３条組み合わさり，第⑧図－15のように入組状に施文されているもの，第②図－１・２のように渦巻状に施文されているものがあり，１は隆線文が付随している。第⑦図－13は長円形と円形状文が頸部にあり，頸部の上が沈線文と縄文が残る隆線文と付随しており，頸部の下は沈線文が入組状に施文されている。

浅鉢形土器＝〈８〉第⑧図－17，第⑬図－１，第⑭図－２，第⑮図－１・２

器形は底部よりゆるやかに外傾するもの，口縁部が内彎するもの，口縁部が短く外反し「く」の字状を呈するものがあり，沈線文が体部全体に施文されている。第⑭図－２は３条の沈線文が入組状に施文されており，上げ底を呈する底部外面にも沈線文が渦巻状に施文されている。

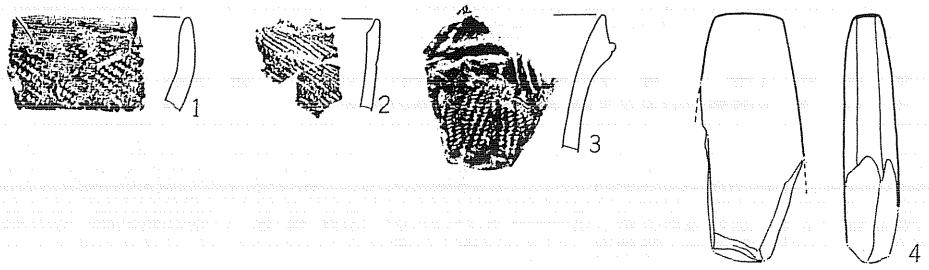
なお１区内出土土器の中には第㉔図－42の縄文時代早期の貝殻文土器，第⑳図－50，第㉔図－43・44の縄文時代前期のもの，第⑳図－51の縄文時代晩期のものが含まれている。

石器は石鏃，石匙，縁辺を調整剝離した剝片，凹石が多く出土している。

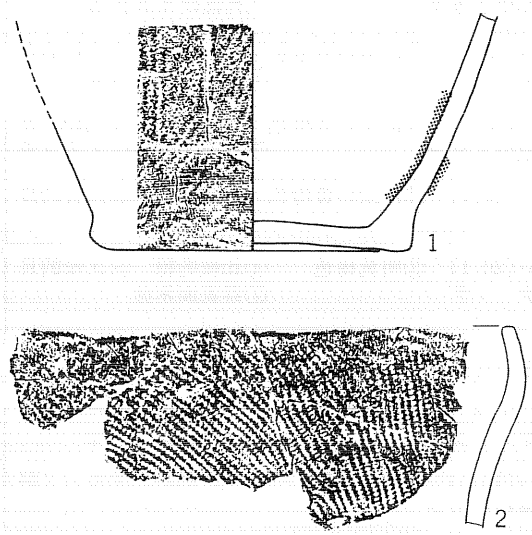
◇萩峠遺跡Ⅰ区実測土器のまとめ (1)

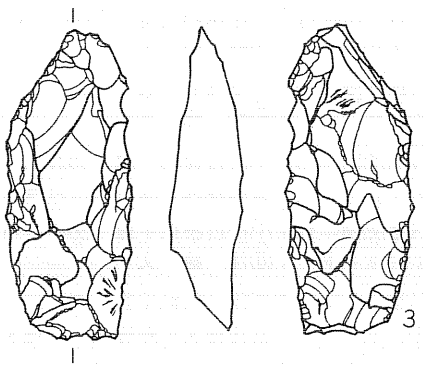
※(　) は残存・推定寸法

図版番号 出土地点	①器種 ②口径・底径・高さ(cm) ③色調 ④胎土 ⑤焼成 ⑥器表面の主な文様(調整)／器内面の調整 ⑦備考
〈8〉第②図—1 C1グリッド	①広口壺形土器 ②——・15.0・(22.3) ③にぶい黄橙色 ④密 ⑤良好 ⑥沈線文・隆線文 ／横位ミガキ ⑦内面二次火熱剝落,外面にスス付着
〈8〉第②図—2 C1グリッド	①広口壺形土器 ②——・9.7・(17.5) ③黄褐色 ④比較的粗 ⑤比較的良 ⑥沈線文・隆線文 ／ナデ
〈8〉第③図—3 第4号住居跡内	①深鉢形土器 ②(24.3)・14.2・(40.0) ③にぶい黄橙色 ④密 ⑤良好 ⑥斜縄文 ／縦位ミガキ ⑦外面・内面にスス付着
〈8〉第⑥図—9 第7号住居跡内	①深鉢形土器 ②(21.6)・——・(25.0) ③明黄褐色 ④密 ⑤比較的良 ⑥斜縄文 ／縦位ミガキ ⑦外面にスス付着
〈8〉第⑦図—11 D7グリッド	①深鉢形土器 ②——・10.9・(25.6) ③にぶい黄橙色 ④比較的粗 ⑤比較的良 ⑥斜縄文 ／ナデ ⑦外面にスス付着
〈8〉第⑦図—12 C7グリッド	①深鉢形土器 ②19.3・——・(24.8) ③にぶい黄橙色 ④比較的密 ⑤比較的良 ⑥斜縄文 ／縦位ミガキ ⑦外面・内面にスス付着
〈8〉第⑦図—13 D7グリッド	①広口壺形土器 ②27.8・——・(24.1) ③にぶい黄橙色 ④比較的粗 ⑤比較的良 ⑥沈線文・隆線文に斜縄文／ナデ
〈8〉第⑧図—14 D7グリッド	①広口壺形土器 ②——・11.5・(20.1) ③明黄褐色 ④比較的粗 ⑤比較的良 ⑥沈線文 ／ナデ ⑦器表面朱塗
〈8〉第⑧図—15 D7グリッド	①広口壺形土器 ②——・(11.2)・(23.9) ③灰黄褐色 ④密 ⑤比較的良 ⑥沈線文・隆線文・斜縄文／横位ミガキ ⑦外面にスス付着
〈8〉第⑧図—16 D6グリッド	①広口壺形土器 ②(10.7)・5.6・14.7 ③明黄褐色 ④比較的密 ⑤比較的良 ⑥磨消縄文 ／ナデ ⑦外面にスス付着
〈8〉第⑧図—17 C7グリッド	①浅鉢形土器 ②(17.3)・——・(10.5) ③灰黄褐色 ④比較的密 ⑤良好 ⑥沈線文 ／横位ミガキ
〈8〉第⑨図—18 第5号住居跡Pit内	①広口壺形土器 ②——・12.5・(11.3) ③にぶい黄橙色 ④比較的密 ⑤良好 ⑥沈線文・隆線文 ／横位ミガキ
〈8〉第⑫図—1 第9号住居跡内	①深鉢形土器 ②(22.5)・——・(26.1) ③にぶい黄橙色 ④密 ⑤比較的良 ⑥斜縄文 ／縦位ミガキ ⑦外面・内面にスス付着
〈8〉第⑭図—2 第9号土壙内	①浅鉢形土器 ②(23.6)・11.8・9.8 ③灰黄褐色 ④密 ⑤良好 ⑥沈線文 ／ミガキ ⑦上げ底を呈する
〈8〉第⑭図—3 第9号土壙内	①深鉢形土器 ②(10.1)・4.4・(11.9) ③にぶい黄橙色 ④密 ⑤良好 ⑥沈線文 ／横位ミガキ ⑦上げ底を呈する
〈8〉第⑮図—1 A9グリッド	①浅鉢形土器 ②(20.0)・——・(13.9) ③にぶい黄橙色 ④密 ⑤良好 ⑥沈線文 ／ミガキ
〈8〉第⑮図—2 B1グリッド	①浅鉢形土器 ②14.5・16.5・9.9 ③にぶい黄橙色 ④比較的粗 ⑤比較的良 ⑥沈線文 ／横位ミガキ
〈8〉第⑮図—3 F9グリッド	①浅鉢形土器 ②15.7・7.7・9.5 ③にぶい黄褐色 ④密 ⑤良好 ⑥横位ミガキ ／ミガキ
〈8〉第⑮図—4 G3グリッド	①深鉢形土器 ②——・10.5・(17.2) ③にぶい橙色 ④比較的良 ⑤比較的良 ⑥刺突文 ／縦位ミガキ ⑦外面にスス付着，上げ底で四脚

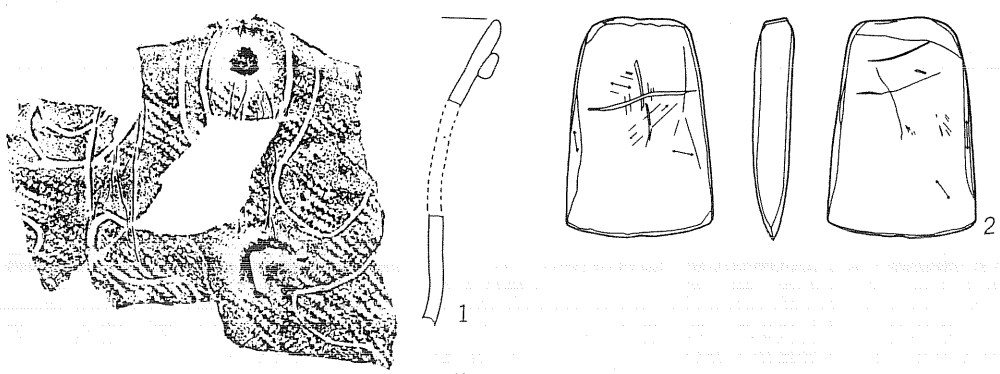


—第１号住居跡—





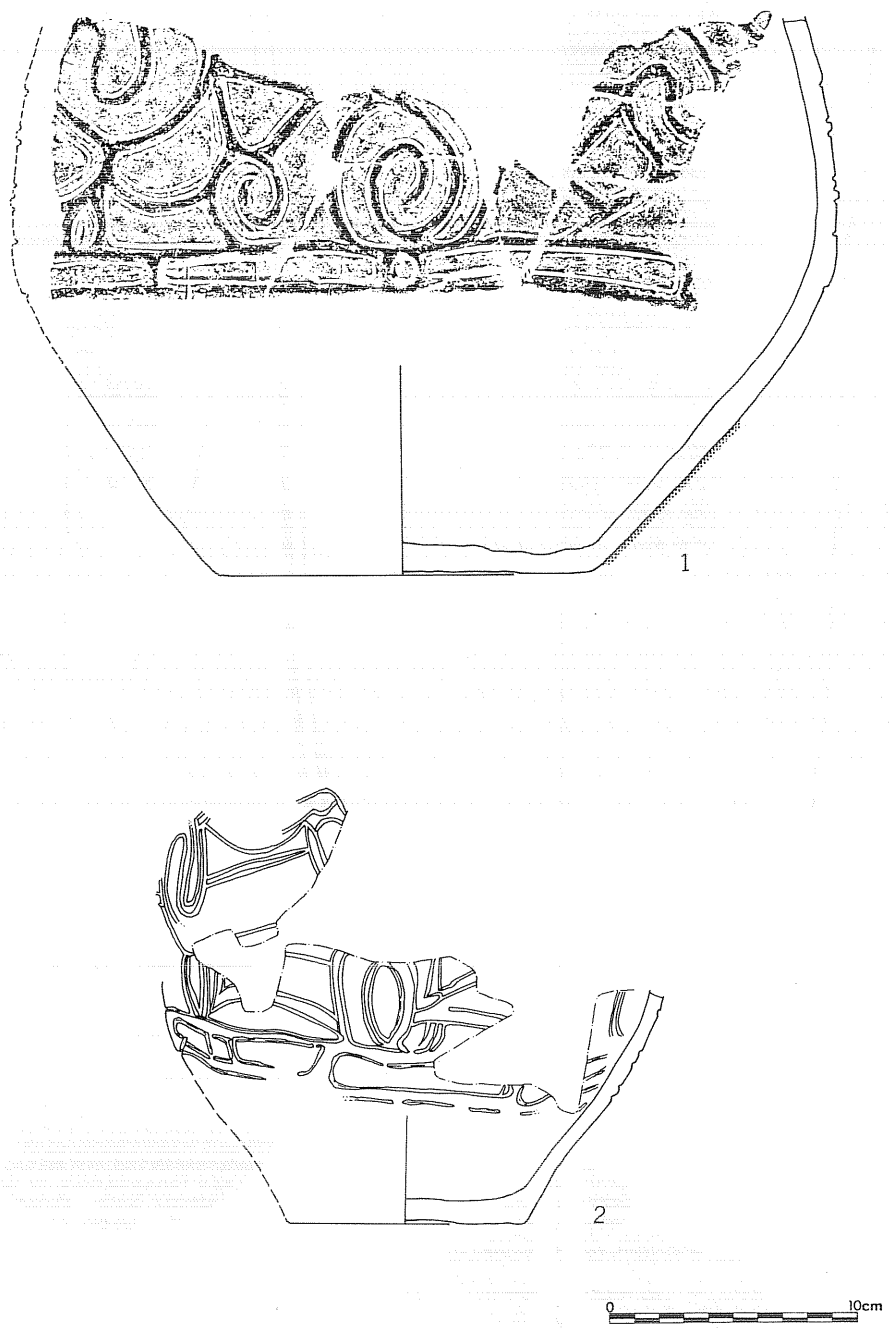
—第２号住居跡—



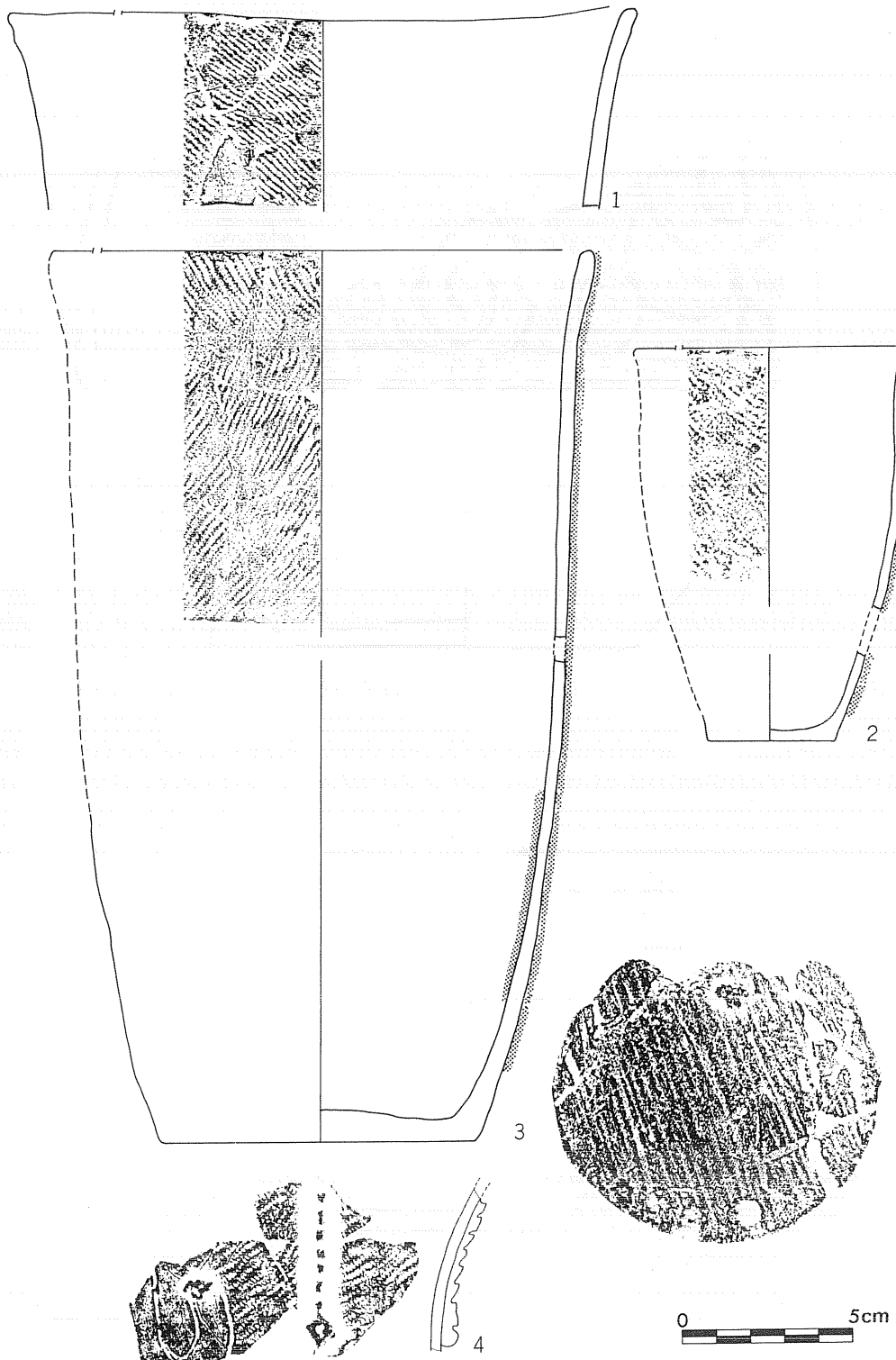
—第３号住居跡—

※土器は$\frac{1}{3}$，石器は$\frac{1}{2}$

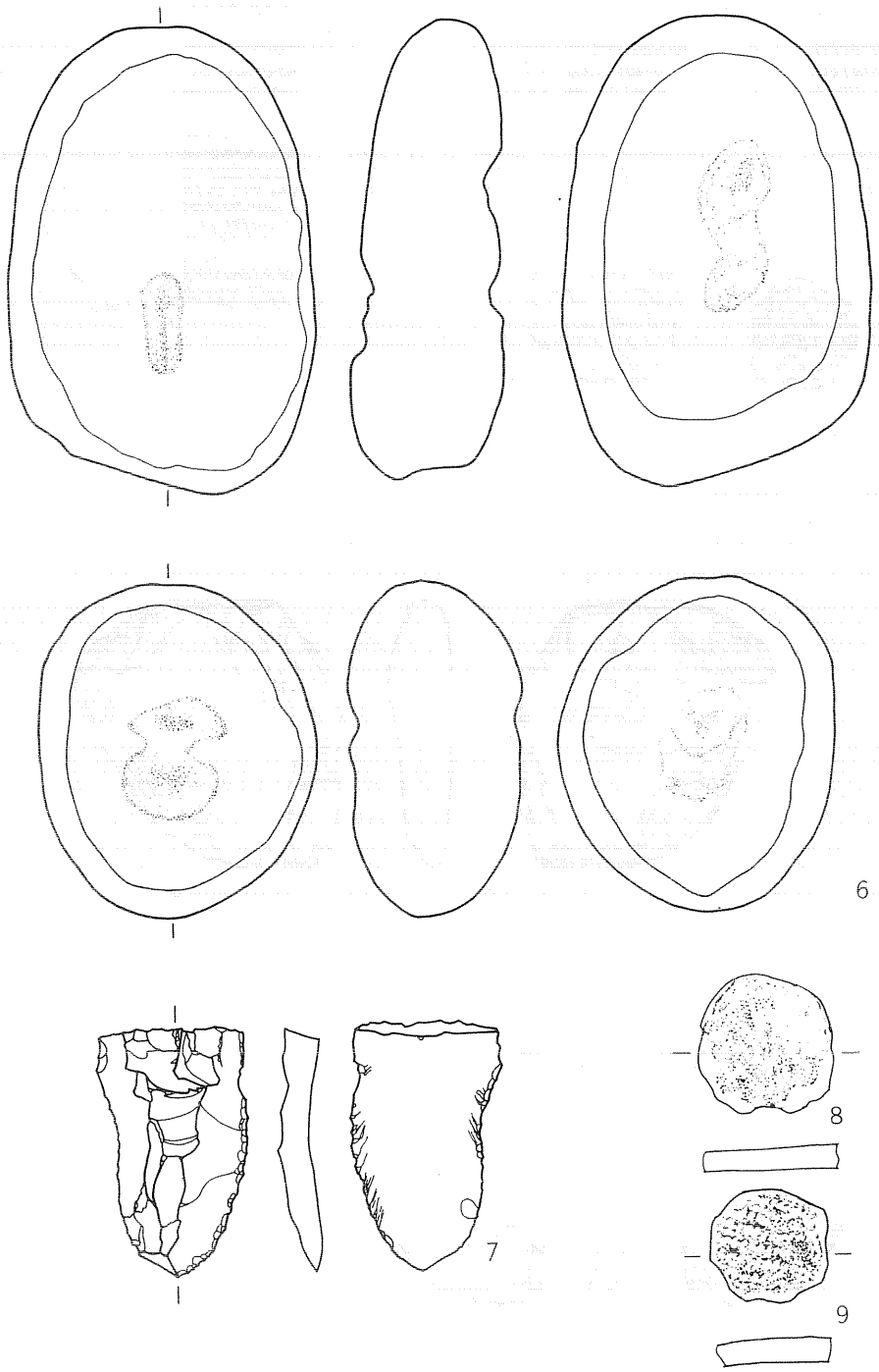
〈8〉第①図　第１，２，３号住居跡出土遺物



〈8〉第②図　第3号住居跡出土遺物

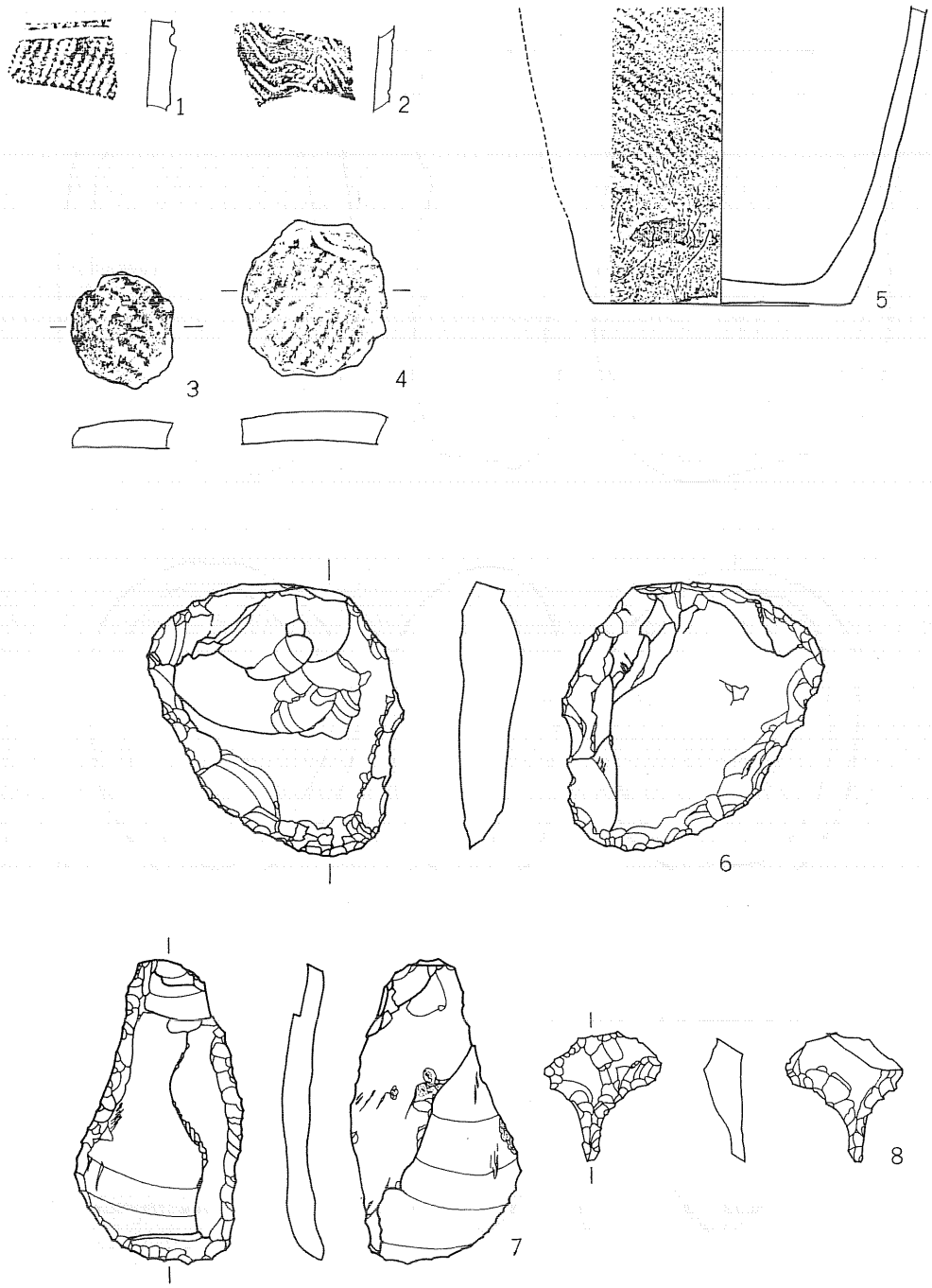


〈8〉第③図　第4号住居跡出土遺物(1)



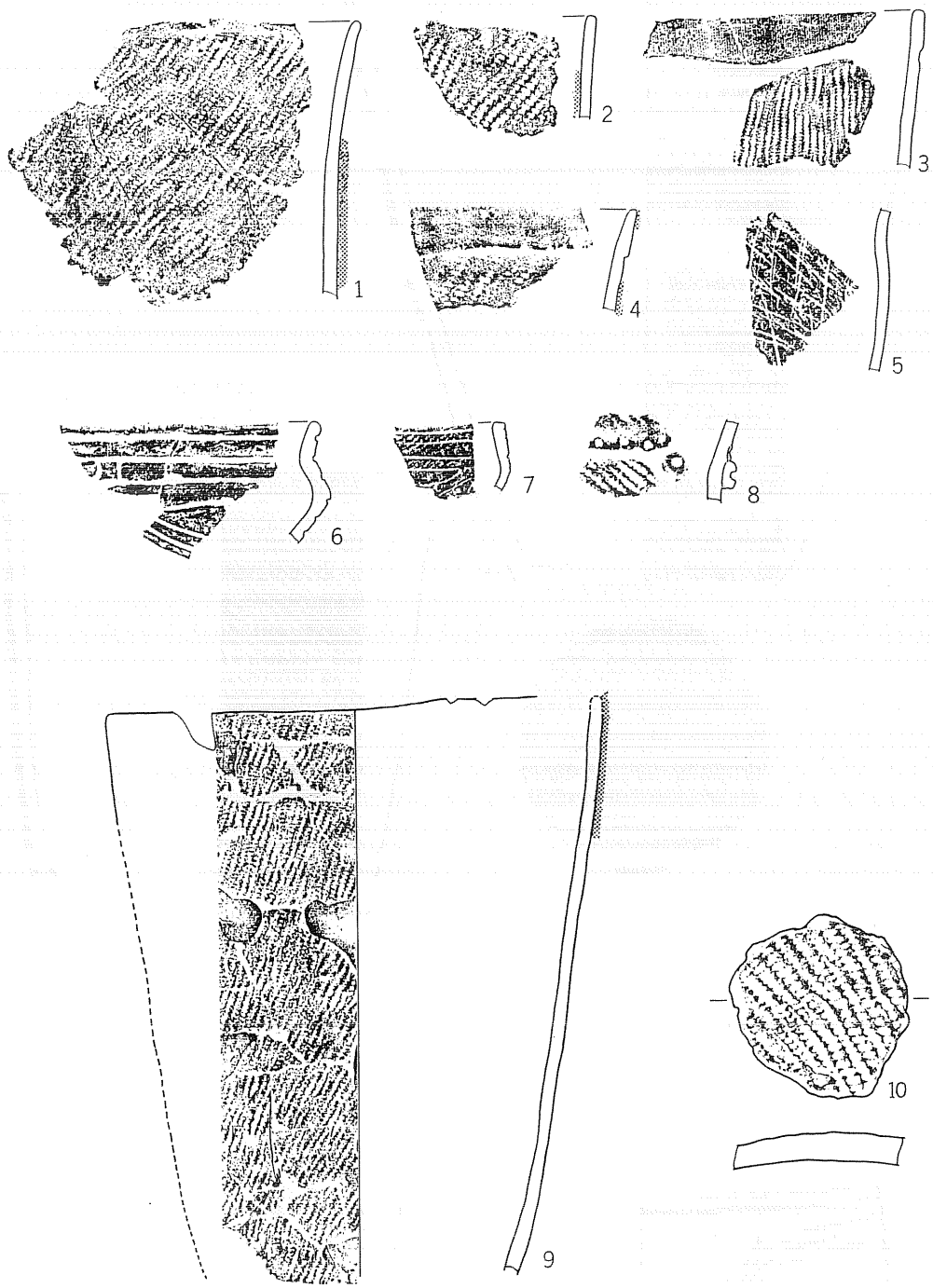
※石器・円盤状土製品は$\frac{1}{2}$

〈8〉第④図　第4号住居跡出土遺物(2)



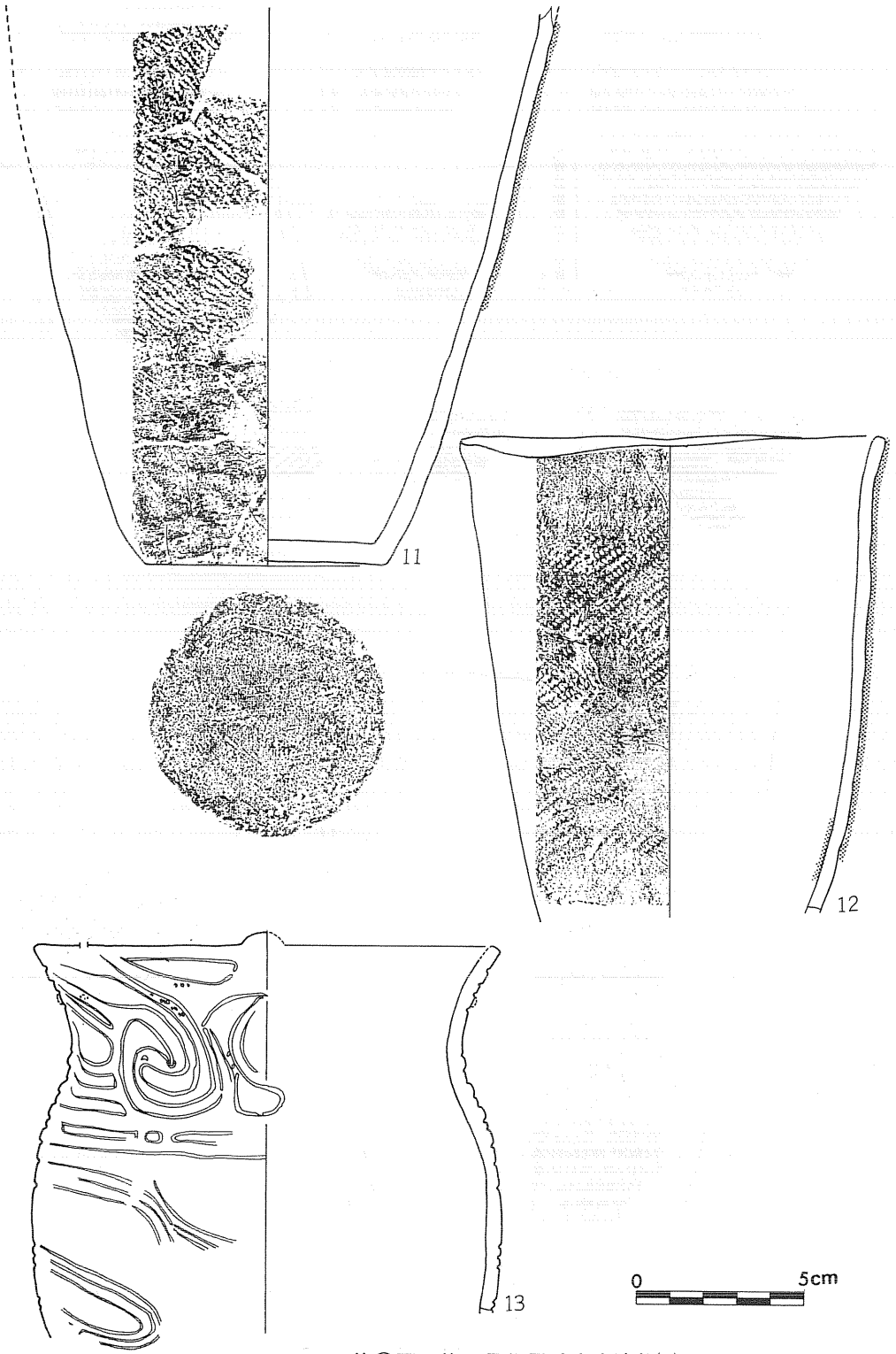
※土器は$\frac{1}{3}$，石器・円盤状土製品は$\frac{1}{2}$

〈8〉第⑤図　第6号住居跡出土遺物

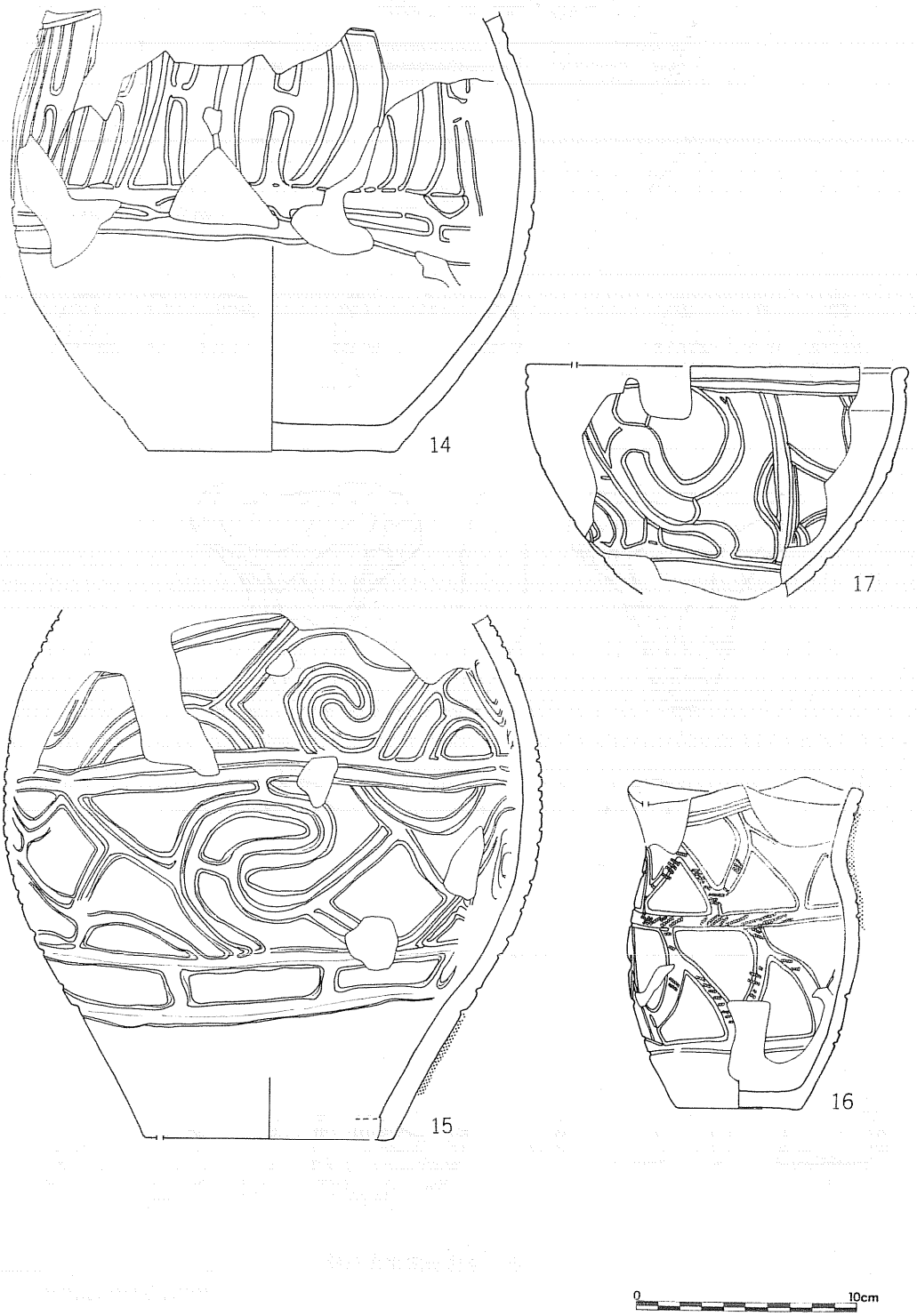


※土器は$\frac{1}{3}$，円盤状土製品は$\frac{1}{2}$

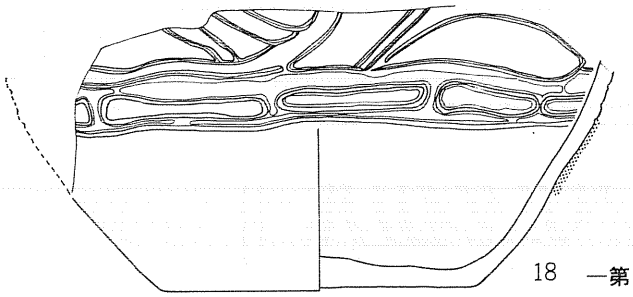
〈8〉第⑥図　第7号住居跡出土遺物(1)



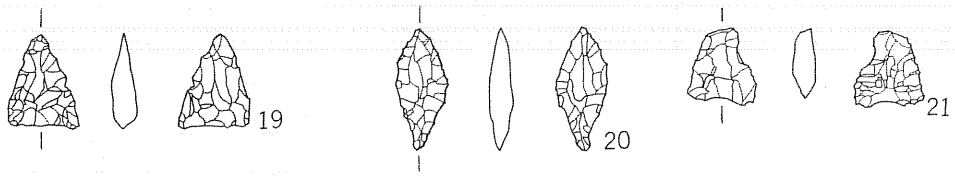
〈8〉第⑦図　第7号住居跡出土遺物(2)

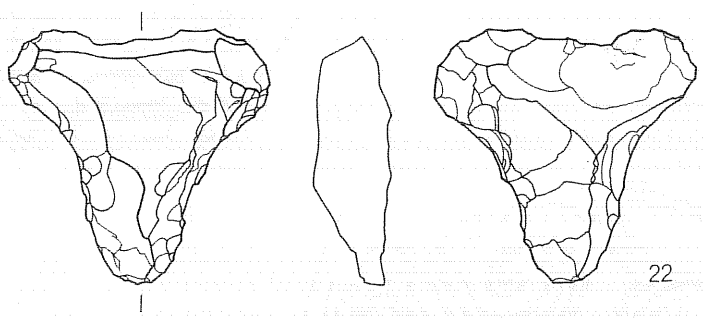


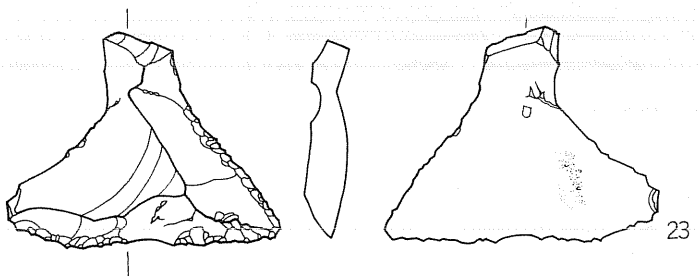
〈8〉第⑧図　第7号住居跡出土遺物(3)

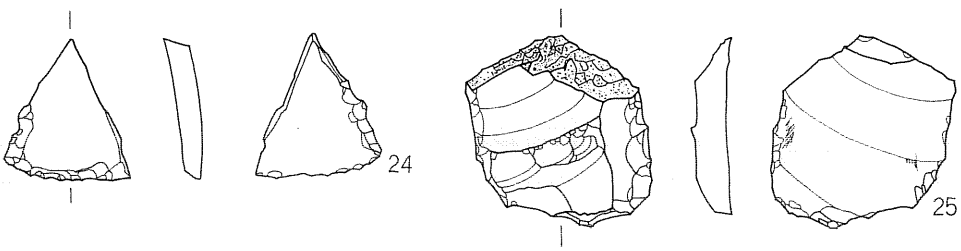


18　—第5号住居跡P10内—





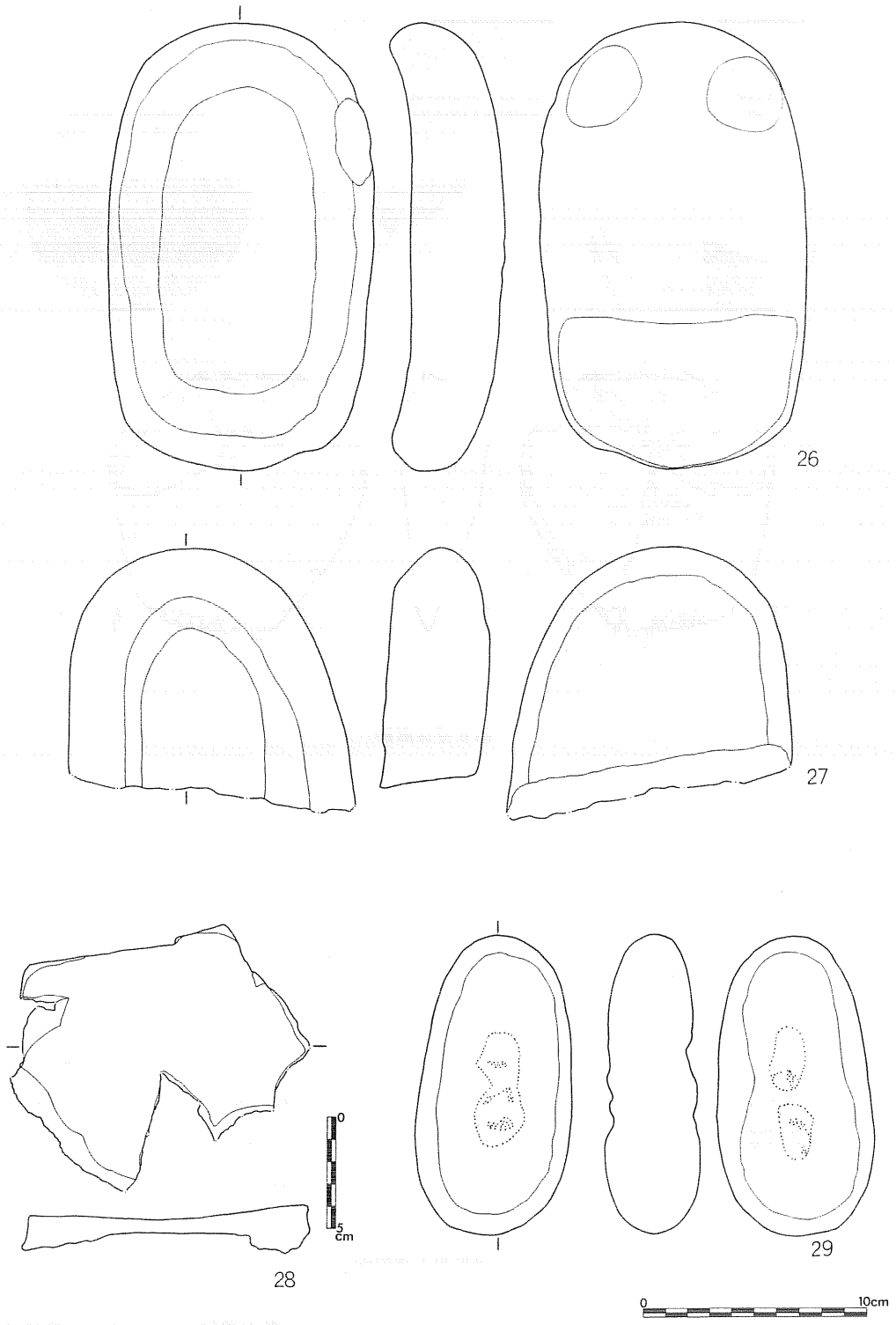




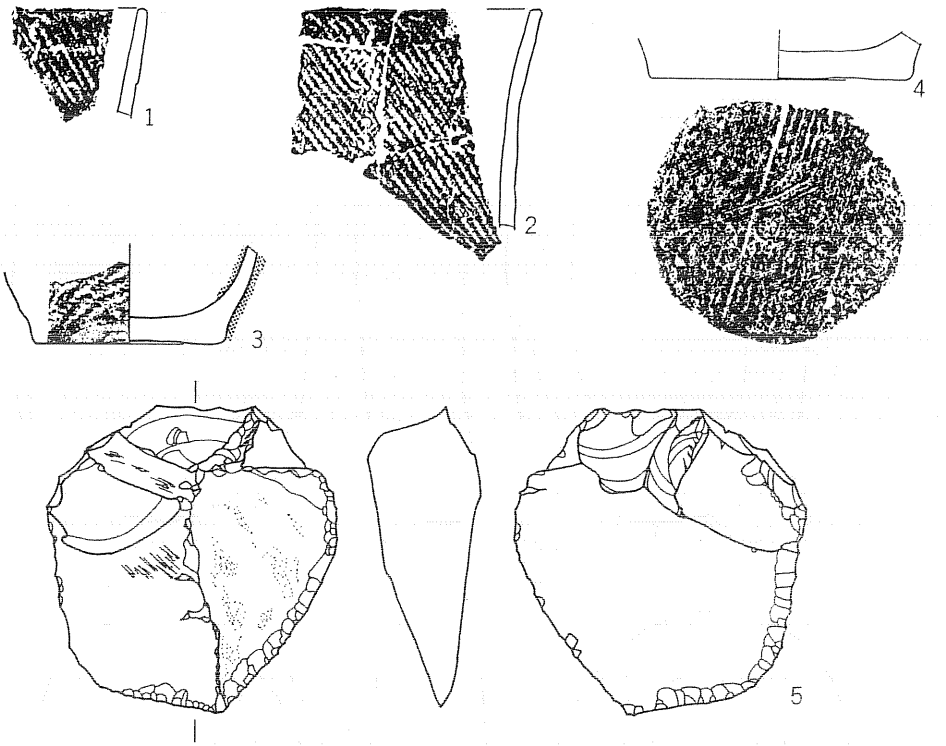
—第7号住居跡出土石器—

0　10cm

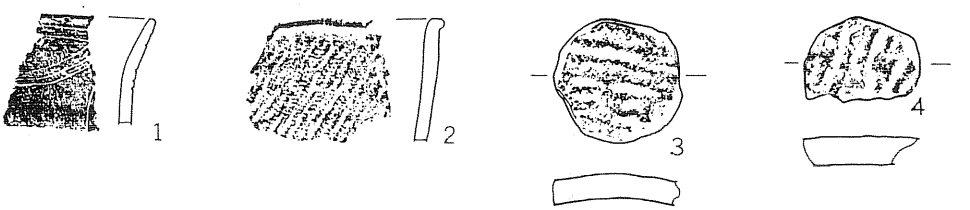
〈8〉第⑨図　第7号住居跡出土遺物(4)



〈8〉第⑩図　第7号住居跡出土遺物(5)



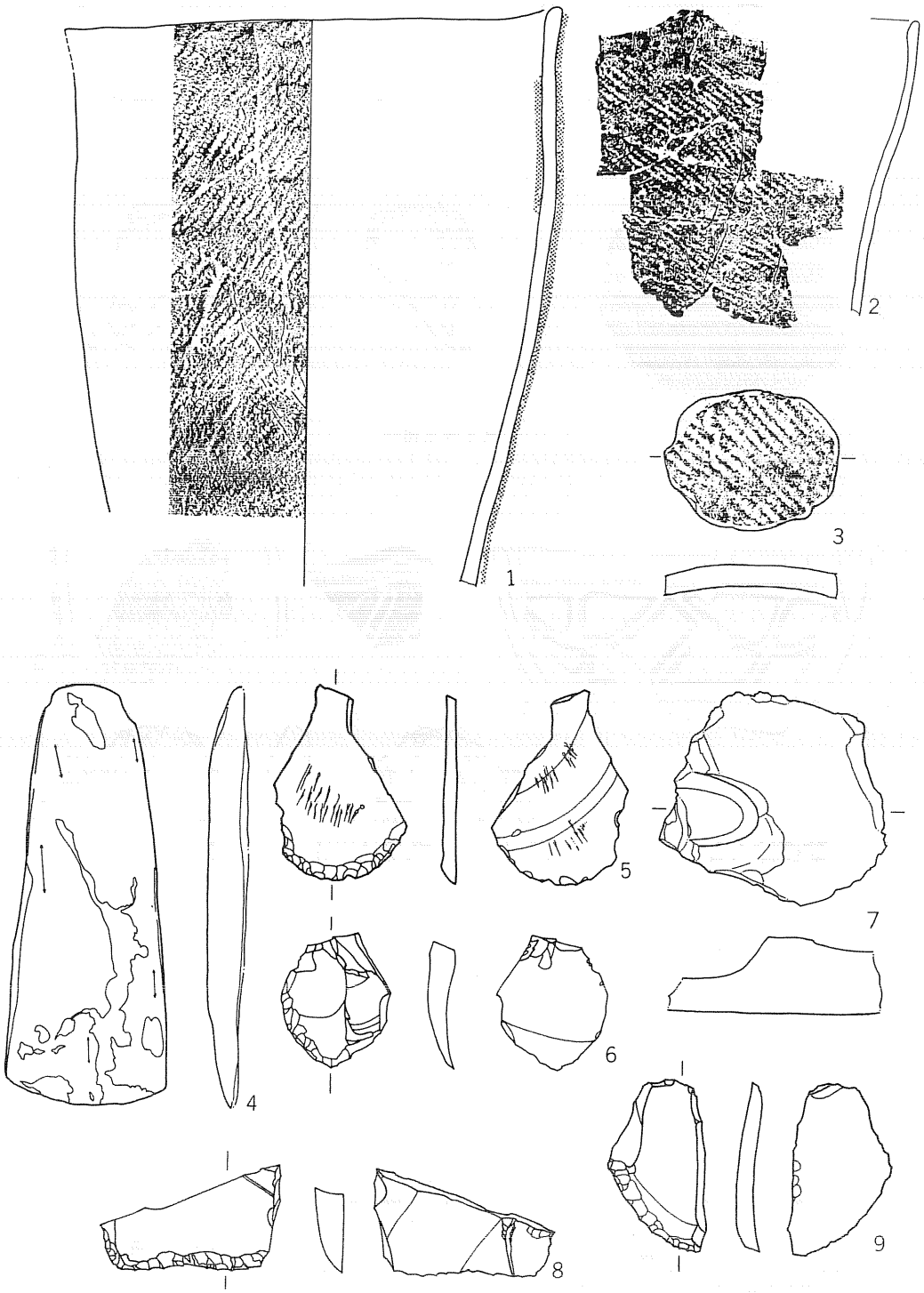
—第８号住居跡—



—南東側土壙周辺—

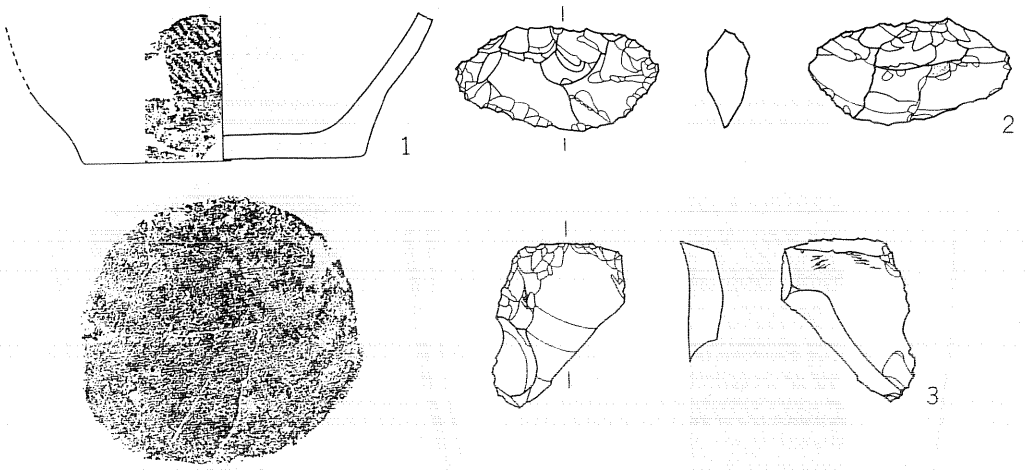
※土器は$\frac{1}{3}$，石器・土製品は$\frac{1}{2}$

〈８〉第⑪図　第８号住居跡出土遺物，南東側土壙周辺出土土器

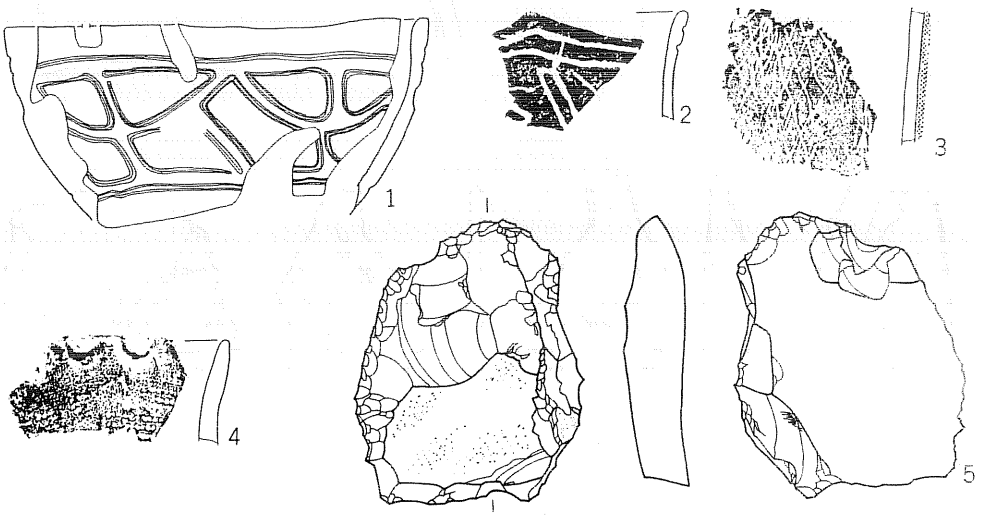


※土器は$\frac{1}{3}$，石器・円盤状土製品は$\frac{1}{2}$

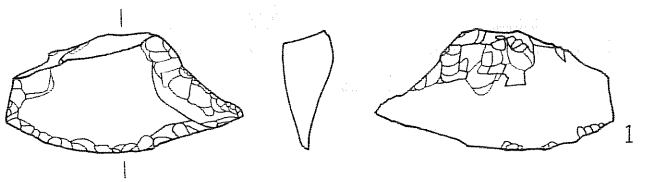
〈8〉第⑫図　第9号住居跡出土遺物



—第３号土壙—



—第６号土壙—

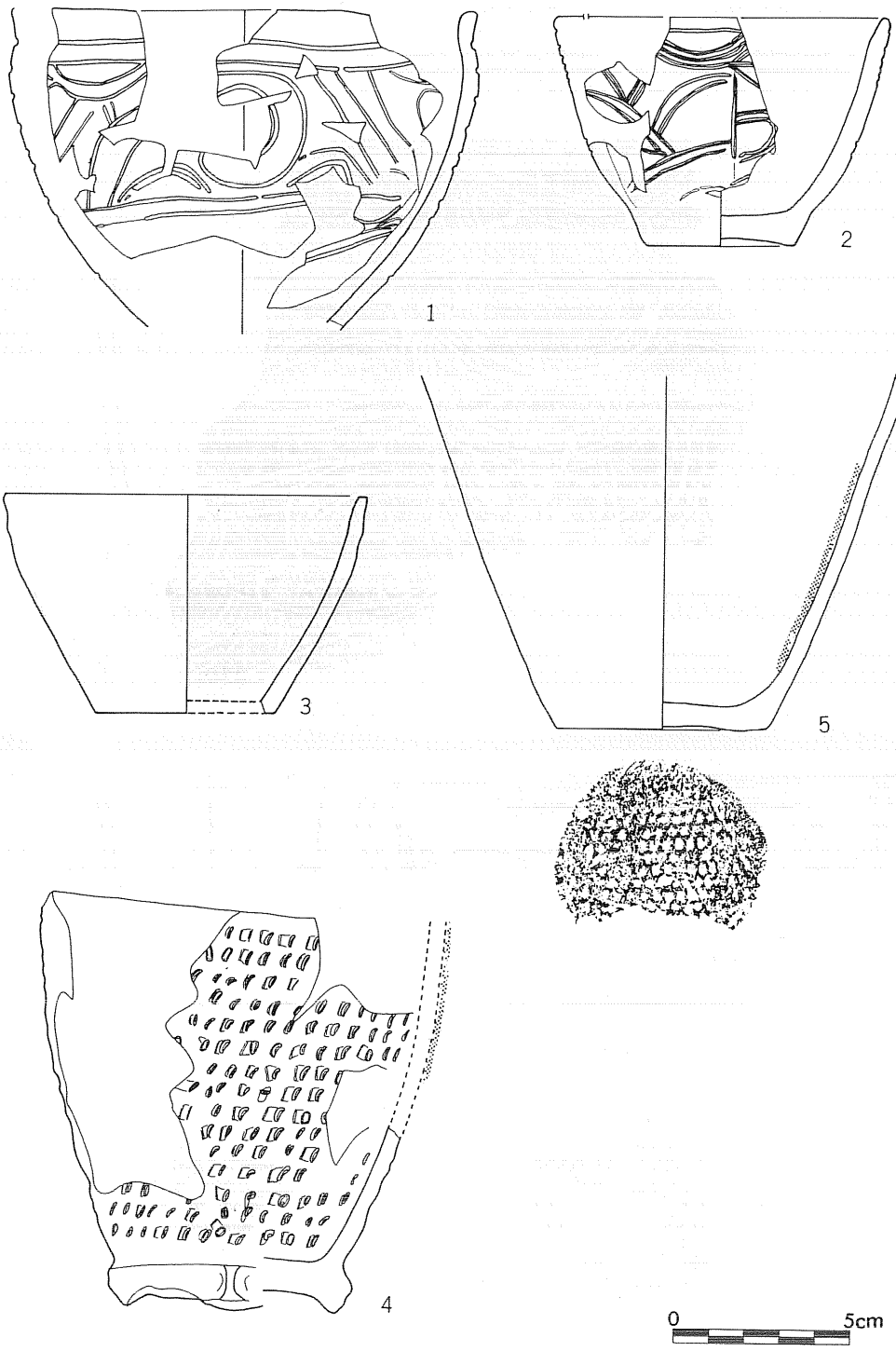


—第８号土壙—

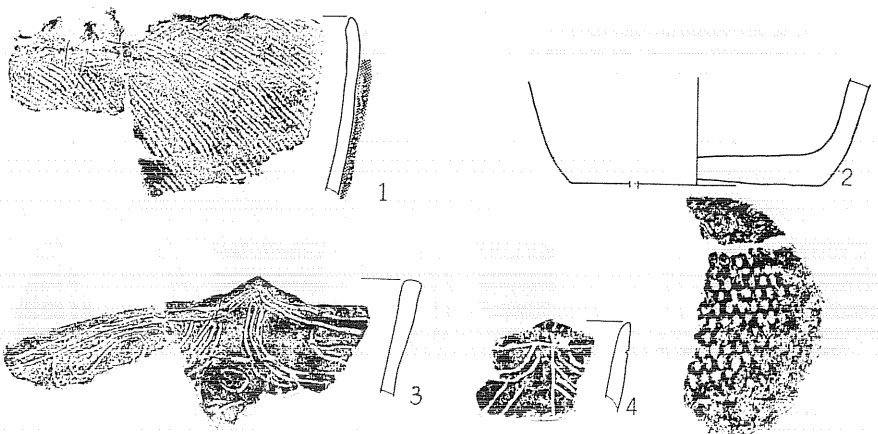
※土器は$\frac{1}{3}$，石器は$\frac{1}{2}$

〈８〉第⑬図　第３，６，８号土壙出土遺物

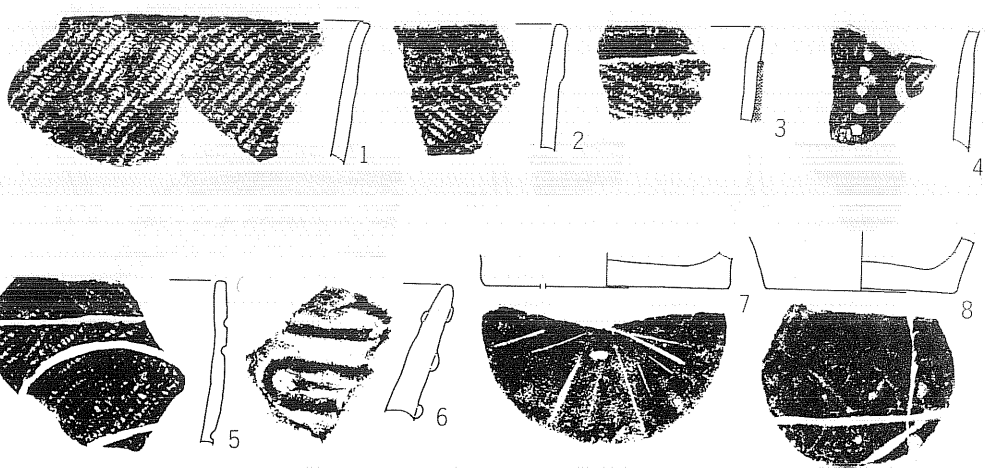
〈8〉第⑭図　第9号土壙出土遺物



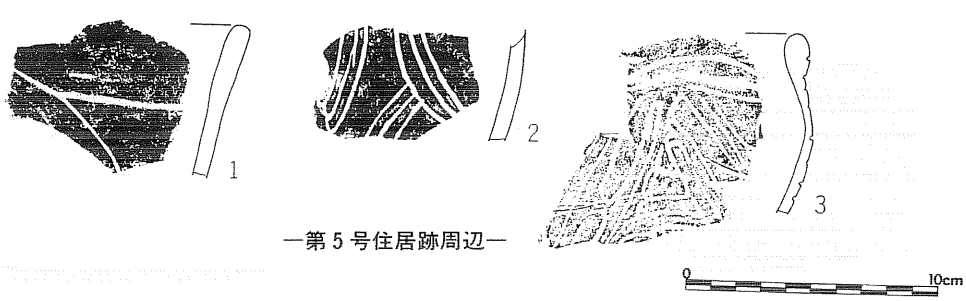
〈8〉第⑮図　Ⅰ区出土土器



—第 1 号住居跡周辺—

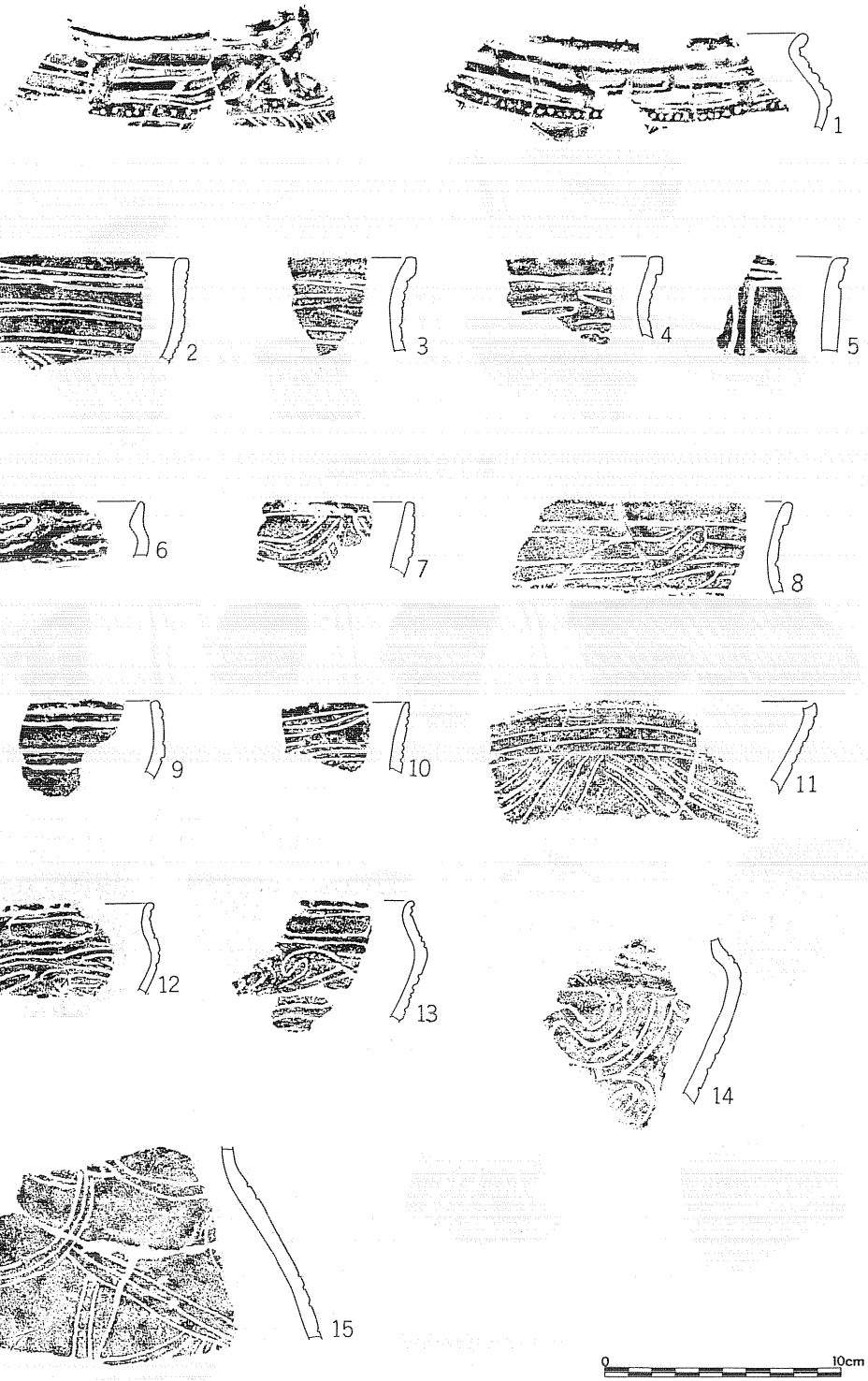


—第 4 号住居跡周辺—

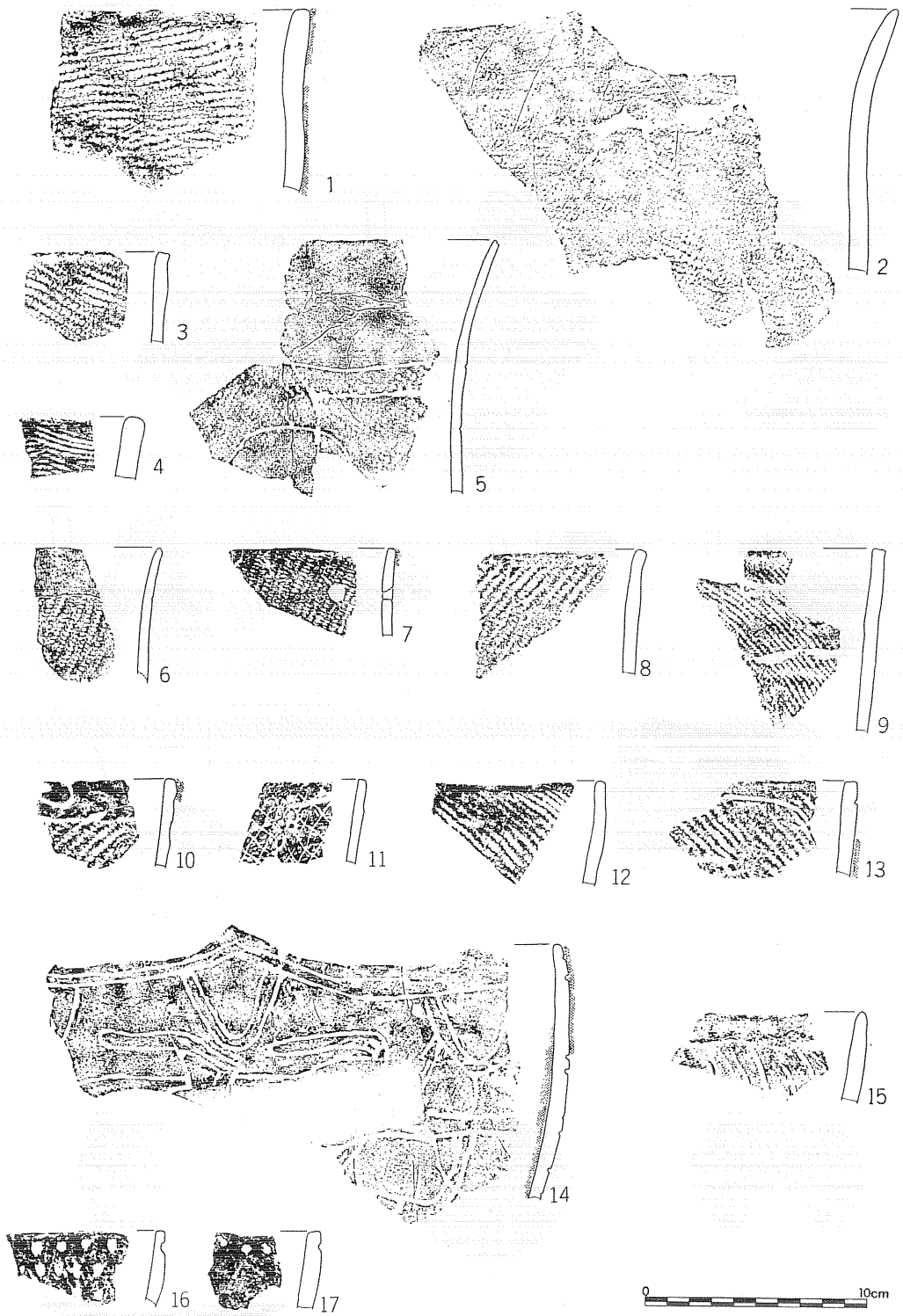


—第 5 号住居跡周辺—

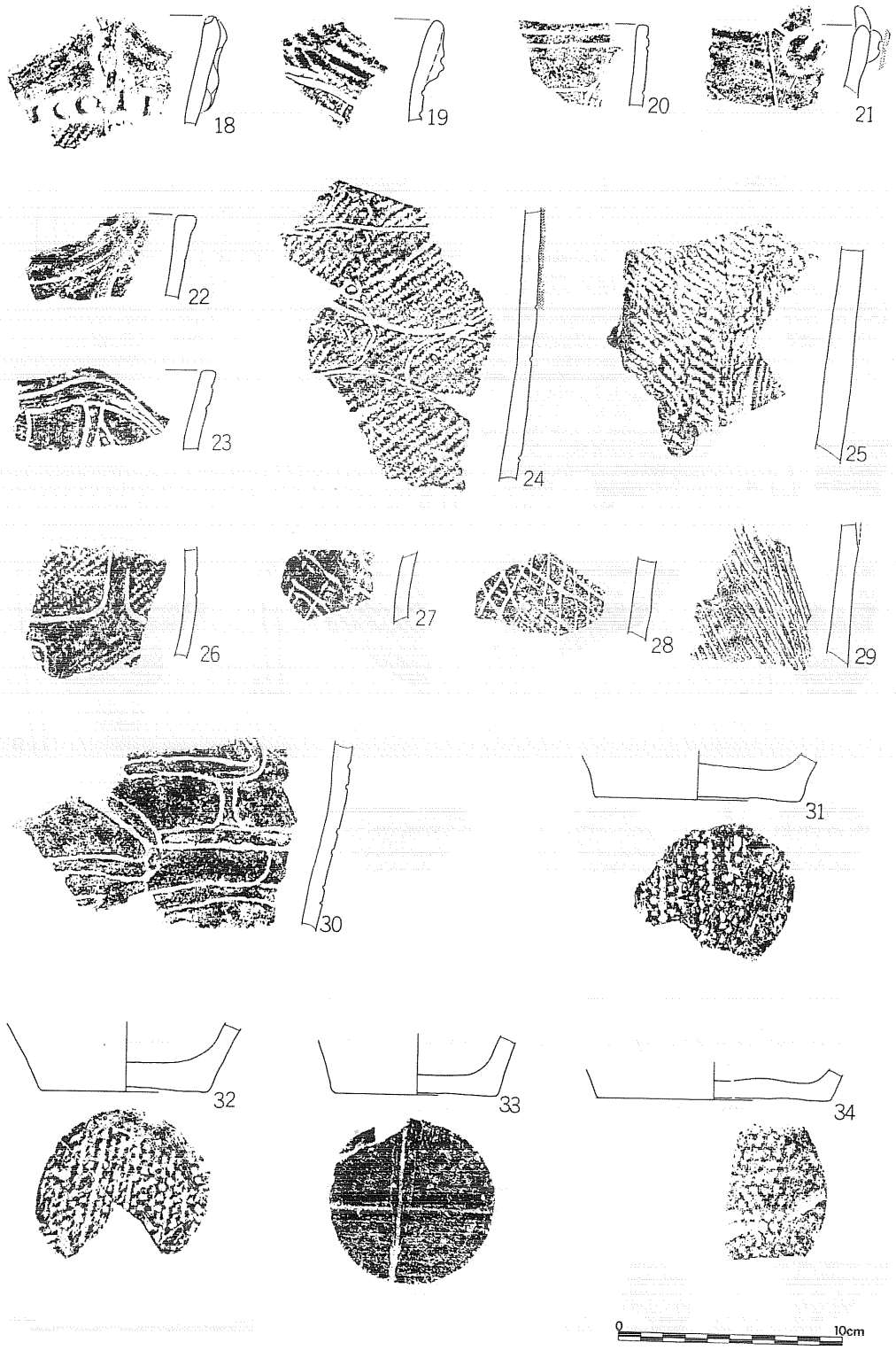
〈8〉第⑯図　第 1，4，5 号住居跡周辺出土土器



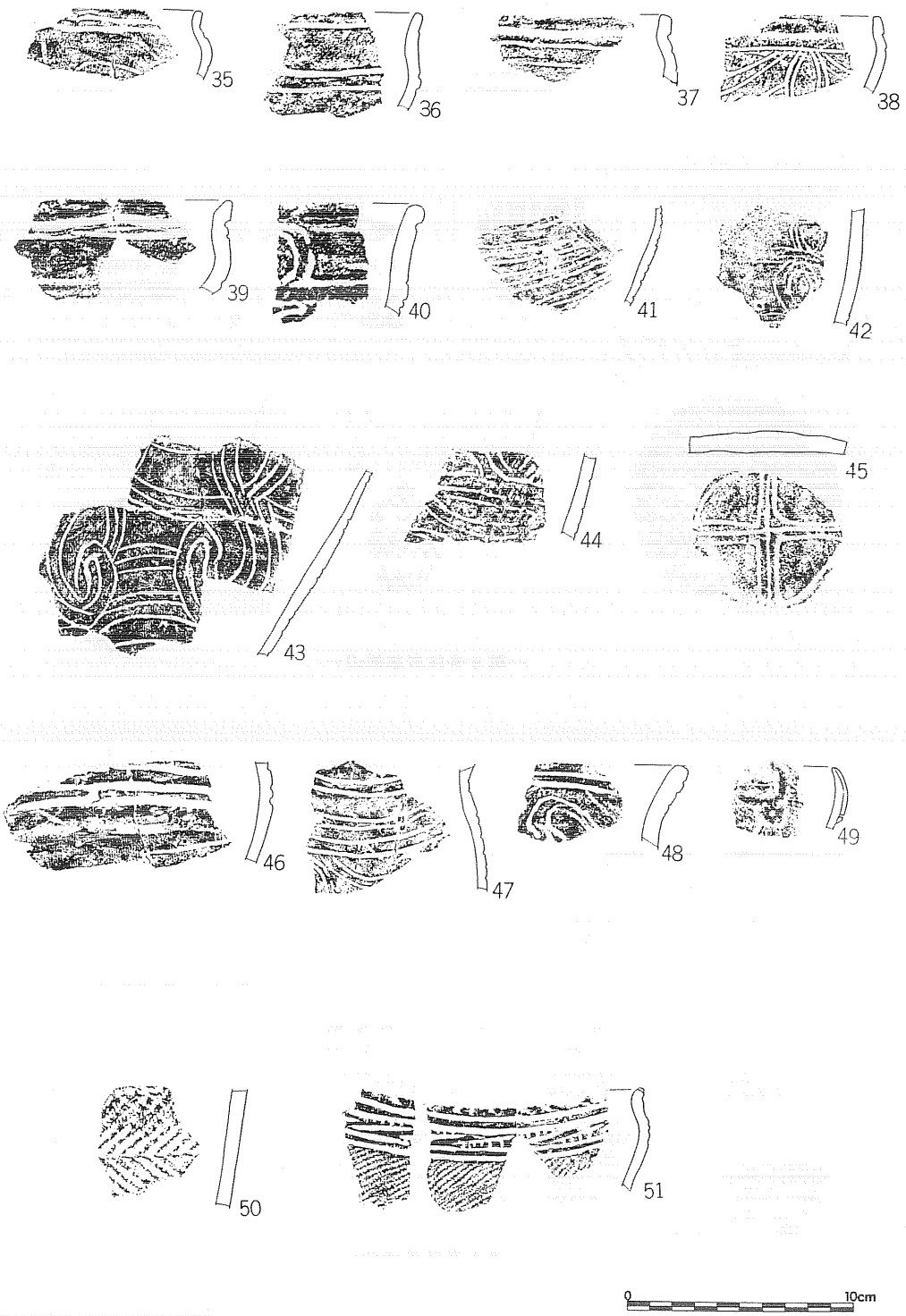
〈8〉第⑰図　第3号住居跡周辺出土土器



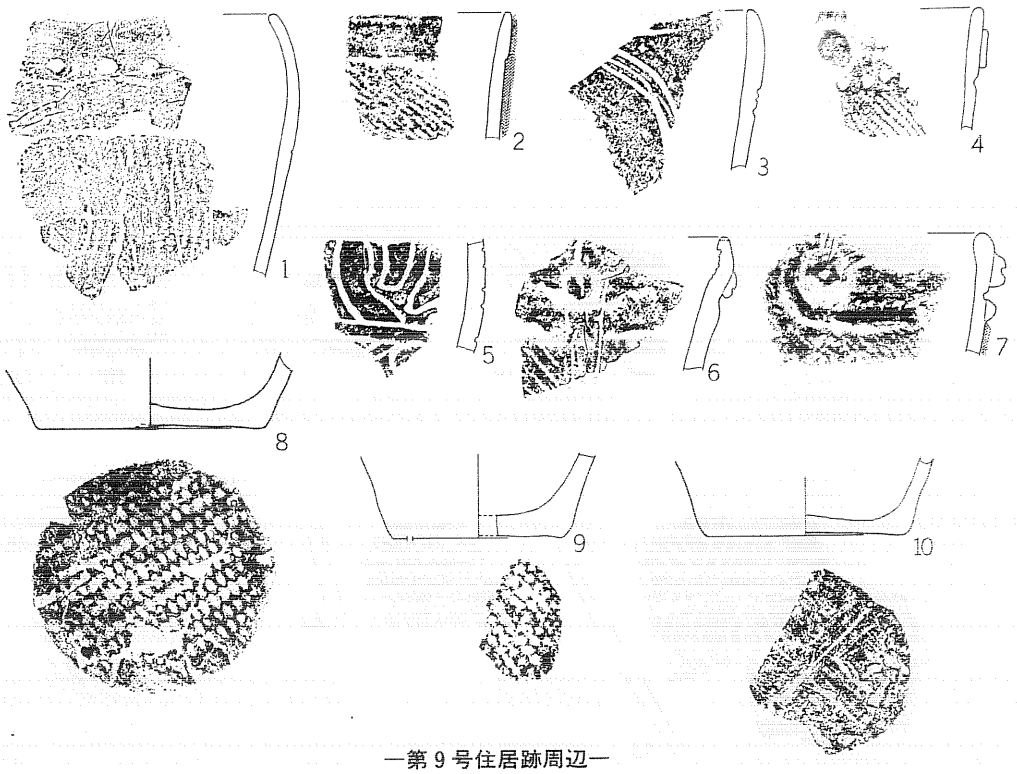
〈8〉第⑱図　第6，7号住居跡周辺出土土器(1)



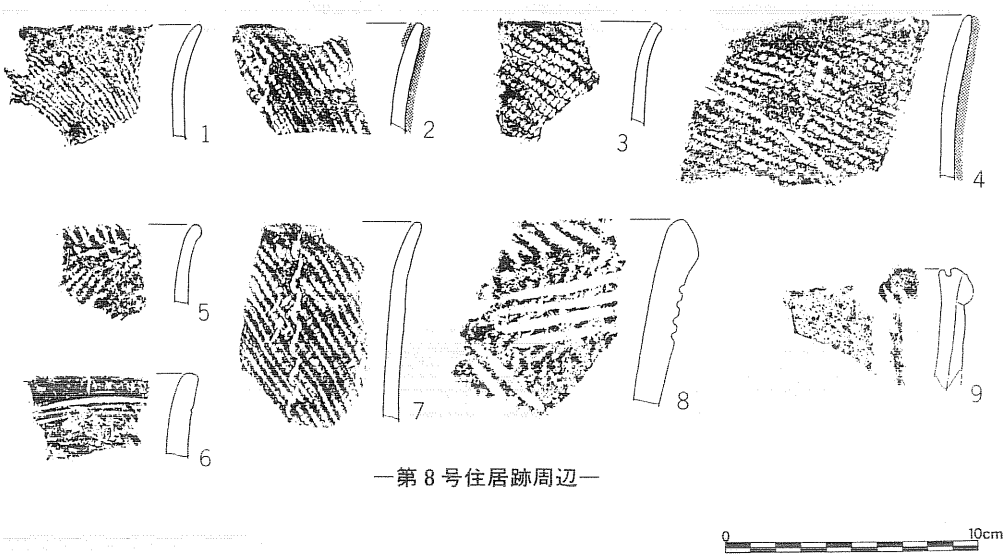
〈8〉第⑲図　第6，7号住居跡周辺出土土器(2)



〈8〉第⑳図　第6，7号住居跡周辺出土土器(3)



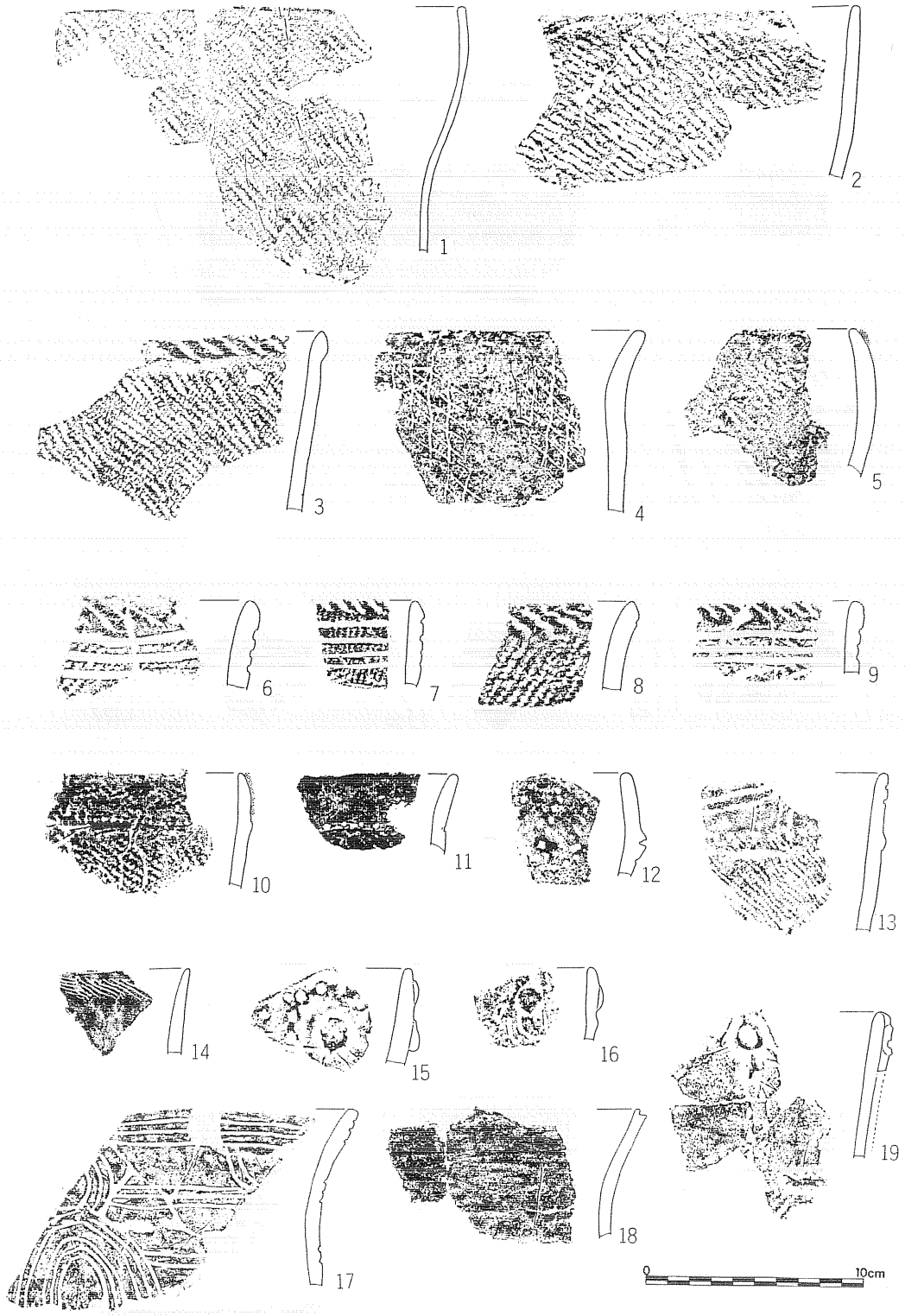
—第 9 号住居跡周辺—



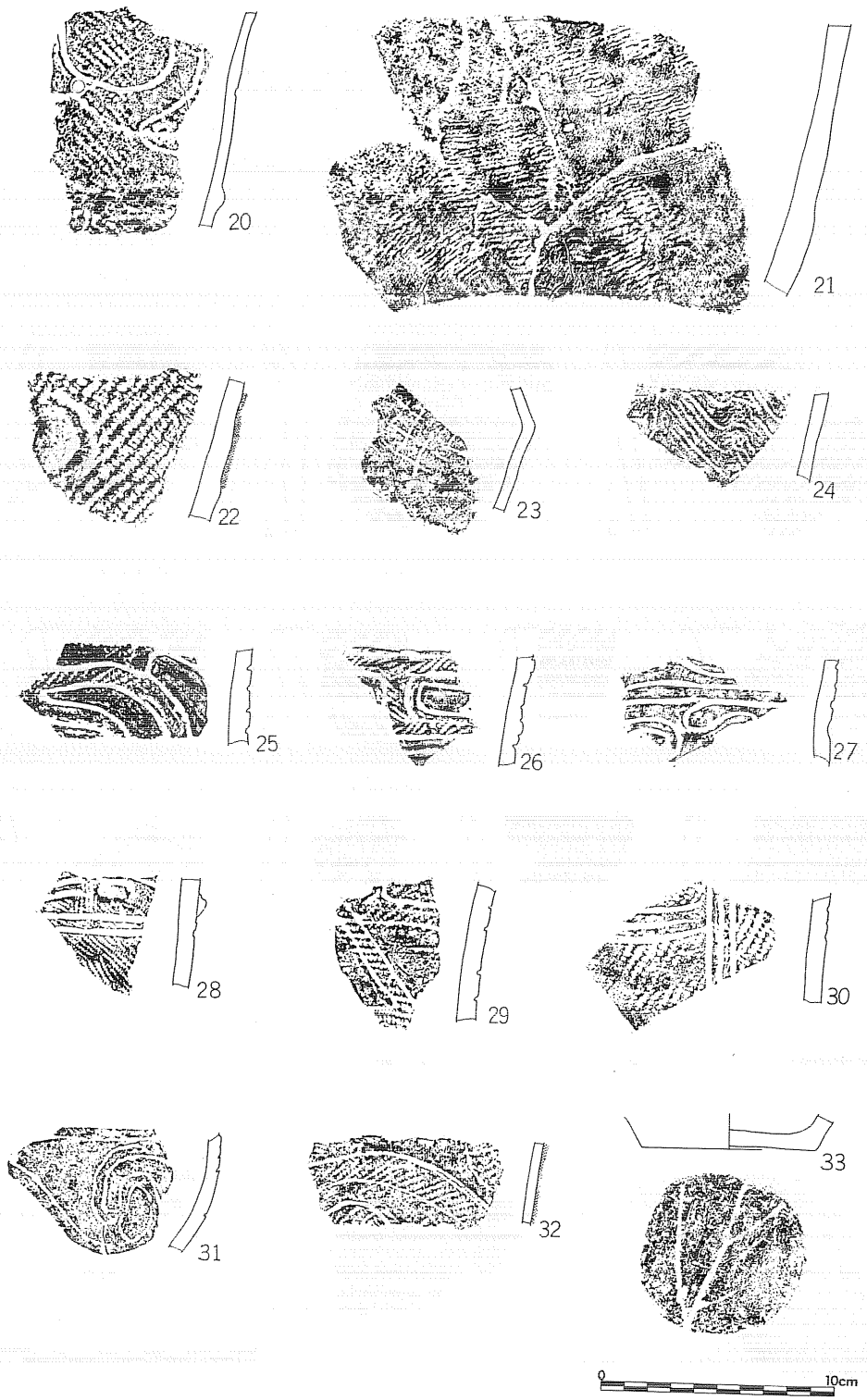
—第 8 号住居跡周辺—

0 10cm

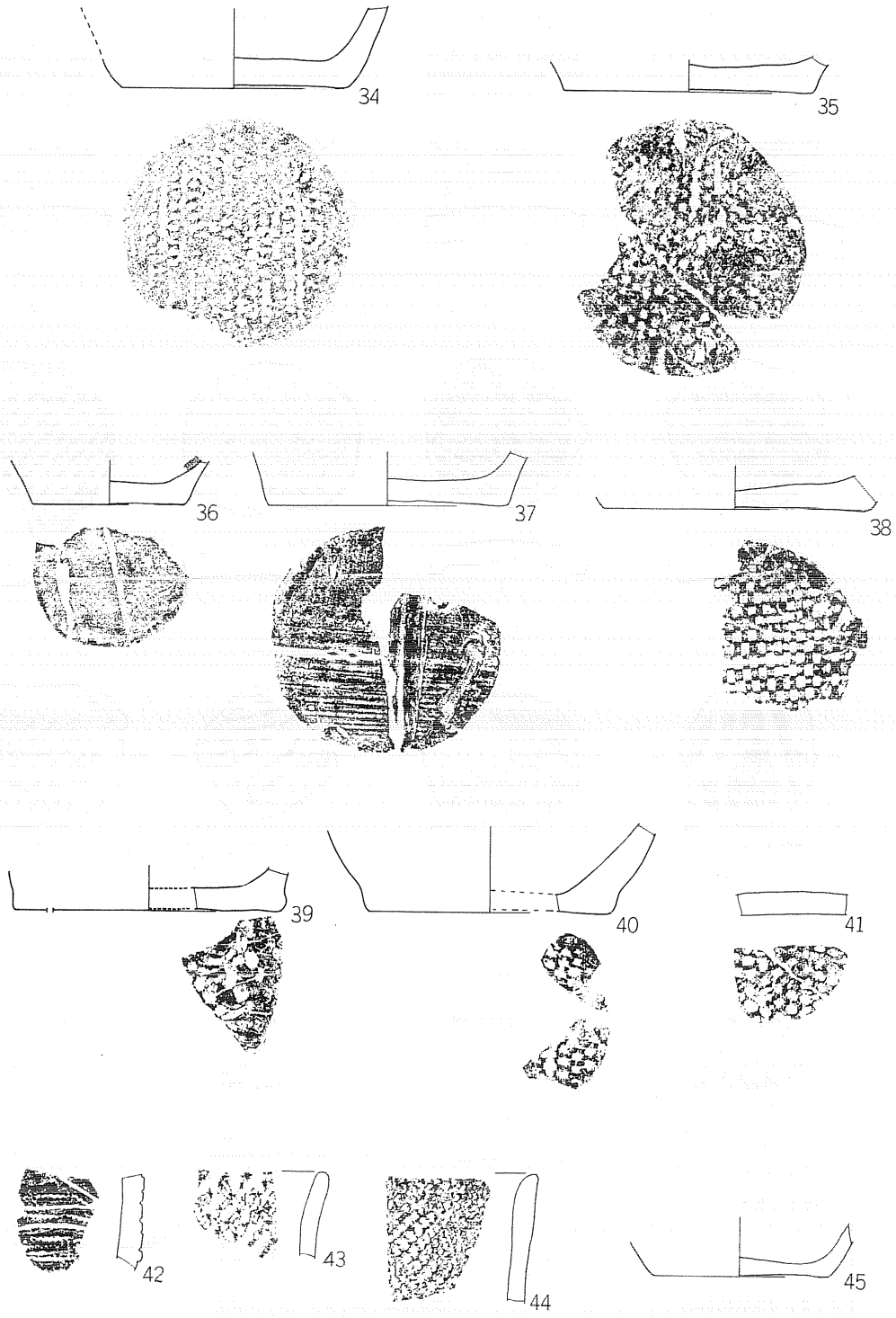
〈8〉第㉑図　第 8，9 号住居跡周辺出土土器



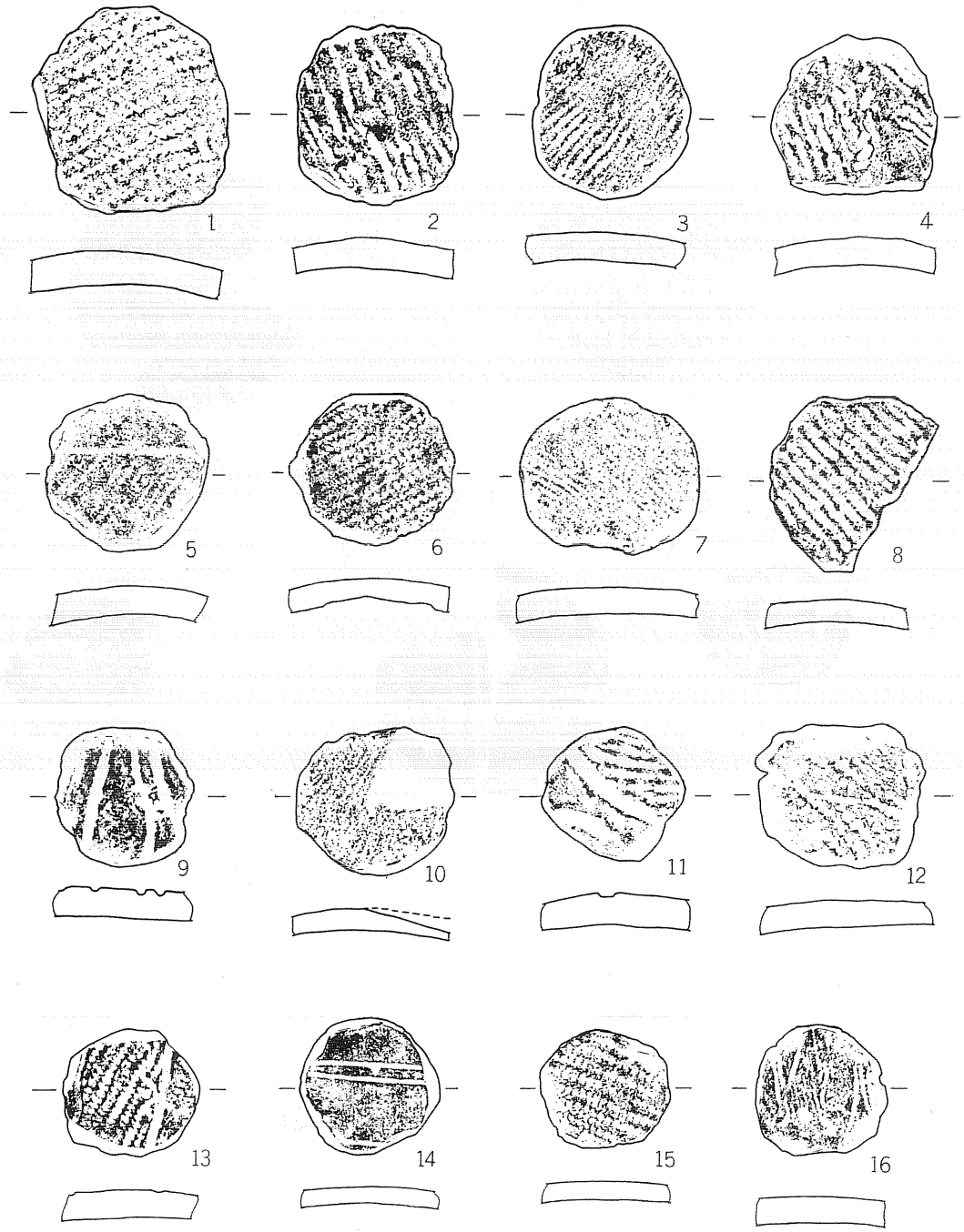
〈8〉第㉒図　Ⅰ区出土土器(1)



〈8〉第㉓図　Ⅰ区出土土器(2)



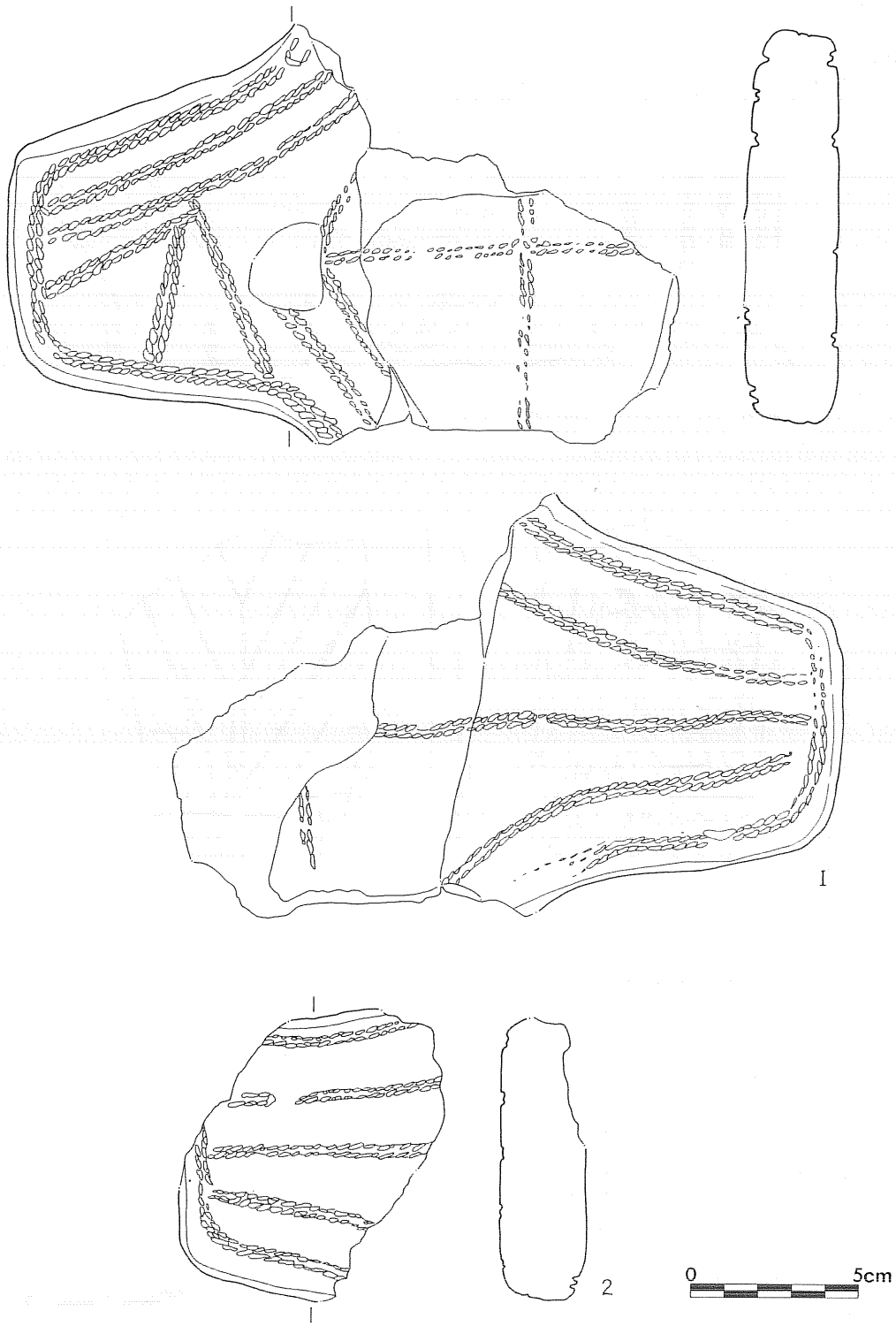
〈8〉第㉔図　Ⅰ区出土土器(3)



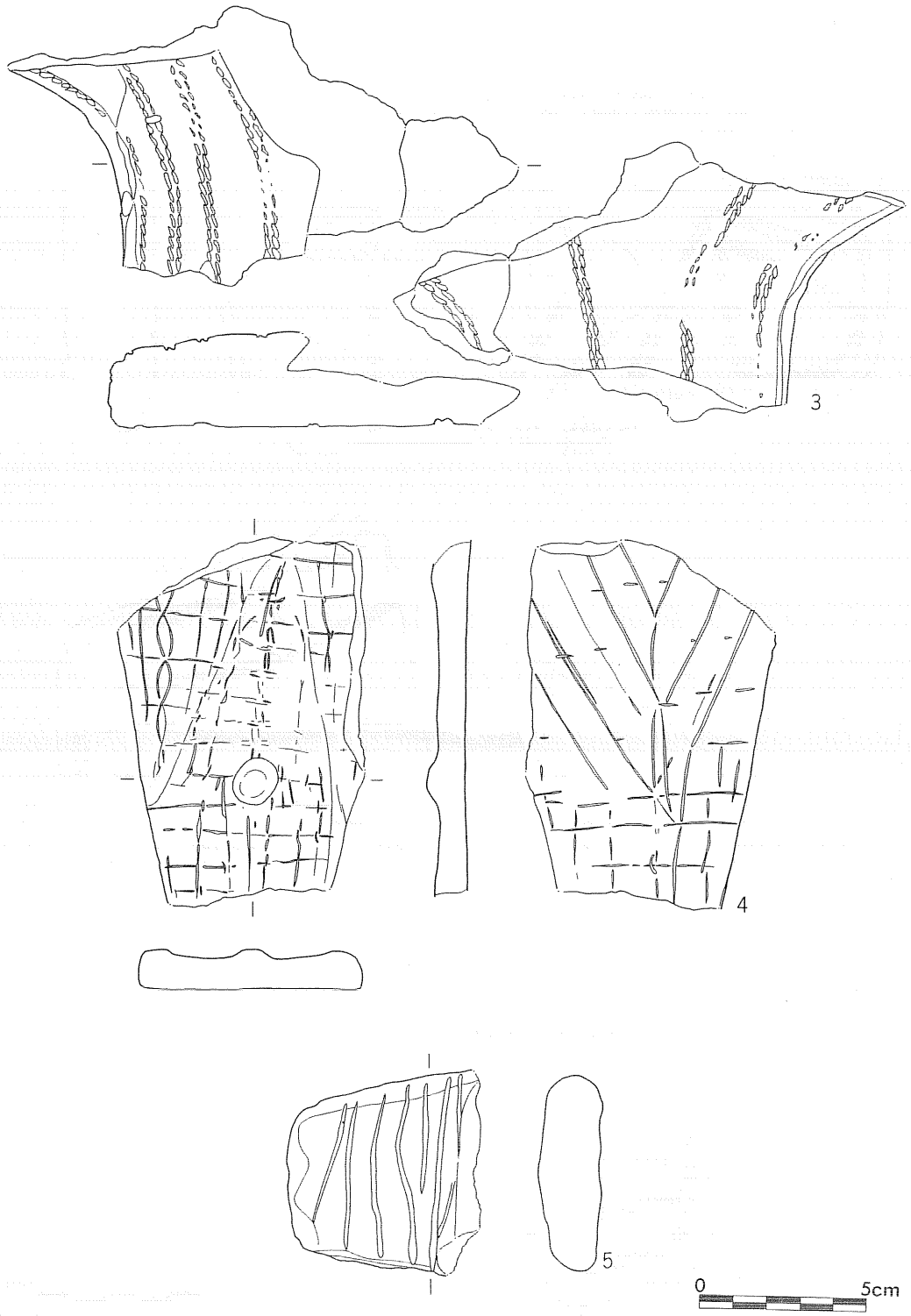
◇円盤状土製品

No	出土地点	No	出土地点	No	出土地点	No	出土地点
1	H9グリッドIII	5	E3グリッドII	9	E1グリッドIII	13	E8グリッドII
2	C7グリッドIII	6	C9グリッドII	10	C7グリッドII	14	表採
3	第6号住居跡床面	7	H9グリッドIII	11	D7グリッドII	15	C5グリッドII
4	D7グリッドIII	8	D8グリッドI	12	C8グリッドII	16	表採

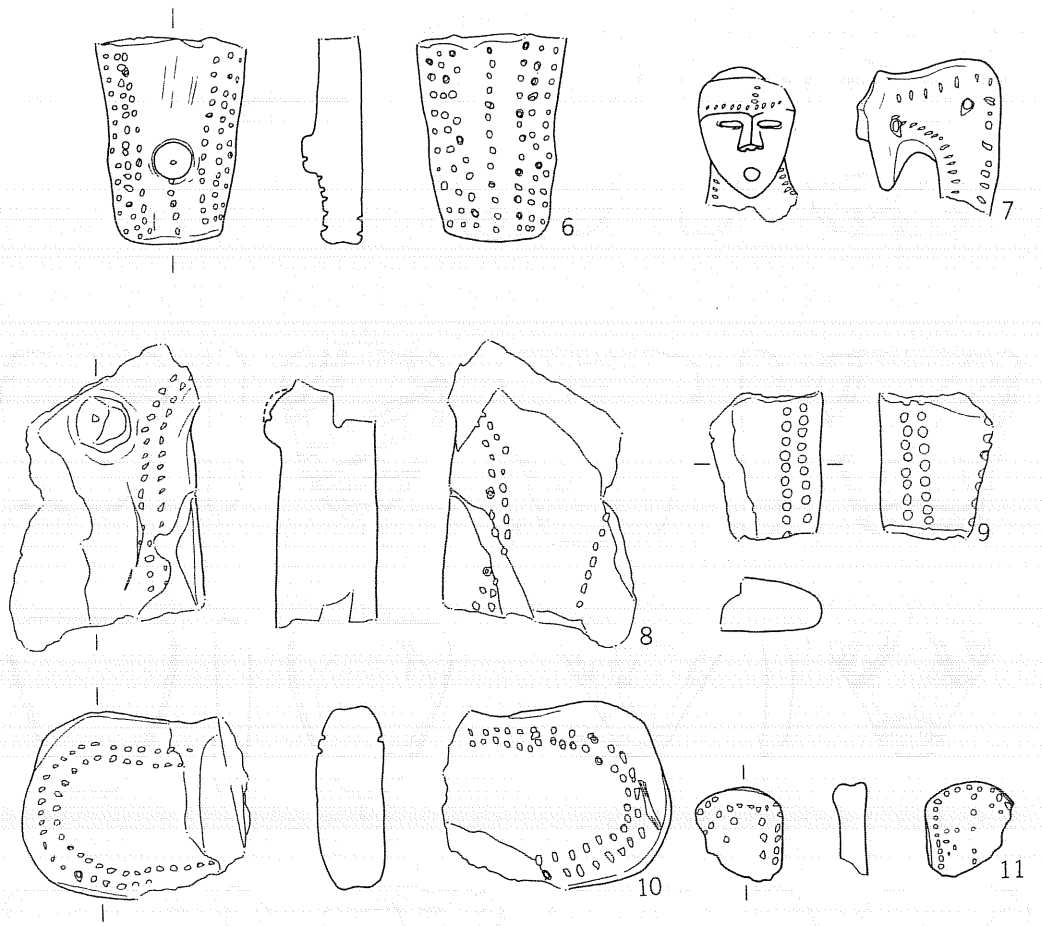
〈8〉第㉕図　円盤状土製品



〈8〉第㉖図　土　偶　(1)



〈8〉第㉗図　土　偶　(2)

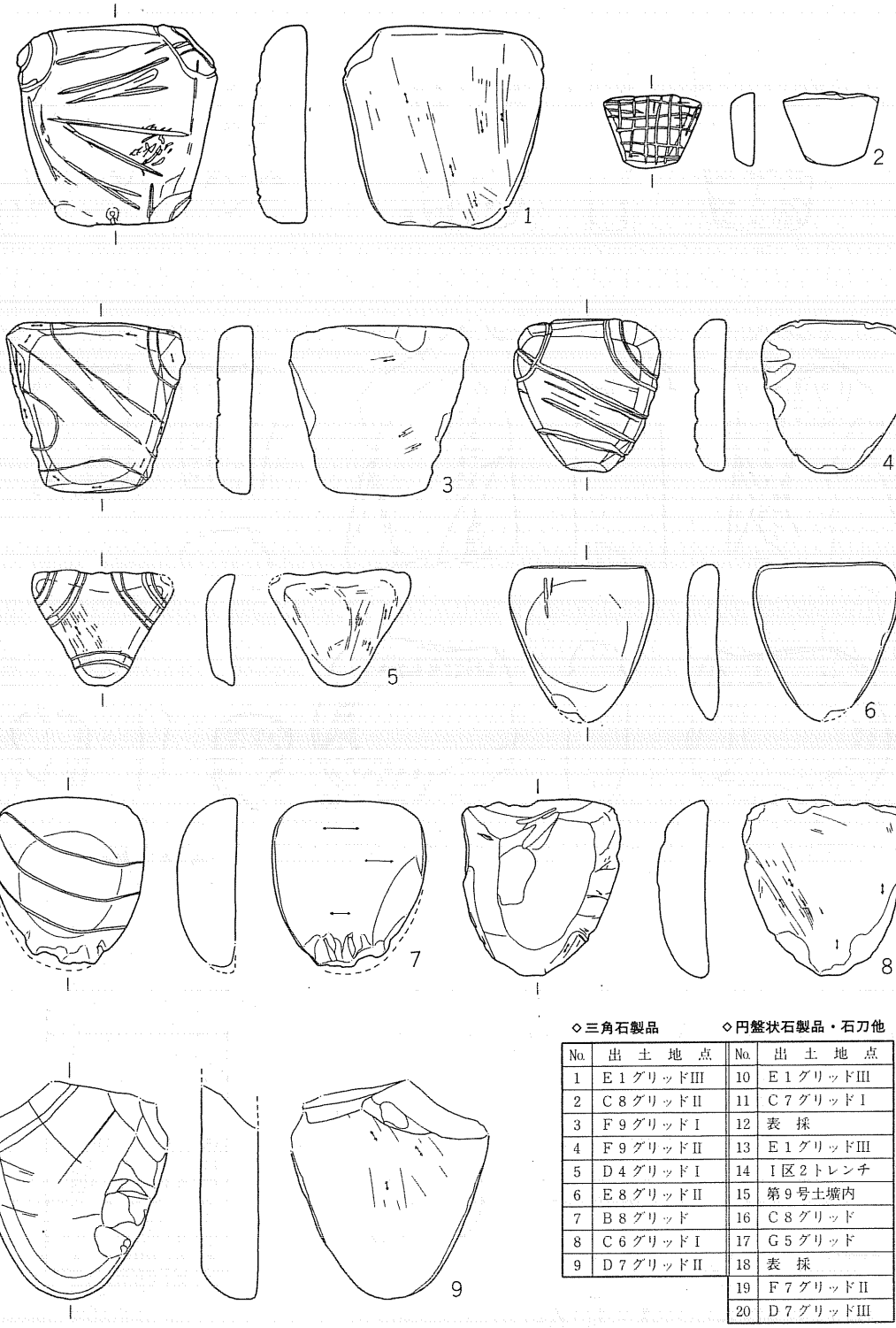


◇土　偶・土製品

No.	出　土　地　点
1	第２号住居跡上面
2	第８号住居跡床面
3	Ｅ１グリッド焼土下
4	Ｉ区２トレンチ
5	Ｇ３グリッドII
6	Ｉ区２トレンチ
7	Ｄ７グリッドII
8	Ｄ５グリッドII
9	Ｅ３グリッドII
10	Ｇ３グリッドIII
11	Ｄ６グリッドII
12	Ｄ７グリッドII
13	第８号住居跡上面
14	Ｅ３グリッドII
15	Ｂ８グリッドPit２
16	第８号住居跡上面
17	第４号住居跡床面

0　5cm

〈８〉第㉘図　土偶(3)・土製品



◇三角石製品

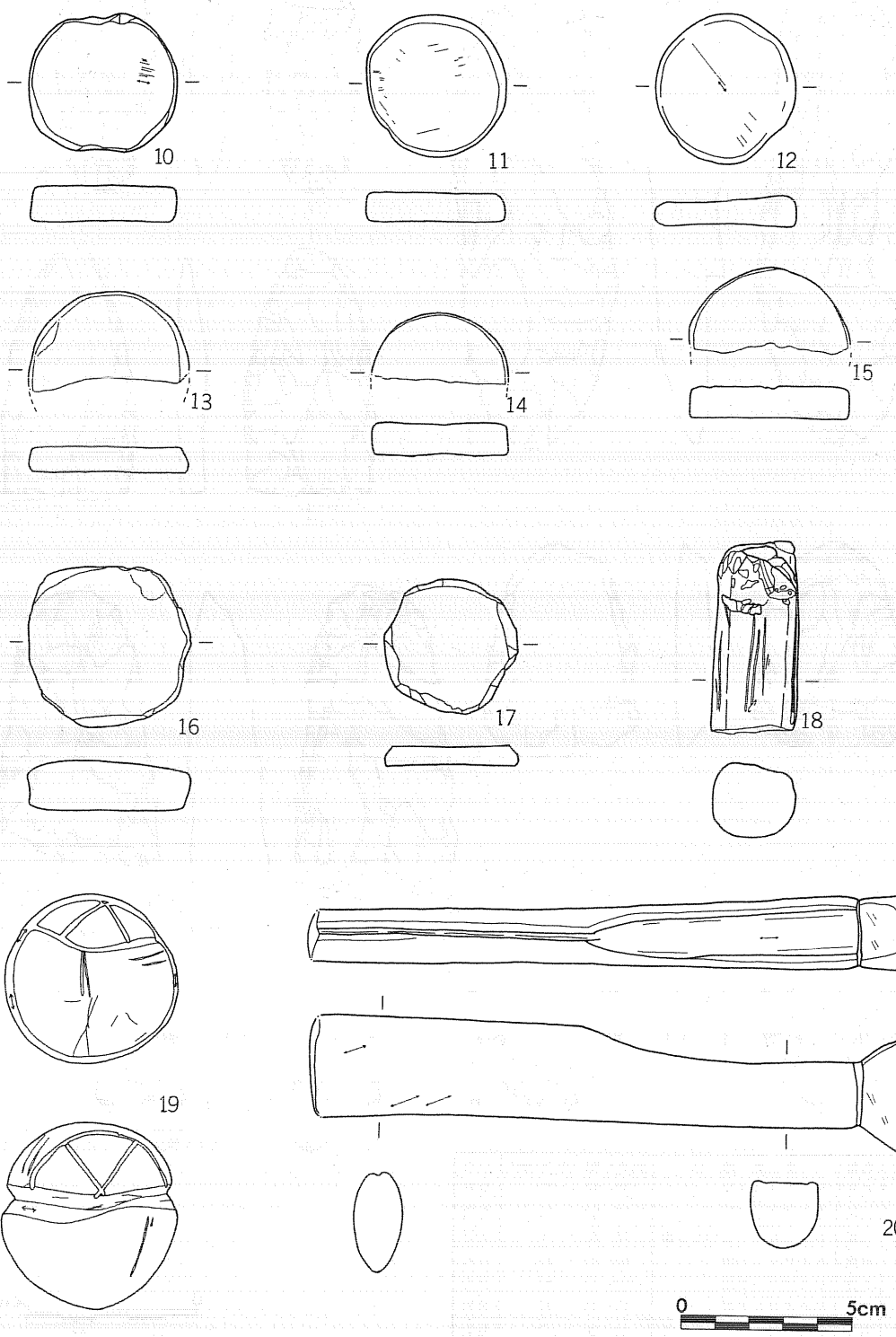
No.	出土地点
1	E1グリッドIII
2	C8グリッドII
3	F9グリッドI
4	F9グリッドII
5	D4グリッドI
6	E8グリッドII
7	B8グリッド
8	C6グリッドI
9	D7グリッドII

◇円盤状石製品・石刀他

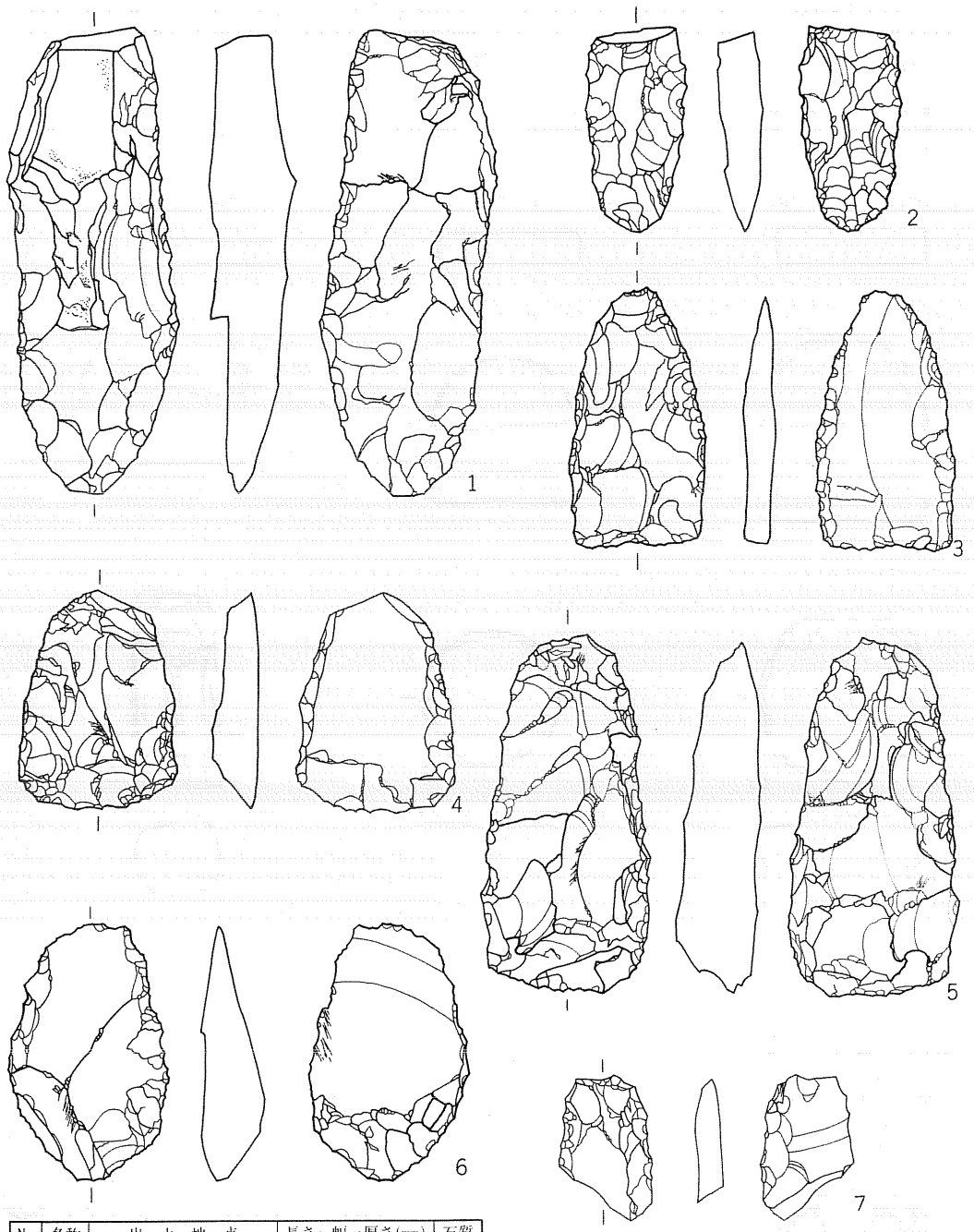
No.	出土地点
10	E1グリッドIII
11	C7グリッドI
12	表採
13	E1グリッドIII
14	I区2トレンチ
15	第9号土壙内
16	C8グリッド
17	G5グリッド
18	表採
19	F7グリッドII
20	D7グリッドIII

0 5cm

〈8〉第㉙図　石製品(1)

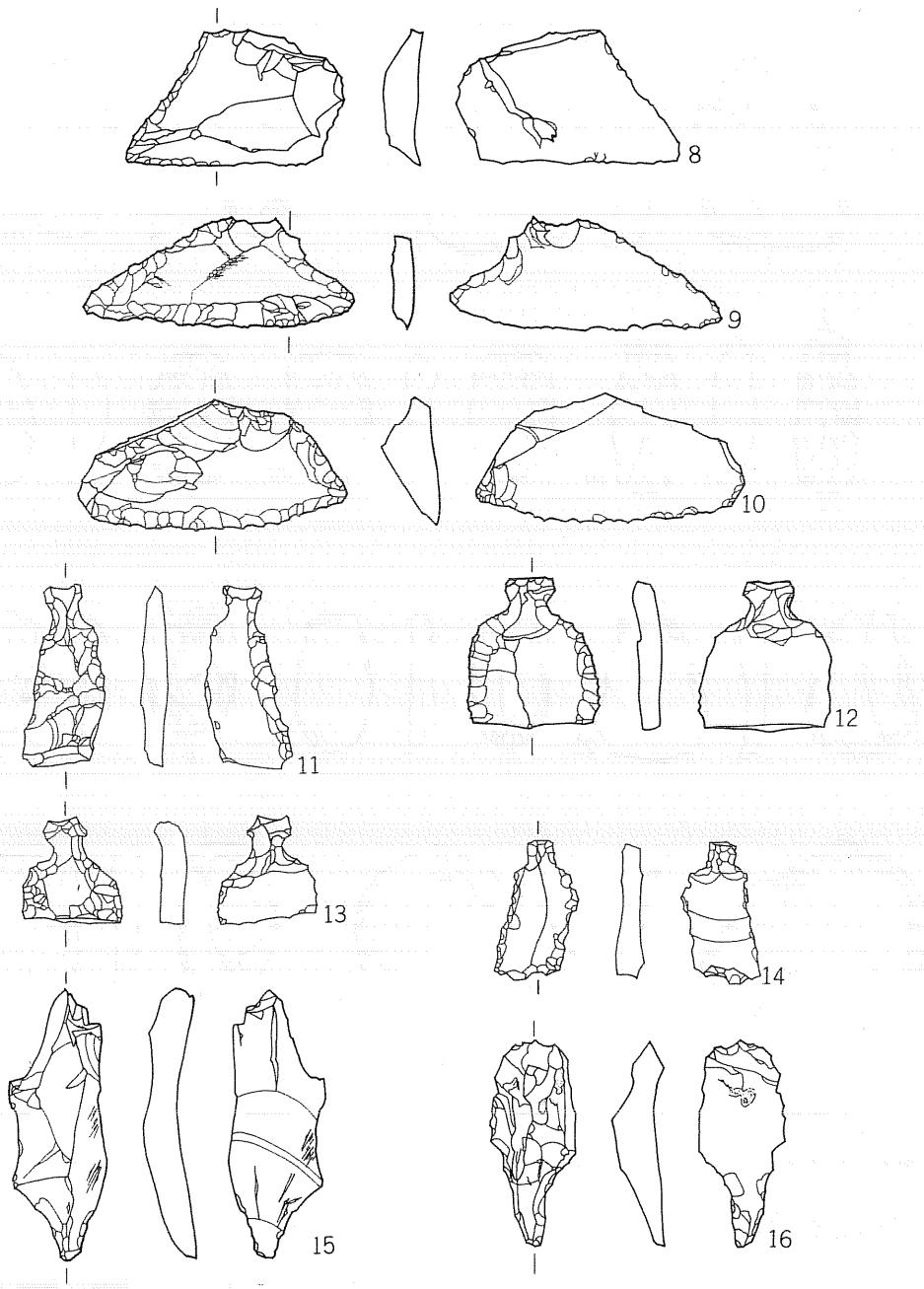


〈8〉第㉚図　石製品(2)



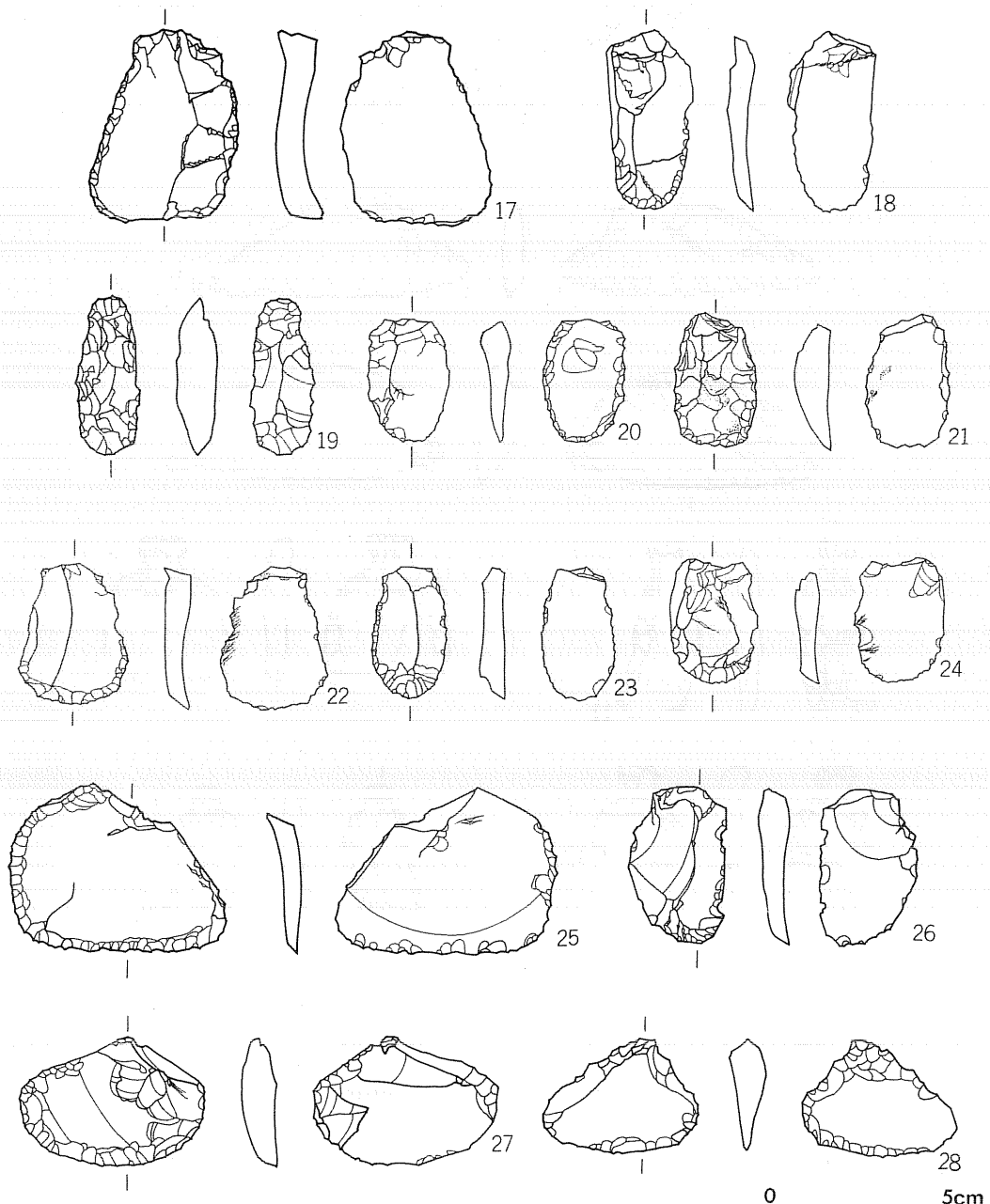
No.	名称	出土地点	長さ・幅・厚さ(mm)	石質
1	石斧	D2グリッドII	133・46・25	頁岩
2	石槍	A2グリッドN	59・28・12	頁岩
3	石篦	D2グリッドEベルトIII	75・39・9	頁岩
4	石篦	E1グリッドIII	63・45・13	頁岩
5	石篦	G3グリッドIII	103・47・23	頁岩
6	石篦	E8グリッドII	74・45・17	頁岩
7	石篦	C8グリッドSベルトII	41・26・7	頁岩

〈8〉第㉛図　I区出土石器(1)



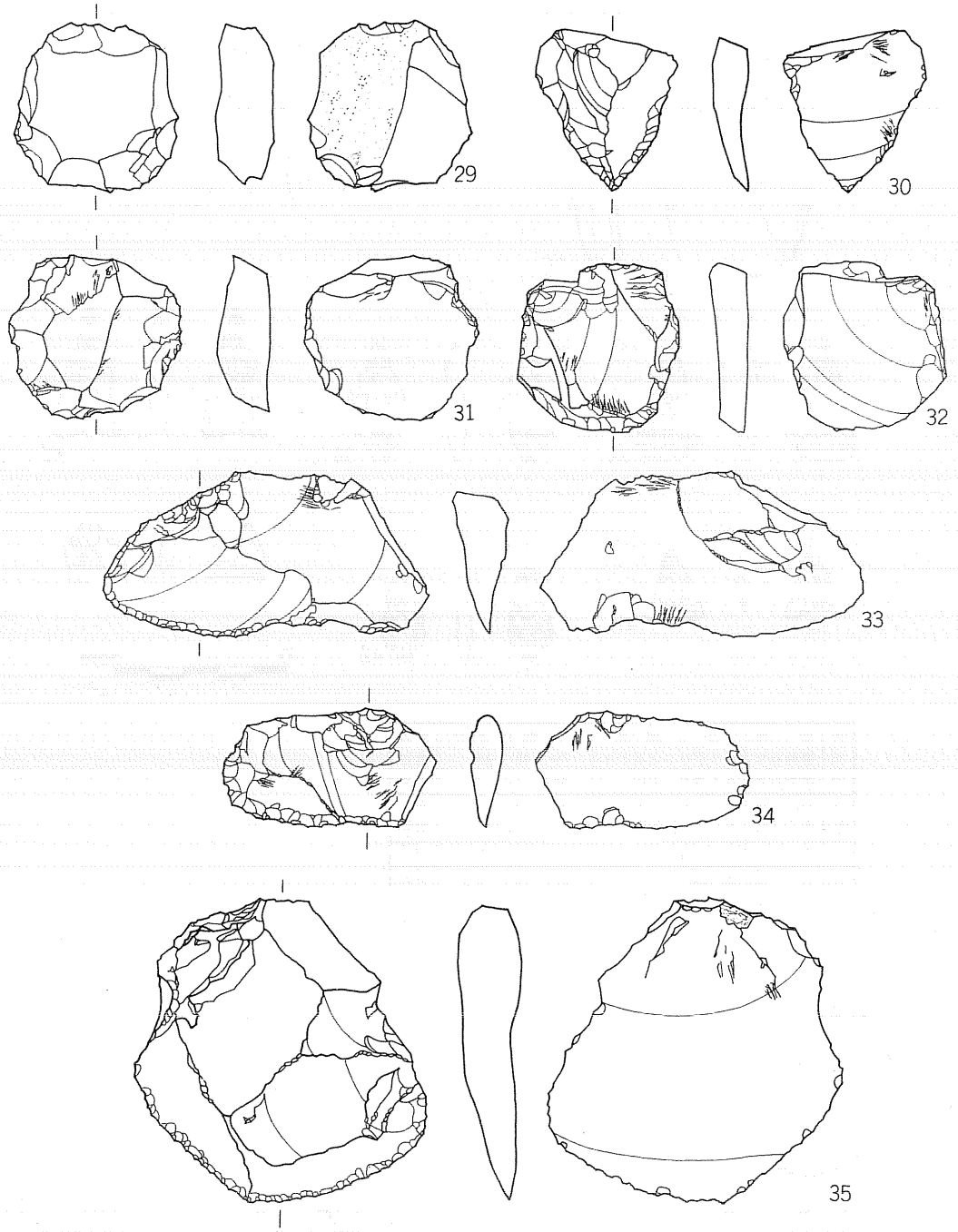
No.	名称	出　土　地　点	長さ・幅・厚さ(mm)	石質
8	石匙	C 8 グリッドRP 2	37・ 53・ 9	頁岩
9	石匙	F 3 グリッドII	30・ 73・ 6	頁岩
10	石匙	C 7 グリッドI	35・ 72・ 14	頁岩
11	石匙	F 4 グリッドSベルトII	49・ 19・ 7	頁岩
12	石匙	D 7 グリッドII	40・ 35・ 6	頁岩
13	石匙	B 7 C 7 グリッドII	29・ 26・ 7	頁岩
14	石匙		37・ 18・ 7	頁岩
15	石錐	G 3 グリッドIII	73・ 24・ 10	頁岩
16	石錐	D 6 グリッドSベルトIII	55・ 23・ 11	頁岩

〈8〉第㉜図　I区出土石器(2)



No.	名称	出土地点	長さ・幅・厚さ(mm)	石質	No.	名称	出土地点	長さ・幅・厚さ(mm)	石質
17	剥片	C 9 グリッド	54・ 39・ 11	頁岩	23	剥片	D 5 グリッドSベルトIII	37・ 20・ 7	頁岩
18	剥片	E 3 グリッドII	51・ 23・ 7	頁岩	24	剥片	E 1 グリッドIII	35・ 25・ 7	頁岩
19	剥片	B 1 グリッドI	45・ 17・ 11	頁岩	25	剥片	C 6 グリッドEベルトII	48・ 59・ 6	頁岩
20	剥片	A 5・B 5 グリッドII	35・ 23・ 9	頁岩	26	剥片	C 9 グリッドIII	44・ 27・ 9	頁岩
21	剥片	D 7 グリッドI	38・ 23・ 10	頁岩	27	剥片	B 8 グリッドII	36・ 52・ 10	頁岩
22	剥片	F 7 グリッドIII	40・ 30・ 7	頁岩	28	剥片	G 3 グリッドIII	33・ 44・ 10	頁岩

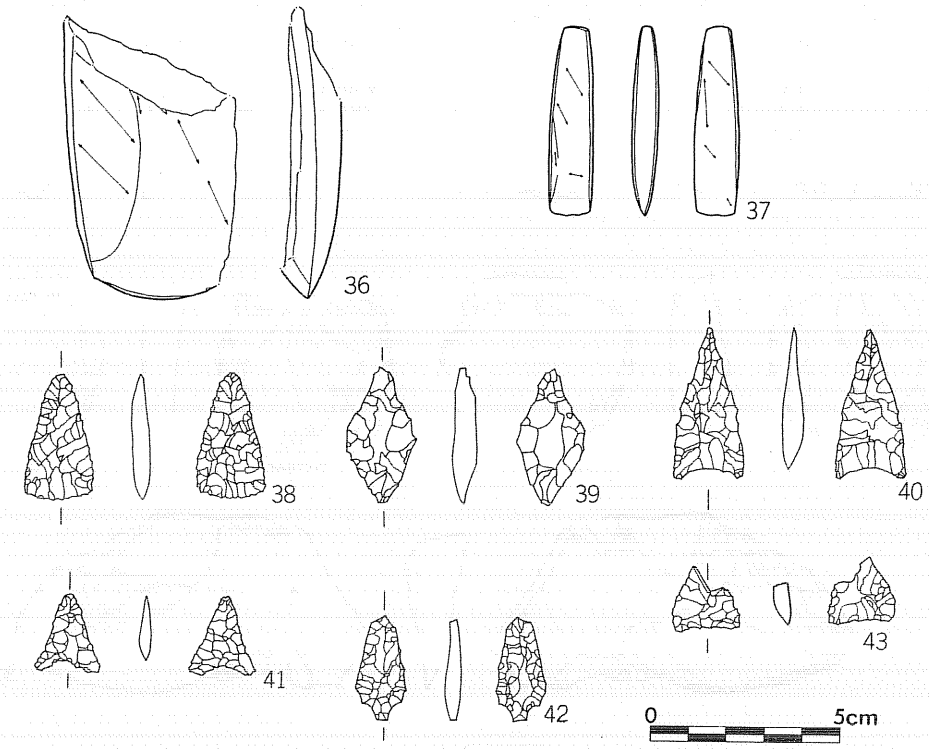
〈8〉第㉝図　I区出土石器(3)



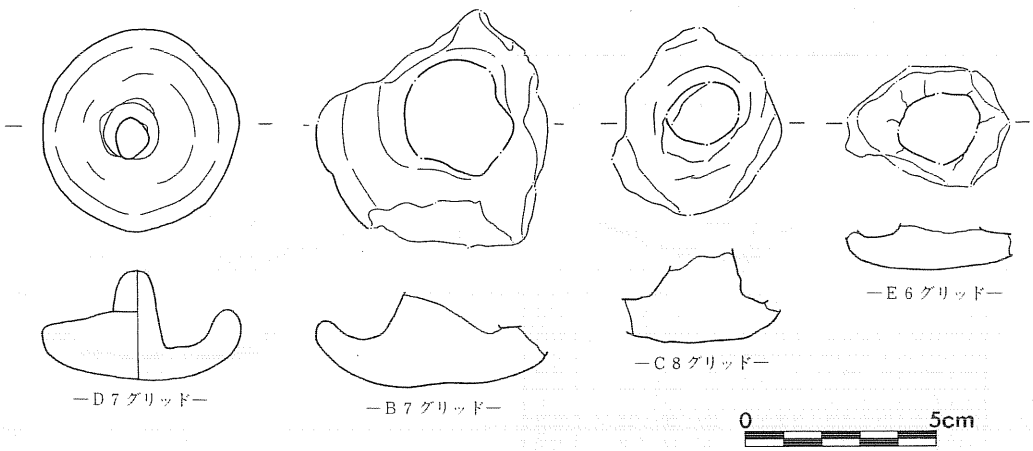
No.	名称	出　土　地　点	長さ・幅・厚さ(mm)	石質
29	剥片	D 2 グリッドII	50・ 47・ 17	頁岩
30	剥片	表　採	47・ 41・ 11	頁岩
31	剥片	G 4 グリッドII	48・ 50・ 15	頁岩
32	剥片	B 9 グリッド表土	49・ 46・ 11	頁岩
33	剥片	Iトレンチ III	48・ 94・ 15	頁岩
34	剥片	表　土	35・ 62・ 9	頁岩
35	剥片	E 2 グリッドI	89・ 82・ 18	頁岩

0　5cm

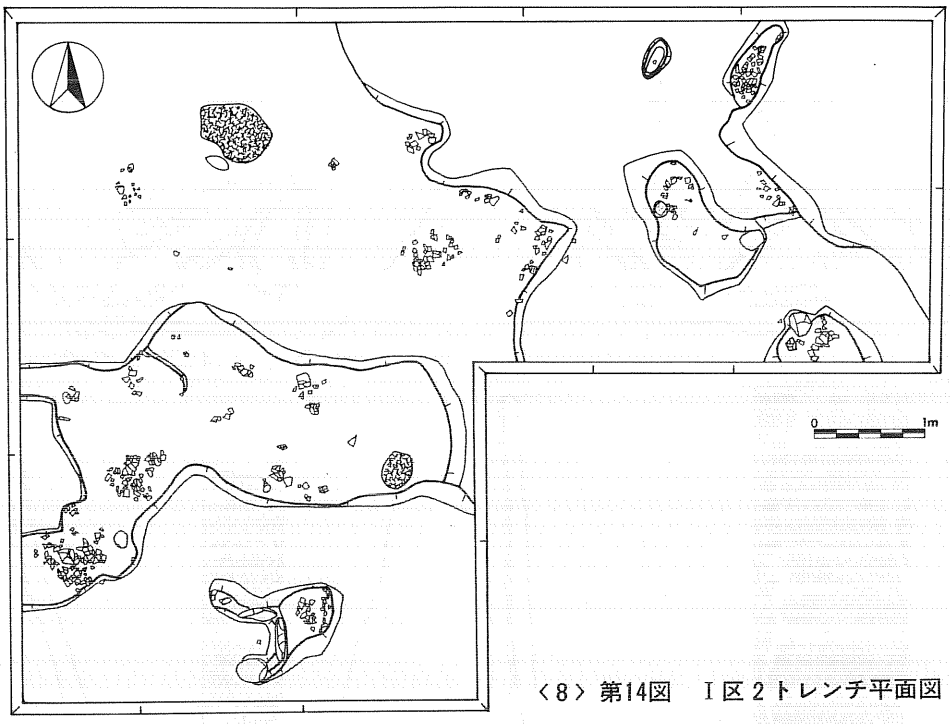
〈8〉第㉞図　I区出土石器(4)



No.	名　称	出　土　地　点	長さ・幅・厚さ(mm)	石質
36	磨製石斧	C 7 グリッドRP 1	76・ 45・ 13	頁岩
37	磨製石斧	A 1 グリッドIV	50・ 12・ 7	頁岩
38	石　鏃	F 9 グリッドII	33・ 18・ 5	頁岩
39	石　鏃	C 2 グリッドPit上	36・ 18・ 6	頁岩
40	石　鏃	D 2 グリッドII	40・ 18・ 6	頁岩
41	石　鏃	表　採	20・ 16・ 3	頁岩
42	石　鏃	F 9 グリッドII	28・ 13・ 4	頁岩
43	石　鏃	表　採	17・ 18・ 4	頁岩



〈8〉第㉟図　I 区出土石器(5)・土製品(蓋)



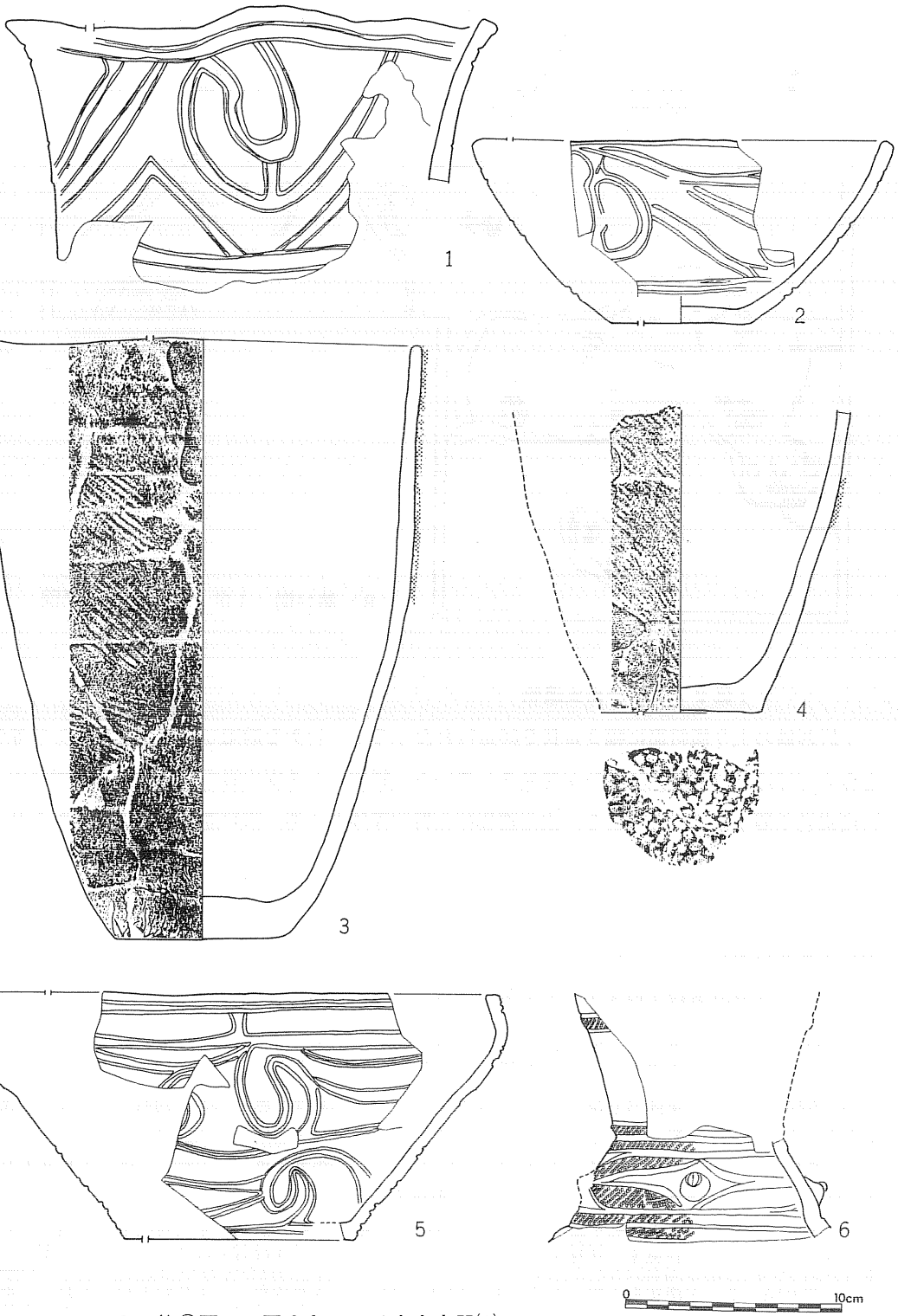
〈8〉第14図　Ⅰ区2トレンチ平面図

◇Ⅰ区2トレンチ出土遺物

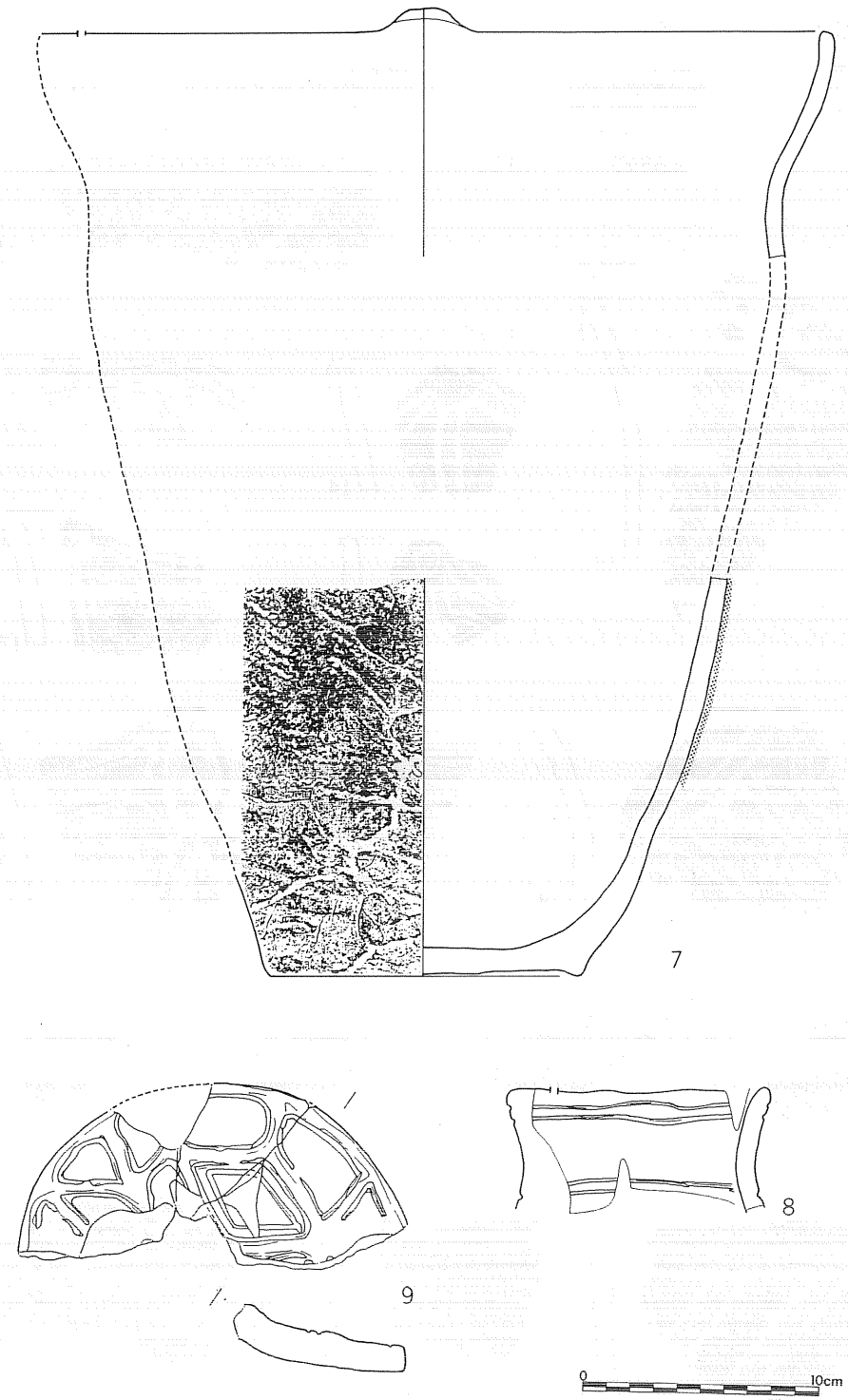
Ⅰ区西側の上り傾斜面に幅3m長さ30mにわたってトレンチを設定している。拡張した部分を含めてほぼ30m²の範囲に遺物が発見されている。斜面は石英安山岩の岩盤であり，岩盤の上の暗褐色土層上が発見面である。出土遺物は土器が深鉢形土器，広口壺形土器，蓋等があり，石器は石鏃，石匙，剝片，凹石等である。出土土器は縄文時代後期初頭に位置づけられ，十腰内Ⅰ式に比定されるものが大部分であるが，〈8〉第㊱図は後期後半に位置づけられ，宮戸Ⅲ式に比定される。

◇萩峠遺跡Ⅰ区2トレンチ実測土器のまとめ (2)　　※(　)は残存・推定寸法

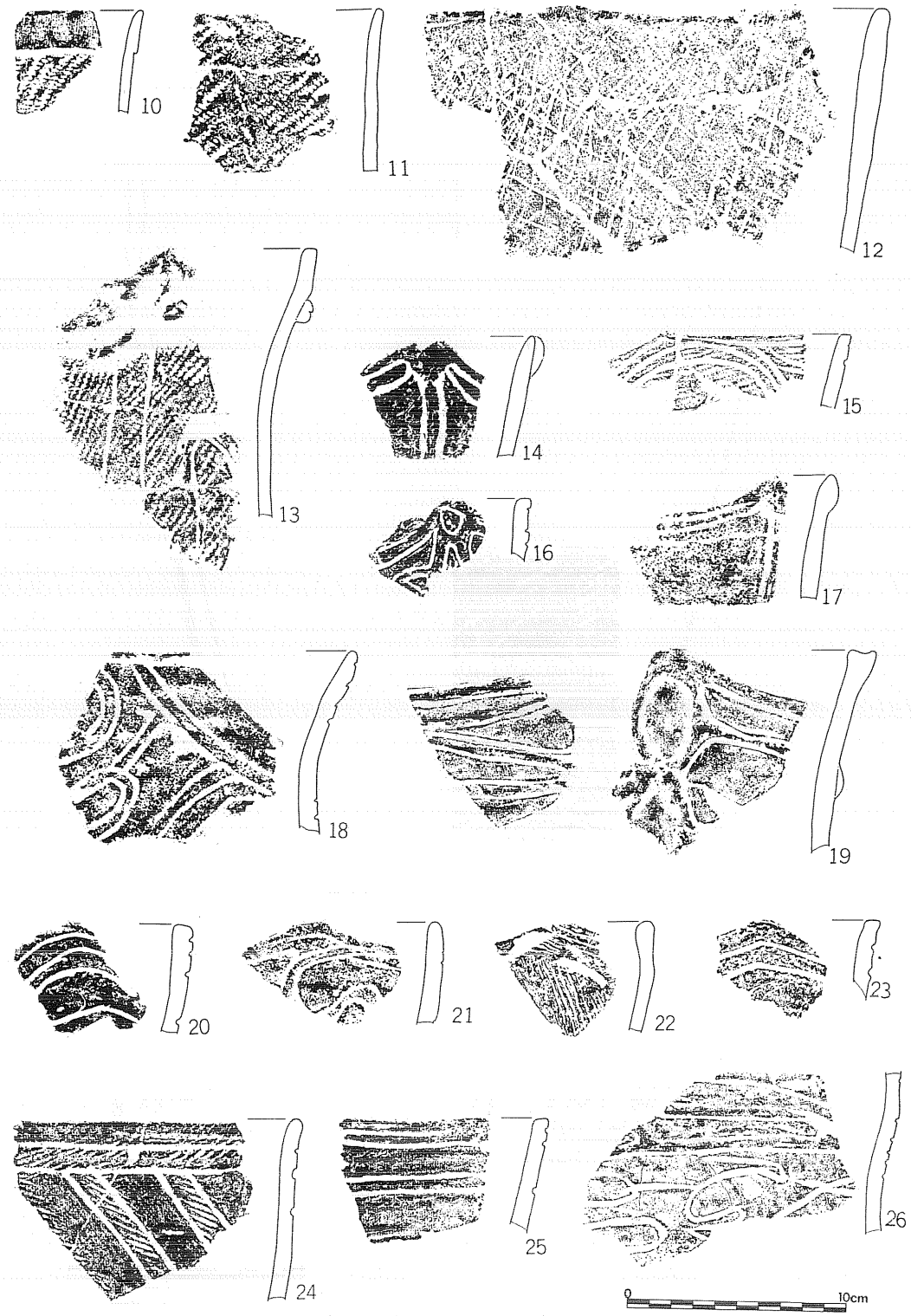
図版番号 出土地点	①器種　②口径・底径・高さ(cm)　③色調　④胎土　⑤焼成 ⑥器表面の主な文様(調整)／器内面の調整　⑦備考
〈8〉第㊱図—3 Ⅰ区2トレンチ	①深鉢形土器　②20.1・8.1・28.2　③明黄褐色　④比較的粗　⑤比較的不良 ⑥斜縄文　／ナデ　⑦外面にスス付着
〈8〉第㊱図—5 Ⅰ区2トレンチ	①浅鉢形土器　②(23.9)・(10.6)・11.6　③明黄褐色　④比較的密　⑤比較的良 ⑥沈線文　／横位ミガキ
〈8〉第㊱図—6 Ⅰ区2トレンチ	①長頸壺形土器　②(11.5)・——・(11.6)　③灰褐色　④比較的密　⑤良好 ⑥斜縄文・沈線文　／ナデ　⑦頸部付近にアスファルト付着
〈8〉第㊲図—7 Ⅰ区2トレンチ	①深鉢形土器　②(33.6)・(13.1)・(41.0)　③黄灰色　④比較的粗　⑤良好 ⑥横・斜縄文　／ナデ　⑦器面起伏あり，外面にスス付着，内面に朱塗



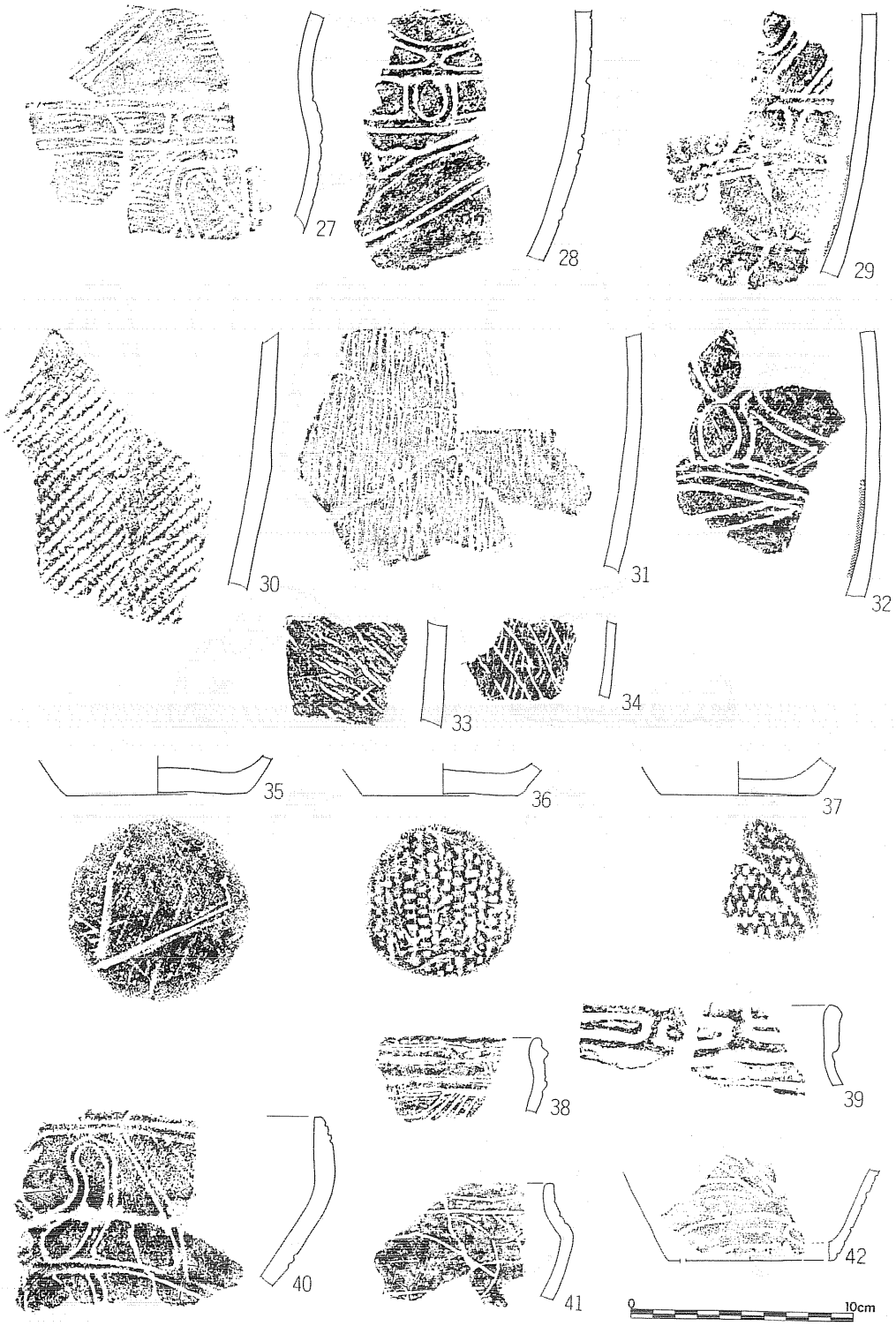
〈8〉第㊱図　Ⅰ区2トレンチ出土土器(1)



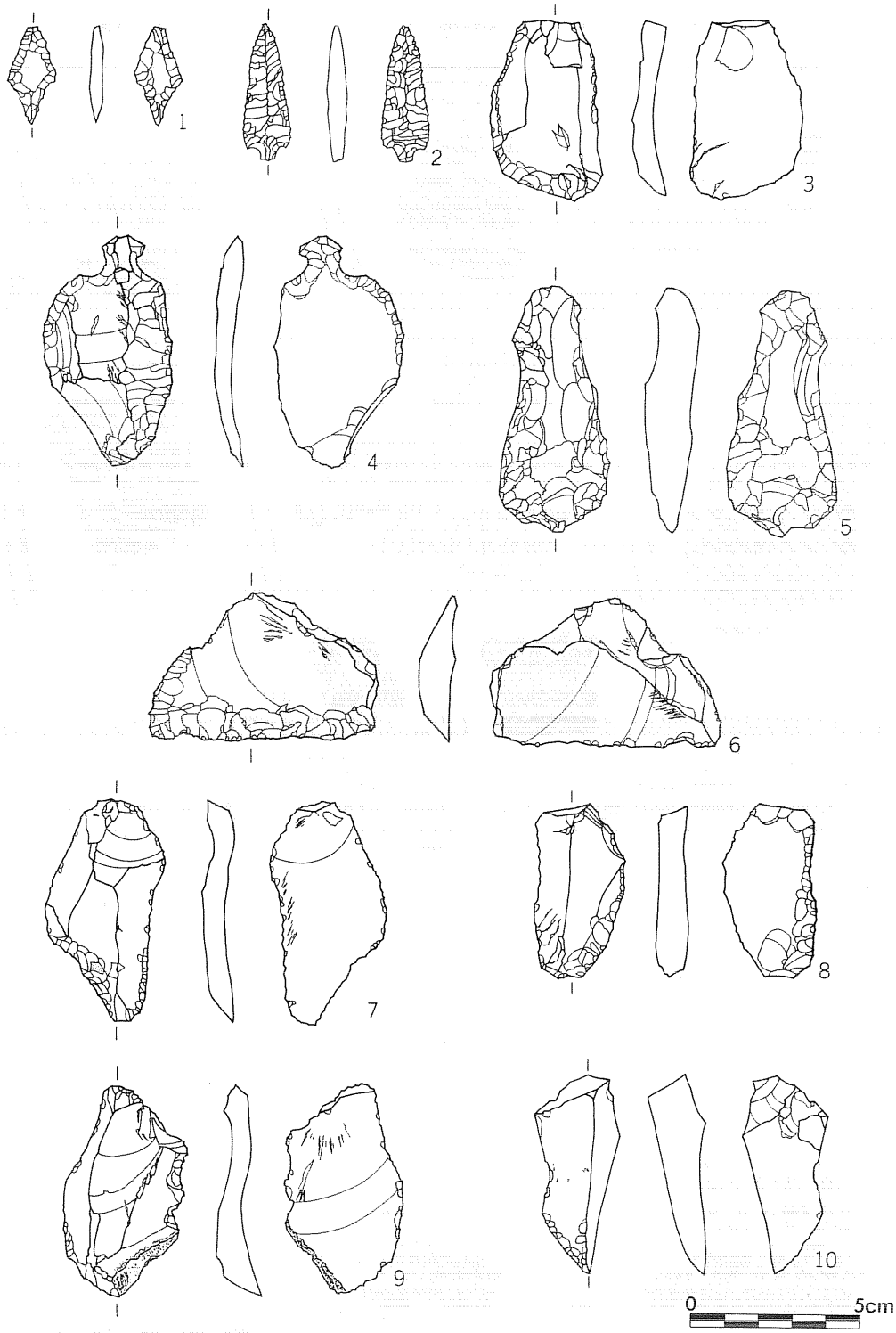
〈8〉第㊲図　Ⅰ区2トレンチ出土土器(2)



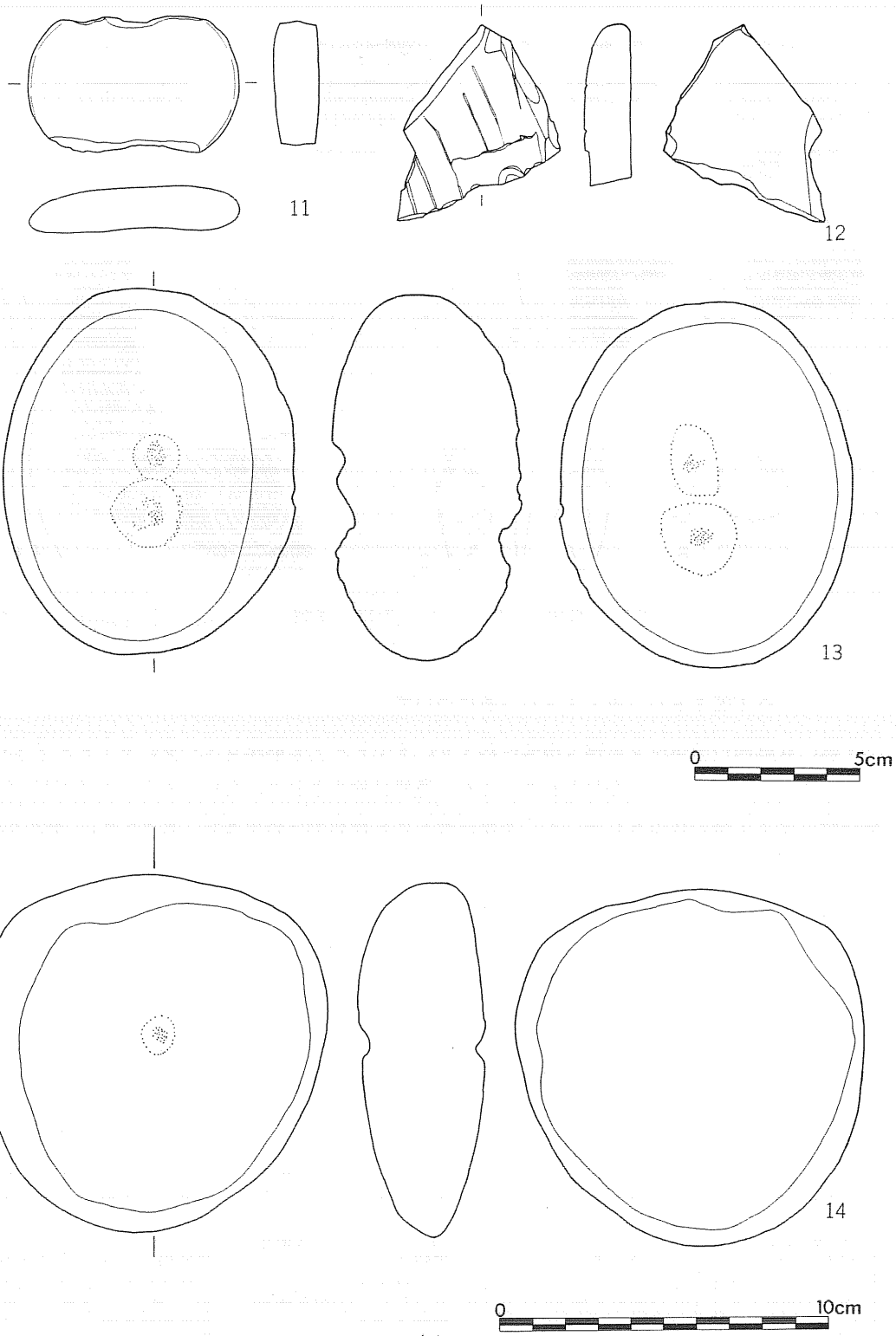
〈8〉第㊳図　Ⅰ区2トレンチ出土遺物(1)



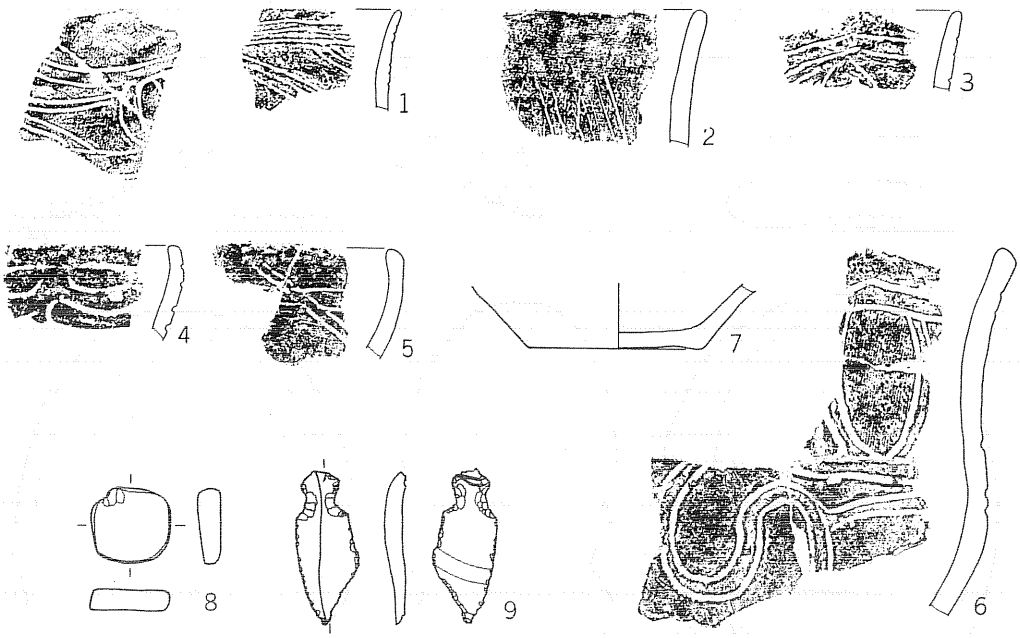
〈8〉第㊴図　Ⅰ区2トレンチ出土遺物(2)



〈8〉第㊵図　1区2トレンチ出土遺物(3)



〈8〉第④図　Ⅰ区2トレンチ出土遺物(4)



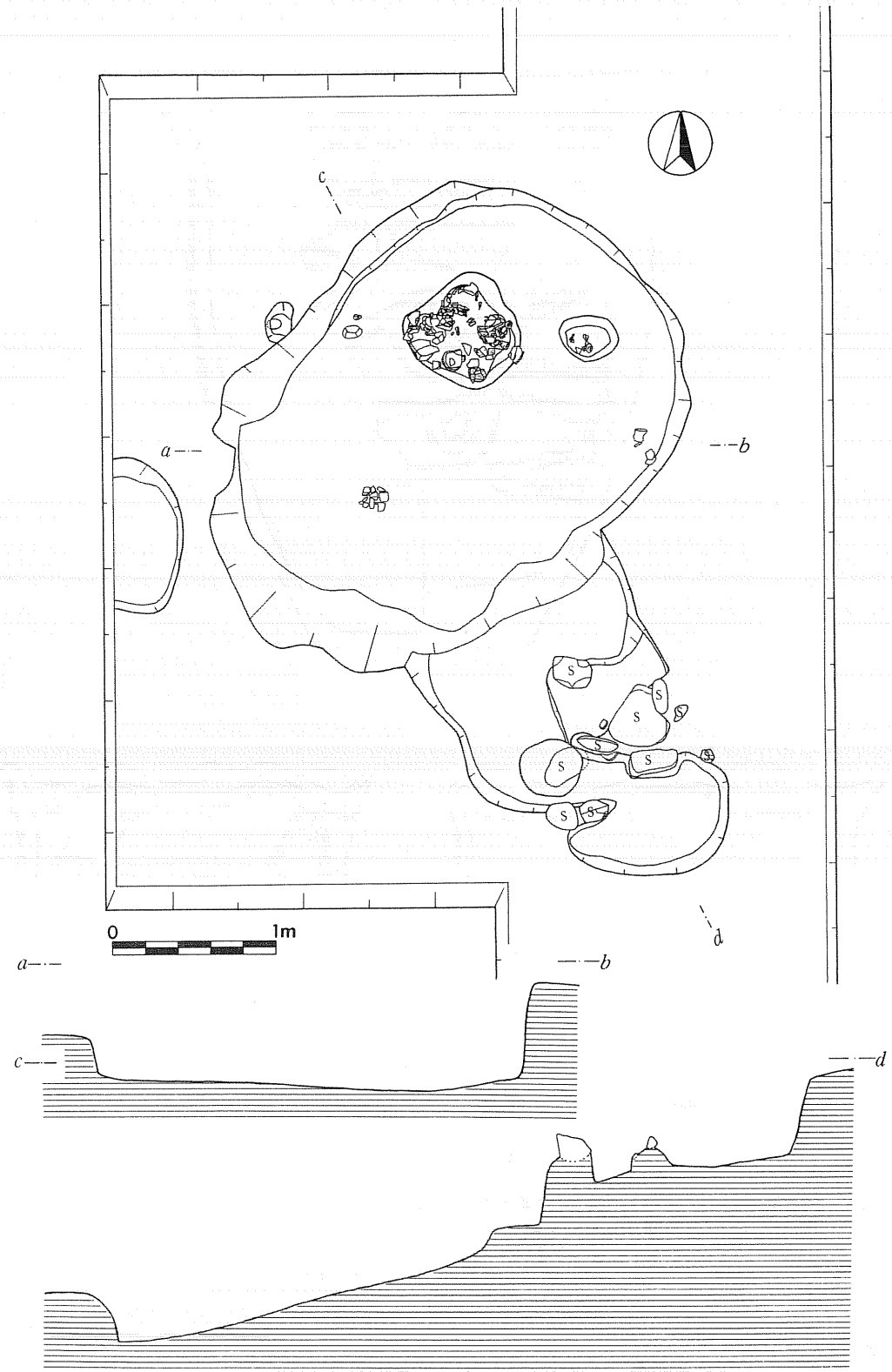
〈8〉第㊷図　Ⅰ区3トレンチ出土遺物

◇Ⅰ区3トレンチ・4トレンチについて

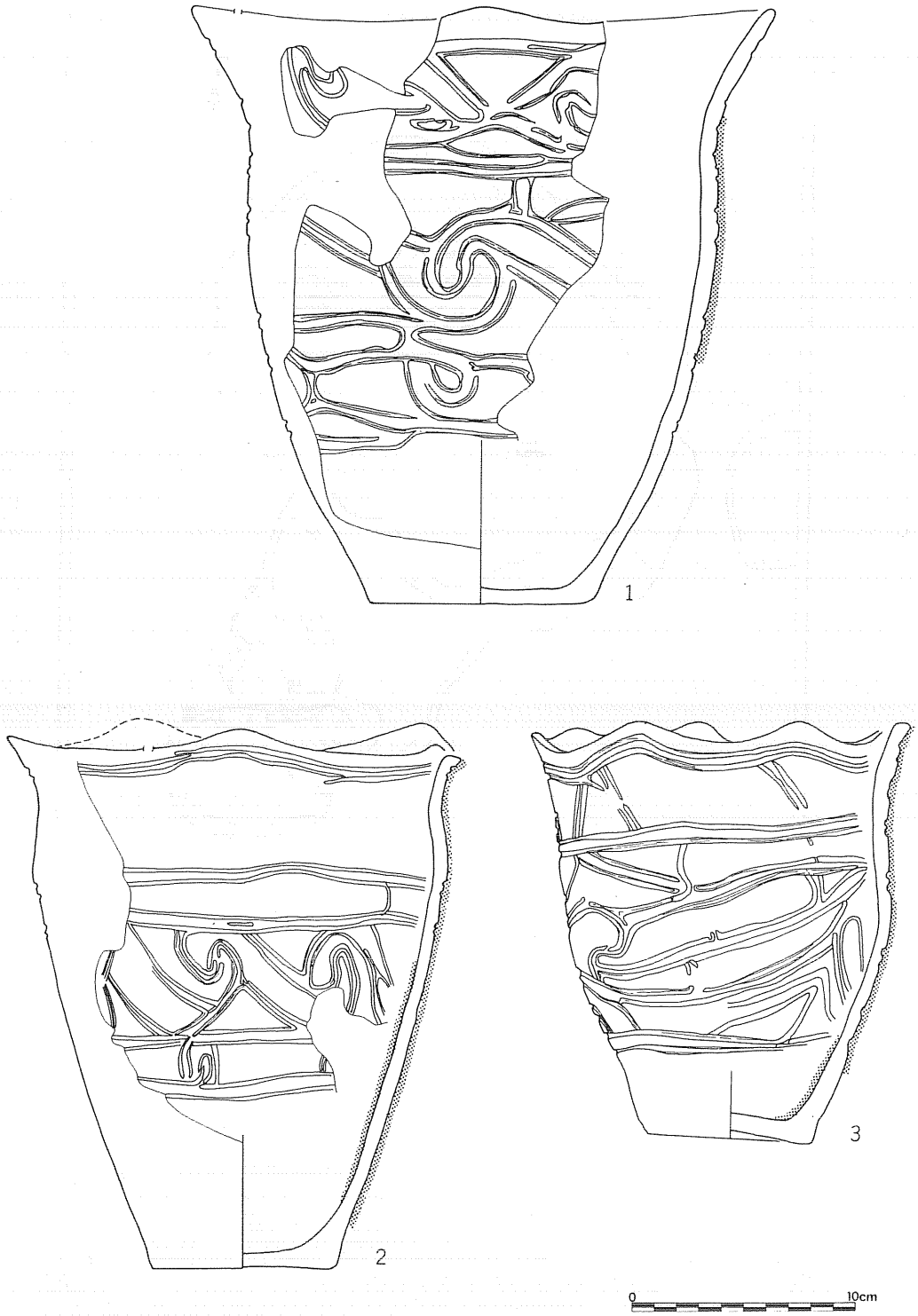
Ⅰ区，Ⅱ区間の尾根に2m幅で南北に長く3，4トレンチを設定している。3トレンチでは〈8〉第㊷図に示す遺物が発見されているが，遺構は検出されていない。4トレンチでは〈8〉第15図に示す土壙が検出されている。北側に落ち込む傾斜面に検出され，長さ3.7m，幅2.8mで南側に配石を伴う張り出し部がある。中央部より〈8〉第㊸・㊹図に示す遺物がまとまって出土している。〈8〉第㊹図―5は広口壺形土器である。頸部に「8」の字形の隆線文，胴部に「∞」の字形の隆線文を4個配置し，頸部より扇状に沈線文で文様を区画している。

◇萩峠遺跡Ⅰ区4トレンチ実測土器のまとめ (3)　※(　)は残存・推定寸法

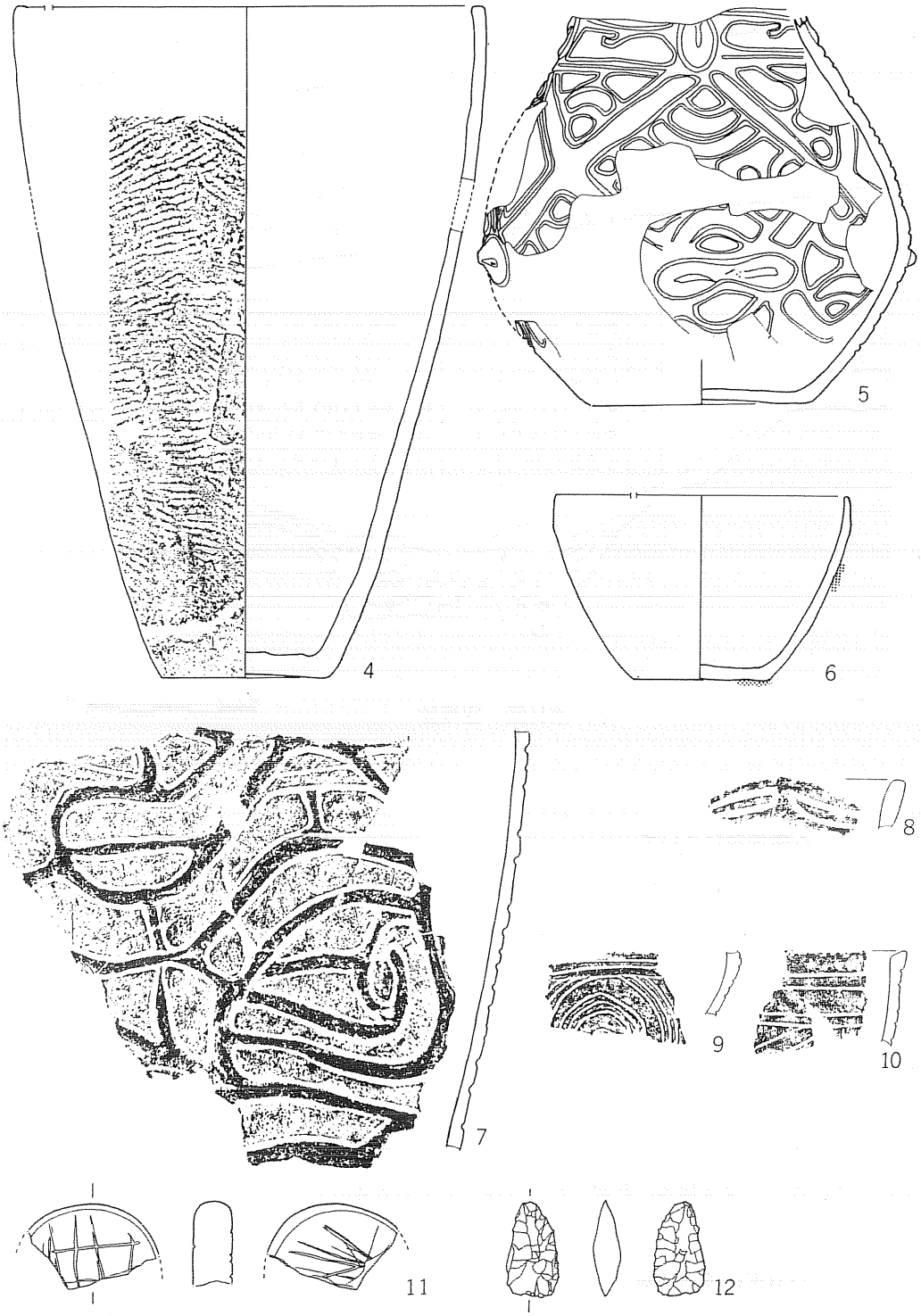
図版番号 出土地点	①器種 ②口径・底径・高さ(cm) ③色調 ④胎土 ⑤焼成 ⑥器表面の主な文様(調整)／器内面の調整 ⑦備考
〈8〉第㊸図―1 Ⅰ区4トレンチ	①深鉢形土器 ②(26.4)・10.2・27.2 ③灰黄褐色 ④比較的密 ⑤比較的良 ⑥沈線文 ／縦位ミガキ ⑦外面にスス付着
〈8〉第㊸図―2 Ⅰ区4トレンチ	①深鉢形土器 ②20.6・8.4・24.7 ③灰黄褐色 ④密 ⑤良好 ⑥沈線文 ／縦位ミガキ ⑦外面・内面にスス付着
〈8〉第㊸図―3 Ⅰ区4トレンチ	①深鉢形土器 ②17.2・7.5・19.2 ③灰黄褐色 ④密 ⑤良好 ⑥沈線文 ／横位ミガキ ⑦外面・内面にスス付着
〈8〉第㊹図―5 Ⅰ区4トレンチ	①広口壺形土器 ②(11.0)・10.0・(17.7) ③明黄褐色 ④密 ⑤良好 ⑥沈線文 ／横位ミガキ ⑦外面に朱塗



〈8〉第15図　Ⅰ区４トレンチ土壙

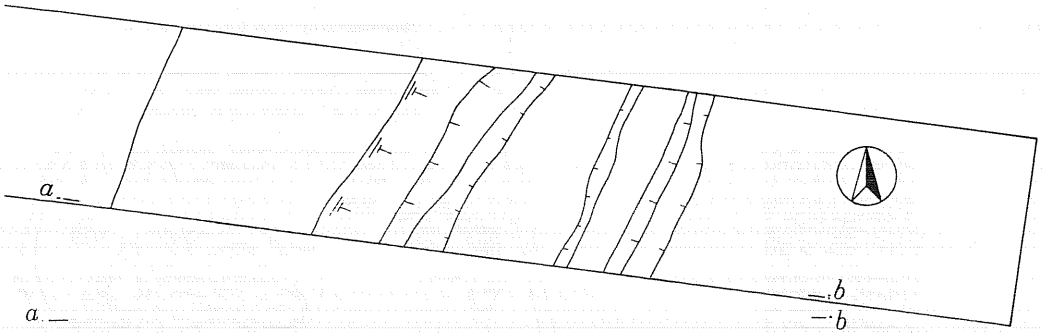


〈8〉第㊸図　Ⅰ区4トレンチ出土遺物(1)

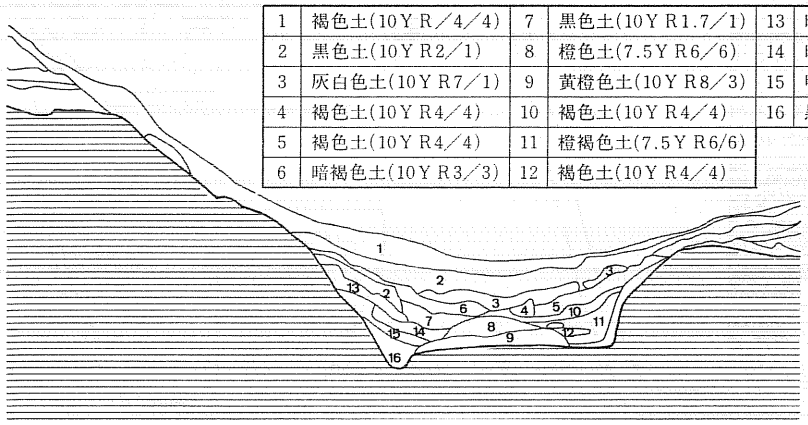


※ 土器は$\frac{1}{3}$，石器・石製品は$\frac{1}{2}$

〈8〉第㊹図　Ⅰ区4トレンチ出土遺物(2)



1	褐色土(10Y R／4／4)	7	黒色土(10Y R1.7／1)	13	暗褐色土(10Y R3／3)
2	黒色土(10Y R2／1)	8	橙色土(7.5Y R6／6)	14	暗褐色土(10Y R3／4)
3	灰白色土(10Y R7／1)	9	黄橙色土(10Y R8／3)	15	明黄褐色土(10Y R7／6)
4	褐色土(10Y R4／4)	10	褐色土(10Y R4／4)	16	黒褐色土(10Y R2／3)
5	褐色土(10Y R4／4)	11	橙褐色土(7.5Y R6/6)		
6	暗褐色土(10Y R3／3)	12	褐色土(10Y R4／4)		



〈8〉第16図　空堀跡

◇空堀跡について

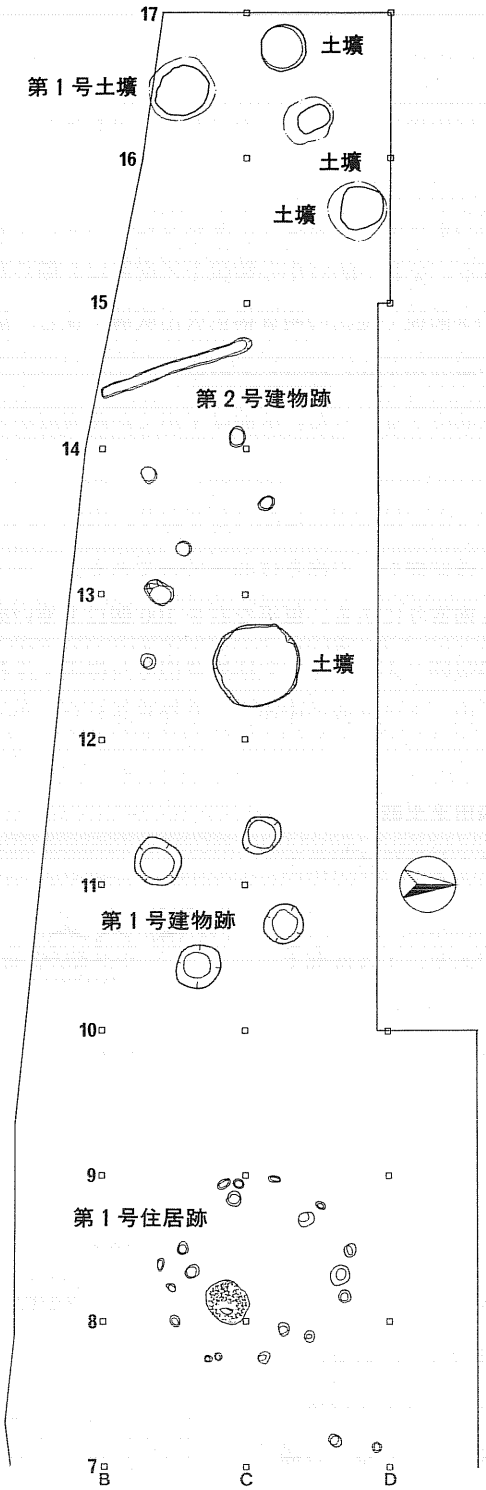
空堀跡はⅡ区の平坦面の段下に弧を描いて南北に80m前後続いている。調査地点の断面の形状は台形を呈し，平坦面との比高差は3m前後である。

◇Ⅱ区の概要

Ⅱ区はⅠ区より10m前後高い平坦面にあり，萩峠の独立丘陵の最も広い平坦面をなす北側の一角にあたる。路線は最も幅の広いところで15m前後を測り，約400㎡を調査している。なお一段下に幅10m前後の平坦部があり，館跡に関連した段築かと考え，トレンチを設定し，調査を行っているが，後世畑地に利用された痕跡と考えられる。

◇Ⅱ区の検出遺構

住居跡1軒，建物跡2軒，袋状土壙5基，竪穴状土壙2基（土壙については袋状土壙1基については詳細に報告している。）が検出されている。



〈８〉第17図　II区遺構配置図

第１号住居跡（ＳＩ01）

〈位置・確認状況〉　調査区のほぼ中央，Ｂ７，Ｂ８，Ｃ７，Ｃ８グリッドにまたがって検出された。確認面は明黄褐色火山灰層である。Ⅱ区内において最も高く，平坦な場所に占地している。

〈平面形・規模〉　柱穴の配列よりほぼ円形を呈すると考えられる。炉跡を中心として南北方向に長軸をもち，5.6ｍを測る。なお炉跡の中心軸線上の南側に２個の石を並列させている。

〈堆積土の状況〉　表土下20cm前後で地山の明黄褐色火山灰層に達し，炉跡を確認した。したがって住居跡の覆土は黒色土層（10ＹＲ1.7／1）である。

〈壁・床面の状況〉　壁は確認できなかった。床面は平坦で炉跡周辺から並列する石の周辺は堅緻である。

〈柱穴〉　内・外に二列のピットがほぼ円形に配列しており，内側のP_1, P_3, P_6, P_9, P_{12}, P_{15}, P_{16} が主柱穴と考えられる。確認面からの深さは35～55cmである。

〈炉跡〉　住居跡の中央から南寄りにある。偏平な石を100個以上使い縁辺を構築している。

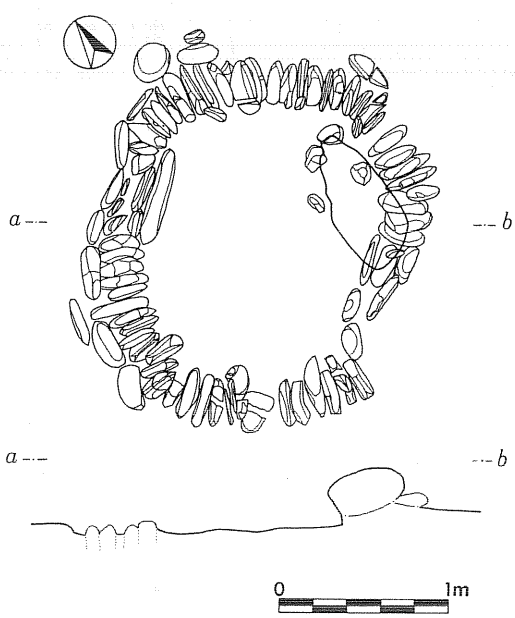
〈遺物出土状況〉　〈８〉第㊺図―１～４までが住居跡内から出土しており，１は北西側の柱穴付近，２・４は東側の柱穴内，３は南側の床面上より発見されたものである。

◇第１号住居跡内出土土器

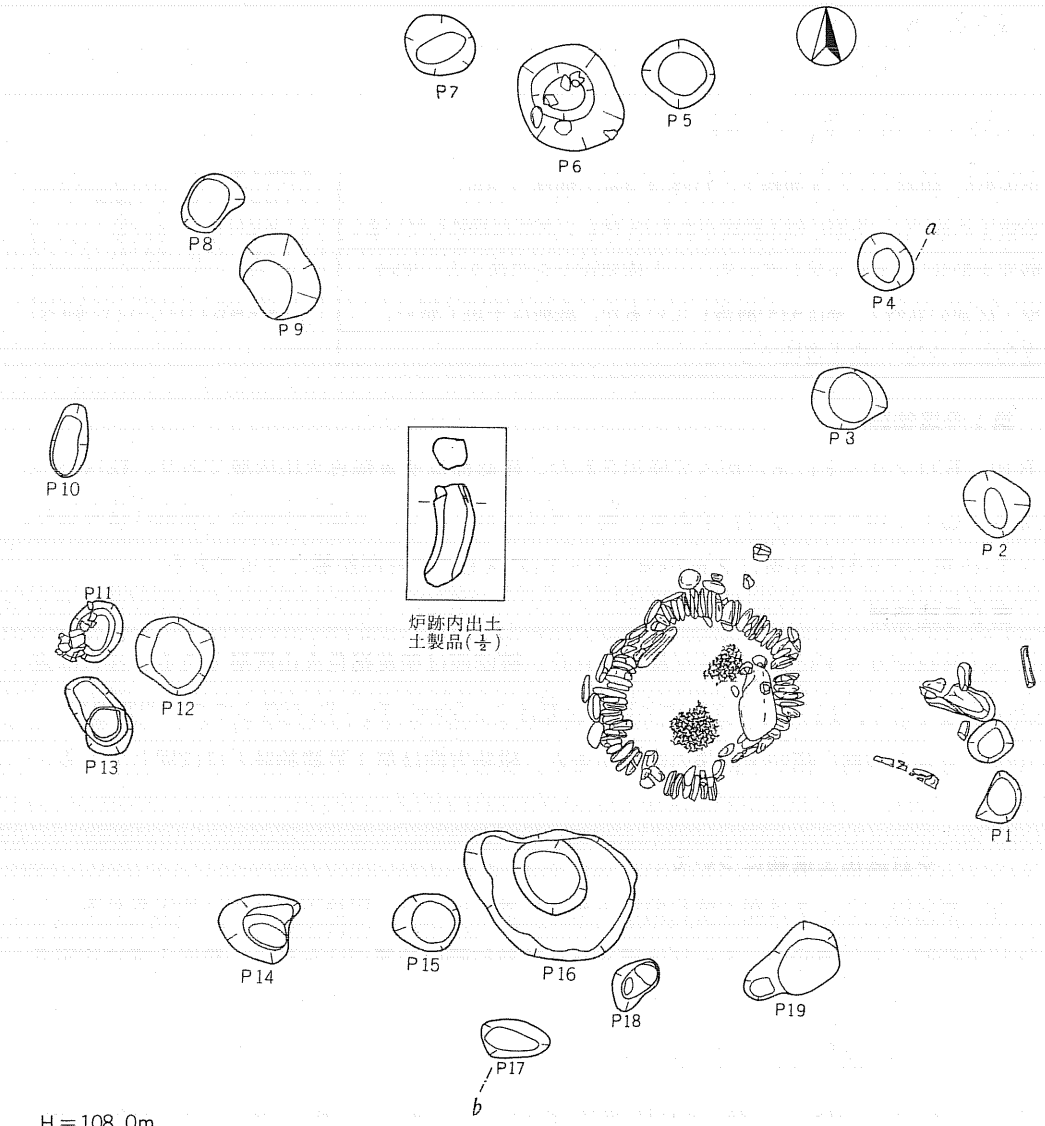
〈８〉第㊺図―１～４が第１号住居跡内出土土器である。

１，３，４は深鉢形土器である。１は底部より直線的に外傾し，胴部上半で最大径をもち，頸部ですぼまり，口縁部が波状を呈し，外反するものである。口縁部から頸部が無文帯となり波状の突起の下に垂れる刺突文を施文した隆線文が貼付されている。胴部下半は斜縄文が施文されている。器壁は薄ででほぼ一様である。３，４は器表面に斜縄文が施文されている。３は底部に網代痕があり，４は小形のものである。

２は小形の鉢形土器である。口縁部が内彎し器表面にあらく斜縄文が施文されている。口縁部にボタン状，棒状の粘土瘤が貼付されている。いずれも縄文時代後期初頭に位置づけられる。



〈８〉第18図　Ⅱ区第１号住居跡・炉跡



※II区第1号住居跡Pit深さ一覧表

Pit No.	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17	P18	P19
確認面から深さ (cm)	61	33	35	39	23	42	40	40	54	41	24	37	27	28	45	44	30	15	43

〈8〉第19図　II区第1号住居跡

第１号土壙（ＳＫ05）

〈位置・確認状況〉　Ｂ16グリッドの中央に位置している。確認面は明黄褐色火山灰層である。周辺に土壙群が集っている。

〈平面形〉　円形	‖規模‖　口径 1.4ｍ・底径 1.8ｍ
〈堆積土の状況〉　上面に倒木痕跡があるが，凹レンズ状に堆積している。	
〈断面の形状〉　袋状を呈している。	‖確認面からの深さ‖　90cm
〈壁・底面の状況〉　壁はやや崩落しているが，底面は平坦で堅い。	
〈遺物出土状況〉　出土遺物はない。	

※堆積土層

1	黒色土(10Ｙ Ｒ2／1)軟質
2	黒褐色土(10Ｙ Ｒ2／2)
3	黒褐色土(10Ｙ Ｒ2／3)
4	黒色土(10Ｙ Ｒ2／1)粘性強
b	明黄褐色土(10Ｙ Ｒ6／8)地山同

第１号建物跡

Ｂ10，Ｂ11グリッドにまたがって検出された。確認面は明黄褐色火山灰層であり，柱穴内の覆土は黒色土（10Ｙ Ｒ1.7／1）である。掘り方は円形を呈し，直径90cm前後で垂直に落ち込む。P_1～P_2の真心での柱間距離は２ｍ70cm、P_1～P_4の真心での柱間距離は３ｍである。

第２号建物跡

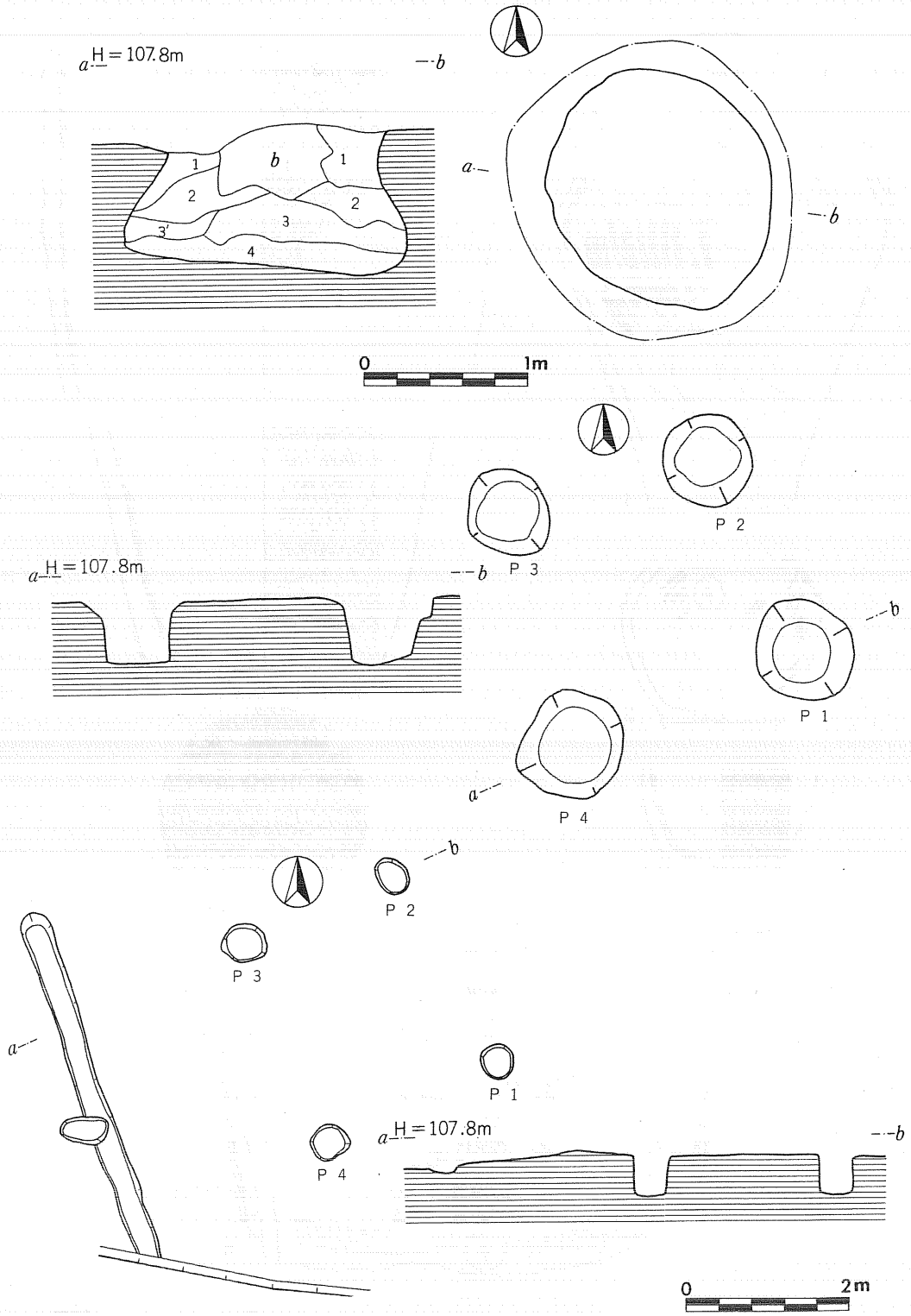
Ｂ13，Ｂ14グリッドにまたがって検出された。確認面は明黄褐色火山灰層である。柱穴は直径20cm前後であり，P_1～P_2の真心での柱間距離は２ｍ30cm，P_1～P_4の真心での柱間距離は２ｍ50cmである。西側に幅20cm前後の溝跡が走る。建物方向は第１号建物跡とほぼ同じである。

◇Ⅱ区出土遺物について

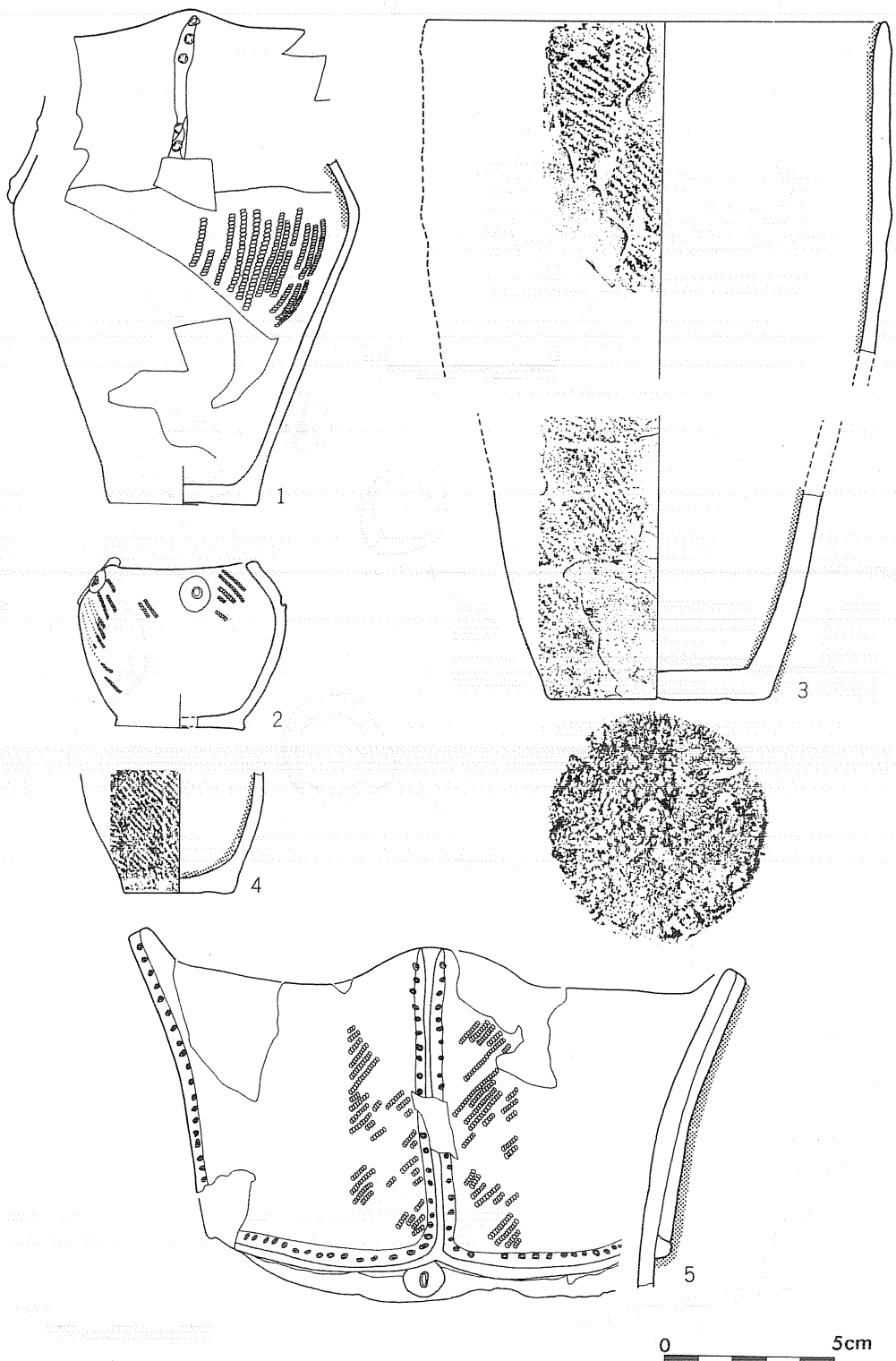
〈８〉第㊻図―６・７は縄文時代前期末葉に位置づけられ，円筒下層ｄ式に比定される。〈８〉第㊺図―５，第㊻図―８～19は縄文時代後期初頭に位置づけられ，十腰内Ⅰ式に比定される。８～12は深鉢形土器の口縁部破片であり，15～17は浅鉢形土器の口縁部破片である。

◇萩峠遺跡Ⅱ区実測土器のまとめ（4）　　※（　）は残存・推定寸法

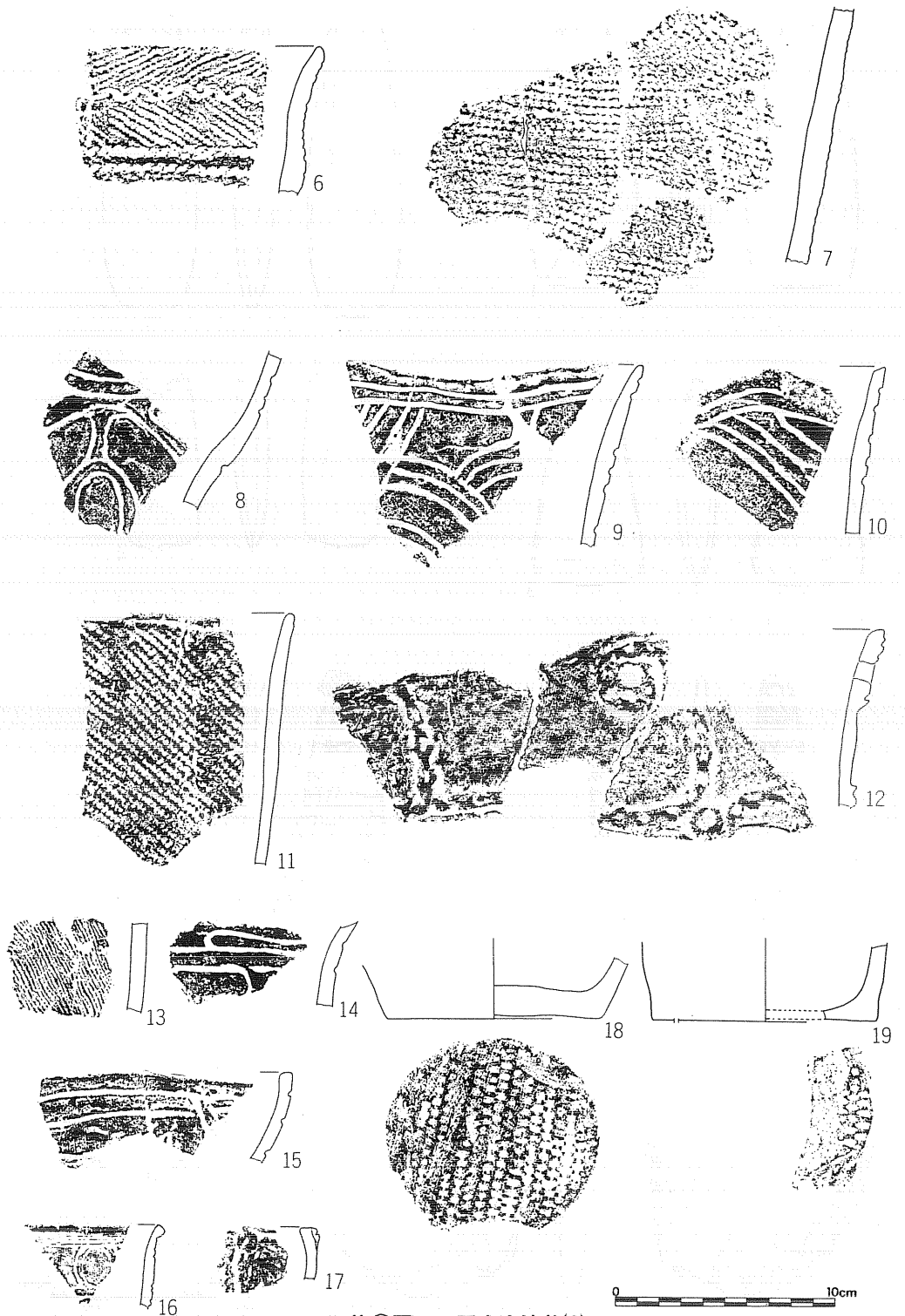
図版番号 出土地点	①器種　②口径・底径・高さ(cm)　③色調　④胎土　⑤焼成 ⑥器表面の主な文様(調整)／器内面の調整　⑦備考
〈８〉第㊺図―１ 第１号住居跡内	①深鉢形土器　②(13.6)・6.6・22.4　③灰黄褐色　④密　⑤良好 ⑥隆線文・刺突文・斜縄文　／横位ミガキ　⑦内面にスス付着
〈８〉第㊺図―２ 第１号住居跡Pit内	①鉢形土器　②(6.7)・(5.8)・7.6　③にぶい黄橙色　④密　⑤比較的良 ⑥斜縄文・粘土紐貼付　／ナデ　⑦外面にスス付着
〈８〉第㊺図―３ 第１号住居跡内	①深鉢形土器　②20.5・10.2・(35.0)　③にぶい黄橙色　④比較的密　⑤不良 ⑥斜縄文　／ナデ　⑦内面にスス付着，底部網代痕
〈８〉第㊺図―４ 第１号住居跡Pit内	①深鉢形土器　②――・5.1・(5.5)　③にぶい橙色　④密　⑤良好 ⑥斜縄文　／縦位ミガキ　⑦内面にスス付着
〈８〉第㊺図―５ Ｄ５グリッド	①深鉢形土器　②(27.7)・――・(16.0)　③にぶい橙色　④密　⑤良好 ⑥斜縄文・隆線文　／横位ミガキ　⑦外面・内面にスス付着，外面漆付着



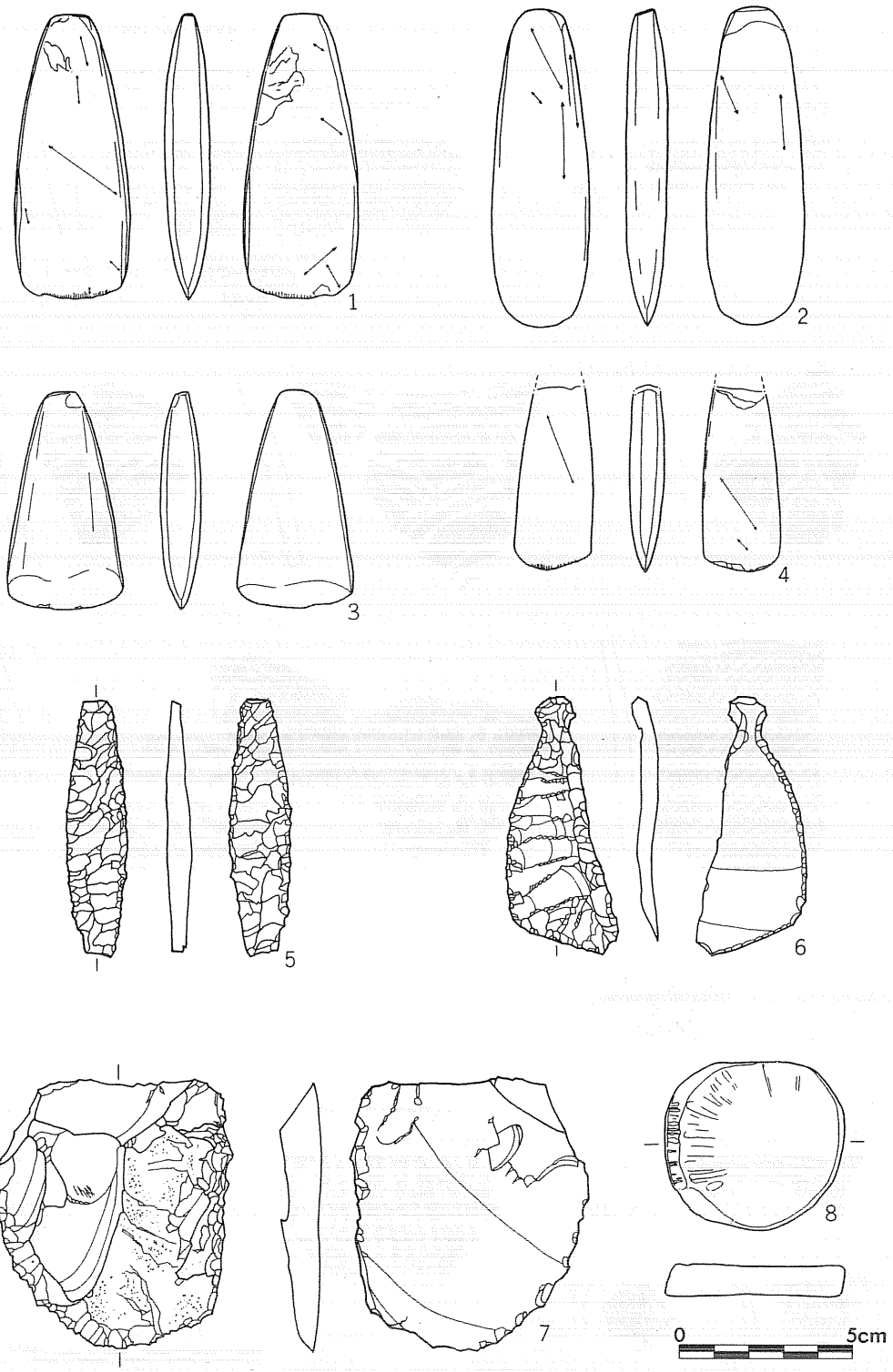
〈8〉第20図　II区土壙，建物跡



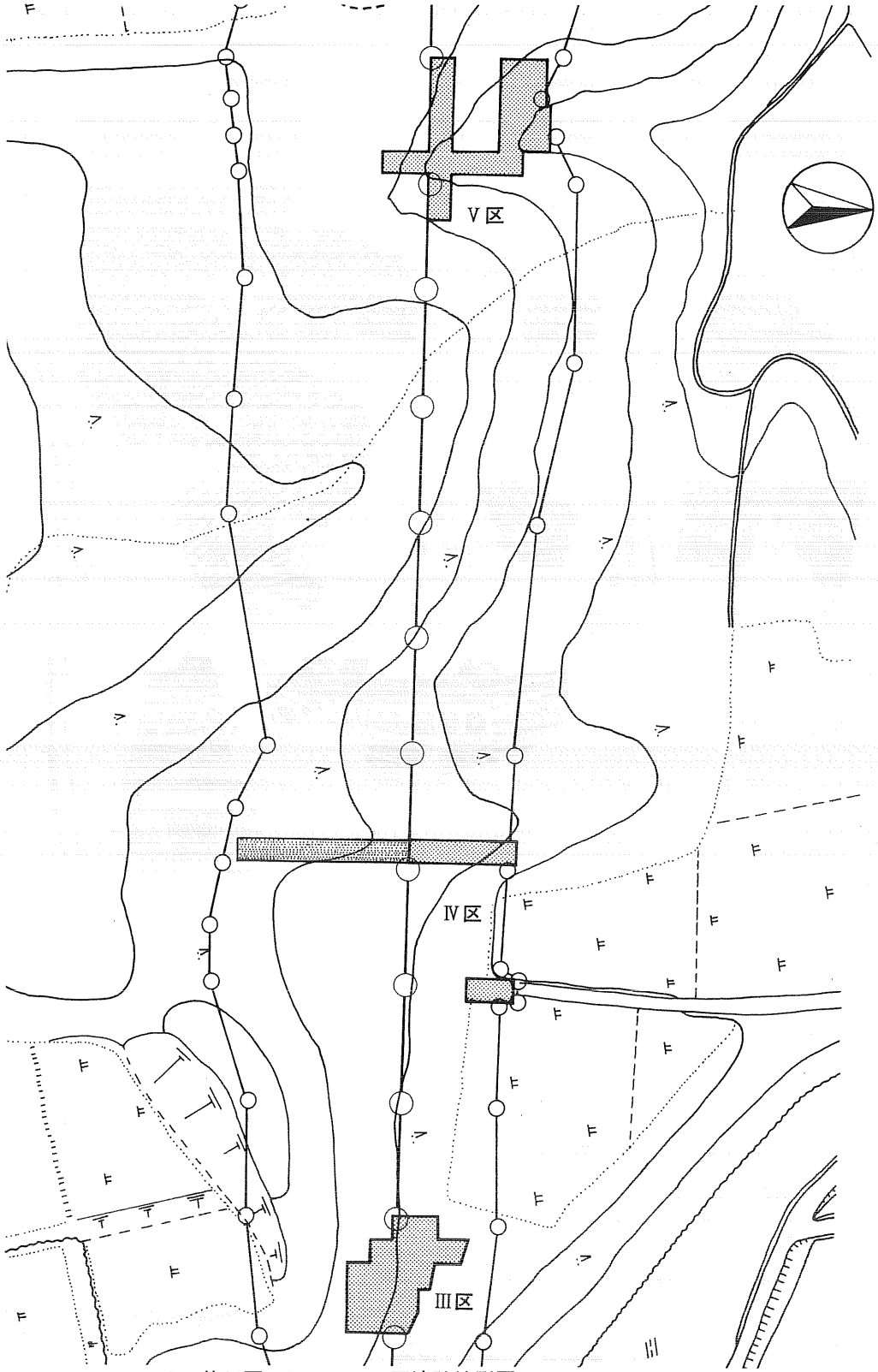
〈8〉第㊺図　II区出土遺物(1)



〈8〉第㊻図　II区出土遺物(2)



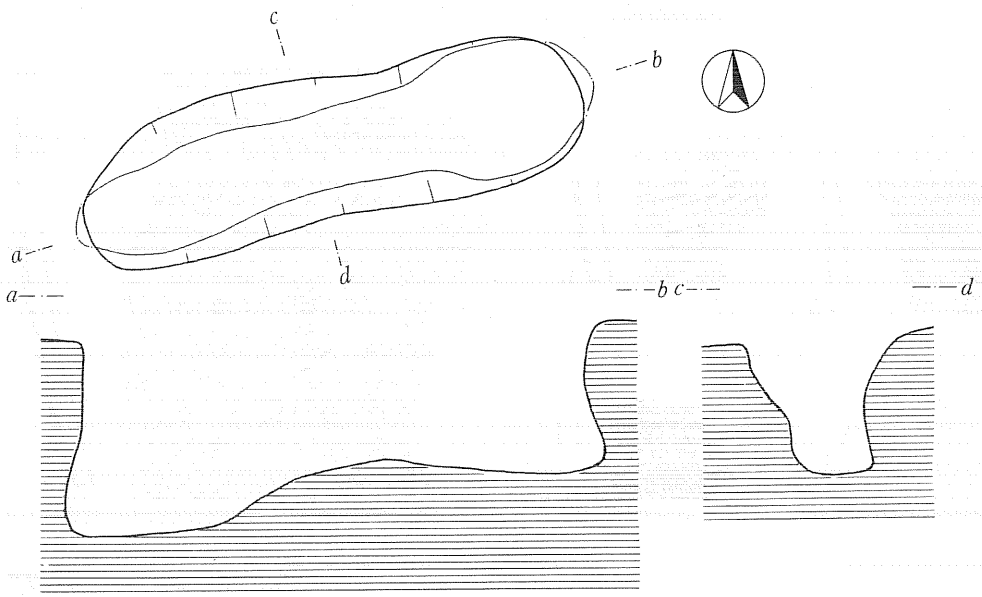
〈8〉第㊼図　II区出土遺物(3)



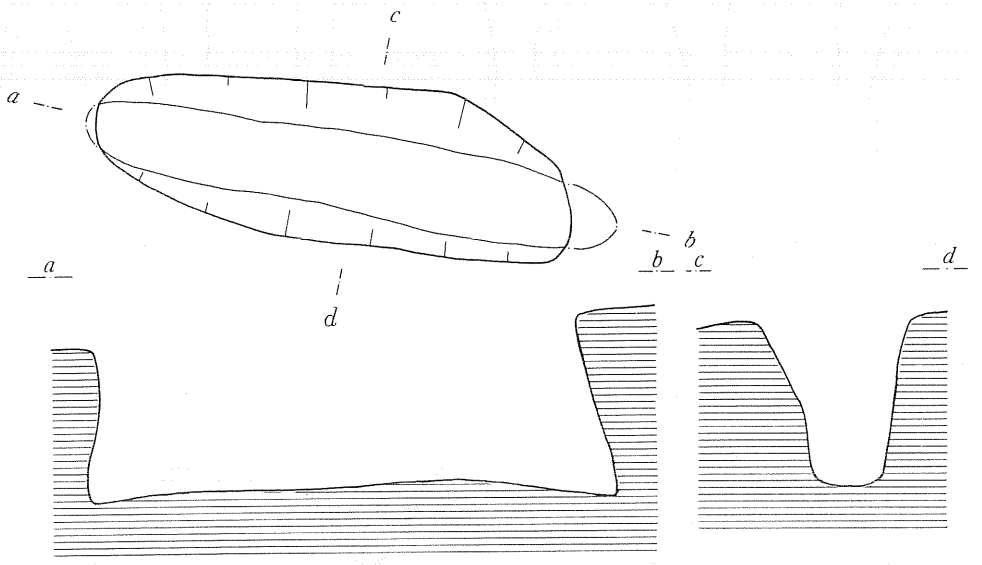
〈8〉第21図　Ⅲ，Ⅳ，Ⅴ区遺跡地形図

〈8〉第㊽図　Ⅲ区出土遺物

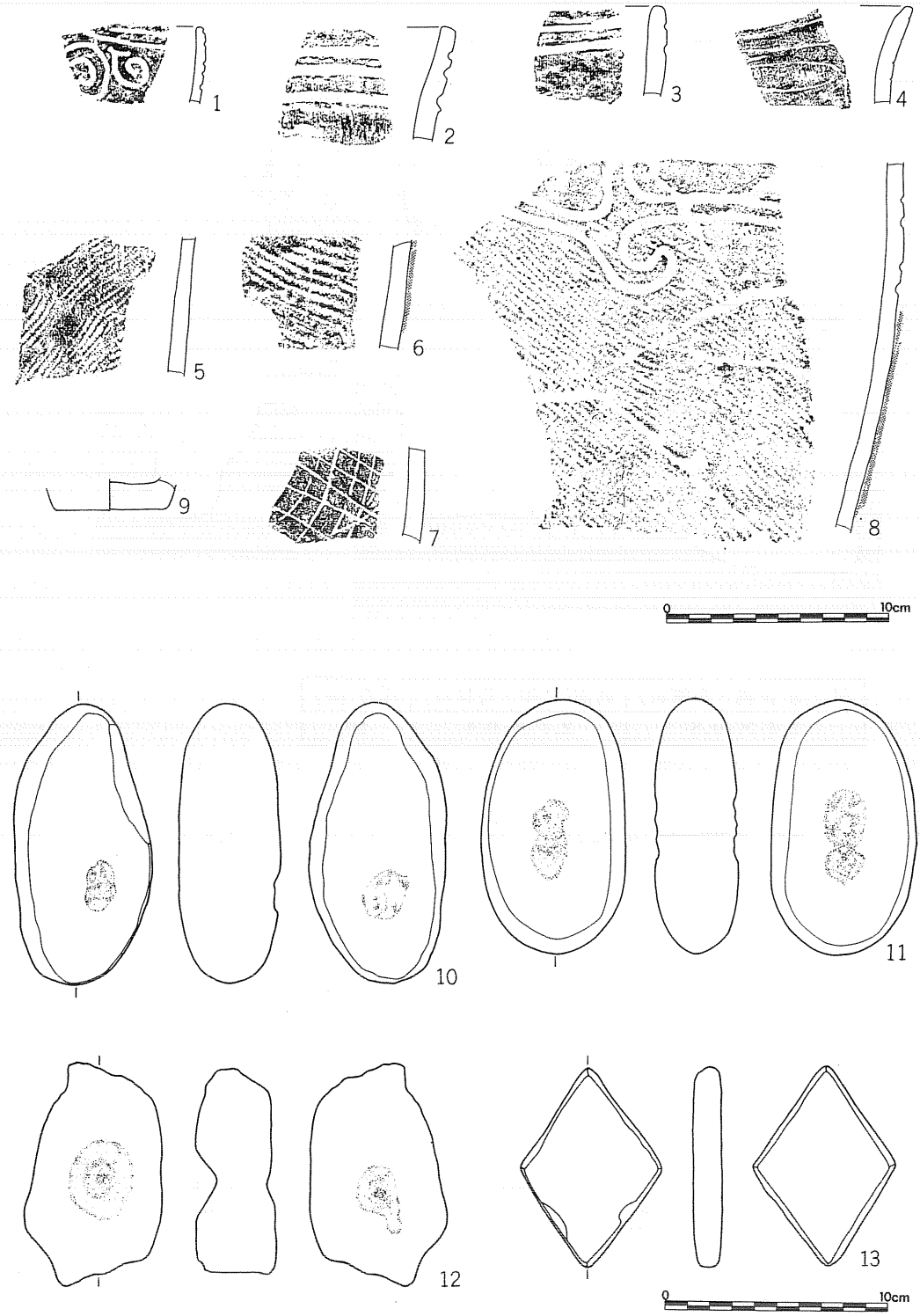
開口部(長軸×短軸m)	底面(長軸×短軸m)	深さ(cm)
2.5 × 0.7	2.7 × 0.5	95



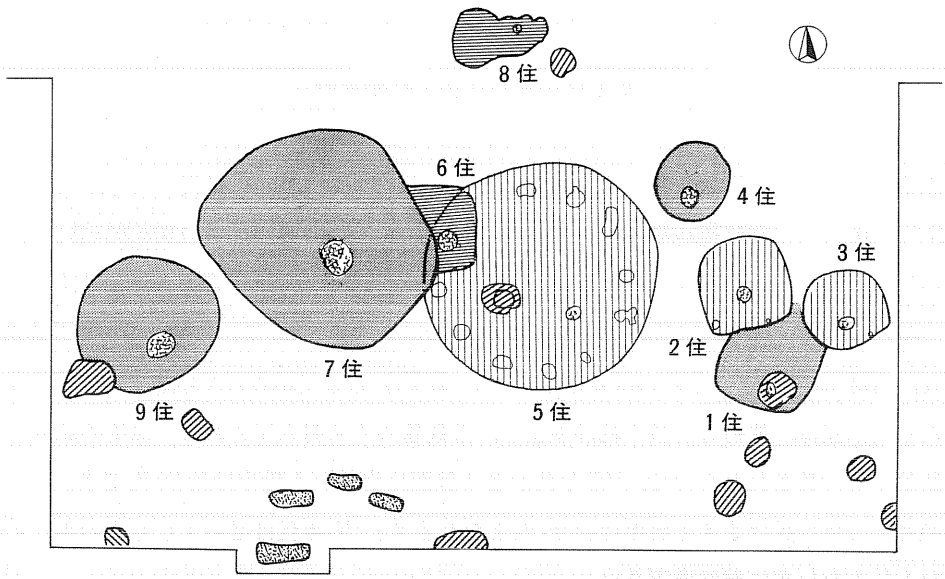
開口部(長軸×短軸m)	底面(長軸×短軸m)	深さ(cm)
2.4 × 0.8	2.7 × 0.4	80



〈8〉第22図　Ⅴ区第1号，第2号溝状土壙



〈8〉第㊾図　Ⅴ区出土遺物



〈8〉第23図　Ⅰ区住居跡，土壙群配置図

◇ Ⅰ区住居跡群・土壙群について（小結）

Ⅰ区内から検出された住居跡は９軒，土壙は13基であり，出土土器はいずれも縄文時代後期初頭に位置づけられ，十腰内Ⅰ式に比定される。住居跡群と土壙群は重複関係があり，集落としての変遷について言及したい。

第６号住居跡は第５号住居跡により炉跡を，第７号住居跡により西側半分を掘り込まれている。炉跡が西側に位置することから〈第６，第８号住居跡が**Ⅰ期**〉と考えられる。第６，８号住居跡の南側にやや離れて第６，第７号土壙がある。第１，２，３，４，５，７，９号住居跡は円形を呈し，南側に炉跡をもっている。第２，４，５，７，９の主柱穴は８～12本である。第５，６，７号住居跡の重複関係から地床炉である〈第２，３，５号住居跡が**Ⅱ期**〉，石囲い炉をもつ〈第１，４，７，９号住居跡が**Ⅲ期**〉と考えられる。**Ⅰ期**の住居跡群はⅠ区内の中央北側に占地し，**Ⅱ期**の住居跡群はⅠ区内の東側に占地し，**Ⅲ期**の住居跡群においてⅠ区内に広く占地している。Ⅰ区内南東側の土壙群は**Ⅱ期**の住居跡群の占地状況と第１号土壙の上に第１号住居跡の炉跡があることから**Ⅱ期**の住居跡群に伴うと考えられる。第10号～13号土壙は長円形を呈する形態と長軸方向をほぼ同じにすることから墓壙と考えられるが，出土遺物はなく集落との関係については不明である。

放射性炭素年代測定結果報告

Code No.	試　　料	B．P．年代
N—3735	萩峠遺跡第7号住居跡内	4240± 100y B．P．（4110± 95y B．P．）

年代は ^{14}C の半減期 5730 年（カッコ内は Libby の値 5568 年）にもとづいて計算され，西暦 1950 年よりさかのぼる年数（years B. P.）として示されています。付記された年代誤差は，放射線計数の統計誤差と，計数管のガス封入圧力および温度の読取の誤差から計算されたもので，^{14}C 年代がこの範囲に含まれる確率は約 70 %です。この範囲を 2 倍に拡げますと確率は約 95 %となります。^{14}C年代は必らずしも真の年代とひとしくない事に御注意下さい。

日本アイソトープ協会

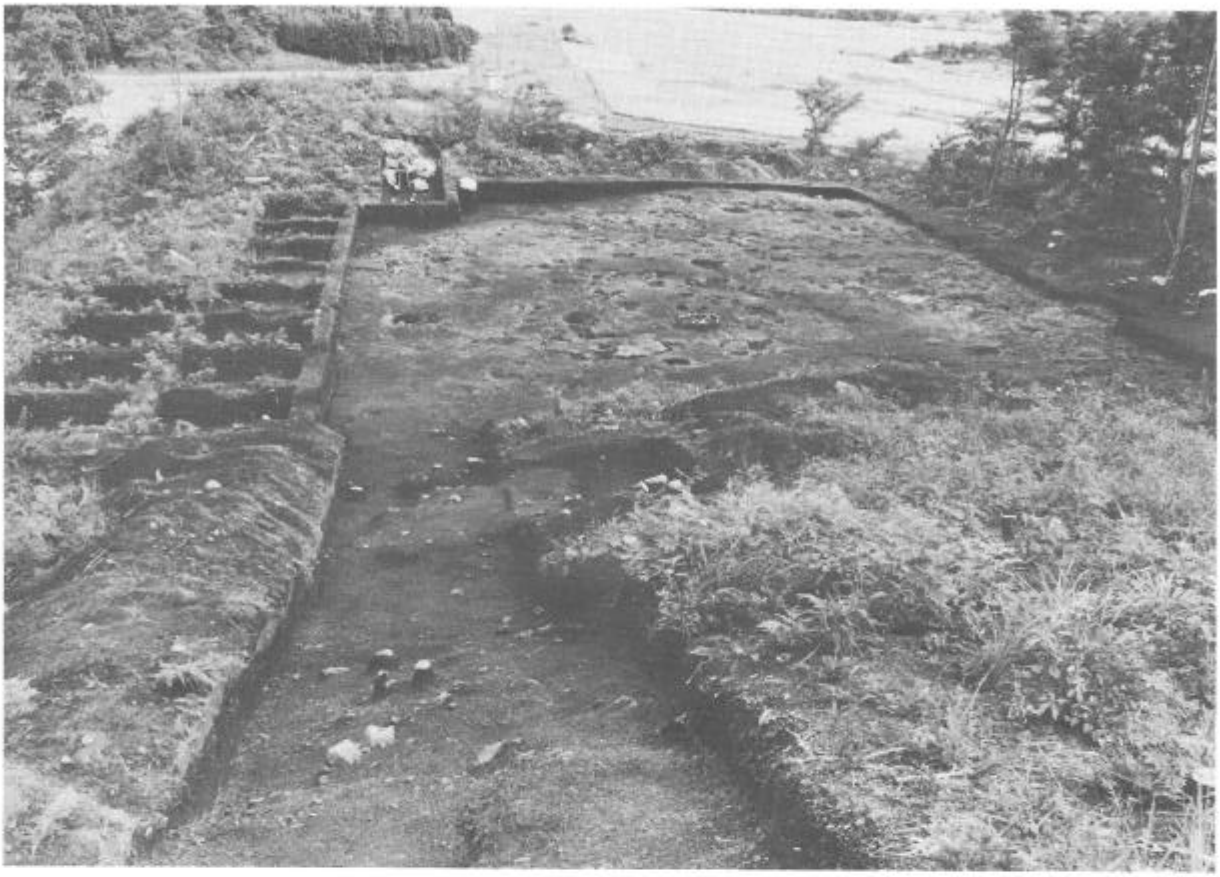
◇参　考　文　献

今井富士雄，磯崎正彦　『岩木山—十腰内遺跡—』　—昭和43年—
青森県教育委員会　『中の平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第25集　—昭和49年—
青森県教育委員会　『近野遺跡（III）』青森県埋蔵文化財調査報告書第33集　—昭和51年—

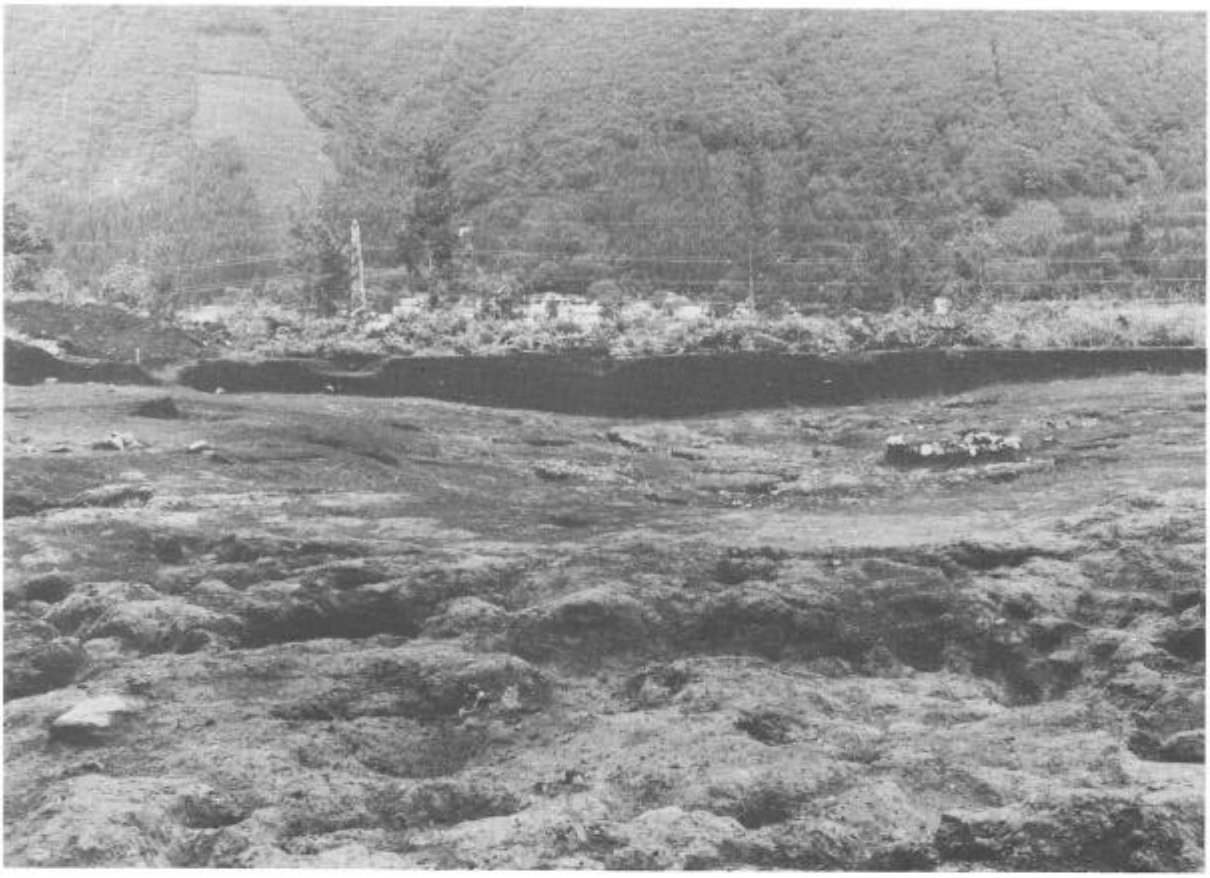
本報告の作成にあたっては林謙作氏，名久井文明氏，三宅徹也氏，工藤竹久氏木村鉄次郎氏よりご教示，ご協力をいただいた。末筆ながら明記して感謝の意を表したい。

遺跡遠景（北▶南）

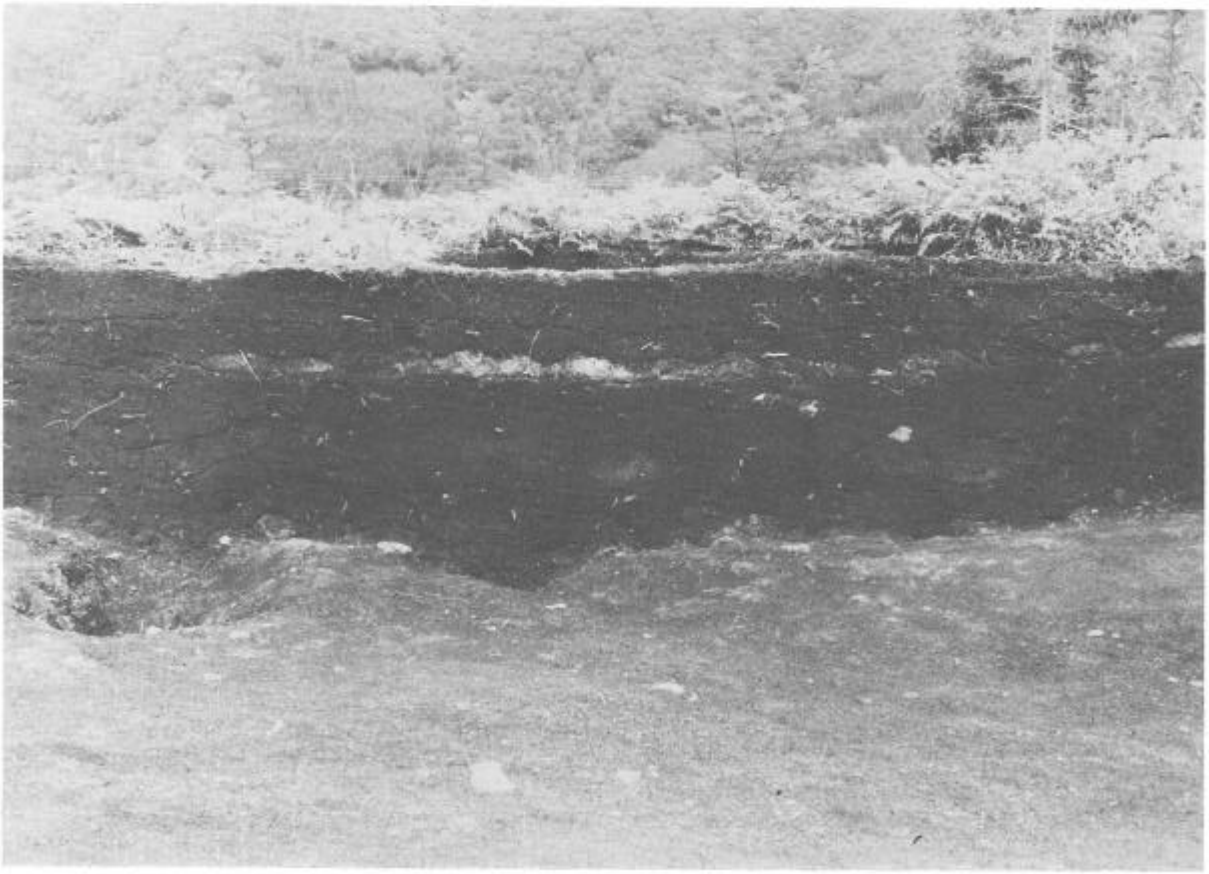
発掘調査前



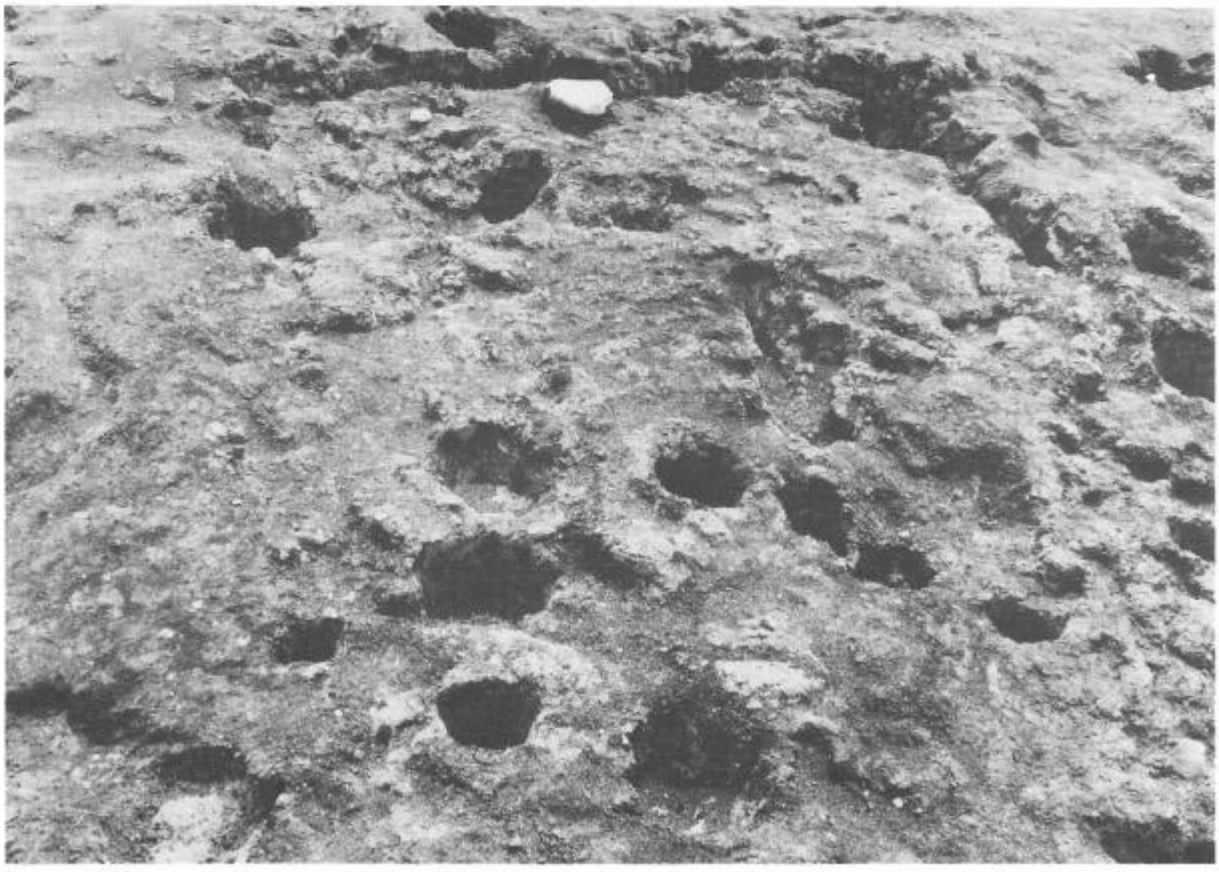
I 区調査区遠景（西▶東）



Ⅰ区調査区土層



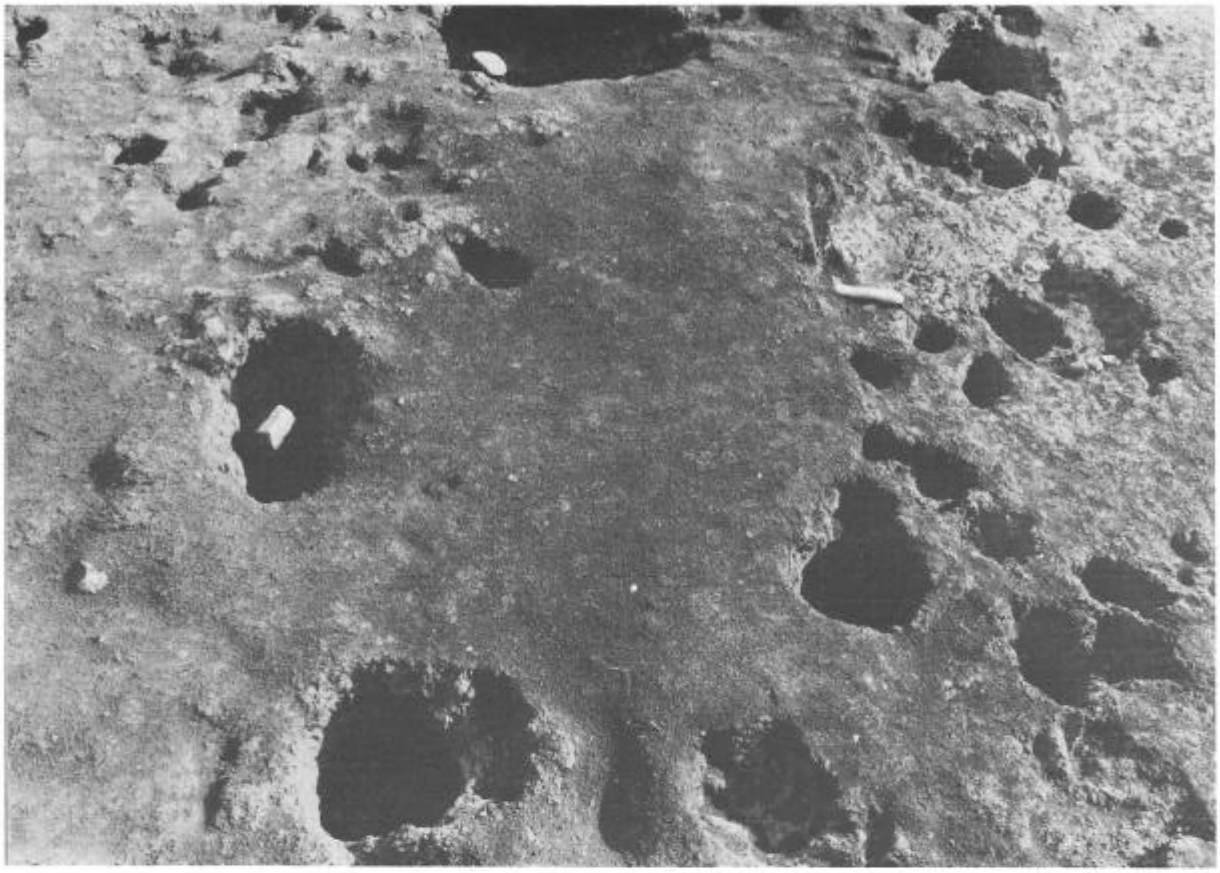
第1号住居跡・第1号土壙（北▶南）



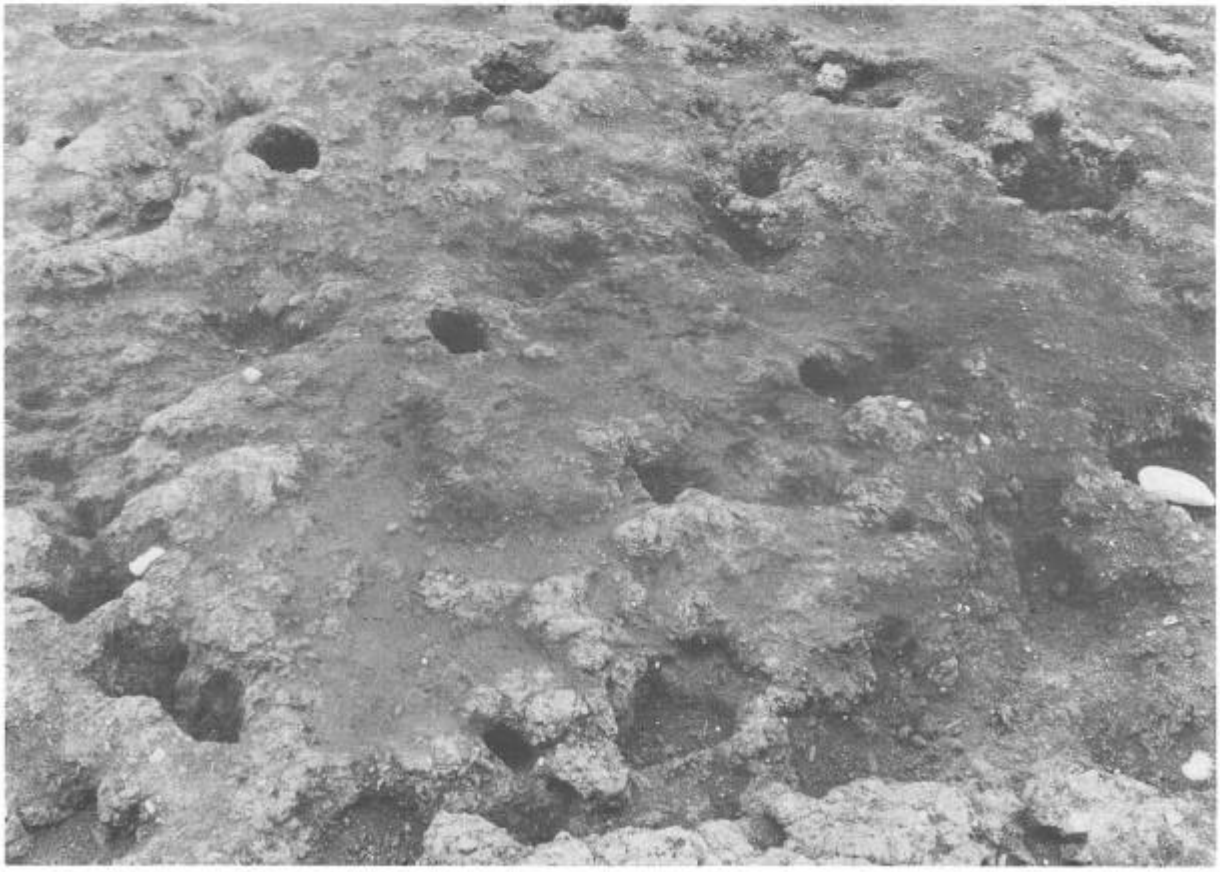
第2号住居跡（北▶南）

第4号住居跡（北▶南）

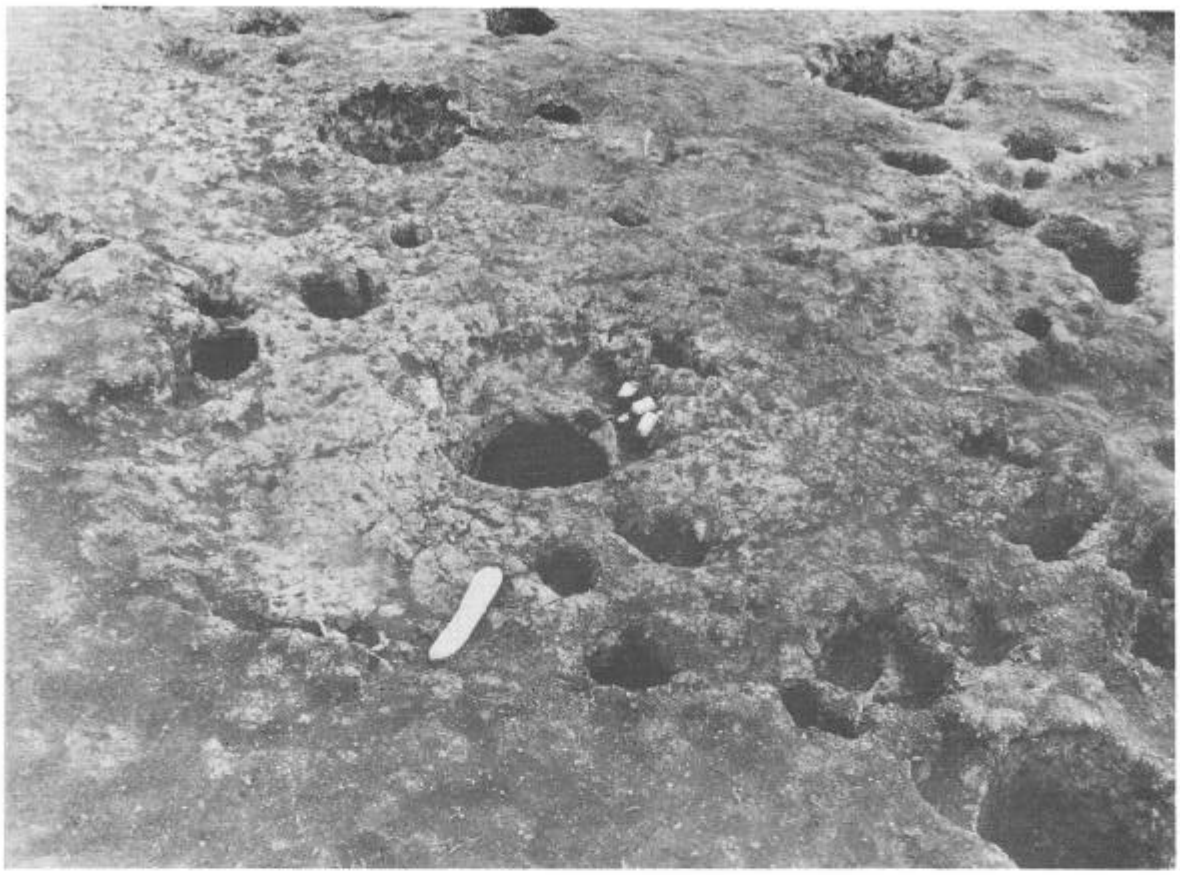
第3号住居跡（北▶南）



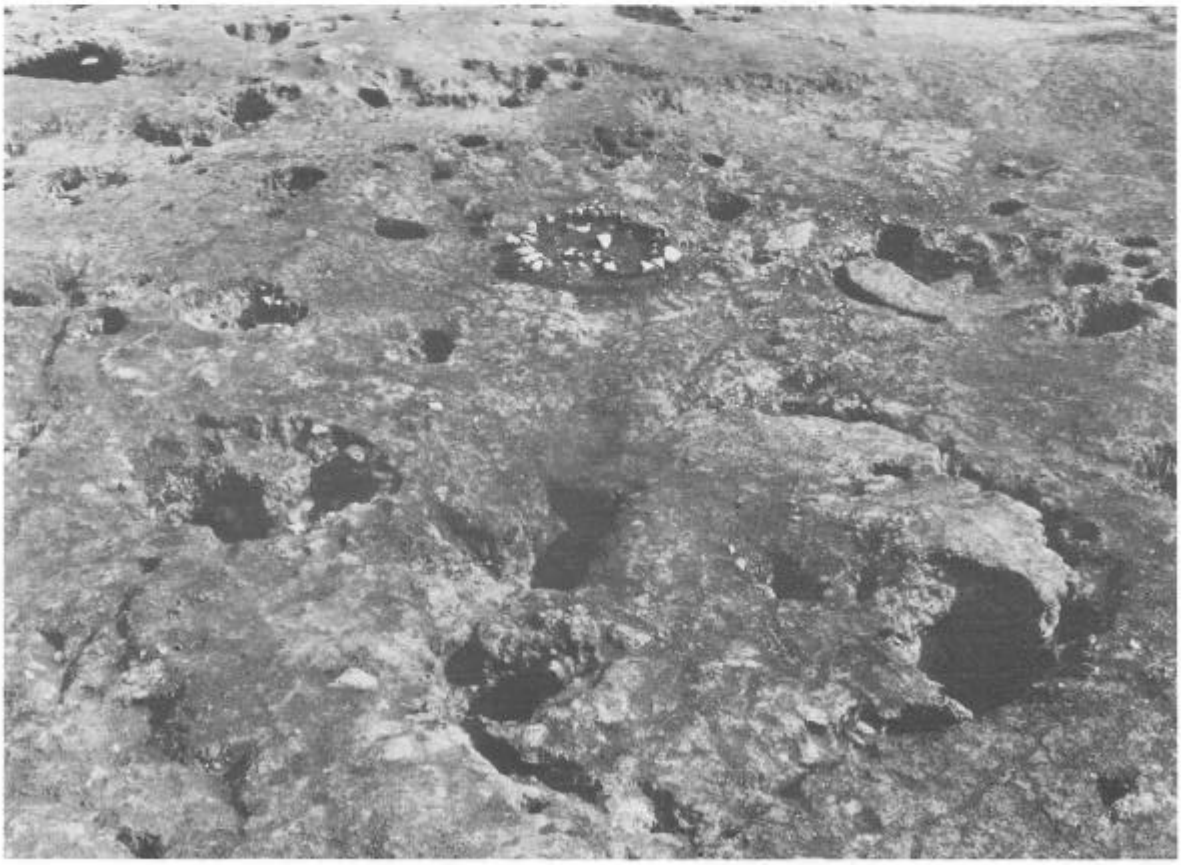
第5号住居跡柱穴群（南▶北）



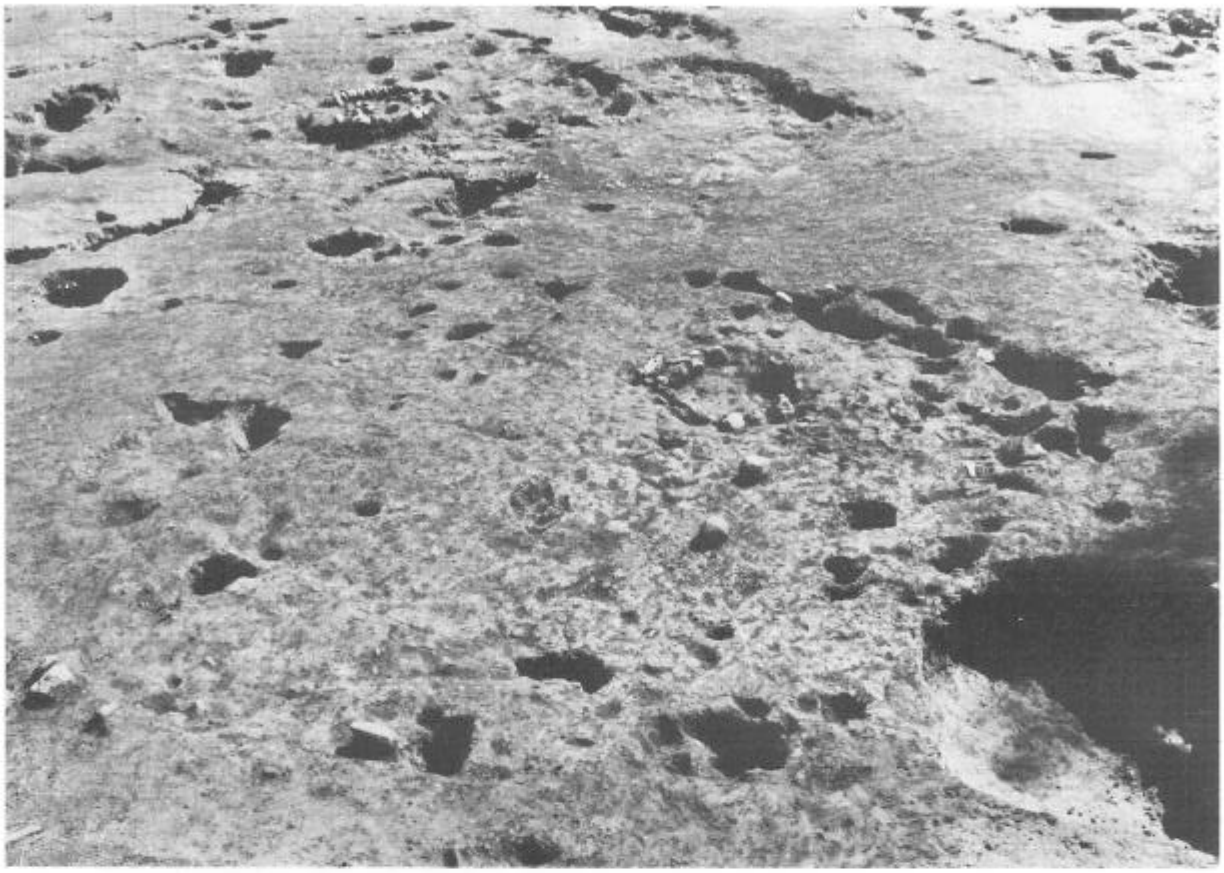
第5号住居跡（南▶北）



第6号住居跡（東▶西）

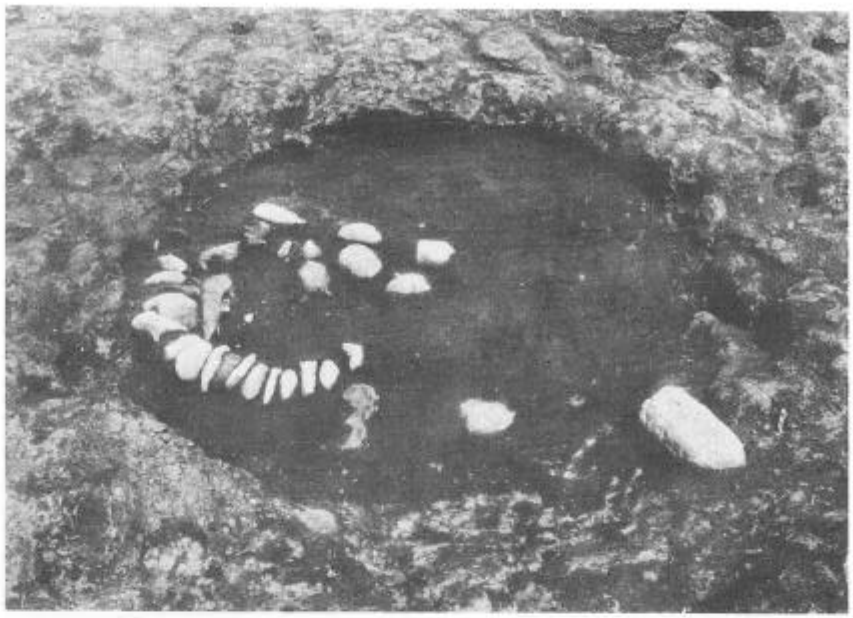


第7号住居跡（北▶南）

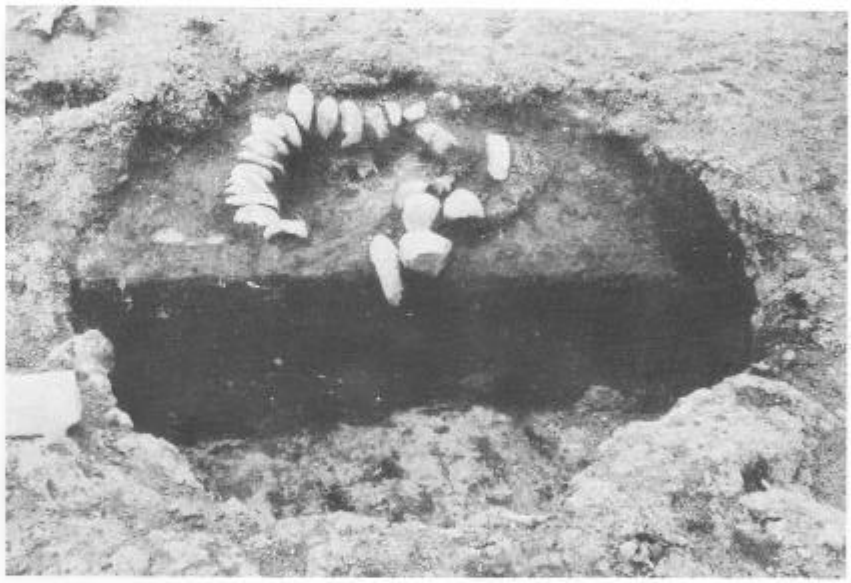


第9号住居跡（西▶東）

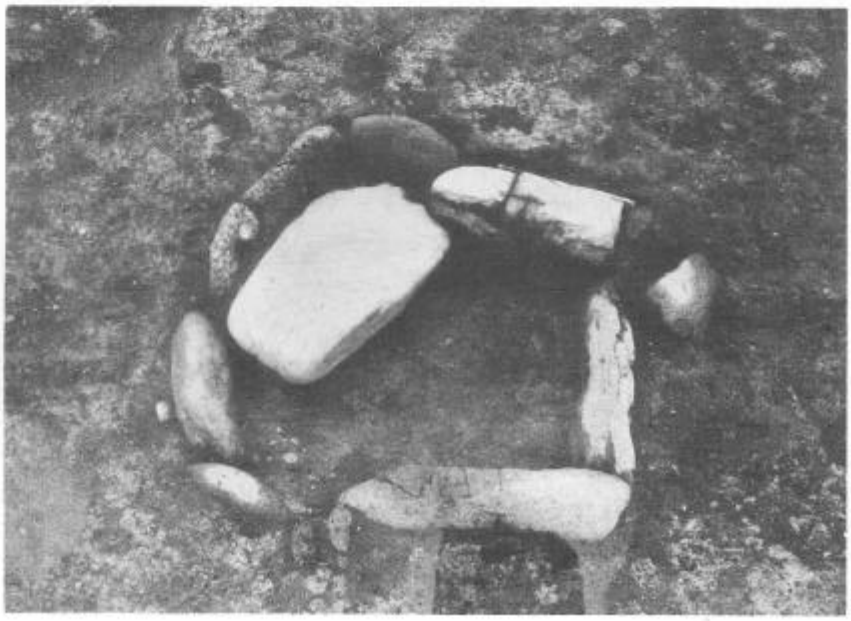
第8号住居跡（西▶東）



第１号
住居跡
炉　跡
（南▶北）



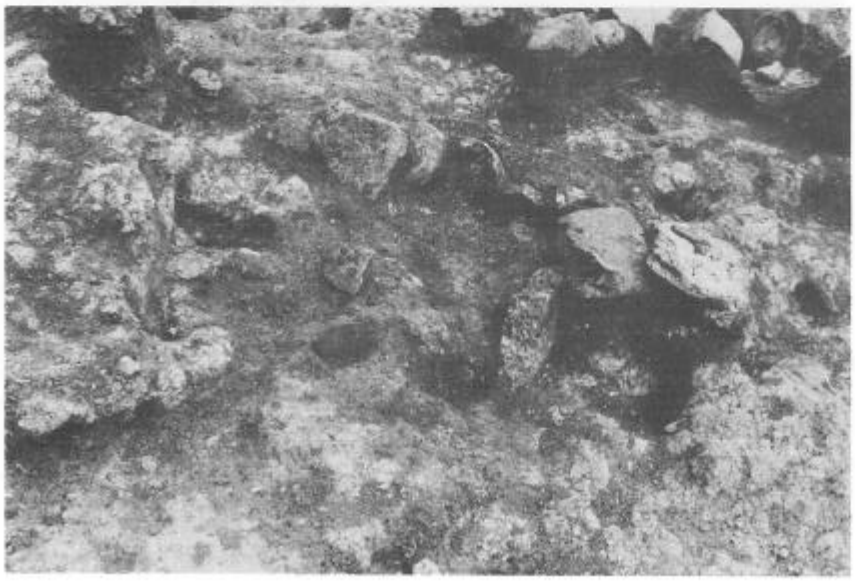
第１号
土　壙
（東▶西）



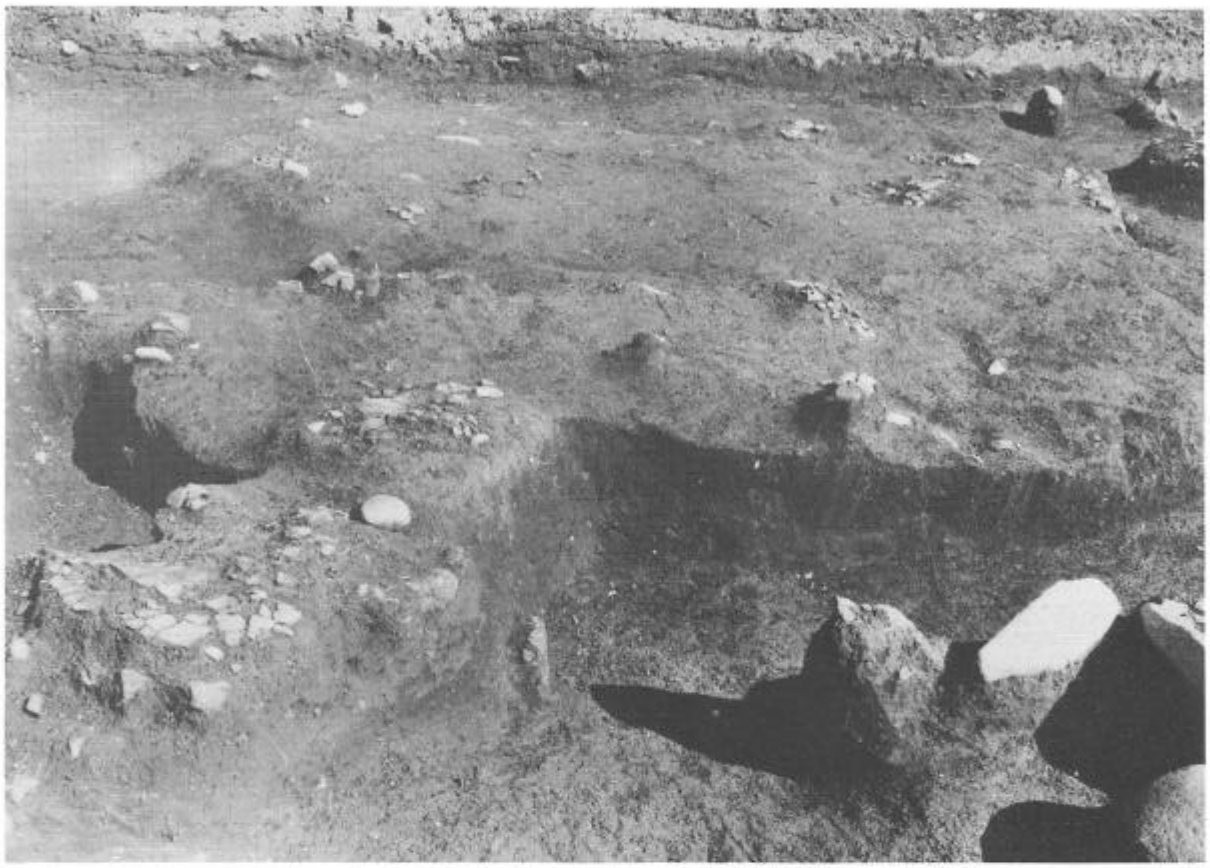
第３号
住居跡
炉　跡
（南▶北）

第 7 号
住居跡
炉　跡

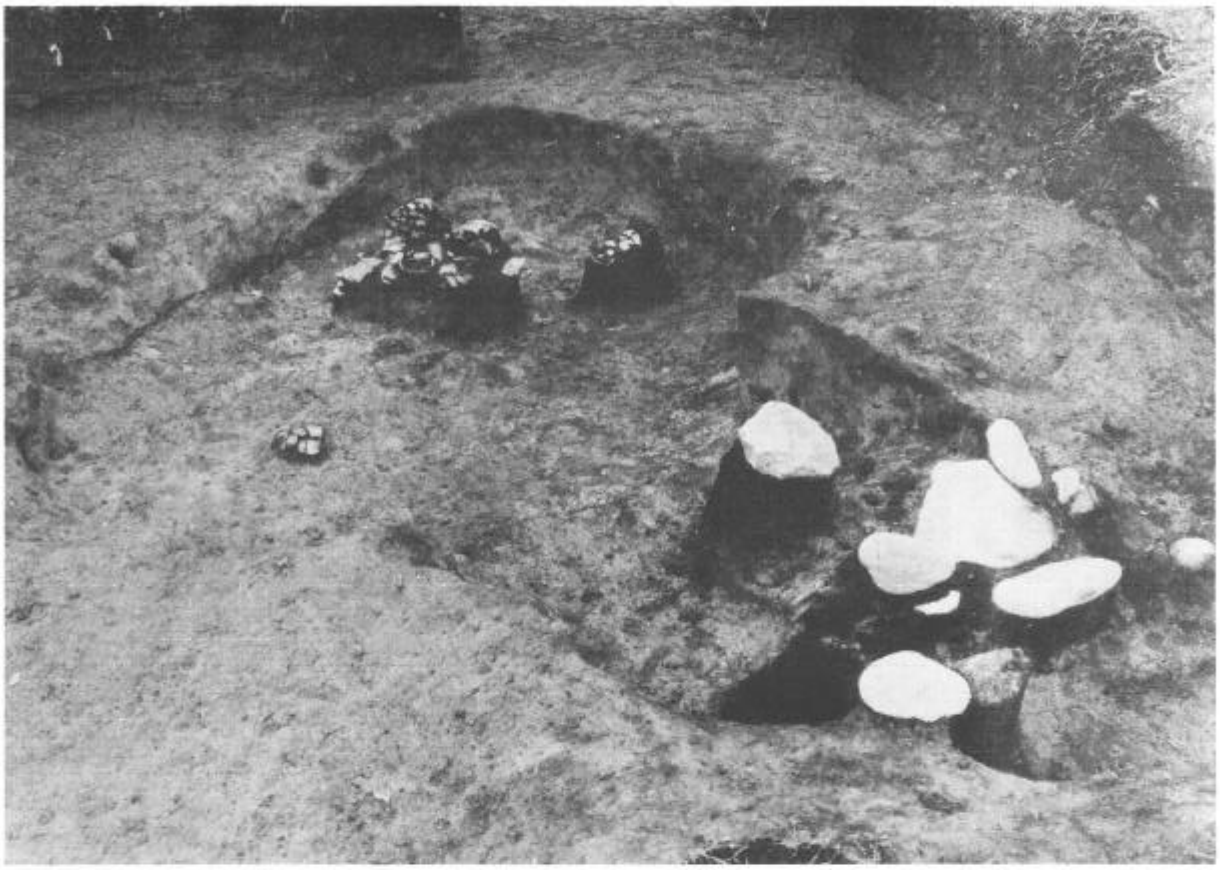
第 9 号
住居跡
炉　跡



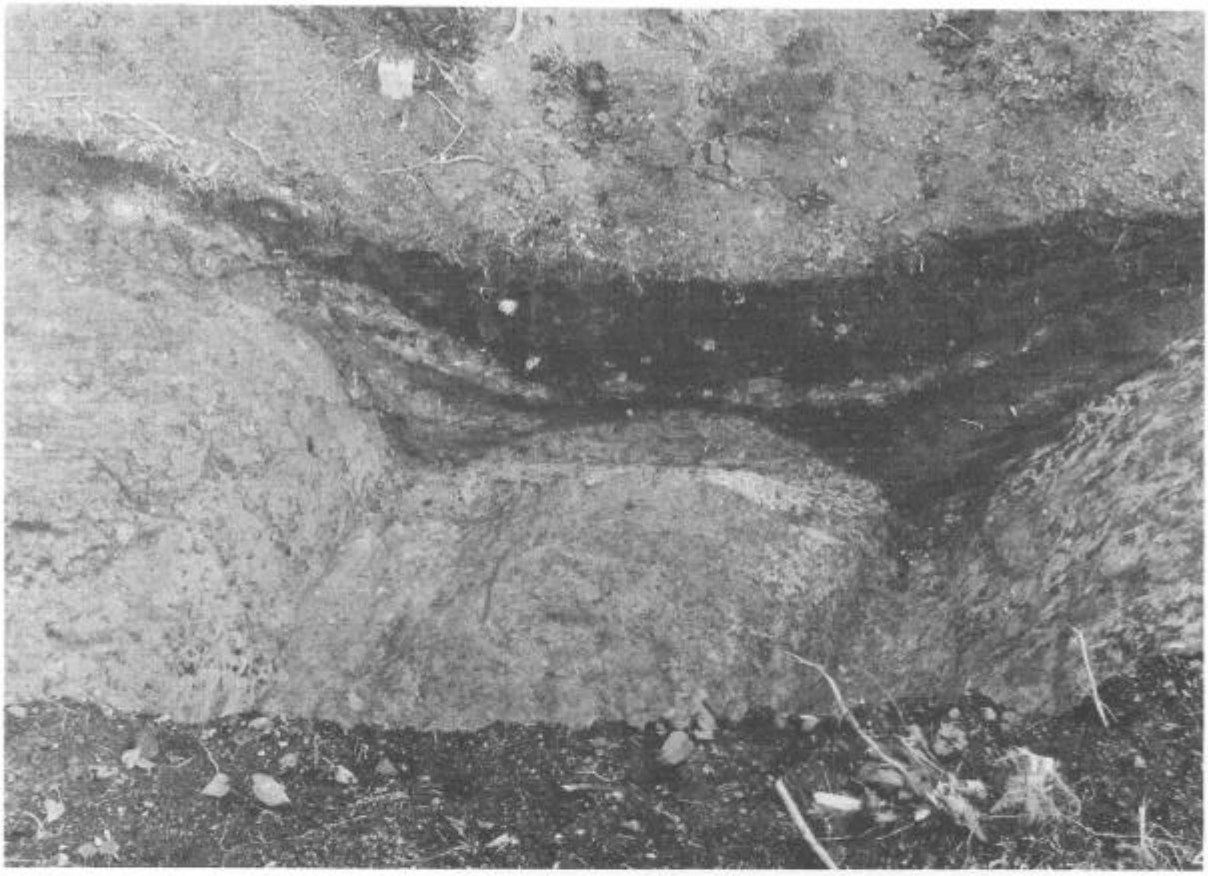
第 8 号
住居跡
炉　跡



Ⅰ区２トレンチ遺物出土状況（南▶北）

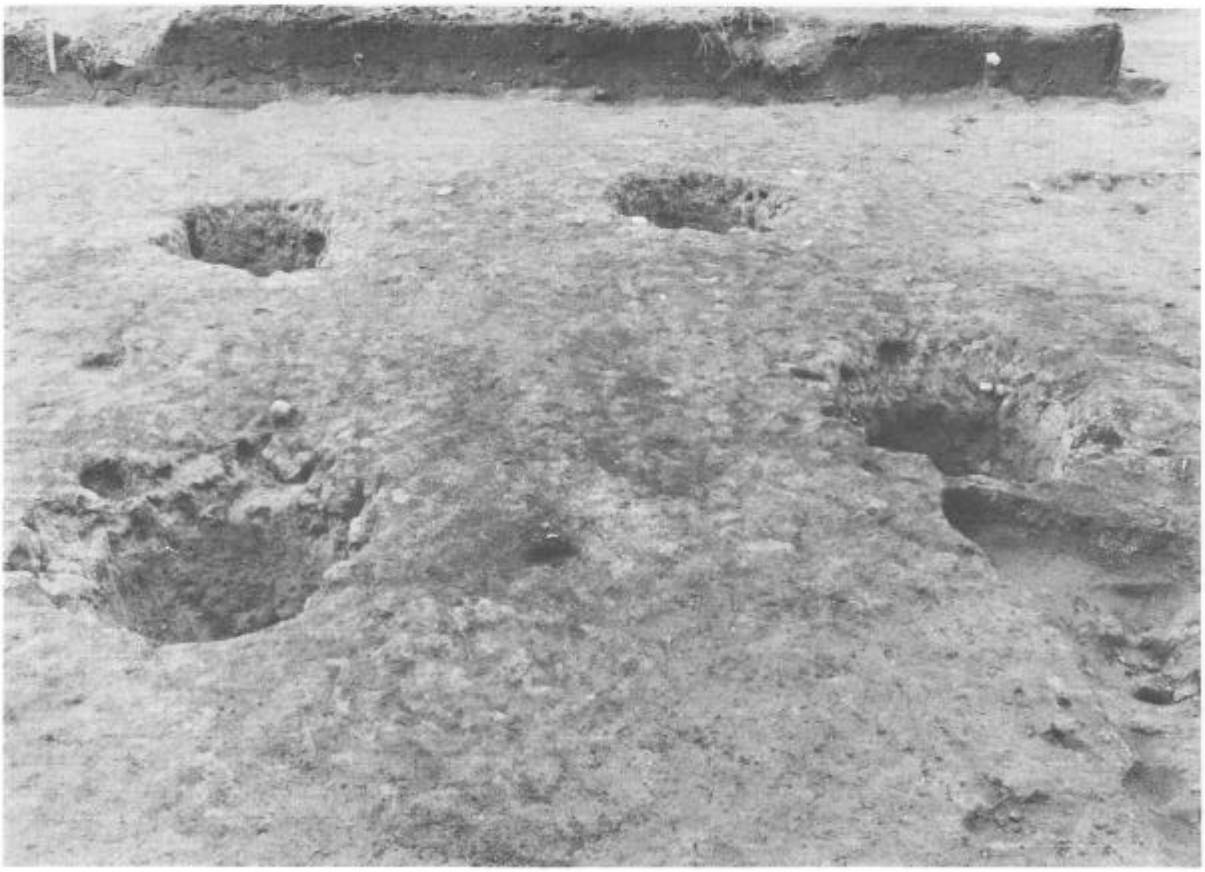


I区4トレンチ土壙



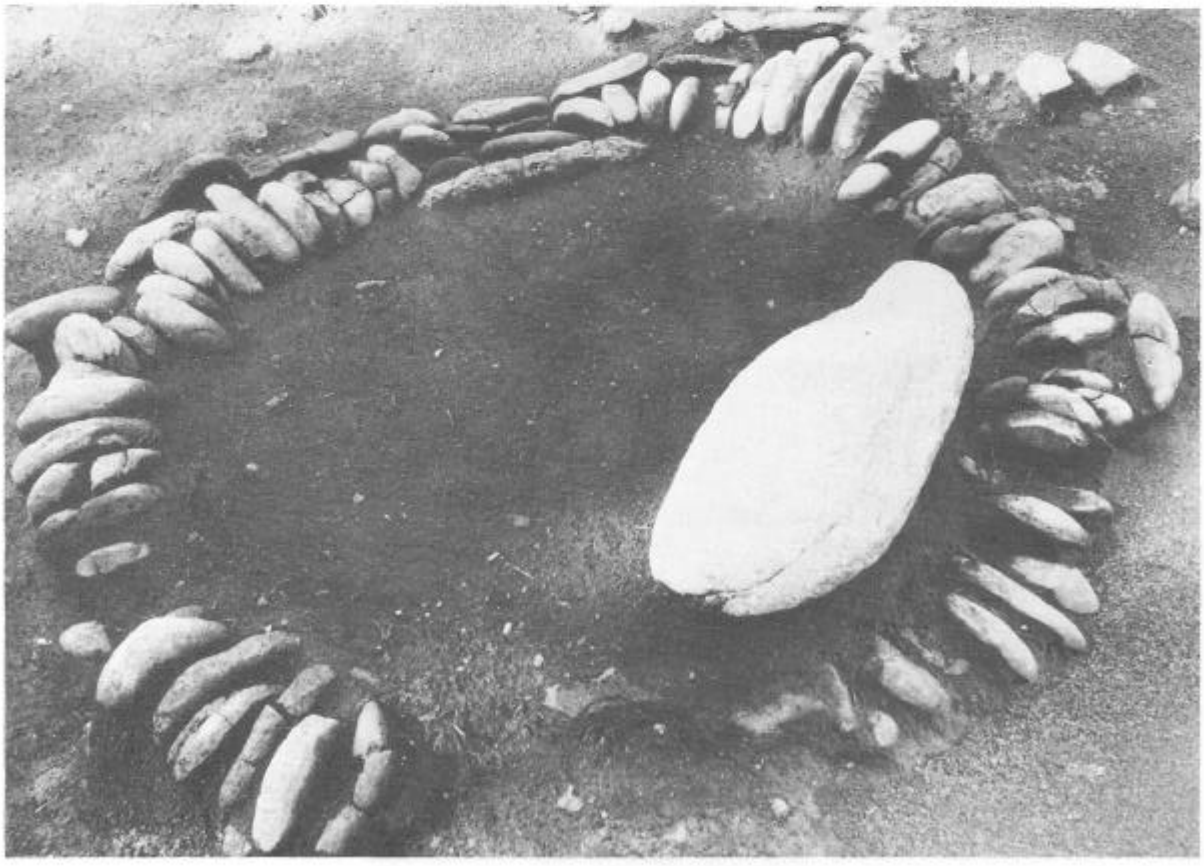
I区空堀跡

II区調査区遠景（東▶西）



II区第1号建物跡（南▶北）

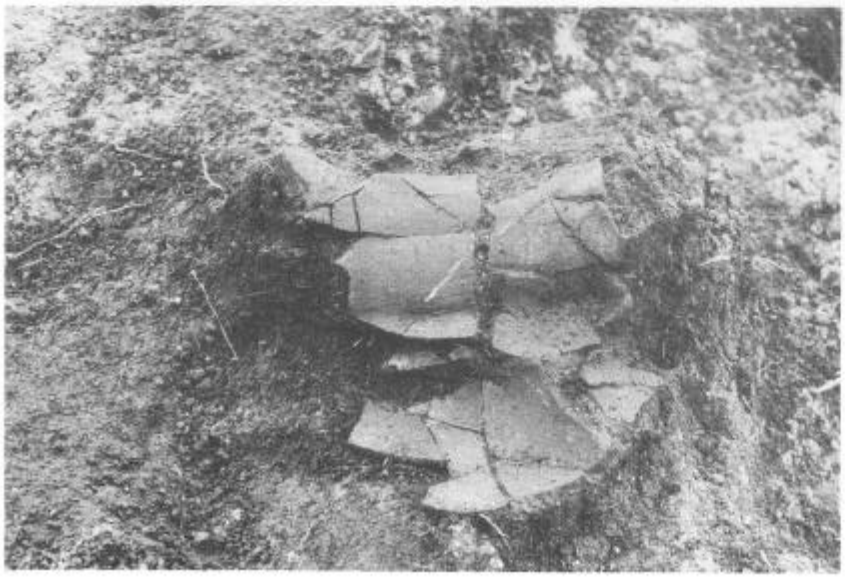
Ⅱ区第1号住居跡（東▶西）



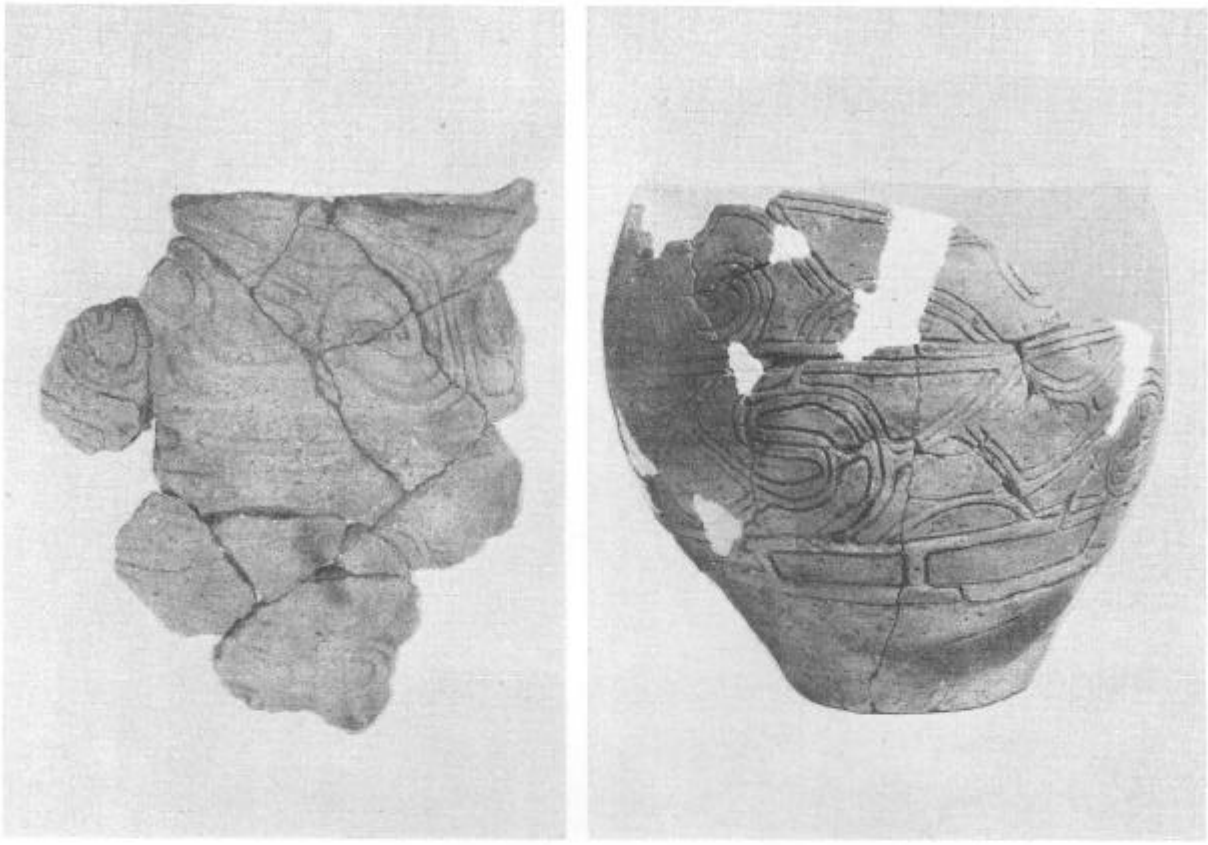
第1号住居跡・炉跡（南▶北）

第 1 号
住居跡
炉跡内
土製品

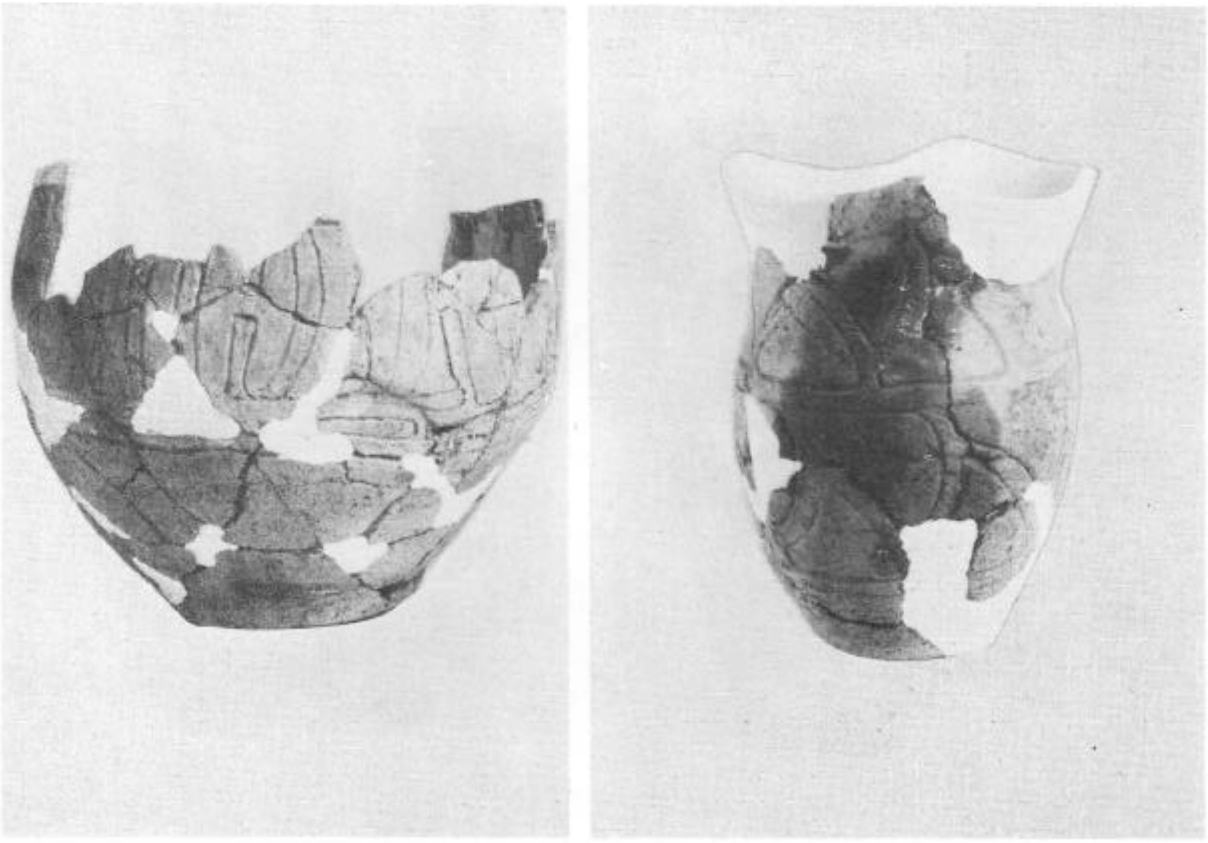
第 1 号
住居跡
柱穴内
出土遺物

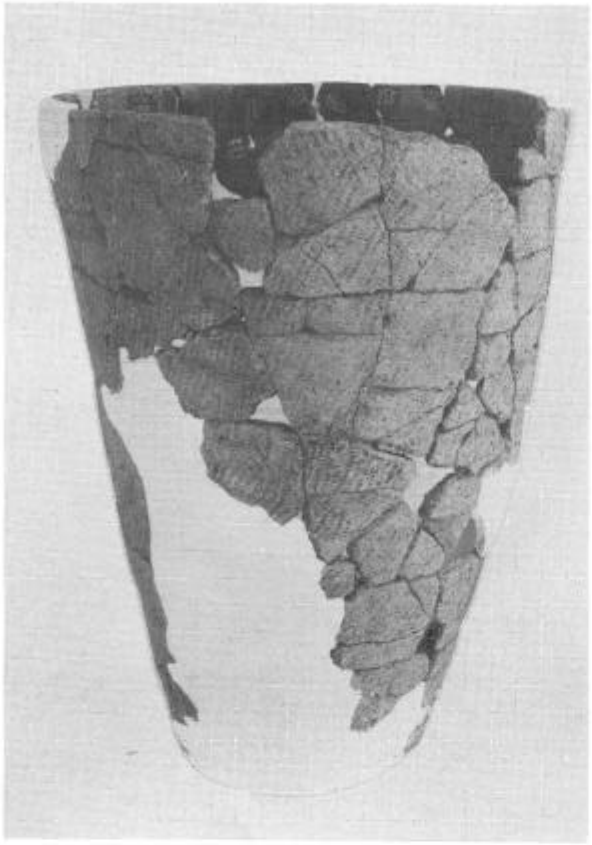


第 1 号
住居跡
出土土器

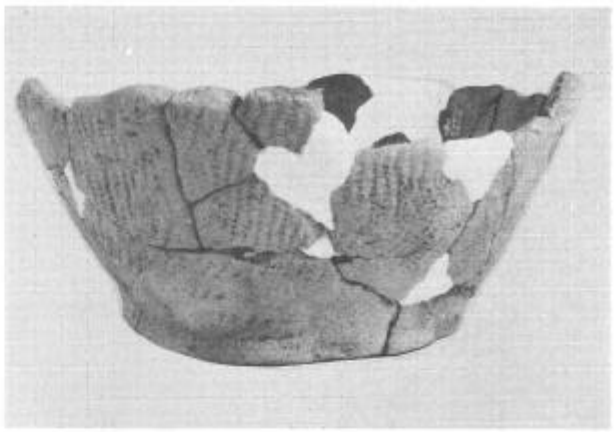


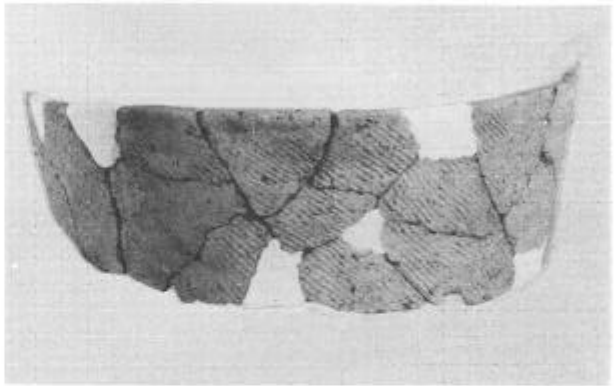
Ⅰ区出土土器



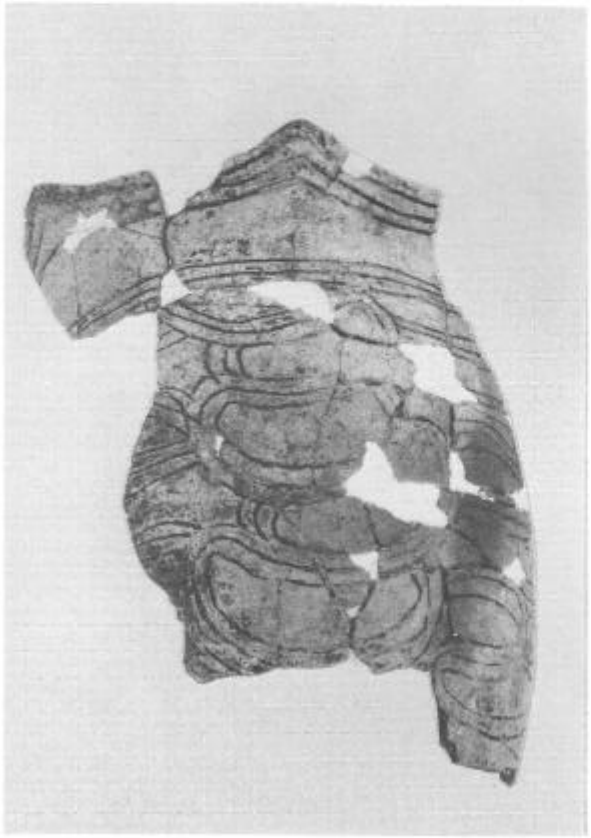


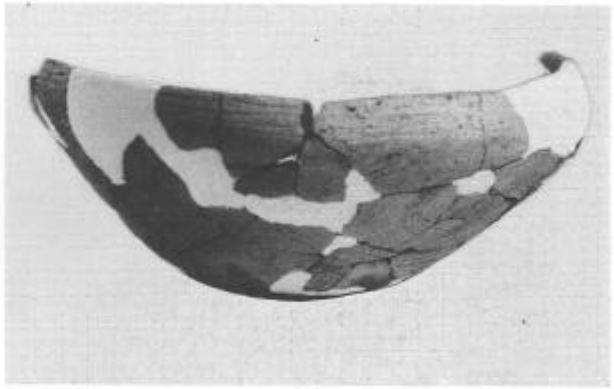
Ⅰ区出土土器

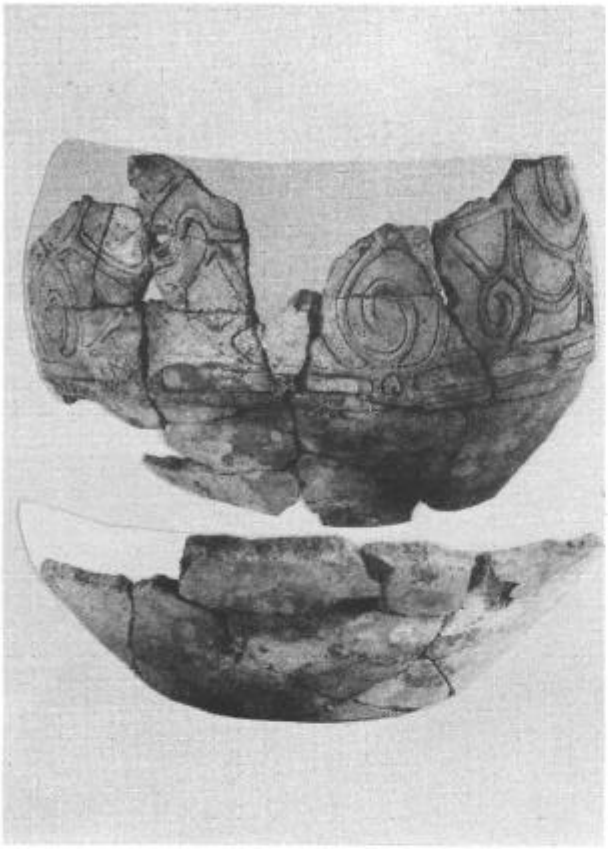


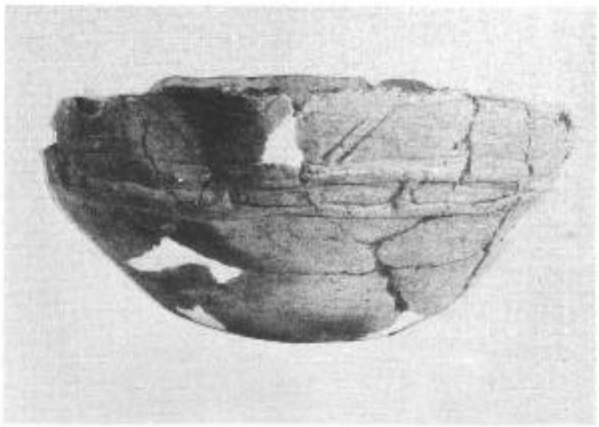


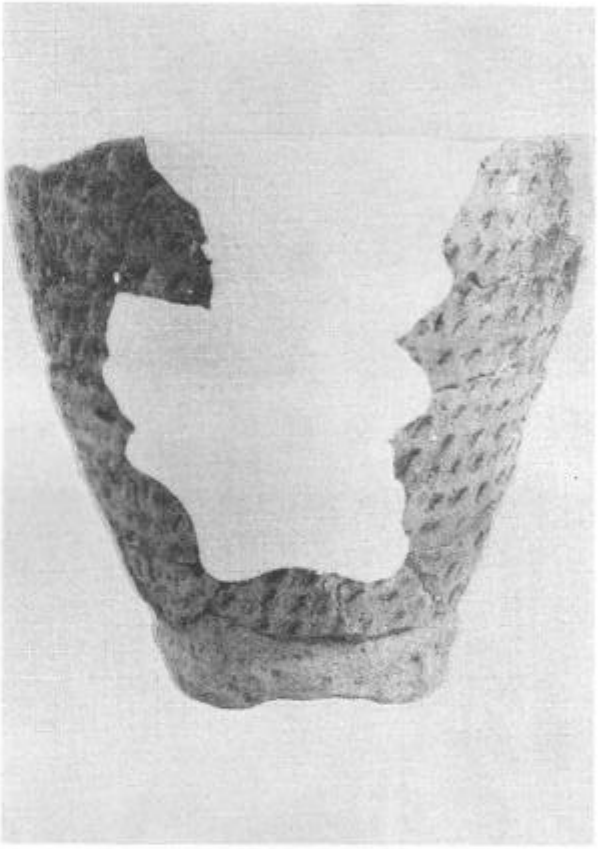
I区出土土器



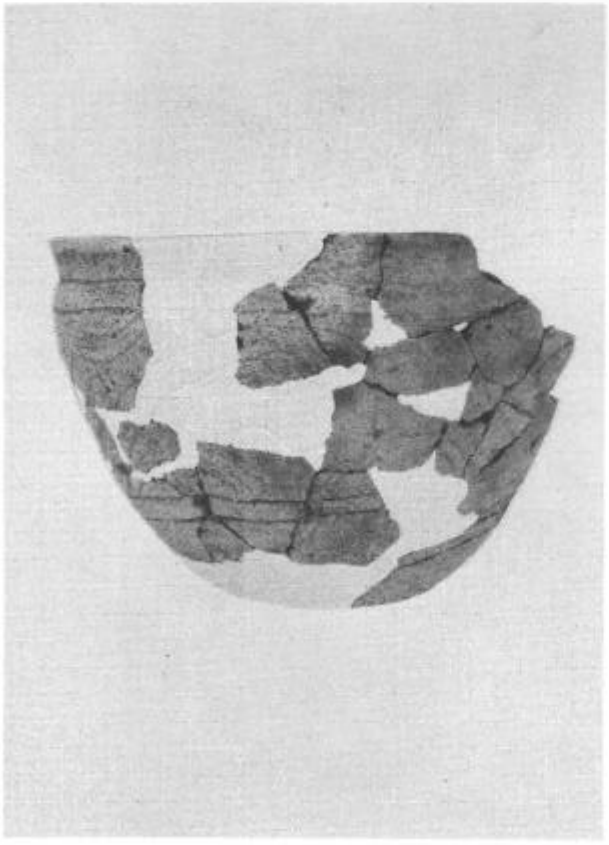


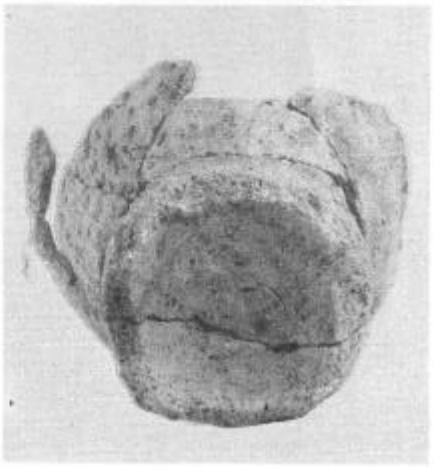




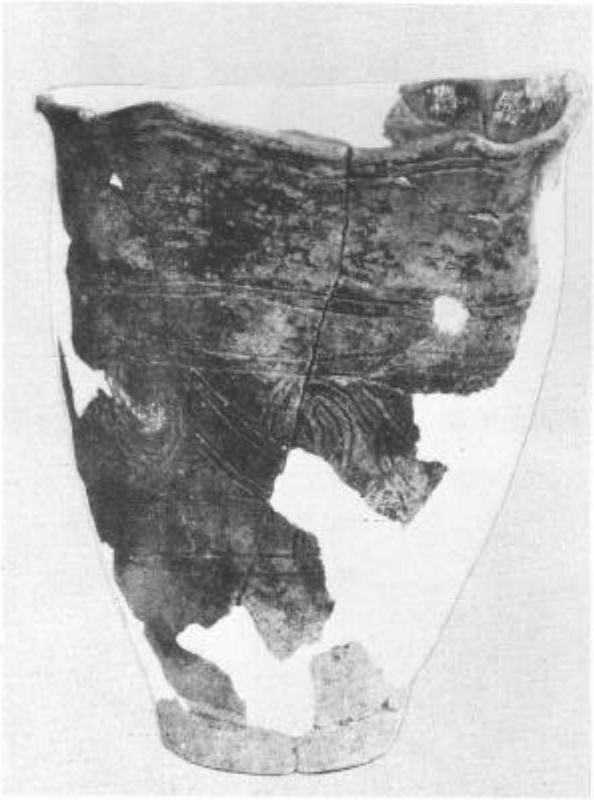


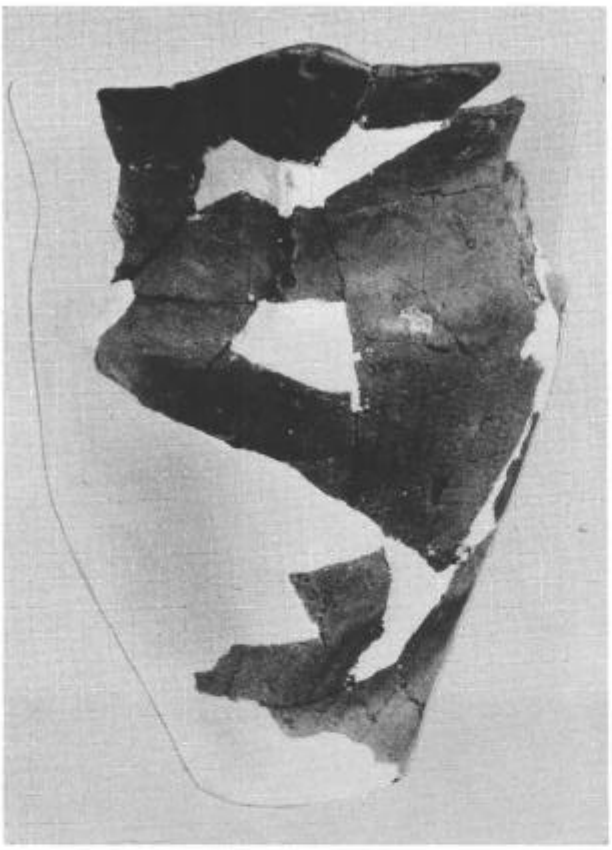
I区出土土器

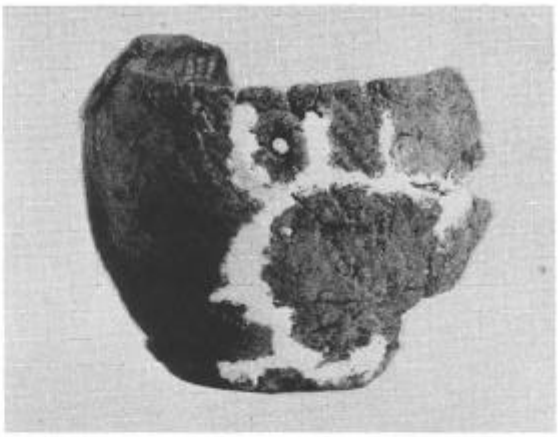


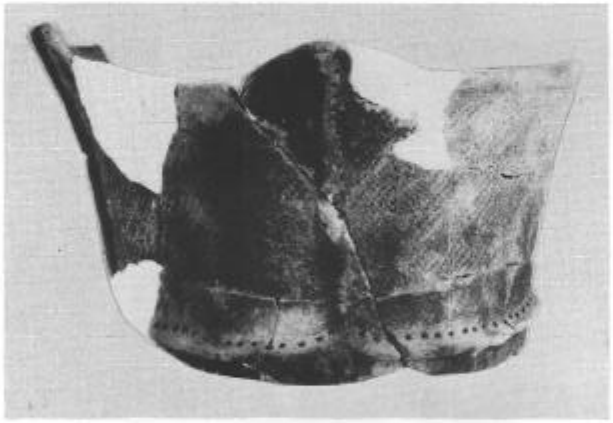


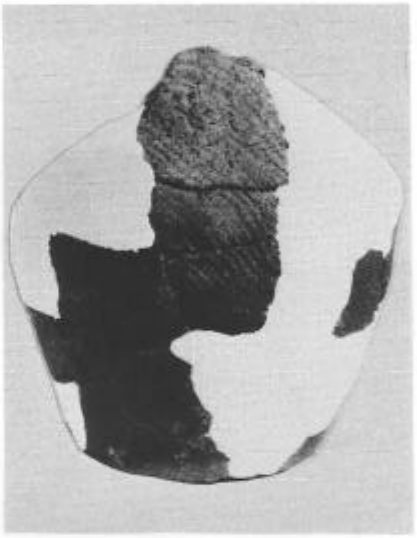
I区4トレンチ出土土器



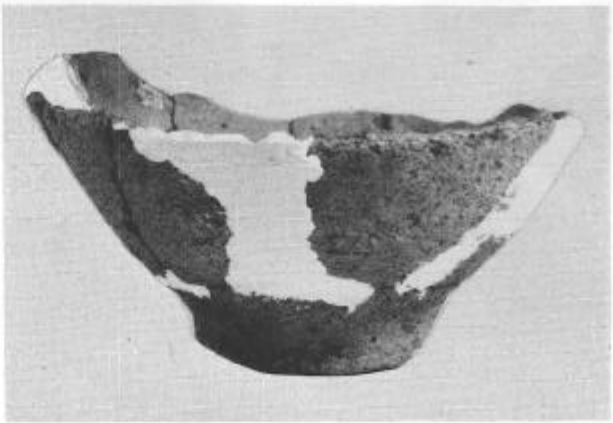








II区出土土器



III区出土土器